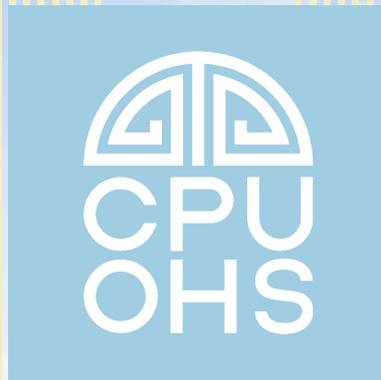


令和5年度版
(通巻第15号)

千葉県立保健医療大学

教育研究年報



Annual Report of Education and Research
Chiba Prefectural University
of Health Sciences
2023

令和5年度版教育研究年報の発行にあたって

2020年1月にはじまり、三年以上にわたった新型コロナウイルス感染症との戦いも、県民の皆様の感染対策へのご理解・ご協力の甲斐あって、2023年5月にその分類が5類移行し、一つの区切りを迎えておりましたが、自然の脅威は収まらず、2024年1月元旦には能登半島を巨大地震が襲って、多くの犠牲者・被災者を出したことは大変遺憾なことであり、心よりお見舞いを申し上げます。海に囲まれている狭い国土の我が国で巨大地震はいつでも起こる可能性があり、発災前からの危機管理の重要性を痛感しました。このような自然災害に加えて、日本社会は少子高齢化という大きな波の中にあり、地域の人間力が減少して行く中で、如何に地域の保健医療を守るかは大きな課題であります。

千葉県立保健医療大学(本学)は2009年に千葉県立衛生短期大学、千葉県医療技術大学校を再編整備し、看護学科・栄養学科・歯科衛生学科・リハビリテーション学科からなる4年制の県立大学とした開学し、将来の健康長寿社会の創造に寄与できる保健医療専門職を育成するとともに、千葉県の保健医療政策に求められる地域に根差した保健・医療・福祉の連携拠点として県民の皆様の健康に貢献してきております。

本学は平成30年度に策定された千葉県保健医療計画で新たに保健医療政策の連携拠点の整備対象となっており、行政や県内関係機関と連携・協働し、保健医療に関するシンクタンク機能を発揮することや、一般県民への公開講座をはじめとする地域貢献など県民の保健医療福祉の充実に寄与することがもとめられています。この教育研究年報(年報)はその一環として、本学が開設された平成21年度末に第1号が刊行され、各教員が毎年の業績を振り返り、更なる発展に資するもので、この1年の本学教職員の活動成果が詰め込まれています。

今後とも千葉県立保健医療大学は保健・医療・福祉の連携拠点として、人材育成・研究・社会貢献活動を通して、県民の皆様の健康に資して行く所存です。引き続きご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

令和6年9月

学長 龍野 一郎

目 次

第 1 部 大学組織の活動記録

I	千葉県立保健医療大学の概要	2
1.	千葉県立保健医療大学の沿革	2
2.	大学の理念・目的	2
3.	健康科学部の目的	2
4.	千葉県立保健医療大学運営組織図	5
II	年間記録（1年の歩み）	6
1.	令和5年度学事歴及び行事	6
2.	各学科定員等	6
III	管理運営の状況	7
1.	評議会の活動報告	7
2.	大学運営会議の活動報告	8
3.	教授会の活動報告	10
4.	各種委員会等の活動報告	14
5.	各学科・専攻の管理・運営活動報告	58
6.	事務局の活動	62
7.	FDの実施状況	63
IV	教育活動	65
1.	共通教育	65
2.	看護学科	65
3.	栄養学科	66
4.	歯科衛生学科	67
5.	リハビリテーション学科理学療法学専攻	68
6.	リハビリテーション学科作業療法学専攻	68
7.	学生による授業評価	69
8.	大学全体	70
V	学生の受け入れ状況	72
1.	学生の受け入れ方針	72
2.	年度当初の重点課題	73
3.	入学者選抜状況	73
4.	学生募集のための取り組み	75
5.	学生の在籍状況	76
6.	評価（成果および改善すべき事項）	76
7.	次年度の方策	77
VI	学生支援	78
1.	年度当初の重点課題等	78
2.	活動内容	78
3.	キャンパスハラスメント	79
4.	各学科・専攻の取り組み	79
5.	令和5年度千葉県立保健医療大学卒業時調査	82

6. 評価（成果および改善すべき事項）	84
7. 次年度の方策	84
VII 社会連携・社会貢献	85
1. 社会との連携・協力に関する方針	85
2. 年度当初の重点課題	85
3. 活動内容	85
4. 評価（成果および改善すべき事項）	93
5. 次年度の方策	93
VIII 教育研究等環境	94
1. 年度当初の重点課題	94
2. 施設・設備の整備状況	94
3. 図書館の状況	94
4. 研究倫理を遵守するための措置	95
5. 評価（成果および改善事項）	95
6. 次年度の方策	95
IX 研究活動報告	96
1. 看護学科	96
2. 栄養学科	96
3. 歯科衛生学科	96
4. リハビリテーション学科理学療法学専攻	96
5. リハビリテーション学科作業療法学専攻	96
X 内部質保証のための取り組み	97
1. 年度当初の課題	97
2. 評価（成果および改善すべき事項）	97
3. 次年度の方策	97

第2部 教員の教育研究活動記録

学長	101
看護学科	107
教授 河部 房子	109
教授 石井 邦子	112
教授 佐藤 紀子	115
教授 浅井 美千代	118
教授 春日 広美	120
教授 木内 千晶	123
教授 市原 真穂	126
教授 神田 みなみ	130
教授 小宮 浩美	132
教授 太和田 暁之	135
准教授 雨宮 有子	137
准教授 細谷 紀子	142
准教授 川城 由紀子	146
准教授 三枝 香代子	148

准教授	北川 良子	150
准教授	今井 宏美	152
准教授	田口 智恵美	154
准教授	西村 宣子	156
准教授	金丸 友	159
講 師	成 玉恵	162
講 師	川村 紀子	164
講 師	富樫 恵美子	166
講 師	加藤 隆子	168
講 師	大内 美穂子	170
講 師	佐伯 恭子	172
講 師	杉本 健太郎	174
講 師	栗田 和紀	176
講 師	大塚 知子	178
講 師	渡辺 健太郎	181
助 教	中山 静和	183
助 教	増田 恵美	185
助 教	内海 恵美	187
助 教	山本 千代	189
助 教	坂本 明子	191
助 教	小林 雅美	193
助 教	津田 充子	195
助 教	松浦 めぐみ	197
助 教	東辻 朝彦	199
助 教	仁井田 友紀	201
栄養学科		203
教 授	平岡 真実	205
教 授	細山田 康恵	207
教 授	井上 裕光	210
教 授	菊池 裕	213
教 授	加瀬 政彦	216
教 授	谷内 洋子	218
准教授	荒井 裕介	221
准教授	金澤 匠	223
准教授	工藤 美奈子	225
准教授	広川 由子	228
講 師	鈴木 亜夕帆	230
講 師	渡辺 優奈	233
助 教	生魚 薫	236
助 教	田村 友峰子	238
助 教	峰村 貴央	240
助 教	田中 佑季	242
歯科衛生学科		245
教 授	酒卷 裕之	247
教 授	大川 由一	251
教 授	島田 美恵子	254
教 授	石川 裕子	257
教 授	鈴鹿 祐子	260

准教授 荒川 真	263
准教授 佐々木 みづほ	265
講 師 佐久間 貴士	268
講 師 山中 紗都	270
講 師 松木 千紗	271
助 教 栗原 涼子	273
リハビリテーション学科理学療法専攻	275
教 授 堀本 佳誉	277
教 授 大谷 拓哉	280
准教授 室井 大佑	282
講 師 江戸 優裕	285
講 師 稲垣 武	289
助 教 坂崎 純太郎	292
リハビリテーション学科作業療法専攻	295
教 授 岡村 太郎	297
教 授 山本 達也	300
教 授 藤田 佳男	303
准教授 有川 真弓	307
准教授 佐藤 大介	310
講 師 松尾 真輔	311
講 師 須藤 崇行	314
助 教 成田 悠哉	317
資料	
資料 1 履修規程別表	323
資料 2 令和 5 年度非常勤講師一覧	387

第 1 部

大学組織の活動記録

第1部 大学組織の活動記録

I 千葉県立保健医療大学の概要

1. 千葉県立保健医療大学の沿革

千葉県立保健医療大学は平成21年4月に開学した。幕張にある千葉県立衛生短期大学と仁戸名にある千葉県医療技術大学校が再編整備され、1学部2キャンパスの4年制大学になったものである。前身の2校は順次閉学され、平成23年4月からは保健医療大学のみで運営になった。

保健医療大学開学までの道のりを振り返ると、4年制大学への要望はすでに衛生短期大学の佐藤学長（2代目、昭和62年4月～平成5年3月）の頃からあったものの、県庁内に検討会ができたのは平成15年になってからである。平成17年4月に保健医療大学準備室が健康福祉部医療整備課内に設置され、これは課相当の保健医療大学設立準備室に改組された。この間、保健医療大学整備検討委員会が設置され（平成17年7月）、整備計画が策定された（平成18年7月）。

平成20年3月に文部科学省に認可申請書を提出し、同年10月末に大学設置認可の通知があり、同年12月の県議会を経て（大学設置管理条例の議決）、直ちに入学募集・入学試験を行うという実に目まぐるしい1年であった。こうして多くの方々のご努力、ご支援のもとに平成21年4月に開学の日を迎えることができた。

2. 大学の理念・目的

千葉県立保健医療大学は、保健医療に関わる優れた専門的知識及び技術を教授研究し、高い倫理観と豊かな人間性を備え、地域社会に貢献し、保健医療の国際化に対応できる人材を育成するとともに、研究成果を地域に還元することにより、県民の保健医療の向上に寄与します。

(1) 高い倫理観と豊かな人間性を持った人材の育成

生命の尊厳を深く理解し、専門職としての高い倫理観を育み、人間を総合的に理解し、多様性を認めあう広い視野を持った人材を育成します。

(2) 健康づくりなどの保健医療に関わるすぐれた専門職の育成

すぐれた専門的知識・技術を習得し、一人ひとりの状況に応じた健康づくりなどの多様な保健医療を研究・企画・評価する能力を持った人材を育成します。

(3) 地域社会に貢献し、保健医療の国際化に対応できる人材の育成

地域に開かれた大学において、県民、保健医療関係者と広く連携・交流を行い、地域社会に貢献する意識態度を醸成します。また、国の内外を問わず国際的な視野を持って活動できる人材を育成します。

(4) 県の健康づくり政策のシンクタンク機能

健康づくりなどの保健医療の政策課題に関する実践的研究を行い、その成果を地域に還元し、県の健康づくり政策に貢献します。

3. 健康科学部の目的

健康科学部は、本学の理念・目的を達成するために以下の人材育成を学部の目的、学位授与の方針とします。

- (1) 思いやりの心や高い倫理観を基本とした保健医療サービスを提供できる力
- (2) 生きいきとしたコミュニケーション能力
- (3) 確かな実践力と新たな実践をつくりだす力
- (4) 自己理解と責任感を基盤としたしなやかな個別対応力
- (5) 他の専門職と自在に連携・協働する力
- (6) 地域社会や地域の健康づくりに貢献する力
- (7) 生涯にわたる自己研鑽力

(8) 国際的な視野を持ち保健医療の発展に寄与する力

なお、学部の目的を達成するためには大学が定める所定の期間在学し、大学・学部の理念・目的に沿って設定された学科・各専攻の授業科目を履修し、卒業要件に満たす単位を修める必要があります。

〈学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）〉

I 倫理観とプロフェッショナリズム

千葉県立保健医療大学生は、卒業時に倫理的な原則を遵守し、専門職としての責務をはたすことができる。卒業生は指導者のもと、以下ができなければならない、

- 1.1 対象者の人権を尊重し、多様な価値観や社会的・文化的背景を理解し、思いやりをもって接することができる
- 1.2 対象者のニーズを優先的に考え、誠実かつ公正に対応できる
- 1.3 社会的・法的責任を自覚して、専門職としてその責務を果たすことができる

II コミュニケーション能力

千葉県立保健医療大学生は、卒業時に対象者とそれを支える人、保健・医療・教育・福祉職に対してお互いの立場を尊重した人間関係を構築し、生き生きとしたコミュニケーションをとることができる。卒業生は指導者のもと、以下ができなければならない、

- 2.1 対象者とそれを支える人の個人的、文化的、社会的背景を尊重し、信頼関係を構築できる
- 2.2 対象者とそれを支える人、保健医療専門職からの有効な情報収集と伝達ができる
- 2.3 同一専門職や他の関係職種との間で文章による情報の伝達と共有ができる
- 2.4 国内・外からの情報を入手して、保健医療に活用し発信できる

III 実践に必要な知識

千葉県立保健医療大学生は、卒業時に高い教養を身に付け、専門領域の実践に必要な知識を有し、それを健康づくりの支援に活用することができる。卒業生は指導者のもと、以下の知識等を有し実践に活用できなければならない、

- 3.1 学際的な幅広い教養と知識
- 3.2 保健・医療・福祉に関する基礎的な知識
- 3.3 各専門領域における実践活動の基盤となる基礎的知識
- 3.4 各専門領域における実践活動の根拠となる臨床的知識
- 3.5 各専門領域の基礎的知識・専門的知識に基づいた、対象者への適切なアセスメント方法
- 3.6 対象者に合わせた適切なアプローチ方法に関する知識

IV 健康づくりの実践

千葉県立保健医療大学生は、卒業時に個人・家族・地域に対し健康的またはその人らしい生活を送るための問題解決と健康増進に向けて、根拠に基づいた適切で有効な健康づくりの支援を提供できる。卒業生は指導者のもと、以下ができなければならない、

- 4.1 必要な情報を身体・心理・環境の面から正確に収集、管理できる
- 4.2 収集した情報を専門的知識によりアセスメントできる
- 4.3 アセスメントに基づき健康づくりの目標を設定できる
- 4.4 対象者の状況に合わせた健康づくりの提供計画を立てることができる
- 4.5 対象者が主体的・自律的に健康づくりに取り組めるように説明・支援できる
- 4.6 最新の科学的エビデンスに基づいた健康づくりを提供できる
- 4.7 健康づくりの提供計画に基づき、安全かつ正確な技能により実施できる
- 4.8 目標の達成度や対象者の反応に基づき、健康づくりの評価・修正ができる

V 健康づくりの環境の整備・改善

千葉県立保健医療大学生は、卒業時に人々の健康的またはその人らしい生活を送るための問題解決と健康増進に向けて、健康を志向する地域環境（人・物・制度）の整備・改善に努めることができる。卒業生は指導者のもと、以下ができなければならない、

- 5.1 健康と生活環境との相互作用をアセスメントし、社会・生活の場である地域環境（人・物・制度）の改善に向けて実践できる
- 5.2 健康づくりの提供にあたり、保健医療制度下での経済性・効率性を考慮することができる

5.3 現存の支援・サービスの整備・改善に必要な企画・提案ができる

VI 多職種との協働

千葉県立保健医療大学生は、卒業時に対象者を中心とした安全で質の高い保健・医療・福祉を実践するために、自身の役割を認識し、多職種との相互理解を深めながら行動することができる。卒業生は指導者のもと、以下ができなければならない、

- 6.1 多職種の専門性と対象者の多様な価値観を理解し、尊重することができる
- 6.2 多職種と交流し、良好な関係を構築することができる
- 6.3 多職種と状況に応じて適切に協働し、問題解決できる
- 6.4 ヘルスケアチームにおける自身の立場・役割を理解し、責任ある行動をとることができる

VII 生涯にわたる探究心と自己研鑽

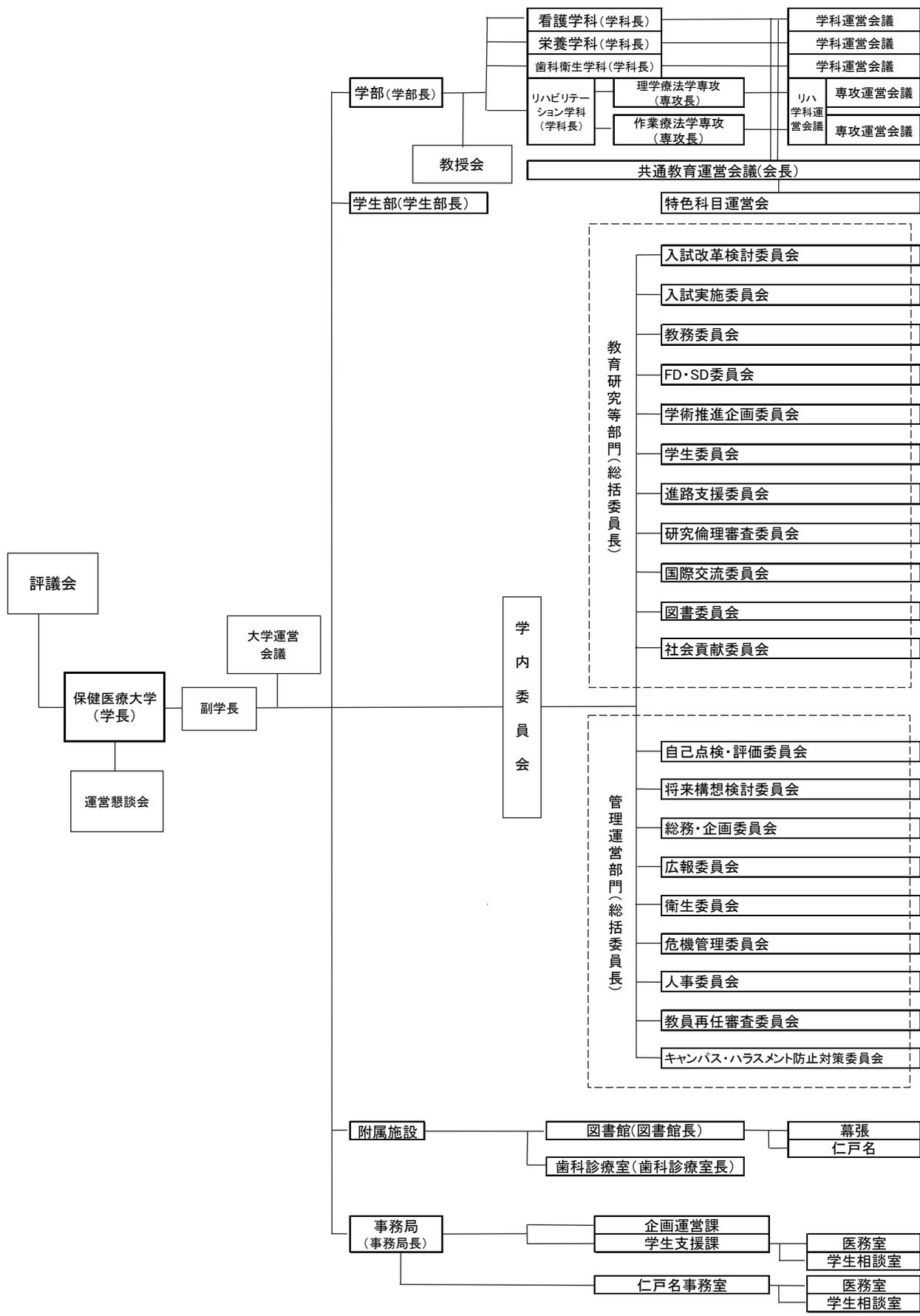
千葉県立保健医療大学生は、卒業時に論理的思考による探究心を身につけ、自己研鑽に励み、自己および専門職として生涯にわたり成長できる資質を示すことができる。卒業生は指導者のもと、以下ができなければならない、

- 7.1 常に探究心をもち、臨床的あるいは科学的問題を発見し、解決に取り組むことができる
- 7.2 自己主導型学習により常に自己の向上を図ることができる
- 7.3 ワークライフバランスを考えたキャリアを設計し、その達成に向けて自己管理できる
- 7.4 専門職としての自己課題を明確にし、その成長に向けて努力できる

(平成30年1月15日改変, 同4月1日施行)

(令和3年2月18日改変, 同4月1日施行)

4. 千葉県立保健医療大学 運営組織図 (令和2年4月1日～)



II 年間記録（1年の歩み）

1. 令和5年度学事歴及び行事

行 事	日 程
在校生，編入生ガイダンス	4月4日(火)
入学式，新入生ガイダンス	4月5日(水)
前期授業期間	4月10日(月)～7月31日(月)
前期履修登録期間	4月10日(月)～4月18日(火)
オープンキャンパス	7月8日(土)，7月9日(日)
前期末試験	8月1日(火)～8月9日(水)
夏季休業	8月10日(木)～9月30日(土)
前期試験結果発表	8月24日(木)
後期授業期間	10月2日(月)～2月9日(金)
後期履修登録期間	10月2日(月)～10月6日(金)
公開講座	10月8日(日)，10月22日(日)
大学祭（いずみ祭）	10月8日(日)，10月9日(月)
開学記念日	10月28日(土)
特別選抜(推薦・社会人・編入学) 入学試験	11月18日(土)
冬季休業	12月24日(日)～1月7日(日)
大学入学共通テスト	1月13日(土)，14日(日)
後期末試験	2月13日(火)～2月21日(水)
一般選抜試験	2月25日(日)
後期試験結果発表	2月28日(水)
卒業式	3月14日(木)
春季休業	3月22日(金)～3月31日(日)

2. 各学科定員等

1) 入学定員，収容定員，在籍者数（令和6年3月1日現在）

学部名	学 科 名	入学定員	総 定 員	在籍者数
健 康 科 学 部	看護学科	80人	340人 (編入学20名含む)	325人
	栄養学科	25人	100人	97人
	歯科衛生学科	25人	100人	107人
	リハビリテーション学科 (理学療法専攻)	50人 (25人)	200人 (100人)	198人 (97人)
	(作業療法専攻)	(25人)	(100人)	(101人)
合 計		180人	740人	727人

2) 履修規程別表 資料1参照，非常勤講師担当教員授業科目表 資料2参照

Ⅲ 管理運営の状況

1. 評議会の活動報告

A	議長名	龍野 一郎・保健医療大学学長
B	評議員名	前田 栄治・株式会社ちばぎん総合研究所代表取締役社長 小栗 一徳・公認会計士・税理士小栗事務所所長 宮内 孝久・神田外語大学学長 高梨 みちえ・県健康福祉部長 大川 由一・保健医療大学副学長 佐藤 紀子・保健医療大学健康科学部長 江口 洋・保健医療大学事務局長
C	部会名と部会員名	なし
D	所掌事項	1 本学の設置の目的を達成するための基本的な計画に関する事項 2 学則その他重要な規程の制定又は改廃に関する事項 3 本学の予算及び決算に関する事項 4 学部、学科その他の重要な組織の設置又は廃止及び学生の定員に関する事項 5 教員の人事の方針に関する事項 6 本学の教育研究活動等の状況について本学が行う評価に関する事項 7 その他本学の運営に関する重要事項
E	年度当初の重点課題	
・所掌事項の遂行.		
F	会議記録（含む部会の開催）	
	開催日	主な議題
1	令和5年 11月6日	1 名誉教授の称号授与について 2 成績評価及び懲戒処分に関わる学則の一部改正について
2	令和6年 3月18日	1 学長の人事評価について 2 「千葉県立保健医療大学教員の懲戒に係る審査手続きに関する規程」の制定について 3 千葉県立保健医療大学情報システム委員会規程」の制定について
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
		なし
H	評価（成果および改善事項）	
<ul style="list-style-type: none"> ・第二期重点施策（Ⅰ 県民の健康づくりをリードする人材の育成、Ⅱ 健康づくり政策に対するシンクタンク機能の強化と地域貢献、Ⅲ 社会のニーズに迅速かつ柔軟に対応できる大学運営体制の構築）の主な取組については、ほぼ目標通りの成果を達成することができた。 ・本学の人材育成の成果を検証するために卒業後10年の本学卒業生の現状調査を実施、解析した。その結果、卒業生は90%以上が現在も保健医療専門職として活動、本学での教育に満足しており、更に大学院での高等専門教育の充実を求めていることを明らかにし、県立大学の将来構想に反映させることができた。 ・千葉県の持つ地域保健医療の脆弱性（少子高齢化、自然災害、格差・貧困などの課題）に焦点をあて、県立大学の将来構想（大学組織の改革、大学院設置、キャンパス統合・法人化等）について、千葉県県知事および健康福祉部と緊密な意見交換を実施し、大学の将来構想の実現に向けて調査が予算化された。 		
I	次年度の方策	
<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度も引き続き、PDCA サイクル稼働させ、学長の統括の下、千葉県の保健医療分野における課題解決に向かって、将来に必要とされる保健医療者像と地域保健医療体制を明らかにし、これまでの県立大学の人材育成・研究活動の実績を踏まえて、新大学の教育・研究体制（大学院設置や定数、学科設置、再整備、独立法人化）の検討を進める。 		

2. 大学運営会議の活動報告

A	議長名	龍野 一郎・保健医療大学長
B	構成員名	大川 由一・副学長（兼）管理運営部門群総括委員長 佐藤 紀子・学部長（兼）教育研究社会貢献等委員会部門群総括委員長 細山田 康恵・学生部長 石井 邦子・図書館長 河部 房子・看護学科長 平岡 真実・栄養学科長 酒巻 裕之・歯科衛生学科長（兼）歯科診療室長 岡村 太郎・リハビリテーション学科長（兼）作業療法学専攻長 堀本 佳誉・リハビリテーション学科理学療法学専攻長 山本 達也・共通教育運営会議会長 江口 洋・事務局長
C	部会名と部会員名	なし
D	所掌事項	1 学長からの諮問事項に関する事 2 評議会及び教授会に諮る案件の事前調整に関する事 3 学科間の調整に関する事 4 その他大学運営に係る企画及び調整に関する事
E	年度当初の重点課題	
・所掌事項の遂行.		
F	会議記録（含む部会の開催）	
	開催日	主な議題
1	令和5年 4月24日	1 令和5年度オープンキャンパスの実施方法について 2 令和6年度入学者選抜要項および令和8年度入学者選抜における理学療法学専攻の共通テストの選択科目の変更について
2	令和5年 5月15日～18日 （メール審議）	1 令和7年度入試における情報Ⅰの選択方法について 2 令和8年度入試における理学療法学専攻の変更内容について
3	令和5年 5月29日	報告事項のみ
4	令和5年 6月19日 （メール審議）	1 登校停止についての取り決め案について 2 学科・専攻での学生からの連絡体制の確認と学生への周知について
5	令和5年 6月26日	1 学校感染症による出席停止の取扱いに関する要項の制定について
6	令和5年 7月31日	1 令和6年度当初予算申請について 2 成績評価に関わる学則改正について 3 千葉県立保健医療大学情報セキュリティポリシーについて 4 千葉県立保健医療大学における危機管理の方針について
7	令和5年 8月28日	1 安全保障輸出管理規程について
8	令和5年 9月25日	1 学則、懲戒手続規程及び懲戒調査委員会規程の改正について 2 動物実験等に関する指針の改定案について
9	令和5年 10月30日	1 学則、懲戒手続規程及び懲戒調査委員会規程の改正について 2 動物実験等に関する指針について

10	令和5年 11月27日	1 令和7年度共通テストの国語の配点について
11	令和5年 12月18日	1 教員再任審査に係る規程の改正について 2 研究倫理審査の電子申請について
12	令和6年 1月29日	1 教員再任審査に係る規程の改正について 2 カリキュラム評価とカリキュラムポリシーの改正について 3 新入生ガイダンス等スケジュールについて 4 令和6年度大学運営会議日程について
13	令和6年 2月26日	1 千葉県立保健医療大学における学生等の個人情報保護方針の改正について 2 学内委員会規程の新規制定について 3 学内委員会規程の改正について 4 教員組織の定期的検証の基準（改正案）について 5 診療用放射線の安全利用のための指針について
14	令和6年 3月14日	1 千葉県立保健医療大学教員の懲戒に係る審査手続きに関する規程の制定について
15	令和6年 3月25日	1 千葉県立保健医療大学における任期を定めて採用された教員の再任用に関する規程等の改正について 2 令和5年度重点施策の評価結果について 3 令和6年度重点施策について 4 災害対応における ChatLuck の運用について 5 懲戒規程の改正について
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
		なし
H	評価（成果および改善事項）	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ポストコロナに移行し、大学活動の正常化を進めることができた。 ・卒業後10年の本学卒業生の現状調査を実施し、その結果、卒業生の90%以上が現在も保健医療専門職として活動しており、本学での大学教育に満足し、更に大学院での高等専門教育の充実を求めていることを明らかにした。 ・千葉県の持つ地域保健医療の脆弱性（少子高齢化、自然災害、格差・貧困などの課題）に焦点をあて、県立大学の将来構想（大学組織の改革、大学院設置、キャンパス統合・法人化等）について討議した。 	
I	次年度の方策	
	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度も引き続き、PDCA サイクル稼働させ、これまでの県立大学の人材育成・研究活動の実績を踏まえて、新大学の教育・研究体制（大学院設置や定数、学科設置、再整備、独立法人化）の検討を進める。 	

3. 教授会の活動報告

教授会は健康科学部すべての教授によって組織され、学部長が招集し、議長となって運営した。開催頻度は月 1 回を定例とし、必要に応じて臨時教授会を開催した。令和 5 年度教授会の主な議題は下表のとおりである。

A 年度当初の重点課題			
・教員の任用，教育研究等にかかわる審議について，ペーパーレス化とリモート会議を継続して推進し，対面会議との調和を図りながら円滑かつ効率的な会議運営を諮る。			
B 会議記録			
	月日	主な議題	主な報告事項
1	令和 5 年 4 月 3 日	1 看護学科・高齢者看護学：助教の公募について 2 栄養学科：助教の公募について	・新型コロナウイルス感染症について ・大学運営会議報告 ・国家試験合格状況について ・令和 4 年度卒業生分野別就職状況について
2	令和 5 年 4 月 7 日	1 既修得単位の認定について 2 リハビリテーション学科理学療法学専攻：准教授の資格審査委員会の設置について 3 リハビリテーション学科理学療法学専攻：助教の資格審査委員会の設置について	・図書館の時間外運営について
3	令和 5 年 5 月 8 日	1 リハビリテーション学科理学療法学専攻：准教授の公募について 2 リハビリテーション学科理学療法学専攻：助教の公募について 3 学生の懲戒について	・大学運営会議報告 ・学長裁量研究費について ・令和 6 年度入学者選抜要項について
4	令和 5 年 6 月 5 日	1 看護学科・基礎看護：講師の資格審査結果について 2 看護学科・高齢者看護：助教の資格審査結果について 3 歯科衛生学科・歯科衛生士：准教授の資格審査結果について 4 歯科衛生学科・歯科医師：准教授の資格審査結果について 5 リハビリテーション学科理学療法学専攻：准教授の資格審査結果について 6 リハビリテーション学科理学療法学専攻：助教の資格審査結果について 7 栄養学科・共通教育：教授の資格審査委員会の設置について 8 リハビリテーション学科作業療法学専攻：教授の資格審査委員会の設置について 9 栄養学科：助教の資格審査委員会の設置について	・新型コロナウイルス感染症について ・大学運営会議報告 ・2022 年度千葉県立保健医療大学卒業時調査の集計結果について
5	令和 5 年 7 月 3 日	1 看護学科・基礎看護：講師の選考について 2 リハビリテーション学科理学療法学専攻：准教授の選考について 3 リハビリテーション学科理学療法学専攻：助教の選考について 4 栄養学科・共通教育：教授の公募について 5 栄養学科：助教の公募について 6 リハビリテーション学科作業療法学専攻：教授の公募について 7 再任候補者の採用選考について 8 歯科衛生学科：准教授（歯科医師）の資格審査委	・大学運営会議報告 ・重点施策の令和 5 年度目標および評価指標について ・インターネット出願について

		<p>員会の設置について</p> <p>9 歯科衛生学科：准教授（歯科衛生士）の資格審査委員会の設置について</p> <p>10 看護学科：高齢者看護学・助教の資格審査委員会の設置について</p> <p>11 栄養学科：助手（臨時的任用職員）の資格審査委員会の設置について</p>	
6	令和5年 9月4日	<p>1 名誉教授の推薦について</p> <p>2 栄養学科・教育学：教授の資格審査結果について</p> <p>3 リハビリテーション学科作業療法学専攻：教授の資格審査結果について</p> <p>4 看護学科・高齢者看護：助教の公募について</p> <p>5 歯科衛生学科：准教授（歯科衛生士）の公募について</p> <p>6 歯科衛生学科：准教授（歯科医師）の公募について</p> <p>7 カリキュラムポリシーの改正について</p> <p>8 栄養学科・共通教育：教授の資格審査委員会の設置について</p> <p>9 リハビリテーション学科理学療法学専攻・共通教育：教授の資格審査委員会の設置について</p> <p>10 看護学科・基礎看護学：助教の資格審査委員会の設置について</p> <p>11 看護学科・母性看護学：助教の資格審査委員会の設置について</p> <p>12 看護学科・基礎看護学：助手（臨時的任用職員）の資格審査委員会の設置について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大学運営会議報告 ・安全保障輸出管理規程について ・臨床実習施設の確保について ・卒業生調査について ・大学院ワーキンググループについて ・教員再任審査方法について
7	令和5年 10月2日	<p>1 リハビリテーション学科作業療法学専攻：教授の選考について</p> <p>2 栄養学科：助教の資格審査結果について</p> <p>3 栄養学科・共通教育：教授の公募について</p> <p>4 リハビリテーション学科理学療法学専攻・共通教育：教授の公募について</p> <p>5 看護学科・基礎看護学：助教の公募について</p> <p>6 看護学科・母性看護学・助産学：助教の公募について</p> <p>7 リハビリテーション学科理学療法学専攻：准教授の資格審査委員会の設置について</p> <p>8 看護学科・高齢者看護学：助教の資格審査委員会の設置について</p> <p>9 学則，懲戒手続規程及び懲戒調査委員会規程の改正について</p> <p>10 リハビリテーション学科作業療法学専攻：准教授の資格審査委員会の設置について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教員資格審査委員会報告 ・大学運営会議報告 ・令和6年度学校推薦型選抜・社会人特別選抜・編入学試験実施要領について ・放送大学単位互換協定に基づく令和5年度前期修得単位の認定について ・成績評価の異議申立てについて ・いずみ祭について
8	令和5年 11月6日	<p>1 栄養学科：助教の選考について</p> <p>2 歯科衛生学科・歯科衛生士：准教授の資格審査結果について</p> <p>3 リハビリテーション学科理学療法学専攻：准教授の公募について</p> <p>4 リハビリテーション学科作業療法学専攻：准教授の公募について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大学運営会議報告 ・カリキュラムポリシー改正案に対する意見聴取結果のまとめについて ・成績評価の異議申立てについて ・県取組報告会について

		5 看護学科・高齢者看護学：助手（臨時的任用職員）の教員資格審査委員会の設置について 6 学年暦について	
9	令和5年 11月27日	1 特別選抜・3年次編入学合否判定	
10	令和5年 12月4日	1 看護学科・高齢者看護：助教の資格審査結果について 2 看護学科・基礎看護：助教の資格審査結果について 3 看護学科・母性看護：助教の資格審査結果について 4 歯科衛生学科・歯科医師：准教授の資格審査結果について 5 リハビリテーション学科理学療法学専攻：准教授の資格審査結果について 6 リハビリテーション学科作業療法学専攻：准教授の資格審査結果について 7 栄養学科・共通教育：教授の資格審査結果について 8 リハビリテーション学科理学療法学専攻・共通教育：教授の資格審査結果について 9 歯科衛生学科：助手（臨時的任用職員）の教員資格審査委員会の設置について 10 教員再任審査について	<ul style="list-style-type: none"> ・教員資格審査委員会報告 ・学校推薦型選抜の出題誤りについて ・大学運営会議報告 ・令和5年度学長裁量研究審査結果について ・共通テストにおける配点変更について ・令和6年度前期科目等履修生等の募集について ・大学広報誌について
11	令和6年 1月4日	1 看護学科・母性看護：助教の選考について 2 看護学科・高齢者看護：助教の選考について 3 看護学科・基礎看護：助教の選考について 4 歯科衛生学科：准教授（歯科医師）の選考について 5 リハビリテーション学科理学療法学専攻：准教授の選考について 6 リハビリテーション学科作業療法学専攻：准教授の選考について 7 栄養学科・共通教育：教授の選考について 8 リハビリテーション学科理学療法学専攻・共通教育：教授の選考について 9 看護学科・成人看護：助教の教員資格審査委員会の設置について 10 看護学科・成人看護：助手（臨時的任用職員）の教員資格審査委員会の設置について 11 リハビリテーション学科作業療法学専攻：講師の教員資格審査委員会の設置について	<ul style="list-style-type: none"> ・大学運営会議報告 ・学校推薦型入試における出題誤りに関する再発防止対策について ・放送大学単位互換科目について ・カリキュラムポリシー改正案について
12	令和6年 2月5日	1 看護学科・成人看護：助教の公募について 2 リハビリテーション学科作業療法学専攻：講師の公募について 3 歯科衛生学科：准教授（歯科衛生士）の資格審査委員会の設置について 4 リハビリテーション学科理学療法学専攻：講師の資格審査委員会の設置について 5 看護学科・基礎看護：助教の資格審査委員会の設置について	<ul style="list-style-type: none"> ・教員資格審査委員会報告 ・大学運営会議報告 ・セクシュアルハラスメントの防止に向けた取組等について ・令和5年度後期期末試験監督マニュアルについて ・令和6年度学生ハンドブックの変更について ・令和6年度以降の重点施策について

		6 看護学科・基礎看護：助手（臨時的任用職員）の資格審査委員会の設置について 7 栄養学科：助教の資格審査委員会の設置について 8 栄養学科：助手（臨時的任用職員）の資格審査委員会の設置について	
13	令和6年 2月9日	1 一般選抜試験第一段階選抜について	
14	令和6年 2月29日	1 卒業判定について	
15	令和6年 3月4日	1 リハビリテーション学科作業療法学専攻：講師の資格審査結果について 2 歯科衛生学科：准教授（歯科衛生士）の公募について 3 リハビリテーション学科理学療法学専攻：講師の公募について 4 看護学科・基礎看護：助教の公募について 5 栄養学科：助教の公募について 6 令和6年度一般選抜合格判定について 7 令和6年度教授会日程について	<ul style="list-style-type: none"> ・教員資格審査委員会報告 ・大学運営会議報告 ・放送大学単位互換協定に基づく令和5年度後期修得単位の認定について ・令和6年度授業時間割について ・令和6年度新入生・在学生ガイダンスのスケジュールについて ・成績評価の異議申立てに関する規程の変更について ・令和6年度学生ハンドブックの変更について ・教員再任審査規程の改正について
16	令和6年 3月19日	1 進級判定について	
C	評価（成果および改善事項）		
	・審議事項に応じて、リモートおよびメールによる会議を併用し、効率的な会議運営を行うことができた。		
D	次年度の方策		
	・引き続き、運営会議との審議事項の議題のすみ分けを明確にし、効率的かつ効果的な会議運営を目指す。		

4. 各種委員会等の活動報告

1) 特色科目運営会

A	委員長名	島田 美恵子・教授（歯科衛生学科 共通教育）
B	委員名	田口 智恵美・准教授（看護学科） 平岡 真実・教授（栄養学科） 堀本 佳誉・教授（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 藤田 佳男・教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻） 荒川 真・准教授（歯科衛生学科） 工藤 美奈子・准教授（栄養学科）
C	部会名と 部会員名	<p>【体験ゼミナール】</p> <p>部会長：島田 美恵子・教授（共通教育運営会議 歯科衛生学科） 部会員：加藤 隆子・講師（看護学科） 栗田 和紀・講師（看護学科） 広川 由子・准教授（栄養学科） 佐久間 貴士・講師（歯科衛生学科） 江戸 優裕・講師（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 松尾 真輔・講師（リハビリテーション学科作業療法学専攻）</p> <p>【千葉県の健康づくり】</p> <p>部会長：荒川 真・准教授（歯科衛生学科） 部会員：富樫 恵美子・講師（看護学科） 平岡 真実・教授（栄養学科） 島田 美恵子・教授（歯科衛生学科） 室井 大祐・准教授（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 須藤 崇行・講師（リハビリテーション学科作業療法学専攻）</p> <p>【専門職間の連携活動論】</p> <p>部会長：工藤 美奈子・准教授（栄養学科） 部会員：大内 美穂子・講師（看護学科） 生魚 薫・助教（栄養学科） 佐々木 みづほ・准教授（歯科衛生学科） 稲垣 武・講師（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 成田 悠哉・助教（リハビリテーション学科作業療法学専攻）</p> <p>【社会実習】</p> <p>部会長：田口 智恵美・准教授（看護学科） 部会員：渡辺 優奈・講師（栄養学科） 佐久間 貴士・講師（歯科衛生学科） 堀本 佳誉・教授（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 藤田 佳男・教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻）</p>
D	所掌事項	<ol style="list-style-type: none"> 1 特色科目の運営に関すること 2 特色科目を通じた一体的な目標の達成と科目相互の連携に関すること 3 特色科目の評価と改善に関すること 4 特色科目の目標達成に向けた学生，教員へのFDに関すること 5 科目責任者の推薦に関すること
E	<p style="text-align: center;">年度当初の重点課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関連委員会と協働して「社会実習」を開講し，学生の自主性・ボランティア活動の活性化を促す。 ・進捗状況の情報を共有し，科目の目標にそった役割分担を構築する。 ・次年度以降の「社会実習」について，長期的な指針を検討する。 ・学年ごとの特色科目における学修の積み重ねを検討・構築する。単なる知識伝達の科目構成ではなく，アクティブラーニングを効果的に用い，学生の専門職としての資質を成長させる内容とする。 	

F 会議記録（含む部会の開催）		
	開催日	主な議題
1	令和5年 4月27日	① 令和5年度 委員会活動目標（令和4年度確認） ② 令和5年度 委員会費 ③ 令和5年度 年間計画 ④ 令和5年度 社会実習
2	令和5年 5月15日 メール審議	① 委員会活動目標の修正変更
3	令和5年 6月23日	① 社会実習開講 進捗状況について ② 体験ゼミナール進捗状況について ③ 令和5年度千葉県健康づくり 専門職間連携活動論進捗状況について ④ 令和6年度開講にあたって ・学生用名札の手配 ・体験ゼミナール訪問団体の選定
4	令和5年 9月26日	① R5年度 体験ゼミナール報告 ② R5年度 千葉県の健康づくり 専門職間の連携活動論 社会実習 進捗状況報告 ③ FD開催について ④ カリキュラムポリシー見直しについて
5	令和6年 2月5日	① 進捗状況報告と課題の提示 ② R6年度 シラバスの確認 ③ 規程の改訂について ④ 委員会達成状況
6	令和6年 3月15日 メール審議	① 令和6年度特色科目予算について ② 名札フォルダーについて
	開催日	体験ゼミナール作業部会の主な議題
1	令和5年 4月11日	第1回作業部会 訪問団体 担当教員決定 マニュアルの作成 以後、開講日前後にうちあわせ
2	令和5年 6月9日	学生対応について、作業部員対面にて討議
3	令和5年 8月21日	事後作業部会 ① 成績審議 提出 21日成績提出を支援課承認済み ② 反省 来年への課題 ③ 協力団体へのアンケート ④ 報告書作成 分担 ⑤ 2024年度計画
4	令和5年 9月20日	① 報告 再試験結果 ② レポートの返却方法について ③ 報告書作成
5	令和5年 12月27日	① 報告書配布 ② シラバスの作成（今後の予定） ③ 協力団体選定
6	令和6年 2月2日	① シラバスの確認 ② R6年度 マニュアルの作成（特にマナーについて）
7	令和6年 3月27日	R6年度 体験ゼミナール マニュアルの作成

開催日		千葉県の健康づくり
1	令和5年 6月27日	カリキュラムの見直し 講師の選定 チーム編成案 役割分担1
2	令和5年 9月19日	作業部会 日程・マニュアルの確認 役割分担2
3		10月開講 以後開講日に打ち合わせ
4	令和6年1月	報告書作成
開催日		専門職間の連携活動論
1	令和5年 6月26日	1. シラバスの確認 2. 昨年度の授業内容・アンケート結果の確認 3. 今年度の授業計画について ・実施計画案 ・特別講義の講師について 4. 今年度の予算執行計画および次年度予算案 ・報告書のPDF およびオンデマンド印刷について 5. 今後の日程案と担当教員について ・今後の作業部会の日程案 ・教員説明会の日程案 ・チーム編成および担当教員の学科・専攻の配分
2	令和5年 8月1日	1. 授業形態について 2. 実施要項および教員用資料について 1) 出欠確認について 2) Teams チャンネルの作成について 3) 教員の指導の仕方について 3. 成績評価について 4. アンケートについて
3	令和5年9月	実施要項等に関するメール審議
4	令和5年 10月13日	1. 経過報告 2. 教員用資料・第2回説明会の開催について 3. 12月6日午前の役割分担について 4. PCの確保・準備について 5. 学生への事前インフォメーション：受講のご案内 6. 科目概要説明について 7. アンケート内容について 8. 今後のスケジュール
5	令和6年2月	報告書作成
開催日		社会実習（ボランティア活動）
1	令和5年 4月22日	名簿 授業内容 授業計画の検討
2	令和5年 5月9日	科目ガイダンスについて 事前学習内容と発表会について 評価について 履修登録用紙について
3	令和5年 7月19日（遠隔）	履修登録について 事前学習発表会について 次年度の社会実習についてガイダンス
4	令和5年	事前学習報告会

	7月31日	
5	令和5年 9月5日	事前学習発表会の振り返り 次年度の社会実習について
6	令和5年 12月11日	社会実習の進捗状況 ① 救済措置について ② 社会実習報告会について ③ 次年度の社会実習について
7	令和6年 2月22日	社会実習報告会の振り返り 学生の成績評価について 次年度の社会実習について
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
1	令和5年 7月31日	社会実習 事前学習報告会
2	令和6年 2月19日	社会実習 事後学習報告会
H	評価（成果および改善事項）	
	<ul style="list-style-type: none"> ・社会貢献委員会および教務委員会と協同し、令和5年度社会実習を開講した（受講者2名）。初年度は、R5年度「ほい大プログラム」のみを履修の対象活動とし、カリキュラムや提出物の評価方法を確立するなど、作業部会員の連帯を通して、滞りのない開講に重点をおいた。自由科目の評価について、新たな指標を策定した。 ・次年度の社会実習シラバス作成にあたり、外部講師の選任や日程を学科間で調節し、科目の充実を諮った。「ほい大プログラム」以外の単位認定するシステムについて、他大学のボランティア科目の情報収集に努めた。 ・特色科目運営会構成員は、学年ごとの特色科目の作業部員でもあるため、学年ごとの科目の状況を把握しやすい体制であった。科目の課題（体験ゼミナール マナーについて）を特色科目運営会においても討議しマニュアルに反映させるなど、運営会において学修の積み重ねを検討した。 	
I	次年度の方策	
	・「社会実習」における対象活動の拡大について、引き続き検討が必要である。	

2) 教育研究社会貢献委員会群

(1) 入試改革検討委員会

A	委員長名 副委員長名	菊池 裕・教授（栄養学科） 藤田 佳男・教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻）
B	委員名	浅井 美千代・教授、春日 広美・教授（看護学科） 石川 裕子・教授（歯科衛生学科） 大谷 拓哉・教授（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 神田 みなみ・教授、井上 裕光・教授（共通教育運営会議）
C	部会名と 部会員名	なし
D	所掌事項	1 入試結果の分析・評価に関する事項 2 入試改革の検討に関する事項 3 その他学長が付託した事項に関する事項
E	年度当初の重点課題	
	<ol style="list-style-type: none"> 1) 2025年度大学入学共通テストの新科目「情報I」について調査・検討して各学科・専攻の選択方法及び配点を決定して2023年6月末までに公表 2) 推薦枠拡大について学生確保への影響を調査 3) 調査書等を活用した新たな面接試験方法について学生確保への影響を調査 4) 求める学生像に適した大学入学共通テストの利用の見直しを検討 	

5) 編入制度の今後について検討		
F	会議記録（含む部会の開催）	
	開催日	主な議題
1	令和5年 4月21日	(1) 令和5年度委員会活動目標設定について審議 (2) 理学療法学専攻令和8年度入学者一般選抜試験について審議
2	令和5年 5月12日	(1) 令和7年度入学者選抜共通テスト選択科目情報Ⅰについて審議 (2) 入試実施委員会が修正した小論文試験問題作成ガイドについて審議
3	令和5年 6月30日	(1) 学科・専攻別のGPA, 退学者, 就職, 国家試験について審議 (2) 推薦枠拡大の学生確保への影響調査について審議
4	令和5年 9月22日	(1) 推薦枠拡大の学生確保への影響調査について継続審議
5	令和5年 10月30日	(1) 令和7年度大学入学共通テストの国語の配点について審議 (2) 推薦枠拡大の学生確保への影響調査について継続審議
6	令和6年 2月5日	(1) 推薦枠拡大の学生確保への影響調査について継続審議 (2) 面接試験の各学科・専攻ごとの基準について審議 (3) 入試実施要領やホームページ等で公表されているアドミッション・ポリシーの各学科・専攻ごとの相違について審議
7	令和6年 3月8日	(1) 面接試験の各学科・専攻ごとの基準について審議 (2) 入試実施要領やホームページ等で公表されているアドミッション・ポリシーの各学科・専攻ごとの相違について継続審議 (3) 看護学科編入学制度の改定案について審議 (4) 令和7年度入学者選抜小論文試験問題作成ガイド（案）について審議
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
1	令和5年 4月25日	令和7年度入学者一般選抜試験より追加される「情報Ⅰ」のFDを開催 講師に県立千葉西高等学校 山口航平 教諭をお迎えし、新科目「情報Ⅰ」の教育内容及び高等学校における教育の現状について御講演いただいた。
2	令和5年 5月19日	令和7年度入学者一般選抜試験より追加される「情報Ⅰ」のFDを開催 講師に千葉県教育委員会 教育振興部 学習指導課 高等学校指導室 南雲智 指導主事をお迎えし、新科目「情報Ⅰ」の現状について教育委員会の立場から県内高等学校の対応を御講演いただいた。
H	評価（成果および改善事項）	
	<p>1) FD・SDを2回開催して県内の高校や教育委員会の「情報Ⅰ」に対する取組を調査し、その取扱いを令和6年度入学者選抜要項の令和7年度入学者選抜における変更予告で周知した。</p> <p>2) 推薦枠拡大と新カリキュラム・ポリシーの影響を調査した報告書を作成し、令和6年度も継続して審議する。</p> <p>3) 各学科・専攻の調査表を活用した面接方法を評価し、それらの影響を調査している。</p> <p>4) 各学科・専攻でアドミッション・ポリシーを精査して理学療法学専攻の数学／情報及び理科の科目及び配点を見直し、その内容を令和6年度入学者選抜要項の令和8年度入学者選抜における変更予告で周知した。</p> <p>5) 編入制度の現状と入学者に対する影響の調査に着手し、令和6年度も継続して審議する。</p>	
I	次年度の方策	
	<p>1) 令和7年度一般選抜における理学療法学専攻の大学入学共通テスト利用科目の変更について審議し、令和6年6月末までに公表</p> <p>2) 令和7年度一般選抜における大学入学共通テスト「旧教育課程による出題科目」の受験者への対応を審議し、令和6年6月末までに公表</p> <p>3) 特別選抜の定員を4割から5割に変更後の第3期カリキュラムを受講した卒業生の動向から、アドミッション・ポリシーに沿った入学者が確保できていたのか調査</p>	

- 4) 各学科・専攻ごとに調査書等を活用した面接試験方法を見直し、改善の必要性を検討
 5) 看護学科の意向を踏まえつつ大学全体の編入制度について検討

(2) 入試実施委員会

A	委員長名 副委員長名	浅井 美千代・教授（看護学科） 大谷 拓哉・教授（リハビリテーション学科理学療法学専攻）
B	委員名	浅井 美千代・教授，今井 宏美・准教授（看護学科） 井上 裕光・教授，金澤 匠・准教授（栄養学科） 石川 裕子・教授，松木 千紗・講師（歯科衛生学科） 大谷 拓哉・教授，稲垣 武・講師（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 須藤 宗行・講師，成田 悠哉・助教（リハビリテーション学科作業療法学専攻） 栗田 和紀・講師（共通教育運営会議） 廣田 龍人・学生支援主事（事務局）
C	部会名と 部会員名	なし
D	所掌事項	1 入学者選抜試験の計画・実施・採点・発表に関する事項 2 入試ミス防止に関すること（入試に関する報道対応を含む。） 3 入試問題等の作成・公表に関すること 4 その他学長が付託した事項に関する事項
E	年度当初の重点課題	
	1 公平・公正な入試の実施 2 アドミッション・ポリシーに沿った適切な試験問題の作成 3 インターネット出願の導入	
F	会議記録（含む部会の開催）	
	開催日	主な議題
1	令和5年 4月19日	1 令和5年度の入試実施委員会の活動目標と活動計画について 2 令和5年度委員会年間スケジュールについて 3 令和6年度入試年間スケジュールについて 4 令和6年度入学者選抜要項について 5 小論文試験問題作成ガイドについて
2	令和5年 5月9日	1 令和6年度学生募集要項（推薦入学・社会人・編入学）案について 2 インターネット出願について 3 試験実施要領（特別選抜・編入学）案について 4 令和6年度入学者選抜要項について
3	令和5年 6月12日	1 令和6年度学生募集要項（推薦入学・社会人・編入学）案について 2 試験実施要領（特別選抜・編入学）案について 3 次年度予算要求（小論文試験の外部評価）について
4	令和5年 7月19日	1 令和6年度学生募集要項（推薦入学・社会人・編入学）案について 2 試験実施要領（特別選抜・編入学）案について
5	令和5年 9月11日	1 試験実施要領（特別選抜・編入学），役割分担について 2 監督要領（特別選抜・編入学）案について 3 一般選抜の学生募集要項案について
6	令和5年 10月10日	1 令和7年度入学者選抜の入試日程について 2 特別選抜・編入学試験後のスケジュールについて 3 監督要領（特別選抜・編入学）について 4 令和6年度学生募集要項（一般選抜）案について 5 特別選抜・編入学試験における新型コロナウイルス感染者対応について

7	令和5年 11月13日	1 試験実施要領（特別選抜・編入学）について 2 特別選抜・編入学試験アンケート結果について 3 令和6年度学生募集要項（一般選抜）案について 4 試験実施要領（一般選抜）案について
8	令和5年 12月11日	1 試験実施要領（一般選抜）案について 2 小論文試験問題作成ガイドについて 3 特別選抜・編入学試験アンケート結果について 4 令和6年度大学入学共通テストの人員配置について
9	令和6年 1月9日	1 試験実施要領（一般選抜）案について 2 令和6年度大学入学共通テストの実施について 3 出題誤り対策について 4 委員会規程について
10	令和6年 2月13日	1 試験実施要領要領（一般）案について 2 試験実施監督要領（一般）案について 3 次年度の入試日程について 4 入試実施委員会 活動達成状況点検・評価表について 5 令和6年度大学入学共通テストアンケート結果について 6 令和7年度入試日程について 7 能登半島地震による北陸出身受験生への配慮について
11	令和6年 3月11日	1 令和7年度入学者選抜要項案について 2 令和6年度一般選抜試験の追加合格者について 3 一般選抜試験アンケート結果について 4 出題誤り対策について
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
1	令和5年 11月10日	特別選抜（推薦・社会人）試験・看護学科 3年次編入学試験監督班説明会
2	令和5年 11月18日	特別選抜（推薦・社会人）試験・看護学科 3年次編入学試験
3	令和5年 12月14日	大学入学共通テスト学内全体説明会
4	令和6年 1月11日	大学入学共通テスト業務班別説明会
5	令和6年 1月13・14日	大学入学共通テスト
6	令和6年 2月21日	一般選抜試験監督班説明会
7	令和6年 2月25日	一般選抜試験（前期日程）
H	評価（成果および改善事項）	
<p>1. 公平・公正な入試の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴う入試時感染対策の緩和の通知を受け、試験実施要領の内容を修正し、各選抜試験を実施した。また、実施要領を実施状況に即した内容に加筆修正し、改善を図った。 特別選抜・編入学試験及び一般選抜試験前に、試験監督者説明会を実施し、試験を無事終了した。 採点結果入力に関して、一昨年から使用開始した仕組みを改良し、効率的に実施することができた。 大学入学共通テストは、これまで同様に東都大学との共で本試験を実施し、無事に終了した。 能登半島地震により被災した受験生への配慮として、入学検査料の減免・還付や出願期間の延長などを執行 		

<p>部と共に検討し、ホームページ上に公開し周知した。配慮希望者はなかった。</p> <p>2. アドミッション・ポリシーに沿った適切な試験問題の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> 作問ガイドを基に問題作成者に説明の上、問題作成を依頼し、3回の校正を行った。校正会議では、作問者と校正者との間で意見交換を行い、適切な試験問題の作成に向け洗練させた。 特別選抜の学校推薦型入試において、出題ミスが発覚し、受験生に不利益がない対応方法を検討した。合格発表前に報道発表及びホームページ上での公表を行い、学外からの問い合わせはなかった。 <p>3. インターネット出願の導入</p> <ul style="list-style-type: none"> 県立高校で導入されていたインターネット出願方法を基に、特別選抜試験・編入学試験・一般選抜試験においてインターネット出願を導入した。委員会内で試行するなど導入に向けての準備を行い、トラブルなく出願受付できた。県の条例に従い、紙媒体での出願受付も継続した。 6月に受験生向けに配布する選抜要項に、インターネット出願の導入、各選抜試験の募集要項の紙媒体での配布廃止について記載し、受験生に周知した。 	
I	次年度の方策
<p>入試業務が公平・公正に実施されるよう各選抜試験の実施要領・監督要領を整備することは継続的な課題であり、引き続き、実施状況を踏まえて修正し、具体的な留意点や実施内容の明文化を進める。</p> <p>出題誤りの再発防止に向け、作問者、校正者、点検者の役割と具体的な実施内容を明確化したマニュアルづくりを進める。</p>	

(3) 教務委員会

A	委員長名 副委員長名	堀本 佳誉・教授（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 谷内 洋子・教授（栄養学科）
B	委員名	石井 邦子・教授、三枝 香代子・准教授、金丸 友・准教授、大塚 知子・講師（看護学科） 谷内 洋子・教授、鈴木 亜夕帆・講師（栄養学科） 酒巻 裕之・教授、鈴鹿 祐子・教授（歯科衛生学科） 堀本 佳誉・教授、室井 大佑・准教授（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 有川 真弓・准教授、須藤 崇行・講師（リハビリテーション学科作業療法学専攻） 神田 みなみ・教授、広川 由子・准教授（共通教育運営会議） 沢根 佳江・学生支援課（事務局）
C	部会名と 部会員名	カリキュラム評価検討部会 部会長 石井 邦子・教授（看護学科） 石井 邦子・教授、金丸 友・准教授（看護学科） 谷内 洋子・教授（栄養学科） 鈴鹿 祐子・教授（歯科衛生学科） 室井 大佑・准教授（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 有川 真弓・准教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻） 神田 みなみ・教授、広川 由子・准教授（共通教育運営会議） 沢根 佳江・学生支援課（事務局）
D	所掌事項	1 教育課程の編成に関する事項 2 学年暦及び時間割の編成に関する事項 3 授業計画に関する事項 4 非常勤講師に関する事項 5 試験及び単位の認定に関する事項 6 授業評価に関する事項 7 学籍の異動（入学、進級、休学、復学、転学、留学、退学、除籍及び卒業等）に関する事項 8 科目等履修生、特別聴講学生、聴講生、研修生、研究生及び外国人留学生に関する事項

		事項 9 その他学長が付託した事項に関する事項 10 その他教務に関する事項
E	年度当初の重点課題	
	1. 現行カリキュラムの評価とカリキュラム改正の検討 2. 大学設置基準の一部を改正する省令の交付に関わる学則やシラバス表記などの改正の検討 3. 課題解決力を高めるための自己主導型（アクティブラーニング）の推進	
F	会議記録（含む部会の開催）	
	開催日	主な議題
1	令和5年 4月17日	1 学生の休学及び退学について 2 非常勤講師の新規任用について 3 新規実習施設の追加について 4 令和5年度教務委員会の目標設定について 5 令和5年度教務委員会FDのテーマについて 6 令和5年度委員会経費について 7 令和5年度前期授業評価アンケート実施について
2	令和5年 5月15日	1 新規実習施設の追加について 2 災害等により交通機関が運行されない場合の授業等の取り扱いの改定について 3 学則の改正について 4 令和5年度前期末試験について 5 カリキュラムの評価・改正の立ち上げについて
3	令和5年 6月19日	1 非常勤講師の新規任用について 2 令和5年度前期 末試験日程およびスケジュール案について 3 令和5年度後期 科目等履修生、聴講生の募集について 4 令和5年度後期教科書販売について
4	令和5年 7月24日	1 学生の休学について 2 非常勤講師の新規任用について 3 カリキュラム改変における次期カリキュラムポリシー案について 4 学則の改正案について 5 災害等により交通機関が運行されない場合の授業等の取り扱いの改正案について 6 令和5年度前期末試験のスケジュール案について 7 令和5年度前期末試験における試験監督マニュアルについて 8 令和5年度後期の履修登録について
5	令和5年 8月21日	1 学生の復学について 2 非常勤講師の新規任用について 3 令和5年度前期末追再試験日程について 4 令和5年度前期末試験における試験監督マニュアルについて
6	令和5年 9月25日	1 学生の復学及び休学について 2 非常勤講師の新規任用について 3 放送大学単位互換協定に基づく令和5年度前期 修得単位の認定について 4 令和6年度学年暦について
7	令和5年 10月16日	1 学生の休学について 2 令和5年度後期授業評価アンケートの実施について 3 定期試験における実施方法、成績評価及び答案用紙の保管について 4 令和5年度大学教務委員会主催FDに関するアンケート調査結果について

8	令和5年 11月13日	<ol style="list-style-type: none"> 1 学生の休学について 2 非常勤講師の新規任用について 3 新規実習施設の追加について 4 令和6年度時間割の変更要望及び授業時間割について 5 令和6年度前期科目等履修生等の募集について
9	令和5年 12月18日	<ol style="list-style-type: none"> 1 学生の復学について 2 非常勤講師の新規任用について 3 新規実習施設の追加について 4 放送大学単位互換科目について 5 令和5年度後期 試験日程およびスケジュール案について 6 令和6年度時間割の変更要望及び授業時間割について 7 令和6年度新生・在学生ガイダンスのスケジュール案について 8 カリキュラム・ポリシー改正案（評価前）について 9 教務委員会規程の確認について 10 FDの開催時間について
10	令和6年 1月22日	<ol style="list-style-type: none"> 1 学生の休学・退学について 2 非常勤講師の新規任用について 3 令和5年度後期 試験監督マニュアルについて 4 定期試験における実施方法、成績評価及び答案用紙の保管について 5 令和6年度時間割の変更要望及び授業時間割について 6 令和6年度新生・在学生ガイダンスのスケジュール案について 7 令和6年度ポートフォリオの手引きの変更について 8 成績評価の異議申立てに関する規程の変更について 9 授業の公欠に関する取扱いについての変更について 10 履修規程の変更について 11 災害等により交通機関が運行されない場合の授業等の取り扱いの改正案について 12 令和6年度学生ハンドブックの変更について 13 カリキュラム・ポリシー改正案（最終）について 14 令和6年度 教務委員会スケジュール（案）について 15 教務委員会規程の確認について
11	令和6年 2月29日	<ol style="list-style-type: none"> 1 令和5年度卒業判定について 2 学生の復学・休学・退学について 3 非常勤講師の新規任用について 4 新規実習施設の追加について 5 令和5年度後期追再試験日程について 6 放送大学単位互換協定に基づく令和5年度後期修得単位の認定について 7 令和6年度新生・在学生ガイダンスのスケジュール案について 8 令和6年度授業時間割について 9 成績評価の異議申立てに関する規程の変更について 10 授業の公欠に関する取扱いについての変更について 11 履修規程の変更について 12 災害等により交通機関が運行されない場合の授業等の取り扱いの改正案について 13 令和6年度学生ハンドブックの変更について
12	令和6年 3月19日	<ol style="list-style-type: none"> 1 令和5年度進級判定について 2 学生の復学・休学・退学について 3 非常勤講師の新規任用について 4 新規実習施設の追加について

		5 休学した学生の履修登録取消について 6 令和6年度学生周知用の Teams について
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
1	令和6年 3月22日	シラバス作成
H	評価（成果および改善事項）	
	<p>1. カリキュラム評価部会を立ち上げ、カリキュラムポリシーの見直しおよびカリキュラム評価を実施。</p> <p>2. シラバスの記載要領・様式の変更の必要性の検討のために、3月22日に「シラバス作成」というテーマでFDを開催予定。次年度以降、カリキュラム改正の検討と同時に検討予定。</p> <p>3. FDの開催は未実施。自己主導型学習の実施状況に関するアンケート調査を実施。回答の得られた科目136科目中90科目（66%）で自己主導型学習が導入されていた。</p> <p>● 評価結果の理由と改善策</p> <p>1に関しては、目標通りとなっている。2に関しては1の調査結果の出る時期が年末となったため、検討が後手に回った。3に関しては、実態調査のみとなり、FD開催に至らなかった。2と3は引き続き次年度の目標とし、実施する必要がある。</p>	
I	次年度の方策	
	今年度のFDの内容を踏まえた上で、カリキュラム改正にあわせ、シラバスの記載要項・様式の変更の必要性の検討を行う。また、アクティブラーニングに関するFDを開催する必要がある。	

(4) FD・SD委員会

A	委員長名	岡村 太郎・教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻）
B	委員名	山本 達也・教授（共通教育・キャンパス・ハラスメント防止対策委員長） 菊池 裕・教授（入試改革検討委員長） 堀本 佳誉・教授（教務委員長） 太和田 暁之・教授（学術推進企画委員長） 細山田 康恵・教授（学生・進路支援委員長） 加瀬 政彦・教授（研究倫理審査委員長） 春日 広美・教授（危機管理委員長） 木内 千晶・教授（社会貢献委員長） 町田 昌実・企画運営課長（事務局） 笹島 麻里江・企画運営課（担当事務局）
C	部会名と 部会員名	なし
D	所掌事項	1 大学内のファカルティ・ディベロップメントとスタッフ・ディベロップメントの企画、推進に関する事項 2 その他学長が付託した事項に関する事項 3 その他ファカルティ・ディベロップメントとスタッフ・ディベロップメントに関する事項
E	年度当初の重点課題	
	<p>FD・SDマップに則して、以下課題の概要検討・内容決定を、各委員会に依頼し実施するシステムの構築</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会貢献 : 社会貢献のニーズを把握する企画・実施 2. 教育 : シラバスの作成方法、教育倫理、指導困難学生への教育 3. 研究 : 研究遂行スキルの向上（目的；科研費申請率アップ）・研究倫理の理解の講習会の企画・実施、学生相談・学生支援の実践、教育経験の浅い教員に指導、学生支援と進路支援に関して指導・管理 4. 管理・運営：コミュニケーションスキルに関して理解を深める、教員の説明能力を高める 5. 各FD・SDアンケートを含めFD・SD報告書などの提出方法を統一実施 6. SDの活性化などを目標に企画実施 	

F			会議記録（含む部会の開催）	
開催日		主な議題		
1	令和5年 4月21日	1. 今年度委員の紹介及び昨年度までの計画及び経過報告について 2. 令和5年度目標及び計画について 3. 予算について 4. 次回以降の開催日程及び開催方式（対面・Web）について		
2	令和5年 6月21日	1. FD・SD実施後のForms集計の依頼について 2. 各委員会の進捗状況報告 3. 安全運転管理について		
3	令和5年 9月15日	1. FD・SD実施後のForms集計の依頼について 2. 各委員会等の進捗状況報告		
4	令和5年 12月15日	1. 実施後のアンケート提出について 2. FD・SD全体に係る提案事項 3. FD・SD進行状況の報告及び新規の提案 4. その他：FD・SDの配信に関する要望		
5	令和6年 3月15日	1. R5年度の活動状況の振り返り 2. R6年度の活動予定について 3. 過年度様式を用いた、FD・SD実施報告及び実施後に行うアンケートについて 4. 実施予定、FD・SD委員会主催の学長講演について 5. その他：FSDSの各担当分掌の確認検討、FSDSの計画公開方法等		
G			行事開催記録	
開催日		行事名称及び行事の内容		
1	令和5年4月～	「大学の成り立ちと人材育成の目標」新任教員7名参加（学長）		
2	令和5年 4月13日	「論文の構成と書き方—投稿から掲載まで 論文著者が知っておくべきポイント—」Zoom実施，教員参加（学術推進企画委員会）（やや満足＋満足＝93%）		
3	令和5年 4月25日	「新科目「情報I」の教育内容及び高等学校における教育の現状」（FD・SD・入試改革検討委員会共催）49名参加（やや満足＋満足＝93%）		
4	令和5年 5月9日	「地域医療連携システムについて」，教員参加（学術推進企画委員会）（やや満足＋満足＝88%）		
5	令和5年 5月19日	「千葉県立高校 教科情報I 授業内容等の現状」49名参加（FD・SD・入試改革検討委員会共催）（やや満足＋満足＝65%）		
6	令和5年 9月12日	「千葉県職員倫理条例及びコンプライアンスについて」「事務ミス防止について」，26名参加（教員14，事務職員12）（企画運営課）		
7	令和5年 9月26日	「さがす・読む・伝える：情報検索のコツとフェイクニュース」「論文の構成と書き方—投稿から掲載まで論文著者が知っておくべきポイント」／「ヘルスサイエンス系論文／学術流通の最新動向」，39名参加（学術推進企画委員会）（やや満足＋満足＝96%）		
8	令和5年 11月2日	『「発達障害」の学生への対応について』，26名参加（学生委員会）（やや満足＋満足＝92%）		
9	令和5年 11月29日	「医療系大学における教職員の進路支援」，28名参加（進路支援委員会）（やや満足＋満足＝82%）		
10	令和5年 12月13日	「ハラスメントの予防や訴訟問題などに関する教職員向けFD・SD」，35名前後参加（CH防止委員会）（やや満足＋満足＝86%）		
11	令和5年 12月25日	「安全保障輸出管理の初心者向け概要など」78名参加（研究倫理審査委員会）（やや満足＋満足＝97%）		
12	令和6年 1月25日～2月5日	「安全運転管理の徹底について」（オンデマンド），53名（教員46名，職員7名）（企画運営課）（やや満足＋満足＝75%）		

13	令和6年 2月20日～3月1日	「R5年制定の「危機管理の方針」に基づいて」（オンデマンド）52名（危機管理委員会）
14	令和6年 3月12日	将来構想にかかる情報共有・意見交換, 62名参加ハイブリッド（社会貢献委員会） （やや満足+満足=86%）
15	令和6年 3月22日	「シラバス作成」（教務委員会）41名参加（やや満足+満足=89%）
16	令和6年 3月27日	「医療安全を学ぶ-保健医療者としてのリスク管理」（学長）70名参加（やや満足+満足=85%）
H	評価（成果および改善事項）	
<p>1. 大学内のFDとSDの企画, 推進に関する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本年度について段階的に「FD・SDマップに則して, 概要検討・内容決定を, 各委員会に依頼し実施するというシステムの構築」は, FDの学内委員会調整とFDの推進はほぼ達成された。 <p>2. その他学長が付託した事項に関する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「新科目「情報I」の教育内容及び高等学校における教育の現状について」の周知について実施できた。 <p>3. その他FDとSDに関する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・FD・SDについて職員に周知と運営の協力体制さらにアンケートの回収が改善事項である。 		
I	次年度の方策	
<ul style="list-style-type: none"> ・2023年度のFD・SDマップの再検討と2024年度FD・SD年度計画の検討実施 ・FD・SDアンケート・報告書など運営体制を含め運用の工夫と実施 		

(5) 学術推進企画委員会

A	委員長名	太和田 暁之・教授（看護学科・共通教育運営会議）
B	委員名	細谷 紀子・准教授（看護学科） 加瀬 政彦・教授（栄養学科） 広川 由子・准教授（栄養学科） 佐々木 みづほ・准教授（歯科衛生学科） 荒川 真・准教授（歯科衛生学科・共通教育運営会議） 大谷 拓哉・准教授（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 江戸 優裕・講師（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 山本 達也・教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻・共通教育運営会議） 有川 真弓・准教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻）
C	部会名と 部会員名	<p>【紀要編集部会】</p> <p>部会長：荒川 真・准教授（栄養学科） 部会員：市原 真穂・教授（看護学科） 細谷 紀子・准教授（看護学科） 加瀬 政彦・教授（栄養学科・共通教育運営会議） 広川 由子・准教授（栄養学科・共通教育運営会議） 栗原 涼子・助教（歯科衛生学科） 江戸 優裕・講師（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 稲垣 武・講師（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 有川 真弓・准教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻） 成田 悠哉・助教（リハビリテーション学科作業療法学専攻）</p> <p>【学内共同研究審査部会】</p> <p>部会長：山本 達也・教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻・共通教育運営会議） 部会員：太和田 暁之・教授（看護学科・共通教育運営会議） 川村 紀子・講師（看護学科） 加瀬 政彦・教授（栄養学科） 広川 由子・准教授（栄養学科） 島田 美恵子・教授（歯科衛生学科） 佐々木 みづほ・准教授（歯科衛生学科）</p>

		大谷 拓哉・准教授（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 室井 大祐・准教授（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 岡村 太郎・教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻・共通教育運営会議）
D	所掌事項	1 大学内の学術推進に関すること 2 学内共同研究等の募集及び審査等に関すること 3 外部資金の獲得に関すること 4 紀要の編集及び発行に関すること 5 その他学長が付託した事項に関すること 6 その他学術推進に関すること
E	年度当初の重点課題	
	1. 健康施策に関連した研究の水準向上につながる方策を継続しつつ、引き続き学内共同研究費による健康施策に関連した研究への助成を実施する。 2. 競争的資金（科研費、学内共同研究費など）獲得のための支援策を継続しつつ、採択率を上げるための支援策を実施する。	
F	会議記録（含む部会の開催）	
	開催日	主な議題
1	令和5年 4月17日	1. 本委員会の所掌事項，構成委員，R5年度開催予定について 2. 学内共同研究審査部会長，紀要編集部会長の選任について 3. 2023年度「委員会活動達成状況点検・評価表」について 4. 研究支援業務の外注内容について 5. 本委員会の経費について 6. 第1回イブニングセミナーについて Wiley主催「論文の構成と書き方」 7. 第2回イブニングセミナーについて 千葉大学附属病院竹内公一先生
2	令和5年 5月15日	1. 令和5年度学内共同研究発表会の開催方式について 2. ロバスト・ジャパン株式会社 研究支援外注について 3. 2023重点背作目標について
3	令和5年 6月19日	1. 令和5年度学内共同研究発表会の開催方式について 2. FD・SD委員会から依頼されたFDについて (レベル2)研究遂行スキルが向上する)文献検索)文献レビューのスキル)
4	令和5年 7月10日	1. 7月～9月の行事予定の確認 2. ロバスト・ジャパンの契約について
5	令和5年8月	流会
6	令和5年 9月11日	1. 令和5年度第3・4回イブニングセミナーについて 2. 科研費支援（ロバストジャパン提供）に関するアンケート（匿名方式）について
7	令和5年 10月16日	1. 研究支援サービス（ロバストジャパン提供）の総括
8	令和5年 11月20日	1. 紀要編集部会 日程変更について
9	令和5年 12月18日	1. 規程の改定について
10	令和6年 1月15日	1. 2023年度学長裁量研究の取り下げについて 2. 2024年度千葉県立保健医療大学学内共同研究募集について
11	令和6年 2月19日	1. 委員会活動状況点検・評価表について 2. 2024年度学長裁量研究のスケジュール案
12	令和6年 3月18日	1. 科研費等採択状況概要 2. 令和6年度学内共同研究 結果について

開催日		紀要編集部会の主な議題
1	令和5年 10月12日	1. 編集担当者について
2	令和5年 11月7日	1. 投稿論文編集者・査読者の決定について 2. 査読依頼の手続きについて
3	令和5年 12月8日	1. 査読結果及び審査結果について
4	令和6年 1月25日	1. 査読結果及び審査結果について
開催日		学内共同研究審査部会の主な議題
1	令和6年 2月27日	1. 審査結果の確認及びヒアリング事項の確認
2	令和6年 3月12日	1. ヒアリング審査結果の確認
G 行事開催記録		
開催日		行事名称及び行事の内容
1	令和5年 4月13日	第1回 イブニングセミナー Wiley 主催「論文の構成と書き方」 講師：粕谷 善俊 千葉大学医学研究院・准教授
2	令和5年 5月9日	第2回 イブニングセミナー 地域医療連携システムについて-DX とリスクリング 講師：竹内 公一 千葉大学附属病院患者支援部 部長，特任准教授
3	令和5年 9月12日	第3回 イブニングセミナー ヘルスサイエンス系論文／学術流通の最新動向 講師：佐藤 正恵 社会福祉法人恩賜財団済生会千葉県済生会習志野病院総務課司書
4	令和6年 3月18日	第4回 イブニングセミナー さがす・読む・伝える：情報検索のコツとフェイクニュース 講師：佐藤 正恵 社会福祉法人恩賜財団済生会千葉県済生会習志野病院総務課司書
H 評価（成果および改善事項）		
「年度当初の重点課題」の達成状況と評価		
1. 学内共同研究費助成において健康施策に関連した研究課題公募を新設した。 2. 専門企業による研究支援サービスを新規に導入した。		
I 次年度の方策		
・研究の活性化の基盤となる競争的資金を組織的に獲得するためにFDや若手研究者の支援体制を充実させる。 ・行政や保健医療機関，地元企業，職能団体等と実践現場の課題や研究について交流できる場を設ける。		

(6) 学生委員会

A	委員長名	細山田 康恵・教授（栄養学科）
	副委員長名	西村 宣子・准教授（看護学科）
B	委員名	市原 真穂・教授（看護学科）
		太和田 暁之・教授（看護学科）
		工藤 美奈子・准教授（栄養学科）
		鈴鹿 祐子・教授（歯科衛生学科）
		松木 千紗・講師（歯科衛生学科）
		稲垣 武・講師（リハビリテーション学科理学療法専攻）
		松尾 真輔・講師（リハビリテーション学科作業療法専攻）

C	部会名と 部会員名	なし
D	所掌事項	1 学生の福利厚生及び保健衛生に関すること 2 学生の課外活動に関すること 3 学生の奨学金等貸与に関すること 4 授業料等の減免に関すること 5 後援会及び同窓会に関すること 6 その他学長が付託した学生に関すること
E	年度当初の重点課題	
	<ul style="list-style-type: none"> ・学生支援の方針（ハンドブック）に照らした学生支援の検証と改善 ・卒業生に対する教育支援やキャリア形成支援体制を整備する 	
F	会議記録（含む部会の開催）	
	開催日	主な議題
1	令和5年 4月10日	① 令和5年度 委員会スケジュールについて ② 令和5年度 学生支援計画について ③ 日本学生支援機構奨学生の推薦について ④ 委員会経費について ⑤ 委員会目標について
2	令和5年 5月15日	① 令和5年度 学生支援計画について ② 令和5年度 重点施策について ③ 応急処置・AED 講習について ④ FDについて ⑤ 令和6年度 健康診断の項目について
3	令和5年 6月12日	① 年間計画進捗状況について ② ワクチン接種について ③ いずみ祭のチラシ（案）について
4	令和5年 7月10日	① いずみ祭について ② 学生向け「防犯対策講話」について ③ 委員会スケジュールについて
5	令和5年 9月11日	① 令和5年度 いずみ祭について ② 学生相談件数調査について
6	令和5年 10月16日	① 令和6年度 学生ハンドブックについて ② 令和6年度 自己健康管理ファイルについて ③ 食品中の放射性物質に係るビデオ教材について
7	令和5年 11月13日	① 令和6年度 学生ハンドブックについて ② 令和6年度 自己健康管理ファイルについて ③ 令和6年度 健康診断・ワクチン接種計画について ④ 後援会加入について ⑤ 卒業生調査について ⑥ 食品中の放射性物質に係るビデオ教材について
8	令和5年 12月11日	① 「食品中の放射性物質」視聴アンケートについて ② 令和5年度 卒業式について ③ 学生支援計画、委員会活動計画について
9	令和6年 2月19日	① 活動達成状況点検、評価表について ② 令和5年度 重点施策年度目標について ③ 学生セミナーについて
10	令和6年	① 令和5年度 学生支援計画・委員会活動計画について

	3月11日	② 令和6年度 委員会活動日程について ③ その他
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
1	令和5年 4月6日～7日	健康診断
2	令和5年 5月27日～6月19日	学生セミナー 新入生対象「応急手当 WEB 講習 普通救命講習編」
3	令和5年 8月2日～31日	学生アンケート調査 学内の売店と自動販売機等に関するアンケート Formsにて
4	令和5年 8月9日	学生向け講習会 千葉西警察から「防犯対策講話」
5	令和5年 8月9日～9月8日	学生向けセミナー 「ブラックバイト」、「デートDV」対策セミナー オンデマンド配信
6	令和5年 9月11日～29日	教員アンケート調査 「学生相談件数」前期分 Formsにて
7	令和5年 11月2日	教職員対象FD 「発達障害の学生対応について」
8	令和5年 11月27日～12月22日	学生向けセミナー 「食品中の放射性物質に関わるビデオ教材」オンデマンド配信
9	令和6年 2月13日～29日	教員アンケート調査 「学生相談件数」後期分 Formsにて
H	評価（成果および改善事項）	
	<p>① 学内整備：学習環境の点検・特にロッカー室整備 ② 学生会：会計監査指導・新役員への活動支援 ③ いずみ祭の実施 ④ 後援会による仁戸名キャンパスへの寄贈品管理 ⑤ 売店・自動販売機 ⑥ 卒業式（同窓会から花の設置、写真など） ⑦ 学生対象セミナー実施（ブラックバイト、DV防止など） ⑧ 同窓会との連絡（各学科専攻でホームカミングなどを実施） ⑨ 学生からの相談内容把握（アンケート調査による） ⑩ 幕張キャンパス駐輪場管理：駐輪マナーの周知・徹底および必要に応じた駐輪場の整備 ⑪ 後援会：加入者増加への支援（入学式でブースの設置など） ⑫ FD開催（教員向け学修支援など） ⑬ 新入生対象「応急手当 WEB 講習 普通救命講習編」の受講 ⑭ 学生向け講習会「犯罪に巻き込まれないように、特殊詐欺や薬物関係の話を実際の経験を踏まえて防犯講話」（千葉西警察） ⑮ 自己健康管理ファイルの改訂</p> <p>上記①から④、⑥から⑮に関して、実施することができた。学生ハンドブックに記載されている学生支援は概ね実施できているが、学内の設備や売店・自販機に関しては、事務局で県との調整をしていただき、改善をお願いしたい。また、卒業生に対しては、各学科専攻で分科会と交流はできているが、本学としての教育支援やキャリア形成支援体制の整備はできていない。今後、分科会と話し合い、卒後の教育支援ができるように検討したい。</p>	
I	次年度の方策	
	<p>・学内の設備や福利厚生については、学生や保護者からの意見を、事務局から県にあげていただき、学生がより良い環境で学生生活を送れるようにする必要がある。また、卒後の教育支援については、分科会の役員の方と</p>	

話し合い、本学の支援体制整備が必要と考える。

(7) 進路支援委員会

A	委員長名 副委員長名	細山田 康恵・教授（栄養学科） 川城 由紀子・准教授（看護学科）
B	委員名	佐々木 みづほ・准教授（歯科衛生学科） 室井 大佑・准教授（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 松尾 真輔・講師（リハビリテーション学科作業療法学専攻）
C	部会名と 部会員名	なし
D	所掌事項	1 就職及び進学に関すること 2 県内就職の推進に関すること 3 その他学長が付託した事項に関すること 4 その他学生の就職及び進学に関すること
E	年度当初の重点課題	
	・各学科専攻で年間計画を作成し、国家試験受験対策や就職支援が円滑に進むようにする。また、キャリアセミナーを年3回、ジョブカフェを年3回実施できるようにする。	
F	会議記録（含む部会の開催）	
	開催日	主な議題
1	令和5年 4月17日	① 令和5年度 委員会スケジュールについて ② 令和5年度 進路支援計画について ③ 令和5年度 委員会活動予算について ④ 令和5年度 キャリアセミナー年間計画及び第1回・第2回キャリアセミナーについて ⑤ 進路支援委員会の活動目標について
2	令和5年 6月14日	① 次年度予算策定について ② 令和5年度 第1回・第2回キャラセミナーについて ③ 後援会助成依頼について ④ ジョブカフェについて
3	令和5年 8月7日	① 第1回・第2回キャリアセミナーについて ② キャリアセミナーアンケートについて ③ FD 講師について
4	令和5年 9月13日	① 進路希望調査及び求職票について ② 進路ガイドブックについて ③ FDの講師について
5	令和5年 11月8日	① FDについて ② 令和6年度 進路ガイドブックについて ③ 第3回キャリアセミナーについて ④ 令和6年度 学生ハンドブックについて（進路支援に関すること） ⑤ 卒業時調査について
6	令和6年 1月10日	① 第3回キャリアセミナーについて ② 令和5年度 活動達成状況点検・評価表について ③ 進路支援委員会の規程について
7	令和6年 3月22日	① 第3回キャリアセミナーの振り返り ② 令和6年度ジョブカフェ企画について ③ 令和6年度委員会スケジュール ④ その他

G 行事開催記録		
開催日	行事名称及び行事の内容	
1	令和5年 6月19日	ジョブカフェ 就職支援セミナー 第1回「自己PR作成セミナー」
2	令和5年 8月9日	キャリアセミナー第1回 第1部「就活の進め方」について 第2部は学科専攻ごとに開催
3	令和5年 8月24日	キャリアセミナー第2回 「公務員業務説明会」
4	令和5年 9月25日	ジョブカフェ 就職支援セミナー 第2回「エントリーシート対策セミナー」
5	令和5年 11月29日	教職員向けFD 「医療系大学における教職員の進路支援」について
6	令和6年 2月28日	ジョブカフェ 就職支援セミナー 第3回「個人模擬面接セミナー」
7	令和6年 3月13日	キャリアセミナー第3回「就職活動に必要なマナーのツボ」 第1部 社会人としての必要なマナー 第2部 こんな時どうする？～電話の受け方、面接のマナーなど～
H 評価（成果および改善事項）		
<p>① 年度当初に作成した進路支援計画に沿い、全学及び各学科専攻で、予定通りの進路支援や国家試験受験支援が実施できた。</p> <p>② 全学のキャリアセミナーは年3回実施し、各学科専攻におけるキャリアセミナーも実施することができた。</p> <p>③ ジョブカフェ就職支援セミナーを年3回実施できた。</p> <p>④ ハローワークによる個別就職活動支援は、7月～8月にかけての利用が多かった。進路情報室の活用は、約180名であった。</p> <p>⑤ 教職員向けの進路支援委員会FDを「医療系大学における教職員の進路支援」を実施できた。</p> <p>上記①から⑤に関して、滞りなく実施することができた。全学キャリアセミナーおよびジョブカフェちばに参加した学生のアンケート結果は、概ね好評であった。参加する学生が多くなるように、学科専攻内での周知を徹底していきたい。</p>		
I 次年度の方策		
<p>・今年度から講師を変更した第2回と第3回キャリアセミナーに関して、学生から概ね好評であったので、次年度以降も同様に実施していきたい。</p>		

(8) 研究倫理審査委員会

A	委員長名	加瀬 政彦・教授（栄養学科）
B	委員名	<p>—学内委員—</p> <p>小宮 浩美・教授（看護学科）</p> <p>雨宮 有子・准教授（看護学科）</p> <p>工藤 美奈子・准教授（栄養学科）</p> <p>石川 裕子・教授（歯科衛生学科）</p> <p>島田 美恵子・教授（歯科衛生学科）</p> <p>大谷 拓哉・教授（リハビリテーション学科理学療法専攻）</p> <p>有川 真弓・准教授（リハビリテーション学科作業療法専攻）</p> <p>江口 洋・事務局長（事務局）</p> <p>—学外委員—</p> <p>安村 勉・教授（学習院大学専門職大学院法務研究科）</p> <p>鎌田 浩二・准教授（千葉大学人文科学研究院）</p> <p>竹内 治・弁護士（松本・山下総合法律事務所）</p>

		望月 由紀・准教授（東都医療大学幕張ヒューマンケア学部看護学科） 島津 実伸・特任助教（千葉大学医学部附属病院臨床試験部）
C	部会名と 部会員名	【動物実験研究倫理審査部会】 部会長：加瀬 政彦・教授（栄養学科） 部会員：細山田 康恵・教授（栄養学科） 金澤 匠・准教授（栄養学科） 島田 美恵子・教授（歯科衛生学科） 栗田 和紀・講師（共通教育運営会議）
D	所掌事項	人間および動物を直接対象とする研究等に対して、倫理に係る必要事項を審査する。
E	年度当初の重点課題	
	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の委員会での研究倫理審査業務の実行。 ・今年度新設予定のデータ管理に関する部会を円滑に組織・運営する。 ・昨年度から継続している「リモート研究」や「データの収集と管理」についての今後の審査方針の整備を今年度も継続する。 ・委員会での倫理審査過程における改善点を見だし、修正する。 	
F	会議記録（含む部会の開催）	
	開催日	主な議題
1	令和5年 4月12日	倫理審査申請案件の審査（7件：承認1件，条件付き承認3件，保留3件）
2	令和5年 5月10日	倫理審査申請案件の審査（7件：承認1件，条件付き承認5件，保留1件）
3	令和5年 6月14日	倫理審査申請案件の審査（3件：条件付き承認3件）
4	令和5年 7月12日	倫理審査申請案件の審査（9件：承認2件，条件付き承認4件，保留3件）
5	令和5年 9月13日	倫理審査申請案件の審査（7件：条件付き承認3件，保留1件，不承認1件）
6	令和5年 10月11日	倫理審査申請案件の審査（4件：条件付き承認2件，保留2件）
7	令和5年 11月8日	倫理審査申請案件の審査（3件：条件付き承認2件，保留1件）
8	令和5年 12月13日	倫理審査申請案件の審査（3件：承認1件，条件付き承認2件）
9	令和6年 1月17日	倫理審査申請案件の審査（5件：承認3件，保留2件）
10	令和6年 2月14日	倫理審査申請案件の審査（9件：承認5件，条件付き承認3件，保留1件）
	開催日	動物実験研究倫理審査部会の主な議題
1	令和5年 5月2日	倫理審査申請案件の審査（1件：承認1件）
2	令和5年 5月19日	倫理審査申請案件の審査（2件：承認2件）
3	令和5年 6月9日	倫理審査申請案件の審査（1件：承認1件）
4	令和5年 10月16日	倫理審査申請案件の審査（1件：承認1件）

G		行事開催記録
開催日	行事名称及び行事の内容	
1	令和5年 4月1日	研究等倫理委員会研修会（新任教員向け）
2	令和5年 9月1日	研究等倫理委員会研修会（新任教員向け）
3	令和5年 12月25日	安全保障輸出管理に関する講習会開催（講師：山越祥子 筑波大学准教授）
4	令和6年 3月12日	令和5年度科学研究費助成事業に係る内部監査の実施
H		評価（成果および改善事項）
<p>・達成事項</p> <p>① <u>毎月の委員会での研究倫理審査業務の実行.</u> 今年度申請された案件は順当に処理した.</p> <p>② <u>今年度新設予定のデータ管理に関する部会（安全保障輸出管理部会）を円滑に組織・運営する.</u> 現時点（2/14）でまだ新部会は発足に至っていないが、部会の規程案の審議を臨時に委員会を開催しておこない、また周知のためのFD・SDを開催するなどして、新しい部会の新設の準備を進めることができた.</p> <p>③ <u>昨年度から継続している「リモート研究」や「データの収集と管理」についての今後の審査方針の整備を今年度も継続する.</u> 最も重要な変更として、本学 Teams による学外の研究者間とのデータ共有やデータ管理を、今年度より方針を転換して認めることにした。これは本学の情報ネットワークについてのワーキンググループでの議論を参考にして決定に至った.</p> <p>④ <u>委員会での倫理審査過程における改善点を見だし、修正する.</u> 申請書類の電子化を検討し電子申請が可能な仕組みを作り来年度（4月）から施行予定になっている.</p> <p>・評価結果の理由と改善策</p> <p>① 毎回の委員会での審査を目標通り着実に実行できた。来年度も同様にすべきである。</p> <p>② 安全保障輸出管理部会を作るための必要な準備（規程案の審議、周知のためのFD・SD開催、など）を実行できた。今後、実際に部会が立ち上がって運営していけるように務める。</p> <p>③ 「リモート研究」や「データの収集と管理」で、特に社会状況の変化に応じて研究におけるネットワーク利用について研究倫理審査での扱いを十分検討し、路線を変更し昨年度まで認めていなかった手続きを認めることとし研究者の利便性を上げることができた。このような研究における情報の取り扱いは今後も改善する必要があるが、セキュリティの視点も十分考慮する必要がある。</p> <p>④ 来年度（4月）から申請書類の電子化を実行できるようにした。今後実際に実行したときに順調に運営していけるか注視していく。</p>		
I		次年度の方策
<p>・「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」とその関連文書の近年の改訂に応じて本学の倫理審査申請書類書式の改訂を検討する必要がある。</p>		

(9) 国際交流委員会

A	委員長名 副委員長名	谷内 洋子・教授（栄養学科） 大谷 拓哉・教授（リハビリテーション学科理学療法学専攻）
B	委員名	田口 智恵美・准教授（看護学科） 佐久間 貴士・講師（歯科衛生学科） 岡村 太郎・教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻） 益森 勇磨、伊藤 斐太（事務局）

C	部会名と 部会員名	なし
D	所掌事項	1 国際交流に関する事項 2 学術交流協定に関する事項 3 学術及び教育交流の推進に関する事項 4 留学生の教育交流に関する事項 5 国際交流関係機関との連携および協力に関する事項 6 その他学長が付託した国際交流に関する事項
E	年度当初の重点課題	
	<ul style="list-style-type: none"> ・国内外における国際交流活動を促進する。 ・多(異)文化交流を体得できる学びの機会の提供(在り方)について検討する。 	
F	会議記録(含む部会の開催)	
	開催日	主な議題
1	令和5年 4月14日	1. 令和5年度 委員会活動目標と活動計画について 2. 令和5年度予算について 3. 「初期医療言語サービスボランティア研修」について
2	令和5年 6月16日	1. 令和6年度 委員会予算について 2. 「令和5年度 世界にはばたく!国際交流セミナー」について(当日準備, アンケート作成について)
3	令和5年 8月24日	1. 「令和5年度 世界にはばたく!国際交流セミナー」について;役割分担など 2. 「令和5年度 世界にはばたく!国際交流セミナー」について;セミナー開催後のふりかえり
4	令和5年 11月10日 (神田外語大学とのWeb会議)	1. 「外国語による応急処置体験講習」;実施日時について 2. 「外国語による応急処置体験講習」;プログラム内容について 3. 「外国語による応急処置体験講習」;必要経費について
5	令和5年 12月4日	1. 「外国語による応急処置体験講習」について 2. 「令和5年度 世界にはばたく!国際交流セミナー」のアンケート結果について
6	令和5年 12月15日 (神田外語大学とのWeb会議)	1. 「外国語による応急処置体験講習」;ポスター内容について 2. 「外国語による応急処置体験講習」;申し込みフォームについて 3. 「外国語による応急処置体験講習」;参加者定員について
7	令和6年 2月21日 (神田外語大学とのWeb会議)	1. 「外国語による応急処置体験講習」;申し込み状況について 2. 「外国語による応急処置体験講習」;修了証について 3. 「外国語による応急処置体験講習」;当日スケジュールおよび連絡事項 4. 「外国語による応急処置体験講習」;当日受付について 5. 「外国語による応急処置体験講習」;事後アンケート作成について 6. 「外国語による応急処置体験講習」;当日準備について
8	令和6年 3月18日	1. 「外国語による応急処置体験講習」;事後アンケート結果とふりかえり 2. 来年度の活動計画について
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
1	令和5年 8月24日 (幕張キャンパス・大講義室) 10:45~12:15	令和5年度 世界にはばたく!国際交流セミナー 留学経験を有する本学卒業生(栄養学科卒・理学療法学専攻卒;2名)による講演を行った。留学から学んだ国際対応力をテーマに,先輩(卒業生)から海外での学び・生活で苦労したこと,その経験が現在の仕事にもいかされていることなど,留学経験者の生の声を聴き,多文化理解を深める機会を提供することができた。講演後の質疑応答の時

		間には、参加者からの質問も多くあり、講演者（卒業生）、参加学生ともに有意義な時間を共有することができた。 参加者：24名 教職員参加者：8名
2	令和6年 3月9日 (幕張キャンパス・B棟111・211) 9:30~16:00	第3回 外国語による応急処置体験講習 本学と神田外語大学との共催イベントで、今年は保健医療と語学、学ぶ領域が異なる両大学の学生が互いの強みを活かして学びを深めることを目的とした。講義だけでなく、蘇生訓練人形・AEDなどを使用した体験を通じて緊急時を想定した学びと、英語で命を救う行動、大学間交流など多くの要素を盛り込み、参加学生からの満足度も高い、実り多きイベントとなった。 参加者：21名（千葉県立保健医療大学12名、神田外語大学9名） 教職員参加者：13名（千葉県立保健医療大学10名、神田外語大学3名）
H	評価（成果および改善事項）	
	<ul style="list-style-type: none"> ・本学と神田外語大学の共催で行われる「初期医療言語サービスボランティア研修（令和5年度より「外国語による応急処置体験講習」に改名）」は、令和6年3月9日に開催し、21名（本学12名、神田外語大学9名）の学生が参加した（昨年度参加者実績；本学6名、神田外語大学；9名）。応急処置の際の英会話講義と手技の体験に加え、両大学の学生交流の時間を持つことができ、参加学生の満足度も高かった。 ・令和5年度は、前述のとおり、2つの行事を開催したが、参加者事後アンケートでは、セミナー参加学生が他大学学生との交流を求めていることが示されていた。R6年度以降は、外国人留学生を含む海外の方と交流を持てる機会を提供するべく、その実施方法・内容について検討していきたい。 ・R5年度は新たな取り組みとして、留学経験を有する本学卒業生による講演；留学から学んだ国際対応力に関するセミナーを令和5年8月24日に開催することができた。講演後の質疑応答の時間には、参加者からの質問も多くあり、講演者（卒業生）、参加学生ともに有意義な時間を共有することができた。 	
I	次年度の方策	
	<ul style="list-style-type: none"> ・本学と神田外語大学の共催で行う「外国語による応急処置体験講習」は、次年度以降も継続開催する。また新たな取り組みとして、県内在住留学生（大学生）と本学学生との交流会イベントの企画・実施により、互いに多文化理解を深められるような機会を提供できるよう力を尽くす。 	

(10) 図書委員会

A	委員長名	石井 邦子・教授（看護学科）図書館長
B	委員名	鈴木 亜夕帆・講師（栄養学科） 栗原 涼子・助教（歯科衛生学科） 稲垣 武・講師（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 須藤 崇行・講師（リハビリテーション学科作業療法学専攻） 島田 恵美子・教授（共通教育運営会議）
C	部会名と部会員名	なし
D	所掌事項	1 図書館の整備運営及び図書館教育に関する事項 2 図書資料等の収集、購入計画及び管理に関する事項 3 学術機関リポジトリに関する事項 4 その他学長が付託した事項に関する事項 5 その他図書館に関する事項
E	年度当初の重点課題	
	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の図書館利用及び文献活用を推進する。 ・学生教育及び教員の研究活動に資する資料の収集・整備を継続する。 ・卒業生等の学外利用者の増加を図る。 	

F		会議記録（含む部会の開催）
開催日		主な議題
1	令和5年 4月27日	1 活動達成状況点検・評価表（2023年度）について 2 令和5年度の年間予定について 3 令和5年度委員会経費について 4 令和5年度定期購入図書について 5 令和5年度資料費予算配分について
2	令和5年 10月19日	1 2024年洋雑誌洋雑誌（冊子体）の更新について 2 2024年電子ジャーナル・データベースの更新について 3 幕張キャンパス図書館における雑誌の廃棄について
3	令和5年 12月12日～26日 （メール審議）	1 図書館の開館日の決め方について 2 役務費残額のしとおよび配分方法について 3 図書委員会規程について
4	令和6年 2月15日	1 令和5年度委員会活動評価について 2 令和6年度図書館開館カレンダー（案）について 3 令和6年度定期購読雑誌（案）について 4 幕張キャンパス図書館の除籍予定資料について
G		行事開催記録
開催日		行事名称及び行事の内容
1	令和5年 4月3日	図書館ガイダンス（新任教員向け）
2	令和5年 4月6日	図書館ガイダンス（新入生ガイダンス）（全学科・専攻対象）
3	令和5年 4月6日	図書館ガイダンス（幕張図書館見学）（看護学科2回，その他の学科・専攻各1回）
4	令和5年 4月12日	図書館ガイダンス（仁戸名図書館見学）（理学療法学専攻2回，作業療法学専攻2回）
5	令和5年 4月13日	文献検索ガイダンス（栄養学科4年生）
6	令和5年 6月15日	文献検索ガイダンス（作業療法学専攻3年生）
7	令和5年 6月20日	文献検索ガイダンス（理学療法学専攻3年生）
8	令和5年 9月20日～10月10日	文献検索ガイダンス（看護学科3年生）（オンデマンド動画配信）
9	令和5年 9月～3月	文献検索セミナー「信頼できる医療系情報を探すには」（全学科3年生）（オンデマンド動画配信）
10	令和5年 10月2日	図書館ガイダンス（新任教員向け）
11	令和5年 10月26日	文献検索ガイダンス（歯科衛生学科3年生）
H		評価（成果および改善事項）
		<ul style="list-style-type: none"> 卒業研究を控えた学生を対象に文献検索セミナーを2回，文献検索ガイダンスを5回実施した。 幕張図書館で1,604冊，仁戸名図書館で693冊の図書を新たに受け入れ，備品費予算のほぼ100%を執行した。
I		次年度の方策
		<ul style="list-style-type: none"> 学生が文献検索に関する情報を得る機会を増やすよう努める。 学科推薦図書の趣旨を教職員の間であらためて共有し，限られた予算内で，学生・教職員にとって有意義な図

書を整備するよう心掛ける。

(11) 社会貢献委員会

A	委員長名	木内 千晶・教授（看護学科）
B	委員名	渡辺 優奈・講師（栄養学科） 鈴鹿 祐子・教授（歯科衛生学科） 室井 大佑・准教授（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 有川 真弓・准教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻） 佐久間 貴士・講師（歯科衛生学科）
C	部会名と 部会員名	なし
D	所掌事項	1. 公開講座の企画及び運営に関すること。 2. 教授会が付託した事項に関すること。 3. その他社会貢献活動に関すること。
E	年度当初の重点課題	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会貢献に関するFD/SDを1回開催する。 ・ 社会のニーズを踏まえたテーマを設定し公開講座を2回実施する。 ・ ほい大健康プログラムをUR都市機構と共催で3回、いすみ市と共催で2回、大学近隣住民対象で2回実施する 	
F	会議記録（含む部会の開催）	
	開催日	主な議題
1	令和5年 4月18日	<ol style="list-style-type: none"> 1. FD・SDのアンケート集計結果について 2. 活動達成状況点検・評価表（2023年度）について 3. 活動予定・役割分担について 4. 委員会経費について 5. 公開講座テーマ・方法・日程について 6. URとのほい大健康プログラムについて（社会実習との関連）
2	令和5年 6月13日	<ol style="list-style-type: none"> 1. URほい大健康プログラムについて 2. いすみ市ほい大健康プログラムについて 3. ほい大健康プログラム報告書について 4. 公開講座の広報掲載申し込みについて 5. 公開講座講師への原稿作成依頼について 6. FDについて 7. ほい大健康プログラム令和6年度予算要求について 8. UR・いすみ市・歯科診療室のほい大健康プログラムの人員配置について 9. 公開講座人員配置について 10. ほい大健康プログラム学生ボランティア説明会について
3	令和5年 9月7日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康教室について 2. 公開講座について 3. 公開講座の役割分担について 4. 公開講座参加者アンケートについて 5. URとのほい大プログラムについて 6. いすみ市とのほい大プログラムについて 7. ほい大プログラム参加者アンケートについて 8. ほい大プログラム 実施マニュアルについて
4	令和5年 12月18日	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほい大健康プログラム（URといすみ市）のアンケート結果 2. 公開講座のアンケート結果

		3. 委員会活動に関する改善策について社会貢献委員会の規程について
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
1	令和5年 10月8日	公開講座（対面） 看護学科 田口 智恵美「よい眠りを誘って健康寿命を延ばそう！」 栄養学科 加瀬 政彦「脳から考える心と身体の健康」
2	令和5年 10月14日	UR とのほい大健康プログラム 第1回 看護学科・金丸友「いきいき暮らせるからだをつくろう」 リハビリテーション学科作業療法学専攻・須藤崇行「いつまでも健康に暮らすために～転倒予防のための環境整備～」
3	令和5年 10月22日	公開講座（オンライン） 理学療法学専攻 稲垣 武「“呼吸”のリハビリ ～からだを動かして健康増進～」 歯科衛生学科 佐々木 みづほ「健康寿命の延伸はお口の健康から～口腔機能の衰えを予防しましょう～」
4	令和5年 10月28日	いすみ市とのほい大健康プログラム第1回 看護学科・松浦めぐみ「健康的な生活づくり 今の生活を維持していくためには」 歯科衛生学科・酒巻裕之・「お口の健康, 口腔機能の向上」
5	令和5年 11月11日	UR とのほい大健康プログラム 第2回 歯科衛生学科・鈴鹿祐子「お口の体操を始めましょう」 栄養学科・田中佑季「バランスの良い食事をとりましょう」
6	令和5年 11月25日	いすみ市とのほい大健康プログラム第2回 栄養学科・鈴木亜夕帆「健康的な食事」 理学療法学専攻・江戸優裕「運動と認知症予防」
7	令和5年 12月2日	UR とのほい大健康プログラム 第3回 理学療法学専攻・大谷拓哉「運動器の元気度チェックと脳と身体の同時エクササイズ」 看護学科・東辻朝彦「健康的な生活を続けるために」
8	令和6年 1月27日	幕張キャンパスでのほい大健康プログラム第1回 歯科衛生学科・大川由一「お口の老化（口腔機能の低下）を予防しよう！」 作業療法学専攻・成田悠哉「認知能力を保つ生活の工夫」
9	令和6年 2月17日	幕張キャンパスでのほい大健康プログラム第2回 看護学科・成玉恵「いきいき暮らせる体をつくろう」 栄養学科・平岡真実「食と認知症予防について」
10	令和6年 3月12日	社会貢献委員会 FD 社会貢献事業の取組まとめと今後の展開について
H	評価（成果および改善事項）	
①	将来構想検討委員会と共同開催の「社会貢献事業の取組まとめと今後の展開について」FD/SD（レベル1）を3月12日に開催し全学科の教員でグループディスカッションを実施できた。	
②	「人生100年時代を元気で乗り切るために」をメインテーマとし、看護、栄養、リハビリ（理学）、歯科衛生の4学科の講師により、対面（1回目）と、オンライン（2回目）の公開講座を開催した。1回目は大学祭と同日開催で101名、2回目 Zoom ウェビナーで46名の参加があった。アンケート結果は肯定的な回答が多く目標を達成できた。	
③	公開講座は対面とオンラインを別々の日に行っているため、次年度は参加者の希望に合わせて対面でもオンラインでも参加できるハイブリッド開催の方向とした。今年度は県民日より千葉日報での告知が叶わず事前申し込みが少なかつたため、申込期限の延長や当日参加の対応をした。公開講座の広報については今後の課題となった。	
④	介護予防を目的とした高齢者対象の「ほい大健康プログラム」を千葉市内UR団地で3回、いすみ市で2回、幕張キャンパスで2回実施した。述べ68名の方に参加いただき、アンケート結果は満足度が高く目標を達	

成できた.	
I	次年度の方策
① 社会貢献に関するFD/SDを1回開催する。 ② 研究成果を踏まえたテーマを設定し公開講座を来場型とオンライン型のハイブリッド形式で1回企画・実施する。開催を年2回から1回に変更するため、参加者アンケート結果等から開催回数を評価する。 ③ ぽい大健康プログラムは学内の実施体制を整備し、プログラムの効果判定や普及について運用方法を検討する。いすみ市においては、学生の学びの場として活用して欲しいとの要望をいただいているため、学生参加を継続していく。	

3) 管理運営部門委員会群

(1) 自己点検・評価委員会

A	委員長名	平岡 真実・教授 (栄養学科)
B	委員名	佐藤 紀子・学部長 細山田 康恵・学生部長 石井 邦子・図書館長 酒巻 裕之・歯科診療室長 (兼) 歯科衛生学科長 河部 房子・看護学科長 岡村 太郎・リハビリテーション学科長 堀本 佳誉・理学療法学専攻科長 山本 達也・共通教育運営会議長 江口 洋・事務局長
C	部会名と部会員名	【自己点検・評価実施推進部会】 部会長：江戸 優裕・講師 (リハビリテーション学科理学療法学専攻) 部会員：雨宮 有子・准教授 (看護学科) 荒井 裕介・准教授 (栄養学科) 栗原 涼子・助教 (歯科衛生学科) 成田 悠哉・助教 (リハビリテーション学科作業療法学専攻) 【認証評価部会】 部会長：石川 裕子・教授 (歯科衛生学科) 部会員：佐伯 恭子・講師 (看護学科) 菊池 裕・教授 (栄養学科) 大谷 拓哉・准教授 (リハビリテーション学科理学療法学専攻) 有川 真弓・准教授 (リハビリテーション学科作業療法学専攻) 土屋 智和・副主査 (事務局企画運営課) 【教育研究年報作成部会】 部会長：金澤 匠・准教授 (栄養学科) 部会員：成 玉恵・講師 (看護学科) 中山 静和・助教 (看護学科) 荒川 真・准教授 (歯科衛生学科) 江戸 優裕・講師 (リハビリテーション学科理学療法学専攻) 松尾 真輔・講師 (リハビリテーション学科作業療法学専攻) 土屋 智和・副主査 (事務局企画運営課) 【IR部会】 部会長：佐久間 貴士・講師 (広報委員会) 部会員：平岡 真実・教授 (自己点検・評価委員会) 浅井 美千代・教授 (入試改革検討委員会) 渡辺 優奈・講師 (広報委員会) 室井 大佑・准教授 (教務・進路支援委員会) 松尾 真輔・講師 (進路・学生・総務) 土屋 智和・副主査 (事務局企画運営課)

		芳野 真美子・副主査（事務局学生支援課）
D	所掌事項	<p>【自己点検・評価委員会】</p> <ol style="list-style-type: none"> 自己点検・評価の基本方針及び実施計画等の策定に関する事項 自己点検・評価の項目の設定に関する事項 自己点検・評価の実施に関する事項 自己点検・評価に関する報告書の作成及び公表に関する事項 認証評価に関する事項 その他自己点検・評価に関する事項 <p>【教育研究年報作成部会】</p> <ol style="list-style-type: none"> 教育研究年報に関する事項 <p>【自己点検・評価実施推進部会】</p> <ol style="list-style-type: none"> 自己点検・評価の実実施計画等の策定に関する事項 自己点検・評価の項目の設定に関する事項 自己点検・評価の実施に関する事項 <p>【認証評価部会】</p> <ol style="list-style-type: none"> 認証評価に関する事項 <p>【IR 部会】</p> <ol style="list-style-type: none"> 自己点検・評価に関する情報収集、蓄積と分析に関する事項
E	年度当初の重点課題	
	<p>①「千葉県立保健医療大学内部質保証の方針」に則り、4つの部会と連携して学内の円滑な自己点検・評価を推進する。</p> <p>②大学機関別認証評価の評価報告書において指摘された内容への対応を検討・実施する。</p> <p>③IRの機能を促進する。</p> <p>④大学組織の定期的検証を行い、必要に応じて組織の見直しをする体制を構築する。</p>	
F	会議記録（含む部会の開催）	
	開催日	主な議題
1	令和5年 4月24日	・委員会活動目標について
2	令和5年 10月30日	・卒業生調査（中間報告）について
3	令和5年 12月14日 （メール審議）	・教育研究年報作成スケジュール変更について
4	令和6年 1月29日	・委員会の活動達成状況点検・評価表について
5	令和6年 3月25日	<ul style="list-style-type: none"> ・R5年度委員会活動達成状況点検・評価報告書について ・委員会活動達成状況点検・評価表の書式変更について ・卒業生調査最終報告について
	開催日	自己点検・評価専門部会の主な議題【教育研究年報作成部会】
1	令和5年 11月9日～20日 （メール審議）	・令和5年度版教育研究年報作成スケジュールの変更について
	開催日	自己点検・評価専門部会の主な議題【認証評価部会】
1	令和6年 1月23日 （teams内連絡）	・2022年認証評価時に指摘された「改善を要する点」と「進展が望まれる点」について
2	令和6年 3月4日	・認証評価後の進捗状況の取りまとめについて

	(teams 内審議)	
開催日		自己点検・評価専門部会の主な議題【自己点検・評価実施推進部会】
1	令和5年 12月14日	<ul style="list-style-type: none"> ・業務内容の確認 ・スケジュールと役割分担の検討 ・「委員会活動達成状況点検・評価表」の記載方法と評価基準の確認
2	令和6年 2月13日 (メール審議)	<ul style="list-style-type: none"> ・スケジュールや評価方法等の最終確認
3	令和6年 3月11日 (メール審議)	<ul style="list-style-type: none"> ・「委員会活動達成状況点検・評価報告書」の最終確認
4	令和6年 3月13日 (メール審議)	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度に向けた改善点の検討
開催日		自己点検・評価専門部会の主な議題【IR部会】
1	令和5年 7月3日	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の活動計画について ・卒業生調査について
2	令和5年 8月24日	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業生調査の取り扱いについて ・INDEX 作業リーダーについて
3	令和5年 9月26日	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業生調査の県からの照会事項と回答について ・卒業生調査の取り組み報告会への報告について ・卒業生調査の中間報告の方向性(内容)について ・卒業生調査の記述式回答にかかる負担について
4	令和5年 10月23日	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業生調査の中間報告(案)について ・卒業時調査の記述式回答に係る資料の体裁について ・文部科学省の調査について
5	令和5年 11月14日 (Teams開催)	<ul style="list-style-type: none"> ・本学独自の卒業時調査について ・卒業生調査について ・1年生調査と上級生調査について
6	令和5年 12月27日 (Teams開催)	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業生調査調査票集計結果について (調査票集計結果の整合性の確認) ・令和5年度卒業時調査の調査方法について
7	令和6年 1月26日 (Teams開催)	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業生調査について ・卒業時調査の実施について
G	行事開催記録	
開催日		行事名称及び行事の内容
		なし
H	評価(成果および改善事項)	
<p>①・令和4年度の「委員会活動達成状況点検・評価報告書」を学内・学外公開した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度の「委員会活動達成状況点検・評価報告書」の作成準備を進め、例年通り3月下旬に完成した。 ・評価表記入手引きの改善や評価結果一覧表の追加をした。 ・令和4年度教育研究年報の発行を予定通り年内に行った。令和5年度年報は、年度内に執筆依頼をすることで、執筆者の退職や異動に伴う対応をスムーズに行えるよう、スケジュールを前倒しした。 <p>②・認証評価で指摘のあった項目について、対応する部署から本年度の進捗状況を調査した。</p> <p>③・卒業時調査結果を6月に報告した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業生調査の中間報告書を10月に提出し、R6年3月に最終報告を行った。 		

<ul style="list-style-type: none"> IR 部会で IR コンソーシアムのデータ活用では検討を進めているが、分析結果提示には至らなかった。各委員会が調査した結果などのデータについての INDEX 作業は継続して実施した。 教育研究年報の学科・専攻の量的データの集約を、教育研究年報作成部会にて開始し、今後のデータ活用への土台を構築できた。 <p>④・重点施策の担当項目である大学組織に関する項目の再検討は実施しなかった。</p>
I 次年度の方策
<p>①「千葉県立保健医療大学内部質保証の方針」に則り、4つの部会と連携して学内の円滑な自己点検・評価を推進する。各委員会の所掌の確認や連携の検討を継続する。</p> <p>②大学機関別認証評価の評価報告書において指摘された内容への対応を進める。</p> <p>③IR の機能は、現体制では量的データの集約にとどまっているため、集約データの活用するためのシステム検討を行う。</p> <p>④大学組織の定期的検証を行い、必要に応じて組織の見直しをする体制を構築する。</p>

(2) 将来構想検討委員会

A	委員長名 副委員長名	河部 房子・教授（看護学科長） 平岡 真実・教授（栄養学科長，自己点検・評価委員長）
B	委員長名	佐藤 紀子・教授（看護学科，学部長） 石井 邦子・教授（看護学科，図書館長） 細山田 康恵・教授（栄養学科，学生部長，教育運営会議長） 大川 由一・教授（歯科衛生学科，副学長，歯科診療室長） 酒巻 裕之・教授（歯科衛生学科長） 岡村 太郎・教授（リハビリテーション学科長） 堀本 佳誉・教授（リハビリテーション学科理学療法学専攻長） 山本 達也・教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻長，共通教育運営会議長） 江口 洋（事務局長）
C	部会名と 部会員名	大学院検討ワーキング（R5.7～R6.1） 部会長：河部 房子・教授（看護学科長） 部会員：市原 真徳・教授（看護学科） 木内 千晶・教授（看護学科） 平岡 真実・教授（栄養学科長） 金澤 匠・准教授（栄養学科） 酒巻 裕之・教授（歯科衛生学科長） 荒川 真・准教授（歯科衛生学科） 岡村 太郎・教授（リハビリテーション学科長） 堀本 佳誉・教授（リハビリテーション学科理学療法学専攻長） 大谷 拓也・教授（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 藤田 佳男・教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻） 江口 洋（事務局長）
D	所掌事項	1 キャンパス統合の検討に関する事項 2 大学院設置の検討に関する事項 3 公立大学法人化等の検討に関する事項 4 地域貢献の拠点づくりの検討に関する事項 5 その他大学の発展・充実のための将来構想に関する事項
E	年度当初の重点課題	
<p>①千葉県立保健医療大学の将来に向けた重点施策の推進をはかる体制を整備する</p> <p>②社会貢献・シンクタンク機能の強化に向けた取り組みを推進する</p> <p>③保健医療の向上への貢献を推進するために本学に求められる機能充実の方策を検討する</p> <p>④自律的な大学運営に向けた検討を行い、本学の方針を明確にする</p>		

F		
会議記録（含む部会の開催）		
開催日	主な議題	
1	令和5年 4月24日	1 今年度の委員会活動目標について 2 重点施策年度目標の推進体制と検証作業について
2	令和5年 5月31日	1 将来構想検討委員会所掌の重点施策項目目標と評価指標について 2 県取組報告会とFDの実施について
3	令和5年 6月26日	1 大学院検討ワーキングの設置について
4	令和5年 8月28日	1 大学院検討ワーキングの検討状況について
5	令和5年 9月25日	1 令和5年度 保健医療大学取組み報告会プログラムについて
6	令和5年 10月30日	1 令和5年度 保健医療大学取組み報告会プログラムについて
7	令和5年 12月18日	1 令和6年度以降の重点施策について 2 教員懇談会開催について
8	令和6年 1月29日	1 令和6年度以降の重点施策について 2 委員会活動達成状況点検・評価表について 3 教員懇談会開催について
9	令和6年 2月26日	1 令和6年度以降の重点施策について 2 教員懇談会プログラムについて
10	令和6年 3月25日	1 令和5年度重点施策評価結果について 2 令和6年度以降の重点施策項目目標について 3 FDアンケート結果について
G		
行事開催記録		
開催日	行事名称及び行事の内容	
1	令和5年 7月24日	1 ワーキング設置の趣旨および今後の進め方について
2	令和5年 8月22日	1 大学院設置に関する各学科・専攻の検討結果について
3	令和5年 9月12日	1 大学院設置について（骨子の検討）
4	令和5年 10月2日	1 大学院設置に関する検討結果のとりまとめ
5	令和5年 11月2日	令和5年度 保健医療大学取組報告会 会場：千葉県庁本庁舎1階多目的ホール 出席者：健康福祉部14名、保健医療大学14名 内容： 1 大学の概要及びこれまでの取組と成果 2 主な取組の紹介 （1）研究的取組 ・新型コロナウイルスが千葉県の高齢者に与えた影響について リハビリテーション学科理学療法専攻 室井 大佑 （2）専門職の質向上を図る取組 ・大学独自の取組：地域包括ケアを担う看護職に対する実践能力向上プログラムの開発（看護学科長 河部房子） ・県との連携取組：歯科衛生士のリカレント教育の実践

		<p>(歯科衛生学科長 酒巻裕之)</p> <p>・職能団体との連携取組：作業療法士のリカレント教育の実践</p> <p>(リハビリテーション学科作業療法学専攻 有川真弓)</p> <p>3 今後に向けて (意見交換)</p>
6	令和6年 3月12日	<p>将来構想にかかる情報共有・意見交換会</p> <p>日時：令和6年3月12日(月)16:30~18:00</p> <p>会場：本学B111講義室</p> <p>対象：全教職員(62名参加)</p> <p>内容：</p> <p>1) 趣旨説明</p> <p>2) 社会貢献事業の取組まとめと今後の展開について(社会貢献委員長 木内千晶)</p> <p>ほい大健康プログラムの経緯と現状報告(佐藤紀子学部長)、</p> <p>グループディスカッション</p> <p>3) 令和6年度以降の重点施策・到達目標について(将来構想検討委員長 河部房子)</p> <p>4) 大学院設置・法人化・キャンパス統合にかかるこれまでの経緯および今後の方向性について</p> <p>事務局長 江口 洋</p> <p>5) 質疑応答・意見交換</p>
H	評価(成果および改善事項)	
	<ul style="list-style-type: none"> 重点施策の目標管理については、計画どおり4月に今年度の重点施策の目標・評価の点検のための体制を整備し、6月の全学運営会議で承認、達成状況については委員会で検証し3月の運営会議で報告することができた。また、令和6年度以降の重点施策についても、これまでの評価をふまえて検討し、設定することができた。なお新たな重点施策については、年度末に開催した「将来構想にかかる情報共有・意見交換会」にて教員に周知した。 昨年度に引き続き開催した教職員との情報共有会は、今年度は社会貢献委員会との合同開催として実施した。アンケート結果から、ディスカッションを通して、県立大学の教職員として社会貢献事業への関心を高め、より理解が深まったことが確認できた。また、取組報告会において本学の取組事業や研究結果に関する報告に関連し、活発な意見交換ができた。このことは、本学のシンクタンク機能の役割を認識してもらう上で意義が大きかったといえる。 将来構想に関わる検討として、今年度新たに大学院設置に関する検討を始めることができた。今後、県健康福祉部や執行部との連携をはかりながら、適宜情報収集を行い、必要な検討を進めていく必要がある。 	
I	次年度の方策	
	<ul style="list-style-type: none"> 令和6年度より、新たな重点施策に基づいた取組のスタートとなる。関連する委員会や学科専攻における重点施策推進にむけ、目標設定と評価が適切に進められるよう目標管理を行う。 令和6年度には「本学の機能強化に向けた調査検討事業」が開始される。本事業の進捗について、適宜情報収集を行いながら、必要に応じて教職員との情報共有会を開催し、本学の将来構想に関わる意見交換の場とすることも検討する必要がある。 県への取組報告会は、大学の役割や意義を理解していただく上で継続的に実施していくことが重要である。より有意義な意見交換の場となるよう、開催時間や場所などを検討していく。 	

(3) 総務・企画委員会

A	委員長名	石川 裕子・教授(歯科衛生学科)
B	委員名	<p>大川 由一・教授(歯科衛生学科・副学長)</p> <p>北川 良子・准教授(看護学科)</p> <p>荒井 裕介・准教授(栄養学科)</p> <p>堀本 佳誉・教授(リハビリテーション学科理学療法学専攻)</p> <p>松尾 真輔・講師(リハビリテーション学科作業療法学専攻)</p>

		山本 達也・教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻・共通教育運営会議）
C	部会名と 部会員名	なし
D	所掌事項	1 学内規程に関する事項 2 教育研究の予算配分・執行・決算に関する事項 3 教育及び研究施設に関する事項 4 他の委員会の所掌に属しない事項 5 その他学長が付託した事項に関する事項
E	年度当初の重点課題	
	<p>①令和5年度の学内環境の整備については、各学科専攻に対して行った意向調査に基づき優先順位をつけ順次整備する。</p> <p>②令和6年度の予算請求は各学科専攻に対して行った意向調査及び長期整備計画に基づき行う。</p> <p>③各教室の机・椅子などは長期計画を立てて整備する。</p>	
F	会議記録（含む部会の開催）	
	開催日	主な議題
1	令和5年 4月24日	1 令和5年度委員会の開催日程及び開催方法について 2 大講義室プロジェクターについて 3 令和5年度の総務・企画委員会の目標について 4 令和5年度の全学整備備品の購入優先順位決定について 5 令和6年度当初予算要求に向けた照会の開始について 6 令和5年度共同研究費の余りについて 7 令和5年度委員会経費について
2	令和5年 5月19日	1 総務・企画委員会に関わる重点施策の目標設定について 2 委員会経費の決定について
3	令和5年 6月12日	1 令和6年度当初予算（教育用備品）について
4	令和5年 7月10日	1 令和6年度当初予算について 2 令和5年度研究費余剰金について
5	令和5年 10月16日	1 令和5年度研究費予算余剰金（需用費）について
6	令和5年 11月9日	1 令和5年度研究費予算余剰金（需用費）について
7	令和5年 12月11日	1 委員会活動達成状況・評価表の作成について 2 学内委員会規定の改正について
8	令和6年 2月19日	1 千葉県立保健医療大学における学生等の個人情報保護方針の改正について 2 学内委員会規定の新規制定について 3 学内委員会規定の改正について
9	令和6年 3月11日	1 教育・研究予算の配分について
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
		なし
H	評価（成果および改善事項）	
	<p>・全学整備品については、本年度は280万円の予算が決定されたことから、令和5年度第1回委員会にて優先順位を決定し、当該順位に基づき備品を整備することができた。</p> <p>・全学整備品及び各学科・専攻等の備品についての令和6年度当初予算請求は、令和5年度第1回委員会にて学内照会について承認された後、令和5年5月9日に学内へ依頼を行った。その他、回答を取りまとめ、第3回・</p>	

第4回委員会で審議し、委員会として当初予算案を決定することができた。

- ・昨年度より審議されていた幕張キャンパス大講義室のプロジェクターについては、昨年度の委員会では令和5年度に修繕することになっていたが、当初予算で計上されてなく、補正予算請求での対応が難しいことから、緊急的対応として令和5年9月末に操作卓の交換, HDMI 対応, 操作卓にスクリーンスイッチの設置など行った。

I	次年度の方策
	① 優先順位に基づく学内環境（教室の机・椅子，空調設備等）の整備 ② 令和7年度に向けた予算要求 ③ 大講義室のプロジェクターの整備

(4) 広報委員会

A	委員長名 副委員長名	酒巻 裕之・教授（歯科衛生学科） 谷内 洋子・教授（栄養学科）
B	委員名	今井 宏美・准教授，杉本 健太郎・講師（看護学科） 谷内 洋子・教授，渡辺 優奈・講師（栄養学科） 大川 由一・教授，佐々木 みづほ・准教授（歯科衛生学科） 稲垣 武・講師（リハビリテーション学科 理学療法学専攻） 藤田 佳男・教授（リハビリテーション学科 作業療法学専攻） 井上 裕光，佐久間 貴士（共通教育運営会議） 土屋 智和，廣田 龍人（事務局担当）
C	部会名と 部会員名	なし
D	所掌事項	1 印刷物を活用した広報に関する事項（大学案内等入試広報を除く。） 2 ホームページなど情報・通信システムを活用した広報に関する事項 3 その他大学の広報に関する事項
E	年度当初の重点課題	
	1 オープンキャンパスの来場者を増加する。 2 受験情報サイト，ホームページでの広報の充実のための方策と予算を検討する。 3 ホームページと広報誌による研究活動の情報を発信する。	
F	会議・活動記録（含む部会の開催）等	
	開催日	主な議題
1	令和5年 4月17日	1 目標について 2 スケジュール 3 予算 4 オープンキャンパス実施方法について 5 大学説明会資料について
2	令和5年 5月15日	1 オープンキャンパスに関すること ① 各学科専攻のコンテンツについて ② 開催方法について ③ 学生バイトの人数について
3	令和5年 6月19日	1 オープンキャンパスに関すること ① 当日職員配置について ② 全体説明用動画について ③ 当日マニュアルについて ④ 来場者アンケートの項目と実施方法について ⑤ 教職員・学制アンケートの項目と実施方法 2 令和6年予算案に関すること
4	令和5年	1 オープンキャンパスの振返りに関する

	9月11日	2 広報誌の編集について 3 大学案内の編集について 4 ホームページに掲載する業務のスケジュールについて
5	令和5年 10月16日	1 広報誌の編集について 2 大学案内の編集について 3 ホームページ掲載資料作成用ガントチャートについて
6	令和5年 11月20日	1 大学案内の編集について 2 令和5年度広報誌の編集について 3 令和6年度発行大学案内の編集について
7	令和5年 12月19日	1 大学案内の編集について 2 広報誌の編集について 3 YouTube 発信について 4 委員会規程の改正について
8	令和6年 1月22日	1 大学案内の編集について 2 広報誌の編集について 3 YouTube 動画掲載の手続きについて 4 委員会規程の改正について 5 活動達成状況点検・評価について
9	令和6年 2月19日	1 広報誌の編集について 2 YouTube 運用規程について 3 広報委員会規程について 4 活動達成状況点検・評価について
10	令和6年 3月18日	1 大学案内 2026 編集方針 2 R6 広報誌編集案 3 新入生アンケートについて 4 オープンキャンパスについて
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
	令和5年 7月8, 9日	オープンキャンパス
H	評価（成果および改善事項）	
	<p>オープンキャンパスでは、新たにWeb予約による事前予約の方法を導入し、手続きの円滑化を図るとともに、スケジュールを見直しによる来場者数の増加に取り組んだ。来場者数は、全体で1,436名、内訳は看護学科811名、栄養学科279名、歯科衛生学科68名、理学療法学専攻178名、作業療法学専攻100名であった。前年度比約91.7%の結果であった。</p> <p>ホームページの広報について、歯科診療室の写真の変更など、古い情報を新しい内容に更新するとともに、令和5年度新たに着手した内容として、デュアスロン国際大会に入賞した学生へのインタビュー内容を新たに掲載することができた。また、SNSにおいて、オープンキャンパスや公開講座などの行事、専攻の活動紹介などの情報発信は46件（2024年1月現在）に上り、精力的に広報活動を展開することができた。</p> <p>ホームページ更新のためには、教務や入学試験、オープンキャンパス、大学案内編集、公開講座などの準備等に係ることから、適切な時期に確実に情報更新できるよう、それぞれの所掌事項に関するガントチャートの作成に着手した。</p> <p>広報誌編集について、本学の研究受託体制の整備を要すると考えられることから、本年度創刊の広報誌は、大学案内を補完する大学の活動報告を主とする内容として、2024年3月発行を目標に編集作業を行っている。</p>	
I	次年度の方策	
	来場者の予約時間や動線を再検討し、来場者の増加を図り、また待ち時間を少なくして過ごすことができるように工夫する。	

ホームページの更新を継続する。
 ホームページ更新に係る所掌の計画を明確にして、確実な更新ができるようなシステムを構築する。
 大学案内、広報誌を編集・発行する。
 「ゆめナビ」等の受験情報サイトに、大学の情報発信について検討する。

(5) 衛生委員会

A	委員長名	統括安全衛生管理者：龍野 一郎・学長
B	委員名	荒井 裕介・准教授（栄養学科） 荒川 真・准教授（幕張衛生管理者・歯科衛生学科） 山本 達也・教授（仁戸名衛生管理者・リハビリテーション学科作業療法学専攻） 宗雪 正美先生（産業医・自由が丘クリニックソフィア院長）
C	部会名と 部会員名	なし
D	所掌事項	1 労働者の健康障害を防止するための基本となるべき対策に関すること 2 労働者の健康の保持増進を図るための基本となるべき対策に関すること 3 労働災害の原因及び再発防止対策で、衛生に係るものに関すること 4 上記に掲げるもののほか、労働者の健康障害の防止及び健康の保持増進に関する こと
E	年度当初の重点課題	
・所掌事項の達成		
F	会議記録（含む部会の開催）	
	開催日	主な議題
1	令和5年 4月21日～5月8日	1 開催日程及び開催方式について 2 産業医による職場巡視結果の報告及び次回の日程について 3 テレワーク時の推奨環境（照度）について
2	令和5年 5月31日	1 産業医による職場巡視日程について 2 その他報告（テレワーク時の推奨環境の周知，環境測定結果の日程）
3	令和5年 6月23日～30日	1 産業医による職場巡視結果の報告及び次回の日程について 2 その他報告（産業医による面接指導）
4	令和5年 8月2日～10日	1 熱中症の予防について 2 その他報告（テレワーク・時差出勤，夏季休暇の取得促進）
5	令和5年 8月16日	1 職場巡視結果の報告 2 新型コロナウイルス感染症について
6	令和5年 9月25日	1 全国労働衛生週間について 2 衛生管理者向け説明会について 3 空気環境測定及び作業環境測定について 4 産業医による職場巡視日程について
7	令和5年 10月26日	1 産業医による職場巡視結果の報告及び次回の日程について 2 インフルエンザについて
8	令和5年 12月25日	1 産業医による職場巡視結果の報告及び次回の日程について
9	令和6年 2月20日	1 産業医による職場巡視結果の報告及び次回の日程について 2 新たな化学物質規制について
10	令和6年 3月8日	1 健康診断未受診者について 2 新年度の体制について

G		行事開催記録
開催日		行事名称及び行事の内容
1	令和5年 7月14日	地方職員共済組合千葉県支部主催 メンタルヘルスケア研修
2	令和5年 8月7日～25日	県職員対象 ストレスチェック
H		評価（成果および改善事項）
		・学外産業医 宗雪 正美先生（自由が丘クリニックソフィア院長）による職場巡視（環境測定）を実施した。
I		次年度の方策
		学内の学生・教職員の労働衛生環境の保持・改善に努め、良好な職場環境を維持する。特に、メンタル対策、各種ハラスメント対策を強化して安心・安全な環境を作る。

(6) 危機管理委員会

A	委員長名 副委員長名	春日 広美・教授（看護学科）
B	委員名	北川 良子・准教授（看護学科） 菊池 裕・教授（栄養学科） 細山田 康恵・教授（栄養学科） 大川 由一・教授（歯科衛生学科） 佐久間 貴士・講師（歯科衛生学科） 室井 大佑・准教授（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 江戸 優裕・講師（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 藤田 佳男・教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻） 松尾 真輔・講師（リハビリテーション学科作業療法学専攻） 井上 裕光・教授（栄養学科，ネットワーク管理者） 町田 昌実（企画運営課長）
C	部会名と 部会員名	なし
D	所掌事項	1 大学の危機管理に関する重要な事項 2 危機管理マニュアルの作成・見直し及び周知に関する事項 3 情報システム管理室における以下の業務に関する事項 ① 学内情報システム（情報ネットワークシステム，教務・入試システム，図書館システム）の運用・管理 ② 学生及び教員の情報システム活用の支援 情報セキュリティ対策
E		年度当初の重点課題
		1. 「危機管理の方針」（2022年度に「危機管理の手引き」を改め）を策定する。 2. 「危機管理の方針」に則り，関連する委員会における危機管理マニュアルの検討を行う。 3. 大学における危機に対応した事業継続の方針を明確にする。
F		会議記録（含む部会の開催）
開催日		主な議題
1	令和5年 5月15日	1. 委員会規程と危機管理規則の確認 2. 令和5年度の活動目標の検討 3. 令和5年度幕張キャンパス避難訓練について 4. 防災情報の共有の方法について（防災 Teams 設置の検討） 5. 防災物品の購入候補について 6. 令和5年度の委員会開催日の確認 7. 危機管理の方針（案）について 8. 構内の備蓄品一覧，避難所指定の確認の報告

		9. 5月11日に発生した千葉県南部地震の学内者における影響の報告
2	令和5年 6月12日	<ol style="list-style-type: none"> 幕張キャンパス防災訓練の事後アンケートの検討 令和5年度の委員会開催日の調整 委員会予算の検討 危機管理の方針（案）の検討 災害時連絡システムの検討および防災情報の Teams などでの共有の方法について 危機管理委員会の Teams の作成の必要性の検討 幕張キャンパス防災訓練マニュアルの確認 防災物品の購入候補の確認
3	令和5年 7月10日	<ol style="list-style-type: none"> 危機管理の方針（案）の検討 令和5年度後期の委員会開催日の調整 委員長不在時の代理者の選出 災害時連絡システムおよび防災情報の共有方法 <ul style="list-style-type: none"> 各学科の Teams 利用，電話連絡網利用に関する意見の報告 ChatLuck 利用についての検討 幕張キャンパス防災訓練の事後アンケート結果
4	令和5年 9月11日	<ol style="list-style-type: none"> 仁戸名キャンパス防災訓練マニュアルの検討 災害時連絡システムおよび防災情報の共有方法 各学科の Teams 利用，電話連絡網利用に関する意見の報告 <ul style="list-style-type: none"> ChatLuck 利用についての検討（継続審議） 危機管理の方針の今後の運用についての報告 令和5年度後期の委員会開催日の確認
5	令和5年 10月23日	<ol style="list-style-type: none"> 災害時連絡システムおよび防災情報の共有方法 Teams 利用，電話連絡網利用に関する意見交換 危機管理委員会が対応する危機管理マニュアルについて 地震・津波を想定した災害避難訓練実施の必要性についての検討 仁戸名キャンパス防災訓練の事後アンケートについて
6	令和5年 11月13日	<ol style="list-style-type: none"> 災害時連絡システムおよび防災情報の共有方法 <ul style="list-style-type: none"> Teams 利用，電話連絡網利用に関する意見交換（継続審議） 危機管理委員会が対応する危機管理対応マニュアル等の点検 大学防犯カメラ設置・運用基準 各委員会の危機管理に関連する規程，マニュアル等点検の状況の報告
7	令和5年 12月11日	<ol style="list-style-type: none"> 災害時連絡システムおよび防災情報の共有方法 <ul style="list-style-type: none"> Teams 利用，電話連絡網利用に関する検討（継続審議） 各学科長の負担について 各学科の意向 「危機管理の方針」FDの日程について 仁戸名キャンパス防災訓練の事後アンケート結果の報告 危機管理委員会が対応する危機管理対応マニュアル等の点検の報告
8	令和6年 1月9日	<ol style="list-style-type: none"> 災害時連絡システムおよび防災情報の共有方法 <ul style="list-style-type: none"> 委員における ChatLuck の試験的ダウンロードの状況報告 Teams 利用，電話連絡網利用について（継続審議） 各学科長，各学科の意向（歯科衛生学科，作業療法学科） 危機管理委員会規程の一部改正について 「危機管理の方針」FDの日程についての報告 危機管理委員会が対応する危機管理対応マニュアル等の点検の報告 各委員会が対応する危機管理対応マニュアル等の点検の結果の報告

		6. 防犯カメラの管理運用について（業者からの回答の報告）
9	令和6年 2月13日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教員における災害時緊急連絡システムの決定 <ul style="list-style-type: none"> ・緊急時の第1連絡方法として、ChatLuck または Teams を利用すること ・各学科の意向確認の結果と採決 2. 危機管理委員会規程の一部改正について 3. リハビリテーション学科の委員を2名から1名とすることについて 4. Jアラート対応マニュアルの所掌について 5. 危機管理委員会自己点検評価について 6. 会議の開催をオンラインとすることについての検討 7. 各委員会が対応する危機管理対応マニュアル等の点検の結果の報告 8. 自然災害時の学生安否確認に関する関連委員会との情報共有について
10	令和6年 3月11日	<ol style="list-style-type: none"> 1. ChatLuck の運用について（決定後、大学運営会議で審議予定） 2. 来年度の取組予定について <ul style="list-style-type: none"> ・ChatLuck 利用の準備 ・災害対応（危機対策）初動マニュアルの見直し ・危機管理に関する規程、規則、マニュアルの整合性（変更、統合、削除を含む） ・地震発生シナリオでの幕張キャンパス防災訓練 ・Jアラート対応マニュアルの見直し 3. 危機管理の方針FDの参加状況の報告 4. 各委員会が対応する危機管理対応マニュアル等の点検についての報告
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
1	令和5年 6月21日	幕張キャンパス防災訓練
2	令和5年 11月15日	仁戸名キャンパス防災訓練
3	令和6年 2月20日～3月1日	FD・SD 開催「危機管理の方針」（オンデマンド）
H	評価（成果および改善事項）	
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「危機管理の方針」を完成させ、大学運営会議、評議会の承認を得て、オンデマンドにてFD・SDを開催（2月20日～3月1日）した。 2. 「危機管理の方針」に合わせ、危機管理委員会が対応する危機管理マニュアルを含む、大学内の危機管理に係る規則等の一覧に従い、各委員会が所掌するマニュアルを、各委員会に所属している危機管理委員に毎委員会時に変更や修正について確認した。危機管理委員会が所掌するマニュアルに関する検討は下記のとおり。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 「防犯カメラ設置・運用基準」について、必要時、専用の映像システムで映像を閲覧できること、常時、学内で映像を確認するものではないことを確認した。 2) Jアラート対応マニュアルについて、学内の所掌が明確ではなかったため、本委員会の所掌であることを確認した。 3) 災害対応（危機対応）初動マニュアルは、対応の具体について、県庁のBCPとのずれがあり、次年度、すり合わせが必要であることを確認した。 4) 緊急時連絡網について、全教員の個人情報保護の観点および災害時の通信手段としての回線の脆弱性から、電話連絡は第2連絡方法とし、学科ごとに組織・管理した。また、第1連絡方法はChatLuckと決定した。 3. その他 <ol style="list-style-type: none"> 1) 消防避難訓練は恒例開催として、マニュアルに則り幕張／仁戸名キャンパスで実施した。事後アンケートから、地震、津波災害に関する訓練の必要性が寄せられた。 2) 次年度の委員会および委員の構成について、学内情報システムに関して（D所掌事項の3）は、別途、委員会が設置されたため、本委員会の所掌事項から削除した。委員構成では、副学長を削除し、リハビリテーシ 	

ョン学科は各専攻1名へと変更した。また、全学科とも委員2名のうちの1名は講師以上とした。これらを委員会規程へ反映した。

I	次年度の方策
	1. 新たに緊急時連絡手段とした ChatLuck の運用案を作成し、また、教職員における利用の準備をすすめ、早期にこれを利用しての伝達訓練を行って課題点の洗い出しとその解決をはかる。 2. 災害対応（危機対応）初動マニュアルとBCPのすり合わせを行い、一貫したものとする。 3. 例年の幕張キャンパスの“防災訓練”で、地震発生のシナリオを追加して、想定した訓練を行う。 4. Jアラート対応マニュアルの見直しを行う。

(7) 人事委員会

A	委員長名	神田 みなみ・教授（学長指名） 岡村 太郎・教授（リハビリテーション学科長・作業療法学専攻長）
B	委員名	佐藤 紀子・教授（学部長） 河部 房子・教授（看護学科長） 平岡 真実・教授（栄養学科長） 酒巻 裕之・教授（歯科衛生学科長） 堀本 佳誉・教授（リハビリテーション学科理学療法専攻長） 山本 達也・教授（共通教育運営会議長） 江口 洋・事務局長（事務局） （事務担当：伊藤 拓哉・企画運営課）
C	部会名と部会員名	なし
D	所掌事項	1 教員の採用・昇任・再任の基準に関する事項 2 教員の配置、教員組織の編制に関する事項 3 その他教員の人事に関する事項
E	年度当初の重点課題	
		1) 教員組織の定期的検証を実施する。 2) 教育の質を継続的に保証する教員組織の検討、対応を行う。
F	会議記録（含む部会の開催）	
	開催日	主な議題
	1 令和5年 4月3日	1 教員資格審査委員会の設置について
	2 令和5年 4月24日	1 人事委員会活動達成状況点検・評価表（2023年度）について 2 大学機関別認証評価の評価報告書について 3 「教員組織の定期的検証」について 4 教員資格審査委員会の運用について 5 副委員長について
	3 令和5年 5月29日	1 教員資格審査委員会の設置について 2 JREC-IN リニューアルについて
	4 令和5年 6月21日	1 教員資格審査委員会の設置について
	5 令和5年 7月26日 (メール審議)	1 教員資格審査委員会における募集要項の書式の改正について 2 募集要項の様式（Excel, Word2種）について
	6 令和5年 8月21日	1 教員資格審査委員会の設置について 2 令和5年度教員組織の定期的検証について（途中報告）
	7 令和5年	1 教員資格審査委員会の設置について

	8月24日 (メール審議)	
8	令和5年 9月27日	1 教員資格審査委員会の設置について 2 令和5年度教員組織の定期的検証について
9	令和5年 10月19日 (メール審議)	1 教員資格審査委員会の設置について
10	令和5年 11月27日 (メール審議)	1 教員資格審査委員会の設置について
11	令和5年 12月20日	1 教員資格審査委員会の設置について 2 「教員組織の定期的検証」学位取得率の基準について 3 「規程改正」について
12	令和6年 1月30日	1 教員資格審査委員会の設置について 2 教員採用段階における学生に対するセクハラ・性暴力等を原因とする懲戒処分歴等の確認について 3 「教員組織の定期的検証」学位取得率の基準について 4 「人事委員会 活動達成状況点検・評価表(2023年度)」について
13	令和6年 2月28日	1 改正職業安定法施行規則に対応した募集要項案について 2 「人事委員会 活動達成状況点検・評価表(2023年度)」について 3 「2022年度認証評価その後の進捗状況」報告について
14	令和6年 3月22日	1 教員資格審査委員会の設置について 2 「人事委員会 活動達成状況点検・評価表(2024年度)」について
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
		なし
H	評価(成果および改善事項)	
	<p>1) 教員組織の定期的検証を実施した。</p> <p>(A) 令和5年度「教員組織の定期的検証」を実施し、10月大学運営会議へ報告、概ね基準に達していると評価された。</p> <p>(B) 基準を十分満たすために人事組織編成の検討が必要とされた項目を明らかにした。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 「主要科目」理学・作業療法学専攻の教授・准教授増と欠員解消により改善が期待される。 - 「管理栄養士養成、理学療法士養成」年度内に欠員解消予定である。 - 「男女比」理学療法学専攻 - 「博士号取得率」講師の割合 <p>2) 教育の質を継続的に保証するため、主要と認める「専門必修科目」について教授又は准教授が担当する比率を高めるよう委員会は教員組織の検討を続けてきた。特に大学設置基準の最低数であったリハビリテーション学科教授の人数・割合を増やす必要が示されており、本年度作業療法学の教授1名増(准教授1名減)、理学療法学専攻の准教授1名増(助教1名減)とした。</p> <p>以上、目標通り、年度ごとの「教員組織の定期的検証」を実施し、概ね基準に達していることを明らかにした。加えて、教育の質を継続的に保証するために教員組織を一部変更し、教授・准教授の割合増を実現できた。</p>	
I	次年度の方策	
	<p>1 「教員組織の定期的検証」を毎年5月基準に行い、教員組織の管理・点検を継続する。</p> <p>2 教育の質を継続的に保証する教員組織となるよう専門必修科目の教授・准教授の担当比率の改善等の方法を検討する。(大学認証評価結果)</p>	

(8) 教員再任審査委員会

A	委員長名	小宮 浩美・教授（看護学科）
B	委員名	佐藤 紀子・教授（看護学科） 加瀬 政彦・教授（栄養学科） 石川 裕子・教授（歯科衛生学科） 堀本 佳誉・教授（リハビリテーション学科理学療法専攻） 江口 洋（事務局長）
C	部会名と 部会員名	太和田 暁之・教授（看護学科） 神田 みなみ・教授（看護学科） 細山田 康恵・教授（栄養学科） 鈴鹿 祐子・教授（歯科衛生学科） 大谷 拓哉・教授（リハビリテーション学科理学療法専攻） 有川 真弓・准教授（リハビリテーション学科作業療法専攻）
D	所掌事項	1 業績評価の基準及び評価方法等に関する事項 2 任期中における業績評価に関する事項 3 休職等があった場合における延長する任期に関する事項 4 その他教員の任期制に関すること
E	年度当初の重点課題	
	<ul style="list-style-type: none"> ・教員再任審査において、審査方法に則って適正に審査する。 ・審査における点数化基準の明確化をはかり必要に応じて改訂を検討する。 ・公平で効率的な審査に向けた課題の解決策を検討する。 	
F	会議記録（含む部会の開催）	
	開催日	主な議題
1	令和5年 4月21日 (対面開催)	1 2023年度委員会活動目標・計画 2 2023年度前期審査対象者の確認 3 審査の手順・様式について 4 再任審査の審査方法について 5 審査部会による審査体制について 6 委員会予算
2	令和5年 6月5日 (対面開催)	1 業績審査の検討及び再任審査結果の決定 2 任期延長申請について 3 審査基準要領の改正について
3	令和5年 8月4日 (対面開催)	教員再任審査に係る規程改正について
4	令和5年 9月27日 (対面開催)	1 評価項目・点数化基準・判定基準について 2 2023年度後期の再任審査日程
5	令和5年 10月18日 (対面開催)	1 2023年度後期審査対象者の確認 2 審査の手順・様式について 3 再任審査の審査方法について 4 規程等改正について
6	令和5年 11月15日 (対面開催)	1 業績審査の検討及び再任審査結果の決定 2 規程等改正について

7	令和6年 2月8日 (対面開催)	1 委員会活動達成状況点検・評価表 2 再任審査に係る規程の改正
8	令和6年 3月1日 (オンライン開催)	再任審査に係る規程の改正
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
		なし
H	評価(成果および改善事項)	
	再任審査は申請者が多い年であったが、専門部会を設置して規制に審査を実施できた。審査書類の記載例や覚書の洗練、審査における課題の解決策の検討だけではなく、規程の改正や報告様式の作成、新規規程案の作成といった解決策が実行できたことは目標以上の成果であった。	
I	次年度の方策	
	<ul style="list-style-type: none"> 審査方法に則って適正に教員再任審査を実施する。 令和7年度4月1日施行の新規規程における審査項目や方法について、学内者に周知するとともに運用における問題点を解決する。 	

(9) キャンパス・ハラスメント防止対策委員会

A	委員長名	山本 達也・教授(リハビリテーション学科作業療法学専攻, 共通教育運営会議)
B	委員名	大川 由一・教授(副学長, 歯科衛生学科) 佐藤 紀子・教授(学部長, 看護学科) 細山田 康恵・教授(学生部長, 栄養学科) 江口 洋・事務局長(事務局) 田中 順子・弁護士(田中法律事務所) 増井 起代子(臨床心理士・公認心理師)
C	部会名と 部会員名 (相談員名)	北川 良子・准教授, 加藤 隆子・講師, 渡辺 健太郎・講師(看護学科) 菊池 裕・教授, 渡辺 優奈・講師(栄養学科) 鈴鹿 祐子・教授, 佐久間 貴士・講師(歯科衛生学科) 大谷 拓哉・教授, 江戸 優裕・講師(リハビリテーション学科理学療法学専攻) 有川 真弓・准教授, 須藤 崇行・講師(リハビリテーション学科作業療法学専攻) 町田 昌実・企画運営課長(事務局)
D	所掌事項	1 キャンパス・ハラスメントの防止及び排除に関する基本方針の策定に関すること 2 キャンパス・ハラスメントに関する啓発及び研修に関すること 3 キャンパス・ハラスメントに関する苦情の申出及び相談への対応に関すること 4 上記に掲げるもののほか, キャンパス・ハラスメントの防止及び排除に関すること
E	年度当初の重点課題	
	1) キャンパス・ハラスメント相談員マニュアルの問題点の整理・改訂 2) ハラスメント対応に関するフローチャートの改訂・周知 3) 学内ハラスメント研修会及びアンケート調査の実施	
F	会議記録(含む部会の開催)	
	開催日	主な議題
1	令和5年 4月27日	(1) 2023年度キャンパス・ハラスメント委員会活動状況点検・評価表について (2) 2022年度キャンパス・ハラスメントに関するアンケート調査結果報告書について (3) 2023年度キャンパス・ハラスメント委員会予算について
2	令和5年	(1) 来年度外部相談員の依頼について

	6月27日	(2) 外部相談員の業務内容について (年間の相談回数, 1回あたりの相談時間など) (3) 学内相談員向けのFD・SDについて
3	令和5年 9月15日	(1) 現在, 学生から相談されている件についての経過報告 (2) 調査委員会を立ち上げる場合の調査の進め方について (3) キャンパス・ハラスメントのFD・SD日程確定について
4	令和5年 12月26日	(1) ハラスメント案件の調査結果について (2) 規程改正について
5	令和6年 3月13日	(1) ハラスメント調査報告について (2) ハラスメント対応臨床心理士雇用について
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
1	令和5年 12月13日	キャンパスハラスメント研修会
H	評価 (成果および改善事項)	
	<ul style="list-style-type: none"> 達成事項 学内ハラスメント研修会 (2023年12月13日) を開催しアンケートを実施した。35名の参加者のうち22名の教職員アンケートに回答し, 満足度は満足:41% (9/22) , やや満足:45% (10/22) であり概ね高い満足度であった。 ハラスメント対応に関するフローチャートに関して, 学外の臨床心理士が関わるのが適切と考え, ハラスメントに対応いただける臨床心理士 (非常勤) 雇用のための予算申請を行った。 評価結果の理由と改善策 キャンパス・ハラスメント相談員マニュアルの問題点の整理・改訂には着手できなかった。今年度は学内で生じたハラスメント案件への対応に追われて相談員マニュアルの問題点の整理・改訂まで着手できなかった。 ハラスメント対応に関するフローチャートは, 次年度以降ハラスメント対応臨床心理士が雇用できるかによって変わってくるため次年度以降に改訂する必要がある。 学内で相談のあったハラスメント案件は調査委員会を立ち上げて調査が終了した。 	
I	次年度の方策	
	キャンパス・ハラスメント相談員マニュアルの改訂, ハラスメント対応に関するフローチャートの改訂を行う。	

5. 各学科・専攻の管理・運営活動報告

1) 看護学科

(1) 教員組織

令和5年度は、4月1日時点では教授1名、准教授1名、助教3名が新たに着任し、教授10名、准教授9名、講師9名、助教11名、計39名の構成でスタートした（講師1名、助教1名が欠員の状況）。

(2) 年度当初の重点課題

- ・学科長のリーダーシップのもと、全学委員会と学科内委員会とが十分に連携を図りながら、大学の管理運営業務を滞りなく遂行する。個々の教員は、大学全体の動きを見据え、各々の立場から大学の管理運営に参画する。
- ・学科内の各委員会は、PDCAサイクルを稼働させ活性化をはかるとともに、学科運営会議での共有・意見交換をとおして、継続的に発展できる管理運営体制を整備する。

(3) 取組状況

看護学科の管理・運営は、全教員が構成員となる看護学科運営会議が中心であり、5回開催された。看護学科教授会は、看護学科全体の主要課題や方向性を迅速に審議し決定するために設置されており、13回（定例12回、臨時1回）開催した。看護学教育分野別評価の受審については、自己点検評価報告書の完成・提出、質問書の受領と回答作成・提出、10月の評価員による実地調査を経て、令和6年3月に無事適合との判定を受けることができた。以下、看護学科で設置している各種委員会の活動状況を報告する。

看護学科教務委員会の重点課題は、看護学教育分野別評価の受審への対応、異なる2つのカリキュラムの円滑な同時進行、COVID-19感染症5類移行後の感染症防止対策の修正、教員の実習指導能力向上を図る取り組みの継続、教務委員会業務の実施とした。

看護学教育分野別評価の受審対応については、昨年度より継続審議の実習指導教員と臨地実習指導者の役割に関する申し合わせ事項について検討を行い、看護学科の実習要項に明記して学生と臨床実習指導者に周知することができた。異なる2つのカリキュラムの円滑な進行については、履修ガイダンスにて履修計画立の作成に向けた留意点を学年ごとに説明をし、履修に関するトラブルなく遂行できた。COVID-19感染症5類移行後の感染症防止対策の修正については、実習検討部会員を中心に臨地実習に向けての対策を、看護学科教務委員会にて検討を重ね修正をし、看護学科の実習要項に明記して学生に周知した。教員の実習指導能力向上を図る取り組みの継続については、テーマ「講義・演習・実習における教育活動での工夫と成果の共有」として意見交換会を実施し、アンケート調査にて概ね高評価であった。教務委員会業務の実施については、看護実践能力評価票・ポートフォリオ作成の説明と次年度への検討、ユニフォーム・ネームプレートの購入方法の検討、実習計画の検討と実習計画表の作成、実習オリエンテーションの実施と検討（実習要項および災害時マニュアル作成時において感染防止対策・実習中の事故の対策と発生時の対応などを検討し改訂）を行った。

2023年度受審した看護学教育評価の検討課題として、ポートフォリオおよび看護実践能力評価票の作成の有無は学生に任されており、提出を求められなければ記述・評価が進まないことが挙げられた。これについては、次年度に看護実践能力評価票、ポートフォリオの効果的な運用方針を検討する予定である。その他、学生の教育に関する教員意見交換会の開催内容について、アンケート調査の意見をもとに検討、ユニフォームのデザイン変更について、学生の声を聞きながら検討、また実習用ネームプレートにおいては、着用目的に照らして表記内容を検討する予定である。

看護学科学生・進路支援委員会では、学生生活支援、進路支援ガイダンス等の工夫・改善、国家試験合格への学習支援、同窓会活動のサポートを行った。詳細は、「学生支援」の項で述べる。

看護学科総務・企画委員会の重点課題は、学科予算や学科の共有物品等に関する所掌事項を円滑に遂行することであった。特に令和6年度は教育用備品費の集中配当年度であるため、その当初予算作成が重要な業務でありこれに対し以下の取り組みを実施した。教育用備品費の予算要求については領域間の希望を調整し必要性や公平性を考慮して取りまとめ6,014,570円を計上しほぼ満額の予算を確保することができた。令和5年度予算についても適正に執行を完了した。事務局との調整が必要な実習室・研究室の清掃・ワックスがけと被服貸与の希望とりまとめを行った。学科長が付託する事項については、文部科学省が実施する学校概況調査の取りまとめと看護学教育分野別評価実地調査時の対応を行った。令和5年度より所掌事項になったビジュランの取りまとめ、看護学科運営会議の準備、ゼミ用PCのメンテナンス対応、「看護学科看護実習室の運用指針」の学生への周知等を滞りなく実施した。

看護学科入試検討委員会の重点課題は、新型コロナウイルス感染症が感染症法の第5類へと引き下げられ、ウィズコロナへの移行をすすめつつも、入試およびオープンキャンパス等のイベントにおいては感染拡大をさせないことであった。また、看護学科に関連する現況の情報発信が可能となるような広報活動をすすめていくことであった。

今年度は上記から感染対策に関する対応項目が削減され、それに応じた面接試験の運営方法を検討し、面接試験室を増設する等の変更を加えた実施要領を作成した。学科運営会議や面接担当者説明会において各面接試験についての説明を行い、公正な入試が実施できるよう努めた。今年度も全学広報委員会の方針（完全予約制等）に則りつつ、看護学科は申込枠を拡大したことにより、昨年度に比べ多くの参加者に会場頂くことができた。以前から行ってきた実習室での看護体験や実習室ツアーに加え、教員による模擬授業や在校生と卒業生からの講話を実施し、来校者の満足度と安全性を高められるよう運営を行った。「学校説明会および模擬授業に関するマニュアル」を改訂し、重複する項目を整理することで利便性を高めた。今年度は、すべて対面で学校説明会・模擬授業（42回）、学校見学3回実施し、昨年度より12回増加した。オープンキャンパスで使用する看護学科の案内パンフレットを早めに作成し、学校説明会でも配付した。受験時には、多くの受験生が本パンフレットを持参していた。今年度より委員数が削減されたものの、各委員が業務分担・効率化をすすめ、学科の入試・広報関連を滞りなく遂行することができた。地道な広報活動の成果があったのか、受験者数の減少もなく、次年度は新規のPR場を獲得することができた。

看護学科倫理審査委員会は、4年次生の必修科目「看護研究」において、人を対象とする研究を実施する場合の倫理審査を行った。審査者間で審査基準の認識が統一されていない課題に対し令和4年度に作成された「看護学科倫理審査の基準について」を用いて、4月の学科運営会議で倫理審査の方法と基準の周知を図った。結果として判断に関する問い合わせはなかった。書類不備として教員の署名未記載が申請で3件、審査で3件生じたため、注意喚起を行った。また、1教員あたりの審査件数の均一化に向けて、6月に「各領域の倫理審査申請見込み件数調査」を実施した。申請数は過去最多の40件あり7月初旬に集中したが、各教員の担当数は概ね偏りなく調整できた。次年度も、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」の改正等に留意しながら、適正かつ円滑な倫理審査に向けた周知と各教員の業務量の公平性担保を図る。

看護学科社会貢献委員会では、以下3つの社会貢献活動を行った。1つめは「看護研究のコツがてんこ盛り！ コツコツぼうセミナー」である。4つの講義動画のオンデマンド配信とオンラインによるグループワーク（3月18日）を行い、8名の参加を得た。2つめは「研究指導に関する動画視聴のシステム」の運営である。大学ホームページにて周知し、4施設6名から利用申込みを得た。3つめは「地域包括ケアを担う看護師の実践能力向上プログラム」である。学長裁量研究費を受け、看護学科教員の研究グループ（委員含め11名）にて実施した。研究会議を計7回開催しプログラムの検討を重ね、5つの講義動画のオンデマンド配信と2回の集合研修（1月20日、27日）、2か月後の評価インタビューを行った。県内200床未満の病院の地域包括ケア病棟に勤務する看護師15名の参加を得た。また、学科内の社会貢献状況の把握と調整のため、当該年度の看護学科専任教員の社会貢献事業実績一覧を作成し学科内に公開するとともに、千葉県看護協会より令和6年度の研修講師派遣依頼があり、担当の調整を行った。次年度は、3つの社会貢献活動と学科内の社会貢献状況の把握と調整について、改善を加えながら引き続き実施する。特に地域包括ケアに関するプログラムは効果の検証を行うことが課題である。

(4) 評価（成果および改善事項）

学科運営会議、教授会を中核として各学科内の委員会が連携・協力し、教員の教育研究活動、管理運営業務は円滑に推進できたといえる。また、令和4年度は、感染防止対策を講じながら、3つのカリキュラムを円滑に進行することができた。日本看護学教育評価機構による看護学教育分野別評価の受審については、学科内教員一丸となつて、申請書類の作成や質問への回答の検討、当日の実地調査への対応等を行い、無事に適合の判定を得ることができた。

(5) 次年度の方策

学科長のリーダーシップのもと、全学委員会と学科内委員会とが十分に連携を図りながら、大学の管理運営業務を滞りなく遂行する。個々の教員は、大学全体の動きを見据え各々の立場から大学の管理運営に参画する。学科内の各委員会は、PDCAサイクルを稼働させ活性化をはかるとともに、学科運営会議での共有・意見交換をとおして、継続的に発展できる管理運営体制を維持する。

2) 栄養学科

(1) 教員組織

教員組織構成は教授6名、准教授4名、講師2名、助教4名の計16名の構成であった。専門科目の担当教員は14名、栄養教諭課程（選択）（兼：一般教育科目）の担当教員は2名である。

(2) 年度当初の重点課題

教員間で情報交換を積極的に行い、連携を密にして円滑な組織運営を図る。欠員となる教員を確保し教員体制を整備するにあたり、教職課程担当と共通教育科目との調整を図りながら人材確保をおこなう。

(3) 取組状況

栄養学科の管理・運営は教授で構成する教授会及び全教員を構成員とする学科運営会議を中心とし、それぞれ4回、12回実施した。教育研究社会貢献委員会群と管理運営部門委員会群には、学科教員がいずれかの委員会・部会の組織に所属し、委員長・部会長・構成委員として参加した。

学生教育とそれに関わる教員間の運営を円滑に行うために、月1回の学科運営会議を実施し、教授会報告、各委員会報告、各委員会の検討事項の検討、学生教育の進捗状況、学生生活の報告、その他必要事項の検討や周知を行った。Teamsの活用を進め、学科会議資料のペーパーレス化やレスポンスの見える化を図った。

学年別の担任・副担任、国家試験対策（国家試験担当教員、学科長、4年生担任、副担任）、臨地実習担当者会議、栄養教諭担当者会議、卒業論文担当者会議、卒業論文のための倫理審査委員会それぞれが適切に機能して、学科会議で必要事項を周知した。

入試関係では、高校への出張説明会や大学見学を教員が引き受け実施した。オープンキャンパスでは、模擬授業、学科紹介や在校生による学生生活紹介、個別相談、卒業生講演などを行った。特別選抜入学試験・一般選抜入学試験に際しては、全教員が入試監督・採点・集計・受験者誘導など入試関連業務を担当した。

社会活動として、千葉県、学術団体、栄養士会等の職能団体の委員および研修会の講師など活動を行った。

(4) 評価（成果および改善事項）

今年度の欠員補充はできたが、新たな欠員が生じたため、早期に人材確保を目指す。Teamsの活用により、教員間での情報交換、共有がより密になり、連携のとれた学科運営ができた。

(5) 次年度の方策

教員と学生との距離感をより近くし、相互の発信ができる授業運営を心掛け、きめ細やかな指導を心がけずるようにする。学科教員間では、学科運営会議やTeamsで、報告・連絡・相談の機会をもち、情報や問題意識を共有し、大学運営が円滑に進むようにする。また、重点政策達成に向けて、各自の担当委員会で積極的に取り組み、PDCAサイクルが稼働できるようにする。

3) 歯科衛生学科

(1) 教員組織

学科教員の構成は、教授5名、准教授2名、講師3名、助教1名の10名である。教員のうち専門職は8名（歯科医師4名、歯科衛生士4名）となっている。

(2) 年度当初の重点課題

歯科医師1名、歯科衛生士教員が2名欠員となるため、歯科衛生士助手（臨時的任用職員）1名を採用し、より一層教員間の連携を密にして円滑な組織運営と教育活動を行う。

(3) 取組状況

歯科衛生学科の管理・運営体制は、全教員が構成員となる歯科衛生学科会議が中心で10回開催された。本学科付属の歯科診療室の管理・運営体制は、歯科診療を担当する歯科医師、歯科衛生士が構成員となる歯科診療室会議が中心となり9回開催された。

歯科診療室では、毎週初日の診療開始前に週間予定、連絡事項、医療安全体制等について確認を行った。引き続き感染対策に留意して歯科診療を行った。医療安全対策として、診療用放射線の安全利用のための指針を作成した。

大学全体の管理・運営については、学科の教員が各種委員会、部会、ワーキンググループ等の組織に所属し、構成員として積極的に活動を行った。

入試関係では、各高校への出張大学説明会等については広報委員が中心となって実施した。特別選抜入学試験・一般選抜入学試験入試に際しては、全教員が入試の監督・採点・集計・受験者誘導などの入試関連業務を担当した。

(4) 評価（成果および改善事項）

歯科衛生学科教員3名欠員であり、学科教員および非常勤講師の協力のもと、学科の円滑な運営ができた。入試関係については、志願者数が減少していることから、学科として志願者数確保のため高校説明会に広報委員だけでなく他の教員も参加し、歯科衛生士の職種としての魅力を伝えるように活動を行う。

(5) 次年度の方策

歯科衛生士助手（臨時的任用職員）1名を含めて、教員間の連携を密にして円滑な組織運営を行う。

4) リハビリテーション学科理学療法専攻

(1) 教員組織

令和5年度は、4月1日時点では教授2名、准教授0名、講師2名、助教1名、計5名の構成でスタートした（理

学療法士5名、教授1名、准教授1名、助教1名の計3名が欠員の状況)、年度途中で欠員している助教の採用枠が、准教授の採用枠へと変更となった。10月1日で准教授に1名昇格、助教1名採用となり、教授2名、准教授1名、講師2名、助教1名(理学療法士6名、教授1名、准教授1名の計2名が欠員の状況)となった。

(2) 年度当初の重点課題

専門職教員の充足と増員および職位の不均衡に対する是正を求めていく。この理由は、他学科・専攻に比較して准教授以上の教員が少ないことである。

本来果たすべき学科・専攻の管理・運営とは何かを常に考え、目の前に生じる問題を中心に着実に対応していく。

(3) 取組状況

大学の管理運営について、全教員が教授会・各種委員会への参加・委員会活動を通じ貢献した。

学科の管理運営について、全教員が構成員となるリハビリテーション学科会議が中心で2ヶ月に1回開催し、学科管理運営の円滑化を図った。

理学療法学専攻の管理運営について、全教員が構成員となる理学療法学専攻会議が中心で週1回開催され、教授会・運営会議・各種委員会やワーキング・グループ等の活動状況や主な取組内容の報告、依頼の対応を共有している。また、学生の学習・実習状況等、教員間での情報伝達を図った。

全教員で分担して学校説明会へ参加し、学生募集業務・広報活動を行った。

特別選抜入学試験・一般選抜入学試験入試に際しては、全教員で分担し、監督・採点・集計・受験者誘導などの入試関連業務を担当した。

実習担当教員を中心に実習地との調整を行い、長期間の臨床実習の際には全教員が分担し、各実習地への実習地訪問や連絡調整を行った。

(4) 評価(成果および改善事項)

年度当初、教員3名の欠員の状況ではあったが、全教員の協力のもと、円滑な管理運営ができた。

年度途中で欠員している助教の採用枠が、准教授の採用枠へと変更となった。

令和6年度に向けて准教授(運動器障害理学療法分野)への昇格、教授(リハビリテーション医)の採用が決まったが、講師1名(理学療法士)の欠員が生じるため、早期に人材確保を目指す。

(5) 次年度の方策

1名の教員の欠員でのスタートとなるが、今年度同様、教員間の連携を密にして協力し、円滑な管理運営を行う。各教員の負担を軽減するために、出来るだけ早期に人材確保を目指す。

5) リハビリテーション学科作業療法学専攻

(1) 教員組織

リハビリテーション学科作業療法学専攻の教員構成は、4月1日時点で教授2名、准教授3名、講師2名、助教1名(医師1名、作業療法士7名)の計8名でスタートした。5月より准教授1名が欠員となり、組織の見直しが行われ、教授3名、准教授2名、講師2名、助教1名の組織構成となった。年度途中で教授1名、准教授1名が昇格し、年度末には講師1名の欠員が発生し、教授3名、准教授1名、講師2名、助教1名(医師1名、作業療法士6名)の計7名で運営された。

(2) 年度当初の重点課題

①教育活動

・千葉県保健医療分野の現状と将来の「健康づくりなどの保健医療に関わるすぐれた専門職の育成」に重点を置き、リハビリテーション専門科目・作業療法学専門科目の教育を通して、倫理観とプロフェッショナルリズム、コミュニケーション能力、作業療法学専門領域の実践に必要な知識・技術の習得と、多職種チーム医療教育プログラムの改革を推進する。

②研究活動

・「県の健康づくり政策のシンクタンク機能」の推進に向け、学内の他学科・専攻との多職種連携による研究活動を推進し、成果を公表し、医療改革に向けた提言を行う。

③大学の管理運営

・リハビリテーション教育評価機構による教育評価認定結果と日本作業療法士協会及び世界作業療法士連盟の審査結果を踏まえ、各委員会活動を通じて大学全体の管理運営を行う。

④社会貢献

・地域包括ケアのためのスキルアップ研修を実施し、千葉県作業療法士会と協力して臨床実習指導者講習会に協

賛する。

(3) 取組状況

各専攻教員は教授会や各種委員会への参加を通じて大学運営に貢献した。専攻内では、専攻教員全員が参加する毎週1回開催される専攻会議の他、臨床実習など学内外のアプローチ方法に関するワーキンググループとして、定期的に会議を実施した。

- ・保健医療専門職の現任教育・キャリア形成を支援（人材育成）
- ・昨年度に引き続き MTDLP の基礎研修会を年1回、事例検討会を年3回実施した。
- ・実習施設の業務研究サポートや、中小規模病院の管理者対象の研究指導力向上研修の企画・依頼についても、昨年同様に専攻会議で検討し、それぞれの窓口を設けた。
- ・今年度は第25回千葉県作業療法士学会が3月3日に当大で開催され、運営やサポートを実施した。
- ・論文の査読に関して、千葉県作業療法士学会誌、千葉県作業療法士学会抄録、千葉県立保健医療大学紀要の査読を担当教員が行った。
- ・厚生労働省が指定する臨床実習指導者研修については、千葉県作業療法士会が運営し、千葉県内の作業療法士に対して数名の専攻教員が運営委員や講師として参加した。
- ・行政や関係機関との協働による実践的研究にも取り組み、特に特別支援教育における合理的配慮に関する研修会や学級観察と助言を行った。

(4) 評価（成果および改善事項）

①教育活動

- ・保健医療専門職の現任教育・キャリア形成を支援や人材育成はほぼ実施できた。

②研究活動

- ・学内の他学科・専攻との多職種連携による研究活動を進め、成果を主に学内で発表できた。

③大学の管理運営

- ・リハビリテーション教育評価機構や日本作業療法士協会及び世界作業療法士連盟の教育基準を順守し、教育臨床実習等を実施できた。

④社会貢献

- ・リハビリテーション学科として、介護予防と地域コミュニティ促進事業に取り組み、県民の健康づくりに貢献する計画を立案できた。

(5) 次年度の方策

①教育活動

- ・保健医療専門職の現任教育・キャリア形成を支援や人材育成などの教育活動をリハ学科として継続する。

②研究活動

- ・学内の他学科・専攻との多職種連携による研究活動を継続して推進する。

③大学の管理運営

- ・リハビリテーション教育評価機構や日本作業療法士協会及び世界作業療法士連盟の教育基準を順守し、教育臨床実習等を継続して実施する。

④社会貢献

- ・リハビリテーション学科として、介護予防と地域コミュニティ促進事業に取り組み、県民の健康づくりに寄与するプログラムを実施する。

6. 事務局の活動

事務局は、企画運営課と学生支援課の2課で構成されている。

1) 職員組織

令和5年4月1日現在、事務局長1名、企画運営課は課長を含め職員11名、会計年度任用職員5名の計16名、学生支援課は課長を含め職員5名、会計年度任用職員8名の計13名、合計30名で運営している。企画運営課は、教授会、大学運営会議、各種委員会等に係る事務、学内研究費、科学研究費補助金等の執行事務、教育用消耗品や備品等の購入事務、施設の維持管理等を担当し、学生支援課は、カリキュラム編成や授業時間割の調整、非常勤講師の調整、単位認定等の教育課程に関する事務、入学試験、大学入試センター試験に係る業務、学生の実習、就職支援に係る業務、実習機関への委託事務等を担当している。

2) SD の取り組み

(1) 年度当初の重点課題

大学職員としての資質向上.

(2) 実施状況

9月12日

「千葉県職員倫理条例及びコンプライアンスについて」「事務ミス防止について」
／保健医療大学 企画運営課長 町田 昌実

参加人数：26名

1月25日～2月5日

「安全運転管理の徹底について」／保健医療大学 企画運営課長 町田 昌実
参加人数：53名

その他下記の入試，奨学金関係の会議及び公立大学に係る研修会等に出席した。

- ①5月24日 第1回学長研修会（公立大学協会主催）
- ②7月11日 大学入試センター試験千葉地区連絡会議（千葉大学主催）
- ③9月14日 公立大学協会関東・甲信越地区協議会（公立大学協会主催）
- ④11月24日 公立大学事務局長等連絡協議会（公立大学協会主催）
- ⑤11月30日 入学者選抜に関する協議会（公立大学協会主催）

7. FD の実施状況

1) 年度当初の重点課題等

・FD・SD マップに則して，以下を当初の重点課題とした。

1. 社会貢献 : 社会貢献のニーズを把握する企画・実施
2. 教育 : シラバスの作成方法，教育倫理，指導困難学生への教育
3. 研究 : 研究遂行スキルの向上・研究倫理の理解の講習会の企画・実施，学生相談・学生支援の実践，教育経験の浅い教員に指導，学生支援と進路支援に関して指導・管理
4. 管理・運営 : コミュニケーションスキルに関して理解を深める，教員の説明能力を高める
5. 各FD・SD アンケートを含めFD・SD 報告書などの提出方法を統一実施
6. SD の活性など目標に企画実施

2) 主な活動

・2022年度作成のFD・SD マップに則して，2023年度の工程表を作成し，概要検討・内容決定，各委員会に依頼開始・実施できた。

・達成事項

1. 社会貢献

（レベル1程度）社会貢献のニーズを把握する企画・実施⇒「将来構想にかかる情報共有・意見交換」3月12日実施 62名参加ハイブリッド（社会貢献委員会）（やや満足＋満足＝86%）

2. 教育

（レベル1程度）シラバスの作成方法と教育倫理⇒「シラバス作成」令和6年3月22日実施（教務委員会）41名参加（やや満足＋満足＝89%）／教育倫理⇒次年度検討（FD・SD 委員会で検討後，社会貢献委員会で検討確認）

（レベル2程度）指導困難学生への教育と学生相談・学生支援の実践，及び（レベル3）学生支援と進路支援に関して指導・管理⇒『発達障害』の学生への対応について」11月2日実施，26名参加（学生委員会）（やや満足＋満足＝92%）／「医療系大学における教職員の進路支援」11月29日実施，28名参加（進路支援委員会）（やや満足＋満足＝82%）

（レベル3）教育経験の浅い教員に指導⇒次年度検討（CH 防止委員会からFD・SD 委員会へ移行）

3. 研究

（レベル2）文献検索，文献レビューのスキルアップ／英語論文作成，英語論文投稿など⇒イブニングセミナー「さがす・読む・伝える：情報検索のコツとフェイクニュース」「論文の構成と書き方ー投稿から掲載まで 論文著者が知っておくべきポイント」／「ヘルスサイエンス系論文／学術流通の最新動向」39名参加（学術推進企画委員

会 9 月 26 日実施，教員参加（学術推進企画委員会）（やや満足＋満足＝100 と 96%）

（レベル 3）研究の管理運営ができる⇒「安全保障輸出管理の初心者向け概要など」令和 5 年 12 月 25 日 78 名参加（研究倫理審査委員会）（やや満足＋満足＝97%）

（レベル 3）研究における協働活動を運営できる⇒「地域医療連携システムについて」5 月 9 日実施，教員参加（学術推進企画委員会）（やや満足＋満足＝88%）

4. 管理・運営

（レベル 1）コミュニケーションスキルに関して理解を深める教育⇒「指導が難しい学生への指導」11 月 2 日実施，26 名参加（学生委員会）

（レベル 1）教員の説明能力を高める方法，コミュニケーション能力を高める方法⇒次年度検討（CH 防止委員から FD・SD 委員会へ移行）

（レベル 1）大学の歴史，理念，組織，国・県の理解を深める⇒「大学の成り立ちと人材育成の目標」4 月実施，新入教員 7 名参加（学長）

（レベル 1）ハラスメントに対する関心を高める⇒「ハラスメントの予防や訴訟問題などに関する教職員向け FD・SD」12 月 13 日実施，35 名前参加（CH 防止委員会）（やや満足＋満足＝86%）

（レベル 2）問題解決能力⇒「千葉県職員倫理条例及びコンプライアンスについて」「事務ミス防止について」9 月 12 日実施，26 名参加（教員 14，事務職員 12 名）（企画運営課）

（レベル 2）創造力を高める⇒次年度検討（CH 防止委員会から FD・SD 委員会へ移行）

（レベル 3）リスクマネジメント能力が高まる⇒「R5 年制定の「危機管理の方針」に基づいて」2 月 20 日から 3 月 1 日まで（オンデマンド）開催中（2 月 22 日現在）（危機管理委員会）

（レベル 3）交通違反・事故防止（安全運転管理）⇒「安全運転管理の徹底について」1 月 25 日から 2 月 5 日まで（オンデマンド），53 名（教員 46 名職員 7 名）（企画運営課）（やや満足＋満足＝75%）

（レベル 3）部門内組織マネジメント⇒「医療安全を学ぶ-保健医療者としてのリスク管理」令和 6 年 3 月 27 日実施 70 名参加（学長）（やや満足＋満足＝85%）

※学長が付託した事項

2025 年度から実施される大学入学共通テストにおける科目「情報」について内容と学共通テストの対応に必要な情報について⇒「新科目『情報 I』の教育内容及び高等学校における教育の現状」4 月 25 日（FD・SD・入試改革検討委員会共催）49 名参加（やや満足＋満足＝93%）／5 月 19 日「千葉県立高校 教科情報 I 授業内容等の現状」49 名参加（FD・SD・入試改革検討委員会共催）（やや満足＋満足＝65%）

5. 各 FD・SD アンケートを含め FD・SD 報告書などの提出方法を統一実施

各実施した FD・SD 報告書と FD・SD アンケートの書式統一し，提出の方法について実施はできた。

3) 評価（成果および改善すべき事項）

1 大学内の FD と SD の企画，推進に関する事項

・本年度について段階的に「FD・SD マップに則して，概要検討・内容決定を，各委員会に依頼し実施するというシステムの構築」は，FD・SD の学内委員会調整と FD・SD の推進はほぼ達成された。

2 その他学長が付託した事項に関する事項

・「新科目「情報 I」の教育内容及び高等学校における教育の現状について」の周知について実施できた。

3 その他 FD と SD に関する事項

・FD・SD について職員に周知と運営の協力体制さらにアンケートの回収が改善事項である。

4) 次年度の方策

・2023 年度の FD・SD マップの再検討と検討された 2024 年度 FD・SD マップによる年度計画し実施する。

・FD・SD アンケート・報告書など運営体制を含め運用について検討実施する。

IV 教育活動

1. 共通教育

1) 教育方針

体系的な初年次教育を行い、学問や大学教育全般に対する動機付けおよび論理的思考や問題発見・解決能力の基盤を作る。

2) 年度当初の重点課題

「千葉県立保健医療大学 教養教育のあり方について」に基づいて、一般教養科目・保健医療基礎科目の充実をはかる。

3) 活動計画

- ・一般教養科目・保健医療基礎科目担当教員の後任候補決定プロセスの問題点を抽出し、教養教育のあり方に準拠した教育ができる教員を募集できるシステムを確立する。
- ・一般教養科目・保健医療基礎科目担当教員の業務内容・業務負担における問題点を明らかにし、改善する。
- ・一般教養科目・保健医療基礎科目のカリキュラム評価を教務委員会と共同して行う。

4) 評価

- ・後任候補決定プロセスについては、各学科・専攻の意向を聴取した上で共通教育運営会議にて募集内容を議決して後任候補を決定するというプロセスがある程度構築された。
- ・一般教養科目・保健医療基礎科目のカリキュラム評価を教務委員会と共同して行った。

5) 次年度の方針

一般教養科目・保健医療基礎科目、医学系科目の更なる充実をはかる。

2. 看護学科

1) 教育方針

本学・学科の教育理念に基づき、学生が、確かな看護実践能力や自己研さん力を身に付けられるように、きめ細やかな教育を行う。ポートフォリオ、看護実践能力評価票等を活用し、学生の主体的学習を促進する。

2) 年度当初の重点課題

- ・本学の基本理念および看護学科の教育理念、これまでのコロナ禍における学生の学修状況をふまえ、各学年の学生が DP の達成に向け学修を進められるよう、担当科目の教育内容や方法を各々の立場で検討する。またコロナ禍で培った経験をポストコロナ時代の教育活動に反映させられるよう、領域を超えた教員間で情報共有・意見交換する機会を積極的に活用し、各々の教育活動に活かす。
- ・看護学教育評価受審を通して行われる評価結果を全教員が理解し、今後の課題と改善にむけ各々の立場で取り組みを進める。
- ・学科内の教務委員会および学生進路支援委員会を中心に各委員会が連動し、よりきめ細やかな学生の教育支援体制を構築する。

3) 取組状況

授業はほぼ対面で実施、実習は一部の实習で COVID-19 の影響により臨地での実習が中止となるなど、若干の支障はあったが、これまでの経験を活かして代替実習を行うなどで対応した。

看護学教育評価の受審を通して、看護実践能力評価票やポートフォリオの活用に関する課題が明確になった。これについては、学科教授会および学科運営会議で共有し、それぞれの教員の立場で活用推進に取り組むこと、学科教務委員会で学生への活用の推進をはかる方策を検討することを確認した。また、看護学科全教員（看護系）が担当する4年次開講科目「看護学統合」について、進め方が各領域に委ねられていることから評価の妥当性に関する課題が指摘され、科目の教育目標について改めて周知する機会を設けた。これについては次年度も引き続き検討を進め、学科内での共有をはかる。さらに今年度も、教員の実習指導能力向上を図ることを目的として、教員意見交換会を学科教務委員会主催で開催した。学生への学習支援としては、学科教務委員会と学科学生・進路支援委員会が協働し、履修支援体制整備、休学・復学・

退学に関わる個別面接や調整等をはかった。

4) 評価（成果および改善事項）

今年度は、授業はほぼ対面で実施することができたが、実習については、一部 COVID-19 の影響で中止となるなどの制限を受けた。コロナ禍での実習経験を重ねてきたことで教員・学生ともに大きな混乱はなかったが、コロナ禍以降に毎年開催してきた教員間の情報交換会は継続して実施し、学生の学修状況や課題、対応についてディスカッションを行い、その後の教育活動に反映させることができた。

令和5年度は、4年次77名が卒業判定に合格し、3名が不合格となった。3年次への進級判定では、81名が合格し、2名が不合格となった。退学者は1名（3年次）であった。

国家試験の合格率は、保健師 100.0%（全国 97.7%）、助産師 100.0%（全国 99.3%）、看護師 100.0%（全国 93.2%）であった。

5) 次年度の方策

各学年の学生の学修状況を踏まえ、DPの達成に向け学修を進められるよう、担当科目の教育内容や方法を各々の立場で検討する。個々の教員の教育力向上と教育の質担保に向け、領域を超えた教員間で情報共有・意見交換する機会を積極的に活用し、各々の教育活動に活かす。また、日本看護学教育評価機構による看護学教育評価結果に基づく教育改善の方向性を個々の教員が理解し、各々の立場で改善に向けた取り組みを進める。

3. 栄養学科

1) 教育方針

大学・学科の教育理念と教育目標に基づき、管理栄養士に資する人材を育成するために科学的根拠に基づく専門基礎科目の知識を身につけるための丁寧な教育、病傷者及び児童・生徒との円滑なコミュニケーション能力、多職種で連携しチームとして活動できる能力及び態度を身につける教育を丁寧に実践する。

2) 年度当初の重点課題

ポストコロナ後の教育において、対面授業を円滑に進め、学生、教員相互のコミュニケーションを十分に図り、豊かな人間性の涵養に努める。保健医療に関わる優れた専門職を育成するために、アクティブラーニングの手法を積極的に取り入れ、自己主導型で学習できるような指導を心がける。また、県民の健康づくりの推進力になる人材を輩出し将来的には指導者となりうる高度専門職の育成に努める。

3) 取組状況

進級及び卒業については、担任を中心とした相談、アドバイス、教科担当者による補習等の実施を繰り返した。留年者には丁寧な説明とこれからの展望について相談にのった。希望する職場への就職支援、栄養教諭課程（選択）の履修者の増加については、担任・副担任、国家試験対策会議、臨地実習担当者会議などが適切に機能し、目標を達成できた。学生の学修状況や履修状況などは学科会議で全教員が共有して、科目をこえたフォロー体制をとり、学生の個人的相談は担任を中心としたが、学科全教員に相談可能とし成果をあげている。

3年後期の臨地実習を目標に1年、2年では「管理栄養士導入教育」「食品学」「栄養学」「生化学」「解剖生理学」「食事設計と栄養」「食品衛生学」及び「調理学」の専門基礎科目を配当し、管理栄養士に必要とされる科学的根拠に基づく知識を身につける教育を実施している。前期は講義中心で、後期は実験・実習による専門的技能やコミュニケーション能力の育成を実践した。3年次では主に「専門科目」と「臨地実習」、4年次では主に「総合演習」「卒業研究」「管理栄養士特別演習」を配当し、管理栄養士としての専門性を育成した。また、1年、3年、4年では「特色科目」を配当し、他の専門職と自らの専門性等について学び、多職種連携の意識、行動を身に付ける機会とした。

4) 評価（成果および改善事項）

新々カリキュラムを学んだ4年生22名の卒業生を輩出した。1名は履修単位不足で卒業に至らず、1名進路変更により退学した。3年生は1名が休学、2年生は1名が留年、1年生は2名の留年が決定した。管理栄養士国家試験は22名全員合格し、合格率100%の目標を達成した。新卒の全国平均が80.4%と昨年の87.2%から大きく低下したにもかかわらず好成績を残せたのは、学生自身の頑張りの成果であり、学科全体で取り組んできた国家試験対策の結果である。継続して100%合格になるよう取り組みたい。就職希望した卒業生の就職率は100%であった。県内の就職率が50%となり、昨年より増加した。卒後も千葉県

に貢献できるような支援を検討したい。臨地実習については、担当教員間での協力及び実習先との綿密な打ち合わせ等により、期間内で3分野の臨地実習が終了するよう調整できた。また、栄養教諭課程(選択)の履修者は1年18名、2年6名、3年9名、4年生5名となり、1年生の受講者が大幅に増加した。栄養教諭免許取得のみならず、栄養教諭として活躍することを期待したい。

5) 次年度の方策

教育においてデジタル技術を活用することで教育の質的向上をめざし、学生、教員相互のコミュニケーションを十分に図り、豊かな人間性の涵養に努める。保健医療に関わるすぐれた専門職を育成するために、アクティブラーニングの手法を積極的に取り入れ、自己主導型で学習できるような指導を心がける。県民の健康づくりの推進力になる人材を輩出し、将来的には指導者となりうる高度専門職の育成を目指すように努める。

4. 歯科衛生学科

1) 教育方針

専門知識の修得のみならず、豊かな人間性と高い倫理観を備え、他の専門職と連携・協働し、質の高い歯科医療サービスを提供できる実践力のある人材の育成に取り組む。

2) 年度当初の重点課題

平成31年度から新々カリキュラムが始まり、新カリキュラムの教育課程と同時進行となるため、それぞれのカリキュラムを確実に実施する。担任、副担任、科目担当教員、教務委員が協力して積極的な学習活動を行う。

3) 取組状況

1年次、2年次は保健医療基礎科目、歯科衛生基礎科目を中心とした講義、演習を、2年次後期から3年次前期にかけては、小児・成人・高齢者を対象とした生涯歯科衛生科目の講義、演習を開講した。新々カリキュラムでは、新たに早期体験実習を設けて、1年次、2年次後期にそれぞれ実施した。3年次では歯科衛生健康推進科目の講義・演習を開講した。臨床実習として開講している3年次後期・4年次前期の「歯科診療室総合実習」では、本学に併設している歯科診療室において、1、2年次に学んだ知識と技術を実践の場において統合させ、臨床的判断や行動が主体的に実施できることを目的に実習を行った。また継続・個別支援実習においては、対象者それぞれのライフステージにあわせた指導ならびに予防処置について学んだ。臨地実習については、3年次後期の「歯科診療所実習」でチーム歯科医療等の実践について学んだ。「発達歯科衛生実習Ⅰ(小児)」では、幕張西小学校1・3・6学年の児童を対象に歯磨きの方法や歯ブラシの選び方、交換時期、管理方法についてパワーポイントスライドを作成し講義を行った。また袖ヶ浦特別支援学校では、様々な障害のある児童の学校生活の施設見学を行った。さらに千葉東病院では、障害児診療見学を実施した。「発達歯科衛生実習Ⅱ(成人・高齢者)」では、千葉市内の1か所の介護保険施設において高齢者の生活について理解し、看護・介護職員から高齢者に対する日常生活の援助方法について学ぶとともに、高齢者の口腔ケアを実施した。「地域歯科衛生実習」では、千葉市内・浦安市内の保健センターで実習を受け入れていただき、地域歯科保健の現状を理解するとともに、歯科衛生士の役割・機能について学修した。4年次後期の「病院実習」では、5か所の病院(船橋中央病院、旭中央病院、亀田クリニック歯科センター、がん研究会有明病院、千葉メディカルセンター)において実習を行い、歯科衛生士の役割や多職種連携の重要性について理解を深めた。3年次後期から4年次後期の期間は、卒業研究に取り組み、学科教員が個別に学生の研究指導を行い、論文作成後には成果発表会を実施した。国家試験については、進路支援委員が中心に国家試験対策を行い、国家試験のための補講も実施した。卒業生26名のうち26名が歯科衛生士国家試験に合格した。

4) 評価(成果および改善事項)

新々カリキュラムと新カリキュラムが混在する中、滞りなく実施することができた。教員の積極的な学修指導があったが歯科衛生士国家試験は、新卒者はすべて合格し、既卒者1名は不合格であった。

5) 次年度の方策

引き続き、担任、副担任、科目担当教員により積極的な学修指導を行う。

5. リハビリテーション学科理学療法学専攻

1) 教育方針

大学・学科専攻の教育理念と教育目標に基づき、理学療法学専攻では、卒業までの4年間で医療専門職として教育や倫理観を涵養し、社会的責務を果たすことができる人材を育成する。そのための方策として、全学年の学生が欠席することなく、講義や臨床実習に参加し、単位を落とさず、且つ休学や退学なく、最終学年までを全うすることとする。また、毎年度継続している国家試験合格者を全国平均よりも上回ることを維持することにある。

2) 年度当初の重点課題

理学療法士国家試験の合格率が100%になるために必要な知識が身に付くよう、1年次から計画的に教育を行う。特色科目、リハビリテーション専門科目、理学療法学専門科目の教育を通して、大学・学科専攻の教育理念と教育目標を達成できる人材を育成する。

3) 取組状況

前年度に引き続き、2学年以降の専門科目の演習や実技練習を促したり、当事者の方に評価を行ったり、3学年では各専門領域（運動器障害、神経系障害、内部障害、発達障害や地域理学療法）ごとの演習や特論で積極的に症例情報に基づく演習や実習を取り入れたり工夫をしている。特に3学年の学生には評価実習を意識した授業を展開（実習前の実技試験：OSCE）し、全員の学生が無事実習を終了する成果が得られた。

4) 評価（成果および改善事項）

最終学年の臨床実習Ⅲ・Ⅳを終了して卒業にたどり着いた学生は21名であった。21名全員が国家試験受験し、全員が合格した。県内就職者は17名、県外は4名で千葉県から要望がある県内就職率70%以上の数値目標を上回った。退学者、休学者をなくすことはできず、目標は達成できなかった。幕張キャンパスでの講義が多い1、2年次での退学者、休学者が多いことから、これらの学年での学生対応を見直していく必要がある。

5) 次年度の方策

引き続き、教員間で学生の意欲や習熟度、不十分な学習内容についての情報を共有し、大学・学科専攻の教育理念と教育目標を達成できる人材を育成する。また、国家試験の全国平均合格を上回ること、大学・学科専攻の教育理念と教育目標を達成できる人材育成のために、各担任、各科目担当教員が教育・指導内容をより良くするための工夫を続ける。

6. リハビリテーション学科作業療法学専攻

1) 教育方針

作業療法学専攻では、大学・学科の教育理念と目標に基づき、対象者本位の作業療法実践技術を提供する人材を育成するために、学生教育を実践する。昨年度よりも引き続き継続している取り組みである。また、国家試験の合格に向けた受験生への対策や臨床実習における施設の適正な獲得と配置にも配慮する。

2) 年度当初の重点課題

学科・専攻の教育活動における重点課題として、千葉県立保健医療大学の基本理念の実現に特に焦点を当て、保健医療分野で優れた専門職を育成することに向けて、リハビリテーション専門科目・作業療法学専攻の教育を通じて、各教員が作業療法ゼミナールや卒業論文などで学生と個別に対応し、倫理観とプロフェSSIONナリズム、コミュニケーション能力、作業療法学の専門領域に必要な知識の習得を支援する。

3) 取組状況

教育内容や方法の工夫、強化した取り組み等について、令和4年度から学内演習・実習科目を対面で実施し、学外実習も行った。1年生の特色科目「体験ゼミナール」では、千葉県の地域特性や生活者の理解を深め、2年の「作業療法ゼミナール」では少人数や個別の対面授業を通じて、作業療法士としての倫理観や専門性を理解する取り組みを行った。また、3年からの臨床実習を経て、4年で実施する「卒業研究」に向けて各教員が支援している。新カリキュラムによる評価実習も順調に実施し、地域作業療法学実習も全員が体験することができた。

令和4年度の実験合格者数は、卒業生25名（受験25名、1名が不合格：合格率96.0%）であり、

過去の卒業生も含めて、3名が受験し1名が合格した。卒業論文に関しては、各学生に対し担当教員を割り当て、発表会を実施し、卒業論文集を発行した。

4) 評価（成果および改善事項）

学生一人ひとりに対する個別対応が進み、専門職のコンピテンシーの理解が促進され、各倫理観、プロフェッショナルリズム、コミュニケーション能力、作業療法学の専門領域での達成が図られている。

5) 次年度の方策

学生個々の特性を活かし、少人数のクラス特性を生かした教育活動を通じて、特にプロフェッショナルリズムの理解を促進していく。

7. 学生による授業評価

学生による授業評価アンケートの対象科目は、前期・後期・通年で開講される講義および演習科目（非常勤講師担当を含む）である。授業評価アンケートの質問項目について検討し、内容および回答のしやすさ（質問数）、経年変化を見る観点から現状維持とした。すべての項目に対して5段階で回答する方式（「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」「どちらとも言えない」「あまりそう思わない」「全くそう思わない・該当しない」）で実施した。

R3年度は、コロナ禍でFormsにて調査を実施したが回答数が減少した反省から、R4年度と同様に、R5年度も十分な回答数の確保と調査精度を上げることを目的に、アンケート実施時にアンケートFormのQRコードの提示および紙媒体による調査方法も併用して実施した。前後期での回答数は3,516で、回収率は前年度比で約2割程度減少となった。各教員にQRコードを配布する時期が講義終了直前となったことから、次年度は早期に配布できる体制を整える必要がある。

結果は表に示すとおりである。14項目中12の質問項目で「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」を合わせた割合が80%以上と高い数値を示し、14項目中7の質問項目で令和4年度値を上回る値を示し、令和4年度同様、概ね学生による授業評価は改善することができたと考える。一方で「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」を合わせた割合が70%未満の質問項目は、「予習を行った」44.9%、「復習を行った」66.4%であり、ものの依然として低い数値で課題を残すものの、令和4年度の結果を上回っており、改善傾向にあると考えられた。令和5年度は、ほぼすべての講義が対面で行われており、学生自身の主体的な学習意欲と主観的達成度の改善の工夫が必要となる。

最後に、令和2年度より実施しているMicrosoft Formsによるオンライン・アンケートについて、その手法において回答数確保の観点からは課題が残り、依然として改善の余地があると考えられる。翌年度以降は、十分な回答数の確保と調査精度を上げるべく、オンライン・アンケートに加え、対面／紙媒体による調査方法の併用、アンケート協力への周知について、時間的余裕をもつての教員への周知など、さらなる改善に努めたい。

令和5年度学生による授業評価：割合 (%)

	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	全くそう思わない・該当しない
授業に積極的に取り組んだ	63.7	30.1	5.0	1.1	0.1
予習を行った	24.0	20.9	24.1	19.9	11.1
復習を行った	33.6	32.8	19.0	9.7	4.9
この授業のシラバスは役に立った	53.3	29.7	13.3	2.9	0.8
授業の目標が明確に示されていた	61.9	29.2	6.8	1.5	0.6
内容がよく理解できるように準備されていた	64.9	26.2	6.7	1.5	0.7
授業内容が充実していた	68.1	24.5	5.3	1.5	0.6
教員の熱意が感じられた	73.2	13.3	2.0	1.0	10.5
教員の説明は分かりやすかった	65.6	17.5	4.3	2.2	10.4

授業方法に工夫がなされていた	63.2	19.9	4.7	2.1	10.1
授業評価の方法を事前に理解していた	67.2	17.1	3.9	1.8	10.0
教員の話し方は聞き取りやすかった	66.6	16.6	4.0	2.2	10.6
学生の理解度に対して配慮がされていた	62.9	18.1	5.5	2.7	10.8
全体としてこの授業を受けられて良かった	69.2	15.3	3.4	1.4	10.7

8. 大学全体

1) 評価（成果および改善すべき事項）

令和5年度卒業生に対して卒業時アンケート調査を例年通り実施した。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）の達成度に関する自己評価では、多くの学生が各医療専門職としての基本的な実践力および能力を身につけたことが示された。指導者のもとで「十分発揮できる」および「ある程度発揮できる」との回答を合わせて、「倫理観とプロフェッショナリズム」について、1. 対象者の人権を尊重し、多様な価値観や社会的・文化的背景を理解し、思いやりをもって接することができる；95.2%，2. 対象者のニーズを優先的に考え、誠実かつ公正に対応できる；95.2%，3. 社会的・法的責任を自覚して、専門職としてその責務を果たすことができる；93.1%，「コミュニケーション能力」について、4. 対象者とそれを支える人の個人的、文化的、社会的背景を尊重し、信頼関係を構築できる；93.1%，5. 対象者とそれを支える人、保健医療専門職からの有効な情報収集と伝達ができる；91.7%，6. 同一専門職や関係職種との間で文章による情報の伝達と共有ができる；90.3%，7. 国内・外からの情報を入手して、保健医療に活用し発信できる；70.3%，「実践に必要な知識」について、8. 学際的な幅広い教養と知識を有し実践できる；85.5%，9. 保健・医療・福祉に関する基礎的な知識を有し実践に活用できる；90.3%，10. 各専門職における実践活動の基礎となる基礎的知識を有し実践に活用できる；91.0%，11. 各専門領域における実践活動の根拠となる臨床的知識を有し実践に活用できる；84.8%，12. 各専門領域の基礎的知識・専門的知識に基づいた、対象者への適切なアセスメント方法を有し実践に活用できる；88.3%，13. 対象者に合わせた適切なアプローチ方法に関する知識を有し実践に活用できる；87.6%，「健康づくりの実践」について、14. 必要な情報を身体・心理・環境の面から正確に収集、管理できる；93.1%，15. 収集した情報を専門的知識によりアセスメントできる；91.0%，16. アセスメントに基づき健康づくりの目標を設定できる；93.1%，17. 対象者の状況に合わせた健康づくりの提供計画を立てることができる；91.7%，18. 対象者が主体的・自律的に健康づくりに取り組めるように説明・支援できる；89.7%，19. 最新の科学的エビデンスに基づいた健康づくりを提供できる；79.3%，20. 健康づくりの提供計画に基づき、安全かつ正確な技能により実施できる；87.6%，21. 目標の達成度や対象者の反応に基づき、健康づくりの評価・修正ができる；91.0%，「健康づくりの環境の整備・改善」について、22. 健康と生活環境との相互作用をアセスメントし、社会・生活の場である地域環境（人・物・制度）の改善に向けて実践できる；91.0%，23. 健康づくりの提供にあたり、保健医療制度下での経済性・効率性を考慮することができる；84.1%，24. 現存の支援・サービスの整備・改善に必要な企画・提案ができる；80.7%，「多職種との協働」について、25. 多職種の専門性と多様な価値観を理解し、尊重することができる；95.2%，26. 多職種と交流し、良好な関係を構築することができる；93.1%，27. 多職種と状況に応じて適切に協働し、問題解決できる；94.5%，28. ヘルスケアチームにおける自身の立場・役割を理解し、責任ある行動をとることができる；93.8%，「生涯にわたる探究心と自己研鑽」について、29. 常に探求心をもち、臨床的あるいは科学的問題を発見し、解決に取り組むことができる；89.7%，30. 自己主導型学習により常に自己の向上を図ることができる；91.0%，31. ワークライフバランスを考えたキャリアを設計し、その達成に向けて自己管理できる；87.6%，32. 専門職としての自己課題を明確にし、その成長に向けて努力できる；92.4%で、いずれの項目においても高水準を維持することができた。今後の課題として、【「コミュニケーション能力」7. 国内・外からの情報を入手して、保健医療に活用し発信できる；70.3%】については、昨年度同様、他に比べ達成度が低いことから、国際的視野を培う取り組みが必要である。語学、国際関係や異文化を理解することに加え、相手の価値観を尊重し、新しい価値を協働して創造する能力を備えた人材を育成するような仕掛け（講義・演習に加え、セミナー企画）を含めて、国際交流委員会と協業しながら、検討していきたい。

次に、「学位授与の方針の達成に授業科目，科目編成，科目の評価，教員の指導は有用だったか」について、「とても有用」と「やや有用」を合わせて，1. 授業科目；95.2%，2. 科目編成；93.1%，3. 科目の評価；93.8%，4. 教員の指導；96.6%と，学生の満足度は高水準で維持することができた．今後も授業評価アンケート結果を活用した具体的な学生の意見を汲み上げていくことで，各科目責任者が担当科目および授業形態の特徴に応じて学生の学修を支援する方策を検討する努力が引き続き求められる．

令和4年度には，大学設置基準の一部を改正する省令が交付されたことから，令和5年度には，委員会内で学則改正の可否も含めて議論・検討し，特に変更を行わないことが決定され，共通認識を持つことができた．学則などの改正事項の整理を引き続き行い，関係各部署とも連携し，必要に応じて改正を実施していく．

2) 次年度の方策

新々カリキュラムは令和4年度をもって一通りを終えたことから，令和5年度には，各科目（特色科目，一般教養科目，保健医療基礎科目，専門科目）のカリキュラムの評価とカリキュラムポリシーの改定を行った．また新たなカリキュラムポリシーのもとで，カリキュラム改正の必要性の検討を行い，必要に応じてカリキュラムを改正し，文理横断・融合教育の推進に向かって，学部教育体制の改善・改革をはかる．

大学機関別認証評価での評価コメントをふまえて，成績評価における基準の明示化を検討・着手する．必要に応じて学則などの改正の是非についての検討とそのFD開催を目指す．

V 学生の受け入れ状況

1. 学生の受け入れ方針

(1) 全学方針

高い倫理観と豊かな人間性を備え、地域社会に貢献し、保健医療の国際化に対応できる人材を育成する。本学のカリキュラムを履修することで学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に示された能力を卒業時に発揮できる以下の素養を有する学生を求める。

- ①基礎的な知識、技能
- ②論理的思考力、状況に応じた判断力、自らの考えをまとめて伝えられる表現力
- ③保健医療者を目指す者としての適性
 - ・人間性、コミュニケーション能力
 - ・協働、責任感、地域貢献
 - ・主体性、探究心

(2) 看護学科の求める学生像

医療の高度化・専門化や社会の多様化に対応できる看護専門職に必要な専門的知識と技術を身につけ、県内の看護職のリーダーとなりうることはもとより、国際的にも貢献できる高い資質をもった人材の育成を基本理念とし、以下の学生を求める。

- ①看護を通して、社会に貢献する意欲がある人
- ②人々の生活や生き様に強い関心を持ち、相手の立場に立って考えることができる人
- ③知的好奇心が旺盛で探究心がある人
- ④幅広い基礎学力を持ち、論理的・客観的に考える力を持つ人
- ⑤自己を表現する力を持つ人

「特別選抜・推薦」では、将来、千葉県内で看護職として活躍することを志望する強い意志がある人材を求めている。「特別選抜・社会人」では、社会人としての経験を持ち、卒業後千葉県内で看護職として活躍することを志望する強い意志がある人材を求めている。「編入学」では、既習の看護学をさらに深めるとともに、幅広い教養を身につける意欲が旺盛で、卒業後、看護職に従事する強い意志をもつ人材を求めている。「一般選抜」では、看護学を学ぶ意志のある人材を求めている。

(3) 栄養学科の求める学生像

生命活動を分子レベルで理解することを基本とした栄養学分野を総合的に学び、豊かな人間性を備え、心身の健康に大きく貢献できる人材、人の栄養状態を適正化する方法を総合的・科学的に探究できる人材の育成を基本理念とし、以下の学生を求める。

- ①管理栄養士の国家資格の取得を前提目標として学ぶ意欲を持つ人
- ②倫理的な原則を遵守し、専門職としての責務を果たすことができる人
- ③科学的な裏づけで得られた専門的な知識・技能を、健康づくりに貢献できる人
- ④多職種との相互理解を深めながらコミュニケーションや行動ができる人
- ⑤個人・家族・地域社会・他国への貢献や生涯にわたる自己研さんができる人

「特別選抜・推薦」では、将来、千葉県内で管理栄養士として活躍することを志望する強い意志がある人材を求めている。「特別選抜・社会人」では、社会人としての経験を生かして千葉県内で管理栄養士として活躍することを志望する強い意志がある人材を求めている。「一般選抜」では、管理栄養士として活躍することを志望する人材を広く求めている。

(4) 歯科衛生学科の求める学生像

高い倫理観と豊かな人間性を備え、地域社会に貢献し、口腔保健の専門知識と技能を身につけるための科学的探究心を持ち、保健医療の国際化に対応できる人材の育成を基本理念とし、以下の学生を求める。

- ①口腔の健康に深い関心を持ち、人々の健康増進に貢献したい人

- ②豊かな人間性を備え、相手の気持ちを理解できる人
- ③科学的な探究心を持ち、自ら意欲的に取り組もうとする人
- ④基礎学力があり表現力が豊かで、自分の考えや意見を論理的に説明できる人
- ⑤コミュニケーションを通じて人々と協調できる人

「特別選抜・推薦」では、千葉県内で歯科衛生士として活躍することを志望する強い意志がある人材を求めている。「特別選抜・社会人」では、社会人としての経験を生かして千葉県内で歯科衛生士として活躍することを志望する強い意志がある人材を求めている。「一般選抜」では、歯科衛生士として地域で活躍することを志望する人材を広く求めている。

(5) リハビリテーション学科理学療法学専攻の求める学生像

理学療法士として社会に貢献する意志と能力を持った人材の育成を基本理念とし、以下の学生を求める。

- ①理学療法士の役割を理解し、理学療法士となる明確な目的意識を有している人
- ②理学療法学を学んでいくにあたって必要な基礎学力を有している人
- ③自分の意見を適切な日本語で表現できる人
- ④障害のある人に対してもない人に対しても、適切なコミュニケーション能力を有している人
- ⑤保健医療福祉領域だけでなく広く社会に関心が高く、様々な問題に挑戦できる人

「特別選抜・推薦」および「特別選抜・社会人」では、将来、千葉県内で理学療法士として活躍することを志望する強い意志がある人材を求めている。

(6) リハビリテーション学科作業療法学専攻の求める学生像

豊かな人間性や高い倫理観、鋭敏な感受性と多彩な表現力を基に、対象者の立場になって作業療法を提供できる態度・能力を身につけ、人々の健康づくりを支援し、作業療法の臨床、教育、研究の発展に貢献できる人材の育成を教育理念とし、次のような学生を求める。

- ①対象者とそれを支える人、保健・医療・教育・福祉職に対してお互いの立場を尊重した人間関係を構築し、生き生きとしたコミュニケーションをとることを望んでいる人
- ②個人・家族・地域が健康的またはその人らしい生活を送るための健康づくり支援を提供したいと思っている人
- ③人々の健康的またはその人らしい生活を送るための問題解決と健康増進に向けて、健康を志向する地域環境（人・物・制度）の整備・改善に努めたいと思っている人
- ④対象者を中心とした安全で質の高い保健・医療・福祉を実践するために、自身の役割を認識し、多職種との相互理解を深めながら行動する適性を持っている人
- ⑤論理的思考による探究心を身につけ、自己研鑽に励み、倫理的な原則を遵守し、専門職としての責務を果たす適性を持っている人

「特別選抜・推薦」および「特別選抜・社会人」では、将来、千葉県内で作業療法士として活躍することを志望する強い意志がある人材を求めている。

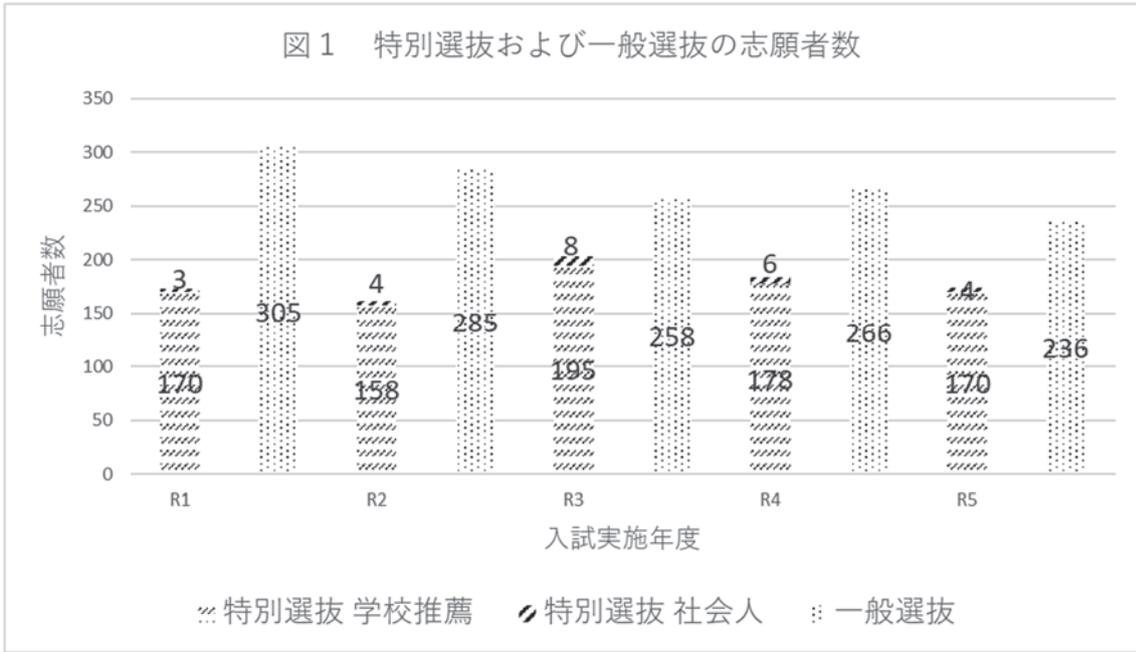
2. 年度当初の重点課題

令和7年度大学入学共通テストの新科目「情報Ⅰ」について調査・検討して各学科・専攻の選択方法及び配点を決定して令和5年6月末までに公表する。推薦枠拡大について学生確保への影響を調査する。調査書等を活用した新たな面接試験方法について学生確保への影響を調査する。求める学生像に適した大学入学共通テストの利用の見直しを検討する。

3. 入学者選抜状況

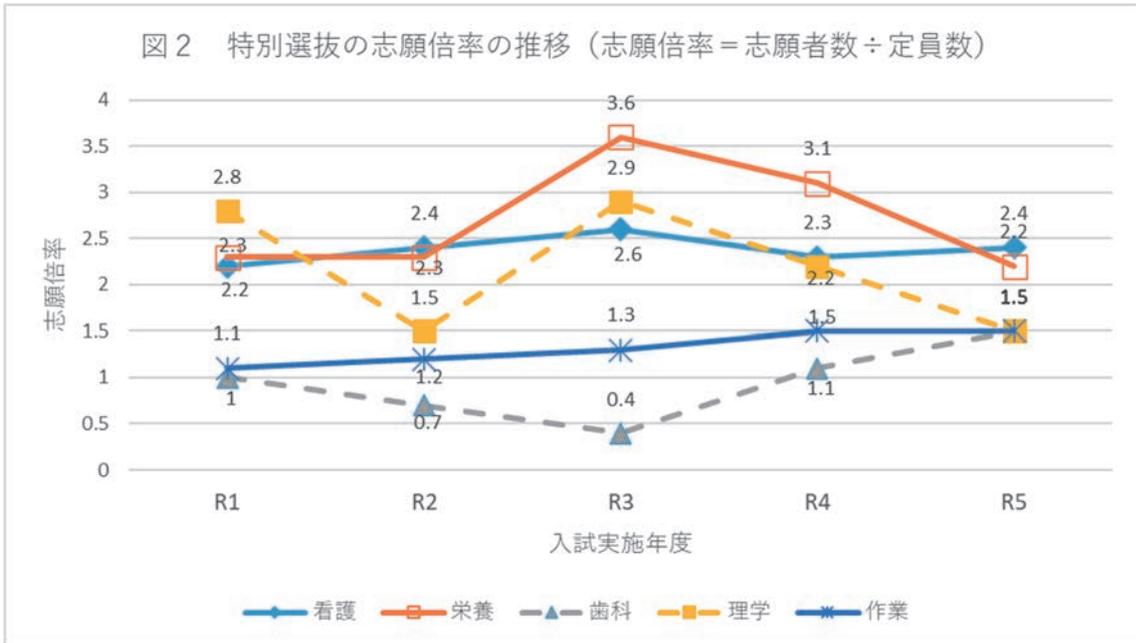
(1) 過去5年間の一般選抜および特別選抜の志願者数（年度）（図1）

志願者数は、一般選抜志願者数は減少傾向であるが、特別選抜志願者数は170人を維持している。



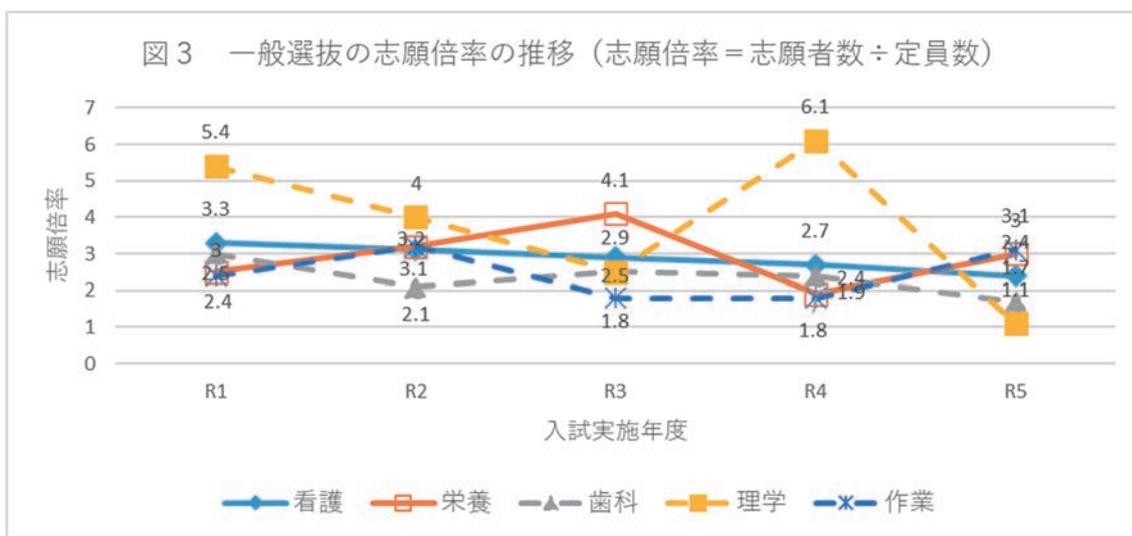
(2) 特別選抜入試の志願倍率の推移 (図2)

特別選抜の定員枠が4割から5割に拡大した平成30年度以降は志願倍率が増減を繰り返しているが、令和5年度は各学科・専攻ともに2倍前後を維持している。



(3) 一般選抜の志願倍率の推移 (図3)

志願倍率の推移は、理学療法学専攻は年度により変動が大きく令和4年度の6.1倍から令和5年度は1.1倍に減少しているが、そのほかの学科・専攻は2倍前後を維持している。



(4) 編入学の受験競争率 (出願者数 ÷ 合格者数) の推移

看護学科編入学 (3年次)

年度	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
倍率	3.6	3.2	7.6	12.0	2.3	4.0	15.0	10.0	9.0

4. 学生募集のための取り組み

(1) 大学案内の作成・配布

広報委員会が中心となり、大学案内を作成している。大学案内には、大学の理念・目的、学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)、入学者受入方針 (アドミッション・ポリシー)、教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー)、カリキュラムの構成、各学科専攻長からのメッセージ、各学科専攻の特色、在校生からのメッセージ、学生生活、選抜試験の日程と過去の選抜状況、就職進学状況、国家試験合格率を掲載している。大学案内は、進学フェアのイベント、県内の高等学校、業者経由で希望があった個人に送付した。また、pdf を大学のホームページに掲載し、本学の特色を広く周知するよう努めた。

(2) オープンキャンパスの開催

令和5年度は新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したが、感染者が出ていることから、Web予約制をとり、7月8日、9日に対面でのオープンキャンパスを実施した。2日間の参加者は1,436名であり、来場者アンケートでは満足度も高かった (とても満足66%、満足30%)。

(3) 高等学校での模擬講義・説明会等の実施、高等学校からの訪問への対応、大学模擬授業・説明会への参加

高校や仲介業者からの依頼に合わせて、高等学校での模擬講義や大学説明会の実施、進学セミナーへの参加を行っている。令和5年度の教職員参加は79件であった。

高校訪問・模擬講義・説明会への出席件数及び派遣教職員数

年度	依頼件数	参加件数			派遣数			出席者数
		教職員	資料参加	合計	教員	職員	合計	
平成29年	134	83	34	117	89	0	89	2082
平成30年	143	79	39	118	90	0	90	2011
令和元年	119	105	13	118	100	0	100	1945
令和2年	96	44	12	56	47	0	47	-
令和3年	114	71	4	75	73	4	77	-
令和4年	107	70	5	75	65	11	76	1497
令和5年	125	79	0	79	81	9	90	1714

(4) ホームページでの情報提供

大学紹介ページの動画を更新し、活躍した学生のインタビュー内容を新規掲載した。また、本学の特徴的な研究を紹介するページの作成について検討し、大枠を決定した。

(5) 受験情報誌への情報提供

受験情報企業からの情報提供の要請に対し、依頼元の信頼性を考慮した上で情報提供を行い、本学のアドミッション・ポリシーや教育内容を周知し、適正のある受験生に本学を志願する意思決定をしてもらえるようにした。

(6) 過去問の閲覧

平成 30 年度入試問題から、大学ホームページ（著作権に配慮した公開）および大学学生支援課窓口で閲覧が可能になった。令和 5 年度は 41 名が来学して過去問題を閲覧した。

5. 学生の在籍状況

令和 6 年 3 月 31 日現在の在籍学生総数は 727 名であり、収容定員（740 名）対比は 0.98 でほぼ定員は充足されている。

学科・専攻別の収容定員比は、看護学科（収容定員 340 名）が 0.96（在籍学生数 325 名）、栄養学科（収容定員 100 名）が 0.97（在籍学生数 97 名）、歯科衛生学科（収容定員 100 名）が 1.07（在籍学生数 107 名）、理学療法学専攻（収容定員 100 名）が 0.97（在籍学生数 97 名）、作業療法学専攻（収容定員 100 名）が 1.01（収容定員 100 名）である。

開学時から令和 6 年 3 月 31 日現在退学者累計数は 75 名で、入学総数 2,534 名（除籍・編入学を除く）に対する退学者の割合は 2.96%であった。学科別では看護学科が 18 名、栄養学科が 13 名、歯科衛生学科が 15 名、理学療法学専攻が 15 名、作業療法学専攻が 14 名である。退学理由の多くは進路変更だが、若干名は経済的理由を含む家庭の事情であった。近年はコロナ禍で退学者数は減少傾向にあったが、令和 5 年度は増加して 8 名中 6 名が休学期間を経てから退学している。今後も受験生の志望動機を見極めるとともに、入学後は欠席しがちな学生に対する支援を強化するなどの方策が求められる。

退学者数（令和6年3月31日現在）

入学年度	退学者数(休学後退学者数)					合計
	看護学科	栄養学科	歯科衛生学科	理学療法学専攻	作業療法学専攻	
平成21年	4 (3)	1 (1)	0 (0)	2 (2)	1 (1)	8 (7)
平成22年	1 (1)	1 (0)	1 (1)	0 (0)	2 (2)	5 (4)
平成23年	0 (0)	3 (3)	1 (0)	2 (2)	0 (0)	6 (5)
平成24年	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	1 (1)	3 (3)
平成25年	1 (0)	2 (2)	1 (1)	2 (2)	1 (1)	7 (6)
平成26年	2 (2)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	2 (2)	5 (5)
平成27年	3 (3)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	1 (1)	6 (6)
平成28年	2 (2)	0 (0)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	5 (5)
平成29年	2 (1)	1 (0)	4 (1)	0 (0)	2 (2)	9 (4)
平成30年	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)
令和元年	2 (2)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	1 (0)	6 (5)
令和2年	0 (0)	1 (1)	0 (0)	3 (3)	0 (0)	4 (4)
令和3年	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)
令和4年	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)
令和5年	1 (1)	1 (1)	3 (2)	1 (0)	2 (2)	8 (6)
累計	18 (15)	13 (10)	15 (10)	15 (13)	14 (13)	75 (61)

6. 評価（成果および改善すべき事項）

オープンキャンパスでは Web による事前予約を導入して手続の円滑化を図るとともに、スケジュールの見直しを行なった。令和 5 年度の来場者数は 1,436 名（看護学科 811 名、栄養学科 279 名、歯科衛生学科 68 名、理学療法学専攻 178 名、作業療法学専攻 100 名）で、前年度比 91.7%であった。令和 4 年度は新

型コロナウイルス感染症対策として予約制による入場制限を行っていたが、5 類感染症となった令和 5 年 5 月から行動制限が緩和されたことから、令和 6 年度は予約制の取扱いを見直す必要がある。

ホームページの広報については、内容を新たな情報に更新し、学生へのインタビューを掲載するなど、新たな試みを導入した。SNS においてはオープンキャンパスや公開講座などの行事、学科・専攻の活動紹介などの 46 件の情報を発信し、精力的に活動を行なった。

7. 次年度の方策

対面によるオープンキャンパスで充実した情報を発信するよう企画・検討を行ない 1,500 名以上の動員を目標とする。

ホームページ等において各種行事、教育・研究の情報、学生の活動を発信すると共に、SNS を活用して 50 件以上の情報発信を目標とする。

VI 学生支援

1. 年度当初の重点課題等

学生部（学生委員会・進路支援委員会）では、学生支援に関する基本指針に基づき、以下の活動を課題とした。

- 1) 学生委員会の重点施策では、各学科・専攻と同窓会分会との連携・支援体制を評価し、体制を整備・改善する。学生支援の方針（学生ハンドブック）に照らした学生支援の検証と改善を行う。
- 2) 進路支援委員会では、各学科専攻で年間計画を作成し、国家試験受験対策や就職支援が円滑に進むようにする。また、キャリアセミナーを年3回、ジョブカフェを年3回実施できるようにする。

2. 活動内容

1) 学生委員会

学生の福利厚生：令和5年度学生支援計画を立案し、以下の取組を行った。学内環境の点検について、企画運営課でWi-Fi環境を調査していただき、9月に強化したが、まだ良い環境とはいえない状況にある。学生会とは、コミュニケーションをとり、新入生歓迎会（4月25日）、スポーツ大会（7月15日）、いずみ祭（10月8日・9日）の開催を支援した。売店・自販機については、学生のニーズ調査を実施し、その結果をもとに、後援会と学生支援課で「キッチンカーのお試し」について検討している。学生対象セミナーでは、ブラックバイト、デートDV防止、食品中の放射性物質に関わるビデオのオンデマンド配信を行った。また、学生向け講習会（8月9日）として「防犯対策講話」を千葉西警察の方にお願いした。学生委員会のFD「発達障害の学生の対応について」をテーマに11月2日に実施した。卒業式において、コロナ前と同様に学生会中心に「上げば尊し」を歌うことができた。

学生の保健衛生：令和5年度健康診断（口腔検診・体力測定を含む）は2日に分散して実施し、診断結果に基づき指導を行った。ワクチン接種計画（B型肝炎ワクチン・インフルエンザワクチン）を計画し実施した。また、ワクチン接種状況を継続的に把握し学生指導を行った。自己健康管理ファイルで、ワクチン接種の結果を糊付けするようになっていたが、クリアファイルに保管させるよう変更した。R6年度学生ハンドブックの内容について検討し、加除修正を行い、新型コロナウイルス感染症についての項目は削除した。自己健康管理ファイル感染症を発症した場合の対応について加筆した。

学生の課外活動：13団体の各サークルでコロナ前と同様に活動を行った。

奨学金等貸与：日本学生支援機構奨学生推薦のための学生面接を行った。

授業料等の減免：R6年4月以降、規程の改定をする予定。

後援会：加入者が減少しているため、入学式に保護者と共に新入生にも「後援会の活動」について説明する予定。

同窓会：各学科専攻の分科会で、ホームカミングデーや懇親会などを企画し、実施することができたが、分会との連携・支援体制の評価はできていないため、次年度以降に検討を継続していく必要がある。

卒業時調査については、自己点検評価委員会・IR部会で実施した。

2) 進路支援委員会

就職・進路支援：令和5年度進路支援計画を作成し、就職・進路支援を行った。進路ガイドブックに関しては、見直しを実施し、加除修正を行った。全学でのキャリアセミナー第1回（8月9日）「就活の進め方」、第2回（8月24日）「公務員業務説明会」、第3回（3月12日）「就職活動に必要なマナーのツボ」を実施した。ジョブカフェの就職セミナーは、第1回（6月19日）「自己PR作成セミナー」、第2回（9月25日）「エントリーシート対策セミナー」、第3回（2月28日）「個人模擬面接セミナー」を実施した。第2回キャリアセミナーに関しては、学生さんから、千葉県病院局の各病院の看護方式、保健所保健師の業務等について深く知ることができた。また、専門資格を持つ公務員の仕事内容や現状について様々な情報が得られたと大変好評であった。次年度以降も千葉県職員の方に講演していただく方向で検討していきたい。ハローワークによる個別就職活動支援は、7月～8月にかけての利用が多かった。進路情報室の活用は、約180名であった。令和5年度の就職率は、看護学科100%、栄養学科100%、歯科衛生学科96%、リハビリテーション学科理学療法学専攻100%、リハビリテーション学科作業療法学専攻100%であった。

本学の県内就職率 73.5%，県外就職率 26.5%であった。令和 4 年度の県内就職率 68.5%であり，昨年度より 5%の増加となった。看護学科では，県内保健医療機関の就職関連情報が強調されるような周知方法を検討し，約 91%が県内就職となった。

国家試験対策：令和 5 年度支援計画に基づき，各学科専攻で国家試験受験支援を行った。国家試験模擬試験代の助成を後援会から受けた。令和 5 年度の国家試験合格率は保健師 100%，助産師 100%，看護師 100%，管理栄養士 100%，歯科衛生士 100%，理学療法士 100%，作業療法士 96%であった。すべての職種で，全国平均を上回る結果となった。

3. キャンパスハラスメント

- 1) 本学におけるキャンパス・ハラスメントの実態を把握し，その防止施策や意識改革に反映させ，本学の教育・職場環境の改善を図ることを目的として，在学する全学生および教職員を対象にアンケート調査を行った。
- 2) 令和 5 年度は学生 1 名から教員 1 名よりハラスメントを受けているとのことでキャンパスハラスメント防止対策委員会に調査申し入れがあり，キャンパス・ハラスメント調査委員会を立ち上げ調査を行った。

4. 各学科・専攻の取り組み

1) 看護学科

(1) 年度当初の重点課題

本年度は，COVID-19 前の生活に戻ることを踏まえて以下 5 点を課題として取り組んだ。①修学支援・生活支援：学生が充実した学生生活を送れるよう必要な就学・生活支援を行うと共に支援体制を整備する。②進路支援・県内就職の推進：学生が主体的に進路の選択や就職活動をすすめられるような情報提供や支援を行う。また，担任・看護研究担当教員と連携し，学生の県内就職を推進する。③国家試験対策：「合格率 100%」を目指し，効果的に国家試験受験対策を進められるよう支援を強化する。④看護学科卒業生・同窓会：同窓会活動サポートと共に卒業生との関係強化，卒後支援に向けた仕組みをつくる。⑤実習施設の教育担当者と卒前・卒後教育情報交換会を継続して開催するしくみをつくる。

(2) 取組状況

- ①学生の修学支援・生活支援については，担任制や各教員のオフィスアワーなどの各種相談窓口に関する情報を掲示板と共に各学年の Teams より配信して周知を図った。個別履修者，複雑な問題を抱える学生に対しては，直接学生支援にあたる担任が連絡を密にとり，また，担任リーダーのほか，必要に応じて委員長，学科長がサポートに加わり学生支援体制を強化した。
- ②学生の進路支援・県内就職の推進については，直近の進路支援関連の調査結果等を基に，構成内容および開催時期を検討して 3 回のガイダンスを実施した。県内就職の推進に関しては，学生支援課とも連携し，県内保健医療機関の就職関連情報が強調されるような周知方法を検討した。
- ③国家試験対策については，3 年生，4 年生に模擬試験や特別講義を継続して実施し，国試対策の支援を行った。特に看護師・保健師国家試験 100%合格を目指し，学生の模試係，担任と連携しながら模試結果を踏まえたフィードバックや情報提供など年間を通して行った。成績不良者，模試下位学生に対しては，担任と連携し学習支援を強化した。
- ④看護学科卒業生・同窓会については，同窓会看護学科分会の大学側の窓口として，同窓会と連絡・調整・会計監査を行い，今年度も卒業生の支援として「ホームカミングデー」を企画し，開催した。
- ⑤前年度開催した「卒前・卒後教育情報交換会」の評価を踏まえて，今年度も実施した。今後も継続して実習施設および県内就職施設の教育担当者との連携の場とするための仕組みを構築した。

(3) 評価（成果および改善事項）

- ①学生の就学支援・生活支援として，担任は担任リーダーと連携を密にしながら個別履修計画のある学生に対して学習およびメンタル面ともに手厚いサポートを行うことができた。しかし，今年は特に 1 年次生の個別履修計画者が多かった。前期は学修環境の変化はもちろん生活環境の変化のある学生もいることから，担任・担任リーダーからの声掛けを密にするとともに，各授業における学生の学習状況に対して気配り，目配りをしていく必要がある。

- ②学生の進路支援として、学生の希望を踏まえ3回の進路支援ガイダンスを実施したが、ますます早まっている採用試験時期に合わせて、進路支援ガイダンスや3年次調査の時期と内容の整理が必要である。県内就職率は90.7%と高い割合であった。
- ③新卒者の国家試験においては、看護師・保健師・助産師で100%の合格であった。
- ④9月に同窓会の協力を得て、「ホームカミングデー」を開催した。参加者の満足度は高かったが、参加人数の確保が課題となった。参加者の意見などから開催時期を早め、「卒業生を対象としたカリキュラム評価」の場として活用することも検討していく。
- ⑤今年度も3月5日に実習施設および県内就職施設の教育担当者との「卒前・卒後教育情報交換会」を開催し、活発な情報交換を行うことができた。参加者の満足度も高く、実習施設教育担当者との連携の場が構築できた。

(4) 次年度の方策

- ・学生の就学状況に合わせて支援体制を強化する。
- ・社会情勢に合わせた進路支援ガイダンスおよび就職・進学活動調査の時期と内容を検討し、実施する。
- ・ホームカミングデーと卒前・卒後教育情報交換会を継続して開催し、新任看護職者の支援体制を強化する。

2) 栄養学科

(1) 年度当初の重点課題

「管理栄養士特別演習」を活用し、国家試験100%合格を目指す。就職については、様々な分野に就職活動を経験した4年生と卒業生からアドバイスをいただき、就職活動が円滑に進むようにする。

(2) 取組状況

各学年に担任・副担任を1名ずつ配置し、面談(2回)や個別相談等の窓口として学生支援にあたった。さらに学科会議で学生の様子を報告、共有し、学科全体で学生支援を行った。臨地実習(臨床栄養(必修)10施設・給食経営管理(必修)15施設・公衆栄養(選択)12施設および栄養教育実習(選択)県内4校)は、各担当教員が実習施設と綿密な打ち合わせを行い、事後指導として報告会を開催した。

就職活動の支援は3年次から担任・進路支援委員を中心に活動の諸注意、県内の公務員試験や医療施設・福祉施設への積極的活動の支援を行った。公務員希望者には、先輩(公務員合格者)による受験対策講話や業務内容の説明会を実施した。4年次は担任・副担任による就職活動の進捗状況の報告に従い、学生の希望に応じて学科教員で提出書類の添削・指導、模擬面接を実施した。

サークル活動・大学祭は感染予防に留意しながら実施した。いずみ祭では、コロナ禍前と同様に飲食物の提供が可能となり、栄養学科の実習施設を調理や食品保存のために貸出した。2年生によるドーナツ販売がなされた。学習・生活指導の相談などは各教員が担当した。国試対策は科目担当者による国試対策講座、業者模試5回・内部模試2回を計画・実施、さらに成績不良者には、模試終了後の面接指導および学習アドバイスを実施した。

(3) 評価(成果および改善事項)

卒業生22名。管理栄養士国家試験合格率100%、卒後の進路は就職22名、就職率100%であった。県内就職率50%となり。就職先の内訳は病院4名、官公庁(行政)4名、一般企業(管理栄養士・栄養士として給食会社、保育所、薬局等に勤務、その他)14名であった。次年度は引き続き国家試験合格率100%達成と県内就職率の向上を図りたい。

(4) 次年度の方策

「管理栄養士特別演習」を活用し、国家試験100%合格を目指す。就職については、様々な分野に就職活動を経験した4年生と卒業生からアドバイスをいただき、就職活動が円滑に進むようにする。

3) 歯科衛生学科

(1) 年度当初の重点課題

歯科衛生士国家試験合格率 100%を目指し、千葉県歯科医師会、千葉県歯科衛生士育成協議会等の関連団体と連携を図り、50%以上の県内就職率を目指す。

(2) 取組状況

学生に対する学修・生活等の支援は、主に教務委員会、学生委員会、進路支援委員会の各委員が行っているが、さらに担任・副担当制の導入により、学生を全般的にサポートする体制を整えている。具体的には履修ガイダンス、オフィスアワーによる学修支援、キャンパスハラスメントへの対応、健康管理に関する支援、個別学生相談への対応などである。

学修支援については、各教員が授業に対応した教材作成とそれを用いた講義を展開し、演習・実習においては令和5年度に引き続き感染予防対策を講じて実施した。学外の臨床・臨地実習では、実習施設と事前打ち合わせを行い、実習前には施設担当者による特別講義を行って連携を図り、実習が円滑に遂行できるよう体制を整えた。

進路支援については、求人状況に関する情報提供、エントリーカード・履歴書の記載方法、小論文の添削および模擬面接等の対策をハローワーク（公共職業安定所）の協力を得ながら支援した。国家試験対策については、進路支援委員が中心となり、学外全国統一模擬試験を3回実施するとともに、試験科目に対応した特別講義を実施して理解の強化を図った。

(3) 評価（成果および改善事項）

歯科衛生士国家試験については教員が積極的に支援を行った。新卒者は全員が合格したが、既卒者1名は不合格であった。県内就職率については、関係団体との連携を行うも38%であった。

(4) 次年度の方策

歯科衛生士国家試験合格率 100%を目指し、千葉県歯科医師会、千葉県歯科衛生士育成協議会等の関係団体と連携を図り、50%以上の県内就職率を目指す。

4) リハビリテーション学科理学療法学専攻

(1) 年度当初の重点課題

各学年担任は、半期に一度、受け持ち学生と面談し、学習状況、生活状況、理学療法士になるための意欲を確認しながら、学年進行に努める。精神状態の不調者以外で学習意欲の低い学生に対して、各学年担任は学生の授業や臨床実習へのモチベーション確認を心掛ける。特に精神状態の不調が生じやすい臨床実習時には、精神状態の不調により実習が中断とならないように工夫する。臨床実習中は、学生の日常生活態度等の変化を見逃さないように、毎週はじめに学生から睡眠時間等を記載した日常生活記録を提出させ精神状態の把握を心掛けるようにする。

(2) 取組状況

各学年担任による半年に一度の面接を実施している。その他で相談がある場合や欠席などが多い場合は、個別対応を行っている。9月下旬に卒業生を囲む会を引き続き開催し、学生の学習意欲を引き出すように心掛けている。また学生の問題に対して早期に対応できるよう、毎週の専攻会議において教員の情報共有をしている。進路支援は担任及びゼミの担当教員が中心となり、国家試験対策は国家試験対策担当教員を中心に対応を行っている。国家試験の模擬試験で成績が伸び悩んでいる学生には、ゼミの担当教員又は国家試験担当教員が個別対応を行っている。なお個人でのみの国家試験の勉強は極力避けるよう、できるだけ大学にて勉強を行うように促した。評価実習から総合実習まで日常生活記録を学生に記録させ、毎週はじめにメール等で提出することを義務づけるなど精神状態の不調を早期に把握するように試みている。

(3) 評価（成果および改善事項）

臨床実習は大きな問題もなく終了出来た。21名が国家試験受験し、全員が合格した。県内就職者は17名、県外は4名で千葉県から要望がある県内就職率70%以上の数値目標を上回った。2年生で留年者、退学者が出た。留年、退学が出るのは1,2年次が主である。今後何らかの対応をとる必要がある。

(4) 次年度の方策

国家試験合格率 100%、県内就職率 70%以上を維持するとともに、様々な理由で学習意欲の低くなってしまった学生を早期発見し、対応できるように、学年担任を中心に、各教員間の連絡を密にする。

5) リハビリテーション学科作業療法学専攻

(1) 年度当初の重点課題

学生の幕張・仁戸名のキャンパス間移動に1時間程度かかり、片道1,000円程度の運賃を考慮し、カリキュラム上、1年生の授業は基本的に幕張キャンパスで実施しているが、学生の負担を減らすため水曜日に作業療法の専門科目関連の授業を仁戸名キャンパスで実施している。授業内容は、作業療法概論をはじめとして基礎作業療法、基礎作業療法実習、体験実習のオリエンテーションなど、実際の作業療法の設備を使用して行っている。2年生は火曜日と木曜日は仁戸名キャンパスで、他の曜日は幕張キャンパスで学習している。3・4年生はほぼ毎日仁戸名キャンパスで学習している。特に3年生は通学に便利なアパートを見つけるなど自主的な方法で取り組んでいる。作業療法士国家試験対策として、4年生からは選択科目として「作業療法総合演習」を導入し、学習環境の調整や模擬試験の実施を行っている。作業療法総合演習では、グループ学習や国家試験対策、学生相談を行うために個別指導を行っている。

(2) 取組状況

作業療法学専攻では担任・副担任制を採用しており、学生の作業療法士としての適性や就職に関する個別の問題に対応している。重要な事案には、担任・副担任に加えて作業療法学専攻長も関与し対応している。教員は学生支援の一環としてサークル顧問も担当している。学生間の交流促進のために、チューター制度を導入し、学生が自主的に1年生から4年生までを小グループに分けて交流会などを実施している。また、教員が仁戸名キャンパスに常駐しているため、必要に応じて幕張キャンパス(1・2年生)との連絡をチャットやメールなどで取り、相談時間を設けている。作業療法学専攻における学生支援の課題としては、SNSなどの活用による改善を進めつつも、2キャンパス間の遠隔による弊害に対する解決策を今後検討する必要がある。進路支援や国家試験対策に関しては、週に1回の専攻会議を通じて情報共有と対策の検討を継続している。

(3) 評価(成果および改善事項)

少人数クラスによる個別指導が対面で実現可能となり、充実が図られている。在学生間の対面交流が増加し、チューター制度の充実が進展しているが、先輩から後輩への対面での情報伝達が十分ではない課題が残っている。卒業生の交流会なども計画的に実施しており、千葉県内での就職率は高水準を維持している。

(4) 次年度の方策

次年度も引き続き、「作業療法総合演習」を中心に国家試験への対応を強化してきてる。また、リハビリテーション学科として、卒業生向けのホームカミングディなどのイベントを理学療法学科と協力して計画している。

5. 令和5年度千葉県立保健医療大学卒業時調査

1) 調査の概要

本学の学生支援(修学支援・生活支援・進路支援)に対する評価を明らかにし、学生支援の改善・充実を図ることを目的に、4年次学生を対象に質問紙調査を行った。調査内容は、①本学の教育に対する満足度、②4年間の学生生活について、③学生生活・学生支援に対する満足度、④実施した就職・進学活動について、⑤学士授与の方針の達成度に関する自己評価、⑥大学の教育に対する意見である。調査時期は、2024年2月から3月で、Webにて回答を回収した。

2) 調査の結果

(1) 対象者の概要

卒業生171名中154名からの回答が得られた(回収率90.0%)。昨年より18%上回る回収率となった。所属学科は、看護学科76名(49.4%)、栄養学科22名(14.3%)、歯科衛生学科15名(9.7%)、リハビリテーション学科理学療法学専攻16名(10.4%)、リハビリテーション学科作業療法学専攻25名(16.2%)であった。

(2) 本学の教育に対する満足度

「特色科目」「一般教養科目」「ICT教育」「保健医療基礎科目」「おもに学内で実施の専門科目(学習内容・教員の指導)」「学外実習での専門科目(学習内容・臨地実習指導者による指導・教員の指

導・実習施設までの交通の便・実習施設における実習環境)」「時間割」「4年間のカリキュラム」「GPAの活用」の14項目で、「とても満足」と「やや満足」と回答したのは平均で89.4%となり、本学の教育に対する満足度が高いことが伺えた。

(3) 本学の教育目標への到達度

学位授与の方針の達成度について、「倫理観とプロフェッショナルリズム(3項目)」「コミュニケーション能力(4項目)」「実践に必要な知識(6項目)」「健康づくりの実践(8項目)」「健康づくりの環境の整備・改善(3項目)」「多職種との協働(4項目)」「生涯にわたる探求心と自己研鑽(4項目)」7分野で32項目の質問をした。32項目のうち20項目において90%以上、10項目において80%以上、2項目において70%以上の学生が「十分に発揮できる」「ある程度発揮できる」と回答し、本学の教育目標が概ね達成できたことが伺えた。低くなった2項目は、「コミュニケーション能力(国内・外からの情報を入手して、保健医療に活用し発信できる)」(70.3%)と「健康づくりの実践(最新の科学的エビデンスに基づいた健康づくりを提供できる)」(79.3%)であった。

(4) 4年間の学生生活に対する取り組みの程度

「特色科目の学習」「一般教養科目の学習」「保健医療基礎科目の学習」「専門科目の学習」「臨床(臨地)実習の学習」「国家試験のための学習」「進路・キャリアの検討」「他大学との学生との交流」「サークル活動」「いずみ祭」「友達等との交流」「先輩・後輩等との交流」「教員との交流」「家族との交流」「アルバイト」「ボランティア」「趣味・レジャー」の17項目について、取り組みの程度および活動から得たものの大きさを4段階で質問した。

17項目のうち11項目において80%以上の学生が「とても熱心に取り組んだ」「やや熱心に取り組んだ」と回答し、得たものも「非常に大きい」「やや大きい」と回答した。取り組みの程度の低い活動は、「いずみ祭」(18.2%)、「他大学との交流」(23.4%)、「サークル活動」(29.2%)、「ボランティア」(29.9%)であった。いずみ祭は2年生が中心となって開催されるが、回答者が2年次のいずみ祭は中止であった。他者との交流が少なかったのは、昨年同様、コロナ禍の影響が伺えた。

「先輩・後輩との交流」(42.2%)となり、昨年より13.2%上昇したのは、チャットやTeamsなどで交流を深めた可能性が示唆された。

(5) 本学の学生支援に対する満足度

学生支援について「学生ハンドブック」「オフィスパワー」「掲示による連絡」「学生用メールシステム」「office365」「所属学科専攻の教員の対応」「所属学科専攻以外の教員の対応」「事務職員の対応(幕張・仁戸名)」「図書館職員の対応(幕張・仁戸名)」「健康診断」「履修支援」「就職・進学支援」「国家試験受験への支援」「長期休業」「学生保険」「奨学金制度・授業料減免制度」「カウンセラーによる学生相談」「教員による学生相談」「サークル活動への支援」「休学者への支援」「5年以上在籍の学生への支援」「事務手続き(幕張・仁戸名)」「施設の清掃(幕張・仁戸名)」「幕張売店(Boss マート)」「仁戸名無人ワゴン販売」「学生生活への全体評価」の29項目について、満足の程度を4段階で質問した。

29項目のうち16項目の学生支援に関して「とても満足」「やや満足」が60%以上と回答された。満足度の高いのは「所属学科専攻の教員の対応」(88.3%)、「所属学科専攻以外の教員の対応」(90.3%)であった。これらは、学生へのきめ細やかな支援ができていることが示唆された。満足度の低いのは、昨年と同様に「休学者への支援」(14.3%)、「5年以上在籍の学生への支援」(16.2%)であった。また、仁戸名キャンパスの事務職員の対応(26.6%)、図書館職員の対応(35.7%)、事務手続き(22.7%)、施設の清掃(32.5%)、無人ワゴン販売(13.6%)となり、幕張キャンパスより支援に対する満足度が低いことが伺えた。「学生生活への全体評価」は「とても満足」「やや満足」をあわせて、73.4%となり、昨年度の85.8%より低くなっていた。仁戸名キャンパスへの支援体制強化が必要なことが示唆された。

学生生活に関する施設・設備については、「とても満足」「やや満足」と回答したものが、仁戸名キャンパスを利用する学生において、「講義室の空調」(20.1%)、「講義室の机・椅子」(16.2%)、「講義室の視聴覚設備」(20.1%)、「実験・実習室の空調」(19.5%)、「実験・実習室の机・椅子」(21.4%)、「実験・実習室の視聴覚設備」(22.7%)、「情報処理室」(20.8%)、「駐輪場」(16.9%)、「保健室」(20.3%)であった。「講義室」、「実験・実習室」とともに学習環境が良く

ないことが伺える。幕張キャンパスと比較して、仁戸名キャンパスの施設整備の満足度を上げ、学習環境を整える改善が必要と思われる。また、トイレについては、「とても満足」「やや満足」と回答したものが、幕張（58.1%）、仁戸名（18.8%）であった。昨年の幕張48.9%、仁戸名9.2%からは、わずかに改善が見られたが、両キャンパスともに、便器の様式化を継続して、トイレの環境を整える必要があることが明らかとなった。

(6) 実施した就職・進学活動

「活動開始時期」「受験した施設・企業数」「内定を得た施設・企業数」「実施した就職活動」「就職にあたり重視した条件・基準」「受験した進学先」などについて質問した。

活動開始時期は、昨年と同様に「3年次後期」が最も多かった（36.6%）。受験した施設・企業数は「1カ所」が昨年同様、最も多く（54.5%）、次いで「2カ所」（19.2%）であった。内定を得た施設・企業数は「1カ所」が多かった（昨年82.6%、本年71.2%）。

実施した就職活動は、「施設ごとの就職説明会」「合同就職説明会」「施設・企業訪問・見学」の順で昨年と同様であった。いずれも「役に立った」と高い割合で回答されており、活用した者にとっては有効であった。また、全学および学科・専攻で実施しているキャリアセミナーや進路支援ガイダンスについては、参加した学生はすべての講座で、80%以上が「役に立った」と回答した。

就職に当たり重視した条件・基準は「給料」「施設・病棟の雰囲気」「規模・機能（高度医療を行う病院、長期療養病院等）」の割合が高く、例年の結果と同様であった。

進学については、1名の回答があった。

6. 評価（成果および改善すべき事項）

学生部および学生委員会・進路支援委員会は、所掌事項に関する活動を計画的に実施することができた。それらの活動のうち、令和5年度の成果として特筆すべきことは以下の点と考える。

学生支援としては、①新たな取り組みとして、新入生に対し、本学のAED設置場所を周知し、AED取り扱いの知識をつけていただくために、消防庁がインターネットで公開している「応急手当WEB講習 普通救命講習編」を受講後、「受講証明書」を提出させた。医療職を学ぶものにとって、必要な知識を身につけることは重要なので、今後も継続していけるようにする。②「学生向け講習会」を8月9日に実施した。千葉西警察の方に「犯罪に巻き込まれないように、特殊詐欺や薬物関係の話を実際の経験を踏まえて防犯講話」をしていただいた。学生の感想からは、大変有意義な講習会であることが示唆され、長期休暇になる前に実施することが望ましいと考える。③台風とコロナ禍で中止になっていた「いずみ祭」を4年ぶりに対面で開催することができた。来場者は10月8日（晴天）455名、9日（雨天）241名 計696名あった。引き継ぎのない中、学生が力を合わせて開催できたことは大きな成果といえる。情報共有などの反省点を振り返り、次年度に繋げていけるように努める。④学生委員会のFDとして、「発達障害の学生の対応について」をテーマで開催し、アンケート結果は、大変好評であった。次年度は、ハイブリットでできるように事務局に改善をお願いしたい。⑤学内の施設整備や福利厚生については、学生や保護者からの意見を、事務局から県にあげていただき、学生が良い環境で学生生活を送れるようにする必要がある。⑥卒後の教育支援については、分科会の役員の方と話し合い、本学の支援体制整備が必要と考える。

進路支援については、①キャリアセミナー年3回やジョブカフェの就職セミナー年3回を対面で実施することができた。アンケート結果は、好評であった。令和5年度は、県内就職率が昨年より約5%増加となり、良い傾向と言える。今後も継続できるように、進めていきたい。②進路支援委員会として初めてのFDを開催できた。テーマは「医療系大学における教職員の進路支援」で、アンケート結果は大変好評だった。③国家試験については、すべての職種で全国平均を上回り大きな成果といえる。各学科専攻で年画計画に従い、継続できるように努めたい。

7. 次年度の方策

学生委員会の重点施策では、各学科・専攻と同窓会分科会との連携まではできたが、支援体制の評価をするまでには至らなかった。体制を整備・改善し、情報共有できるようにする。進路支援委員会では、所掌事項に関する活動を計画的に行う。県内保健医療機関と連携し、県内就職の推進に努める。国家試験合格率100%を目指し、大学全体として取り組んでいく。

Ⅶ 社会連携・社会貢献

1. 社会との連携・協力に関する方針

広く開かれた大学として、地域の人々および地域施設との連携や交流を通して、地域社会へ貢献する。

2. 年度当初の重点課題

新公開講座、出前講座に関する評価結果に基づく講座の改善・充実する。

全学科協働による SC を基盤とする介護予防プログラムを完成させ、次の方向性を検討する。

3. 活動内容

1) 公開講座

令和 5 年度の公開講座は、「人生 100 年時代を元気で乗り切るために」をメインテーマとし、看護、栄養、リハビリ（理学）、歯科衛生の 4 学科の講師により「よい眠りを誘って健康寿命を延ばそう！」「脳から考える心と身体の健康」「“呼吸”のリハビリ ～からだを動かして健康増進～」「健康寿命の延伸はお口の健康からー口腔機能の衰えを予防しましょうー」のタイトルで開催した。10 月 8 日は対面で 101 名、10 月 22 日は Zoom ウェビナーで 46 名の参加があった。参加者アンケートでは各講演とも「参考になる」「役に立つ」等の肯定的な回答が多く認められた。

2) 千葉県健康福祉部との連携協力

令和 5 年 11 月 2 日「大学の概要及びこれまでの取組と成果」について県取組報告会を県庁にて実施した。主に「新型コロナウイルスが千葉県の高齢者に与えた影響」、「域包括ケアを担う看護職に求められる実践能力向上にむけた研修企画」について成果の報告を行った。

3) 共同研究等による学外組織との連携

UR 都市機構及びいすみ市と連携し、介護予防プログラムである「ほい大健康プログラム」を全学科協働で実施した。令和 5 年度は、千葉市内 UR 団地で 3 回、いすみ市で 2 回開催した。また、本学を拠点として幕張キャンパスで 2 回開催した。プログラムの参加者は述べ 68 名で、プログラムの企画実施に携わった教員は述べ 43 名、当日の運営に携わった学生ボランティアは述べ 39 名であった。参加者アンケートではプログラムの満足度は高く、プログラムに参加しての変化として「物事に前向きになった」「知識が増えた」「やる気が出た」等の回答が認められた。

4) 各学科・専攻の活動状況

(1) 看護学科

①地域におけるボランティア活動等：27 件

千葉県内の活動として新ほい大プログラム、コツコツ学ぼうセミナー、CHIBASHI 子ども未来会議、千葉県医療的ケア児家族会、千葉つぼみの会イベント等 27 件であった。

②地域への保健医療活動：9 件

X Games Chiba 会場客救護室看護師（X Games Japan 組織委員会）、初期医療言語サービスボランティア研修、みつわ台総合病院診療・技術指導等、9 件であった。

③審議会、委員会、国家試験委員等の実績：以下 17 件の委員等を務めた。

審議会委員 5 件（文部科学省職業実践力育成プログラム(BP)認定審査委員会委員、柏市保健衛生審議会等）、委員会委員 11 件（千葉県現任教育推進会議委員長、千葉県介護予防市町村支援検討会議委員、千葉県高齢者保健福祉計画策定・推進協議会委員、千葉県移行期医療支援体制整備事業連絡協議会、千葉市地域自立支援協議会検討会医療的ケア児等支援部会、墨田区介護保険事業運営協議会委員他）

国家試験委員等 1 件

④職能団体委員等：以下計 14 件の委員等を務めた。

理事 3 件（日本看護系大学協議会，千葉県看護協会），部局委員長 2 件（日本看護系大学協議会
高等教育行政対策委員会副委員長，日本看護学教育評価機構 評価委員会副委員長），委員 9 件（日
本看護協会，千葉県看護協会，日本重症心身障害福祉協会他）

⑤学会，学術団体への貢献：

・所属学会・学術団体

教員が会員となっている学会は 100 近くあり，主なものとして日本看護科学学会，千葉看護学会，
日本看護学教育学会，日本看護管理学会，日本地域看護学会，日本公衆衛生学会，日本母性看護学
会，日本看護研究学会，日本公衆衛生看護学会，日本母性衛生学会，文化看護学会等があった。

・学会，学術団体への貢献：以下計 117 件の貢献があった。

学会理事 12 件，学会監事 1 件，学会代議員・評議員 10 件，学会内委員会委員 48 件（学会誌編集，
学会誌査読，教育，広報，表彰他），学術集会各種委員会委員 46 件（企画，実行，査読他）

⑥講演会／研修会の講師・研究指導等：以下 103 件を務めた。

講演会・研修会の講師等は 74 件（厚生労働省健康・生活衛生局健康危機における保健活動推進会
議，国立保健医療科学院主催公衆衛生看護研修，千葉県看護協会主催：新人教育担当者研修，看護
教員養成講習会，看護管理者能力育成研修，認定看護管理者教育課程他，千葉県医療的ケア児等支
援センター主催 支援者養成等研修，千葉県主催：中堅前期保健師研修会，特定健診・特定保健指
導経験者研修，保健師管理者能力育成研修他，県内医療機関主催：千葉県循環器病センター，亀田
総合病院，県内保健所主催：習志野保健所，夷隅保健所，山武保健所，印旛保健所他，その他：墨
田区他）

研究指導／サポートは，55 件 12 施設：県内医療機関 4（千葉県がんセンター他），県内保健所 3
（君津・香取・印旛），県内市町村 3（市原市，山武市他），その他 2：墨田区，東京都立東部療育セ
ンター他）であった。

⑦その他の社会貢献：なし

(2) 栄養学科

①地域におけるボランティア活動等：15 件

・千葉県内：7 件

ちば食育応援隊「ベイタウンまつり」，千葉市子ども食堂，千葉市食育&消費者教育情報誌 Vol.9
作成協力，UR ほい大健康プログラム（さつきが丘団地，いすみ市，健康教室）3 件，千葉市子ども
食堂ネットワーク

・千葉県外：8 件

食事・栄養相談（東京都大田区），二小青少年対策地区委員会副会長（小平市），だれでも食堂「わ
らい」副代表，子ども食堂 3ヶ所（小平市），健康課題児童・生徒における海洋教育協働探究カリキ
ュラム開発プロジェクト「海・空・子どもプロジェクト」実行委員，鈴木糖尿病内科クリニック栄
養指導

②地域への保健医療活動（診療・技術指導等，活動期間，場所等）：5 件

地域高齢者向け低栄養予防講話（千葉市美浜区，流山市）2 件，鈴木糖尿病内科クリニック栄養
指導（月 1 回），ほい大健康プログラム（UR 団地），成田市生涯大学院

③審議会，委員会，国家試験委員等の実績：14 件

文部科学省科学技術・学術審議会・食品成分委員会及び作業部会専門委員，独立行政法人国立病
院機構千葉医療センター倫理委員会委員，ISO/TC34 国内審議団体事務局（FAMIC 国際
課）ISO/TC34/SC12 国内対策委員，独立行政法人医薬品医療機器総合機構 日本薬局方原案検討委員
会（総合委員会，国際調和検討委員会，生物試験法委員会，専門委員），一般財団法人医薬品医療機
器レギュラトリーサイエンス財団 生物薬品標準品評価委員会，千葉県管理栄養士採用試験試験問
題作成委員，日本糖尿病・妊娠学会 糖尿病と妊娠にかかわる科学的根拠に基づく医療の推進プロ
ジェクトワーキングメンバー，日本人事試験研究センター 専門試験（栄養士／管理栄養士）試験
問題作成委員，船橋市ふなばし健やかプラン 21 推進評価委員会委員，厚生労働省管理栄養士国家試

験委員会

④職能団体委員等：

所属職能団体：日本栄養士会、千葉県栄養士会、神奈川県栄養士会、東京都栄養士会

委員会・役員等：千葉県栄養士会（学術部理事，研究教育事業部役員2件，生涯教育委員，栄養指導研究所運営委員，千栄公式 SNS サイト運営委員）

⑤学会，学術団体への貢献

・所属学会・学術団体：43 団体

日本栄養改善学会（10名），日本栄養・食糧学会（5名），日本生化学会（3名），日本調理科学会（3名），千葉県学校保健学会，日本疫学会，日本解剖学会，日本家政学会，日本給食経営管理学会，日本公衆衛生学会，日本食品科学工学会，日本糖尿病・妊娠学会，日本病態栄養学会，日本臨床栄養学会（各2名），教育史学会，中部教育学会，日本英語教育史学会，日本栄養学教育学会，日本応用糖質科学会，日本官能評価学会，日本教育学会，日本教育工学会，日本教育心理学会，日本教育政策学会，日本教育法学会，日本健康医学会，日本健康教育学会，日本高血圧学会，日本脂質栄養学会，日本小児科学会，日本女性医学学会，日本神経科学会，日本心理学会，日本成長学会，日本農芸化学会，日本パーソナリティ学会，日本発達心理学会，日本ビタミン学会，日本肥満学会，日本分子生物学会，日本防菌防黴学会，日本補完代替医療学会，日本母性衛生学会，日本マイコプラズマ学会，日本薬学会，日本臨床栄養代謝学会，日本臨床化学会，日本小児保健協会，日本臨床栄養協会，DOHaD 研究会，日本伝統食品研究会（各1名）

・学会，学術団体への貢献：34 件

日本栄養改善学会評議員（7名），日本栄養改善学会理事，日本栄養改善学会関東・甲信越支部会副支部長，日本栄養・食糧学会参与，日本栄養・食糧学会倫理審査委員会委員，日本ビタミン学会代議員，日本ビタミン学会トピックス等委員会委員，日本ビタミン学会幹事，JNSV 編集委員，日本官能評価学会常任理事（企画），日本官能評価学会査読，（一財）日本科学技術連盟官能評価セミナー委員長，官能評価セミナー，ベーシックコース感性官能評価担当，日本薬学会微生物試験専門委員，日本防菌防黴学会 GMP とバリデーションをめぐる諸問題に関するシンポジウム企画・運営委員，日本疫学会代議員，日本病態栄養学会評議員，日本糖尿病・妊娠学会評議員，日本糖尿病・妊娠学会：妊娠糖尿病・糖尿病，合併妊娠の妊娠転帰および母児の長期予後に関する登録データベース構築による多施設前向き研究 DREAMBee Study 検討委員，栄養学雑誌編集委員，日本公衆衛生学会公衆衛生分野における行政管理栄養士のあり方委員会委員，日本公衆衛生学会代議員，日本伝統食品研究会幹事（庶務），日本教育政策学会事務局書記，千葉県学校保健学会監事，日本栄養学教育学会編集委員，千葉県栄養士会学術部理事，日本家政学会査読

⑥講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等：17 件

本学公開講座，千葉県教育振興部保健体育課：食に関する健康課題対策支援事業の全体研修，千葉市立青葉看護専門学校教員向け学習会，千葉県学校給食センター研究会，千葉県栄養士会生涯教育研修会，千葉県栄養士会研究教育事業部研修会，印旛保健所管内栄養士会研修会，千葉県教育委員会栄養教諭初任者研修，坂戸市葉酸プロジェクト栄養士研修会，エンドトキシン試験法セミナー～エンドトキシン試験法の最近の動向～（2件），2023 Global Endotoxin Testing Summit-Virtual seminar series，株式会社 LEOC（給食受託会社）プロフェッショナル育成を目的とした社内研修制度「LEOC 大学院」における栄養学部，千葉市教育委員会千葉市専門研修，千葉県教育庁：中堅教諭等資質向上研修，千葉市こども未来局調理員・用務員・技能員・栄養士研修，日本栄養改善学会関東・甲信越支部：実践栄養学研究セミナー

(3) 歯科衛生学科

①地域におけるボランティア活動等：6 件

・千葉県内：3 件

ほい大健康プログラム（2023年10月28日いすみ市岬ふれあい会館，2023年11月11日URさつきが丘団地）．歯科診療室健康教室（2024年1月27日，本学A棟A306教室）．健康体操教育指導（2020年8月～現在に至る，流山市南部地域包括支援センター）．松戸市東部地区社会福祉協議会

- ふれあい広場（2023年11月，松戸第5中学校）。
- ・千葉県外：1件
 - 神奈川県横須賀市浦上台北町内会清掃活動（横須賀市）。
 - ②地域への保健医療活動（診療・技術指導等，活動期間，場所等）：8件
 - 歯科診療（2023年4月1日～2024年3月31日，本学歯科診療室）。継続個別支援・歯科診療補助の実施（2023年4月1日～2024年3月31日，本学歯科診療室）。千葉市口腔がん検診（2023年7月1日～2024年1月15日，本学歯科診療室）。千葉市口腔ケア事業（2023年4月1日～2024年3月31日，本学歯科診療室）。健康教室（2024年1月27日，本学A棟A306教室），手術指導（2011年4月1日～2024年3月31日，総合病院国保旭中央病院）。健康体操教育指導（2022年4月～2023年3月，流山市南部地域包括支援センター）。幕張ファミリーハイツ体操教室（2023年4月～2024年3月，千葉市美浜区）。第5回千葉県立保健医療大学歯科衛生士研修会（2024年3月10日千葉県立保健医療大学，対面開催）。
 - ③審議会，委員会，国家試験委員等の実績：2件
 - 千葉県歯科衛生士育成協議会役員。同運営委員。
 - ④職能団体委員等：13件
 - 全国歯科衛生士教育協議会理事。同教育委員会理事。同教育委員会委員。同教育問題検討委員会委員。同認定委員会委員長。歯科衛生学モデル・コア・カリキュラム検討会委員。同認定委員会委員。全国大学歯科衛生士教育協議会理事。同監事。同教育・研究委員会委員。千葉県歯科衛生士会選挙管理委員。同総務理事。
 - ⑤学会，学術団体への貢献
 - ・所属学会・学術団体：総数54会
 - 日本口腔衛生学会。日本歯科衛生教育学会。日本歯科衛生学会。日本歯科保存学会。日本補綴歯科学会。日本歯周病学会。日本歯科審美学会。日本歯科色彩学会。日本口腔外科学会。日本口腔内科学会。日本口腔科学会。International Association of Oral and Maxillofacial Surgeons。Asian Association of Oral and Maxillofacial Surgeons。日本口腔診断学会。日本臨床口腔病理学会。日本臨床細胞診学会。日本有病者歯科医学会。日本老年歯科医学会。日本小児歯科学会。日本看護技術学会。日本医療安全学会。日本公衆衛生学会。日本顎顔面インプラント学会。日本医学教育学会。日本歯科医療管理学会。社会歯科学会。日本体力医学会。日本体育学会。日本測定評価学会。日本バイオメカニクス学会。日本栄養改善学会。日本栄養・食糧学会。大学体育連合。日本疫学会。American College of Sports Medicine。日本咀嚼学会。日本総合歯科学会。日本口腔ケア学会。日本摂食嚥下リハビリテーション学会。ヘルスカウンセリング学会。日本歯科医学教育学会。日本大学口腔科学会。日本歯科基礎医学会。東京歯科大学学会。北海道医療大学歯学会。日本障害者歯科学会。国際ICT利用研究学会。情報文化学会。教育システム情報学会。コンピュータ利用教育学会。情報システム学会。日本環境教育学会。日本スポーツ歯科医学会。
 - ・学会，学術団体への貢献：24件
 - 日本歯科衛生学会査読委員。同学会総務委員。同学会倫理審査委員会委員。日本歯科衛生教育学会理事長。同学会常任理事。同学会理事。同学会評議員。同学会監事。同学会編集委員会委員。同学会編集委員会査読委員。同学会編集委員会事前抄録担当委員。同学会規程検討委員会副委員長。同学会査読委員。同学会研究倫理審査委員。日本大学口腔科学会評議員。日本口腔科学会評議員。日本口腔内科学会評議員。日本医療安全学会理事。同学会代議員。同財務委員会委員。日本歯科医学教育学会評議員。日本口腔衛生学会歯科衛生士委員会委員。国際ICT利用研究学会理事。日本環境教育学会広報委員。
 - ⑥講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等：9件
 - 2023年度東京歯科大学大学院講義。臨床・基礎研究に必要な統計解析の基本について。東京歯科大学大学院生。2024年1月25-26日。東京歯科大学。第33回近畿北陸地区歯科衛生士教育協議会：これからの歯科衛生士教育に求められること（特別講演），2023.7.28，滋賀県立県民交流センター。関東甲信越要管理学会第29回学術大会：これから求められる歯科衛生士とその教育－卒後教育，リカレント教育の必要性－（教育講演），2023.11.12，神奈川歯科大学横浜クリニック7階会議室。

柏シルバー大学院生涯課程D組「運動支援と後期高齢者の関節炎とのかかわり」,2024年2月19日,東葛テクノプラザ.令和5年度日歯認定歯科助手講習会.千葉県歯科医師会.高齢者への対応,2023年9月24日.千葉県立保健医療大学.

大学.講演:お口の健康~お口の探検と口腔機能の向上~,ほい大健康プログラム,いすみ市,2023年10月28日,岬ふれあい会館.研修会講師:第5回千葉県立保健医療大学歯科衛生士研修会,口腔機能低下症について,2024年3月10日,千葉県立保健医療大学.講話:定期的な歯科受診で得られるメリット,2023年11月13日,講話:定期的な歯科受診で得られるメリット,2024年2月8日,流山市南部地域包括支援センター.公開講座講演:健康寿命の延伸はお口の健康から~口腔機能の衰えを予防しましょう~,2023年10月22日,千葉県立保健医療大学.

(4) リハビリテーション学科理学療法学専攻

①地域におけるボランティア活動等:2件

- ・「大学・高専連携事業基金」事業(共同研究) 視覚・動作誘導による自動車の乗降支援の研究.東京都立大学.(坂崎)
- ・高大連携活動 東京都立南多摩中等教育学校学生への研究指導.東京都立大学.(坂崎)

②地域への保健医療活動(診療・技術指導等,活動期間,場所等):8件

- ・ちばプラン市民健康づくり大会.2023年10月14日.きぼーる.(堀本)
- ・千葉県いすみ市共催「ほい大健康プログラム」.2023年11月25日.いすみ市役所.(堀本)
- ・さつきが丘団地ほい健康大プログラム.2023年12月2日.さつきが丘団地.(堀本)
- ・2023年度臨床実習指導者講習会世話人.2024年2月3日~4日.千葉県立保健医療大学.(大谷)
- ・日本 ACLS 協会主催/BLS インストラクター.2023年6月1日,10月23日.亀田総合病院.(室井)
- ・千葉県いすみ市共催「ほい大健康プログラム」.2023年11月25日.いすみ市役所.(江戸)
- ・千葉県立保健医療大学公開講座.2023年10月22日.オンライン.(稲垣)
- ・千葉県いすみ市共催「ほい大健康プログラム」.2023年11月25日.いすみ市役所.(稲垣)

③審議会,委員会,国家試験委員等の実績:特になし

④職能団体委員等:14件

- ・千葉県理学療法士会 障がい児・者支援部部員,研究倫理審査委員(堀本).
- ・千葉県理学療法士会 学術誌編集委員会副委員長,研究倫理審査委員(大谷).
- ・千葉県理学療法士協会 生涯学習局企画研修部部長,(室井).
- ・千葉県理学療法士会代議員,学術企画研修部員,千葉ブロック介護予防推進リーダーWG メンバー,臨床実習指導者講習会世話人,千葉ブロック副ブロック長.日本理学療法士協会 イオン株式会社との就労支援事業運営スタッフ.(江戸)
- ・千葉県理学療法士会 代議員.研究支援委員会 副委員長.(稲垣)
- ・日本神経理学療法学会千葉地方会.事務局.(坂崎)

⑤学会,学術団体への貢献

・所属学会・学術団体:26団体

日本理学療法士協会.日本小児理学療法学会.日本神経理学療法学会.日本運動器理学療法学会.日本呼吸理学療法学会.日本地域理学療法学会.日本理学療法教育学会.日本基礎理学療法学会.日本重症心身障害学会.重症心身障害療育学会.日本リハビリテーション臨床教育研究会.日本理学療法学会連合.理学療法科学学会.日本ヘルスプロモーション理学療法学会.バイオメカニズム学会.日本ロボットリハビリテーション・ケア研究会.日本老年療法学会.日本咀嚼学会.臨床歩行分析研究会.日本臨床バイオメカニクス学会. International Society of Posture and Gait Research. International Society of Biomechanics. 日本呼吸器学会.日本呼吸ケア・リハビリテーション学会.日本肺高血圧・肺循環学会.日本臨床生理学会.

・学会,学術団体への貢献:25件

- ・第12回日本理学療法教育学会学術大会.演題査読1題.(堀本)
- ・第21回日本神経理学療法学術大会 座長.(堀本)
- ・第42回関東甲信越ブロック理学療法士学会.演題査読4題.(大谷)

- ・第28回日本基礎理学療法学会学術大会。演題査読3題。(大谷)
 - ・第29回千葉県理学療法学会学術大会。演題査読2題。(大谷)
 - ・日本ロボットリハビリテーション・ケア研究会。世話人。(室井)
 - ・第12回日本理学療法教育学会。(江戸)
 - ・第11回日本運動器理学療法学会学術大会。一般演題セッション座長。(江戸)
 - ・第6回日本産業理学療法学会学術大会。一般演題セッション座長。(江戸)
 - ・第28回日本基礎理学療法学会学術大会。一般演題セッション座長。(江戸)
 - ・第29回千葉県理学療法士学会。一般演題セッション座長。(江戸)
 - ・第42回関東甲信越ブロック理学療法士学会。演題査読。(江戸)
 - ・第11回日本運動器理学療法学会学術大会。演題査読。(江戸)
 - ・第28回日本基礎理学療法学会学術大会。演題査読。(江戸)
 - ・第10回日本地域理学療法学会学術大会。演題査読。(江戸)
 - ・第11回日本筋骨格系徒手理学療法研究会学術大会。演題査読。(江戸)
 - ・日本物理療法合同学術大会2024。演題査読。(江戸)
 - ・第29回千葉県理学療法学会学術大会。演題査読。(江戸)
 - ・千葉県理学療法士会学術誌「理学療法の科学と研究」。論文査読。(江戸)
 - ・日本呼吸理学療法学会。評議員。(稲垣)
 - ・日本呼吸理学療法学会。国際委員会委員。(稲垣)
 - ・日本呼吸ケア・リハビリテーション学会。代議員。(稲垣)
 - ・呼吸理学療法学。論文査読。(稲垣)
 - ・日本呼吸ケア・リハビリテーション学会雑誌。論文査読。(稲垣)
 - ・理学療法の科学と研究。論文査読。(稲垣)
- ⑥講演会(公開講座を含む)／研修会の講師・研究指導等：14件
- ・臨床実習指導者講習会。千葉県立保健医療大学。臨床実習制度の理念と概要。理学療法士。2024年2月3日。Web。(堀本)
 - ・臨床実習指導者講習会。千葉県立保健医療大学。教育原論・人間関係論。理学療法士。2024年2月3日。Web。(堀本)
 - ・君津市小櫃地区講演「測ってみよう！歩行の元気度チェック」。2024年2月16日。小櫃公民館。(室井)
 - ・亀田リハビリテーション病院理学療法士 研究指導。(室井)
 - ・千葉県理学療法士会主催更新研修会Ⅲ。千葉県理学療法士会。生涯学習制度を踏まえたスタッフ教育一養成校の立場から。理学療法士。2023年8月28日。オンライン。(江戸)
 - ・千葉県理学療法士会千葉ブロック管理者の集い。千葉県理学療法士会千葉ブロック。スタッフ教育どうしてる？(ファシリテーター)。理学療法士。2023年9月8日。オンライン。(江戸)
 - ・第8回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会関東支部学術集会 実技講習会。フィジカルアセスメント。2023年5月27日。東京都。(稲垣)
 - ・COPD Multi-Professional Conference。動きたくなる！呼吸リハビリテーション～自宅でできる運動療法～。2023年8月。オンライン。(稲垣)
 - ・理学療法士講習会(応用編)。非COPD患者に対する呼吸リハビリテーション。2023年9月。オンライン。(稲垣)
 - ・愛知県理学療法士会主催若手理学療法士による疾患別呼吸理学療法オンラインセミナー。間質性肺疾患患者に対する呼吸リハビリテーション。2023年11月。オンライン。(稲垣)
 - ・第3回人工呼吸セミナー。集中治療領域における早期呼吸リハビリテーション。2024年3月。オンライン。(稲垣)
 - ・第4回千葉呼吸ケアネットワーク勉強会。間質性肺炎患者に対する呼吸リハビリテーション。2024年2月。千葉県。(稲垣)
 - ・千葉茨城呼吸リハビリテーション講演会。間質性肺疾患における運動時低酸素評価と呼吸リハビリテーション。2024年2月。オンライン。(稲垣)

- ・ 神奈川呼吸器フェローシップセミナー. チームで取り組む肺移植のリハビリテーション. 2024年2月. オンライン. (稲垣)

⑦その他: 2件

- ・ 医歯薬出版. 理学療法士・作業療法士国家試験模擬試験作問委員. (室井)
- ・ 医歯薬出版. 理学療法士・作業療法士国家試験模擬試験作問委員. (江戸)

(5) リハビリテーション学科作業療法学専攻

①地域におけるボランティア活動等:

- ・ 千葉県内: 4件

認知症のひとと家族の会千葉県支部主催のアルツハイマー啓発活動. 千葉市健康づくり大会, 千葉県作業療法士会中央ブロックブース出展. 全国脊髄損傷連合会千葉県支部「車イスで遊ぼう」の補助 (2023年4月. 千葉ポートタワー前広場). 全国脊髄損傷連合会千葉県支部「ピアサポートイベント」の補助 (2023年10月23日. 千葉ポートタワー前広場).

- ・ 千葉県外: 1件

尾張西ブロックセミナー. JAF愛知支部との出展. 愛知県シルバー人材センター連合会 (2023年9月26日. 津島市生涯学習センター).

②地域への保健医療活動 (診療・技術指導等, 活動期間, 場所等): 5件

幕張ファミリーハイツ地域活動 (2023年10月23日~2024年1月22日). 流山市南部地域包括支援センター (2023年9月14日). 大田区小学校 特別支援学級医療専門相談 (2023年12月1日~2024年3月31日). 足立区発達障害児支援事業 専門研修等講師 (2023年6月1日~2024年3月31日). 練馬区障害児保育巡回指導 (2023年4月1日~2024年3月31日).

③審議会, 委員会, 国家試験委員等の実績: 5件

第49回日本神経学会神経内科専門医試験 試験問題作成. 全日本指定自動車教習所協会連合会, 「高齢運転者支援士」試験作問委員. 市川市障害支援区分認定審査会審査委員. (2023年4月1日~2024年3月31日). 一般社団法人リハビリテーション教育評価機構評価員 (2023年4月1日~2024年3月31日). 市原青年矯正センター 評価指導 (2023年12月17日~2024年3月31日).

④職能団体委員等: 35件

日本作業療法士協会「運転と地域移動推進委員会」, 委員長. 全日本指定自動車教習所協会連合会, 理事. 東京都医師会, 高齢社会における運転技能および運転環境検討委員会委員. 日本作業療法士協会. 制度対策部保健福祉課委員. 日本作業療法士協会. 障害福祉サービス等報酬改定対策委員会委員. 日本作業療法士協会, 学会演題査読委員. 日本作業療法士協会, 代議員. 千葉県作業療法士会, 事務局長. 千葉県作業療法士会, 代議員. 千葉県作業療法士会, 理事. 千葉県作業療法士会, 渉外部部員. 千葉県作業療法士会, 学術部発達障害委員会委員. 千葉県作業療法士会, 学術部査読委員. 千葉県作業療法士会, 地域連携部こども連携委員会委員. 千葉県作業療法士会, 臨床実習指導者講習会委員会委員. 千葉県作業療法士会, 千葉中央ブロック代議員. 千葉県作業療法士会, 千葉県生活行為向上マネジメント委員会, 委員. 千葉県作業療法士会, 災害対策委員会, 委員. 千葉県作業療法士会, ブロック部, 部長. 千葉県作業療法士会, 地域連携システム委員会, 委員長. 千葉県POS連盟, 千葉POS災害対策委員会, 委員. 千葉県作業療法士会, 副会長. 千葉県作業療法士会, 運転特設委員会・担当理事. 千葉県POS連盟, 理事. 日本作業療法士協会, 代議員. 千葉市リハビリテーション連絡協議会, 委員. 千葉県作業療法士会, 司法作業療法, 会議等取りまとめ. 全国リハビリテーション学校協会, 学術誌査読者. 千葉県脳損傷者運転支援連携会議, 外部委員. 千葉県作業療法士会, 学会委員会, 委員長. 千葉県作業療法士会, 代議員. 千葉県作業療法士会, 理事. 千葉県作業療法士会, 副会長. 千葉県作業療法士会, 教育部, 委員. 千葉県作業療法士会, 事務局 Web 研修班, 班員.

⑤学会, 学術団体への貢献

所属学会・学術団体: 日本作業療法士協会. 千葉県作業療法士会. 日本公衆衛生学会. 日本内科学会. 日本神経学会. 日本自律神経学会. 日本排尿機能学会. 日本パーキンソン病・運動障害疾患学会. Movement Disorder Society. International Continence Society. 日本老年医学会. 日本老

年精神医学会．認知神経科学会．日本高次脳機能学会．自動車技術会．日本リハビリテーション工学協会．運転と作業療法研究会．日本安全運転医療学会．日本交通心理学会．日本遠隔医療学会．日本感覚統合学会．日本作業行動学会．日本LD学会．日本発達系作業療法学会．日本リハビリテーション連携科学学会．日本発達障害学会．日本特殊教育学会．日本司法作業療法学会．千葉 POS 連盟．

学会，学術団体への貢献：一般社団法人作業療法士会．学術部査読委員．一般社団法人作業療法士会．会委員会，演題査読委員．第25回千葉県作業療法士学会 OT カフェ．日本神経学会代議員．日本排尿機能学会代議員．日本自律神経学会評議員．日本作業療法士協会地域社会振興部「運転と地域移動推進班」班長．日本高次脳機能学会代議員．日本安全運転医療学会理事．運転と作業療法研究会代表．日本作業療法士協会学会演題査読委員．日本感覚統合学会効果研究委員．日本発達系作業療法学会理事．日本発達系作業療法学会査読委員．JDD ネットワーク多職種連携委員会副委員長．千葉県 POS 連盟理事会．千葉県作業療法士会理事会．千葉県作業療法士会三役会．千葉県作業療法士会定時・予算総会．第25回千葉県作業療法士学会運営スタッフ．千葉県 POS 連盟理事会出席．千葉県作業療法士会理事会出席．千葉県作業療法士会定時総会出席．

⑥講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等：

アレン認知能力評価法セミナー／（一般社団法人日本アレン認知能力障害モデル研究会．ACLS-5 入門セミナー．作業療法士，言語療法士．長崎県作業療法士会地域生活推進局研修会，長崎県作業療法士会，運転再開支援や移動支援における OT として関わるための基礎知識や役割について，会員，Web 開催．イムスグループ勉強会，イムスグループ，運転と地域移動支援総論，地域移動関連情報，事例，職員，Web 開催．障害者教習指導員研修，全日本指定教習所協会連合会，高次脳機能障害者の特性と指導法，教習指導員．高齢運転者支援士研修，全日本指定教習所協会連合会，高次脳機能障害者の特性と指導法，教習指導員．埼玉県警察令和5年度更新時講習指導員現任教養，加齢や病気による機能低下と運転への影響について，埼玉県警察職員および安全協会職員200名．安全運転相談専科教養研修，警察庁運転免許課，高次脳機能障害と運転-作業療法士の立場から-都道府県警警察官．令和5年度第2回高次脳機能障害支援コーディネーター全国会議，国立障害者リハビリテーションセンター，「地域における多様な移動の手段と移動の支援」講演およびシンポジスト，支援コーディネーター，市町村職員等．日本特殊教育学会第61回大会，シンポジウム 特別支援教育における作業療法士の多様な連携．臨床実習指導者講習会（運営スタッフ）．千葉県作業療法士会，作業療法士．WEB 開催．「JDDnet 発達障害を理解し合理的配慮を学ぶ VR 体験型プログラム」体験会（講師）．JDDnet，台東区教員．「JDDnet 発達障害を理解し合理的配慮を学ぶ VR 体験型プログラム」体験会（講師）．JDDnet，中学2年生および教員．JDDnet 発達障害支援人材育成研修会2023 オンラインセミナー（ファシリテーター）．JDDnet，多職種・当事者等．千葉県作業療法士会．第1回臨床実習指導者講習会．千葉県作業療法士会．生活行為向上マネジメント基礎研修会．千葉県作業療法士会．第2回臨床実習指導者講習会．千葉県作業療法士会．第3回臨床実習指導者講習会．千葉県作業療法士会．生活行為向上マネジメント基礎研修会．千葉県作業療法士会．第1回臨床実習指導者講習会．千葉県作業療法士会．第2回臨床実習指導者講習会．地域高齢者を対象とした介護予防教室 講師．千葉県作業療法士会 教育部 現職共通研修会 選択研修 講師 2023年10月，Zoom 開催．千葉大学 令和5年度 さいたま市健康とくらしの調査（JAGES2022）研修 ファシリテーター．

5) 地域住民への歯科診療の提供

本学には学生実習施設としての機能を兼ね備えた歯科診療室が設置されており，歯科衛生学科の教員（歯科医師・歯科衛生士）と嘱託歯科衛生士が協働して地域住民を対象に歯科診療を提供している．県内を中心に患者を広く受け入れており，2023年度の延患者数は2,027名であった．また，「千葉市口腔がん検診事業」として千葉市住民を対象に72件の個別検診，口腔機能に関わる千葉市口腔機能検診3件，千葉県歯科医師会委託 歯科口腔健康診査1件を行った．当診療室は保険医療機関として歯科外来診療環境体制加算等の施設基準を満たし，患者にとって安心な歯科医療環境の提供，厚生労働大臣が指定する疾患患者に対する必要な医療管理を行う体制を整えている．歯科診療を担当する歯科医師・歯科衛生の専門資

格取得状況は、(公社)日本口腔外科学会専門医1名、(公社)日本口腔外科学会指導医1名、がん患者歯科医療連携登録医1名、日本糖尿病協会歯科医師登録医1名、日本口腔内科学会専門医1名、日本口腔内科学会指導医1名、ICD協議会インフェクションコントロールドクター1名、千葉県口腔がん検診検診医1名、千葉県歯科医師会認定口腔がん検診医1名、日本口腔衛生学会認定医1名、日本歯周病学会認定歯科衛生士1名、日本歯科衛生士会認定歯科衛生士(摂食・嚥下リハビリテーション)1名、日本歯科衛生士会認定歯科衛生士(在宅療養指導・口腔保健管理)2名、日本咀嚼学会健康咀嚼指導士2名、ケアマネージャー1名となっている。

6) 国際交流の推進状況

- ・国際的な視野を持ち、社会に貢献する次世代を担う人材を輩出するべく、多(異)文化交流を体得できる学びの機会の提供として、留学経験を有する本学卒業生による講演;留学から学んだ国際対応力に関するセミナーを企画し、令和5年8月24日に開催した。講演後の質疑応答の時間には、参加者からの質問も多くあり、講演者(卒業生)、参加学生ともに活発な意見交換を行い、充実した時間を共有することができた。本セミナーは、夏期休暇期間中の開催となり、参加学生は24名であったが、事後アンケートでは高い満足度(“満足”88%、“やや満足”12%)を得ることができた。海外での学び・生活で苦労したこと、その経験が現在の仕事にもいかされていることなど、身近な存在である先輩(卒業生)から生の声を聴くことで、多文化理解を深める機会を提供することができた。またアンケートの自由記述では、「実際に海外の方と交流できるイベントにも参加したい」とのコメントがあったことから、次年度は国際理解教育の一貫として、留学生(大学生)との交流イベントを企画検討し、本学学生と海外の方との交流機会を提供することで、互いに多文化理解を深めるとともに、交流成果が高い活動の開発にも力を尽くしていきたい。
- ・本学と神田外語大学の共催で行われる「外国語による応急処置体験講習」は、今年度で第3回を迎え、令和6年3月9日に開催された。応急処置の際の英会話講義と手技の体験に加え、両大学の学生交流の時間にも配慮したセミナー構成とし、29名の学生が本講習に応募し、21名の学生が全ての過程を修了した。事後アンケートにおいて、高い満足度(“満足”95%、“やや満足”5%)が得られたことに加え、“全く分野が違う大学生との交流が有意義であった”等、異分野、他大学学生との交流が受講者において好評であった。このことから、次年度以降は本セミナーに限らず、両校の強みをいかした交流テーマ(医療および言語)を新たに模索しながら、交流機会の増加も視野に継続して講習開催をしていくことになった。

4. 評価(成果および改善すべき事項)

本学の教員が講師を担った講演会研修会の講師・研究指導等は全学で168件あった。自治体・職能団体等の審議会・委員会への参画や学会、学術団体への貢献、地域のボランティア活動等、社会貢献に関わる教員は多かった。今後も継続できると良いと考える。

歯科診療室は2023年度の延患者数は2,027名であり、例年と同様の貢献ができた。

ほい大健康プログラムは計画通り、UR団地で3回、いすみ市で2回、本学幕張キャンパスで2回実施した。参加者は述べ68名で、参加者アンケートの満足度は高く目標を達成できた。今後はほい大健康プログラムの学内体制を整備し、プログラムの効果判定や普及について検討する必要がある。

公開講座は計画通り、1回目は対面形式、2回目はオンライン形式で開催した。参加者は計147名で、参加者アンケートは肯定的な回答が多く目標を達成できた。参加者からハイブリッドでの開催要望が出ているため、今後はハイブリッドの年1回開催とするなど開催方法を検討する必要がある。

5. 次年度の方策

公開講座は、幅広い年層の方に受講していただけるテーマを企画し、参加者のニーズを取り入れハイブリッドでの開催を検討する。「ほい大健康プログラム」は、継続してUR都市機構ならびにいすみ市と連携を図り、県民の生活の場における健康づくりに資するプログラムを大学全体で計画・実施する。また本学を拠点とした幕張キャンパスでのプログラムも充実させていく。

Ⅷ 教育研究等環境

1. 年度当初の重点課題

教育設備の段階的更新・整備を学内の合意に基づき着実に実施する。とくに幕張キャンパス大講義室のプロジェクトの故障については教育に支障がないように対応するとともに、新たな大型プロジェクト等の整備を進める。

2. 施設・設備の整備状況

(新規購入備品)

幕張キャンパス

教育棟 A 棟	A101	プロジェクト	1 台
	A105	モニター	1 台
	A109	モニター	1 台
	A201 ほか	マイク・スピーカーセット	4 セット
	A217	モニター	1 台
	A302	モニター	1 台
教育棟 B 棟	B105	椅子	8 脚
学生ホール棟 講義室 1		プロジェクト	1 台

仁戸名キャンパス

東校舎棟	男子更衣室	ロッカー	6 台
------	-------	------	-----

3. 図書館の状況

1) 利用者数

幕張 37,337 人

仁戸名 3,487 人

2) 資料収集

(1) 蔵書数

幕張 図書 77,517 冊 雑誌 1,332 タイトル

仁戸名 図書 33,986 冊 雑誌 724 タイトル

(2) 視聴覚資料数

幕張 CD 40 点 DVD 500 点 スライド 7 点

仁戸名 CD 10 点 DVD 225 点

3) 開館時間および開館日数

開館時間

【授業期間中開館時間】(幕張) 月・金曜日 8:45~21:00, 火~木曜日 8:45~20:00, 土曜日 9:00~17:00

(仁戸名) 月・金曜日 9:15~21:00, 火~木曜日 9:15~20:00, 土曜日 9:00~17:00

【授業のない期間】(幕張・仁戸名とも) 月~金曜日: 9:00~17:00 (但し仁戸名のみ夏休み中も土曜日

開館)

開館日数 (年間延べ数)

幕張 254 日

仁戸名 270 日

4) 利用状況

貸出冊数 幕張 4,317 冊

仁戸名 1,028 冊

参考業務件数 幕張 871 件

仁戸名 134 件

複写 幕張 219 件 2,976 枚

仁戸名 24 件 528 枚

5) 施設整備およびサービス向上に向けた取り組み

図書館ガイダンスの実施（計 13 回）

文献検索ガイダンスの実施（計 5 回）

文献検索セミナーの実施（計 2 回【オンデマンド開催：動画 2 本】，参加者のべ人数 466 名）

図書館だより「ぼ～れば～れ」の発行 年 2 回（4 月，10 月）

4. 研究倫理を遵守するための措置

- ・令和 5 年 4 月 1 日，9 月 1 日 新任教員を対象に，研究倫理・コンプライアンス研修会を実施した。
- ・令和 5 年 12 月 25 日 筑波大学山越祥子准教授を講師にして安全保障輸出管理に関する FD を遠隔リアルタイム方式で実施した。
- ・令和 6 年 3 月 12 日 令和 5 年度科学研究費助成事業に係る内部監査を実施した。
- ・全教員に日本学術振興会研究倫理 e ラーニングコースの受講を求めた。

5. 評価（成果および改善すべき事項）

幕張キャンパス大講義室のプロジェクタについては，予算の問題で今年度は操作卓の交換等の緊急対応にとどまった。それ以外は，整備計画に基づき学内環境の整備は目標通り行うことができた。図書館に関しては，コロナ前と同等の利用状況にまでは戻らなかったが，前年度比 172%であった。さらに，図書館だよりのアンケート実施や HP 上の開示と，より利用者が親しめる工夫と学外者へ向けての情報を発信に努めた。研究倫理に関しては，安全保障輸出管理規程や倫理審査書類の電子申請が可能な仕組み等を整理した。

6. 次年度の方策

教育環境については，大講義室のプロジェクタの整備とともに，A 棟の机・椅子の整備を順次行う。図書館に関しては，引き続き学科推薦や図書館選定など多様な方法で蔵書の充実を図るとともに，利用者の促進を図る。研究倫理に関しては，近年の倫理指針や関連法の改正を踏まえ本学の倫理審査申請書類書式の改訂を検討する。

Ⅸ 研究活動報告

1. 看護学科

- (1) 著書：和文共著 14 件，編集 1 件，総数 15 件であった。
- (2) 学術論文：英文 3 件，和文 18 件，その他 21 件，総数 42 件であった。
- (3) 発表：国際学会 15 件，全国学会 80 件，地方学会 2 件，その他 6 件，総数 103 件であった。
- (4) 学術集会等での招待講演・シンポジウム等：16 件（シンポジスト 4 件，セミナー講師 7 件，学術集会等講演 5 件）であった。
- (5) 研究資金獲得状況：外部資金として受託した研究は 101 件（うち科研費 58 件，科研費以外の外部資金 5 件，学内共同は 3 件，学長裁量は 35 件）であった。
- (6) 賞・特許：10 件（表彰 10 件）であった。

2. 栄養学科

- (1) 著書：和文共著 4 件，総数 4 件の著書があった。
- (2) 学術論文：英文原著 5 件，和文原著 5 件，その他 6 件，総数 16 件の発表があった。
- (3) 発表：国際学会 1 件，全国学会 26 件，地方学会 3 件，その他 1 件，総数 30 件の発表があった。
- (4) 学術集会等での招待講演・シンポジウム等：教育講演 1 件，シンポジスト 6 件，その他 1 件，総数 8 件の発表があった。
- (5) 研究資金獲得状況：外部資金として受託した研究が 10 件（内科研費 8 件）であった。学内共同は 12 件，学長裁量は 3 件であった。
- (6) 賞・特許：なし。

3. 歯科衛生学科

- (1) 著書：単著 0 件，共著 5 件，編集 1 件，総数 6 件の著書があった。
- (2) 学術論文：英文原著 1 件，和文原著 7 件，総数 8 件の発表があった。
- (3) 発表：国際学会 4 件，全国学会 14 件，総数 18 件の発表があった。
- (4) 学術集会等での招待講演・シンポジウム等：2 件。
- (5) 研究資金獲得状況：外部資金として受託した研究が 3 件（科研費 3 件）であった。学内共同研究は 2 件，学長裁量研究 2 件であった。
- (6) 賞・特許：1 件であった。

4. リハビリテーション学科理学療法学専攻

- (1) 著書：共著 3 件の著書があった。
- (2) 学術論文：英文論文 6 件，和文論文 4 件，その他 6 件，総数 14 件の発表があった。
- (3) 発表：国際学会 3 件，全国学会 7 件，地方学会 8 件，その他 1 件，総数 19 件の発表があった。
- (4) 学術集会等での招待講演・シンポジウム等：教育講演 2 件，セミナー講師 1 件，総数 3 件の発表があった。
- (5) 研究資金獲得状況：科研費 4 件，学内共同 1 件，学長裁量 1 件，総計 6 件であった。
- (6) 賞・特許：表彰 1 件，総計 1 件であった。

5. リハビリテーション学科作業療法学専攻

- (1) 著書：共著 1 件，総数 1 件の著書があった。
- (2) 学術論文：英文原著 3 件，和文原著 5 件，その他 5 件，総数 13 件の発表があった。
- (3) 発表：国際学会 3 件，全国学会 11 件，地方学会 7 件，総数 21 件の発表があった。
- (4) 学術集会等での招待講演・シンポジウム等：
- (5) 研究資金獲得状況：外部資金として受託した研究が 1 件（内科研費 1 件）であった。学内共同は 5 件，学長裁量は 3 件であった。
- (6) 賞・特許：表彰 0 件，総計 0 件であった。

X 内部質保証のための取り組み

1. 年度当初の課題

- 1) 「千葉県立保健医療大学内部質保証の方針」に則り、4つの部会（教育研究年報作成部会、認証評価部会、自己点検・評価実施推進部会、IR部会）と連携して学内の円滑な自己点検・評価を推進する。具体的には、令和4年度の「委員会活動達成状況点検・評価報告書」を学内・学外公開する。各部会から年間スケジュールを提出してもらい、部会の所掌事項を推進していく。各委員会の令和4年度目標の達成度から、委員会の所掌について検証する。令和4年度教育研究年報を発行する。
- 2) 大学機関別認証評価の評価報告書において指摘された内容への対応として、【優れた点】については、継続・発展させる。【改善を要する点】、【今後の進展が望まれる点】については早急にスケジュール・責任部署の計画を立て、対応を検討する。
- 3) IRの機能を促進する。具体的な計画としては次の通りである。卒業時調査や適宜実施される学生調査の分析、結果を公表する。卒業生調査の分析および結果を公表し、本学の教育の質評価の検討を行う。IRコンソーシアムの活用により、分析データを公表する。各委員会が調査した結果などのデータについてのINDEX作業を継続して行う。教育研究年報の学科・専攻の量的データの集約を開始する。各委員会が集積しているデータを一括して管理することについて、収集・集積する情報とその収集方法・集積方法に関する検討を行う。
- 4) 大学組織の定期的検証を行い、必要に応じて組織の見直しをする体制を構築する。

2. 評価（成果及び改善すべき事項）

- 1) 令和4年度の「委員会活動達成状況点検・評価報告書」を学内・学外公開した。令和5年度報告書作成においては、評価表記入手引きの改善や評価結果一覧表を追加し、委員会の目標達成度を把握しやすくした上で作成を進め3月下旬に完成した。「令和4年度教育研究年報」は12月に完成し学内公開された。1月にはHPで公開できた。また令和5年度教育研究年報の原稿依頼を年度内に行うよう前倒しし、執筆者の退職や異動に伴う対応をスムーズにした。
- 2) 大学機関別認証評価の評価報告書（令和5年3月）において指摘された項目について、対応する部署から本年度の進捗状況を調査した。
- 3) IR部会において卒業時調査、卒業生調査を企画・実施し、学内におけるIRの機能を果たした。毎年実施している卒業時調査は、令和4年度の結果を6月に報告した。令和5年度の卒業時調査は1月～3月にかけて実施し、結果を集計中である。卒業生調査は、中間報告書を10月に提出し、3月に最終報告を行った。IRコンソーシアムのデータ活用では検討を進めたが、分析結果提示には至らなかった。各委員会が調査した結果などのデータについてのINDEX作業は継続して実施した。教育研究年報の学科・専攻の量的データの集約を、教育研究年報作成部会にて開始し、今後のデータ活用の土台を構築できた。以上のとおり、複数の学生調査や年報の量的データなどの集約は達成できたが、分析を進めるには現体制では作業量が多く困難であるため、IR機能を促進するには、集約データ活用の検討が必要である。
- 4) 重点施策の最終年度であることより、大学組織に関する項目の再検討は実施しなかった。

3. 次年度の方策

- 1) 「千葉県立保健医療大学内部質保証の方針」に則り、4つの部会と連携して自己点検・評価を推進する。令和5年度「委員会活動達成状況点検・評価報告書」を学内・学外公開する。委員会の令和5年度目標の達成度から、委員会の所掌について検証する。
- 2) 大学機関別認証評価の評価報告書において指摘された何用への対応を、責任部署で計画に従って進める。
- 3) IR機能の促進をはかる。卒業時調査や適宜実施される学生調査の分析と結果の公表を行う。IRコンソーシアムの活用により、分析データを公表する。各委員会が調査した結果などのデータについてのINDEX作業を継続する。教育研究年報作成部会において、教育研究年報の学科・専攻の量的データの集約を継続して行う。
- 4) 大学組織の定期的検証を行い、組織の見直しをする体制構築の検討を行う。

第2部

教員の教育研究活動記録

学長

学長 龍野 一郎 博士 (医学)

対象期間：2023年4月1日～2024年3月31日まで

I 年度当初の目標

ポストコロナ・ウイズコロナの時代に、学生に寄り添って、大学の授業環境を整備する。加えて、千葉県の保健医療を取り巻く状況は引き続き厳しく、それに立ち向かうためにも長年の課題であった大学改革（キャンパスの整備・統合、大学院設置、独立法人化）をDXに焦点を当てながら推進し、県の保健医療政策の連携拠点としての役割（保健医療に関するシンクタンク機能を強化・発揮、地域への貢献、時代のニーズに合わせた人材育成）を果たす体制を整える。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
 - ・体験ゼミナール。
 - ・管理栄養士導入教育。

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

1. Kanai R, Kinoshita S, Kanbe I, Sameda M, Yamaoka S, Horikawa O, Watanabe Y, Tatsuno I, Shirai K, Oshiro T, Saiki A. Once-weekly semaglutide administered after laparoscopic sleeve gastrectomy: Effects on body weight, glycemic control, and measured nutritional metrics in Japanese patients having both obesity and type 2 diabetes. *Obes Pillars*. 2024 Jan 3;9:100098. doi: 10.1016/j.obpill.2023.100098. eCollection 2024 Mar.
2. Suzuki S, Takahashi N, Sugo M, Ishiwata K, Ishida A, Watanabe S, Igarashi K, Ruike Y, Naito K, Fujimoto M, Koide H, Imamura Y, Sakamoto S, Ichikawa T, Kubota Y, Wada T, Yamazaki Y, Sasano H, Ikeda JI, Tatsuno I, Yokote K. Challenges in the diagnosis of the enigmatic primary adrenal leiomyosarcoma: two case reports and review of the literature. *BMC Endocr Disord*. 2023 Dec 18;23(1):276. doi: 10.1186/s12902-023-01530-z.
3. Takemoto M, Hayashi A, Inaba Y, Tanaka T, Chun TH, Hayashi H, Kasama K, Saiki A, Sasaki A, Okazumi S, Matsubara H, Tatsuno I. Safety and effectiveness of metabolic surgery in older Japanese patients. *Ann Gastroenterol Surg*. 2023 May 22;7(5):750-756. doi: 10.1002/ags3.12680. eCollection 2023 Sep.
4. Okazumi S, Oshiro T, Sasaki A, Matsubara H, Tatsuno I. Verification of Safety and Efficacy of Sleeve Gastrectomy Based on National Registry by Japanese Society for Treatment of Obesity. *J Clin Med*. 2023 Jun 27;12(13):4303. doi: 10.3390/jcm12134303.
5. Yamaguchi T, Morimoto S, Suda C, Ichihara A, Ishihara N, Nakamura S, Tanaka S, Watanabe Y, Imamura H, Ohira M, Shimizu N, Saiki A, Tatsuno I. Soluble (pro)renin receptor level in patients with severe obesity is associated with visceral adiposity and is involved with insulin resistance and renal injury. *Obes Facts*. 2023;16(4):335-343. doi: 10.1159/000531076. Epub 2023 May 22.
6. Nabekura H, Islam MN, Sakoda H, Yamaguchi T, Saiki A, Nabekura T, Oshiro T, Tanaka Y, Murayama S, Zhang W, Tatsuno I, Nakazato M. Liver-Expressed Antimicrobial Peptide 2 is a Hepatokine that Predicts Weight Loss and Complete Remission of Type 2 Diabetes Mellitus After Vertical Sleeve Gastrectomy in Japanese Individuals. *Obes Facts*. 2023;16(4):392-400. doi: 10.1159/000530733. Epub 2023 Apr 24.
7. 龍野 一郎：【肥満症治療の進歩-新しい治療薬と減量・代謝改善手術によって変貌する肥満症診療-】肥満2型糖尿病を含めた代謝性疾患への減量・代謝改善手術の臨床応用。糖尿病・内分泌ブракティス Web (2758-5573) 2023年9・10月 Page a0066 (2023.10)

8. **龍野 一郎**: 糖尿病合併症の早期発見・早期治療のための技術革新 肥満2型糖尿病に対する減量・代謝改善手術 薬物治療の進歩を見据えた今後の展開. 糖尿病合併症 37 巻 2 号 Page177-180(2023. 07)
9. 竹本 稔, 林 愛子, 田中 智洋, 全 泰和, 林 秀樹, 竹本 稔, 笠間 和典, 齋木 厚人, 佐々木 章, 岡住 慎一, 松原 久裕, **龍野 一郎**, 稲葉 洋介, 日本肥満症治療学会高齢者肥満外科の適用委員会: 減量・代謝改善手術の適応年齢に関する検討 高齢者肥満外科の適用委員会ならびに高齢者肥満外科手術の適応のワーキンググループからの報告(第2報). 肥満症治療学展望 11 巻 1 号 Page12-13(2023. 03)

3 発表(発表者:発表タイトル, 主催学会(学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- ・竹本 稔, 林 愛子, 稲葉 洋介, 田中 智洋, 全 泰和, 林 秀樹, 笠間 和典, 齋木 厚人, 佐々木 章, 岡住 慎一, 松原 久裕, **龍野 一郎**: 高齢者高度肥満症患者の減量・代謝改善手術に関する検討(第2報). 第66回日本糖尿病学会学術集会, 2023年5月, 鹿児島
- ・渡邊 康弘(東邦大学医療センター佐倉病院 糖尿病・内分泌・代謝センター), 山口 崇, 田中 翔, 齋木 厚人, 佐々木 章, 内藤 剛, 松原 久裕, 横手 幸太郎, 岡住 慎一, 卯木 智, 山本 寛, 太田 正之, 石垣 泰, 笠間 和典, 関 洋介, 辻野 元祥, 白井 厚治, 宮崎 安弘, 正木 孝幸, 永山 大二, **龍野 一郎**: 腹腔鏡下スリーブ状胃切除術後の2型糖尿病再発に関連する因子についての検討(多施設共同 J-SMART 研究サブグループ解析). 第66回日本糖尿病学会学術集会, 2023年5月, 鹿児島
- ・類家 裕太郎, 鈴木 佐和子, 渡邊 涼香, 五十嵐 活志, 石渡 一樹, 内藤 久美子, 藤本 真徳, 小出 尚史, **龍野 一郎**, 山崎 有人, 笹野 公伸, 坂本 信一, 市川 智彦, 横手 幸太郎: NPYはカテコラミン分泌を増加させ, 123I-MIBG シンチグラフィ偽陰性と関連する. 第96回日本内分泌学会学術総会, 2022年6月, 名古屋
- ・竹本 稔, 林 愛子, 稲葉 洋介, 田中 智洋, 全 泰和, 林 秀樹, 笠間 和典, 齋木 厚人, 佐々木 章, 岡住 慎一, 松原 久裕, **龍野 一郎**: 減量・代謝改善手術の適応年齢に関する検討(第2報). 第96回日本内分泌学会学術総会, 2022年6月, 名古屋
- ・竹本 稔, 林 愛子, 林 秀樹, 稲葉 洋介, 河野 貴史, 石田 晶子, 田中 智洋, 全 泰和, 笠間 和典, 齋木 厚人, 佐々木 章, 岡住 慎一, 松原 久裕, **龍野 一郎**: 高齢者肥満外科手術適用委員会 委員会報告 第66回日本老年医学会学術集会, 2023年12月, 名古屋

4 学術集会での招待講演(教育講演や基調講演)やシンポジウム等(学術集会名, テーマ, 開催日, 場所等)

- ・**龍野 一郎**: 肥満外科(減型・代謝改善)手術と行動変容で肥満人生をリセット. 市民公開講座, 日本医学会総会 2024, 東京
- ・**龍野 一郎**: 理事長提言「肥満症治療新時代 -誰一人取り残さない共生社会実現に向かって-」 第41回日本肥満症治療学会学術集会・第44回日本肥満学会, 2023年10月, 仙台
- ・**龍野 一郎**: 日本肥満症治療学会の取り組む肥満外科手術を含む統合的肥満症治療の確立とその普及. 日本医学会連合 TEAM 事業・日本肥満学会・日本肥満症治療学会 合同企画シンポジウム 領域横断的な肥満症対策の推進に向けたワーキンググループ活動の現状と今後, 第41回日本肥満症治療学会学術集会・第44回日本肥満学会, 2023年10月, 仙台
- ・**龍野 一郎**: 基調講演「日本肝臓学会・日本肥満症治療学会の連携 - 肥満外科手術の臓器を超えた多面的な有用性」 日本肝臓学会・JSTO 合同シンポジウム 肥満の制御から考える脂肪性肝疾患に対する新しいアプローチ, 第41回日本肥満症治療学会学術集会・第44回日本肥満学会, 2023年10月, 仙台

IV 社会貢献・国際交流記録

3 審議会, 委員会, 国家試験委員等の実績(活動団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・日本医療政策機構 肥満症対策プロジェクト アドバイザリーボードメンバー 2022年7月～

4 職能団体委員等(職能団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・千葉県糖尿病対策推進会議 理事 2021年3月～
- ・千葉県公衆衛生協会理事・運営委員 2021年4月1日～
- ・社団法人千葉県身体障害者福祉事業団 評議員 2021年4月1日～
- ・健康ちば地域・職域連携推進協議会 委員 2021年4月1日～
- ・千葉ウイスコンシン協会理事 2021年4月1日～

・千葉地方裁判所委員 2021年4月1日～

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

・日本内科学会、日本内分泌学会、日本糖尿病学会、日本肥満学会、日本肥満症治療学会、日本臨床栄養学会、日本動脈硬化学会、日本性差医療医学会、日本骨粗鬆症学会、日本成人病学会、日本医療マネジメント学会、千葉医学会、

2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

日本肥満症治療学会 理事長

日本臨床栄養学会 理事・COI 委員会委員

日本栄養療法推進協議会 理事

日本内科学会 評議員、関東地方会元常任幹事

日本内分泌学会 関東甲信越支部幹事、評議員、前専門医認定部会試験小委員会副委員長

日本肥満学会 評議員、日本肥満学会・日本肥満症治療学会合同委員会委員長

日本糖尿病学会 学術評議員

日本骨粗鬆症学会 評議員、骨粗鬆症検診委員会委員

日本動脈硬化学会 評議員

日本性差医療・医学会 評議員

日本成人病生活習慣病学会 評議員

千葉医学会 評議員

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催 団体名称、講演テーマ等、対象、開催日時、場所）

・第1回 Non-Communicable Diseases（非感染性疾患）会合 九州地方開催、日本医療政策機構、龍野一郎 特別講演「肥満症」、地方自治体関係者、2023年12月7日（福岡市）

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

・大学運営会議、衛生委員会、新型コロナウイルス研究プロジェクトチーム、次期情報システムワーキンググループ。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

ポストコロナ・ウイズコロナの時代に移行し、完全に大学運営を正常化することができた。教員との面談を通して、本学の中長期的な課題を共有するとともに、将来構想委員会の活動を通して、シンクタンク機能としての本学の役割の機能強化に努め、今後の新大学形成の確実な足取りを進めた。

VII 次年度の目標

千葉県の保健医療分野における課題解決に向かって、将来に必要とされる保健医療者像と地域保健医療体制を明らかにし、これまでの県立大学の人材育成・研究活動の実績を踏まえて、千葉県による調査が行われる新大学の教育・研究体制（大学院設置や定数、学科設置、再整備などを含め）の検討を更に進める。

看護学科

教授（兼）学科長 河部 房子 博士（看護学）

対象期間：2023年4月1日～2024年3月31日まで

I 年度当初の目標

教育活動においては、これまでのコロナ禍における教育実践での経験知をふまえ、より効果的な教育方法について検討し実施する。特に、技術演習や臨地実習において、学生の習得度や満足度が高まるよう、教員間の意思疎通をはかり、学生に統一した関わりがなされるよう調整する。研究活動としては、昨年開発したフィジカルアセスメント学習教材アプリの有用性の検証を行う。また分担研究者として参加している研究課題についても役割を果たす。

管理運営では、看護学科長として学科内委員会の各委員長と連携をはかりながら、学科全体の管理運営業務を遂行する。特に、学科として実施する社会貢献事業については、委員長・委員と連携をはかり有意義な事業となるよう運営に携わる。また将来構想検討委員長として、重点施策の4年間のまとめと、今後5年間の目標設定について検討し、その役割を果たす。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
 - ・看護学入門実習.
 - ・看護学入門.
 - ・看護学原論.
 - ・看護技術論Ⅰ（生活援助技術）.
 - ・看護技術論Ⅱ（フィジカルアセスメント）.
 - ・看護技術論Ⅲ（検査治療技術）.
 - ・看護技術論Ⅳ（看護過程展開技術）.
 - ・看護技術論Ⅴ（統合看護技術）.
 - ・日常生活調整方法論.
 - ・基礎看護学実習.
 - ・看護研究.
 - ・総合実習.
 - ・看護学統合.

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名、雑誌名、巻、号、ページ、発行年、本人下線）

- ・河部房子、齊藤しのぶ、和住淑子、栗原幸子、林恵里子、山岸仁美：看護シミュレーション教育の評価の現状 模擬患者を活用した看護演習の教育評価に関する国内外の文献検討より、日本看護シミュレーションラーニング学会誌、1巻、p2-11、2023.
- ・河部房子：学びあい、育ちあう看護職 看護実践の知の共有を通して、千葉看護学会会誌、29巻、2号、p113-115、2024.

3 発表（発表者：発表タイトル、主催学会（学会名称）、開催日、場所等、本人下線）

- ・細谷紀子、市原真穂、春日広美、大内美穂子、大塚知子、山本千代、浅井美千代、川城由紀子、河部房子：地域包括ケアを担う看護職に求められる実践能力とその向上のために、千葉看護学会第29回学術集会交流集会、

4 学術集会での招待講演（教育講演や基調講演）やシンポジウム等（学術集会名、テーマ、開催日、場所等）

- ・千葉看護学会第29回学術集会. 会長講演 学びあい、育ちあう看護職 看護実践の知の共有を通して、2023年9月9日、

千葉県.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名、研究テーマ、研究代表者／研究分担者）

- ・科学研究費補助金基盤研究 (B), 看護実践のリアリティを追求するシミュレーション教育プログラムの開発, 研究分担者.
- ・科学研究費補助金基盤研究 (C), 夜間交替制勤務による看護師への影響と概日適応を促進する健康教育プログラムの開発, 研究分担者.
- ・学長裁量研究費, 看護師の臨床判断に基づくフィジカルアセスメント教材アプリの教育効果の検証, 研究代表者.
- ・学長裁量研究費, 地域包括ケアを担う看護職に対する実践能力向上プログラムの開発, 研究分担者.

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本看護科学学会. 日本看護学教育学会. 日本看護管理学会. 千葉看護学会. 日本看護学会.
ナイチンゲール研究学会. 日本良導絡自律神経学会. 日本看護シミュレーションラーニング学会.

2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・千葉看護学会. 専任査読者. 2013年4月1日～現在.
- ・千葉看護学会. 理事. 2021年4月1日～2024年3月31日.
- ・千葉看護学会. 表彰論文選考委員会委員長. 2021年4月1日～2024年3月31日.
- ・千葉看護学会. 第29回学術集会長. 2022年8月～2023年9月.
- ・日本看護学教育学会. 専任査読者. 2018年4月1日～現在.

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日時、場所）

- ・千葉県循環器病センター看護研究指導. 臨床看護師. 2023年6月～2024年1月 計3回. オンライン.
- ・コツコツ学ぼうセミナー. 千葉県内中小規模医療施設中堅看護師. 2024年3月20日. オンデマンド.
- ・地域包括ケアを担う看護職に対する実践能力向上プログラム. 看護学科社会貢献委員会. 臨床看護師. 2024年1月20日. 27日. 千葉県立保健医療大学.
- ・千葉大学大学院看護学研究院附属看護実践・教育・研究共創センター主催 令和5年度課題解決型研修（看護管理者向け）研修講師, 2023年6月～2024年2月 計6回. オンライン.

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・大学運営会議. 教授会. 将来構想検討委員会（委員長）. 自己点検・評価委員会. 人事委員会. 大学院検討ワーキング.
教員資格審査委員会.

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科教授会. 看護学科運営会議. 看護学科人事評価部会.

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動について、臨地実習以外は、ほぼコロナ前の状況に戻して教育活動を展開することができた。臨地実習に関しても、実習期間の短縮という制限のある中で、教育効果が高まるようスケジュールの変更を行い、有効な実習を行うことができた。研究活動についても、教材アプリの検証を進め、次年度の学会発表につなげることができた。大学の管理運営においては、看護学科の分野別評価受審にあたり、学科長として受審の準備から当日の訪問調査まで対応し、無事に適合との認定を受けることができた。また将来構想検討委員長として、大学の重点施策のまとめと今後5年間の目標設定について検討し、

合意形成を行った。さらに、大学院検討ワーキングを立ち上げ、大学院設置に向けての検討を進めることができた。

Ⅶ 次年度の目標

教育活動においては、新任教員を迎えてのスタートとなる。これまでの教育実践での経験知をふまえ、より効果的な教育方法について検討し、教員が目標を共有しながら授業に参加できるよう、授業前後の打ち合わせを綿密に行いながら進める。技術演習や臨地実習においては、教員間の意思疎通をはかり、学生に統一した関わりがなされるよう調整する。研究活動としては、分担研究者として参加している科研費の研究課題を進めると共に、その分担研究として、シミュレーション教育に関する看護学生の看護実践の実態解明と、実践能力向上に向けた教育についての研究を進める。

管理運営では、看護学科長として学科内委員会の各委員長と連携をはかりながら、学科全体の管理運営業務を遂行する。特に、昨年からは開始した学科独自の社会貢献事業について、昨年の成果をふまえて実施し、持続的な実施体制へとつなげる。また将来構想検討委員長として、新たに策定された重点施策の目標設定や大学院設置に関する検討など、その役割を果たす。

教授（兼）図書館長 石井 邦子 博士（看護学）

対象期間：2023年4月1日～2024年3月31日まで

I 年度当初の目標

令和5年度は、教育活動では、コロナ禍の経験を活かしたTeamsの有効活用やコミュニケーション等の対人関係スキルの育成と共に、領域教員の教育活動の支援にも力を入れる。研究活動では、研究代表者を務める科研の遅れを取り戻すと同時に、学外・領域内で取り組んでいる産後ケアに関する研究が計画通りに実行する。大学管理運営では、教務委員、図書館長としての責務を確実に遂行する。第三次カリキュラム評価と看護学分野別評価における責務も確実に遂行する。社会貢献では、学会や看護系団体から与えられた役割を確実に遂行する。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・専門職間の連携活動論.
- ・看護学入門.
- ・看護学入門学習.
- ・育成期看護概論.
- ・母性看護学方法論Ⅰ.
- ・母性看護学方法論Ⅱ.
- ・母性看護学実習.
- ・助産学概論.
- ・助産診断・技術学Ⅰ.
- ・助産診断・技術学Ⅱ.
- ・助産診断・技術学Ⅲ.
- ・助産診断・技術学Ⅳ.
- ・助産学実習Ⅰ（産婦ケア体験）.
- ・助産学実習Ⅱ（継続支援）.
- ・助産学実習Ⅲ（産婦ケア）.
- ・総合実習.
- ・看護研究.

2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名、大学名）

- ・統合医療安全・特定行為実践特論（放送大学大学院）.

III 研究記録

1 著書（著者本人下線：著書、発行年、発行所、発行場所）

- ・石井邦子，廣間武彦，他：助産診断・技術学Ⅱ[3]新生児・乳幼児期（助産学講座第8巻）第6版，2024年，医学書院，東京
- ・森恵美，鈴木俊治，大月恵理子，石井邦子，他：助産師基礎教育テキスト（2024年版）第4巻 妊娠期の診断とケア 第5章妊娠経過に対応したケア，第7章妊婦や家族の親準備・出産準備へのケア 1. 初産婦とその家族の親準備へのケア，2024，日本看護協会出版会，東京.
- ・森恵美，工藤美子，香取洋子，堤治，石井邦子，他：母性看護学概論（系統看護学講座 専門24 母性看護学[1]）第14版

第2章母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状, 2024年, 医学書院, 東京.

- ・石井邦子, 他: 2025年版系統別看護師国家試験問題集 第113回看護師国家試験 解答と解説, 2024, 医学書院, 東京.

2 学術論文・その他 (著者: 題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・石井邦子, 川城由紀子, 北川良子, 川村紀子: 子育て世代包括支援における助産師の活動ーモデル構築に向けた文献研究, 千葉県立保健医療大学紀要, 15巻, 1号, 3-12, 2024.

3 発表 (発表者: 発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等, 本人下線)

- ・北川良子, 川城由紀子, 川村紀子, 増田恵美, 石井邦子, 山崎麻子: 中小規模の周産期医療機関に転職した中堅助産師のキャリアニーズの現状, 第25回日本母性看護学会学術集会, 2023年5月28日, 東京.
- ・川城由紀子, 石井邦子, 川村紀子, 北川良子, 増田恵美, 山崎麻子: 学内母性看護学実習プログラムにおける模擬患者による学生のコミュニケーション能力の評価, 第64回日本母性衛生学会総会・学術集会, 2023年10月13, 14日, 大阪.

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・2021~2023年度 科学研究費補助金基盤研究 (C), 熟練看護職の実践知に基づく産後抑うつ状態の診断力育成プログラムの開発, 研究代表者.
- ・2023年度 学長裁量研究, 子育て世代包括支援センター事業における助産師活動の実態と課題, 研究代表者.

IV 社会貢献・国際交流記録

3 審議会, 委員会, 国家試験委員等の実績 (活動団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・文部科学省. 職業実践力育成プログラム (BP) 認定審査委員会委員. 2023.4~2024.3.

4 職能団体委員等 (職能団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・日本看護系大学協議会. 理事. 2023.4~2023.7.
- ・日本看護系大学協議会. 高等教育行政対策委員会副委員長. 2023.4~2024.3.
- ・日本看護学教育評価機構. 評価委員会副委員長. 2023.4~2024.3.

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本母性看護学会. 日本看護科学学会. 日本助産学会. 日本母性衛生学会. 日本生殖看護学会. 千葉看護学会. 千葉県母性衛生学会.

2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・日本母性看護学会. 理事長. 2023.4~2024.3.
- ・日本看護科学学会. 代議員, 2023.4~2024.3.
- ・日本助産学会, 代議員, 2023.4~2024.3.

7 その他

- ・公益信託山路ふみ子専門看護教育研究助成基金運営委員. 2023.4~2024.3.
- ・公益信託中西睦子看護学先端的研究基金運営委員. 2023.4~2024.3.
- ・放送大学客員教授. 2023.4~2024.3.

V 管理・運営記録

1 全学委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・大学運営会議. 教授会. 将来構想・検討委員会. 自己点検・評価委員会. 図書委員会. 教務委員会.

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科運営会議. 看護学科教授会. 看護学科教務委員会.

3 対外広報活動＜新聞・ホームページでの活動・TV出演, ラジオ出演等＞

- ・ホームページ：千葉県立保健医療大学育成支援看護学領域母性看護学・助産学. (<https://square.umin.ac.jp/cpuhs-mm>)

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動では、Teams を併用しつつ、対面による授業や学生支援を従前どおりに行うことで、成果を上げることができた。早々に退職予定者が出たため、領域内の業務調整に苦労した。研究活動では、学外・領域内の産後ケアに関する研究を計画通りに遂行できた一方で、科研の遅延を取り戻すことができず、期間延長をすることとなった。大学管理運営では、与えられた責務を滞りなく遂行し、第三次カリキュラム評価と看護学分野別評価を無事に終えることができた。社会貢献では、学会や看護系団体から与えられた役割を滞りなく遂行した。

VII 次年度の目標

令和6年度は、教育活動では、コロナ禍の経験を活かしたTeamsの有効活用やコミュニケーション等の対人関係スキルの育成と共に、領域教員の教育活動の支援にも力を入れる。研究活動では、研究代表者を務める科研の終結と公表をめざすと同時に、学外・領域内で取り組んでいる地域における母性看護高度実践やプレコンセプションケアに関する研究が計画通りに実行する。大学管理運営では、教務委員、図書館長としての責務を確実に遂行する。社会貢献では、学会や看護系団体から与えられた役割を確実に遂行する。

教授（兼）学部長 佐藤 紀子 博士（看護学）

対象期間：2023年4月1日～2024年3月31日まで

I 年度当初の目標

前年度の授業評価もふまえ、事前課題・事後課題を効果的に設定し、学生の学習意欲と教育効果を高める。また、今年度予定されているカリキュラム評価および看護学教育評価受審を通して行われる評価結果を理解し、今後の課題と改善点を整理する。研究については、代表となっている研究課題が最終年度となることから、これまでの遅れを取り戻し、計画的に推進する。管理運営では、学部長として、学長のガバナンスを強化させ、重点施策の推進、シンクタンク機能の発揮、大学院等将来構想に関わる本学の方針の検討に尽力する。社会貢献では、本学の社会貢献事業に積極的に参画するとともに、県内の自治体、職能団体、学会等で与えられた役割を確実に遂行する。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・看護学入門.
- ・看護学入門実習.
- ・地域看護学概論.
- ・地域看護学方法論Ⅰ.
- ・地域看護学方法論Ⅲ.
- ・災害看護学.
- ・地域看護学実習.
- ・総合実習（地域看護学）.
- ・看護研究.
- ・看護学統合.

III 研究記録

1 著書（著者本人下線：著書，発行年，発行所，発行場所）

- ・佐藤紀子：第1章 1 母子保健福祉活動，最新公衆衛生看護学第3版 2022年版各論1（宮崎美砂子他編集），2-49，2024年2月，日本看護協会出版会，東京.

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・春山早苗，佐藤紀子，鳩野洋子，大神あゆみ，金谷志子，山縣千開，江角伸吾：いまさら聞けない研究倫理《第2弾》皆さん，実際どうしていますか？倫理審査！！（ワークショップ），第12回日本公衆衛生看護学会，2023年1月7日，小倉市.
- ・牛尾裕子，斎藤美矢子，村上祐里香，田村須賀子，城諒子，大澤真奈美，嶋澤順子，佐藤紀子：公衆衛生看護の思考を深める対話法～実習指導において思考を深める問とはどのようなものか～（ワークショップ），日本地域看護学会第26回学術集会，2023年9月2日，川崎市.
- ・Yoko Shirol, Yuko Ushio, Manami Osawa, Yohei Okibayashi, Miyako Sait, Noriko Sato, Junko Shimasawa, Sugako Tamura, Yurika Murakami: Practice Situations and Learning Experienced by Students in Public Health Nursing Practice. 27th East Asian Forum of Nursing Scholars, 2024年3月6日～7日. Hong Kong.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名、研究テーマ、研究代表者／研究分担者）

- ・文部科学省科学研究費（基盤研究（C））、エンパワメント基盤型介護予防支援ガイドの開発、研究代表者。
- ・文部科学省科学研究費（基盤研究（C））、医療職配置のない高齢者住宅の介護職員が活用できる新たな感染対策マニュアルの開発、研究分担者。
- ・文部科学省科学研究費（基盤研究（C））、発達障害児の親に対する地域との繋がりづくりを意図した防災プログラム評価指標の開発、研究分担者。
- ・文部科学省科学研究費（基盤研究（B））、予防活動の持続・発展のための地域看護実践のOJT実用化研究、研究協力者。
- ・文部科学省科学研究費（基盤研究（C））、「正解のない問題」に取り組むメタ認知に着目し公衆衛生看護の思考を深める対話法、研究協力者。

IV 社会貢献・国際交流記録

3 審議会、委員会、国家試験委員等の実績（活動団体名称、委員名称、活動期間）

- ・千葉県現任教育推進会議 委員長。2012年4月～現在。
- ・千葉県高齢者保健福祉計画策定・推進協議会 委員。2023年4月～2026年3月。
- ・千葉県介護予防市町村支援検討会議 委員。2023年4月～2026年3月。
- ・令和5年度「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査分析支援事業」選考委員会 委員。2023年5月19日。
- ・柏市保健衛生審議会 委員長。2022年7月～2026年6月。
- ・柏市保健衛生審議会母子保健専門分科会 委員長。2020年4月～2026年6月。

4 職能団体委員等（職能団体名称、委員名称、活動期間）

- ・千葉県看護協会 副会長。2023年6月～2025年5月
- ・千葉県看護協会 千葉県ナースセンター運営委員会 委員。2022年7月～2024年6月。
- ・千葉県看護協会 千葉県看護教員養成講習会運営会議 委員。2022年8月～2024年3月。
- ・日本看護系大学協議会 会員校代表者。2023年4月～2025年3月。

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本地域看護学会、千葉看護学会、日本公衆衛生学会、日本看護科学学会、文化看護学会、日本家族看護学会、日本公衆衛生看護学会。

2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・文化看護学会 理事長。2023年4月～2026年3月。
- ・千葉看護学会 副理事長。2021年4月～2024年3月。
- ・日本地域看護学会 理事。2023年6月～2025年5月。
- ・日本看護科学学会 代議員。2023年2月～2027年3月。
- ・日本地域看護学会 教育委員長。2023年6月～2025年5月。
- ・千葉看護学会 利益相反（COI）委員会 委員長。2021年4月～2024年3月。
- ・日本地域看護学会 専任査読委員。2023年6月～2025年5月。
- ・千葉看護学会 専任査読委員。2005年4月～2024年3月。
- ・日本公衆衛生看護学会 査読委員。2022年6月～2024年5月。
- ・日本公衆衛生看護学会 倫理委員。2022年6月～2024年5月。
- ・第26回日本地域看護学会学術集会 査読委員。2023年7月～8月。
- ・文化看護学会第16回学術集会 査読委員。2024年2月～3月。
- ・文化看護学会第16回学術集会 座長。2024年3月17日。

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日時、場所）

- ・令和5年度千葉県保健師現任教育推進のための担当者研修会講師、千葉県健康福祉部健康づくり支援課、保健師の実践能力・組織力向上のための効果的な現任教育のあり方―変化に強い人材・職場づくりをめざして―、県内市町村および健康福祉センターの統括的な役割を担う保健師（現任教育責任者含む）と研修担当者、2023年8月31日、千葉県教育会館。
- ・保健活動業務研究における指導、市原市、保健所保健師、2023年7月～12月、市原市保健師。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・大学運営会議、教授会、将来構想検討委員会、自己点検・評価委員会、人事委員会、教員再任審査委員会、キャンパスハラスメント防止対策委員会。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科教授会、看護学科運営会議。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動では、令和5年度受審した看護学教育評価の結果を踏まえ、今後の課題と方針を整理した。担当科目においては、成績評価および学生による授業評価の結果より、学生の満足度および学習目標の達成度は高かったことを確認した。また、国家試験対策として講義のなかで出題傾向等を伝える工夫や、実習の機会に保健師資格を取得する意義等について伝えるなどしたところ、保健師国家試験の合格率は100%となった。研究活動では、科研費の代表研究については調査の実施・分析を計画的に推進することができた。分担研究者としては倫理審査の申請、HPの作成等に尽力した。管理運営面では、学部長として、全学教授会の審議を滞りなく進行するとともに、総括する委員会の長に対して目標設定や評価の助言を行った。また、今年度は、社会貢献委員長および特色科目運営会長とともに、ほい大健康プログラムの報告書作成に向けて尽力した。社会貢献では、自治体が主催する委員会の委員や学会の理事等として参画し、役割を確実に遂行した。職能団体への貢献としては、今年度より看護協会副会長を務めることとなり、理事会、施設長代表者会議等のイベントに出席し多くの役割を果たした。

VII 次年度の目標

教育活動では、看護学教育評価の結果を踏まえ、改善した科目を実施・評価するとともに、国家試験の100%合格が維持できるよう授業や実習での工夫を継続する。研究活動では、科研費の代表研究は最終年度となることから、報告書としてまとめる。管理運営では、学部長として、学長のガバナンスを強化させ、新大学（キャンパス統合、大学院設置、学科の設置・再整備など）に向かって、全学的な検討を促進させる。社会貢献では、本学の社会貢献事業に積極的に参画するとともに、県内の自治体、職能団体、学会等で与えられた役割を確実に遂行する。

教授 浅井 美千代 博士 (看護学)

対象期間：2023年4月1日～2024年3月31日まで

I 年度当初の目標

教育活動では、慢性疾患患者の看護の特徴をより明確に示せるよう、教材研究や研究活動に力を入れる。研究活動は、これまでの研究成果についてまとめ、学会誌への投稿を行うことを最優先課題として行う。委員会活動では、ひとつひとつの仕事を確認しながら丁寧に行い、ミスを防ぐことを心がける。社会貢献活動は、前年度に引き続き、積極的に取り組む。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
 - ・看護学入門.
 - ・看護学入門実習.
 - ・臨床看護学概論.
 - ・臨床看護学方法論Ⅰ.
 - ・臨床看護学方法論Ⅱ.
 - ・臨床看護学方法論Ⅲ.
 - ・急性期看護学実習.
 - ・慢性期看護学実習.
 - ・総合実習.
 - ・看護研究.
 - ・看護学統合.
 - ・体験ゼミナール.
 - ・千葉県の健康づくり.

III 研究記録

3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- ・内海恵美, 大塚知子, 大内美穂子, 坂本明子, 田口智恵美, 三枝香代子, 浅井美千代: コロナ禍の新人看護師の困難体験と看護基礎教育課程で身につけておくべきと考えた看護実践能力, 日本看護学教育学会第33回学術集会, 2023年8月26日, 福岡.

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・学内共同研究, 身長を活用した慢性疾患を有する地域在住高齢者に対する健康支援, 研究分担者.
- ・学内共同研究費 (学長裁量), 医療系大学生を対象とした「がん患者の家族となった大学生の支援を考えるワークショップ」の質的評価, 研究分担者.
- ・学内共同研究費 (学長裁量), 千葉県内医療機関に入職した新人看護師が感じる困難 (2023年度調査), 研究分担者.

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会, 学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
 - ・日本看護研究学会. 日本看護技術学会. 日本看護教育学会. 日本がん看護学会. 日本介護福祉学会.

日本看護科学学会、千葉看護学会、日本慢性看護学会、日本リウマチ看護学会。

2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・日本リウマチ看護学会、査読委員、2022年～現在。
- ・日本看護学会、査読委員、2022年4月～現在。

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日時、場所）

- ・看護研究指導、千葉県循環器病センター、看護師、2023年9月12日・11月7日・2024年1月16日・2月8日。
- ・看護研究指導、東京歯科大学市川総合病院、看護師、2022年10月12日・12月1日・2023年1月30日・3月18日。
- ・看護研究指導、千葉県がんセンター、看護師、2023年6月23日・8月21日・10月31日・12月15日。
- ・看護研修会の講師、看護リフレクション研修、千葉県循環器病センター、看護師、2023年11月11日。
- ・看護研修会の講師、看護過程研修、千葉県循環器病センター、看護師、2023年12月9日。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・入試実施委員会、入試改革検討委員会、自己点検評価委員会、IR部会

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科入試、広報委員会。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動においては、講義内容を見直し、一部の内容を3年次から2年次に移動することを試みた。学生の講義後のレスポンスから2年次において学修することで、成人看護学の基本的な考え方を理解することにつながると考えられ、今後も学年進度を考慮した講義内容の検討を続けていきたい。研究活動は、時間捻出することが出来ず、目標を達成できなかった。研究活動に積極的に取り組む必要がある。委員会活動は、入試実施委員長として、最も力を入れて取り組んだ。学生支援課と共同し、インターネット出願を開始したり、試験結果の入力作業が効率的になる方法を検討することができた。しかし、入試で出題誤りがあり、点検方法が課題となった。社会貢献活動は、その病院の看護師に求められる研修について、教育担当看護師と共に検討・実施し、成果を得ることができ、次年度も引き続き実施することとなった。

VII 次年度の目標

教育活動では、慢性疾患患者の看護の特徴をより明確に示せるよう、教材研究や研究活動に力を入れる。研究活動は、これまでの研究成果についてまとめ、学会誌への投稿を行うことを最優先課題として行う。委員会活動では、引き続き、ミスを防ぐためにひとつひとつの仕事を確認しながら丁寧に行うこと、そして、出題誤り再発防止策を検討・実施していく。社会貢献活動は、前年度に引き続き、積極的に取り組む。

教授 春日 広美 博士（看護学）

対象期間：2023年4月1日～2024年3月31日まで

I 年度当初の目標

令和5年度は、在宅看護シミュレーション演習を継続して行う。在宅療養の場を想定し、臨床看護のひとつとしての在宅看護を実践できる学生の頭づくりと技術力の強化を計画する。研究活動は、取り組んでいる文科省科学研究助成研究の介入とデータ収集を継続する。社会貢献活動では、千葉県民が望む場所で療養できるための町づくり、人づくりに協力する。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
 - ・体験ゼミナール.
 - ・専門職間の連携活動論.
 - ・リスクマネジメント論.
 - ・看護学入門.
 - ・看護学入門実習.
 - ・ターミナルケア論.
 - ・高齢者 在宅看護学概論.
 - ・高齢者 在宅看護学方法論Ⅰ.
 - ・在宅看護学方法論Ⅱ.
 - ・退院支援論.
 - ・在宅看護学実習.
 - ・総合実習.
 - ・看護研究.
 - ・看護学統合.
- 2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名、大学名）
 - ・在宅看護援助論Ⅱ（事例展開）（東京医科大学）.
 - ・看護論演習（千葉県看護協会）.

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名、雑誌名、巻、号、ページ、発行年、本人下線）

- ・春日広美、松永信介、ラウル・ブルーヘルマンズ、太田浩子、遠山寛子、岩田尚子、久長正美：ブレンディッド学習においてeラーニングを活用した在宅看護シミュレーションシステムの学習効果の探索、千葉県立保健医療大学紀要、14巻、1号、29-37、2023.

3 発表（発表者：発表タイトル、主催学会（学会名称）、開催日、場所等、本人下線）

- ・春日広美：派出婦の歴史-派出看護婦との比較-、第37回日本看護歴史学会、令和5年8月11、12日、国際医療福祉大学小田原保健医療学部.
- ・岩田尚子、春日広美：学士課程の在宅看護実習に関わる訪問看護師による学生の学習意欲を高める臨地実習指導の在り方、第28回日本在宅ケア学会学術集会、令和5年11月11日、12日、大阪大学コンベンションセンター.
- ・春日広美、山崎律子、太田浩子、遠山寛子、久長正美、窪島領子：AI医療時代の在宅看護シミュレーション教材開発の課

題, 第43回日本看護科学学会学術集会交流集会, 令和5年12月9日, 10日, 海峡メッセ下関.

5 研究資金獲得状況(外部資金・学内共同・学長裁量)(資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・科学研究費補助金基盤研究(C), e ラーニングを活用した分岐型ストーリーの在宅看護シミュレーションシステムの課題, 研究代表者.
- ・2023年度共同研究費(学長裁量), 地域包括ケアを担う看護職に対する実践能力向上プログラムの開発, 研究分担者.

IV 社会貢献・国際交流記録

4 職能団体委員等(職能団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・一般社団法人日本看護系大学協議会 文部科学省委託事業令和4年度「大学における医療人養成の在り方に関する調査研究」調査事業実行委員会委員, 2022年7月28日~2025年3月31日.
- ・日本看護協会会誌, 査読委員

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本看護科学学会, 日本認知症ケア学会, 千葉看護学会, 日本老年看護学会, 日本看護歴史学会, 日本医史学会, 日本老年社会学会, 日本在宅ケア学会, 日本家族看護学会, 日本シミュレーション医学教育学会, International Family Nursing Association.

2) 学会, 学術団体への貢献(学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・日本看護歴史学会, 理事, 2023年~2025年
- ・日本看護歴史学会第37回学術集会, 企画委員, 令和4年6月3日~令和5年8月31日
- ・日本看護歴史学会第38回学術集会, 企画委員, 令和5年9月1日~現在に至る
- ・千葉看護学会第29回学術集会, 実行委員, 令和5年9月13日
- ・千葉看護学会会誌, 査読委員
- ・日本在宅ケア学会会誌, 査読委員
- ・日本看護歴史学会会誌, 査読委員
- ・日本家族看護学会会誌, 査読委員

V 管理・運営記録

1 全学委員会(委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・危機管理委員会(委員長), 研究倫理審査委員会安全保障輸出管理部会(部会長), 入試改革委員会, FD・SD委員会.

2 学科/専攻内委員会(委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・教務委員会.

VI 評価(成果および改善すべき事項)

在宅看護シミュレーション演習を, 在宅療養者3事例で実施した. 昨年に引き続き3年生80名が同時に受講できるよう, B409実習室とB410教室をオンラインで結んで演習した. 昨年は通信環境に課題があり, 十分な演習ができなかったことを反省に, 最も障害が大きかったシミュレーション時の音声の不具合を改善すべく, インカム型マイクを複数準備して演者全員につけ, 複数のポータブルスピーカーと連動して実施した. しかし結果は, 学生が実習室に入ると電波干渉がおき, 一方の教室にはほとんど聞こえない状況であった. 授業評価でも学生の不満がきかれ, この方法での教育には限界があると判断した. また, 提出物へのフィードバックの統一性にも学生からの意見があり, 教員間の意識の統一が必要であった.

VII 次年度の目標

通信環境や実習室が整備されるまでは、教育を提供する上での安全を考慮して、これまでの在宅看護シミュレーション演習の方法を変更して対応する。その分、学生の在宅看護のリアリティを学習する機会は制限されることになるが、別途、研究開発中のeラーニングシステムを利用したシミュレーション教材などを活用して補完することを考える。

教授 木内 千晶 博士 (看護学)

対象期間：2023年4月1日～2024年3月31日まで

I 年度当初の目標

令和5年度は、特に、教育活動では、講義・演習において学生が主体的に学習できるよう、アクティブラーニングの要素を取り入れ、学習を支援する。また、今年度より実習記録を一部変更するため、実習での学生の学びの過程を評価し、領域教員の実習指導力の向上に努める。研究活動では、遅れている科研の研究調査を実施する。分担者となっている科研の研究についても積極的に参画する。学長裁量研究においては研究メンバーと協力し研究を推進する。管理運営では、社会貢献委員会の委員長として大学の社会貢献活動がスムーズに実行されるようリーダーシップを発揮する。また、学科の委員会では担当役割を責任をもって果たす。学会等の役割も確実に遂行する。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
 - ・体験ゼミナール.
 - ・看護学入門.
 - ・看護学入門実習.
 - ・高齢者・在宅看護学概論.
 - ・高齢者・在宅看護学方法論Ⅰ.
 - ・高齢者看護学方法論Ⅱ.
 - ・高齢者看護学実習.
 - ・総合実習.
 - ・看護研究.
 - ・看護学統合.
- 2) 他大学、大学院等の非常勤講師 (科目名、大学名)
 - ・看護管理学演習Ⅱ (埼玉医科大学大学院).

III 研究記録

2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年. 本人下線)

- ・木内 千晶：「こころと身体のセルフケア支援の共有」高齢者の特性を考慮した心身のセルフケア支援の課題と今後, 外来精神医療, 24, 1, 50-51, 2023.

3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- ・Yuko TAKAYAMA, Takae MACHIDA, Maki MATSUO, Chiaki KINOUCHI, Atsuko KOBAYAMA: Negative emotions among hospital nurses during the COVID-19 pandemic Comparison by the presence or absence of occupational contact with COVID-19 patients, International Council of Nurses Congress 2023, 令和5年7月1日～5日, カナダ. Montreal.
- ・Takae Machida, Yuko Takayama, Chiaki Kinouchi, Atsuko Kobiyama, Maki Matsuo: Relationship between team collaboration and burnout among ward nurses, International Council of Nurses Congress 2023, 令和5年7月1日～5日, カナダ.

- 4 学術集会での招待講演（教育講演や基調講演）やシンポジウム等（学術集会名，テーマ，開催日，場所等）
- ・第23回日本外来精神医療学会，シンポジウム「こころと身体のセルフケア支援の共有」高齢者の特性を考慮した心身のセルフケア支援の課題と今後，令和5年11月5日，東京。
- 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）
- ・文部科学省科学研究費（若手研究），高齢者看護に携わる看護補助者のワーク・エンゲイジメント・プロセスモデルの検証，研究代表者。
 - ・文部科学省科学研究費（基盤研究（C）），ウィズコロナ社会における看護職の困難感因果モデルと緩和的介入の明確化，研究分担者。
 - ・文部科学省科学研究費（基盤研究（C）），ヘルスリテラシーに着目した脊髄損傷者の褥瘡再発予防のための教育プログラムの開発，研究分担者。
 - ・文部科学省科学研究費（基盤研究（C）），介護老人保健施設での感染対策を融合した出前型急変時対応シミュレーション研修の開発，研究分担者。
 - ・学長裁量研究，地域包括ケアを担う看護職に対する実践能力向上プログラムの開発，研究分担者。
 - ・学長裁量研究，高齢者が使用する電子健康記録における中断者予測モデルの構築－特徴量特定の調査に向けた信頼性と可用性の検証－，研究分担者。

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等（活動名称，活動期間，場所等）

1) 千葉県内

- ・ほい大健康プログラム（UR 団地 第1回 総括，看護学科プログラム「いきいき暮らせるからだをつくろう」，令和5年10月14日，UR さつきが丘団地）
- ・ほい大健康プログラム（UR 団地 第3回 総括，看護学科プログラム「いきいき生活を続けるために」，令和5年11月11日，UR さつきが丘団地）
- ・ほい大健康プログラム（いすみ市 第1回 看護学科プログラム「健康的な生活づくり」，令和5年10月28日，いすみ市岬ふれあい会館）
- ・ほい大健康プログラム（健康教室 第2回 看護学科プログラム「いきいき暮らせるからだをつくろう」，令和6年2月17日，幕張キャンパス）

5 学会，学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・岩手看護学会，日本認知症ケア学会，日本老年行動科学学会，日本看護研究学会，日本看護科学学会，日本老年看護学会，日本看護管理学会，北日本看護学会，日本看護学教育学会。

2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）

- ・北日本看護学会，専任査読者，2021年3月1日～現在に至る
- ・岩手看護学会，理事，2022年4月1日～現在に至る
- ・岩手看護学会，査読委員，2023年2月9日～現在に至る
- ・北日本看護学会誌，論文査読2本
- ・岩手看護学会誌，論文査読1本

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・社会貢献委員会，FD・SD委員会，大学教授会。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・学生・進路支援委員会. 社会貢献委員会. 看護学科教授会. 看護学科運営会議.

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動では、講義においては学生が主体的に学習し具体的に理解できるよう実技等を取り入れた。実習では、看護過程の思考をより明確に理解し実践に結びつけられるよう実習記録を一部変更し、臨地に赴き領域教員の実習指導をサポートした。研究活動では、科研の研究調査の実施には至らなかった。研究についてやす時間配分をより綿密に管理していく必要がある。管理運営では、社会貢献委員会委員長としてリーダーシップをとり委員の役割分担を明確にした。また、事務局とも協力体制のもと社会貢献活動を実施することができた。

VII 次年度の目標

教育活動では、新任教員をサポートし領域教員の協力体制のもと学生が主体的に学習できる環境をつくる。研究活動では、時間配分を綿密に計画し代表者となっている科研の研究調査を実施する。分担者となっている研究では分担役割を、責任をもって果たす。管理運営では、社会貢献委員会委員長としてリーダーシップを発揮し委員会の業務を整理し明確化するよう努める。

教授 市原 真穂 博士 (看護学)

対象期間：2023年4月1日～2024年3月31日まで

I 年度当初の目標

令和5年度より着任となり領域内においても人事異動があったことから、特に今年度は教育内容を再構成し教員間の業務内容の調整を行う。授業科目においては、現代的な小児医療の課題を踏まえた内容を盛り込み、学生の実践能力向上につながる基礎的知識の効果的な教授に務める。実習科目においては、臨床判断をガイドする記録様式等の構成に取り組む。研究活動については、領域として小児関連施設との連携を深め、地域に貢献できるような中核となるテーマを確立することに重点を置く。大学運営では、全学学生委員会、学生進路支援委員会、紀要委員会等の業務を円滑に遂行したい。また、業務を遂行する中で課題に気づき、解決を図ることを通して指導力、調整力、判断力を養うことを目標とする。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・看護学入門.
- ・体験ゼミナール.
- ・看護学入門実習.
- ・育成期看護概論.
- ・小児看護学方法論Ⅰ.
- ・小児看護学方法論Ⅱ.
- ・小児地域ケア論.
- ・小児看護学実習.
- ・総合実習.
- ・看護研究.
- ・看護学統合.

2) 他大学、大学院等の非常勤講師 (科目名、大学名)

- ・小児看護学方法論Ⅱ. 順天堂大学医療看護学部.
- ・看護倫理とコンサルテーション. 常磐大学大学院看護学研究科.
- ・小児看護学演習Ⅰ. 東邦大学大学院看護学研究科.
- ・プライマリケア看護学概論. 島根県立大学看護学研究科.
- ・子どもとその家族への支援. 済生会横浜市東部病院人材開発センター認定看護師教育課程 (小児プライマリケア分野).

III 研究記録

1 著書 (著者本人下線：著書、発行年、発行所、発行場所)

- ・倉田 慶子, 市原 真穂, 仁宮 真紀, 麻生 幸三郎 編著：ケアの基本がわかる重症心身障害児の看護：出生前の家族支援から緩和ケアまで, 2023, へるす出版

2 学術論文・その他 (著者：題名、雑誌名、巻、号、ページ、発行年、本人下線)

- ・久木元 理恵, 市原 真穂：【子どもの“いい顔”を探す旅にでよう】子どもにかかわる人々の“いい顔”看護実習生と子どもの“いい顔”小児看護の楽しさを伝える, 小児看護, 46, 5, 593-602, 2023
- ・市原 真穂：地域における医療的ケア児の支援と看護 医療的ケア児の受け入れと看護の実際 地域における医療的ケア児

3 発表(発表者:発表タイトル, 主催学会(学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- ・市原 真穂, 久木元 理恵, 高木 典子: 幼児期の子どもの行動にストレスを感じる家族のニーズと支援 1 事例への介入分析からの考察, 小児看護学会第 33 回学術集会, 2023 年 7 月 16 日, 横浜
- ・水戸 恵, 市原 真穂: 二次医療機関小児外来における母子健康手帳をきっかけとしたケア実践にむけたアクションリサーチ, 小児看護学会第 33 回学術集会, 2023 年 7 月 16 日, 横浜
- ・北澤 理沙, 村山 より子, 市原 真穂, 度會 裕子: 産科混合病棟での産後ケアの現状に対する助産師の葛藤, 第 64 回日本母性衛生学会学術集会, 2023 年 10 月 13 日, 大阪
- ・田淵 香織, 市原 真穂: 妊娠悪阻で入院する妊婦に対する熟練助産師のケア, 第 43 回日本看護科学学会学術集会, 2023 年 12 月 10 日, 山口
- ・Maho Ichihara, Akiko Araki, Tomoko Kumagai, Chika Kawakami, Naho Sato, Miyuki Nishida: Needs and Outcomes of Advanced Practice Nurse Interventions/Program Development in Pediatric Nursing: A Literature Review, EAFONS2024, 2024 年 3 月 6 日~7 日, Hong Kong

4 招待講演, シンポジウム, その他

- ・千葉看護学会第 29 回学術集会シンポジウムシンポジスト. 看護のところが共有できる現場づくり 一人を育てるための組織とは一, 市原真穂, 看護のこころの言語化と共有を通して機能する現場をつくる事例検討会, 2023 年 9 月 9 日, 千葉
- ・第 48 回日本重症心身障害学会学術集会シンポジウム座長. 医療的ケアがあってもなくてもかわらないもの. 2023 年 10 月 26 日, 千葉
- ・第 54 回日本看護学会学術集会シンポジウム 7 シンポジスト. 日本専門看護師協議会合同企画「専門看護師の活動から見出す新たな価値」. 2023 年 11 月 9 日, 横浜
- ・小児看護学会第 33 回学術集会小児看護政策委員会テーマセッション, 2023 年 7 月 16 日, 横浜

5 研究資金獲得状況(外部資金・学内共同・学長裁量)(資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・科学研究費補助金(2019 年度基盤研究(C)), 高次脳機能障害の症状を呈する子どもに対する急性期からの生活支援, 研究分担者
- ・科学研究費補助金(2022 年度基盤研究(C)), 重症心身障がい児の看護ケアに伴う生体反応を非接触で測定できるデバイスの開発, 研究分担者
- ・科学研究費補助金(2023 年度基盤研究(C)), 保育・教育職を対象とした精神疾患である親と子どもの支援に関する学習支援プログラム, 研究分担者
- ・科学研究費補助金(2023 年度基盤研究(C)), 幼児期の医療的ケア児を育てる母親の強みに対する支援一プロダクティビティの観点から, 研究分担者
- ・2023 年度千葉県立保健医療大学共同研究費(学長裁量), 在宅療養する医療的ケアを必要とする子どもとその家族への支援指針作成 ~育児ストレス緩和を観点にしたアプローチ~

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等(活動名称, 活動期間, 場所等)

1) 千葉県内

- ・2023 贈り物の国, 2023 年 7 月 2 日(日), 淑徳大学学生ホール
- ・CHIBACHI 子ども未来会議, 2023 年 12 月 23 日(土), 千葉県立保健医療大学大講義室
- ・千葉県医療的ケア児等支援センター主催: ぼらりすフェス, 2024 年 3 月 3 日(日), 千葉県千葉リハビリテーションセンター大ホール
- ・千葉県医療的ケア児家族会, 2023 年 11 月~2024 年 3 月, 千葉

2) 千葉県外

- ・全国医療的ケアライン 第 2 回全国フォーラム, 2023 年 11 月 3 日, 東京フォーラム

3 審議会, 委員会, 国家試験委員等の実績 (活動団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・千葉市地域自立支援協議会検討会 医療的ケア児等支援部会, 2023年4月~2024年3月

4 職能団体委員等 (職能団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・日本看護協会, 専門看護師認定実行委員 2023年4月~2024年3月
- ・重症心身障害福祉協会, 重症心身障害看護師審査委員 2023年4月~2024年3月

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本小児看護学会, 日本重症心身障害学会, 日本リハビリテーション看護学会, 日本小児保健協会, 日本看護科学学会, 千葉看護学会, 日本家族看護学会, 日本看護管理学会, 日本専門看護師協議会,

2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・日本小児看護学会, 小児看護政策委員, 委員, 2023年4月~2024年3月
- ・日本小児看護学会, 診療報酬検討委員, 委員, 2023年4月~2024年3月
- ・日本小児看護学会, 第33回学術集企画委員, 広報渉外担当, 2023年4月~10月
- ・日本小児看護学会, 日本小児看護学会誌専任査読者, 2023年4月~2024年3月
- ・日本重症心身障害学会, 評議員, 2023年4月~2024年3月
- ・日本重症心身障害学会, 編集委員, 2023年4月~2024年3月
- ・日本重症心身障害学会, 社会活動委員, 2023年4月~2024年3月
- ・日本重症心身障害学会, 第46回学術集会プログラム委員, 2023年4月~2023年11月
- ・日本専門看護師協議会, 代表理事, 2023年6月~2024年3月
- ・日本専門看護師協議会, 評議員, 2023年6月~2024年3月
- ・日本専門看護師協議会, 第12回学術集会企画委員 2024年1月~2024年3月
- ・日本看護系学会協議会, APN制度推進委員, 2024年2月~2024年3月25日
- ・千葉看護学会, 千葉看護学会誌査読委員, 2023年4月~2024年3月
- ・日本リハビリテーション看護学会, 日本リハビリテーション看護学会誌査読委員, 2023年4月~2024年3月

6 講演会 (公開講座を含む) / 研修会の講師・研究指導等 (会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日時, 場所)

- ・療育研究研修 東京都立東部療育センター, 看護師, 2023年5月~2024年2月 10回, 東京都
- ・療育研究指導 東京都立東部療育センター, 看護師, 3グループ 東京都
- ・小児看護スキルアップ研修ファシリテーター, 日本小児看護学会, 看護師, 2023年9月2日, 2024年1月27日
- ・千葉県医療的ケア児支援センター支援者研修会, 千葉県医療的ケア児支援センター, 看護師, 保育士他, 2023年9月2日, 2023年11月23日

V 管理・運営記録

1 全学委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・教授会, 学生委員会, 紀要編集部会, 大学院構想WG,

2 学科/専攻内委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・看護学科運営会議, 看護学科教授会, 学生進路支援委員会, 進路支援部会, 看護学科「看護研究」作業グループ会議,

VI 評価 (成果および改善すべき事項)

今年度は教育内容を再構成し教員間の業務内容の調整を行い, 円滑な科目運営をすることができた。授業科目においては, 現代的な小児医療の課題を踏まえた内容を盛り込み, 学生の実践能力向上につながる基礎的知識の効果的な教授に務め, 内

容の大幅見直しに至った。実習科目においては、臨床判断をガイドする記録様式等の構成に取り組んだ。研究活動については、領域として小児関連施設との連携を深め、地域に貢献できるような中核となるテーマを確立することに重点を置いたが、十分にできなかった。大学運営では、全学学生委員会、学生進路支援委員会、紀要委員会等の業務を円滑に遂行した。また、業務を遂行する中で課題に気づき、解決を図ることを通して指導力、調整力、判断力を養うことにつながった。

Ⅶ 次年度の目標

小児医療の課題を踏まえた内容を盛り込み、学生の実践能力向上につながる基礎的知識の効果的な教授、および実習科目との接続において、プロフェッショナル教育を踏まえて、将来リーダーとなる人材育成に資する教育内容を開発する。研究活動については、領域として小児関連施設との連携を深め、地域に貢献できるような中核、拠点となるように、医療的ケア児、発達障害児への支援をテーマの研究を推進する。大学運営では、引き続き全学学生委員会、学生進路支援委員会、紀要委員会等の業務を円滑に遂行したい。また、業務を遂行する中で課題に気づき、解決を図ることを通して指導力、調整力、判断力を養いたい。

教授 神田 みなみ 修士 (文学), Master of Arts (TESOL)

対象期間 : 2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日まで

I 年度当初の目標

教育に関して、担当の英語科目を充実させて保健医療職として活用できる英語指導、英語カリキュラムを非常勤講師を含めて効果的に実施できるように教員との連携、学生の支援を行う。大学の管理運営 (人事委員長) としての任務を遂行する。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
 - ・英語 I (講読).
 - ・英語 III (講読・記述).
 - ・英語 V (保健医療英語) 看護学科.
 - ・英語 V (保健医療英語) 栄養学科.
 - ・英語 V (保健医療英語) 歯科衛生学科.
 - ・英語 VI (応用英語).
 - ・英語 VII (上級英語) A.
 - ・英語 VII (上級英語) B.
- 2) 他大学、大学院等の非常勤講師 (科目名、大学名)
 - ・実践歯科英会話 (日本歯科大学東京短期大学).

III 研究記録

2 学術論文・その他 (著者: 題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・神田みなみ: 快読快聴ライブラリ解説 Kind Emma, 多聴多読マガジン, Vol.96, p.41, 2023.
- ・神田みなみ: 快読快聴ライブラリ解説 The OGRE, 多聴多読マガジン, Vol.98, p.49, 2023.
- ・神田みなみ: 快読快聴ライブラリ解説 Me Before You, 多聴多読マガジン, Vol.100, p.83, 2023.
- ・神田みなみ: 快読快聴ライブラリ解説 Class Six and the Very Big Rabbit, 多聴多読マガジン, Vol.102, p.61, 2024.

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・2018-2023 年度科学研究費補助金基盤研究(C), 保健医療系 ESP 英語多読プログラムの構築と検証, 研究代表者.

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等 (活動名称, 活動期間, 場所等)

- 1) 千葉県内
 - ・ほい大健康プログラム (健康教室 第2回 看護学科プログラム「いきいき暮らせるからだをつくろう」. 令和6年2月17日, 幕張キャンパス)

5 学会, 学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
 - ・日本多読学会. 日本英文学会. 大学英語教育学会 (JACET). 全国語学教育学会 (JALT). American Association of Applied

Linguistics (AAAL:アメリカ応用言語学会). TESOL International Association (TESOL: 米国・第二言語としての英語教育学会). 映像メディア英語教育学会. 外国語教育メディア学会. Japan Association for Nursing English Teaching (JANET: 看護英語教育学会). 日本医学英語教育学会. 英語コーパス学会

2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・日本多読学会. 監事・理事. 2023年4月～2024年3月.
- ・国際異文化学会. 副会長・理事. 2023年4月～2024年3月.

6 講演会 (公開講座を含む) / 研修会の講師・研究指導等 (会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日時, 場所)

- ・第3回外国語による応急処置体験講習. 神田外語大学 / 千葉県立保健医療大学. 「対象者への声がけと状況把握」. 令和6年3月8日. 9時30分～16時. 千葉県立保健医療大学.

V 管理・運営記録

1 全学委員会 (委員会名 / 活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・教授会. 共通教育運営会議. 教務委員会. 人事委員会. 入試改革検討委員会. 教員資格審査委員会.

2 学科 / 専攻内委員会 (委員会名 / 活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・看護学科運営会議. 看護学科教授会. 看護学科学生・進路支援委員会 (1年担任リーダー).

VI 評価 (成果および改善すべき事項)

英語専任教員として全学の英語クラスの運営を担い, 非常勤講師と連携し, クラス分け (前期は学科専攻別, 後期は希望調査による振り分け), 名簿作り, 学生や教務に関する情報交換, 学生対応等の業務を遂行した. 図書館のオンラインライブラリー及びMicrosoft Teams を利用して, 事前・事後課題, 授業内課題や学習記録等のオンライン提出を行い, 学生の課外の学修を促進するよう努めた. また保健医療職のための英語をより専門性の高い内容とし, 小テストにより定着を図るよう努めた. 大学の管理運営業務としては, 人事委員会にて教員組織の定期的検証を実施し, 教員組織の検討を行った.

VII 次年度の目標

教育に関して, 引き続き, 担当の英語科目を充実させて保健医療職として活用できる英語指導, 英語カリキュラムを非常勤講師を含めて効果的に実施できるように教員との連携, 学生の支援を行う. 大学の管理運営 (人事委員長) としての任務を遂行する.

教授 小宮 浩美 博士（看護学）

対象期間：2023年4月1日～2024年3月31日まで

I 年度当初の目標

地域包括ケアを担う看護職者の育成に向けて、精神看護実践能力を高める効果的な授業の展開を目指し、領域の教員相互に協力しながら教育内容を充実させる。特に県内の精神科看護を担う人材を輩出していきたい。研究活動では、科研費の代表者となっている研究計画を推進するとともに、これまでの研究成果の論文投稿に取り組む。管理運営業務では、教員再任審査委員会および共通教育運営会、研究倫理審査委員会における役割を果たす。特に教員再任審査委員会においては委員長として円滑な審査とより適切な審査項目や審査方法に向けて課題を見出し、解決策を実行する。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・看護学入門.
- ・看護学入門実習.
- ・精神看護学概論.
- ・精神看護学方法論Ⅰ.
- ・精神看護学方法論Ⅱ.
- ・精神看護学実習.
- ・退院支援論.
- ・心の健康.
- ・総合実習.
- ・看護研究.
- ・看護学統合.

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・小宮全，倉山太一，小宮浩美：Live USB を用いた並列計算環境の有用性の確認，東京交通短期大学紀要，28，pp213-129，2023.
- ・小宮浩美，比田井理恵：シンポジウム報告 看護のところが共有できる現場づくり～人を育てるための組織とは～，千葉看護学会誌，29，2，pp122-124，2023.

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・小宮浩美，小宮 全，小林雅美：精神科病棟における身体拘束減少のための介入についてのシステムティックレビュー，第66回日本病院・地域精神医学会総会，2023年12月16日-17日，神奈川.
- ・小林雅美，小宮浩美，加藤隆子：公立小学校で働く教員と精神疾患をもつ児童との関わりに関する事例報告，第33回日本精神保健看護学会学術集会，2023年5月13日～14日，兵庫.
- ・山内菜摘，小宮浩美，小林雅美：精神科病院に入院した患者の入院生活におけるストレスと対処～就労継続支援B型の通所者を対象とした質問紙調査～，第29回千葉看護学会，2023年9月9日，千葉.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・科学研究費補助金基盤研究（C），精神科病棟の看護におけるEBPの実践適用ツールおよびモデルの開発，研究代表者.

- ・科学研究費補助金基盤研究 (C). 精神科病棟の看護師を対象に EBP に関する継続的な学習を支援する教育システムの開発, 研究分担者.
- ・科学研究費補助金基盤研究 (C). 保育・教育職を対象とした精神疾患である親と子どもの支援に関する学習支援プログラム, 研究分担者.

IV 社会貢献・国際交流記録

4 職能団体委員等 (職能団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・一般社団法人 日本精神科看護協会, 論文査読委員, 2023. 4. ～現在に至る
- ・一般社団法人 日本精神科看護協会千葉県支部, 顧問, 2023. 4. ～現在に至る

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本看護科学学会, 日本看護管理学会, 日本精神保健看護学会, 日本病院・地域精神医学会, 千葉看護学会.

2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・千葉看護学会, 第 29 回企画委員, 2023. 4. ～2023. 9.
- ・千葉看護学会, 第 29 回学術集会, シンポジウム座長, 2023. 9.
- ・日本精神保健看護学会, 査読委員, 2023. 11～現在に至る.

6 講演会 (公開講座を含む) / 研修会の講師・研究指導等 (会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日時, 場所)

- ・新人看護職員研修担当者研修, 千葉県看護協会主催, 新人看護師の基礎教育の状況, 新人看護職員研修担当者または教育担当者, 10 月 17 日 10 時～12 時 30 分, 千葉県看護協会.
- ・新人精神科看護師の会, 日本精神科看護協会千葉県支部, 集まれ! 新人精神科看護師 第 1 回目, 千葉県内精神科病院で働く看護師, 8 月 5 日 13 時 30 分～16 時, 千葉県立保健医療大学.
- ・新人精神科看護師の会, 日本精神科看護協会千葉県支部, 集まれ! 新人精神科看護師 第 2 回目, 千葉県内精神科病院で働く看護師, 11 月 11 日 13 時 30 分～16 時, 千葉県立保健医療大学.
- ・令和 5 年度 日精看千葉県支部 第 6 回看護研修会, 日本精神科看護協会千葉県支部, 語ろう! 精神科看護, 千葉県内精神科病院で働く看護師, 2 月 3 日 13 時 30 分～16 時, 千葉市民会館 特別会議室.

V 管理・運営記録

1 全学委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・大学教授会, 教員再任審査委員会, 共通教育運営会, 研究倫理審査委員会, 教員資格審査委員会.

2 学科/専攻内委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・看護学科教授会, 看護学科総務・企画委員会, 看護学科運営会議.

VI 評価 (成果および改善すべき事項)

教育活動では, 自己主導型学習を促進するため, 講義科目の精神看護学概論においてもロールプレイ演習を取り入れた。研究活動について共同研究の 2 件は学術誌に投稿できた。代表者の研究についても学会発表をすることができたため, 次年度は論文文化を目指す。大学管理運営は, 教員再任審査委員会委員長として各種規程の改正につなげることができた。学術集会の企画委員や職能団体の委員として, 社会貢献活動を果たすことができた。

VII 次年度の目標

Society 5.0に向かう日本社会における看護職者の育成という視点をもって、領域の教員相互に協力しながら教育内容をさらに充実させる。次年度も継続して県内の精神科看護を担う人材を輩出していきたい。研究活動では、科研費の代表者となっている研究計画を推進するとともに、これまでの研究成果の論文投稿に取り組む。管理運営業務では、特に教員再任審査委員会においては委員長として円滑な審査と審査項目や審査方法の課題の解決を目指す。

教授 太和田 暁之 博士 (医学)

対象期間：2023年4月1日～2024年3月31日まで

I 年度当初の目標

- ・教育：基礎医学・臨床医学の系統講義を行う。高い倫理観と優れた臨床知見を有する医療専門職を育成する。
- ・研究：病態の解明と新規治療法の開発をテーマに臨床研究を行う。
- ・管理・運営：戦略的かつ効果的な組織運営を通して大学の発展に寄与する。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
 - ・人体の構造と機能Ⅰ.
 - ・人体の構造と機能Ⅱ.
 - ・人体の構造と機能Ⅲ.
 - ・病態学Ⅰ.
 - ・病態学Ⅲ.
 - ・臨床検査論.
 - ・内科学概論 (歯科衛生学科).
 - ・高齢者医療論 (歯科衛生学科).
 - ・高齢者医療論 (栄養学科).
 - ・画像診断学 (全学科・専攻).
 - ・体験ゼミナール (全学科・専攻).

III 研究記録

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・科研費基盤研究(C), 肝癌感受性遺伝子 MICA のシェダーゼ阻害を基盤とした新規治療薬の探索, 太和田暁之(研究代表者), 荒井潤(研究分担者), 室山良介(研究分担者)
- ・科研費基盤研究(C), 肺扁平上皮がんの多面的アプローチによる分子標的治療の開発, 瀧口雄一(研究代表者), 太和田暁之(研究分担者), 椎葉正史(研究分担者), 新井誠人(研究分担者)

IV 社会貢献・国際交流記録

2 地域への保健医療活動 (診療・技術指導等, 活動期間, 場所等)

- ・みつわ台総合病院 (診療・技術指導等, 2023年7月～, 千葉市若葉区)

5 学会, 学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
 - ・The Asian Pacific Association for the Study of the Liver. 日本内科学会. 日本臨床腫瘍学会. 日本消化器病学会. 日本消化器内視鏡学会. 日本肝臓学会. 日本人類遺伝学会. 千葉医学会.

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・学術推進企画委員会、学内共同研究審査部会、学生委員会、共通教育運営会議、FD・SD委員会、健康危機対策委員会会議（COVID-19対策会議）、教授会。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・学生進路支援委員会、進路支援部会、人事評価部会、1年生担任、学科教授会。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

- ・教育：看護学科、栄養学科、歯科衛生学科、リハビリテーション学科（理学療法学・作業療法学専攻）の各学部生を対象に基礎医学および臨床医学の系統講義を行った。
- ・研究：研究代表を務める文部科学省科学研究科研費助成事業研究課題を遂行した。
- ・管理・運営：委員長を務める学術推進企画委員会において競争的外部資金の獲得推進を目的とし専門企業による研究支援サービスを新規に導入した。学術研究の発展を目的として計4回FD（イブニングセミナー）を開催した。学内共同研究費助成において健康施策に関連した研究課題公募を新設した。

VII 次年度の目標

- ・教育：基礎医学・臨床医学の系統講義を行う。高い倫理観と優れた臨床知見を有する医療専門職を育成する。
- ・研究：病態の解明と新規治療法の開発をテーマに臨床研究を行う。
- ・管理・運営：戦略的かつ効果的な組織運営を通して大学の発展に寄与する。

准教授 雨宮 有子 博士 (スポーツ健康科学)

対象期間：2023年4月1日～2024年3月31日まで

I 年度当初の目標

教育では、担当科目において、学生が看護職、特に保健師への関心を高め基礎的知識及び実践能力が学得できるよう努める。研究に関しては、共同研究の計画的推進とともに既存の研究成果の論文化に重点を置く。社会貢献では、県内保健師の現任教育およびその体制整備を継続して支援することに加え、学術団体や国の委員において全国の保健師活動の発展に貢献できるように努める。管理・運営に関しては、研究倫理審査の体制整備に参画する。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
 - ・地域看護学概論.
 - ・地域看護学方法論Ⅱ.
 - ・地域看護学方法論Ⅲ.
 - ・看護政策論.
 - ・地域看護学実習.
 - ・総合実習.
 - ・看護研究.
 - ・看護学統合.
 - ・専門職間の連携活動論.

III 研究記録

1 著書 (著者本人下線：著書, 発行年, 発行所, 発行場所)

- ・2024年版 保健師国家試験問題 解答と解説, 成人保健活動・高齢者保健活動, 2023, 医学書院, 東京.

2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・雨宮有子, 奥田博子, 宮崎美砂子, 尾島俊之, 春山早苗, 吉川悦子, 岩瀬靖子: 災害時保健活動マニュアルの活用推進における好事例の検討, 厚生労働科学研究費補助金 健康安全・危機管理対策総合研究事業 自治体における災害時保健活動マニュアルの策定及び活動推進のための研究 令和4年度 総括・分担研究報告書, 86-103, 2023.
- ・奥田博子, 雨宮有子, 宮崎美砂子, 尾島俊之, 春山早苗, 吉川悦子, 岩瀬靖子: 災害時保健活動マニュアル策定における好事例の検討, 厚生労働科学研究費補助金 健康安全・危機管理対策総合研究事業 自治体における災害時保健活動マニュアルの策定及び活動推進のための研究 令和4年度 総括・分担研究報告書, 70-85, 2023.
- ・宮崎美砂子, 尾島俊之, 奥田博子, 春山早苗, 雨宮有子, 吉川悦子, 岩瀬靖子, 草野幸恵, 相馬幸恵, 築場玲子, 立石清一郎, 五十嵐侑, 花井詠子, 井口紗織: 全国自治体を対象とした災害時保健活動マニュアルの策定・活用状況の実態調査, 厚生労働科学研究費補助金 健康安全・危機管理対策総合研究事業 自治体における災害時保健活動マニュアルの策定及び活動推進のための研究 令和4年度 総括・分担研究報告書, 25-52, 2023.
- ・宮崎美砂子, 尾島俊之, 奥田博子, 春山早苗, 雨宮有子, 吉川悦子, 岩瀬靖子, 草野幸恵, 相馬幸恵, 築場玲子, 立石清一郎, 五十嵐侑, 花井詠子, 井口紗織: 総括研究報告, 厚生労働科学研究費補助金 健康安全・危機管理対策総合研究事業 自治体における災害時保健活動マニュアルの策定及び活動推進のための研究 令和4年度 総括・分担研究報告書, 1-15, 2023.
- ・雨宮有子, 鈴木秀洋: 平時からの取組によりコロナ対応において有効に体制整備された事例, 厚生労働科学研究費補助金

健康安全・危機管理対策総合研究事業 保健所における感染症対応職員の役割機能強化のためのガイドライン及び研修プログラムの開発 令和4年度 総括・分担研究報告書, 70-85, 2023.

- ・春山早苗, 尾島俊之, 雨宮有子, 井口理, 鈴木秀洋, 江角伸吾, 藤田利枝, 福田昭子, 塚本容子, 島田裕子, 佐藤太一, 舟橋千尋: 総括研究報告, 厚生労働科学研究費補助金 健康安全・危機管理対策総合研究事業 保健所における感染症対応職員の役割機能強化のためのガイドライン及び研修プログラムの開発 令和4年度 総括・分担研究報告書, 1-9, 2023.
- ・富岡順子, 福田昭子, 加藤孝子, 濱坂浩子, 北林恭子, 木櫛聖子, 生田目晴美, 前田香, 雨宮有子, 牛尾裕子: 健康危機管理における保健活動を推進する統括保健師間ネットワーク構築に関する調査, 令和5年度地域保健総合推進事業「健康危機管理における保健活動を推進する統括保健師間ネットワーク構築に関する調査事業」報告書, 1-57, 2024.
- ・田嶋ひろみ, 柄澤清美, 雨宮有子, 吉田滋子, 山田妙子: 重症心不全患者と家族の穏やかな自宅療養継続を支える訪問看護師の実践—「ケアの意味を見つめる事例研究」による分析—, 家族看護学研究, 29 卷, 37-50, 2023.

3 発表 (発表者: 発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- ・雨宮有子, 荒木田美香子, 牛尾裕子, 林裕美, 齊藤和美, 富岡順子: 改正感染症法等: 災害を含む複合的健康危機に備える多様なネットワーク構築への手がかり (ワークショップ). 日本地域看護学会 第26回学術集会, 2023年9月2-3日, 神奈川県川崎市.
- ・雨宮有子, 荒木田美香子, 牛尾裕子, 林裕美, 齊藤和美: 健康危機管理に関する統括保健師のネットワークの現状と課題—全国実態調査結果—. 日本地域看護学会 第26回学術集会, 2023年9月2-3日, 神奈川県川崎市.
- ・雨宮有子, 荒木田美香子, 牛尾裕子, 林裕美, 齊藤和美, 新谷アサ子: 統括保健師が取り組む健康危機に対する訓練の実施状況—全国実態調査結果—. 第82回 日本公衆衛生学会総会. 2023年10月31日-11月2日, 茨城県つくば市.
- ・雨宮有子, 荒木田美香子, 牛尾裕子: 平時および健康危機時における統括保健師の孤独の実態—統括保健師全国実態調査結果 その1—. 第43回日本看護科学学会学術集会, 2023年12月9-10日, 山口県下関市.
- ・牛尾裕子, 雨宮有子, 荒木田美香子: 統括保健師が取り組む地域における健康危機管理体制整備—統括保健師全国実態調査結果 その2—. 第43回日本看護科学学会学術集会, 2023年12月9-10日, 山口県下関市.
- ・雨宮有子, 齋藤多恵子, 熊谷忠和, 諏訪部高江, 石橋みゆき: 認知機能低下・心不全増悪で救急再入院した高齢の母と同居する独身の息子からなる家族への Transitional Care における看護師とソーシャルワーカーに共通するコンピテンシー, 日本家族看護学会 第30回学術集会, 2023年9月9-10日, 大阪府吹田市.
- ・Miyuki Ishibashi, Yuko Amamiya, Ryuko Ito, Taeko Saito, Midori Kogure, Yayoi Hayashi, Chihiro Sasaki, Tadakazu Kumagai, Kinue Kuzuta, Seiichiro Furukawa, Syoutaro Imai, Yahiko Takeuchi, Yasuyuki Tanaka, Takae Suwabe, Kazue Hirano: Transitional Care Competencies Common to Nurses, Social Workers, and Physical Therapists, The 27th East Asian Forum of Nursing Scholars, 6-7 March 2024, The University of Hong Kong, HONG KONG.
- ・熊谷忠和, 石橋みゆき, 雨宮有子, 齋藤多恵子, 諏訪部高江: Transitional ケアコンピテンシーを基盤とした地域連携教育プログラム開発研究において素材とした事例検討からのソーシャルワークコンピテンシーの考察, 日本保健医療社会福祉学会 第33回大会, 2023年9月17日, オンライン開催.
- ・雨宮有子, 奥田博子, 宮崎美砂子, 尾島俊之, 春山早苗, 吉川悦子, 岩瀬靖子, 草野富美子, 相馬幸恵, 築場玲子, 立石清一郎, 花井詠子, 井口紗織: 災害時保健活動マニュアル活用促進における好事例の検討【第3報】. 第82回 日本公衆衛生学会総会. 2023年10月31日-11月2日, 茨城県つくば市.
- ・宮崎美砂子, 尾島俊之, 奥田博子, 春山早苗, 雨宮有子, 吉川悦子, 岩瀬靖子, 草野富美子, 相馬幸恵, 築場玲子, 立石清一郎, 井口紗織, 花井詠子: 自治体における災害時保健活動マニュアルの策定及び活用の実態【第1報】. 第82回 日本公衆衛生学会総会. 2023年10月31日-11月2日, 茨城県つくば市.
- ・奥田博子, 雨宮有子, 宮崎美砂子, 尾島俊之, 春山早苗, 吉川悦子, 立石清一郎, 五十嵐侑, 岩瀬靖子, 草野富美子, 相馬幸恵, 築場玲子, 井口紗織, 花井詠子: 災害時保健活動マニュアル策定における好事例の検討【第2報】. 第82回 日本公衆衛生学会総会. 2023年10月31日-11月2日, 茨城県つくば市.
- ・雨宮有子, 鈴木秀洋, 春山早苗, 尾島俊之, 井口理, 江角伸吾: 保健所における COVID-19 対応体制整備 3—有効であった平時の取組や体制, 第12回日本公衆衛生看護学会学術集会, 2024年1月6-7日, 福岡県北九州市.
- ・島田裕子, 春山早苗, 江角伸吾, 福田昭子, 尾島俊之, 藤田利枝, 雨宮有子, 鈴木秀洋, 井口理: 保健所における COVID-19 対応体制整備 1—保健所長のサポート体制, 第12回日本公衆衛生看護学会学術集会, 2024年1月6-7日, 福岡県北九州市.
- ・尾島俊之, 島田裕子, 春山早苗, 藤田利枝, 江角伸吾, 雨宮有子, 井口理, 鈴木秀洋: 保健所における COVID-19 対応体制

整備 2—保健所長に有用であったサポート, 第 12 回日本公衆衛生看護学会学術集会, 2024 年 1 月 6-7 日, 福岡県北九州市.

- ・井口理, 佐藤太一, 福田昭子, 江角伸吾, 雨宮有子, 鈴木秀洋, 塚本容子, 尾島俊之, 春山早苗: 感染症対応に関わる研修の実態 1 保健所を設置しない市町村保健師, 第 12 回日本公衆衛生看護学会学術集会, 2024 年 1 月 6-7 日, 福岡県北九州市.
- ・江角伸吾, 福田昭子, 井口理, 雨宮有子, 鈴木秀洋, 尾島俊之, 島田裕子, 春山早苗: 感染症対応に関わる研修の実態 2—都道府県等本庁及び保健所で実施された COVID-19 関連の研修, 第 12 回日本公衆衛生看護学会学術集会, 2024 年 1 月 6-7 日, 福岡県北九州市.
- ・Yuko Amamiya, Hidehiro Suzuki, Toshiyuki Ojima, Aya Iguchi, Shingo Esumi, Sanae Haruyama: Measures to Increase the Surge Capacity of Health Departments during the COVID-19 Pandemic in Japan, The 27th East Asian Forum of Nursing Scholars, 6-7 March 2024, The University of Hong Kong, HONG KONG.
- ・SEKIYAMA Tomoko, HARUYAMA Sanae, KISHI Noriko, OJIMA Toshiyuki, AMAMIYA Yuko, IGUCHI Aya, SUZUKI Hidehiro, ESUMI Shingo: Mobilization of Human Resources at Public Health Centers to Enhance Surge Capacity During the COVID-19 Pandemic in Japan, The 27th East Asian Forum of Nursing Scholars, 6-7 March 2024, The University of Hong Kong, HONG KONG.
- ・Shingo Esumi, Aya Iguchi, Yuko Amamiya, Hidehiro Suzuki, Toshiyuki Ojima, Sanae Haruyama: Training for human resources mobilized at public health centers to address surge capacity during the COVID-19 pandemic in Japan, The 27th East Asian Forum of Nursing Scholars, 6-7 March 2024, The University of Hong Kong, HONG KONG.
- ・山本則子, 柄澤清美, 吉田滋子, 雨宮有子, 角川由香, 望月由紀, 家高洋: どんな家族看護の「知」を求めていますか? (交流集会): 実践に資する家族看護の「知」のありかたを考える, 日本家族看護学会 第 30 回学術集会, 2023 年 9 月 9-10 日, 大阪府吹田市.
- ・望月由紀, 家高洋, 柄澤清美, 山本則子, 吉田滋子, 雨宮有子, 角川由香: 使える?! ケアの意味を見つめる事例研究—物語性を通じた触発と普遍— (交流集会), 第 43 回日本看護科学学会学術集会, 2023 年 12 月 9-10 日, 山口県下関市.
- ・伊藤隆子, 石垣和子, 吉田千文, 雨宮有子, 島村敦子, 辻村真由子: コロナ禍において訪問看護師等が体験した困難や葛藤を文化的視点から探求する (交流集会), 文化看護学会第 16 回学術集会, 2024 年 3 月 16 日, 滋賀県大津市.

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・厚生労働科学研究費 (健康安全・危機管理対策総合研究事業), 2022-2023, 自治体における災害時保健活動マニュアルの策定及び活動推進のための研究, 研究分担者.
- ・厚生労働科学研究費 (健康安全・危機管理対策総合研究事業), 2022-2023, 保健所における感染症対応職員の役割機能強化のためのガイドライン及び研修プログラムの開発, 研究分担者.
- ・文部科学省科学研究費 (基盤研究 (B)), 2020-2023, Transitional ケアコンピテンシーを基盤とした地域連携教育プログラム開発, 研究分担者.
- ・文部科学省科学研究費 (基盤研究 (C)), 2018-2023 在宅療養の場における倫理的課題への対処方法の解明と支援プログラムの開発, 研究分担者.
- ・文部科学省科学研究費 (基盤研究 (C)), 2019-2023, エンパワメント基盤型介護予防支援ガイドの開発, 研究分担者.
- ・文部科学省科学研究費 (基盤研究 (C)), 2020-2023, 発達障害児の親に対する地域との繋がりづくりを意図した防災プログラム評価指標の開発, 研究分担者.
- ・科学研究費助成事業 (基盤研究 (C)), 2020-2023, 医療職配置のない高齢者住宅の介護職員が活用できる新たな感染対策マニュアルの開発, 研究分担者.
- ・令和 5 年度地域保健総合推進事業, 健康危機管理における保健活動を推進する統括保健師間ネットワーク構築に関する調査事業, 協力事業者・研究協力者.

IV 社会貢献・国際交流記録

2 地域への保健医療活動 (診療・技術指導等, 活動期間, 場所等)

- ・能登半島地震に関わる金沢市内の避難所における健康相談・健康教育 (千葉県保健師チームとしての応援). 2024 年 3 月 22~28 日. 万寿苑・千寿閣・松寿荘・キゴ山.

3 審議会, 委員会, 国家試験委員等の実績 (活動団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・厚生労働省, 保健師助産師看護師試験委員, 2023年5月1日~2025年4月30日
- ・一般財団法人 日本公衆衛生協会, 2023年度 健康危機緊急時対応体制整備事業「IHEAT 教育内容検討作業部会」委員, 2023年5月11日~2024年3月31日

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本地域看護学会, 日本公衆衛生看護学会, 日本公衆衛生学会, 日本難病看護学会, 日本家族看護学会, 日本在宅看護学会, 日本在宅ケア学会, 日本看護管理学会, 日本看護科学学会, 文化看護学会, 千葉看護学会, 日本保健医療福祉連携教育学会,

2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・一般社団法人 日本公衆衛生看護学会, 代議員, 2021年~2024年,
- ・一般社団法人 日本家族看護学会 査読委員, 2016年8月1日~2024年8月31日,
- ・公益社団法人 日本看護科学学会, 和文誌専任査読委員, 2023年10月1日~2025年9月30日,
- ・一般社団法人 日本在宅看護学会, 査読者, 2021年11月~2024年4月,
- ・一般社団法人 日本在宅ケア学会, 査読委員, 2022年7月10日~2024年,
- ・日本保健医療福祉連携教育学会学術誌, 査読員, 2021年4月1日~2025年3月31日,
- ・一般社団法人 千葉看護学会, 査読委員, 2018年4月1日~2024年3月31日,
- ・日本家族看護学会第30回学術集会, 査読委員, 2023年5月,
- ・第12回公衆衛生看護学会学術集会, 査読委員, 2023年9~10月,
- ・第12回公衆衛生看護学会学術集会, 座長, 2024年1月7日,
- ・第28回日本在宅ケア学会学術集会, 座長, 2023年11月11日,
- ・文化看護学会第16回学術集会, 座長, 2024年3月17日,

6 講演会 (公開講座を含む) / 研修会の講師・研究指導等 (会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日時, 場所)

- ・2023年度健康危機における保健活動推進会議, 厚生労働省健康・生活衛生局, 健康危機発生時を見据えた平時からの大永づくり, 都道府県・保健所設置市・特別区に所属する統括保健師又は統括的役割を担う保健師, 本庁及び保健所の健康危機管理を担当する保健師, 2023年11月7日, Web開催,
- ・2023年度保健師管理者能力育成研修, 千葉県健康福祉部健康づくり課, 根拠に基づく事業・施策の展開, 市町村に勤務する保健師で管理者あるいは次期管理者として役割・機能を果たす者および県職員の保健師で次期管理者として役割・機能を果たす者, 2023年11月20日, 千葉県教育会館,
- ・2023年度千葉県特定健診・特定保健指導 経験者研修, 千葉県健康福祉部, 標準的な健診・保健指導プログラム 行動変容を促す保健指導技術, 特定保健指導従事経験年数3年目以上の従事者 (県内市町村の国民健康保険等, 医療保険者, および保健衛生部門等ならびに県内医療保険者からの特定健診・特定保健指導事業の受託実績がある民間事業者等の保健師, 管理栄養士等), 2023年9月5日, Web会議開催,
- ・2023年度 千葉県習志野保健所管内看護管理者等研修会, 習志野保健所, 訪問看護事業所における業務継続計画 (BCP) の策定について, 習志野保健所管内の訪問看護事業所 看護管理者等, 2023年11月10日, 習志野保健所,
- ・2023年度 第2回千葉県松戸保健所管内保健師等業務連絡研究会, 松戸保健所, 災害時における連携の実際, 松戸保健所管内の中堅期保健師等, 2023年7月31日, 東葛飾合同庁舎,
- ・2023年度 千葉県印旛保健所管内新任期保健師研修会, 新任期から心がけよう! 記録の書き方とポイント, 印旛保健所および管内自治体の新任期保健師と受講を希望する保健師, 2023年11月6日, 印旛保健所,
- ・2023年度 第1回千葉県夷隅保健所管内保健師業務連絡研究会, 夷隅保健所, 災害時における統括保健師に求められる役割, 夷隅保健所および管内自治体の統括的な立場にある保健師およびそれを補佐する立場にある職員等, 2023年10月16日, 夷隅保健所,
- ・2023年度 第2回千葉県夷隅保健所管内保健師業務連絡研究会, 保健事業研究会, 及び管内行政栄養士業務連絡研究会, 夷隅保健所, 災害時に実務保健師, 栄養士に求められる役割, 夷隅保健所管内市町及び保健所の保健師及び栄養士, 2023

年12月7日。Web開催（夷隅保健所）。

- ・2023年度 第1回千葉県君津保健所管内保健師業務連絡研究会。君津保健所。地区診断を通して災害に備える。君津保健所および管内自治体の保健師等。2023年5月27日。君津保健所。
- ・2023年度 第2回千葉県君津保健所管内保健師業務連絡研究会。君津保健所。実務保健師の災害時のコンピテンシー 地区診断をもとに災害時保健活動の実際について考える。君津保健所管内保健師等。2023年10月2日。君津保健所。
- ・2023年度 埼玉県熊谷保健所拠点管内災害対応研修。埼玉県熊谷保健所。災害保健活動の基本—自治体補職員に求められること—。熊谷保健所拠点管内市町保健衛生部門（主に保健師）及び健康危機管理部門の職員、ならびに拠点管内保健所の保健師。2023年10月4日、2024年1月18日。埼玉県熊谷保健所。
- ・2023年度 千葉県保健活動業務研究発表会。千葉県健康づくり支援課健康づくり班。業務研究発表（母子保健）。千葉県内保健師等。2024年3月5日。千葉県教育会館新館。
- ・2023年度 業務研究サポート。千葉県公衆衛生看護学教育連絡会議。新型コロナウイルス感染症のクラスター発生施設における職員の感染の状況と感染拡大の規模について。君津保健所保健師。2023年6月～12月。印旛保健所。
- ・2023年度 業務研究サポート。千葉県公衆衛生看護学教育連絡会議。外国出生の結核感染症患者発生動向と必要な対策。印旛保健所保健師。2023年6月～12月。印旛保健所。
- ・2023年度 第1回ケアの意味を見つめる事例研究。東京大学大学院医学系研究科 高齢者在宅長期ケア看護学分野。問われ語り、研究倫理について。ケアに携わる医療職、教育・研究職、事例研究に興味のある方。2023年10月28-29日。東京大学本郷キャンパス医学部5号館。
- ・看護を見つめる研修会。さいたま赤十字病院。ケアの意味を見つめる事例研究。さいたま赤十字病院の看護師 ラダーレベルⅢを取得または目指す者。2023年8月9日。さいたま赤十字病院。
- ・臨床看護研究研修。医療法人鉄蕉会 亀田総合病院 臨床看護教育研究センター。ケアの意味を見つめる事例研究。亀田総合病院の看護師長、看護師、亀田医療大学教員。2024年1月31日。亀田総合病院。
- ・看護師研修。大阪医科薬科大学病院。ケアの意味を見つめる事例研究。大阪医科薬科大学病院の看護師。2024年2月10日。大阪医科薬科大学病院。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称。活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・研究倫理審査委員会。自己点検・評価委員会 実施推進部会。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称。活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科 倫理審査委員会。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育では、アフターコロナにおける授業方法を整え滞りなく実施できた。保健師として13名の就職者を出せた。研究では、論文発表1本（共著）、報告書7編（筆頭2編）、学会発表22本（筆頭8本）等により成果を公表した。特に、厚生労働科研および地域保健総合推進事業における研究成果を、令和5年度健康危機における保健活動推進会議に活かした。また、保健所主催の研修において反映・活用することで千葉県等の行政保健師活動へ還元できた。今後、成果の論文化を進める必要がある。管理運営としては、全学と学科の研究倫理審査委員会において、倫理指針の改訂を本学の規定や書式等へ随時反映させ公正に実施することができた。社会貢献では、千葉県の保健師チームとして能登半島地震の応援に入ることができた。この経験を今後の千葉県等の健康危機管理体制整備に活かす必要がある。

VII 次年度の目標

教育では、担当科目において、学生が看護職、特に保健師への関心を高め基礎的知識及び実践能力が学得できるよう努める。研究に関しては、共同研究の計画的推進とともに既存の研究成果の論文化に重点を置く。社会貢献では、県内保健師の現任教員およびその体制整備を継続して支援することに加え、学術団体や国の委員において全国の保健師活動の発展に貢献できるように努める。管理・運営に関しては、研究倫理審査の体制整備および自己評価点検の公正な実施に参画する。

准教授 細谷 紀子 博士 (看護学)

対象期間：2023年4月1日～2024年3月31日まで

I 年度当初の目標

教育については、担当科目において学生が看護への関心を深め、基礎的実践能力を習得できるように努める。研究については、代表者および分担者を務める研究課題について計画的に推進し、成果を着実に示す。社会貢献については、千葉県主催の保健師現任教育や関係機関・学術団体の各委員の任務を責任をもって遂行する。加えて、今年度より看護学科社会貢献委員長を担うため、地域包括ケアを担う看護職に対する研修等を推進できるように努力する。大学の管理運営については、前述の看護学科社会貢献員会委員長、および学術推進企画委員としての職務や入試業務等を責任をもって担う。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・地域看護学概論.
- ・地域看護学方法論Ⅱ.
- ・地域看護学方法論Ⅲ.
- ・地域看護学実習.
- ・災害看護学.
- ・看護政策論.
- ・総合実習.
- ・看護研究.
- ・看護学統合.

III 研究記録

1 著書 (著者本人下線：著書, 発行年, 発行所, 発行場所)

- ・細谷紀子: 第3章 会議体の設置と住民との協働の確立, 保健医療福祉計画とは何か―策定から評価まで (吉岡京子編著), 73-101, 2023年, 法律文化社, 京都.
- ・細谷紀子: 第2章 I 障害児者保健福祉活動, 最新公衆衛生看護学第3版 2024年版各論1 (宮崎美砂子他編集), 180-225, 2024年, 日本看護協会出版会, 東京.

2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・Kyoko Yoshioka-Maeda, Hiroshige Matsumoto, Chikako Honda, Misa Shiomi, Kazuya Taira, Noriko Hosoya, Miki Sato, Yuka Sumikawa, Hitoshi Fujii and Takahiro Miura: New Web-Based System for Recording Public Health Nursing Practices and Determining Best Practices: Protocol of an Exploratory Sequential Design, JMIR Research Protocols, 12 e45342, <https://doi.org/10.2196/45342>
- ・細谷紀子, 藤井仁, 吉岡京子, 塩見美抄, 佐藤美樹, 三浦貴大: 保健師活動プロセス評価指標案の開発, 令和4年度厚生労働科学研究費補助金 (健康安全・危機管理対策総合研究事業) (分担) 研究報告書, pp20-26, 2023.
- ・吉岡京子, 塩見美抄, 細谷紀子, 佐藤美樹, 藤井仁, 三浦貴大: ICTを用いた保健師活動アルゴリズム及び評価手法の開発と統括保健師による人材育成への活用, 令和4年度厚生労働科学研究費補助金 (健康安全・危機管理対策総合研究事業) (総括) 研究報告書, pp1-9, 2023.
- ・塩見美抄, 吉岡京子, 細谷紀子, 佐藤美樹, 三浦貴大, 藤井仁: 保健師活動アルゴリズム開発に向けた判断項目の明確化, 令和4年度厚生労働科学研究費補助金 (健康安全・危機管理対策総合研究事業) (分担) 研究報告書, pp10-19, 2023.

- ・佐藤美樹, 吉岡京子, 藤井仁, 塩見美抄, 細谷紀子, 三浦貴大: ICT を用いた試作版ツールに必要な機能と人材育成への活用方法の検討, 令和4年度厚生労働科学研究費補助金(健康安全・危機管理対策総合研究事業)(分担)研究報告書, pp27-33, 2023.
- ・三浦貴大, 塩見美抄, 吉岡京子, 細谷紀子, 佐藤美樹, 藤井仁: ICT を用いた試作版ツールの開発のための活用状況調査, 令和4年度厚生労働科学研究費補助金(健康安全・危機管理対策総合研究事業)(分担)研究報告書, pp34-40, 2023.

3 発表(発表者:発表タイトル, 主催学会(学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- ・細谷紀子, 吉岡京子, 藤井仁, 塩見美抄, 佐藤美樹, 角川由香, 松本博成, 本田千可子, 茂木りほ, 平和也, 三浦貴大: 自治体保健師による個別支援から地区活動・事業化への活動展開プロセスの実施状況, 日本地域看護学会第26回学術集会, 2023年9月2日~3日, 川崎市.
- ・細谷紀子, 吉岡京子, 藤井仁, 角川由香, 塩見美抄, 佐藤美樹, 松本博成, 本田千可子, 平和也, 茂木りほ, 三浦貴大: 自治体保健師による個から地域・事業化への活動展開における実施状況と妥当性との比較, 第82回日本公衆衛生学会総会, 2023年10月31日~11月2日, 茨城県.
- ・細谷紀子, 山崎由佳, 川崎由紀, 福田浩子: 中堅前期保健師研修会の評価. 第62回千葉県公衆衛生学会, 2024年1月31日, 千葉市.
- ・吉岡京子, 片山貴文, 藤井仁, 塩見美抄, 細谷紀子, 真山達志: 保健医療福祉計画策定に関する保健師WEB教育プログラムの開発: ランダム化比較試験, 第82回日本公衆衛生学会総会, 2023年10月31日~11月2日, 茨城県.
- ・Kyoko Yoshioka-Maeda, Hiroshige Matsumoto, Chikako Honda, Noriko Hosoya, Hitoshi Fujii, Yuka Sumikawa, Misa Shiomi, Kazuya Taira, Miki Sato, Riho Iwasaki-Motegi and Takahiro Miura: Time allocation by public health nurses in providing individual care, 27th East Asian Forum of Nursing Scholare, 2024年3月6日~7日, HONG KONG.
- ・細谷紀子, 市原真穂, 春日広美, 大内美穂子, 大塚知子, 山本千代, 浅井美千代, 川城由紀子, 河部房子: 地域包括ケアを担う看護職に求められる実践能力とその向上のために, 千葉看護学会第29回学術集会交流集会, 2023年9月9日, 千葉県.

4 学術集会での招待講演(教育講演や基調講演)やシンポジウム等(学術集会名, テーマ, 開催日, 場所等)

- ・日本地域看護学会第26回学術集会, パネルディスカッション3 健康危機管理-防災から始める地域づくり-, 防災から始める要配慮者を包摂した地域づくりにおける保健師の役割, 2023年9月2日~3日, 川崎市(オンデマンド配信).

5 研究資金獲得状況(外部資金・学内共同・学長裁量)(資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・2020~2023年度科学研究費助成事業(基盤研究(C)), 発達障害児の親に対する地域との繋がりづくりを意図した防災プログラム評価指標の開発, 研究代表者.
- ・令和5(2023)年度厚生労働科学研究費補助金(健康安全・危機管理対策総合研究事業), ICTを用いた保健師活動アルゴリズム及び評価手法の開発と統括保健師による人材育成への活用, 研究分担者.
- ・2020~2023年度科学研究費助成事業(基盤研究(C)), 医療職配置のない高齢者住宅の介護職員が活用できる新たな感染対策マニュアルの開発, 分担研究者.
- ・2023年度学長裁量研究費, 地域包括ケアを担う看護職に対する実践能力向上プログラムの開発. 研究代表者.

IV 社会貢献・国際交流記録

3 審議会, 委員会, 国家試験委員等の実績(活動団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・千葉県国民健康保険団体連合会. 保健事業支援・評価委員会委員. 2021年7月より現在に至る.
- ・千葉県国民健康保険団体連合会. 保健事業支援・評価委員会ワーキンググループ委員. 2021年6月より現在に至る.
- ・八千代市第3次健康まちづくりプラン推進評価委員, 2023年6月より現在に至る.
- ・令和5年度千葉県保健師現任教育検討会. 有識者. 2023年4月~2024年3月.

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本地域看護学会、千葉看護学会、日本公衆衛生学会、日本看護科学学会、文化看護学会、日本公衆衛生看護学会、日本ルーラルナーシング学会。

2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・一般社団法人日本地域看護学会、代議員、2023年6月～2027年。
- ・千葉看護学会誌査読委員、2015年4月より現在に至る。
- ・日本ルーラルナーシング学会誌査読委員、2020年4月より現在に至る。
- ・日本公衆衛生看護学会誌査読委員、2022年6月より現在に至る。
- ・日本看護系大学協議会、災害連携教員、2021年1月より現在に至る。
- ・千葉看護学会第29回学術集会、企画委員、2022年10月～2023年10月。
- ・千葉看護学会第30回学術集会、企画委員、2023年9月～2024年10月。
- ・第82回日本公衆衛生学会総会、一般演題示説第16分科会4座長、2023年11月2日。

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日時、場所）

- ・令和5年度「公衆衛生看護研修（中堅期）」、国立保健医療科学院、リスクマネジメント（災害）と保健師の役割、中堅期保健師40名、オンデマンド講義（2023年6月）
- ・令和5年度中堅前期保健師研修会、千葉県健康づくり支援課、千葉県内中堅期保健師60名、オンデマンド講義および集合研修、2023年10月4日、2024年1月19日、千葉県教育会館
- ・令和5年度第2回香取保健所管内保健師業務連絡研究会、香取保健所、住民に伝わる事業評価の方法について、香取保健所管内保健師17名、2023年8月31日、香取健康福祉センター
- ・令和5年度第2回山武保健所管内保健師業務連絡研究会、山武保健所、事業の目的・目標に沿った事業評価・事業評価の手法を学ぶ、山武保健所管内保健師27名、2023年9月1日、山武市役所
- ・業務研究に関する指導、君津健康福祉センター、新任保健師が経験する困難と対処方法―複数の服薬中断リスクを持つ結核患者への支援を振り返って―、君津健康福祉センター保健師1名、2023年10月～12月、本学
- ・地域包括ケアを担う看護職に対する実践能力向上プログラム、千葉県立保健医療大学看護学科社会貢献委員会、「患者・家族への支援能力を高める」および「地域包括ケアシステムを維持・発展させる連携調整・マネジメント力を高める」、千葉県内200床未満の地域包括ケア病棟に勤務する看護師15名、2024年1月、本学
- ・看護研究のコツがてんこ盛り！ コツコツ学ぼうセミナー、千葉県立保健医療大学看護学科社会貢献委員会、研究について自由に語ろう、千葉県内300床未満の医療施設に勤務する看護師9名、2024年3月、本学

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・学術推進企画委員会、紀要編集部会。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科社会貢献委員会、看護学科学学生進路・支援委員会、看護学科看護研究作業部会。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

令和5年度は看護学科社会貢献委員長を務め、本学の重点施策に位置づく研修事業について、学長裁量研究（地域包括ケアを担う看護職に対する実践能力向上プログラムの開発）を得て実施した。11名からなる研究チームのリーダー役割を担い、試行したプログラム参加者から高い満足度を得ることができた。その他、各委員や研修講師等を務め、社会貢献の役割を果たすことができた。研究については、厚生労働科学研究費補助金による研究成果の報告・発表や、日本地域看護学会第26回学術集会のパネルディスカッションにてこれまでの科研費による研究成果の報告を行うことができた。教育および大学の管

理運営についても目標どおりに活動することができた。

VII 次年度の目標

教育については、担当科目において学生からのレスポンスに応じた双方向の授業運営に努め、学生が学習への意欲や関心を高め、確かな知識や実践能力を修得できるようにする。研究については、代表者および分担者を務める研究課題について計画的に推進し、成果を着実に示す。社会貢献については、看護学科社会貢献委員長として所掌する業務、特に昨年度試行した研修プログラムの効果検証について責任をもって遂行する。そのほか各委員や研修講師等により社会貢献の役割を果たす。大学の大学の管理運営については、委員長や委員としての職務、担任、入試・広報業務等を関係者と協力して担う。

准教授 川城 由紀子 博士 (医学)

対象期間：2023年4月1日～2024年3月31日まで

I 年度当初の目標

令和5年度は、教育活動では、母性看護学実習の臨地実習をさらに充実できるよう、実習内容を検討する。研究活動では、科研費の研究を遂行する。管理運営では、進路支援委員として、県内就職の促進を念頭に置きながら、学生の進路選択や志望する進路に進められるよう支援を行う。社会貢献では、千葉県母性衛生学会理事等について責任をもって役割を遂行する。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
 - ・体験ゼミナール.
 - ・母性看護学方法論Ⅰ.
 - ・母性看護学方法論Ⅱ.
 - ・母性看護学実習.
 - ・助産学概論.
 - ・助産診断・技術学Ⅰ (実践基礎).
 - ・助産診断・技術学Ⅱ (ライフサイクル各期).
 - ・助産診断・技術学Ⅲ (分娩期).
 - ・助産診断・技術学Ⅳ (ハイリスク分娩).
 - ・助産学実習Ⅰ (産婦ケア体験).
 - ・助産学実習Ⅱ (継続支援).
 - ・助産学実習Ⅲ (分娩期ケア).
 - ・総合実習.
 - ・看護研究.
 - ・看護学統合.

III 研究記録

2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年. 本人下線)

- ・石井邦子, 川城由紀子, 北川良子, 川村紀子：子育て世代包括支援における助産師の活動ーモデル構築に向けた文献研究, 千葉県立保健医療大学紀要, 15巻1号, 3-12, 2024.

3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- ・川城由紀子, 石井邦子, 川村紀子, 北川良子, 増田恵美, 山崎麻子：学内母性看護学実習プログラムにおける模擬患者による学生のコミュニケーション能力の評価, 第64回日本母性衛生学会・学術集会 2023年10月13・14日, 大阪.
- ・北川良子, 川城由紀子, 川村紀子, 増田恵美, 石井邦子, 山崎麻子：中小規模の周産期医療機関に転職した中堅助産師のキャリアニーズの現状, 第25回日本母性看護学会学術集会, 2023年5月28日, 東京.
- ・細谷紀子, 市原真穂, 春日広美, 大内美穂子, 大塚知子, 山本千代, 浅井美千代, 川城由紀子, 河部房子：地域包括ケアの担う看護職に求められる実践能力とその向上のために, 第29回千葉看護学会, 2023年9月9日, 千葉.

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・科学研究費基盤 (C), 日本人更年期女性に生じる骨量低下に関連する日常生活要因の探索ー睡眠状態を中心にー, 研究代

表者。

- ・科学研究費基盤 (C)、熟練看護職の実践知に基づく産後抑うつ状態の診断力育成プログラムの開発、研究分担者。
- ・学長裁量研究、子育て世代包括支援センター事業における助産師活動の実態と課題、研究分担者。

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本母性看護学会、日本母性衛生学会、日本衛生学会、千葉看護学会、千葉県母性衛生学会。

2) 学会、学術団体への貢献 (学会・学術団体名、役職、活動期間)

- ・千葉県母性衛生学会、理事、2022年6月～現在に至る。
- ・日本母性看護学会、専任査読委員、2014年4月～現在に至る。
- ・日本母性看護学会、編集委員 (制作担当)、2023年7月～現在に至る。
- ・千葉看護学会、査読委員、2018年10月～現在に至る。
- ・第54回日本看護学会学術集会、抄録選考委員。

V 管理・運営記録

1 全学委員会 (委員会名/活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・進路支援委員会。

2 学科/専攻内委員会 (委員会名/活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・看護学科運営会議、看護学科学生・進路支援委員会、看護学科2年生担任リーダー。

3 対外広報活動<新聞・ホームページでの活動・TV出演、ラジオ出演等>

- ・ホームページ：千葉県立保健医療大学育成支援看護学領域母性看護学・助産学。 (<https://square.umin.ac.jp/cpuhs-mm>)

VI 評価 (成果および改善すべき事項)

令和5年度は、教育活動では、母性看護学実習の臨地実習について実習期間や受け持ち実習等コロナ前の実習内容に概ね戻すことができた。研究活動では、研究代表者を務める科研の調査を開始することができた。管理運営では、全学と学科内で進路支援事業を実施した。県内就職率は前年度より増加した。社会貢献では、千葉県母性衛生学会会計担当理事として、会計管理を責任をもって遂行した。また、日本母性看護学会編集委員会制作担当として着任し、学会誌の発行を責任をもって行った。

VII 次年度の目標

令和6年度は、教育活動では、担当科目において学生が看護の魅力を感じられるように、また主体的に学習に取り組めるような授業を行う。研究活動では、科研 (研究代表者、研究分担者) の調査を引き続き遂行し、成果をまとめる。管理運営では、進路支援事業を見直し就職活動の現状に合わせた事業に修正し実施する。また、2年生の担任が適切に学生支援ができるように支援する。社会貢献では、日本母性看護学会と千葉県母性衛生学会での役割における責任を果たす。

准教授 三枝 香代子 修士（教育学）

対象期間：2023年4月1日～2024年3月31日まで

I 年度当初の目標

令和5年度は、教育活動ではより効果的な教育方法を検討し改善を図る。大学運営では、教務委員として学生が自己の学習目標に合致した履修計画を立案し、試験を含め円滑にカリキュラムを遂行できるように担当教員と協働・連携しながら取り組む。

研究活動では、コロナの影響により遅れているデータ収集に取り組む。社会貢献については、現在担当している審議会・研修会・看護研究指導・ボランティア活動を継続する。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・臨床看護学概論.
- ・臨床看護学方法論Ⅰ.
- ・臨床看護学方法論Ⅱ.
- ・臨床看護学方法論Ⅲ.
- ・ターミナルケア論.
- ・急性期看護学実習.
- ・総合実習.
- ・看護研究.
- ・看護学統合.
- ・看護学入門実習.
- ・救命・救急の理論と実際.
- ・専門職間の連携活動論.

III 研究記録

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・内海恵美，田口智恵美，三枝香代子，大内美穂子，坂本明子，浅井美千代：千葉県内の病院に入職した新人看護師が感じる困難，日本看護学教育学会，2023年8月，福岡県.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・科学研究費補助金基盤研究（C），運動器外傷患者の回復過程における希望を維持する看護支援プログラムに関する研究，研究代表者.
- ・学内共同研究費（学長裁量），千葉県内の病院に入職した新人看護師が感じる困難（2023年度調査），研究分担者.

6 受賞・特許

- ・日本看護学教育学会第33回学術集会 育成部門示説 優秀演題賞.

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等（活動名称、活動期間、場所等）

1) 千葉県内

- ・千葉県総合救急災害医療センター、災害発生時病院協力者プログラム。
研修) 2023年8月10日, 2024年1月17日, 2024年1月31日, 千葉県総合救急災害医療センター/千葉県立保健医療大学
災害訓練実施) 2024年2月10日, 千葉県総合救急災害医療センター

3 審議会、委員会、国家試験委員等の実績（活動団体名称、委員名称、活動期間）

- ・独立行政法人国立病院機構千葉医療センター附属千葉看護学校, 看護学校教育課程編成委員,
2023年4月1日～2024年3月31日。
- ・独立行政法人国立病院機構千葉医療センター附属千葉看護学校学, 校関係者評価委員/主任評価委員,
2023年4月1日～2024年3月31日。

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本看護研究学会、日本看護技術学会、日本看護学教育学会、日本看護科学学会、千葉看護学会、
日本クリティカルケア看護学会、日本救急看護学会。

6 講演会（公開講座を含む）/研究会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、場所）

- ・外国語による応急処置体験講習。神田外語大学/千葉県立保健医療大学。「一時救命処置（一般市民用）講習」
「一時救命処置（一般市民用）実習」。2024年3月9日。9時30分～16時。千葉県立保健医療大学。
- ・看護研究指導。1病棟 年3回。東京歯科大学市川総合病院。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名/活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・教務委員会。

2 学科/専攻内委員会（委員会名/活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科教務委員会。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動については、昨年度の教育内容・方法を洗練させることができ、臨地実習においては学生の学びの状況を把握し、細やかに対応しながら教育を進めることができた。大学運営については、教務委員会での役割を遂行することができた。また、看護学科教務委員会では委員長として、看護学科のカリキュラム全般にわたって担当教員と協働・連携しながら遂行することができた。研究活動については、調査対象である施設の研究倫理審査会の承認を得ることができ、データ収集に取り組むことができています。社会貢献については、看護専門学校の学校関係者評価委員・外国語による応急処置体験講習・実習施設の看護研究指導等を行った。

VII 次年度の目標

教育活動では、引き続き効果的な教育方法を検討し改善を図る。大学運営については、担当する教務委員会のカリキュラムに関する事項について取り組む。研究活動では、収集したデータの分析に取り組む。社会貢献については、引き続き活動を継続する。

准教授 北川 良子 博士 (看護学)

対象期間：2023年4月1日～2024年3月31日まで

I 年度当初の目標

令和5年度は特に教育活動では、担当科目の講義・演習・実習における学習目標を達成できるように特に助産科目の演習、実習の内容の見直しを行い、ニューノーマルな時代に合わせたより質の高い教育を提供できるようにする。研究活動では、研究成果をまとめ公表するとともに新たな研究に着手する。管理運営では、看護学科総務企画委員会委員長として看護学科の適切な予算作成に努めるとともに、学科内の総務関係業務が円滑に行えるように努める。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・母性看護学方法論Ⅰ.
- ・母性看護学方法論Ⅱ.
- ・母性看護学実習.
- ・助産学概論.
- ・助産診断・技術学Ⅰ.
- ・助産診断・技術学Ⅱ.
- ・助産診断・技術学Ⅲ.
- ・助産診断・技術学Ⅳ.
- ・助産学実習Ⅰ (産婦ケア体験).
- ・助産学実習Ⅱ (継続支援).
- ・助産学実習Ⅲ (産婦ケア).
- ・総合実習.
- ・看護研究.

III 研究記録

1 著書 (著者本人下線：著書, 発行年, 発行所, 発行場所)

- ・石井邦子, 廣間武彦, 小川亮, 北川良子他：助産診断・技術学Ⅱ [3] 新生児・乳幼児期 (助産学講座第8巻) 第6版, 2024年, 医学書院, 東京.

2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・石井邦子, 川城由紀子, 北川良子, 川村紀子：子育て世代包括支援における助産師の活動ーモデル構築に向けた文献研究, 千葉県立保健医療大学紀要, 15巻, 1号, 3-12, 2024.

3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等, 本人下線)

- ・北川良子, 川城由紀子, 川村紀子, 増田恵美, 石井邦子, 山崎麻子：中小規模の周産期医療機関に転職した中堅助産師のキャリアニーズの現状, 第25回日本母性看護学会学術集会, 2023年5月28日, 東京.
- ・川城由紀子, 石井邦子, 川村紀子, 北川良子, 増田恵美, 山崎麻子：学内母性看護学実習プログラムにおける模擬患者による学生のコミュニケーション能力の評価, 第64回日本母性衛生学会総会・学術集会, 2023年10月13, 14日, 大阪.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・2021～2023 年度 科学研究費補助金基盤研究（C），熟練看護職の実践知に基づく産後抑うつ状態の診断力育成プログラムの開発，研究分担者。
- ・2023 年度 学長裁量研究，子育て世代包括支援センター事業における助産師活動の実態と課題，共同研究者。

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会，学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本母性看護学会，日本看護科学学会，日本助産学会，日本母性衛生学会，千葉看護学会，千葉県母性衛生学会。

2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）

- ・日本母性看護学会，理事，2023.4～2024.6。
- ・日本母性看護学会，評議員，2023.6～2024.3

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称，主催 団体名称，講演テーマ等，対象，開催日時，場所）

- ・千葉県看護協会，2023 年度千葉県看護教員養成講習会，看護論演習，6 月

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・総務企画委員会，危機管理委員会。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科運営会議，看護学科総務企画委員会。

3 対外広報活動＜新聞・ホームページでの活動・TV出演，ラジオ出演等＞

- ・ホームページ：千葉県立保健医療大学育成支援看護学領域母性看護学・助産学。（<https://square.umin.ac.jp/cpuhs-mm>）

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動では，授業内容と指導方法を確認し，改善点を見出し修正することができた。産婦ケアと分娩期の助産診断等の担当している講義，演習において学生の反応や事後評価より学習目標を達成することができた。実習においては母性及び助産において，複数施設の指導者および管理者ときめ細かく調整を行い適切に実習を行うことができた。学生個々のレディネスを実習早期に把握し状況に応じて指導を行い，学習目標を達成に向けて支援できた。研究活動では，子育て世代包括支援における助産師活動，学生のコミュニケーション能力の評価，中堅助産師のキャリアニーズ等を成果報告し様々な研究に取り組んだ。大学の管理運営について，全学委員会では委員長を始めとする他学科の教員や事務職員と協働しながら役割を担うことができた。社会貢献活動では，看護協会や学会において自分の役割を果たすことができた。

VII 次年度の目標

教育活動では，担当科目の学習目標を達成できるように創意工夫を行いながら教育を行う。実習では学生個々のレディネスや状況に応じた支援を行い，学生の主体性を尊重する教育を実施する。研究活動では研究時間を確保し成果をまとめ公表する。大学の管理運営において適切に所掌事項を遂行し円滑な委員会運営を目指す。社会貢献活動では，高校訪問や各種学会活動に取り組む。教育研究活動に支障が生じないように健康管理に十分務める。

准教授 今井 宏美 博士 (工学)

対象期間：2023年4月1日～2024年3月31日まで

I 年度当初の目標

2023年度は、5類に引き下げられたCOVID-19との共存を医療職・教育職として感染状況を見極めながら、パンデミックの中で高校・大学生生活を過ごしてきた学生の教育方策を検討していきたい。研究活動はこれまでの成果の論文化と、作成した教育教材の評価を行いつつ、新しい教育教材アプリの開発を行っていく。大学の管理運営においては、領域内では欠員が続くことが予想され、学科内委員では人員削減があるが、各業務ごとに目標を設定し、効率化をすすめてつ話しやすい・相談しやすい雰囲気をつくることで円滑な運営に努めたい。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
 - ・体験ゼミナール.
 - ・看護学原論.
 - ・看護技術論Ⅰ (日常生活援助技術).
 - ・看護技術論Ⅱ (フィジカルアセスメント).
 - ・看護技術論Ⅲ (検査治療技術).
 - ・看護技術論Ⅳ (看護過程展開技術).
 - ・看護技術論Ⅴ (総合技術演習).
 - ・基礎看護学実習.
 - ・日常生活調整方法論.
 - ・看護研究.
 - ・看護学統合.

III 研究記録

1 著書 (著者本人下線：著書, 発行年, 発行所, 発行場所)

- ・看護師国家試験問題集, 2023, 医学書院, 東京.

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・科学研究費助成若手研究, 現実適合性の高いモデルを活用した歯周病疾患予防・悪化防止に資するプログラムの創成, 研究代表者.
- ・科学研究費補助金基盤研究 (C), 看護師の臨床判断事例に基づくフィジカルアセスメント学習教材の開発, 研究分担者.
- ・学長裁量研究, 看護師の臨床判断に基づくフィジカルアセスメント教材アプリの教育効果の検証, 研究分担者.

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会, 学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
 - ・日本看護研究学会. 日本環境感染学会. 日本看護学教育学会. 日本看護技術学会. 日本看護科学学会. 勤務環境改善マネジメント研究会. 産業保健人間工学会. 日本人間工学会.

2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・千葉看護学会 第29回学術集会企画委員, 2022年9月～.
- ・産業保健人間工学会, 未来検討委員, 2023年1月～現在に至る.
- ・産業保健人間工学会, 表彰委員, 2023年7月～現在に至る.

6 講演会 (公開講座を含む) / 研修会の講師・研究指導等 (会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日時, 場所)

- ・東京歯科大市川総合病院看護研究指導, 臨床看護師, 2023年7月～2023年3月, 東京歯科大市川総合病院とWEB.
- ・千葉県循環器病センター看護研究指導, 臨床看護師, 2023年6月～2023年3月, 計3回, WEB.

V 管理・運営記録

1 全学委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・広報委員会, 入試実施委員会.

2 学科/専攻内委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・看護学科入試検討委員会, 1年次生担任, 看護学科運営会議.

VI 評価 (成果および改善すべき事項)

教育については, パンデミックの中で高校・大学生活を過ごしてきた学生の教育方法に重点をおいたものの, LMSの活用が十分になされない教育環境下でもあることから更なる方策を見出す必要性を感じた. 領域内の欠員は続いていたことと, 大学運営に多くの時間を費やす必要が生じ研究の進捗にも影響があった. そのため, 研究活動の論文化, 発表には至らずなかつた一方で, 新しい教育教材の開発, 外部から委託された研究活動にかかわる業務については遂行できた. 大学運営では, 入試実施委員・広報委員を担い, またはじめての学科内委員会の委員長としてとしての役割遂行に多くの時間を割き, 円滑な運営に努めた.

VII 次年度の目標

2024年度は, COVID-19のパンデミックの中で高校・大学生活を過ごしてきた学生にとって, 体験・実施が重要視され, 他者との関りが必要になる看護職としての教育方策をさらに検討していきたい. 研究活動はこれまでの成果の論文化と, 学会発表を行いつつ, 企業との連携で開発している教育教材および衛生材料等の研究の促進・商品化を行っていく. 大学の管理運営においては, 今年度も領域内では欠員が続くことが予想されることから, 業務の効率化を図っていきたい. 大学運営では2年目となる学科内委員でさらなる, 効率化をすすめて話しやすい・相談しやすい雰囲気は継続して整えていき, 円滑な運営に努めたい.

准教授 田口 智恵美 博士 (看護学)

対象期間：2023年4月1日～2024年3月31日まで

I 年度当初の目標

令和5年度は、教育では、本学で初めて開講となる社会実習の科目責任者として授業展開する。また、発展する医療や看護の最新の情報を収集し、現状に即した内容をタイムリーに教授内容に反映させていく。大学運営では、社会実習担当や国際交流委員として新たに求められる役割を理解し、関連する担当教員や事務局と協働・連携しながら任務を遂行する。研究活動では、担当する複数の研究を年度内に成果として報告できるよう進める。社会貢献では、引き続き職能団体、学会、実習施設など多様な場で活動する。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・臨床看護学概論.
- ・臨床看護学方法論Ⅰ.
- ・臨床看護学方法論Ⅱ.
- ・臨床看護学方法論Ⅲ.
- ・急性期看護学実習.
- ・総合実習.
- ・看護研究.
- ・看護学統合.
- ・看護学入門実習.
- ・救命・救急の理論と実際.
- ・専門職間の連携活動論.
- ・社会実習.

2) 他大学、大学院等の非常勤講師 (科目名、大学名)

- ・クリティカルケア看護学特論Ⅴ (急性期看護援助論B) (順天堂大学大学院).

III 研究記録

3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- ・内海恵美, 田口智恵美, 三枝香代子, 大内美穂子, 坂本明子, 浅井美千代：千葉県内の病院に入職した新人看護師が感じる困難, 日本看護学教育学会, 2023年8月, 福岡県.

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・学内共同研究費 (学長裁量), 千葉県内の病院に入職した新人看護師が感じる困難 (2023年度調査), 研究分担者.
- ・学内共同研究費 (学長裁量), 地域包括ケアを担う看護職に対する実践能力向上プログラムの開発, 研究分担者.

6 受賞・特許

- ・日本看護学教育学会第33回学術集会 育成部門示説 優秀演題賞.

IV 社会貢献・国際交流記録

4 職能団体委員等（職能団体名称、委員名称、活動期間）

- ・日本看護協会、論文審査・編集委員会委員，2021年4月～現在

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本看護科学学会、日本クリティカルケア看護学会、日本循環器看護学会、千葉看護学会、日本看護学会、

2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・日本看護科学学会、和文編集委員会専任査読委員、2018年9月～現在
- ・日本クリティカルケア看護学会編集委員会委員、2019年5月～現在
- ・日本クリティカルケア看護学会、査読委員、2004年～現在
- ・日本循環器看護学会、学会誌選任査読委員、2013年2月～現在

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日時、場所）

- ・公開講座、千葉県立保健医療大学、よい眠りを誘って健康寿命を延ばそう！、一般市民、令和5年10月8日、13時05分～14時05分
- ・講演会、千葉県循環器病センター、「研究計画書の書き方」、看護研究に取り組んでいる看護職員、令和5年6月21日15時30分～16時30分、千葉県循環器病センター（Zoom）
- ・初期医療言語サービスボランティア研修、神田外語大学／千葉県立保健医療大学、「体勢への配慮」「一時救命処置（一般市民用）実習」、令和6年3月9日、9時30分～16時、千葉県立保健医療大学
- ・看護研究指導、1病棟、年2回、東京歯科大学市川総合病院
- ・看護研究指導、3病棟、年9回、千葉県循環器病センター（遠隔）

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・社会実習作業部会、国際交流委員会

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科運営委員会、看護学科社会貢献委員会、総合実習作業部会

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動では、初めて開講される本学の特色科目「社会実習（ボランティア活動）」を科目責任者として年度初めに授業計画を立てるところから行い開講につなげた。大学運営では、複数の委員会に所属し複数の役割を並行して担いながら各委員会の目標達成に貢献した。社会貢献では、職能団体・看護系学会・実習関連施設と多様な場で活動することができた。研究活動では、研究分担者として貢献した研究が表彰された。役割が多岐にわたるため、多重課題に対応できるスケジュール管理能力の向上が求められる。

VII 次年度の目標

教育活動では、「社会実習（ボランティア活動）」が継続開講されるよう実施内容をまとめて次の科目責任者へと引き継ぐ。専門科目では最新の知見を授業に取り入れる。大学運営では継続して複数の委員会委員としての役割を果たす。研究活動では研究を計画的に進める。社会貢献では多様な場での活動を継続する。

准教授 西村 宣子 修士 (看護学)

対象期間：2023年4月1日～2024年3月31日まで

I 年度当初の目標

教育活動においては、前年度の教育方法についての評価を踏まえてより効果的な授業を展開していく。また、担当科目のなかで、長い臨床経験で得た看護職としてのやりがい、尊さについて事例を用いながら伝え、看護に対する関心を高めていきたい。研究活動においては、昨年度実施した介入研究の成果の検証のために計画的に推進していく。今年度より、看護学科学生・進路支援委員会の委員長になるが、責務である看護学生の修学・生活・進路支援について責任をもって遂行していく。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・看護管理論.
- ・看護キャリア発達論.
- ・看護倫理.
- ・リーダーシップ論.
- ・リスクマネジメント論.
- ・看護学入門.
- ・国際看護論.
- ・家族看護論.
- ・看護管理実習.
- ・基礎看護学実習.
- ・総合実習.
- ・看護研究.
- ・看護学統合.
- ・専門職間の連携活動論.

III 研究記録

1 著書 (著者本人下線：著書, 発行年, 発行所, 発行場所)

- ・西村宣子：プラチナナースのマネジメント, 看護展望, メディカルフレンド社, Vol. 48, No5, p70-73, 2023.
- ・西村宣子：看護マネジメントリフレクションの効果と活用, Nursing BUSINESS, MC メディカ出版, Vol18, No1, p4-10, 2024.

3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- ・西村宣子, 富樫恵美子：看護師長のリフレクションの課題と行動変容への促進要因, 第27回日本看護管理学会学術集会, 2023年8月25～26日, 東京国際フォーラム
- ・富樫恵美子, 西村宣子：中小規模病院における新人看護師の夜勤導入マネジメントの実際, 第27回日本看護管理学会学術集会, 2023年8月25～26日, 東京国際フォーラム

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・2021～2023年度 科学研究費助成事業基盤研究 (C), 行動変容につながる看護マネジメントリフレクション研修の開発,

研究代表者.

- ・2019～2023 年度 科学研究費助成事業基盤研究 (B), 研究チームの納得を促進するための看護師のコーディネート力向上プログラム開発と評価, 研究分担者
- ・2023 年度 学長裁量研究, 地域包括ケアを担う看護職に対する実践能力向上プログラムの開発, 研究分担者.

IV 社会貢献・国際交流記録

4 職能団体委員等 (職能団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・公益社団法人 日本看護協会 認定実行委員会 委員 (2022 年 4 月～2024 年 3 月)
- ・公益社団法人 千葉県看護協会 教育委員会 委員 (2022 年 8 月～2024 年 7 月)

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本看護管理学会, 日本運動器看護学会, 日本災害医学会, 日本健康医学会, 日本健康学会, 日本看護教育学会.

6 講演会 (公開講座を含む) / 研修会の講師・研究指導等 (会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日時, 場所)

- ・東京歯科大学市川総合病院看護研究指導, 2023 年 7 月～2024 年 3 月 計 8 回 (2 部署), 臨床看護師
- ・東京歯科大学訪問看護ステーション 看護研究指導, 2023 年 9 月～2024 年 3 月 計 3 回, 訪問看護師
- ・第 43 回・44 回認定看護管理者教育課程ファーストレベル研修会, 人材管理 I, リーダーシップ, 看護管理者, 2023 年 6 月 24 日, 2024 年 1 月 30 日, 公益社団法人千葉県看護協会
- ・看護管理者研修会, 「看護管理者のための看護倫理」, 看護管理者, 2023 年 12 月 8 日, 公益社団法人千葉県看護協会
- ・千葉県看護教員養成講習会, 「倫理学」, 2023 年 4 月 28 日, 5 月 8 日・15 日・22 日・29 日, 看護学校教員, 公益社団法人千葉県看護協会

V 管理・運営記録

1 全学委員会 (委員会名 / 活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・学生委員会.

2 学科 / 専攻内委員会 (委員会名 / 活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・看護学科運営会議, 看護学科学生・進路支援委員会 委員長.

VI 評価 (成果および改善すべき事項)

教育活動に関しては, 学生が主体的に学習すること, 物事に対して広い視野で考える事ができるように, 参加型授業, グループワークを取り入れるなど授業方法を工夫して展開した. また, 臨地実習においては, 実習施設との綿密な調整を行い, 実習方法を柔軟に計画することで, 限られた時間の中でもおおむね実習目標を達成することができた.

大学運営については, 委員会メンバーと連携を図りながら担当する責務を果たした. また, 継続的な仕組みづくりが課題となっていた, 県内実習施設, 本学卒業生の就職施設との「卒前・卒後教育情報交換会」を今年度も開催することができた.

研究活動については, 研究成果を関連学会で発表し, 昨年度実施した介入研究の成果の検証のための調査を計画通り実施できた. また, 今年度より 2 件の介入研究の分担者になり, 担当する役割を積極的に全うできた.

VII 次年度の目標

教育活動においては、引き続きの前年度の教育方法についての評価を踏まえてより効果的な授業を展開していく。また、学生一人ひとりの自己肯定感、自己信頼感を高められるよう関わり、学生が能動的に他者との関係を築くことの基盤を作り、看護職として倫理的感受性が高められるよう様々な事例を用いながら伝えていきたい。

委員会活動においては、引き続き学生の修行・生活・進路支援に関する事業に尽力していく。

研究活動においては、「看護管理者に貢献できる研究」「教育活動の成果に関する研究」を計画的に推進していく。

准教授 金丸 友 博士 (看護学)

対象期間：2023年4月1日～2024年3月31日まで

I 年度当初の目標

教育活動においては、講義、演習、実習内容を見直し、高い倫理観を基盤とし、アセスメント力を高められる教育となるよう工夫する。大学運営においては、今年度が着任年度であるため、大学組織やそれぞれの役割を理解し、自らが所属する委員会の活動を中心として大学運営に寄与できるよう努める。研究活動においては、代表者、分担者となっている研究課題を計画的に進め、成果を公表する。社会貢献活動においては、COVID-19の影響により活動の見直しが必要となっている患者家族会の活動を支援する。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
 - ・体験ゼミナール.
 - ・小児看護学方法論Ⅰ.
 - ・小児看護学方法論Ⅱ.
 - ・小児地域ケア論.
 - ・小児看護学実習.
 - ・総合実習.
 - ・看護研究.
 - ・看護学統合.
- 2) 他大学、大学院等の非常勤講師 (科目名、大学名)
 - ・小児看護学方法論Ⅰ (順天堂大学).

III 研究記録

2 学術論文・その他 (著者：題名、雑誌名、巻、号、ページ、発行年、本人下線)

- ・金子仁子、芳賀邦子、大山一志、井坂智子、室岡陽子、金丸友、岸田るみ、児玉悠希、菅原久純、石井優香、高柳千賀子：「認知症とともに歩むまちづくりシンポジウム2023」の実施結果からのヘルスケア実践研究センターにおける活動の方向性の検討、東京情報大学研究論文集、27 (2)、89-101、2024.

3 発表 (発表者：発表タイトル、主催学会 (学会名称)、開催日、場所等、本人下線)

- ・金丸友、三池純代、杉本晃子、飯村直子、西田志穂、吉野純、原加奈、西村実希子：慢性疾患のある子どもの学校生活について家族が望んでいること、日本小児看護学会第33回学術集会、2023年7月15～16日、神奈川.
- ・薬師神裕子、野本美佳、金丸友、中村伸枝：コロナ渦における小児1型糖尿病患者のセルフケアと抑うつとの関連、第28回日本小児・思春期糖尿病学会年次学術集会、2023年7月17日、大阪.
- ・中村伸枝、薬師神裕子、野本美佳、金丸友：小児糖尿病キャンプスタッフが認識するオンラインキャンプの効果とキャンプ継続に向けた感染症対策、第28回日本小児・思春期糖尿病学会年次学術集会、2023年7月17日、大阪.
- ・薬師神裕子、野本美佳、金丸友、中村伸枝：コロナ渦における小児1型糖尿病患者のセルフケアの変化と小児糖尿病キャンプの意義、第10回日本糖尿病協会年次学術集会、2023年7月22～23日、京都.
- ・中村伸枝、薬師神裕子、野本美佳、金丸友：キャンプスタッフがとらえた糖尿病キャンプ中止による子どもの糖尿病自己管理と糖尿病療養指導への影響、第10回日本糖尿病協会年次学術集会、2023年7月22～23日、京都.

- ・Yakushijin, Y., Nomoto, M., Kanamaru, T., Nakamura, N.: Association between self-care and depression in pediatric patients with type 1 diabetes during the COVID-19 pandemic, IDF WPR Congress 2023 & 15th Scientific Meeting of AASD, Jul. 21-22, 2023, Kyoto.
- ・金子仁子, 井坂智子, 芳賀邦子, 金丸友, 岸田るみ, 高柳千賀子, 大山一志, 児玉悠希: 本学のコミュニティ・カフェ併設の健康相談来所者の健康状態等の特徴と開設意義, 第82回日本公衆衛生学会総会, 2023年10月31日~11月2日, 茨城.

5 研究資金獲得状況(外部資金・学内共同・学長裁量)(資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・科学研究費補助金基盤研究(C), 保育所における精神疾患をもつ母親への育児支援システムの構築, 研究代表者.
- ・科学研究費補助金基盤研究(C), 保育・教育職を対象とした精神疾患である親と子どもの支援に関する学習支援プログラム, 研究代表者.
- ・科学研究費補助金基盤研究(C), 学校と医療の文化的考察に基づく慢性疾患の子どもへの支援連携プログラムの開発, 研究分担者.
- ・学長裁量研究, 在宅療養する医療的ケアを必要とする子どもとその家族への支援指針作成~育児ストレス緩和を観点にしたアプローチ~, 研究分担者.

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等(活動名称, 活動期間, 場所等)

- 1) 千葉県内
 - ・千葉つばみの会夏のイベント, 2023年8月26日, 千葉県立保健医療大学.
 - ・千葉つばみの会クリスマス会, 2023年12月9日, 千葉県立保健医療大学.

2 地域への保健医療活動(診療・技術指導等, 活動期間, 場所等)

- ・ほい大健康プログラム UR都市機構 第1回, 2023年10月14日, さつきが丘団地.

3 審議会, 委員会, 国家試験委員等の実績(活動団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・千葉県健康福祉部疾病対策課, 千葉県移行期医療支援体制整備事業連絡協議会, 2022年9月~現在に至る.

5 学会, 学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
 - ・日本小児看護学会. 日本小児保健協会. 日本小児・思春期糖尿病学会. 日本糖尿病教育・看護学会. 日本看護科学学会. 千葉看護学会. 日本公衆衛生学会.
- 2) 学会, 学術団体への貢献(学会・学術団体名, 役職, 活動期間)
 - ・日本小児・思春期糖尿病学会, 評議員, 2023年4~6月.
 - ・日本小児・思春期糖尿病学会, 理事, 2023年7月~現在に至る.
 - ・日本小児看護学会, 専任査読者, 2023年4月~現在に至る.
 - ・日本小児看護学会, 第33回学術集会実行委員, 2023年7月15~16日.
 - ・日本小児看護学会, 第34回学術集会専任査読者, 2024年2~3月.

V 管理・運営記録

1 全学委員会(委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・教務委員会. 第三次カリキュラム評価部会.

2 学科/専攻内委員会(委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・看護学科教務委員会. 看護学科総務・企画委員会. 看護学科運営会議. 看護学科2年生担任.

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動においては、共に今年度着任した教授のもと、領域内で協力して、教育内容を一部見直すことができた。引き続き、教育内容の見直しをしていきたい。大学運営においては、委員長や他の委員に意見を求めながら、責務を円滑に遂行することができた。次年度は着任2年目となるため、より主体的に活動していきたい。研究活動においては、学会発表はしたもの、論文公開には至らなかった。また、今年度から始まった科学研究費補助金研究が予定通り進めることができなかった。次年度は研究の成果発表を行うとともに、新しい研究を積極的に進めていきたい。社会貢献活動はおおむね目標通り達成することができた。

VII 次年度の目標

教育活動においては、本年度見直した講義、演習、実習内容を評価し、引き続き領域内で協力して、アセスメント力が高まる教育を検討する。大学運営においては、着任2年目となるため、昨年度の経験を踏まえて主体的に活動する。また、カリキュラム作成部会員として、カリキュラム改正が円滑に行われるよう役割を遂行する。研究活動においては、研究成果の公表として論文公開を目指す。今年度より始まった科研については、遅れが生じたため計画を修正し、計画通り遂行できるよう努める。社会貢献活動については、患者家族会の活動がCOVID-19拡大前に戻りつつあるため、会のニーズに沿って支援する。

講師 成 玉恵 修士 (政治学)

対象期間：2022年4月1日～2023年3月31日まで

I 年度当初の目標

今年度は、授業や演習、実習にデジタル化を取り入れ、DXを推進した教育を行う。授業ではオンライン機能を利用し遠方の講師を招き講義を行う。演習では様々なデジタル機器を駆使しアクティブラーニングを進める。実習ではTeams等オンライン機能を利用し、臨地での双方向的な指導を試みる。研究に関しては、科学研究費が最終年であるため調査をすすめ研究の成果をまとめる。社会貢献活動では、引き続き墨田区の地域包括支援センターの事業評価研修を行い、第9期介護保険事業計画の立案に寄与する。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
 - ・高齢者・在宅看護学方法論Ⅰ.
 - ・在宅看護学方法論Ⅱ.
 - ・在宅看護学実習.
 - ・総合実習.
 - ・看護学統合.

III 研究記録

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・科学研究費補助金基盤研究 (C), 市町村保健師による民間活力を活かしたヘルスケア対策に向けた基盤的研究, 研究代表者.

IV 社会貢献・国際交流記録

2 地域への保健医療活動 (診療・技術指導等, 活動期間, 場所等)

- ・ほい大健康プログラム, 令和6年2月17日, 本学内.

3 審議会, 委員会, 国家試験委員等の実績 (活動団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・墨田区, 介護保険事業運営協議会委員, 2021年4月～2024年3月.

5 学会, 学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
 - ・日本在宅ケア学会, 日本地域看護学会, 日本行政学会, 日本公衆衛生看護学会, 日本看護学教育学会, 日本看護科学学会, 日本公衆衛生学会.

6 講演会 (公開講座を含む) / 研修会の講師・研究指導等 (会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日時, 場所)

- ・高齢者支援総合センター 高齢者みまもり相談室職員専門研修, 墨田区, 事業評価アドバンスコース 事業評価の見える化と outcome→ロジックモデルを作成してみよう～, 墨田区高齢者支援総合センター 高齢者みまもり相談室職員, 令和5年8月24日, 墨田区役所会議室.

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・自己点検：評価委員会. 教育研究年報作成部会.

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科学生進路・支援委員会. 2年生担任, 看護学科総務・企画委員会. 総合実習作業部会.

VI 評価（成果および改善すべき事項）

今年度は、授業や演習、実習にデジタル化を取り入れDXを推進した教育を行った。しかし、授業でオンライン機能を利用し遠方の講師を招き講義を行ったが、Wi-Fiの不具合があり実現には至らなかった。また、演習では2教室をオンラインで結び、双方性のロールプレイを試みたが、本学が環境が整わず一部、音声に不備があり演習に支障が出た。授業や演習等、学内の実施は本学のインターネット環境が伴わないため、DXの推進は難しいと考える。実習ではTeams等オンライン機能の利用に支障がないため、デジタルによる実習記録の活用を行った。これにより、実習中の記録指導の効率化がはかられ、実習内容が充実したと考える。研究に関しては、科学研究費が最終年であり研究の成果をまとめているところである。そのため、今年度は学会発表や論文発表に至っていない。社会貢献活動では、墨田区の介護保険運営協議会委員の任期が今年度で終了となった。今年度は、地域包括支援センターの事業評価研修を行い、第9期介護保険事業計画の立案に寄与した。

VII 次年度の目標

次年度は、本学のインターネット環境が不十分なためトラブルも想定されるが、できるだけアクティブラーニングを取り入れた授業や演習を積極的に行う。実習では、引き続きTeams等オンライン機能を利用し、学生・教員間のコミュニケーションを充実させ学びを深めたい。研究に関しては、科学研究費の研究成果を学会や論文で発表する。社会貢献活動は、墨田区介護保険運営協議会の委員を引き続き受託し、墨田区の地域包括支援センター部会の副部会長を兼任する。また、地域包括支援センター職員を対象に、アドバンス的な事業評価研修を行い、地域包括ケアシステムに寄与する。

講師 川村 紀子 博士 (看護学)

対象期間：2023年4月1日～2024年3月31日まで

I 年度当初の目標

令和5年度の教育活動では、学生のDP達成に向けて、講義・演習・実習における学習目標を達成するよう学習効果を見直し実施する。また、学生個々のレジネスに応じた指導、学生が主体性を維持し学習できるように工夫する。研究活動は、計画的に活動時間を確保し、収集したデータの分析を進め、研究成果をまとめる。大学の管理運営について、円滑な委員会運営となるよう適切に判断すること、また看護学教育評価の受審結果による課題に取り組み、役割を遂行する。社会貢献活動では、幅広い視野を持ち社会貢献活動に参加する。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・母性看護学方法論Ⅰ.
- ・母性看護学方法論Ⅱ.
- ・母性看護学実習.
- ・助産診断・技術学Ⅰ.
- ・助産診断・技術学Ⅱ.
- ・助産診断・技術学Ⅲ.
- ・助産診断・技術学Ⅳ.
- ・助産学実習Ⅰ (産婦ケア体験).
- ・助産学実習Ⅱ (継続支援).
- ・助産学実習Ⅲ (分娩期ケア).
- ・総合実習.
- ・専門職間の連携活動論.
- ・看護研究.
- ・看護学統合.

III 研究記録

1 著書 (著者本人下線：著書, 発行年, 発行所, 発行場所.)

- ・石井邦子, 廣間武彦, 小川亮, 川村紀子他：助産診断・技術学Ⅱ [3] 新生児・乳幼児期 (助産学講座第8巻) 第6版, 2024年, 医学書院, 東京.

2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・川村紀子, 高橋眞理：P-mSHELL モデルを用いた分娩期ヒヤリ・ハット事例の発生要因と防止策の現状, 千葉県立保健医療大学紀要, 15巻, 1号, 13-21, 2024.
- ・石井邦子, 川城由紀子, 北川良子, 川村紀子：子育て世代包括支援における助産師の活動ーモデル構築に向けた文献研究, 千葉県立保健医療大学紀要, 15巻, 1号, 3-12, 2024.

3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等, 本人下線)

- ・北川良子, 川城由紀子, 川村紀子, 増田恵美, 石井邦子, 山崎麻子：中小規模の周産期医療機関に転職した中堅助産師のキャリアニーズの現状, 第25回日本母性看護学会学術集会, 2023年5月28日, 東京.

- ・川城由紀子, 石井邦子, 川村紀子, 北川良子, 増田恵美, 山崎麻子: 学内母性看護学実習プログラムにおける模擬患者による学生のコミュニケーション能力の評価, 第64回日本母性衛生学会総会・学術集会, 2023年10月13, 14日, 大阪.

5 研究資金獲得状況(外部資金・学内共同・学長裁量)(資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・2018~2023年度 科学研究費補助金基盤研究(C), 助産師の分娩期の危険予知能力を高めるためのトレーニング教材の開発, 研究代表者.
- ・2021~2023年度 科学研究費補助金基盤研究(C), 熟練看護職の実践知に基づく産後抑うつ状態の診断力育成プログラムの開発, 研究分担者.
- ・2023年度 学長裁量研究, 子育て世代包括支援センター事業における助産師活動の実態と課題, 共同研究者.

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会, 学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
 - ・日本母性看護学会. 日本助産学会. 日本看護科学学会. 日本母性衛生学会. 千葉県母性衛生学会.
- 2) 学会, 学術団体への貢献(学会・学術団体名, 役職, 活動期間)
 - ・日本母性看護学会. 選挙管理運営部会委員, 2022年10月1日~現在に至る.

V 管理・運営記録

1 全学委員会(委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・学内共同研究審査部会.

2 学科/専攻内委員会(委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・看護学科運営会議. 看護学科教務委員会.

3 対外広報活動<新聞・ホームページでの活動・TV出演, ラジオ出演等>

- ・ホームページ: 千葉県立保健医療大学育成支援看護学領域母性看護学・助産学 (<http://square.umin.ac.jp/cpuhs-mm/>).

VI 評価(成果および改善すべき事項)

教育活動では, 講義内容及び指導内容を再検討し, 改善点を修正し学習効果を図ることができた. 新生児看護の講義, 演習, 実習における学生の反応や評価より学習目標を達成することができた. 母性看護学及び助産学実習において, 施設との調整を図り安全に実習を行うことができた. 学生個々のレジネスに応じて指導を行い, 学生の主体性を引き出すよう工夫した. また受持ち対象者の状況に則して指導を行った. 研究活動では, 活動時間を確保し, 分娩期ヒヤリ・ハット事例の発生要因と防止策, 子育て世代包括支援における助産師活動, 学生のコミュニケーション能力の評価, 中堅助産師のキャリアニーズ等を成果報告し様々な研究に取り組んだ. 大学の管理運営について, 教職員方に助言を受け, また協力しながら適切に判断し, 運営を円滑にすることができた. そのひとつである看護学教育評価受審の準備及び役割を遂行した. 社会貢献活動では, 学会の選挙管理運営部会委員として, 関係者に協力・助言を受けながら役割遂行を担うことができた.

VII 次年度の目標

教育活動では, 学生のDP達成に向けて, 講義・演習・実習における学習目標を達成するよう学習効果を見直し実施する. また, 学生個々のレジネスに応じた指導, 学生が学習に対して関心を高められるように工夫する. 研究活動は, 計画的に活動時間を確保し, 収集したデータの分析から研究成果をまとめ, 新たな研究テーマに取り組む. 大学の管理運営について, 円滑な委員会運営となるよう, 教職員方と協力し役割を遂行する. 社会貢献活動では, 幅広い視野を持ち積極的に社会貢献活動に参加する.

講師 富樫 恵美子 修士（スポーツ健康科学）

対象期間：2023年4月1日～2024年3月31日まで

I 年度当初の目標

令和6年度は対面での授業に戻るため、特に学生との丁寧なコミュニケーションを心掛けながら授業を展開する。また、医療だけでなく国際情勢など外部環境の変化が激しい中で、これから期待される看護師の役割と、それを発揮できる能力についてディプロマポリシーを念頭に教育活動に反映させていく。研究活動においては外部資金獲得が果たせるよう尽力しながら、計画的に研究に取り組む。更に大学組織での委員会活動及び社会貢献活動にも積極的に参加し、役割期待に応えられるよう取り組んでいく。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・看護管理論.
- ・看護管理実習.
- ・看護キャリア発達論.
- ・看護倫理.
- ・リーダーシップ論.
- ・基礎看護学実習.
- ・総合実習.
- ・千葉県の健康づくり.
- ・専門職間の連携活動論.
- ・看護研究.
- ・看護学統合.

III 研究記録

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・富樫恵美子，西村宣子：中小規模病院における新人看護師の夜勤導入マネジメントの実際，第27回日本看護管理学会学術集会，2023年8月25～26日，東京国際フォーラム.
- ・西村宣子，富樫恵美子：看護師長のリフレクションの課題と行動変容への促進要因，第27回日本看護管理学会学術集会，2023年8月25～26日，東京国際フォーラム.
- ・稲葉健太郎，新井由美，芳地泰幸，岩浅 巧，富樫恵美子，山田泰行，水野有希，水野基樹：看護師の心理的安全性とワーク・エンゲイジメントに関する予備的研究，第27回日本看護管理学会学術集会，2023年8月25～26日，東京国際フォーラム.
- ・芳地泰幸，水野基樹，新井由美，岩浅 巧，稲葉健太郎，富樫恵美子，山田泰行，水野有希：看護管理者のオーセンティック・リーダーシップと心理的安全性，第27回日本看護管理学会学術集会，2023年8月25～26日，東京国際フォーラム.
- ・岩浅 巧，芳地泰幸，新井由美，稲葉健太郎，富樫恵美子，山田泰行，水野有希，水野基樹：看護師の健康に価値を置く組織風土と心理的安全性，第27回日本看護管理学会学術集会，2023年8月25～26日，東京国際フォーラム.
- ・新井由美，稲葉健太郎，芳地泰幸，岩浅 巧，富樫恵美子，山田泰行，水野有希，水野基樹：看護組織におけるヘルシーワークプレイスに関する一考察，第27回日本看護管理学会学術集会，2023年8月25～26日，東京国際フォーラム.
- ・水野有希，水野基樹，新井由美，芳地泰幸，岩浅 巧，稲葉健太郎，富樫恵美子，山田泰行：看護組織における活性化に向けた健康増進支援について，第27回日本看護管理学会学術集会，2023年8月25～26日，東京国際フォーラム.

- 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名、研究テーマ、研究代表者／研究分担者）
- ・2021～2023 年度 科学研究費助成事業基盤研究(C), 行動変容につながる看護マネジメントリフレクション研修の開発, 研究分担者.

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本看護管理学会. 日本看護科学学会. 日本医療マネジメント学会. 医療勤務環境改善マネジメントシステム研究会. 人類働態学会.

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日時、場所）

- ・千葉県看護教員養成講習会. 「看護理論の活用」. 2023 年 5 月 26 日. 看護学校教員. 公益社団法人千葉県看護協会.
- ・第 1 回千葉県看護協会東葛地区部会研修会. セルフコンパッション—自分に対するおもいやり—. 臨床看護師・看護管理者. 2024 年 2 月 5 日. モラージュ柏.
- ・印旛保健所看護管理者研修会. レジリエンス. 現任教育臨床指導者・看護管理者. 2024 年 2 月 20 日. 印旛保健所.

V 管理・運営記録

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・教務委員会／カリキュラム実施部会. 看護学科履修ガイダンス担当/ポートフォリオ担当.
- ・総務・企画委員会／看護学科運営会議担当.

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動では、学生の理解しやすさと自ら「問い」を立て、更に自分自身で学びを深めていけるように時事問題や臨床現場で起こっていること、海外での医療事情なども盛り込み授業内容を工夫した。学生からの質問については、直接の対話や授業内での解説を行うなど、丁寧なコミュニケーションを心掛けた。研究活動については、学外での研究活動や発表に尽力したが、自身の外部資金獲得ならず、次年度への課題となった。大学の組織内での委員会活動などは、委員と協力しながら積極的に役割を果たした。

VII 次年度の目標

教育活動については、自主的な学びが展開できるようにアクティブラーニングを意識して授業を展開する。また、他者との良好なコミュニケーションを築けるように、特に実習などにおいて支援していく。また、研究活動においては実施した研究を論文にまとめて投稿を行うこと、更に外部資金獲得に向けて準備する。学内組織としての委員会活動においては、改善案の提案を常に考えながら、積極的に役割を果たしていく。社会貢献については、専門職としての研修だけでなく、ボランティア活動に参加して地域に貢献していく。

講師 加藤 隆子 博士 (看護学)

対象期間：2023年4月1日～2024年3月31日まで

I 年度当初の目標

学生の思考力が高まるように講義演習科目の内容を見直していきたい。実習では、学生の対象像の理解が深まり、看護実践能力が高まるよう実習記録の見直しを図るとともに、指導方法も検討していきたい。研究活動では、科研費（若手研究）の最終年度となるため、教育・支援プログラムの実践のための研究計画を進めていきたい。大学の管理運営では、教務委員会や入試・広報委員会の活動の業務を円滑に行い、役割を果たす。社会貢献では、各術団体や職能団体に参加し大学教員の役割を果たしていきたい。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
 - ・精神看護学概論.
 - ・精神看護学方法論Ⅰ.
 - ・精神看護学方法論Ⅱ.
 - ・精神看護学実習.
 - ・看護研究.
 - ・総合実習.
 - ・看護学統合.
 - ・体験ゼミ.

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・加藤隆子，渡辺尚子，渡辺純一：トラウマにより生きにくさを抱えた人のサポートグループに関わる臨床傾聴士の体験，ヒューマンケア研究，24（1），35-44，2024.

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・加藤隆子，渡辺尚子，渡辺純一：トラウマ体験のある女性の苦悩と回復に至る体験—Aさんの事例を通して—，第33回日本精神保健看護学会学術集会，2023年5月13日-5月14日，神戸.
- ・小林雅美，小宮浩美，加藤隆子：公立小学校で働く教員と精神疾患をもつ児童との関わりに関する事例報告，第33回日本精神保健看護学会学術集会，2023年5月13日-5月14日，神戸.
- ・加藤隆子，渡辺尚子，渡辺純一：トラウマにより生きにくさを抱えた人の回復に影響を与える要因と支援ニーズ，第43回日本看護科学学会，2023年12月9日-12月10日，下関.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・科研費補助金（若手研究）2020-2024，精神科のトラウマケアを向上する ICT を用いた教育プログラムの開発，研究代表者.

IV 社会貢献・国際交流記録

4 職能団体委員等（職能団体名称、委員名称、活動期間）

- ・日本看護学会誌、論文査読委員、2022年4月～現在に至る。
- ・日本精神科看護学術集会誌、論文査読委員、2023年2月～現在に至る。
- ・日本精神保健看護学会誌、論文査読委員、2024年2月～現在に至る。

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本看護科学学会、日本精神保健看護学会、日本トラウマティック・ストレス学会、日本保健医療行動科学学会、日本ヒューマンケア心理学会。

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日時、場所）

- ・一般社団法人日本精神科看護協会 精神科認定看護師養成研修会、チーム医療 チームアプローチ論、精神科認定看護師資格取得を目指す者、2023年7月2日、7月20日、品川。
- ・一般社団法人日本精神科看護協会 精神科認定看護師養成研修会、患者―看護師関係 援助関係、精神科認定看護師資格取得を目指す者、2023年7月22日―7月23日、品川。
- ・看護学科社会貢献事業、コソコソ学ぼうセミナー、看護師、2023年3月16日、千葉県立保健医療大学。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・体験ゼミ作業部会、キャンパスハラスメント相談員。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科運営会議、看護学科教務委員会、看護学科入試検討委員会、総合実習作業部会。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動では、授業・演習内容を見直し、個人ワークやグループワーク等の進め方を工夫することで学生の思考力が高まり、対象像の理解と共に、実習での看護実践にもつながっていた。実習では新規施設での実習もあったが、指導者と連携をとりながら、学生の思考力・実践力を高める実習を行うことができた。研究活動では、教育・支援プログラムを構築し研究を開始することができた。大学運営では、教職員と協働し委員会業務を進めることができた。社会貢献では、職能団体における研修会の講師の役割を担うことができた。

VII 次年度の目標

令和6年度は学生が主体的に学修し、かつ思考力が高まるように講義演習科目の内容を改良していきたい。実習では、学生のレディネスに合わせながら、学生が対象者に関心を持ち、看護実践能力を高めるよう指導していく。研究活動では、昨年度進めた教育・支援プログラムの評価を行い、今後の研究につなげていきたい。大学の管理運営では、教務委員会や入試広報委員会の活動の業務を円滑に行い役割を着実に果たす。社会貢献では、学術団体や職能団体に参加し看護の質の向上のため、大学教員の役割を果たしていきたい。

講師 大内 美穂子 修士 (看護学)

対象期間：2023年4月1日～2024年3月31日まで

I 年度当初の目標

令和5年度は、教育では最新の情報を収集するとともに、実習施設の看護師の知識や技術を直接得ながら、現場に即した内容を講義や演習に反映させられるようにする。大学運営では、学生・進路支援委員会の国試担当や4年生担任リーダーとして役割を理解し、国家試験合格に向けて、これまでの取り組みを評価・改善するとともに学生を支援する。研究活動では、プログラム開発と実施、評価を最優先として研究を遂行する。共同研究者としても研究に取り組み、成果報告できるよう進める。社会貢献では、研究指導に限らず、大学運営とは別の形でも学生支援活動を増やせるように取り組む。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・臨床看護学概論.
- ・臨床看護学方法論Ⅰ.
- ・臨床看護学方法論Ⅱ.
- ・臨床看護学方法論Ⅲ.
- ・急性期看護学実習.
- ・総合実習.
- ・看護研究.
- ・看護学統合.
- ・看護学入門実習.
- ・救命・救急の理論と実際.
- ・専門職間の連携活動論.

III 研究記録

3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- ・大内美穂子, 佐藤まゆみ: 75歳以上の消化管がん患者の手術に向けた身体的準備への取り組み, 日本老年看護学会第28回学術集会, 2023年6月16-18日, 横浜国際会議場.
- ・内海恵美, 大塚知子, 大内美穂子, 坂本明子, 田口智恵美, 三枝香代子, 浅井美千代: コロナ禍の新人看護師の困難体験と看護基礎教育課程で身につけておくべきと考えた看護実践能力, 一般社団法人日本看護学教育学会第33回学術集会, 2023年8月26-27日, 福岡国際会議場.
- ・細谷紀子, 市原真穂, 春日広美, 大内美穂子, 大塚知子, 山本千代, 浅井美千代, 川城由紀子, 河部房子: 地域包括ケアを担う看護職に求められる実践能力とその向上のために, 千葉看護学会第29回学術集会, 2023年9月9日, 千葉.

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・科学研究費補助金基盤研究 (C), セルフモニタリングアプリを活用してがん患者の術前準備を支援する看護支援方法の開発, 研究代表者.
- ・科学研究費補助金基盤研究 (B), がん患者の主体性を育み活用できる外来看護師育成プログラム: 普及性向上のための改善, 研究分担者.
- ・科学研究費補助金基盤研究 (C), 骨転移に放射線治療を受けるがん患者の至適生活を支援する看護プログラムの洗練, 研究分担者.

- ・学内共同研究費(学長裁量), 医療系大学生を対象とした「がん患者の家族となった大学生の支援を考えるワークショップ」の質的評価, 研究代表者.
- ・学長裁量共同研究, 千葉県内医療機関に入職した新人看護師が感じる困難(2023年度調査), 研究分担者.
- ・学内共同研究費(学長裁量), 地域包括ケアを担う看護職に対する実践能力向上プログラムの開発, 研究分担者.

6 受賞・特許

- ・日本看護学教育学会第33回学術集会 育成部門示説 優秀演題賞

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会, 学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
 - ・日本看護科学学会, 日本がん看護学会, 日本遠隔医療学会, 千葉看護学会, 日本老年看護学会, 日本看護学教育学会.
- 2) 学会, 学術団体への貢献(学会・学術団体名, 役職, 活動期間)
 - ・千葉看護学会第29回学術集会, 実行委員会副委員長, 2023年5月1日~9月9日

6 講演会(公開講座を含む)／研修会の講師・研究指導等(会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日時, 場所)

- ・看護研究指導, 1病棟 年4回, 千葉県がんセンター(遠隔)
- ・看護研究発表会における講義, 「看護実践への活かし方」, 講師, 2023年9月5日, 千葉県がんセンター.
- ・看護研究指導, 2病棟 年6回, 千葉県循環器病センター(遠隔).
- ・初期医療言語サービスボランティア研修, 神田外語大学/千葉県立保健医療大学, 「体勢への配慮」「一時救命処置(一般市民用)実習」, 講師, 2024年3月9日, 9時30分~16時, 千葉県立保健医療大学.

V 管理・運営記録

1 全学委員会(委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・特色科目運営会, IPE作業部会.

2 学科/専攻内委員会(委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・看護学科学学生・進路支援委員会, 専門職間の連携活動論作業部会, 看護学科運営会議.

VI 評価(成果および改善すべき事項)

教育活動では, 講義内容に最新の知見を取り入れるとともに, 学生が主体的に学べる工夫を新たに取り入れることができた. 研究活動では, 治療を受けるがん患者へのプログラムの開発には至らず, 進捗は遅れているため, 継続して取り組んでいく. しかし, 新たながん患者の家族となった大学生の支援を考えるワークショップを開催することができた. 大学運営では, 看護学科学学生・進路支援委員会の国試担当および4年生担任リーダーとして国家試験に向けた学生支援などに貢献できた. 昨年度同様に教育や研究に十分な時間を確保することが難しかったため, 次年度も改善に取り組む.

VII 次年度の目標

教育活動では, 講義内容を検討し, 学生が興味を持ち主体的に学べる工夫を新たに取り入れていく. 研究活動では, アプリ開発やワークショップの開催を通じてプログラムの洗練を図る. 今年度同様に看護学科学学生・進路支援委員会の国試担当および4年生担任リーダーとして国家試験に向けた学生支援に必要な改善を加え支援を継続していく.

講師 佐伯 恭子 博士 (看護学)

対象期間：2023年4月1日～2024年3月31日まで

I 年度当初の目標

教育活動では、領域内教員が半分入れ替わった新体制のもと、学生が主体的に興味関心を持って学ぶことを支援していく。研究活動では、代表者としての成果発表を目標に取り組む。同時に、大学管理運営および社会貢献活動での役割を果たせるよう、教育研究活動とのバランスをとりながら取り組みたい。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
 - ・体験ゼミナール.
 - ・高齢者・在宅看護学方法論 I.
 - ・高齢者看護学方法論 II.
 - ・高齢者看護学実習.
 - ・総合実習.
 - ・看護研究.
 - ・看護学統合.
 - ・ターミナルケア論.
- 2) 他大学、大学院等の非常勤講師 (科目名、大学名)
 - ・医療倫理学 (信州大学大学院).

III 研究記録

1 著書 (著者本人下線：著書、発行年、発行所、発行場所)

- ・佐伯恭子：事例 12 リハビリにもなるし、歌が好きだからいいんじゃない？、認知症ケアと日常倫理 (鶴若麻理・那須真弓編), 122-130, 2023年, 日本看護協会出版会, 東京.

2 学術論文・その他 (著者：題名、雑誌名、巻、号、ページ、発行年、本人下線)

- ・佐伯恭子, 河野舞, 工藤美奈子, 佐々木みづほ, 成田悠哉, 室井大佑：新型コロナウイルス感染症が高齢者施設の職員に与えた影響, 千葉県立保健医療大学紀要, 15巻, 1号, 23-31, 2024.
- ・河野舞, 工藤美奈子, 佐伯恭子, 佐々木みづほ, 成田悠哉, 室井大佑：新型コロナウイルス感染症による行動制限が施設高齢者の生活に与えた影響—施設の代表者の視点から—, 千葉県立保健医療大学紀要, 15巻, 1号, 33-40, 2024.

3 発表 (発表者：発表タイトル、主催学会 (学会名称)、開催日、場所等、本人下線)

- ・相馬由紀子, 杉本知子, 佐伯恭子, 上野佳代：病院や介護保険施設で就労している外国人看護師・介護福祉士候補者の健康管理の実態—看護師・介護福祉士免許取得にむけた時期の取り組み, 日本老年看護学会第28回学術集会, 2023年6月16-19日, 神奈川 (オンデマンド発表).
- ・Tomoko Sugimoto, Yukiko Soma, Kyoko Saeki, Chikako Takayanagi, Mikiyo Torita: Efforts necessary to raise the workplace retention rate of foreign workers, IAGG Asia/Oceania Regional Congress 2023, June 12-14 2023, Yokohama.
- ・工藤美奈子, 佐々木みづほ, 佐伯恭子, 河野舞, 室井大佑, 成田悠哉, 龍野一郎：新型コロナウイルス感染症による行動

制限が施設高齢者の生活に与えた影響, 千葉県立保健医療大学第 14 回学内共同研究発表会, 2023 年 9 月 12-16 日, 千葉.

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・学長裁量研究費, 新型コロナウイルス感染症による行動制限が施設高齢者の生活に与えた影響, 研究分担者.
- ・学長裁量研究費, 地域包括ケアを担う看護職に対する実践能力向上プログラムの開発, 研究分担者.

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本生命倫理学会. 日本医学哲学・倫理学会. 日本看護科学学会. 日本看護倫理学会. 日本老年看護学会. 千葉看護学会.

2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・日本医学哲学・倫理学会. 広報委員. 2021 年 5 月～ 広報委員会副委員長 2023 年 11 月～ 現在に至る.
- ・日本看護倫理学会. 代議員・広報委員 2023 年 6 月～ 現在に至る.
- ・日本看護倫理学会第 16 回学術集会. 示説座長. 2023 年 6 月 3-4 日.

6 講演会 (公開講座を含む) / 研修会の講師・研究指導等 (会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日時, 場所)

- ・一般社団法人日本精神看護協会. 精神科認定看護師養成研修会. チーム医療 チームアプローチ論 2. 精神科認定看護師資格取得を目指す者. 2023 年 7 月 2 日, 7 月 15 日 (東京).

7 その他

- ・千葉県立保健医療大学看護学科主催. 看護研究のコツがてんこ盛り! コツコツ学ぼうセミナー. 運営&ファシリテーター. 2024 年 3 月 18 日.
- ・千葉県立保健医療大学看護学科主催. 地域包括ケアを担う看護職に対する実践能力向上プログラム研修. 運営&ファシリテーター. 2024 年 1 月 20 日, 27 日.

V 管理・運営記録

1 全学委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・分野別認証評価部会. 新型コロナと認知症プロジェクトチーム.

2 学科/専攻内委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・看護学科教務委員会. 看護学科社会貢献委員会. 看護学科 1 年生担任. 看護研究作業部会.

VI 評価 (成果および改善すべき事項)

領域内の教員が半分入れ替わった新体制の中で協力し, 学生への教育の質向上を意識して取り組むことができた. 個人の研究テーマに関する研究活動の成果発表は多くなかったが, 全学プロジェクトチームおよび学科委員会活動の中で, 研究成果の発信と社会貢献活動とを両立して達成することができた.

VII 次年度の目標

教育活動では, 引き続き学生が主体的に興味関心を持って学ぶことへの支援に力を注ぐ. 研究活動では, 研究分担者としての役割を果たしながら, 自身の研究テーマに関する成果発表を念頭に, 教育活動および大学管理運営業務とのバランスをとりながら取り組む.

講師 杉本 健太郎 博士 (看護学)

対象期間：2023年4月1日～2024年3月31日まで

I 年度当初の目標

新型コロナウイルス感染症が5類に移行することに伴い、今年度以上に教育環境に変化が生じると考えられるため、適宜所属領域の他教員や臨地実習指導者等と調整を図りながら、状況に応じた効果的な教育を提供していきたい。研究については、今年度見出した知見から着想したテーマについて、研究計画を立案し調査実施する。社会貢献に関しては、自治体、職能団体、学術団体の活動に積極的に参加し、大学教員として社会に貢献していく。大学の運営については、他の委員と連携しつつ、各所属委員会の目標達成に貢献したい。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
 - ・地域看護学概論.
 - ・地域看護学方法論 II.
 - ・地域看護学方法論 III.
 - ・地域看護学実習.
 - ・総合実習 (地域看護学).
 - ・看護研究.
 - ・看護学統合.
 - ・体験ゼミナール.

III 研究記録

2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・星美鈴, 杉本健太郎, 佐々木晶世, 叶谷由佳: サービス付き高齢者向け住宅の介護職が看護職に期待する役割, 日本健康医学会雑誌, 32(2), 206-211, 2023.

3 発表 (発表者: 発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等, 本人下線)

- ・清水恵, 河田萌生, 中本五鈴, 服部ゆかり, 板橋みずほ, 伊東美緒, 内田陽子, 大橋由基, 崎山恵里那, 志賀悠, 杉本健太郎, 鈴木峰子, 杉本知子, 其田貴美枝, 東山公美, 平尾由美子, 藤本遼, 南琴子, Qi Lin, Shao Xinxia, 河野光伸, 榎本雪絵, 亀井智子, 尾崎章子: 認知機能低下のある在宅高齢者の睡眠改善への高照度光に関する介入および夜間の音楽聴取の介入の有効性: システマティックレビュープロトコル, 第28回日本在宅ケア学会学術集会, 2023年11月11-12日, 大阪.

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・科学研究費助成事業 (基盤研究 (C)) 2020-2023, 医療職配置のない高齢者住宅の介護職員が活用できる新たな感染対策マニュアルの開発, 研究代表者.
- ・科学研究費助成事業 (基盤研究 (C)) 2020-2023, 発達障害児の親に対する地域との繋がりづくりを意図した防災プログラム評価指標の開発, 研究分担者.
- ・科学研究費助成事業 (基盤研究 (C)) 2019-2023, エンパワメント基盤型介護予防実践支援ガイドの開発, 研究分担者.

6 受賞・特許

- ・日本ヒューマンケアリング学研究会 ベストレビュアー賞

IV 社会貢献・国際交流記録

3 審議会、委員会、国家試験委員等の実績（活動団体名称、委員名称、活動期間）

- ・柏市保健衛生審議会特別委員（健康増進専門分科会）2019年7月～現在

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本公衆衛生学会、日本地域看護学会、日本看護科学学会、日本在宅看護学会、日本在宅ケア学会、日本運動器看護学会、日本看護管理学会、日本健康医学会、日本高齢者ケアリング学研究会、文化看護学会。

2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・日本在宅看護学会、編集委員、2018年9月17日～現在
- ・日本看護科学学会、査読委員、2019年10月～現在
- ・千葉県公衆衛生学会、一般口演座長、2024年1月31日。

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日時、場所）

- ・千葉県看護協会 教員養成講習 看護論演習、講師、2023年5月25日、千葉県看護協会。
- ・令和5年度 第3管内保健師業務連絡研究会、講師、2023年11月6日、東金市保健福祉センター（ふれあいセンター）。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・広報委員会。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科学生進路支援委員会、看護学科入試検討委員会、看護学科担任。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことに伴い、実習内容を可能な限り学生が住民や保健医療従事者と直接接することのできる機会を設けられるよう臨地実習施設と綿密な調整を行った。それにより、コロナ前とほぼ同様のプログラムを実施できた。研究は論文1本、学会発表1本が採択された。社会貢献・大学運営に関しても年間通して尽力し、年度目標達成できた。

VII 次年度の目標

教育については、実際に保健医療現場で行われている活動を踏まえ、教授する内容を柔軟に対応させていきたい。特に、臨地実習については、学生が直接住民や保健医療従事者と接し、県民の健康課題を見出せるよう支援する。研究については、共同研究者と協力しながら、現在の保健医療現場のニーズに沿ったテーマに取り組んでいく。社会貢献に関しては、自治体、職能団体、学術団体の活動に、大学教員としての経験や知識をいかしながら参加していく。大学の運営については、他の委員と連携しつつ、各所属委員会の目標達成に貢献したい。

講師 栗田 和紀 博士 (理学)

対象期間：2023年4月1日～2024年3月31日まで

I 年度当初の目標

教育については、「深い学び」に誘えるような科目内容を目指す。研究では、これまでの研究成果をまとめ、学内の研究環境を整備していく。管理運営については、新たに所属する委員会を含めて積極的に活動に参加する。社会貢献においては、専門外の分野でもできるだけ役割を果たせるように努める。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
 - ・生物学.
 - ・観察生物学入門.
 - ・環境変化と生態.
 - ・体験ゼミナール.

III 研究記録

1 著書 (著者本人下線：著書, 発行年, 発行所, 発行場所)

- ・関慎太郎 (写真)・栗田和紀 (編著)：はっけん！トカゲ, 2023, 緑書房, 東京.

2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・栗田和紀・佐田直也：千葉県立保健医療大学幕張キャンパスで発見されたアオダイショウ, 千葉県立保健医療大学紀要, 15, 1, 41-44, 2024.
- ・Yayan Wahyu C. Kusuma, Muhammad Imam Surya, Siti Kurniawati, Kusuma Dewi Sri Yulita, Destri, Rosniati A. Risna, Enny Sudarmonowati, Ayumi Matsuo, Kazuki Kurita, Yoshihisa Suyama, Yuji Isagi: Genetic diversity and structure of *Hopea bilitonensis*, an endemic Dipterocarp from Belitung Island, Indonesia, Journal of Asia-Pacific Biodiversity, 17, 2 400-405, 2024.

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・公益財団法人中辻創智社 2022年度研究費助成, 琉球列島産トカゲ属を例にした仮説検証型効率的種分類法の確立, 研究代表者

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等 (活動名称, 活動期間, 場所等)

- 1) 千葉県内
 - ・ほい大健康プログラム, 2023年10月28日, いすみ市岬ふれあい会館.

5 学会, 学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
 - ・日本爬虫両棲類学会, 日本動物分類学会, 日本動物学会, 沖縄両生爬虫類研究会, The Society for the Study of Amphibians and Reptiles.

2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・日本動物分類学会, 生物多様性保全委員, 2022年7月～現在に至る.
- ・日本爬虫両棲類学会, 2023年度年次大会実行委員, 2022年11月～2023年12月.
- ・日本爬虫両棲類学会, 英文誌 Current Herpetology 編集委員, 2024年1月～現在に至る.

6 講演会 (公開講座を含む) / 研修会の講師・研究指導等 (会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日時, 場所)

- ・SS 探求総合, 埼玉県立春日部高等学校, 系統分類学, 高校1～2年生, 2023年9月26日16～18時, 埼玉県立春日部高等学校.

V 管理・運営記録

1 全学委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・共通教育運営会議, 入試実施委員会, 特色科目運営会 (体験ゼミナール作業部会), 研究倫理審査委員会 (動物部会), 自衛消防隊, 次期情報システムワーキンググループ (情報システム委員会準備会), 学内研究関連の規則並びに共同実験等の整備のためのプロジェクトチーム, 教員資格審査委員会.

2 学科/専攻内委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・入試検討委員会, 学生・進路支援委員会 (1年生担任).

3 対外広報活動<新聞・ホームページでの活動・TV出演, ラジオ出演等>

- ・合同説明会 (千葉商工会議所, 2023年7月17日)

VI 評価 (成果および改善すべき事項)

教育については, 「深い学び」になるように, 身近な動植物の活用, ワークシートの活用, 対話の機会の増加などを試みることで, 履修者の科目内容への興味・関心を高めることができた. 研究では, 研究成果の一部を書籍や紀要にて公表し, 研究期間を延長していた外部資金による研究を年度内に終えることができた. 新規研究課題に着手するためにも, 研究成果のできるだけ早い公表と研究環境の整備をさらに進めていく必要がある. 大学の管理運営については, 所属委員会の活動に積極的に参加し, 役割を理解したうえで任務にあたることができた. 社会貢献では, 「ほい大健康プログラム」への参加や所属学会の委員としての活動を通して学外に向けた取り組みを広げることができた.

VII 次年度の目標

教育については, 「深い学び」に誘えるような科目内容・授業展開を目指す. 研究では, これまでの研究成果をまとめつつ, 新規研究課題に着手する. 管理運営については, 所属委員会の活動に積極的に参加する. 社会貢献においては, 専門外の分野でもできるだけ役割を果たせるように努める.

講師 大塚 知子 博士 (看護学)

対象期間：2023年4月1日～2024年3月31日まで

I 年度当初の目標

本学の特徴を踏まえた教育活動ができるよう自己研鑽する。研究については、自らの課題研究を遂行するとともに、共同研究として新たに取り組む研究課題についても積極的に参加し、研究メンバーとして貢献できるようにする。大学運営については、自らの役割を意識して取り組んでいく。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・体験ゼミナール.
- ・救命救急の理論と実際.
- ・臨床看護学方法論 I.
- ・臨床看護学方法論 II.
- ・慢性期看護学実習.
- ・総合実習.
- ・看護研究.
- ・看護学統合.

III 研究記録

2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年. 本人下線)

- ・大塚知子, 眞嶋朋子: 子宮頸部前がん病変と診断された女性のスティグマプロセス, 千葉看護学会誌, 29巻, 2号, 1-10, 2024年.

3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- ・Tomoko Otsuka, Tomoko Majima: Development of a Questionnaire to Evaluate Stigma Experiences in Women with Cervical Pre-Cancerous Lesions: A Patient-Reported Outcome Approach, the 27th East Asian Forum of Nursing Scholars, 2024/3/6-7, HongKong.
- ・Asahiko Higashitsuji, Tomoko Otsuka, Kentaro Watanabe: Effectiveness of ChatGPT in case-based learning conducted for nursing students A Patient-Reported Outcome Approach, the 27th East Asian Forum of Nursing Scholars, 2024/3/6-7, HongKong.
- ・東辻朝彦, 大塚知子, 渡辺健太郎: ChatGPT は看護学生の授業に用いる事例作成にかかる教員の時間を削減し, 負担感を軽減する, 第43回日本看護科学学会学術集会, 2023年12月10日, 山口.
- ・細谷紀子, 市原真穂, 春日広美, 大内美穂子, 大塚知子, 山本千代, 浅井美千代, 川城由紀子, 河部房子: 地域包括ケアを担う看護職に求められる実践能力とその向上のために, 千葉看護学会第29回学術集会, 2023年9月9日, 千葉.
- ・大塚裕之, 大内みふか, 大塚知子, 橘田岳也, 米岡大輔, 榊原隆次: パーキンソン病の下部排尿機能障害に対する非薬理的および非外科的介入の効果: システマティックレビューとメタアナリシスによる検討, 第30回日本排尿機能学会, 2023年9月7日, 千葉.
- ・内海恵美, 大塚知子, 大内美穂子, 坂本明子, 田口智恵美, 三枝香代子, 浅井美千代: コロナ禍の新人看護師の困難体験と看護基礎教育課程で身につけておくべきと考えた看護実践能力, 日本看護学教育学会第33回学術集会, 2023年8月26日, 福岡.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名、研究テーマ、研究代表者／研究分担者）

- ・科学研究費補助金若手研究，妊娠初期検診に前がん病変と診断された女性の産後の受診行動を支える看護モデルの開発，研究代表者。
- ・科学研究費補助金基盤研究（C），子宮頸部前がん病変と診断された女性とパートナーのスティグマを予防・低減する看護モデルの開発，研究代表者。
- ・学内共同研究費（学長裁量），看護学生の事例を用いた学習における ChatGPT の有用性と効果，研究代表者。
- ・学内共同研究費（学長裁量），医療系大学生を対象とした「がん患者の家族となった大学生の支援を考えるワークショップ」の質的評価，研究分担者。
- ・学内共同研究費（学長裁量），千葉県内医療機関に入職した新人看護師が感じる困難（2023 年度調査），研究分担者。
- ・学内共同研究費（学長裁量），地域包括ケアを担う看護職に対する実践能力向上プログラムの開発，研究分担者。

6 受賞・特許

- ・日本看護学教育学会第 33 回学術集会 育成部門示説 優秀演題賞

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本看護科学学会、日本がん看護学会、日本看護研究学会、日本看護学教育学会、日本緩和医療学会、千葉看護学会、文化看護学会、International Society of Nurses in Cancer Care。

2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・第 15 回文化看護学会学術集会、実行委員、2023 年 1 月 31 日～2023 年 4 月 30 日
- ・千葉看護学会第 29 回学術集会、実行委員、2023 年 5 月 1 日～9 月 9 日

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日時、場所）

- ・看護研究指導、看護師、千葉県循環器病センター、全 3 回（6/29、9/15、11/24）
- ・看護研究指導、看護師、千葉県がんセンター、全 4 回（5/30、10/30、12/11、2/19）

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・教務委員会。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科教務委員会、看護学科カリキュラム評価作業部会。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

令和 5 年度の教育活動については、おおむね目標通りであった。今後も学生の興味関心が持てるよう新たな知見を取り入れ教育活動に反映していく。実習科目では、実習目標に到達できるよう、学内実習と臨地実習の位置づけを意識した内容とし、各演習・実習の目標を学生自身が意識できるよう働きかけた。研究活動に関しては、多くの研究に携わることができた。今後は、継続して研究活動を行っていくとともに、得られた研究成果の公表を積極的に行っていく。大学運営については、看護学科教務委員会のカリキュラム実施部会長として、新入生・在校生ガイダンスでは学生が適切に履修できるよう履修計画について必要な項目について、端的に説明することができた。また、部会長として委員会メンバーと共同して学科のカリキュラム運営を行うことができた。

VII 次年度の目標

昨年度に引き続き、本学の特徴を踏まえた教育活動ができるよう自己研鑽する。研究活動については、自らの研究課題の成果の公表を目指すとともに、研究分担者として研究活動に積極的に参加し、チームメンバーの一員として貢献できるよう役割を果たす。大学運営については、看護学科教務委員会のカリキュラム実施部会長としての役割を果たすとともに、アセスメントポリシー作業部会員として、学科内の意見集約等の役割を行う。

講師 渡辺 健太郎 修士 (看護学)

対象期間：2023年4月1日～2024年3月31日まで

I 年度当初の目標

教育活動では、効果的・効率的・魅力的な教育提供を目標に、授業担当・補助を行う。特に担当する単元では、技術習得に向けた授業設計や、必要な演習時間の確保により、技術習得における目標の達成を支援する。研究活動では、研究計画の立案と競争的資金への申請を目指す。また、共同研究者としての役割を果たし、成果の公表を目指す。管理・運営では、所属する委員会において、教職員と連携しながら積極的に役割を遂行する。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
 - ・体験ゼミナール.
 - ・看護学原論.
 - ・看護技術論Ⅰ (日常生活援助技術).
 - ・看護技術論Ⅱ (フィジカルアセスメント技術).
 - ・看護技術論Ⅲ (検査治療技術).
 - ・看護技術論Ⅳ (看護過程展開技術).
 - ・看護技術論Ⅴ (総合技術演習).
 - ・基礎看護学実習.
 - ・日常生活調整方法論.
 - ・総合実習.
 - ・看護学統合.

III 研究記録

3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- ・Asahiko Higashitsuji, Tomoko Otuka, Kentaro Watanabe: Effectiveness of ChatGPT in case-based learning conducted for nursing students, 27th East Asian Forum of Nursing Scholars, March 6-7, 2024, Hong Kong.
- ・東辻朝彦, 大塚朋子, 渡辺健太郎: ChatGPT は看護学生の授業に用いる事例作成にかかる教員の時間を削減し, 負担感を軽減する, 第43回日本看護科学学会学術集会, 2023年12月9-10日, 山口県.

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・学長裁量研究, 看護学生の事例を用いた学習におけるChatGPTの有用性と効果, 研究分担者.
- ・学長裁量研究, 看護師の臨床判断に基づくフィジカルアセスメント教材アプリの教育効果の検証, 研究分担者.

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等 (活動名称, 活動期間, 場所等)

- 1) 千葉県内
 - ・ほい大健康プログラム UR都市機構 第1回, 2023年10月14日, さつきが丘団地.

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

・日本看護教育学学会、日本看護学教育学会、日本看護科学学会、千葉看護学会、日本医療教授システム学会、

2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

・千葉看護学会第29回学術集会、実行委員、2023年5月1日～9月9日

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

・キャンパス・ハラスメント相談員、

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

・看護学科運営会議、看護学科総務・企画委員会、看護学科教務委員会、看護学科2年生担任、

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動では、ICTの活用や十分な演習時間の確保により効果的・効率的・魅力的な学習環境を整備したことで目標の達成を支援でき、学生から肯定的な評価を受けることができた。研究活動では、共同研究者としての役割を果たして研究の公表を行うことができた。次年度は筆頭者としての公表を目指す。管理・運営では、任命された役割を十分に果たすことができたとともに、担任として学生の相談に対応することで学生生活を支援できた。

VII 次年度の目標

教育活動では、効果的・効率的・魅力的な学習環境の整備に向けて、授業担当・補助を行う。特に担当する单元では、学習者の目標達成状況の形成的評価を十分に行い、フィードバックを充実させることにより目標達成を支援する。研究活動では、筆頭者としての研究成果の公表を目指す。管理・運営では、所属する委員会において、教職員と連携しながら着実な役割遂行を目指す。

助教 中山 静和 修士（看護学）

対象期間：2023年4月1日～2024年3月31日まで

I 年度当初の目標

令和5年度は、特に、新たに着任した2名の上席教員とともに、スムーズな領域運営ができるよう努める。特に、授業、演習、臨地実習において、学生の学習がより効果的になる方法や学習効果の評価内容について、上席教員の指導の下、検討を進め、実践する。委員会活動では、新たに全学に自己点検評価委員会のメンバーとなったことから、今年度は業務内容について理解し、メンバーとの連絡調整を図りながら、業務の遂行に努めることが目標である。研究活動では、研究期間を再延長とした研究について、成果の公表および報告に向けて、計画的に作業を進める。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
 - ・専門職間の連携活動論。
 - ・小児看護方法論Ⅰ。
 - ・小児看護方法論Ⅱ。
 - ・小児看護学実習。
 - ・総合実習（小児看護学領域）。

III 研究記録

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・中山静和：保育者の「気になる子ども」への対応の現状と課題 一行動面への対応に注目して-，第34回全国保育園保健研究大会，2024年1月28日，神奈川県川崎市。

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・文部科学省科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金（基盤研究（C）），「気になる子ども」に対する保育施設での発達支援に向けた基盤的研究，研究代表者。
- ・文部科学省科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金（基盤研究（C）），「保育・教育職を対象とした精神疾患である親と子どもの支援に関する学習支援プログラム」，研究分担者。

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等（活動名称，活動期間，場所等）

- 1) 千葉県内
 - ・ほい大健康プログラム 歯科診療室 健康教室。2024年2月17日。千葉県立保健医療大学。
 - ・外国語による応急処置体験講習。2024年3月9日。千葉県立保健医療大学。

5 学会，学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
 - ・日本小児看護学会。日本小児保健協会。日本保育保健協議会。全国保育園保健師看護師連絡会。日本臨床睡眠医学会。日本睡眠環境学会。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称 活動期間は特に記載のない限り年度内）

・自己点検評価委員会／教育研究年報作成部会。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称 活動期間は特に記載のない限り年度内）

・看護学科運営会議 看護学科学生・進路支援委員会 看護学科入試検討委員会。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動では、担当する専門科目において新たに担当した授業において、自己の専門知識や研究成果を盛り込みながら、学生が理解しにくいと考えられる小児の現象などについては、Web 動画を活用した。学生からの授業評価では、授業内容の理解は高評価であり、定期試験での設問の回答率も高かった事から、学習目標は達成できたと考える。また、臨地実習においては、実習記録様式を見直し、学内での専門科目での学びと結びつけて指導を行った。その結果、臨地実習時の実習記録内容に深まりが見られ、最終カンファレンス資料への記述内容が理論立てて整理された内容となっていたことから、学習効果が得られたと考える。

委員会活動では、新たに担当した全学の自己点検評価委員会の活動において、メンバー間の連絡を密に行い、スケジュール通りの業務を実施することができた。

研究活動では、研究期間を延長した学術研究助成基金助成金による研究について、研究成果を関連学会で発表することができた。今後は、研究報告書作成とともに、成果を投稿し、公表できるよう努める。

VII 次年度の目標

次年度は、特に所属する専門領域の上席教員とともに教育内容及び方法について見直しを行い、医療の現場に即した実践的な知識・アセスメント力を強化することを意識したい。それに向けて学生が意欲的に学習に取り組めるような工夫を検討し、実践する。また、臨地実習施設側との情報交換を十分に行い、実習期間内で学生が学習可能な内容について再考し、指導の方向性についても共通認識を高めるように努める。委員会活動では、今年度に理解した業務内容をもとに、今年度と同様遂行することを目標とした。研究活動では、これまでの研究成果をもとにした新たな研究課題を掲げ、外部からの研究資金の獲得を目指す。

助教 増田 恵美 修士（看護学）

対象期間：2023年4月1日～2024年3月31日まで

I 年度当初の目標

令和5年度の教育活動においては、演習や実習で学生が主体的に学びより良い学習効果が得られるように努めていく。実習先では、新しい施設職員との信頼関係を築くために報告や相談を行い、学生が学びやすい環境を整えていく。また、研究活動においては、学会発表を行うこと、実施した研究について投稿することができることを計画通りに進めていくことを目標とする。総務・企画委員会や入試検討委員会では、委員長の指示に従い、系のメンバーと協力しながら業務を遂行していく。社会貢献活動では、千葉県母性衛生学会の会計幹事として役割を遂行し、社会貢献活動を充実させる。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・母性看護学方法論Ⅰ.
- ・母性看護学方法論Ⅱ.
- ・母性看護学実習.
- ・助産診断・技術学Ⅱ.
- ・助産診断・技術学Ⅲ.
- ・助産診断・技術学Ⅳ.
- ・助産学実習Ⅰ（産婦ケア体験）.
- ・助産学実習Ⅱ（継続支援）.
- ・助産学実習Ⅲ（分娩期ケア）.
- ・総合実習.
- ・看護学統合.
- ・体験ゼミナール.

III 研究記録

1 著書（著者本人下線：著書，発行年，発行所，発行場所）

- ・増田恵美：2025年版系統別看護師国家試験問題集 第113回看護師国家試験 解答と解説，2024，医学書院，東京。

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・増田恵美，片岡弥恵子：妊婦の腰痛・骨盤痛改善を目的としたオンラインによるヨガプログラムの実行可能性の評価：フイジビリティスタディ，日本助産学会誌，37巻，2号 173-184，2023。

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・増田恵美，片岡弥恵子：妊婦の腰痛・骨盤痛改善を目的としたオンラインによるヨガプログラムの実行可能性の評価：フイジビリティスタディ，第37回日本助産学会学術集会，2023年10月9日，東京。
- ・北川良子，川城由紀子，川村紀子，増田恵美，石井邦子，山崎麻子：中小規模の周産期医療機関に転職した中堅助産師のキャリアニーズの現状，第25回日本母性看護学会学術集会，2023年5月28日，東京。
- ・川城由紀子，石井邦子，川村紀子，北川良子，増田恵美，山崎麻子：学内母性看護学実習プログラムにおける模擬患者による学生のコミュニケーション能力の評価，第64回日本母性衛生学会総会・学術集会，2023年10月13，14日，大阪。

- 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）
- ・2022～2024 年度，一般社団法人日本助産学会 奨励研究（B），妊婦の腰痛改善を目的としたオンラインヨガを活用した腰痛プログラム-Feasibility study-，研究代表者

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会，学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
 - ・日本看護科学学会，日本助産学会，日本母性衛生学会，日本母性看護学会，千葉県母性衛生学会，聖路加看護学会。
- 2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）
 - ・千葉県母性衛生学会，会計幹事，2020 年 5 月～現在に至る。

7 その他

- ・放送大学，オンライン教育補助者（特定行為研修演習指導支援者），2022 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日

V 管理・運営記録

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科運営会議，入試・広報委員会，総務企画委員会。

3 対外広報活動＜新聞・ホームページでの活動・TV出演，ラジオ出演等＞

- ・ホームページ：千葉県立保健医療大学育成支援看護学領域母性看護学・助産学。
(<http://square.umin.ac.jp/cpuhs-mm/>).

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動において，学生が目標を達成できるように学習状況に応じ，個別的な指導内容を工夫した。母性看護学・助産学実習において，施設との調整を図り実習を行うことができた。研究活動においては積極的に活動した。一般社団法人日本助産学会 奨励研究（B）の研究資金を獲得することができた。第 37 回日本助産学会学術集会において，研究テーマにおける feasibility study 行い，口演発表することができた。研究計画を基に計画的に進めて実施すること，実施した研究について投稿準備を進めることができたことは評価できる。入試・検討委員会，総務企画委員会では，責任者へ報告しながら業務を遂行することができた。社会貢献活動は，千葉県母性衛生学会の会計幹事として，係りとともに会計業務を行うことができた。

VII 次年度の目標

令和 6 年度の教育活動においては，演習や実習で学生が主体的に学びより良い学習効果が得られるように努めていく。実習先では，新しい施設職員との信頼関係を築くために報告や相談を行い，学生が学びやすい環境を整えていく。また，研究活動においては，研究活動は，計画的に活動時間を確保し，現在行っている研究のデータ収集を引き続き行い，データ分析から研究成果をまとめられるように計画通りに進めていくことを目標とする。総務・企画委員会や入試検討委員会では，委員長の指示に従い，系のメンバーと協力しながら業務を遂行していく。社会貢献活動では，千葉県母性衛生学会の会計幹事として役割を遂行し，社会貢献活動を充実させる。

助教 内海 恵美 修士（教育学）

対象期間：2023年4月1日～2024年3月31日まで

I 年度当初の目標

従来の教育方法・内容にとらわれることなく、臨床との連携を図り、最新の知見を得ながら常に質の向上を目指し教育活動をおこなう。特に、領域実習・総合実習における学生のパフォーマンスとパフォーマンスに至るまでの思考の支援を検討する。大学運営においては、委員会活動を他教員と協働しながら実施していく。研究活動においては、引き続き千葉県内の医療機関に入職した新人看護師を対象として研究を進め、基礎教育と現任教育の切れ目ない支援を目指す。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
 - ・臨床看護学概論.
 - ・臨床看護学方法論Ⅰ.
 - ・臨床看護学方法論Ⅱ.
 - ・ターミナルケア論.
 - ・慢性期看護学実習.
 - ・総合実習.
 - ・看護学統合.

III 研究記録

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・内海恵美，大塚知子，大内美穂子，坂本明子，田口智恵美，三枝香代子，浅井美千代：コロナ禍の新人看護師の困難体験と看護基礎教育課程で身につけておくべきと考えた看護実践能力，一般社団法人日本看護学教育学会第33回学術集会，2023年8月26-27日，福岡国際会議場.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・学長裁量共同研究，千葉県内医療機関に入職した新人看護師が感じる困難（2023年度調査），研究代表者.
- ・学長裁量共同研究，チームの一員として急変対応にあたる新人看護師のシミュレーション教育プログラム開発ー（第1段階）患者急変時に救命処置をする医療チームの一員として新人看護師の担える役割ー，研究分担者.

6 受賞・特許

- ・日本看護学教育学会第33回学術集会 育成部門示説 優秀演題賞

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等（活動名称，活動期間，場所等）

- 1) 千葉県内
 - ・ほい大健康プログラム（いすみ市），2023年10月28日，いすみ市岬ふれあい会館.

2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等，活動期間，場所等）

- ・X Games Chiba 来場客救護（X Games Japan 組織委員会より），2023年5月14日，ZOZO マリンスタジアム.

- ・VリーグD3千葉ゼルバ ホームゲームにおける選手・観客救護（千葉県バレーボール協会より）、2024年1月21日および3月10日、YohaSアリーナ～本能に、感動を。～

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本外来小児科学会、日本医療教授システム学会、日本医学看護学教育学会、日本看護学教育学会、日本ダンス医科学研究会、日本スポーツ救護看護学会。

V 管理・運営記録

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科総務・企画委員会、看護学科学生・進路支援委員会、看護学科1年次担任。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

領域内で総合実習のプログラム再編を担当した。実習目標に到達できるよう、学内実習と臨地実習を連動させ内容を充実させたことにより、その後の臨地での学びが深まったことが事後アンケートから示された。また、オープンキャンパスにおける領域展示・演習を構築した。学生にデモンストレーションをしてもらうことで、参加者・受験生のロールモデルとなり、入学後の自己像・看護学生像を膨らませることができたと考える。学科内では、いすみ市でのほい大健康プログラムを学生主体の活動としたことで、サービスマーケティングとして学生の学びとしうる可能性に気づくことが出来た。

研究活動としては、2022年度学長裁量共同研究の研究代表者として学会にて発表し受賞することができた。一方で、2023年度学長裁量共同研究は実施までに時間がかかり、分析は次年度に繰り越さざるを得なかった。また、本来の研究フィールドである外来やスポーツ現場における看護活動については研究を行えなかった。

助教 山本 千代 博士 (看護学)

対象期間：2023年4月1日～2024年3月31日まで

I 年度当初の目標

教育活動では、引き続き、講義・演習の支援を行い、授業運営の実施および支援を行う。研究活動は、科学研究費補助金基盤研究(C)の研究成果をまとめ、その成果を学会発表する。

大学運営管理では、新たに学生進路支援委員会のメンバーとしての役割を果たす。社会貢献では、臨床看護研究指導を継続し、臨床看護師の看護研究の質を向上するための支援を行う。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績(科目名)
 - ・体験ゼミナール.
 - ・看護学原論.
 - ・看護技術論Ⅰ(生活援助技術).
 - ・看護技術論Ⅱ(フィジカルアセスメント技術).
 - ・看護技術論Ⅲ(検査治療技術).
 - ・看護技術論Ⅳ(看護過程展開技術).
 - ・看護技術論Ⅴ(統合技術演習).
 - ・日常生活調整方法論.
 - ・基礎看護学実習.
 - ・総合実習.
 - ・看護学統合.

III 研究記録

3 発表(発表者:発表タイトル,主催学会(学会名称),開催日,場所等.本人下線)

- ・山本千代, 野崎真奈美, 永野光子: 根拠のある臨床看護実践のための情報リテラシー体系表の開発, 日本看護学教育学会第33回学術集会, 2023年8月26日, 福岡.

5 研究資金獲得状況(外部資金・学内共同・学長裁量)(資金名,研究テーマ,研究代表者/研究分担者)

- ・科学研究費補助金基盤研究(C), 根拠のある看護(EBN)のための情報リテラシー能力体系表の開発, 研究代表者

6 受賞・特許

- ・日本看護学教育学会第33回学術集会 優秀演題賞

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等(活動名称,活動期間,場所等)

- 1) 千葉県内
 - ・新しい大プログラム(2023年12月2日, さつきが丘団地)

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本看護学教育学会、日本看護科学学会、千葉看護学会。

2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・千葉看護学会、第29回学術集会実行委員、2023年7月～9月

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日時、場所）

- ・東京歯科大学市川総合病院 看護研究指導、臨床看護師、2023年4月～2023年1月 計4回。
- ・地域包括ケアを担う看護職に対する実践能力向上プログラム、看護学科社会貢献委員会、臨床看護師、2024年1月20、27日、千葉県立保健医療大学。

V 管理・運営記録

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科運営会議、看護学科学生・進路支援委員会、看護学科社会貢献委員会、看護学科1年生担任。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動では、昨年度に引き続き、授業者に確認を行いながら講義・演習を支援した。領域内の欠員のため、上席教員に領域運営の状況を確認し、助教および非常勤任用の教員と協働して領域内の業務に従事した。

研究活動は、科学研究費補助金基盤研究（C）の研究を進め、その成果を学会発表し、優秀演題賞を受賞した。

大学運営管理では、所属する委員会の役割を理解したうえで任務にあたることができた。社会貢献では、「ほい大健康プログラム」の活動や、看護学科社会貢献委員として、地域包括ケアを担う看護職に対する実践能力向上プログラムの実施、臨床看護師の看護研究の質を向上するための支援などの活動を通して学外に向けた取り組みに従事することができた。

また、1年生担任として、担当する学生には対面授業時およびTeamsで適宜声かけし、いつでもサポートすることを伝え、学生の支援に努めた。

助教 坂本 明子 修士（看護学）

対象期間：2023年4月1日～2024年3月31日まで

I 年度当初の目標

本学の教育方針に沿って教育活動をおこなっていく。慢性期疾患とともに生活する患者の特性に関して、学生の理解が深まるような指導方法を引き続き検討する。研究活動では、1年延長した科学研究費助成事業の研究で成果をまとめられるよう進めていく。また、未だ公表できていない成果があるため、学術論文として公表できるよう授業や実習との両立をはかり進めていく。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
 - ・体験ゼミナール。
 - ・救命救急の理論と実際。
 - ・臨床看護学方法論 I。
 - ・臨床看護学方法論 II。
 - ・慢性期看護学実習。
 - ・総合実習。
 - ・看護学統合。

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・坂本明子：心不全終末期患者へのエンドオブライフケアの明確化（第1報）：ケア移行に関する看護師の判断内容，日本循環器看護学会誌，18(1)，42-50，2023。

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・内海恵美，大塚知子，大内美穂子，坂本明子，田口智恵美，三枝香代子，浅井美千代：コロナ禍の新人看護師の困難体験と看護基礎教育課程で身につけておくべきと考えた看護実践能力，日本看護学教育学会第33回学術集会，2023年8月26日，福岡。

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・科学研究費助成事業 若手研究「心不全終末期患者へのエンドオブライフケア：苦痛緩和への実践内容・評価の明確化」，研究代表者。
- ・学内共同研究費（学長裁量），千葉県内医療機関に入職した新人看護師が感じる困難（2023年度調査），研究分担者。

6 受賞・特許

- ・日本看護学教育学会第33回学術集会 育成部門示説 優秀演題賞

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本看護科学学会、日本循環器看護学会、日本老年看護学会、日本看護学教育学会、千葉看護学会、文化看護学会、看護質的統合法研究会。

2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・日本循環器看護学会、指名理事、2020年11月～現在
- ・日本循環器看護学会、広報委員会副委員長、2022年11月～現在
- ・第15回文化看護学会学術集会、実行委員、2023年1月31日～2023年4月30日
- ・第20回日本循環器看護学会学術集会、シンポジウム座長「心不全患者のエンドオブライフケア」2023年9月16日

V 管理・運営記録

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科運営会議、看護学科教務委員会、看護学科実習検討部会、看護学科倫理審査委員会、看護学科医療生活支援領域会議。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

2023年度は、概ね目標通りに実施することができた。実習科目では、慢性期疾患とともに生活する患者の特性に関する学生の理解が深まるよう演習方法の検討・実施ができた。コロナ禍の影響を受け、コミュニケーションに困難感をもつ学生のサポートを引き続き実施していく必要性を感じている。研究活動については、「心不全終末期患者へのエンドオブライフケアの明確化（第1報）：終末期移行に関する看護師の判断内容について」が学会誌に掲載された。第2報についても来年度で投稿予定である。今年度最終年度であった科学研究費助成事業 若手研究「心不全終末期患者へのエンドオブライフケア：苦痛緩和への実践内容・評価の明確化」は対象者が想定よりも集まらなかったため、来年度まで延長し成果をまとめられるよう計画的に遂行していく。また、本研究のあとにつづく研究テーマについて科学研究助成事業 基盤(C)へ申請し採択された。多くの研究に携わることができているため継続して研究活動を続けていく。社会貢献活動においても、研究領域に関する活動を進めることができ、様々な職種の方との意見交換から多くの知見を得ることができた。

VII 次年度の目標

2024年度は、今年度に引き続き上席教員のもと、慢性期疾患とともに生活する患者の特性に関して、学生の理解が深まるような指導方法を引き続き検討する。研究活動では、未だ公表できていない成果があるため、新しくスタートする研究をすすめながら、学術論文として公表できるよう授業や実習との両立をはかり進めていく。

助教 小林 雅美 修士（看護学）

対象期間：2023年4月1日～2024年3月31日まで

I 年度当初の目標

教育活動では、対面授業において学生たちの学習目標が達成できるよう、準備を行っていききたい。また、臨地実習では実習先との連携を密に行いながら、学生たちの実習目標が達成されるよう支援を行っていききたい。研究活動では、「公立小中学校で働く教員の精神疾患に関する認識」に関する研究について学会発表する。また、新たな研究を令和5(2023)年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（研究活動スタート支援）に応募し進めていききたい。そして、今年度学会発表を行った精神科看護師が捉えている長期入院している精神症状が不安定な統合失調症患者の力と退院へと導く看護に関する研究の原著論文投稿へ向けた準備を進めていききたい。社会貢献では、引き続き日本看護科学学会若手の会エリアコーディネーターとして合同ミーティング等に参加し、エリア検討会の企画・運営の準備を進めていききたい。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
 - ・精神看護学概論.
 - ・精神看護学方法論Ⅰ.
 - ・精神看護学方法論Ⅱ.
 - ・精神看護学実習.
 - ・総合実習.
 - ・看護研究.
 - ・看護学統合.

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・細野知子，門脇緑，小林雅美，高橋聡明，椿美智博，橋本友美：【若手研究者のつながりと発信 JANS 若手の会エリア・コーディネーターの活動】南関東，看護研究，56，2，126-127，2023.

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・小林雅美，小宮浩美，加藤隆子：公立小学校で働く教員と精神疾患をもつ児童との関わりに関する事例報告，第33回日本精神保健看護学会学術集会，2023年5月13日～14日，兵庫.
- ・山内菜摘，小宮浩美，小林雅美：精神科病院に入院した患者の入院生活におけるストレスと対処～就労継続支援B型の通所者を対象とした質問紙調査～，第29回千葉看護学会，2023年9月9日，千葉.
- ・小宮浩美，小宮全，小林雅美：精神科病棟における身体的拘束減少のための介入についてのシステムティックレビュー，第66回日本病院・地域精神医学会，2023年12月16日～17日，神奈川.

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等（活動名称，活動期間，場所等）

- 1) 千葉県内
 - ・新しい大プログラム（2023年12月2日，さつきが丘団地）

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本看護科学学会、日本精神保健看護学会、千葉看護学会、ナイチンゲール研究学会、

2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・千葉看護学会、第29回学術集会実行委員、2023年7月～9月
- ・日本看護科学学会、若手の会エリアコーディネーター、2021年12月～現在に至る

V 管理・運営記録

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科学生・進路支援委員会（進路支援部会、2年担任）、看護学科総務・企画委員会、

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動では、領域教員間で講義・演習の検討を重ねながら、準備を行い、円滑に授業を行い、学生たちが学習目標が達成できるよう支援を行うことができた。臨地実習は、実習先との連携を密に行いながら、実習を円滑に進め、学生たちの学習目標が達成できるよう支援を行うことができた。研究活動では、公立小学校で働く教員と精神疾患をもつ児童との関わりに関する事例報告」として学会発表をすることができた。また、昨年度学会発表を行った「精神科看護師が捉えている長期入院している精神症状が不安定な統合失調症をもつ人の力」は原著論文として投稿できた。令和5(2023)年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（研究活動スタート支援）は応募したが、不採択であった。社会貢献では、新しい大プログラムに参加すると共に、来年度に向け日本看護科学学会若手の会エリアコーディネーターとして南関東エリアの検討会の開催準備を進めている。

VII 次年度の目標

教育活動では、学生たちの学習目標が達成できるよう、準備を行っていききたい。また、臨地実習では実習先との連携を密に行いながら、学生たちの実習目標が達成されるよう支援を行っていききたい。研究活動では、「公立小中学校で働く教員と精神疾患をもつ児童・生徒との関わりに関する認識」に関する研究について学会発表する。「精神科看護師が捉えている長期入院している精神症状が不安定な統合失調症をもつ人の力」は原著論文として現在査読中であるため、今年度中に受理されるよう査読意見に対応していく。また、外部資金に応募し、研究費の獲得を進めていききたい。社会貢献では、引き続き日本看護科学学会若手の会エリアコーディネーターとして合同ミーティング等に参加し、エリア検討会の企画・運営の準備を進めていききたい。

助教 津田 充子 修士（看護学）

対象期間：2023年4月1日～2024年3月31日まで

I 年度当初の目標

令和5年度は、教育活動目標として、個々の学生の学習達成状況を確認しつつ、対象者の母子が地域での生活者であることを踏まえた個別性のある看護を学生が主体的に考えることができるよう教育を提供することを掲げた。研究活動の目標としては、自身が近年取り組んでいる、少子化対策に関連した育児の協働に関する研究に引き続き取り組むこと、そして、昨年度取り組んだ無痛分娩に関する研究結果を学会誌に投稿することを掲げた。大学の委員会活動としては、学生進路支援委員会の一員として、国家試験に向けた学生支援に尽力することを目標として掲げた。社会貢献活動の目標は、所属する看護系学会の学術集会の運営委員として、学術集会開催に尽力すること、本大学主催のほい大健康プログラムに参加し、千葉県の高齢者の健康維持・向上に貢献することを掲げた。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・母性看護学方法論 I.
- ・母性看護学方法論 II.
- ・母性看護学実習.
- ・助産診断・技術学 II.
- ・助産診断・技術学 III.
- ・助産診断・技術学 IV.
- ・助産学実習 I.
- ・助産学実習 II.
- ・助産学実習 III.
- ・総合実習（母性）.
- ・体験ゼミナール.
- ・看護学統合.

III 研究記録

1 著書（著者本人下線：著書，発行年，発行所，発行場所）

- ・津田充子，他：2025年版系統別看護師国家試験問題集 第113回看護師国家試験 解答と解説，2024，医学書院，東京.

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・津田充子，若林笑美，織田幸恵：A病院における計画無痛分娩の実態について，母性衛生，第64巻，4号，561-568，2024年1月.

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・津田充子，若林笑美：A病院における計画無痛分娩の実態について，第25回日本母性看護学会学術集会，2023年5月28日，武蔵野大学有明キャンパス.
- ・津田充子，藤原久美，若林笑美，桂木美江，織田幸恵：A病院における周産期メンタルヘルス支援の強化～母性看護専門看護師を中心としたハイリスク妊産婦連携指導料1算定取得までの取り組みを通じて～，第10回日本CNS看護学会，2023年6月10～11日，京都府民総合交流プラザ京都テルサ.

IV 社会貢献・国際交流記録

2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等、活動期間、場所等）

- ・ほい大プログラム，第1回看護学科プログラム「いきいき暮らせるからだをつくろう」10月14日，さつきが丘団地。

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本母性看護学会，日本母性衛生学会，日本保健科学学会，日本看護管理学会，日本専門看護師協議会。

2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・日本母性看護学会，第25回日本母性看護学会学術集会実行委員，2023年4月1日～5月31日。
- ・日本母性看護学会，TSUMUGU会実行委員，2023年9月～現在に至る。

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日時、場所）

- ・第7回TSUMUGU会，日本母性看護学会高度実践看護推進委員会主催，テーマ「計画無痛分娩～A病院における実態から～」講師，対象：母性看護専門看護師，病院管理職等，開催日：2023年10月1日，Zoomオンライン開催。

7 その他

- ・放送大学，オンライン教育補助者（特定行為研修演習指導支援者），2023年4月1日～2024年3月31日。

V 管理・運営記録

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科運営会議，学生進路支援委員会，看護学科3年生担任。

3 対外広報活動＜新聞・ホームページでの活動・TV出演、ラジオ出演等＞

- ・ホームページ：千葉県立保健医療大学育成支援看護学領域母性看護学・助産学。（<http://square.umin.ac.jp/cpuhs-mm/>）。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動に関しては、各学生の事前学習の状況及び学習到達度を確認しながら、授業や臨地実習中に、学生が対象者を地域で生活する生活者であるという視点を持って、アセスメントやケアの立案、実践できるよう指導をすることができた。研究活動については、育児の協働に関する研究を継続して進めることはできたが、まだ成果をまとめることには至っていないため、次年度以降の課題とする。昨年度取り組んだ無痛分娩に関する研究成果については、学会誌に投稿することができた。社会貢献については、所属する看護系学会学術集会において運営委員として携わり、無事に学術集会を開催することができた。また、ほい大プログラムへの参加を通じて、地域住民の健康意識向上に向けた働きかけを行うことができた。

助教 松浦 めぐみ 修士（看護学）

対象期間：2023年4月1日～2024年3月31日まで

I 年度当初の目標

学科内委員会活動では、昨年から引き続き学科教務委員会と、新たに総務・企画委員会の担当となり、新しい業務も増えるため、他教員と協力しながら計画的に実施し貢献していく。

教育活動においては、特に臨地実習において学生の学習目標が達成できるよう準備を進めるとともに、学生意欲を促進できるように働きかけていきたい。研究活動においては、論文投稿1本を目標とする。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
 - ・地域看護学概論.
 - ・地域看護学方法論Ⅲ.
 - ・地域看護学実習.
 - ・総合実習.
 - ・看護学入門実習.
 - ・体験ゼミナール.
 - ・看護学統合.

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・松浦めぐみ，石丸美奈，鈴木悟子，岩瀬靖子：在宅で生活する青年期にある医療的ケア者の日常生活の自立に向けた意思決定の経験. 千葉看護学会会誌，29（2），21-32，2024.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・学長裁量研究，新型コロナウイルス感染症流行前後における健康診査結果からみた健康状態の変化，研究分担者

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等（活動名称，活動期間，場所等）

- 1) 千葉県内
 - ・ほい大健康プログラム，2023年10月28日，いすみ市

5 学会，学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
 - ・日本地域看護学会，千葉看護学会，文化看護学会
- 2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）
 - ・第15回文化看護学会学術集会，事務局・企画委員・実行委員，2022年4月～2024年4月.

V 管理・運営記録

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称 活動期間は特に記載のない限り年度内）

・看護学科教務委員会 看護学科総務・企画委員会 看護学科1年生担任

VI 評価（成果および改善すべき事項）

学科内委員会活動では、当初の目標通り、委員としての役割を計画通り他教員とともに実施できた。

教育活動においては、前年度の経験を踏まえ、学生の学習意欲を高めるために学習目標を学生と一緒に確認しながら、達成に向けて伴走的な関わりをすることができた。また、自身の教育活動について、領域内で上席教員から指導を受ける機会をいただき、振り返りの機会も持てたことで、自身の課題を明確にすることができたため、次年度に活かしていきたい。

研究活動においては、目標としていた論文1本の投稿を完了することができた。加えて、学長裁量研究の分担者として研究に参画することになった。

VII 次年度の目標

教育活動では、特に臨地実習において、これまで同様に学生の学習意欲を高めていけるように活動していくとともに、学生及び実習地の双方にとって効果的な実習となるように、実習地との対話を含め連携強化に努める。

研究活動では、学内で現在取り組んでいる研究成果のまとめ及び公表に向けて積極的に参加し、研究チームに貢献する。

助教 東辻 朝彦 博士（看護学）

対象期間：2023年4月1日～2024年3月31日まで

I 年度当初の目標

令和5年度は、特に教育活動において演習を滞りなく実施することや実習先と連携を図り、学生の学習環境を整えることを行う。また、大学運営においては所属する委員会において、職員と連携を図り活動を遂行する。研究においては、論文1件の公表を目指す。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
 - ・体験ゼミナール。
 - ・高齢者・在宅看護学方法論Ⅰ。
 - ・高齢者看護学方法論Ⅱ。
 - ・高齢者看護学実習。
 - ・総合実習（高齢者）。

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・Asahiko Higashitsuji, Yasutomo Tomioka, Tomoaki Tanabe, Nobuko Ami, Imun Tei: Intravenous acetaminophen reduces the length of intubation and rescue analgesics in intensive care unit patients after cardiovascular surgery in Japan: A retrospective analysis, Journal of Opioid Management, 19, 4, 291-299, 2023.

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・Asahiko Higashitsuji, Tomoko Otuka, Kentaro Watanabe: Effectiveness of ChatGPT in case-based learning conducted for nursing students, 27th East Asian Forum of Nursing Scholars, March 6-7, 2024, Hong Kong.
- ・東辻朝彦, 大塚朋子, 渡辺健太郎: ChatGPT は看護学生の授業に用いる事例作成にかかるとの教員の時間を削減し、負担感を軽減する, 第43回日本看護科学学会学術集会, 2023年12月9-10日, 山口県。
- ・東辻朝彦, 金城芽里, 眞嶋朋子: 心不全基本的緩和ケア看護実践モデルは患者の終末期意思決定を促進し、看護師の終末期ケアへの肯定感を改善する, 第20回日本循環器看護学会学術集会, 2023年9月16日, オンライン。

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・学術研究助成基金助成金 令和5（2023）年度科学研究費助成事業 研究活動スタート支援，人工知能による心不全患者の歩行姿勢解析を用いた看護師向け心機能評価ツールの開発，研究代表者。
- ・学術研究助成基金助成金 基盤研究(C)，心不全 Advance Care Planning 外来の有効性の検討，研究分担者。
- ・学長裁量研究，高齢者が使用する電子健康記録における中断者予測モデルの構築—特徴量特定の調査に向けた信頼性と可用性の検証—，研究代表者。
- ・学長裁量研究，看護学生の事例を用いた学習における ChatGPT の有用性と効果，研究分担者。

6 受賞・特許

- ・第20回日本循環器看護学会学術集会 優秀演題賞，心不全基本的緩和ケア看護実践モデルは患者の終末期意思決定を促進し、看護師の終末期ケアへの肯定感を改善する，一般社団法人 日本循環器看護学会。

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等（活動名称、活動期間、場所等）

1) 千葉県内

- ・ほい大健康プログラム（UR 団地 第3回、看護学科プログラム「いきいき生活を続けるために」. 令和5年12月2日、UR さつきが丘団地).

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・看護理工学会. 日本集中治療医学会. 日本医療マネジメント学会. 日本看護科学学会. 日本クリティカルケア看護学会. 日本循環器看護学会.

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日時、場所）

- ・看護師のための心不全緩和ケア教育プログラム, 心不全緩和ケア教育プログラム研究会, 看護師, 2023年7月30日, オンライン.
- ・看護師のための心不全緩和ケア教育プログラム, 心不全緩和ケア教育プログラム研究会, 看護師, 2023年8月27日, オンライン.
- ・看護師のための心不全緩和ケア教育プログラム, 心不全緩和ケア教育プログラム研究会, 看護師, 2023年11月26日, オンライン.
- ・在宅に役立つ心不全セミナー(基本編), 千葉医師研修支援ネットワーク, 看護師, 2023年12月3日, 千葉大学病院
- ・看護師のための心不全緩和ケア教育プログラム, 心不全緩和ケア教育プログラム研究会, 看護師, 2024年1月28日, オンライン.
- ・看護教育学における ChatGPT の有用性, 宮崎大学医学部看護学科統合臨床看護科学講座, 看護学科教員, 2024年2月8日, 宮崎大学医学部看護学科 (オンライン).

V 管理・運営記録

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科教務委員会. 看護学科総務・企画委員会.

3 対外広報活動＜新聞・ホームページでの活動・TV出演、ラジオ出演等＞

- ・日本循環器看護学会「ニューズレター＝研究編＝」, 一般看護師のための心不全緩和ケア看護実践モデル開発の道のり.

VI 評価（成果および改善すべき事項）

成果は当初の予定通り、教育業務、大学運営、研究業務を遂行できたことである。改善すべき事項は、学会発表と比較して論文発表数が少なかったことであり、来年度は論文発表数を増やすことが課題である。

VII 次年度の目標

R6年度の教育活動においては、臨床現場で即戦力となる看護師を育成するため、実習内容を見直し、現場の最新の要求に応じた実践的なトレーニングを組み入れる。大学運営については、デジタル化を進め、オンラインでの業務および学習支援を充実させる。研究については、論文発表1件、投稿2件を目標とする。

助教 仁井田 友紀 修士（看護学）

対象期間：2023年4月1日～2024年3月31日まで

I 年度当初の目標

令和5年度は、採用年度である。教育活動では、本学の教育の概要を把握しながら、講義・演習の支援を行い、授業運営の実施および支援を行う。研究活動では、修士論文の原著化に取り組み、自己の研究課題を明確化する。大学運営管理では、委員会の活動目的を理解し、学生進路支援委員会のメンバーとしての役割を果たす。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
 - ・体験ゼミナール。
 - ・看護学原論。
 - ・看護技術論Ⅰ（生活援助技術）。
 - ・看護技術論Ⅱ（フィジカルアセスメント技術）。
 - ・看護技術論Ⅲ（検査治療技術）。
 - ・看護技術論Ⅳ（看護過程展開技術）。
 - ・看護技術論Ⅴ（統合技術演習）。
 - ・日常生活調整方法論。
 - ・基礎看護学実習。
 - ・総合実習。
 - ・看護学統合。

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等（活動名称、活動期間、場所等）

- 1) 千葉県内
 - ・ほい大健康プログラム（UR 団地 第1回 総括、看護学科プログラム「いきいき暮らせるからだをつくろう」。令和5年10月14日、UR さつしが丘団地）

5 学会、学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
 - ・千葉看護学会。ナイチンゲール研究学会。
- 2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）
 - ・千葉看護学会。第29回学術集会実行委員。2023年7月～9月

V 管理・運営記録

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科運営会議。看護学科学生・進路支援委員会。看護学科1年生担任。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動では、担当教員の指示を仰ぎながら準備・運営補助を行なった。領域内の欠員、自身も採用年度であるため、上席教員に領域運営の状況を確認し、助教および非常勤任用の教員と協働して領域内の業務に従事した。大学運営活動においては、本学の特徴や組織運営への理解を深めながら、委員会活動に従事した。研究活動については修士論文の原著化に取り組んでいるが、停滞しているため課題である。

VII 次年度の目標

引き続き、講義・実習の円滑な運営がなされるよう担当教員の指導のもと準備・運営補助に努める。研究活動においては、研究課題の明確化、研究計画の作成を行う。

营养学科

教授（兼） 学科長 平岡 真実 博士（保健学）

対象期間：2023年4月1日～2024年3月31日まで

I 年度当初の目標

教育においては、学生の自主的な学びに繋がるような授業展開の工夫をする。質の高い講義、実習のために常にブラッシュアップを行い、最新の情報を取り入れた内容で学生の知的好奇心を引き出すよう心がける。研究では、新たに科研費基盤C研究が3年計画でスタートする。研究代表者として計画遂行、さらに期間延長した研究課題の総括にむけて、研究時間を増やすことを心掛け、研究成果の発表を必須とする。大学運営では学科長として学科運営を滞りなく進める。また委員会業務に積極的に取り組み、所掌事項を円滑に遂行するよう努める。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・応用栄養学Ⅰ.
- ・応用栄養学Ⅱ.
- ・応用栄養学Ⅲ.
- ・応用栄養学実習.
- ・スポーツ栄養学.
- ・千葉県の健康づくり.
- ・栄養統計学.
- ・卒業研究.
- ・管理栄養士特別演習.
- ・総合演習.

2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名、大学名）

- ・病態栄養学（お茶の水女子大学）.

III 研究記録

3 発表（発表者：発表タイトル、主催学会（学会名称）、開催日、場所等、本人下線）

- ・平岡真実, 坂本香織, 庄司久美子, 百合本真弓, 金胎芳子, 影山光代, 香川靖雄: 葉酸個別化栄養における遺伝子多型告知一長期効果の検討, 第77回日本栄養・食糧学会大会, 2023年5月14日, 札幌コンベンションセンター.
- ・平岡真実, 坂本香織, 庄司久美子: 葉酸代謝から見た個別化栄養と疾患の予防, 第473回ビタミンB研究協議会, 2023年11月10日, 京都大学楽友会館.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名、研究テーマ、研究代表者／研究分担者）

- ・科学研究費補助金基盤研究（C）（一般）、葉酸関連遺伝子多型別栄養介入による健康づくり支援の有効性：開始15年目の追跡調査、研究代表者.
- ・科学研究費補助金基盤研究（C）（一般）、葉酸関連遺伝子多型別栄養介入による健康づくり支援：生活習慣病関連指標改善に有効か、研究代表者.

IV 社会貢献・国際交流記録

3 審議会、委員会、国家試験委員等の実績（活動団体名称、委員名称、活動期間）

- ・独立行政法人国立病院機構千葉医療センター、倫理委員会、委員、令和5年4月1日から令和6年3月31日。

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本ビタミン学会、日本臨床化学会、日本栄養・食糧学会、日本分子生物学会、日本栄養改善学会、日本公衆衛生学会。

2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・日本ビタミン学会代議員、2015年11月～現在に至る。
- ・日本ビタミン学会トピックス等委員会委員、2018年6月～現在に至る。
- ・日本栄養改善学会評議員、2022年11月～現在に至る。
- ・日本ビタミン学会幹事、2023年6月～現在に至る。
- ・JNSV 編集委員、2024年1月～現在に至る。

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日時、場所）

- ・令和5年度食に関する健康課題対策支援事業の全体研修、千葉県教育振興部保健体育課、個別的な相談指導の実践についての講評、最新の栄養学についての講義、千葉県内栄養教諭、各市町村教育委員会担当者、令和5年12月7日、青葉の森公園芸術文化ホール。
- ・坂戸市葉酸プロジェクト 食と健康のプランニングセミナー 栄養士研修会、坂戸市、葉酸プロジェクトの取組状況について他、地域活動栄養士他 葉酸プロジェクト協力者、2024年3月21日、坂戸市立市民健康センター。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・自己点検・評価委員会、将来構想検討委員会、人事委員会、IR 部会、特色科目運営会、千葉県の健康づくり作業部会、共通教育運営会議、大学運営会議。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・栄養学科運営会議。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動では、管理栄養士だけでなく他の専門職について講義内で触れる機会を増やした。最新の情報を提示しながら学生の知的好奇心をくすぐる内容を組み込むことができた。また実習報告会や卒業研究報告会、栄養教諭の実践活動報告などの講評をする機会を通じて、管理栄養士養成教育の意義、内容を改めて認識することで教育力向上につながった。学生の課題へのフィードバックが不十分であり改善の余地がある。学会発表での研究成果発信はできたが、原著論文発表が遅れている。科研費は期間延長最終年度が1課題あり報告書作成している。新規獲得した1課題は計画にしたがって遂行している。社会貢献では学会での委員等が増え、積極的に関与した。大学管理運営活動は、学科長として学内会議、委員会活動、学科の運営に取組み、役割を果たすよう努めた。

VII 次年度の目標

教育活動では、学生との対話の機会を増やして、一方通行の講義ではなく自主的な学びに繋がるような授業展開の工夫をする。質の高い講義、実習のために常にブラッシュアップを行い、最新の情報を取り入れた内容で学生の知的好奇心を引き出すよう心がける。研究活動は、科研費基盤C研究課題の研究代表者として2年目の計画を遂行するため、研究時間を増やすよう工夫し、研究成果の発表を必須とする。大学運営では学科長として学科をとりまとめ運営を滞りなく進める。委員会業務に積極的に取り組み、所掌事項を円滑に遂行するよう努める。

教授（兼） 学生部長 細山田 康恵 博士（医学）

対象期間：2023年4月1日～2024年3月31日まで

I 年度当初の目標

コロナポストで学生教育を対面で実施し、学生の理解度を確認しながら講義を進めるように心がける。実験では、講義で修得した内容を実際に確認し、課題解決能力を高めるために、自己主導型学習を促すように指導する。研究においては、学内・学外の方と協力して進め、研究成果を論文として報告できるようにする。大学運営では業務に積極的に取り組めるようにする。社会貢献では、これまでの問題点を踏まえ、活動するようにする。学生委員会と進路支援委員会では委員長として、委員の先生方と協力し、学生生活が充実できるような支援を心がける。また、学生部長として、学生会・同窓会・後援会の活動が円滑に進むように務める。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・生化学総論.
- ・生化学.
- ・栄養生化学.
- ・臨床検査学.
- ・生化学実験.
- ・解剖生理学 I.
- ・解剖学実験.
- ・栄養統計学.
- ・管理栄養士特別演習.
- ・卒業研究.
- ・総合演習.
- ・専門職間の連携活動論.

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年. 本人下線）

- ・山田正子，樋口誉誌子，岩本直樹，細山田康恵：塩鮭の塩分名用表示別塩分濃度の実態調査，日本食生活学会誌，34-2，103-108，2023.
- ・金澤匠，細山田康恵：ラットの性周期による卵巣ホルモンの変動が肝オートファジーに及ぼす影響，千葉県立保健医療大学紀要，15-1，53，2024.
- ・大川由一，細山田康恵，鈴鹿祐子，大内美穂子，室井大佑，松尾真輔，佐久間貴士，細谷紀子，佐伯恭子，成玉恵，栗田和紀，松浦めぐみ，峰村貴央，酒巻裕之，岡村太郎，成田悠哉，江戸優裕：介護予防のための生活習慣継続をめざした多職種連携プログラム（新・ほい大健康プログラム）の評価，千葉県立保健医療大学紀要，15-1，62，2024.

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等. 本人下線）

- ・細山田康恵，金澤匠，樋口誉誌子，山田正子：エゴマ油とクルクミンを摂取したラットの酸化ストレスと行動に及ぼす影響，第77回日本栄養・食糧学会大会，2023年5月14日，札幌.
- ・細山田康恵，金澤匠，樋口誉誌子，山田正子：高脂肪食摂取時にカテキンを添加したラットにおけるアディポサイトカインへの影響，第70回日本栄養改善学会学術総会，2023年9月2日，名古屋.

- ・金澤匠, 細山田康恵: 卵巣摘出ラットにおける肝オートファジー抑制と血中調節因の変動の関連性, 第70回日本栄養改善学会学術総会, 2023年9月2日, 名古屋.
- ・樋口誉誌子, 岩本直樹, 細山田康恵, 山田正子, 瀬戸美江: 顆粒だしおよび調味料水溶液の加熱による鉄玉からの鉄溶出量, 日本調理科学会, 2023年9月9日, 広島.
- ・樋口誉誌子, 岩本直樹, 今村杏優花, 白鳥愛衣, 吉川夏野, 細山田康恵, 山田正子, 瀬戸美江: 鉄玉を用いて調理した料理の鉄量, 日本給食経営管理学会学術集会, 2023年11月12日, 東京.
- ・川崎優人, 細山田康恵, 宮木貴之, Juan Alejandro Oliva Trejo, 山口隼司, 角田宗一郎, 坂井建雄, 市村浩一郎: ポリウムSEMによる糸球体内皮細胞の3Dの超微形態解析, 第129回日本解剖学会総会・全国学術集会, 2024年3月22日, 沖縄.

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・学内共同研究. カテキン摂取による2型糖尿病ラットの血中アディポサイトカインと腎組織への影響. 研究代表者.
- ・学内共同研究. 前茶の浸出液及び粉末茶溶液の成分含有量の比較. 研究分担者.

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等 (活動名称, 活動期間, 場所等)

- 1) 千葉県内
 - ・ちば食育応援隊「ベイタウンまつり」, 2023年5月20日. 幕張ベイタウン.

5 学会, 学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
 - ・日本栄養食糧学会, 日本栄養改善学会, 日本脂質栄養学会, 日本解剖学会, 日本生化学会, 日本補完代替医療学会.
- 2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)
 - ・日本栄養改善学会. 評議員, 2003年4月から現在に至る.

V 管理・運営記録

1 全学委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・教授会, 大学運営会議, 学生委員会, 進路支援委員会, 危機管理委員会, 将来構想検討委員会, FD・SD委員会, 資格審査委員会, 自己点検・評価委員会, キャンパスハラスメント防止対策委員会, 動物倫理審査部会.

2 学科/専攻内委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・栄養学科運営会議, 栄養学科教授会.

VI 評価 (成果および改善すべき事項)

通常の対面授業に戻り, 学生教育に力を注ぐことができた. 講義では理解度が高まるように資料を作成し, 実験のレポート課題には, コメントを入れて返却し学習意欲の向上につなげた. 研究においては, 学内共同研究「カテキン摂取による2型糖尿病ラットの血中アディポサイトカインと腎組織への影響」について, 論文として投稿する準備を整えることができた. 学会発表は, 他大学との共同を含め, 6報を発表できた. 学外との共同研究も, 継続して研究を進めるように心がけた. 大学運営では他学科と協力し, すべての業務に積極的に取り組めた. 学生委員会の委員長として, 学生会の役員と連携体制をとり, いずみ祭に取る組むことができた. いずみ祭は, 台風やコロナ禍で開催できない期間が長かったため, 不安も多かった. 今年度の準備不足や情報共有の仕方などの反省点を次年度に繋げて, いずみ祭を盛り上げていけるようにサポートしたい. 学生委員会として「発達障害と合理的配慮の学生への対応」についてのFD, 進路支援委員会として「医療系大学における教職員の進路支援」についてのFDを開催することができた. アンケート結果からは, 各々の内容で好評であった. 講演後の質疑も多く関心度が高かったことが伺えた. 学生部長として, 後援会の方の活動が円滑に進むように調整を行った. 今後も継続して, 連携体制がとれるようにしていきたい.

VII 次年度の目標

学生教育において、学生の理解度を考慮しながら講義を進めるように心がける。実験では、講義で修得した内容を実際に確認し、課題解決能力を身につけ、自己主導型学習を促すように指導する。研究においては、学内・学外の方と協力して進められるように時間の確保に努め、研究成果を論文として報告できるようにする。大学運営では業務に積極的に取り組み、より良い大学になるように務める。学生委員会と進路支援委員会では委員長として、委員の先生方と協力し、学生生活が快適に送れるよう、充実した支援を心がける。また、学生部長として、学生会・同窓会・後援会活動がスムーズにできるよう、密にコミュニケーションをとりながら進めていく。

教授 井上 裕光 修士 (教育学)

対象期間：2023年4月1日～2024年3月31日まで

I 年度当初の目標

在職の最終年度となる。令和五年度は、教育の質をさらに向上させ、研究活動も再開する。

五類移行後は、対面授業・遠隔環境を活かして、個別の指導も行うようにする。

学内情報システムの新システム更改へは、できるだけ情報提供・資料提供を行い、各システム間の調整やチューニングが必要な箇所の洗い出し、安全な情報端末の廃棄作業を手伝う。運用については、Sinet6の運用がこれまで以上に円滑にいくように配慮しながら調整する。同時に、利用拡大で回線混雑が目立ってきたため、学内インターネット回線の外部接続（DCまでの回線）の増強、学内無線LANの増強を行う。安定した運用のためにトラフィックを解析し、安定運用の方法も検討する。

さらに、新システム運用を安全に行うための体制づくり（「次期情報システムWG」顧問）を行い、管理者の育成など、機動的に対応できる体制を目指す。また、十分な新入生・新教員向けのガイダンスと、学生向けの学内システム（新機能）紹介を行う。とくに、新しいシステムであるため、理解不足からの情報漏洩事故等に最大限配慮する。

現在のセキュリティレベルを、サインイン時の多要素認証導入、マイクロソフト新機能（AI：Copilot）、新クラウドアプリシステム Teams の移行のため、WindowsUpdate について、学内サポートバージョンの統一を行い、その工程策定、および Apex_one の最適化を行う。あわせて、更改後のセキュリティシステム構築も目指す。

教職課程に関しては、人材確保が難しくなることもあるため、教職課程継続のため非常勤講師も想定する。しかし、システムに関わる授業科目については、システム管理者を返上するため、授業担当が困難である。できるだけ引継ぎできる状態を考えたい。

システムについての更改スケジュール等については、できるだけ気が付いたことは事務局にも共有し、また学内の新しいシステム管理の在り方にもアドバイスしていく。また、潜在的な危機に関してはシステム運営会社を伴ってできるだけ手を打つつもりである。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・体験ゼミナール。
- ・統計学。
- ・情報リテラシーⅠ。
- ・情報リテラシーⅡ。
- ・教育の方法と技術。
- ・実践統計学。
- ・事前指導。
- ・総合演習。

2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名・大学名）

- ・実践統計学（日本女子大学 学部）。
- ・教育評価の方法と技術（心理的アセスメント）（上越教育大学 学部・大学院）。

III 研究記録

1 著書（著者本人下線：著書，発行年，発行所，発行場所）

- ・井上裕光：保健情報統計学，2024，医歯薬出版，東京。

IV 社会貢献・国際交流記録

3 審議会、委員会、国家試験委員等の実績（活動団体名称、委員名称、活動期間）

- ・ISO/TC34 国内審議会団体事務局(FAMIC 国際課)、ISO/TC34/SC12 国内対策委員、2004～現在に至る。

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本心理学会、日本教育心理学会、日本教育工学会、日本発達心理学会、日本パーソナリティ学会、日本官能評価学会。

2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・日本官能評価学会、常任理事（企画）、1996～現在に至る、学会大会司会1件
- ・日本官能評価学会、査読2件、2023-2024。
- ・（一財）日本科学技術連盟、1998年より官能評価セミナー委員長、現在に至る。
官能評価セミナー4件、ベーシックコース感性官能評価担当、セミナー2件

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日時、場所）

- ・千葉市立青葉看護専門学校 教員向け学習会、「情報リテラシーをどう指導するか」（倫理面の指導）、2024年3月26日
市立青葉看護専門学校

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・教授会、広報委員会、入試改革検討委員会、入試実施委員会、共通教育運営会議、次期情報システムWG。
- ・学内情報システムガイダンス・学生支援課サポート、学内情報システム・企画運営課サポート、学内ネットワーク運営保守、教員サポート、学生サポート、情報ネットワーク・ゼミ用PC運用、図書館システム運用サポート、レセコン設置運用サポート。
- ・システム更改計画作成、性能評価票作成、DCでの運用管理・物品管理。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育の質の向上について、対面授業への復帰を行った。自習用教材の追加、動画教材作成により、感染で欠席した学生へのフォロー動画配信も行った。また、必要な教材の配布等も予定通りに行うことができた。同時に、Teamsの仕様変更に伴う情報提供・学内教員へのQ&A提供・フォローアップなど、できることはやった。初学者教育対策として、レポート作成スキルアップについて引き続き行い、新入生へのスキル向上を行った。また、応用編としての実践統計学も9月に集中講義で用意したが受講生はゼロであった。

研究する時間は確保できなかった。

官能評価の普及活動については、普及活動用の資料を見直し、また、遠隔での紹介を行うなどさらに間口を広げることを試みた。

学内情報ネットワークシステムについては、新システムではクラウド活用（安定利用）を図り、データセンター（DC）利用とSinet6への移行とを順調に行えた。しかし、配布PCの不良が多く、予備機の確保ができず、新年度のぎりぎりのチューニングが必要になり、事務局の協力のもとで連日の調整が続いてしまった。年2回の学内情報端末Updateについては、Windows10の年2回のシステム更新の影響もあり、サーバー容量が想定を超え、データベースを破損するなど、一時的にWindows Updateを停止する調整に追われた。学内情報システム端末更新作業も、予定通りには進まず、学年末で終わらなかった。

大学ホームページ運用・SNS運用については、事務局の協力を得て、実務処理を事務局でお願いし、広報委員会メンバーとしてサポートに回った。

対面授業が再開されても、ハイブリッド環境での授業が展開され続けている。このままでは回線状態がパンクするため、

事務局の協力を得て、DC への経路のインターネット回線を増強するための予算請求を行い、システムの性能向上を目指した。しかし、本庁側の対応が遅く、また、事務局への SE 経験者配置が遅れ、10 月以降で開始した引継ぎは直前までぎりぎりの進行になった。

このほか、歯科診療室のクレジットカード対応、教職課程演習室の学校想定環境構築（タブレットで無線 LAN により情報共有できる学習環境）など、現在の情報社会下で現実に対応できる環境構築へ資料を残した。

VII 次年度の目標

システムについての更改スケジュール等については、できるだけ気が付いたことは事務局担当者にも共有し、また学内の新しいシステム管理の在り方にもアドバイスしていく。また、潜在的な危機に関してはできるだけ手を打つ。

教職課程へは非常勤講師として在籍し、次の文部科学省視察までには、教職課程カリキュラム改正を手助けする。

教授 菊池 裕 博士 (薬学)

対象期間：2023年4月1日～2024年3月31日まで

I 年度当初の目標

最新の科学の動向を担当する授業及び演習・実験・実習に取り入れると共に、学生の要望や社会の動向に即した内容を提供できるように努力する。

食品行政に即した研究課題を立案して学外競争的研究費の獲得を試み、学内研究環境の更新を図りたい。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・食品学総論.
- ・理化学概論.
- ・食品衛生学.
- ・食品加工学.
- ・食品微生物学.
- ・栄養統計学.
- ・総合演習.
- ・管理栄養士特別演習.
- ・食品化学実験.
- ・食品衛生学実験.
- ・食品加工学実習.

2) 他大学, 大学院等の非常勤講師 (科目名, 大学名)

- ・レギュラトリーサイエンス概論 (星薬科大学).

III 研究記録

2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・Kikuchi Y, Muroi M, Nakagawa Y, Ebisawa A, Hayashi M, Takeuchi H, Kiwamoto Y, Matsumura K, Yoshimoto R, Tsuzuki N, Oikawa N, Hashimoto M, Hiramatsu Y, Fukami M, Kobayashi K, Sanda N, Eto S, Mori M, Martinez O, Suzuki M, Sekiguchi S, Ouchi K, Fukuchi H, Kitagawa T, Kizawa M, Masuda T, Oda T, Mizumura H, Ogura N, Iida D, Sueoka K, Tanno Y, Tsuchiya M: Collaborative Study of Bacterial Endotoxins Test Using Recombinant Factor C-Based Procedure for Detection of Lipopolysaccharides (Part 3). *Pharmaceutical and Medical Device Regulatory Science* **54**, 341-351. 2023. doi.org/10.51018/pmdrs.54.4_341.

3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等, 本人下線)

- ・菊池裕：シンポジウムを統括して、第39回GMPとバリデーションをめぐる諸問題に関するシンポジウム—微生物関連試験法、微生物管理等の最新情報を踏まえて—、日本防菌防黴学会, 2024年3月5日, 東京.
- ・田村友峰子, 工藤美奈子, 菊池裕：配食弁当の保存方法・時間の違いによる一般細菌数からみる安全性, 第18回日本給食経営管理学会学術総会, 日本給食経営管理学会, 2023年11月12日, 東京.
- ・林克彦, 大屋賢司, 菊池裕, 工藤由起子：単球活性化試験(MAT)の陽性対照の発熱性物質試料の調製法の検討, 第67回日本薬学会 関東支部大会, 日本薬学会, 2023年9月16日, 東京.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名、研究テーマ、研究代表者／研究分担者）

- ・令和5年度共同研究、加熱による液相中のエンドトキシン活性の変動の評価、菊池裕、水村光、小倉紀彦、竹下侃樹。
- ・令和5年度学内共同研究、HACCPシステムに用いる微生物管理手法の実証実験に関する研究2、菊池裕、工藤美奈子、生魚薫、一條知昭、石岡憲昭、山崎丘。

IV 社会貢献・国際交流記録

3 審議会、委員会、国家試験委員等の実績（活動団体名称、委員名称、活動期間）

- ・独立行政法人医薬品医療機器総合機構 日本薬局方原案検討委員会 総合委員会、2023年4月1日～2024年3月31日。
- ・独立行政法人医薬品医療機器総合機構 日本薬局方原案検討委員会 国際調和検討委員会、2023年4月1日～2024年3月31日。
- ・独立行政法人医薬品医療機器総合機構 日本薬局方原案検討委員会 生物試験法委員会、2023年4月1日～2024年3月31日。
- ・独立行政法人医薬品医療機器総合機構 日本薬局方原案検討委員会 専門委員、2023年4月1日～2024年3月31日。
- ・一般財団法人医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団 生物薬品標準品評価委員会、2023年4月1日～2024年3月31日。

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本薬学会、日本生化学会、日本マイコプラズマ学会、日本防菌防黴学会。

2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・日本薬学会微生物試験専門委員、2023年4月1日～2024年3月31日。
- ・日本防菌防黴学会 GMP とバリデーションをめぐる諸問題に関するシンポジウム企画・運営委員、2023年4月1日～2024年3月31日。

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日時、場所）

- ・菊池裕：組換えC因子及び組換えカスケード試薬を用いたエンドトキシン試験法の評価と三極薬局方の動向、富士フィルム和光純薬株式会社、第23回エンドトキシン試験法セミナー～エンドトキシン試験法の最近の動向～、2024年2月16日、東京。
- ・菊池裕：組換えC因子及び組換えカスケード試薬を用いたエンドトキシン試験法の評価と三極薬局方の動向、富士フィルム和光純薬株式会社、第23回エンドトキシン試験法セミナー～エンドトキシン試験法の最近の動向～、2024年2月2日、大阪。
- ・菊池裕：千葉県学校給食センター研究会 第一地区研究会「令和5年度所長・栄養士合同研究会」2024年1月19日、酒々井町中央公民館研修室、千葉県。
- ・Kikuchi, Yutaka: The future of bacterial endotoxins test using recombinant factor C and recombinant cascade reagents, Lonza, 2023 Global Endotoxin Testing Summit-Virtual seminar series, 2023年9月12日, Singapore.

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・入試改革検討委員会、FD・SD委員会、危機管理委員会、認証評価部会。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが5類感染症に移行し、担当した講義及び演習・実験・実習はすべて対面で実施することができ、コロナ禍以前の状態に戻すことができた。実験・実習の経験がない新入生がほとんどで、手技の

説明に戸惑う場面が多かったが、説明方法を工夫するなどして完遂することができた。

学内共同研究費に加えて、新たな研究班を学外の共同研究者と編成して外部資金による共同研究費を獲得した。

VII 次年度の目標

令和6年度は、これまでの講義及び演習・実験・実習を踏襲すると共に、新たな知見を加えた学生の教育を遂行する。教育内容及び方法の改革としては、科学的な知見に基づいて管理栄養士に必要な新たな方法を取り入れる。学習支援としては、学生の視線から講義、実験及び実習を捉える。

食品行政等に即した研究課題を立案して競争的研究費の獲得を試み、学内研究環境の更新を図りたい。

教授 加瀬 政彦 博士 (医学)

対象期間：2023年4月1日～2024年3月31日まで

I 年度当初の目標

令和5年度は、本学に赴任2年目になるので、特に本学における様々な業務をより広く深い領域で実行することを目標にした。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・解剖生理学 I.
- ・解剖生理学 II.
- ・解剖学.
- ・疾病論.
- ・生理学実験.
- ・解剖学実験.
- ・総合演習.
- ・栄養統計学.
- ・卒業研究.

IV 社会貢献・国際交流記録

3 審議会、委員会、国家試験委員等の実績 (活動団体名称、委員名称、活動期間)

- ・千葉県管理栄養士採用試験試験問題作成委員.

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本解剖学会. 日本神経科学会.

6 講演会 (公開講座を含む) / 研修会の講師・研究指導等 (会名称、主催 団体名称、講演テーマ等、対象、開催日時、場所)

- ・令和5年度公開講座 講師 千葉県立保健医療大学社会貢献委員会 「脳から考える心と身体の健康」 2023/10/8 大講義室.

V 管理・運営記録

1 全学委員会 (委員会名 / 活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・研究倫理審査委員会. 研究倫理審査委員会動物部会. 共通教育運営会議. FD/SD 委員会. 学術推進企画委員会. 学内共同研究審査部会. 紀要編集部会. 教員資格審査委員会.

VI 評価（成果および改善すべき事項）

赴任3年目である令和5年度に本学の様々な業務、特に教育と大学運営業務により円滑に実行することを目標にしたが、これらはある程度達成できた。教育では授業を円滑に行うことができた。委員会活動では研究倫理審査委員会委員長としての活動、FD/SD委員会では研究倫理に関するFDを開催できた。また公開講座の講師を務めることができた。今後も一層努力していきたい。研究面については卒業研究の指導はできたが、さらに独自の研究ができるようにしたい。

VII 次年度の目標

令和6年度はさらに高いレベルで本学の各業務の遂行ができるようにする。

教授 谷内 洋子 博士 (学術)

対象期間：2023年4月1日～2024年3月31日まで

I 年度当初の目標

令和5年度の授業実施は、全面的に対面授業の実施となることが想定されるが、コロナ禍では困難なことも多かった授業内での学生間の交流の支援を通じて、学生のコミュニケーション能力の向上や専門職としての資質の底上げ、エビデンスに基づいた治療を展開する責務を担う管理栄養士としての自覚の育成にも尽力する。学生の学びがより一層深いものとするとともに、学生と教員、学生と学生の関わりをつなぎ、県民はじめ自分以外の他者、国民全体の健康づくりに貢献できる人材輩出に力を尽くしたい。

また、近年増えてきた保健医療専門職を対象とした研修会講師や学術集会でのシンポジスト活動を通じて、管理栄養士を含む保健医療専門職への啓蒙活動を行うとともに、自身の研究活動の円滑な推進に取り組み、日本人の日常生活にすぐに適用可能な科学的エビデンスの確立を通じて、国民(県民)の生活の質向上や医療費抑制に貢献したい。さらに、専門職として調査・研究を行う管理栄養士が増えている中、そのスキルに課題があることが指摘されていることから、自身のこれまでの学びや経験を踏まえた講演や演習を通じて、後進の育成に尽力することで、管理栄養士のプレゼンス向上にも努めたい。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績(科目名)

- ・臨床栄養学Ⅰ.
- ・臨床栄養学Ⅱ.
- ・総合演習.
- ・栄養統計学.
- ・管理栄養士導入教育.
- ・臨床栄養学実習.
- ・栄養ケアマネジメント論実習.
- ・栄養ケアマネジメント論.
- ・事前・事後指導(臨地実習).
- ・臨床栄養臨地実習.
- ・栄養管理臨地実習.
- ・専門職間の連携活動論.

2) 他大学、大学院等の非常勤講師(科目名、大学名)

- ・臨床栄養学。(日本女子大学)
- ・臨床栄養学実践演習。(日本女子大学)
- ・血液・内分泌・代謝内科学分野。新潟大学大学院医歯学総合研究科研究員

III 研究記録

2 学術論文・その他(著者：題名、雑誌名、巻、号、ページ、発行年、本人下線)

- ・谷内洋子：糖代謝異常妊婦における食・生活習慣の課題と多職種連携、糖尿病と妊娠、印刷中(2024.3.15.採択)。

3 発表(発表者：発表タイトル、主催学会(学会名称)、開催日、場所等、本人下線)

- ・Kodama S, Yagyuda N, Yamada T, Fujihara K, Yachi Y, Sone H. : Dose-Dependency of Prevention of Cesarean Section

and Macrosomia by Glycemic Control—A Meta-analysis, 83rd American Diabetes Association Scientific Sessions, June 20, 2023, SAN DIEGO.

- ・山田 貴穂, 柳生田 紀子, 西島 浩二, 小川 洋平, 谷内 洋子, 吉原 弘祐, 曾根 博仁: 妊娠糖尿病合併妊婦における産後糖代謝異常リスクの検討, 第39回日本糖尿病・妊娠学会年次学術集会, 2023年11月17日~2023年11月18日, 朱鷺メッセ.
- ・児玉 暁, 山田 貴穂, 柳生田 紀子, 谷内 洋子, 堀川 千嘉, 大澤 妙子, 北澤 勝, 藤原 和哉, 西島 浩二, 曾根 博仁: 血糖コントロールと妊娠合併症リスクとの量反応関係メタ回帰分析, 第39回日本糖尿病・妊娠学会年次学術集会, 2023年11月17日~2023年11月18日, 朱鷺メッセ.

4 学術集会での招待講演(教育講演や基調講演)やシンポジウム等(学術集会名, テーマ, 開催日, 場所等)

- ・第41回千葉県母性衛生学会学術集会, 「プレコンセプションケアにおける多職種連携を考える」, シンポジスト, 2023年6月3日, web開催
- ・第39回日本糖尿病・妊娠学会年次学術集会, 「科学的エビデンスを現場に。現場から科学的エビデンスを。職種横断的な糖代謝異常妊婦のケアと病診連携」, シンポジスト, 2023年11月17日~2023年11月18日, 朱鷺メッセ.

5 研究資金獲得状況(外部資金・学内共同・学長裁量)(資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C), 若年女性の「やせ」に関連する要因の解明と「やせ」予防に関するエビデンス確立, 研究代表者
- ・日本学術振興会 科学研究費助成事業基盤研究(B), 地域の全世代保健/医療ビッグデータの統合解析による健康寿命延伸エビデンスの創成, 研究分担者

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等(活動名称, 活動期間, 場所等)

2) 千葉県外

- ・食事・栄養相談, 令和5年4月~令和6年3月, 東京都大田区.

3 審議会, 委員会, 国家試験委員等の実績(活動団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・日本糖尿病・妊娠学会 糖尿病と妊娠にかかわる科学的根拠に基づく医療の推進プロジェクト ワーキングメンバー, 令和5年4月~令和6年3月
- ・日本人事試験研究センター 専門試験(栄養士/管理栄養士)試験問題作成委員, 令和5年4月~令和6年3月

4 職能団体委員等(職能団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・公益社団法人 千葉県栄養士会, 研究教育事業部 役員, 令和5年4月~令和6年3月

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本栄養改善学会, 日本臨床栄養学会, 日本臨床栄養協会, 日本疫学会, 日本病態栄養学会, 日本栄養・食糧学会, 日本糖尿病・妊娠学会, DOHaD研究会, 日本栄養士会, 千葉県栄養士会.

2) 学会, 学術団体への貢献(学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・日本疫学会, 代議員, 令和5年4月~令和6年3月.
- ・日本病態栄養学会, 評議員, 令和5年4月~令和6年3月.
- ・日本糖尿病・妊娠学会, 評議員, 令和5年4月~令和6年3月.
- ・日本糖尿病・妊娠学会, 妊娠糖尿病・糖尿病, 合併妊娠の妊娠転帰および母児の長期予後に関する登録データベース構築による多施設前向き研究 DREAMBee Study, 検討委員, 令和5年4月~令和6年3月.
- ・日本栄養改善学会, 評議員, 令和5年4月~令和6年3月.
- ・栄養学雑誌, 編集委員, 令和5年4月~令和5年10月.

- ・日本栄養・食糧学会, 参与, 令和5年4月～令和6年3月.
- ・日本栄養・食糧学会 倫理審査委員会 委員, 令和5年4月～令和6年3月.

6 講演会(公開講座を含む)／研修会の講師・研究指導等(会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日時, 場所)

- ・2023年度千葉県栄養士生涯教育研修会, 千葉県栄養士会, “調査・研究を行うにあたって文献検索の必須性を学ぶ”, 2023年6月17日, web開催
- ・2023年度印旛保健所管内栄養士会研修会, 印旛保健所管内栄養士会, “糖尿病と食事療法, 人工甘味料と糖代謝の関連性”, 2023年9月29日, 千葉県印旛合同庁舎.

V 管理・運営記録

1 全学委員会(委員会名／活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・国際交流委員会, 教務委員会, 広報委員会.

2 学科／専攻内委員会(委員会名／活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・一般選抜問題作成委員.

3 対外広報活動<新聞・ホームページでの活動・TV出演, ラジオ出演等>

- ・妊娠前からはじめる 妊産婦のための食生活指針, 妊産婦さんが気になるQ&A.

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/ninsanpu/faq.html>

VI 評価(成果および改善すべき事項)

令和5年度は全面的に対面授業が実施され, コロナ禍では困難なことも多かった授業内での学生間の交流の支援を通じて, 学生のコミュニケーション能力の向上や専門職としての資質の底上げ, エビデンスに基づいた治療を展開する責務を担う管理栄養士としての自覚の育成に取り組むことができた. さらに教科書レベルの基本的な知識に加え, 最新の研究成果や臨床現場での取り組みについて, 各学年の授業内で紹介し, 知識と実践を結びつけて理解が深まるよう工夫することができた. また, 決められた時間内に課題に取り組み発表するグループワーク演習を通して, 自ら考え, 人前で発表する力と, 周囲と協調する力を養えるように工夫をした. 学生の学びがより一層深いものとするとともに, 学生と教員, 学生と学生の関わりをつなぎ, 県民はじめ自分以外の他者, 国民全体の健康づくりに貢献できる人材輩出に力を尽くすことができたと考え. 今後とも, 高度な専門的知識を基に, 保健医療現場でリーダーシップを発揮し得る人材育成を念頭に学生指導に取り組みたい.

来年度も本学学生へのより良い教育, 指導の在り方を模索, 検討し実践するとともに, 学会役員の立場から, 県内専門職への啓蒙活動に加え, 保健医療専門職を対象とした研修会講師や学術学会のシンポジスト活動を通して, 管理栄養士を含む保健医療専門職への啓蒙活動を行う. さらに自身の研究活動の円滑な推進に取り組み, 日本人の日常生活にすぐに適用可能な科学的エビデンスの確立を通じて, 国民(県民)の生活の質向上や医療費抑制に貢献したい.

VII 次年度の目標

日々進歩が著しい臨床栄養分野の情報を取り入れながら, エビデンスに基づいた情報提供の重要性について, 授業を通して学生に教育していきたい. また一方で, 実臨床ではエビデンスだけでは食事療法を含めた治療方針は決まらず, 患者の病状や背景, 患者を取り巻く環境や患者の主観を含めて, 総合的に判断することが求められることから, 最終的に患者とともに最適な治療方針を決める姿勢や共感性についても培えるような授業展開を目指したい.

また研究活動については, 現在取り組んでいる研究課題の成果を学会発表および論文執筆を通して, 社会に還元・貢献したい. 特に, 若年女性のやせや妊産婦の妊娠中の適切な体重増加量の在り方など, 自身の研究分野をテーマとした講演依頼が増えていることから, 専門家への啓蒙活動に加えて, 一般の方への情報提供や啓蒙活動に取り組むことで, 管理栄養士のプレゼンス向上にも努めたい. また, 現職の管理栄養士向けの研修会講師の依頼も増えてきたことから, 専門職としての責任の下, 今後も研修会や市民シンポジウムなどを通じて啓蒙活動を行い, 望ましく実践可能な食生活の在り方の発信, 健康寿命の延伸を通じて, 国民(県民)の生活の質向上や医療費抑制に貢献したい.

准教授 荒井 裕介 博士（農芸化学）

対象期間：2023年4月1日～2024年3月31日まで

I 年度当初の目標

令和5年度は、教育面では、担当する領域の基礎的な知識技術の習得ができるよう、引き続き講義・実習の工夫をしながら実施する。研究面では既存の研究データの解析を予定するとともに、共同研究、外部受託業務を遂行する。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・公衆栄養学Ⅰ.
- ・公衆栄養学Ⅱ.
- ・公衆栄養学実習.
- ・公衆栄養臨地実習.
- ・栄養管理臨地実習.
- ・事前指導.
- ・事後指導.
- ・管理栄養士導入教育.
- ・栄養統計学.
- ・総合演習.
- ・卒業研究.
- ・専門職間の連携活動論.

2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名、大学名）

- ・公衆栄養学（大阪公立大学）.

III 研究記録

1 著書（著者本人下線：著書、発行年、発行所、発行場所。）

- ・高橋佳子, 高松まり子, 荒井裕介他：公衆栄養概論 2023/2024（エスカベリック）, 2023年4月, 同文書院, 東京.
- ・荒井裕介, 阿部絹子, 今井具子他：管理栄養士養成のための栄養学教育モデル・コア・カリキュラム準拠 公衆栄養学 2024年版, 2024年2月, 医歯薬出版, 東京.

2 学術論文・その他（著者：題名、雑誌名、巻、号、ページ、発行年、本人下線）

- ・Takiguchi T, Nishijo M, Kaneko N, Yoshita K, Arai Y, Demura N and Nishino Y: Foods and Nutrients at Risk for Insufficient Intake by Community-Dwelling Healthy Older Women Eating Alone and Together in Japan—A Preliminary Finding. *Nutrients*. 15, 10, 2391, Doi: 10.3390/nu15102391. 2023.
- ・Koyama T, Arai Y, Iida A, Isobe S, Okamoto R, Shibuya I, Tanaka K, Morooka A, Yoshita K: The vision for public health dietitians' skill improvement over the next 10 years in Japan: A qualitative study. *Public Health Pract.* 5, 100392, doi: 10.1016/j.puhip.2023.100392. 2023.
- ・Kushida O, Iida A, Arai Y, Koyama T, Tanaka K, Morooka A, Isobe S, Okamoto R, Yoshita K: Individual Learning Needs of Japanese Public Health Dietitians by Years of Experience in Health Promotion. *Healthcare*, 11(12), 1765; <https://doi.org/10.3390/healthcare11121765>. 2023.

- ・Koyama T, Akahori M, Arai Y, Iida A, Isobe S, Okamoto R, Kushida O, Shibuya I, Tanaka K, Morooka A, Yoshita K: Workshops for Enhancing the Collaboration Skills and Self-efficacy of Japanese Administrative Dietitians. Asian Journal of Dietetics. 5, 2-3, 83-91, 2023.

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・由田克士，荒井裕介，岡本理恵，串田修，小山達也，澁谷いづみ，田中和美，飯田綾香，赤堀摩弥，磯部澄枝，諸岡歩：10年後を見据えた新しい自治体管理栄養士養成プログラムの構築と試行・今後の展開，第82回日本公衆衛生学会学術総会，令和5年10月，茨城県。
- ・山口美輪，荒井裕介，西信雄：近隣の食品入手の主観的評価と食習慣の測定法とその関連：システマティックレビュー，第34回日本疫学会学術総会，令和6年1月，滋賀県。

IV 社会貢献・国際交流記録

3 審議会，委員会，国家試験委員等の実績（活動団体名称，委員名称，活動期間）

- ・船橋市，ふなばし健やかプラン21推進評価委員会委員，2023年4月～2024年3月。
- ・厚生労働省，管理栄養士国家試験委員会，2023年4月～2024年3月。

5 学会，学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本栄養改善学会，日本公衆衛生学会，日本高血圧学会，日本疫学会，日本栄養士会，神奈川県栄養士会。

2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）

- ・特定非営利活動法人日本栄養改善学会，評議員，2006年11月～現在に至る。
- ・特定非営利活動法人日本栄養改善学会，関東・甲信越支部会副支部長，2019年3月～2023年12月。
- ・特定非営利活動法人日本栄養改善学会，理事，2019年11月～現在に至る。
- ・一般社団法人日本公衆衛生学会，公衆衛生分野における行政管理栄養士のあり方委員会委員，2018年2月～現在に至る。
- ・一般社団法人日本公衆衛生学会，代議員，2019年7月～現在に至る。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・総務・企画委員会，自己点検・評価実施推進部会。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育面では対面授業の復帰にあわせて授業資料の見直し等を行い，学生が担当する領域の基礎的な知識技術の修得ができるよう，講義ではスライドのわかりやすい記述や解説説明に努めた。外部からの業務委託はなかったが，千葉県庁が進める業務について求めに応じて助言を行った。研究面では参加する共同研究にて専門的立場から考察を行い，論文および学術発表を行った。

VII 次年度の目標

教育面では，担当する領域の基礎的な知識技術の習得ができるよう，引き続き講義・実習の工夫をしながら実施する。研究面では他機関との共同研究に取り組む。

准教授 金澤 匠 博士（農学）

対象期間：2023年4月1日～2024年3月31日まで

I 年度当初の目標

2023年度は、研究については引き続き研究を推進し、その成果の公表（学会発表や学術論文投稿）を目指す。また、科研費や学内共同研究費といった研究資金の獲得も積極的に行う。教育では、講義や実験・実習の内容に関して工夫し、授業の更なる充実を図る。大学の管理・運営においては、委員及び部会長として責任を持って委員会や部会の運営に取り組む。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・体験ゼミナール.
- ・栄養学Ⅰ（基礎）.
- ・栄養学Ⅱ（応用）.
- ・食品学各論.
- ・食品学実験.
- ・基礎栄養学.
- ・基礎栄養学実習.
- ・総合演習.
- ・栄養統計学.
- ・管理栄養士特別演習.
- ・卒業研究.

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・金澤匠，細山田康恵：ラットの性周期による卵巣ホルモンの変動が肝オートファジーに及ぼす影響，千葉県立保健医療大学紀要，15巻，1号，53，2024年3月.

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・細山田康恵，金澤匠，樋口誉誌子，山田正子：エゴマ油とクルクミンを摂取したラットの酸化ストレスと行動に及ぼす影響，日本栄養・食糧学会，2023年5月14日，札幌.
- ・細山田康恵，金澤匠，樋口誉誌子，山田正子：高脂肪食摂取時にカテキンを添加したラットにおけるアディポサイトカインへの影響，日本栄養改善学会，2023年9月2日，名古屋.
- ・金澤匠，細山田康恵：卵巣摘出ラットにおける肝オートファジー抑制と血中調節因子の変動の関連性，日本栄養改善学会，2023年9月2日，名古屋.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・学内共同研究，カテキン摂取による2型糖尿病ラットの血中アディポカインと腎組織への影響，研究分担者.

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

・日本農芸化学会、日本生化学会、日本栄養・食糧学会、日本栄養改善学会、日本食品科学工学会、

2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

・日本栄養改善学会、評議員、2022年11月1日～現在に至る。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

・入試実施委員会、教育研究年報作成部会、動物実験部会。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

研究に関しては、学内共同研究発表会の抄録が大学紀要に掲載された。また、学会発表についても3演題の発表に関わることができた。従って、研究成果の公表と言う点では満足のものであった。ただし、研究費の獲得については外部資金などの獲得ができなかったことが不十分であった。教育においては、昨年同様に teams や forms といったツールを活用し、学生の理解状況の把握及びフォローアップに役立てることで授業の充実を図ることができた。大学の管理・運営においては、特に教育研究年報作成部会長として年報の発行を行うことができた。

VII 次年度の目標

令和6年度は、研究については引き続き研究を推進し、その成果の公表（学会発表や学術論文投稿）を目指す。また、学内共同研究費などの研究資金の申請も積極的に行い、資金獲得を目指す。教育では、講義や実験・実習の内容に関して工夫し、アクティブラーニングなどの導入による授業の更なる充実を図る。大学の管理・運営においては、委員及び部会長として責任を持って委員会や部会の運営に取り組む。

准教授 工藤 美奈子 博士 (学術)

対象期間：2023年4月1日～2024年3月31日まで

I 年度当初の目標

教育活動においては、学生の興味関心が高まる授業となるよう、最新の話題やワークショップを交えて双方向の授業を心がける。特に臨地実習においては、対話を重視し信頼関係を構築した上で、学生が滞りなく実習を遂行できるように実習施設との調整や学生指導に尽力する。研究活動では、学内での共同研究を推進するとともに、成果を論文等の形にまとめあげる。大学の管理運営においては、担当の職務を全うするとともに、学生が活発に活動できるようなサポートに努めていく。社会貢献では、千葉県内外において、多世代の食や健康につながるような地域活動を推進していく。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・給食経営管理論Ⅰ.
- ・給食経営管理論Ⅱ.
- ・給食経営管理実習.
- ・給食経営管理臨地実習.
- ・事前指導.
- ・事後指導.
- ・食事設計と調理実習.
- ・在宅栄養支援論.
- ・フードマネジメント論.
- ・管理栄養士導入教育.
- ・専門職間の連携活動論.
- ・総合演習.
- ・栄養統計学.
- ・管理栄養士国家試験対策講座.
- ・発達歯科衛生学Ⅱ.

III 研究記録

2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・河野舞, 工藤美奈子, 佐伯恭子, 佐々木みづほ, 成田悠哉, 室井大佑: 新型コロナウイルス感染症による行動制限が施設高齢者の生活に与えた影響—施設の代表者の視点から—, 千葉県立保健医療大学紀要, 15-1, 33-40, 2024.
- ・佐伯恭子, 河野舞, 工藤美奈子, 佐々木みづほ, 成田悠哉, 室井大佑: 新型コロナウイルス感染症が高齢者施設の職員に与えた影響, 千葉県立保健医療大学紀要, 15-1, 23-31, 2024.

3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等, 本人下線)

- ・河野 舞, 佐々木みづほ, 工藤美奈子, 室井大佑, 金子 潤: COVID-19 流行下における行動制限が施設高齢者の咀嚼・嚥下能力に与えた影響, 日本咀嚼学会, 2023/10/28-29, 大阪.
- ・佐々木みづほ, 河野 舞, 工藤美奈子, 室井大佑, 金子 潤: COVID-19 流行下における行動制限が施設高齢者に与えた影響, 日本咀嚼学会, 2023/10/28-29, 大阪.
- ・田村友峰子, 工藤美奈子, 菊池 裕: 配食弁当の保存方法・時間の違いによる一般細菌数からみる安全性, 日本給食経営

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名, 研究テーマ, 研究代表者／研究分担者）

- ・学長裁量研究, 新型コロナウイルス感染症による行動制限が施設高齢者の生活に与えた影響, 研究代表者
- ・学長裁量研究, 配食弁当の保存方法・時間の違いによる品質管理について, 研究分担者
- ・学内共同研究, HACCP システムに用いる微生物管理手法の実証実験に関する研究2, 研究分担者
- ・学内共同研究, 身長を活用した慢性疾患を有する地域在住高齢者に対する健康支援, 研究分担者

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等（活動名称, 活動期間, 場所等）

1) 千葉県内

- ・千葉市, 子ども食堂, 令和5年4月～令和6年3月

2) 千葉県外

- ・東京都小平市, 二小青少年対策地区委員会副会長, 令和5年4月～令和6年3月
- ・東京都小平市, だれでも食堂「わらい」副代表, 他子ども食堂3ヶ所, 令和5年4月～令和6年3月

2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等, 活動期間, 場所等）

- ・千葉市美浜区, 地域高齢者向け低栄養予防講話, 令和5年9月25日
- ・千葉県流山市, 地域高齢者向け低栄養予防講話, 令和5年11月8日

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本栄養改善学会, 給食経営管理学会, 日本家政学会, 日本調理科学会, 日本栄養士会, 東京都栄養士会, 日本伝統食品研究会.

2) 学会, 学術団体への貢献（学会・学術団体名, 役職, 活動期間）

- ・日本栄養改善学会評議員, 令和5年4月～令和6年3月.
- ・日本伝統食品研究会, 幹事（庶務）, 令和6年1月～令和6年3月.

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・研究倫理審査委員会, 学生委員会.

VI 評価（成果および改善すべき事項）

令和5年度は, 初年度取り組めなかった研究活動と大学運営業務に励んだ. 教育活動では, 給食経営管理実習において, 下級生への食事提供を再開し, 喫食者に対する提供意欲の向上だけでなく, 下級生には進級後の授業に対する意識付けを実現することができた. 臨地実習では, 学生支援課と協力して, 円滑に本学と実習施設との良好な関係性を維持できるように努めるとともに, 学生指導では, 素早い対応と親身な指導に注力した.

研究活動では, 新型コロナプロジェクトチームの高齢者施設アンケートグループのリーダーとして, 学長裁量研究資金を取得し, 紀要論文2報, 学会発表2報, 県への取り組み報告会, 学内報告会を行い積極的に活動を推進した.

大学運営業務に関しては, いずみ祭が安全に円滑に運営されるように模擬店を中心としたアドバイスを適宜学生等へ実施した. 4年生担任としては, 国試対策の運営や学生からの要望をいかした活動の実施, 就活サポートによる内定の獲得へつなげた. 特色科目「専門職間の連携活動論」では科目責任者を務め, 部会員やチーム担当教員を率いつつ滞りなく運営した. 社会貢献では, 学内共同研究による県内在住の地域高齢者を対象に栄養講話を2回実施し, 県民の低栄養予防の推進に寄与できた.

VII 次年度の目標

令和6年度は、やわらか食に関する調査や配食弁当の品質管理を中心に研究活動に勤しみ、研究代表者として学会発表や論文文化ができるように励む。また、引き続き「専門職間の連携活動論」での科目責任者を滞りなく遂行できるように尽力したい。

社会貢献においては、県民の健康づくりやフレイル予防推進を目指して、学内共同研究に取り組んでいきたい。

准教授 広川 由子 博士 (教育学)

対象期間：2023年4月1日～2024年3月31日まで

I 年度当初の目標

令和5年度においては、本学学生への教育をより充実させるため、担当する授業においてアクティブ・ラーニングによる授業改善に努め、学生の興味・関心をこれまで以上に引き出し、広い視野で学生理解に努める。教職課程においては、教職を取り巻く現状を十分踏まえたうえで、質の高い栄養教諭の養成を念頭に講義計画を立案し適切な講義・指導を行う。とりわけ、今日課題となっている教員の長時間労働時間問題をどのように解決するか、学生にもアイデアを出してもらいつつ教員としての当事者意識が備わるよう工夫する。研究活動においては、科研課題遂行のため、積極的に一次史料を発掘し、学会での口頭発表・論文投稿を目指す。また学内共同研究においては、千葉県における栄養教諭等の配置の状況について実態解明に着手する。大学運営については、担当委員会や部会において、他学科の先生方と協力しながら本学の発展に尽力する。社会貢献では、所属学会の運営に従事するとともに、千葉県の教育行政や学校に貢献できる体制を整える。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
 - ・教育学.
 - ・体験ゼミナール.
 - ・教職論.
 - ・教育学概論.
 - ・教育制度論.
 - ・カリキュラム論.
 - ・道徳・総合的な学習・特別活動論.
 - ・生徒指導論.
 - ・教職実践演習 (栄養教諭).

III 研究記録

3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- ・広川由子：高校入試英語スピーキングテスト導入をめぐる教育制度・行政上の諸問題, 日本英語教育史学会 第294回研究例会, 2023年9月16日, オンライン開催.
- ・広川由子：栄養教諭養成制度の課題：「養護教諭及び栄養教諭の資質能力の向上に関する調査研究協力者会議」における議論を手がかりに, 日本教育政策学会第30回大会 (自由研究発表), 2023年7月9日, 鹿児島大学.

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・科学研究費補助金基盤研究 (C), 占領期沖縄における英語教育政策過程—小学校への「英語科」の導入と廃止—, 研究代表者.
- ・千葉県立保健医療大学 2023年度学内共同研究 (一般), 千葉県における栄養教諭等配置の現状と特質—採用形態に着目して—, 研究代表者.

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

・日本教育学会、教育史学会、日本教育政策学会、日本教育法学会、日本英語教育史学会、中部教育学会。

2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

・日本教育政策学会（事務局書記、2020～2023年7月まで）。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

・共通教育運営会議、教務委員会、学術推進企画委員会、学内共同研究審査部会、紀要編集部会、第三次カリキュラム評価部会。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

・栄養学科運営会議、教職課程運営会議。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

昨年度同様、教育活動に重きを置き、学生の立場に立ちアクティブラーニングの視点から授業を改善しつつ、わかりやすい講義を心掛けた。また、学生理解と指導に丁寧に取り組み、無事任務を全うできたと感じている。研究活動においては、科学研究費補助金基盤研究（C）に積極的に取り組み、沖縄県公文書館及び米国ハーバード大学等への一次史料収集・調査も無事実施することができた。さらに所属する日本英語教育史学会において著作賞を獲得するに至った（広川由子（2022）『戦後期日本の英語教育とアメリカ』大修館書店）。またもう一つの研究分野である栄養教諭研究が学内共同研究に採択され、栄養教諭等の現場での位置付け等の実態解明への一歩を踏み出すことができた。大学運営においては、多くの学内の先生方に学びつつ、関係を構築することができたと実感している。とりわけ学内共同研究審査部会では慣れないことが多く事務局にも手助けいただき無事終えることができた。社会貢献では、日本教育政策学会の事務局書記として、学会の円滑な運営に貢献することができた。

VII 次年度の目標

次年度は、教育活動においては、継続して学生の教職への興味・関心を引き出すため、アクティブ・ラーニングの視点から授業改善・充実に努める。現行の教員不足という現状を十分、踏まえたうえで、栄養教諭養成制度の諸問題を考察しつつ、講義計画を立案し、適切な講義・指導を行えるよう努力する。また共通教育の体験ゼミナールの改善にも尽くす。研究活動においては、二つの所属学会において科研課題の成果を発表する計画である。とりわけ学内共同研究での成果を本学紀要に投稿することを最優先とする。大学運営については、担当委員会や部会において、他の先生方と協力しながら尽力する。大学設置基準の改正により新しい大学教育のあり方が問われていることから、本学のカリキュラム改革に最善を尽くす。社会貢献では、引き続き、所属学会の運営に従事するとともに、千葉県教育行政や学校に積極的にアクセスする。

講師 鈴木 亜夕帆 博士 (学術)

対象期間：2023年4月1日～2024年3月31日まで

I 年度当初の目標

学生にとって主体的で対話的な深い学びとなるような授業展開ができるように、学生の状況に合わせて内容等を工夫し、改善を行う。調理科学及び食育分野での研究を継続して行う。担当科目及び研究に関する知識を深めることにも心掛ける。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・食事設計と調理
- ・調理科学実験
- ・調理実習
- ・体験ゼミナール
- ・千葉県の健康づくり
- ・総合演習
- ・卒業研究
- ・栄養統計学
- ・食育論Ⅰ
- ・食育論Ⅱ
- ・食生活教育論
- ・学校栄養教育論
- ・教職実践演習

2) 他大学、大学院等の非常勤講師 (科目名、大学名)

- ・食育論 (東京歯科大学短期大学)
- ・食育実践論 (東京栄養食糧専門学校)

III 研究記録

1 著書 (著者本人下線：著書、発行年、発行所、発行場所。)

- ・渡邊智子、山下光雄 編著、小熊祐子、勝川史憲、鈴木亜夕帆、武田純枝：100kcal 日本食品成分表 2023, 2023, 建帛社, 東京。

2 学術論文・その他 (著者：題名、雑誌名、巻、号、ページ、発行年、本人下線)

- ・秦野佑紀、鈴木亜夕帆、渡邊智子：表計算ソフトウェアを活用したデジタル版 100kcal 食品成分表の開発, 東京栄養食糧専門学校紀要, 3, 1, 46-54, 2024.
- ・鈴木亜夕帆：「あたりまえ」を通して, 福井大学大学院 福井大学・奈良女子大学・岐阜聖徳学園大学連合教職開発研究科 教職大学院ニュースレター, No. 180 (2024. 3. 29 公開版)
- ・海・空・子どもプロジェクト実行委員会：海洋教育協働探究カリキュラム開発報告書 (保田つ子、海と島をめぐる/Deep Active Teacher Learning), 2024. 3 月。

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・鈴木亜夕帆，儀間裕勝，加藤悟，西野明子，福島昌子：総合的な学習の時間における遠隔的な食のコミュニケーションの実践，千葉県学校保健学会，12月17日，明海大学
- ・福島昌子，西野明子，加藤悟，前田香織，鈴木亜夕帆，堀井優，内村佐保莉，井筒大地：病弱・健康課題の児童における海洋教育協働探究の個別最適な学びの実践-「総合的な学習の時間」のカリキュラム開発-，千葉県学校保健学会，12月17日，明海大学

4 学術集会での招待講演（教育講演や基調講演）やシンポジウム等（学術集会名，テーマ，開催日，場所等）

- ・実践報告「総合的な学習の時間における遠隔的な食のコミュニケーションの実践」，福井ラウンドテーブル 2024 Spring Sessions，2月18日，福井県。

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・学内共同研究，煎茶の浸出液及び粉末茶溶液の成分含有量の比較，研究代表者。

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等（活動名称，活動期間，場所等）

2) 千葉県外

- ・健康課題児童・生徒における海洋教育協働探究カリキュラム開発プロジェクト「海・空・子どもプロジェクト」実行委員

3 審議会，委員会，国家試験委員等の実績（活動団体名称，委員名称，活動期間）

- ・文部科学省科学技術・学術審議会，食品成分委員会及び作業部会専門委員。
- ・木更津市食育推進協議会 委員。

5 学会，学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・栄養改善学会，調理科学会，千葉学校保健学会。

2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）

- ・千葉県学校保健学会 監事 2021年4月～現在。

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称，主催 団体名称，講演テーマ等，対象，開催日時，場所）

- ・千葉県教育委員会 令和5年度栄養教諭初任者研修第6回校外研修 講師。「食育の進め方」について講義及び演習。栄養教諭初任者。2023年7月。
- ・株式会社LEOC（給食受託会社）プロフェッショナル育成を目的とした社内研修制度「LEOC大学院」における栄養学部 講師。社内管理栄養士対象。2023年4月22日，6月10日，7月22日，11月11日，2023年1月21日，2月11日。オンラインまたは対面。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・教務委員会。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・栄養学科運営会議。卒業研究担当。

3 対外広報活動<新聞・ホームページでの活動・TV出演, ラジオ出演等>

・高等学校大学説明会 (千葉県立長狭高等学校, 6月30日)

VI 評価 (成果および改善すべき事項)

学生にとって主体的で対話的な深い学びとなるような授業展開を学生の状況等に合わせて工夫することができた。調理科学研究の分野では共同研究の実施ができたが深めることが難しかった。食育に関して教育に関わる分野での知識を深めることにも心掛けることができた。

VII 次年度の目標

授業を主体的で対話的な深い学びとなるような工夫を継続して行う。「例年通り」ではなく、学生の状況等に応じて色々な方法を検討する。共同研究も含め、調理科学研究の分野での研究を深めることを中心に、調理・食育に関する知識を深める。

講師 渡辺 優奈 博士 (栄養学)

対象期間：2023年4月1日～2024年3月31日まで

I 年度当初の目標

令和5年度は、令和4年度に引き続き、特に教育面での学生参加型のアクティブラーニングを意識した授業を行い、改善を図っていききたい。研究面では共同研究を進めるとともに、調査結果を学会発表や論文にまとめていききたい。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・栄養教育論Ⅰ.
- ・栄養教育論Ⅱ.
- ・栄養教育手法論.
- ・栄養教育論実習.
- ・栄養教諭教育実習.
- ・栄養教諭教育実習事前・事後指導.
- ・管理栄養士導入教育.
- ・栄養統計学.
- ・総合演習.
- ・管理栄養士特別演習.
- ・卒業研究.
- ・社会実習.

2) 他大学、大学院等の非常勤講師 (科目名、大学名)

- ・栄養学 (食品学を含む) (新潟大学).

III 研究記録

2 学術論文・その他 (著者：題名、雑誌名、巻、号、ページ、発行年、本人下線)

- ・柄澤美佳, 渡辺優奈, 竹内瑞希, 斎藤トシ子：女子学生における朝食の内容が注意・集中力および計算・記憶力に及ぼす影響, 日本栄養士会雑誌, 67(1), 34-41, 2024.
- ・鈴木一恵, 石田絵美, 堀越さな恵, 小島美世, 八子円, 竹内瑞希, 渡辺優奈：通いの場の高齢者を対象にした低栄養予防啓発動画を活用した介入効果の検討, 新潟栄養・食生活学会誌, 24, 64-71, 2024.

3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等, 本人下線)

- ・稲村雪子, 入山八江, 渡辺優奈, 牧野令子, 川村美和子, 久志田順子, 折居千恵子：訪問栄養指導が在宅高齢者の QOL、BMI、疾病の改善に及ぼす効果と要因, 第5回日本在宅医療連合学会大会, 2023年6月24～25日, 新潟市.
- ・鈴木一恵, 石田絵美, 堀越さな恵, 小島美世, 八子円, 竹内瑞希, 渡辺優奈：通いの場の高齢者を対象にした低栄養予防啓発動画を活用した介入効果の検討, 第70回日本栄養改善学会学術総会, 2023年9月1～3日, 名古屋市.

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・日本学術振興会 科学研究費助成事業 若手研究, 妊婦の鉄栄養状態と鉄摂取量の関係解明～鉄代謝調節因子「ヘプシジン」に着目して～, 研究代表者.

- ・日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究 (C), 地域在住の自立高齢者の低栄養の実態と関連要因～食意識・食行動に着目して～, 研究分担者.
- ・学内共同研究, 千葉県における栄養教諭配置の現状と特質—採用形態に着目して—, 研究分担者.

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等 (活動名称, 活動期間, 場所等)

1) 千葉県内

- ・千葉市食育&消費者教育情報誌『おいしくタベル たのしくマナブ』Vol.9 作成協力, 2023年7～11月.
- ・URほい大健康プログラム, 2023年11月11日, さつきが丘団地.
- ・いすみ市ほい大健康プログラム, 2023年11月25日, いすみ市役所.
- ・健康教室 (ほい大健康プログラム), 2024年2月17日, 千葉県立保健医療大学.

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本栄養改善学会, 日本栄養・食糧学会, 日本女性医学学会, 日本栄養学教育学会, 日本健康教育学会, 日本母性衛生学会, 日本栄養士会, 千葉県栄養士会.

2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・日本栄養学教育学会, 編集委員, 2023年8月1日～現在に至る.
- ・日本栄養改善学会, 評議員, 2023年11月1日～現在に至る.

6 講演会 (公開講座を含む) / 研修会の講師・研究指導等 (会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日時, 場所)

- ・千葉市専門研修「食と健康講座」 講師, 千葉市教育委員会, ライフコースから考える子どもたちへの食育の大切さ, 千葉市小・中特別支援学校 教職員, 2023年7月26日, 千葉市教育会館.
- ・中堅教諭等資質向上研修 講師, 千葉県教育庁, 今後の栄養教諭・学校栄養職員の役割について, 千葉県栄養教諭及び学校栄養職員, 2023年9月6日, 千葉県総合教育センター.
- ・調理員・用務員・技能員・栄養士研修 講師, 千葉市子ども未来局, 食育について, 千葉市公立保育所・認定子ども園に勤務する技能員・栄養士, 2023年9月25日, 千葉市役所.
- ・第4回現場で活動する管理栄養士・栄養士のための『実践栄養学研究セミナー』— 基礎から学ぶ導入編— チューター, 日本栄養改善学会関東・甲信越支部, 2024年3月16～17日, 女子栄養大学駒込校舎.

V 管理・運営記録

1 全学委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・広報委員会, 社会貢献委員会, 社会実習作業部会, IR 部会, キャンパスハラスメント相談員.

2 学科/専攻内委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・2年生担任.

VI 評価 (成果および改善すべき事項)

授業や実習において, 前年度の学生の反応を踏まえてディスカッションや発表を積極的に取り入れたことにより, 学生間での意見交換の機会を多く設けられた. 研究活動においては, 共同研究では分担者として研究遂行に尽力したが, 代表者である研究については調査を完了したものの, 調査結果を論文化するまでには至れなかった.

VII 次年度の目標

教育活動では、担当授業において学生が基本的な知識を習得し思考を深められるような内容の工夫をし、働きかけを改善していきたい。研究活動では調査で得られたデータを解析し、学会発表や論文化するとともに、学会活動等を通して地域や専門職へ貢献することを目指す。

助教 生魚 薫 修士 (家政学)

対象期間：2023年4月1日～2024年3月31日まで

I 年度当初の目標

教育活動は、学生により良い学習環境を提供できるように講義、実習補助において随時見直しする。
研究活動は、前年度データ収集した結果をもとに論文文化を目指す。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・臨床栄養学実習.
- ・給食経営管理実習.
- ・栄養ケアマネジメント論実習.
- ・事前・事後指導.
- ・臨床栄養臨地実習.
- ・専門職連携活動論.

2) 他大学、大学院等の非常勤講師 (科目名、大学名)

- ・千葉市青葉看護学校非常勤講師 (臨床栄養学).
- ・東京情報大学看護学部非常勤講師 (臨床栄養学).
- ・和洋女子大学家政学部健康栄養学科非常勤講師 (実践栄養教育実習).

III 研究記録

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名、研究テーマ、研究代表者/研究分担者)

- ・学内共同研究、HACCP システムに用いる微生物管理手法の実証実験に関する研究、研究代表者 菊池裕、分担研究者 工藤美奈子、生魚薫、一条知昭

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等 (活動名称、活動期間、場所等)

2) 千葉県外

- ・鈴木糖尿病内科クリニック栄養指導 (2019年11月～月1回継続中)

2 地域への保健医療活動 (診療・技術指導等、活動期間、場所等)

- ・鈴木糖尿病内科クリニック栄養指導 (2019年11月～月1回継続中)

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本臨床栄養代謝学会、日本栄養改善学会、日本臨床栄養学会、日本病態栄養学会、日本成長学会、日本肥満学会、日本小児保健協会、日本小児科学会、日本糖尿病・妊娠学会、日本栄養士会、千葉県栄養士会、

V 管理・運営記録

- 1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）
 - ・専門職連携活動論 作業部会、
- 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）
 - ・1年生副担任、栄養学科履行係、

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動では、上席教員へ相談しながら教育教材の見直しやマニュアル修正などに努めることができた。社会貢献活動では、月1回以上の保健医療活動として糖尿病患者への栄養指導のボランティアを継続することができている。研究活動では、論文1編を投稿することが出来たが年度内の公表に至らなかった。論文化に向けて投稿数も増やしていきたい。

VII 次年度の目標

教育活動は、学生により良い学習環境を提供できるように実習において随時見直しする。
研究活動は、論文を2報以上投稿する。

助教 田村 友峰子 修士（生命科学）

対象期間：2023年4月1日～2024年3月31日まで

I 年度当初の目標

教育・研究をバランスよく取り組めるように、体調管理に注意し、各教員との連携をはかりながら業務を遂行する。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・給食経営管理実習.
- ・公衆栄養学実習.
- ・応用栄養学実習.
- ・食品加工実習.
- ・給食経営管理臨地実習.
- ・公衆栄養学臨地実習.
- ・事前指導.
- ・事後指導.
- ・栄養教諭教育実習.
- ・専門職間の連携活動論.

III 研究記録

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・田村友峰子，工藤美奈子，菊池裕：配食弁当の保存方法・時間の違いによる一般細菌数からみる安全性，第18回日本給食経営管理学会学術総会，2023年11月12日，東京.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・学長裁量共同研究，配食弁当の保存方法・時間の違いによる品質管理について，研究代表者.

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等（活動名称，活動期間，場所等）

1) 千葉県内

- ・千葉市子ども食堂ネットワーク グレイステーブル，2023年4月から月1（8月から2024年1月を除く）. グレースリバーチャーチ.

5 学会，学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本栄養士会，日本給食経営管理学会.

V 管理・運営記録

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・栄養学科運営会議、4年生副担任、管理栄養士国家試験対策委員。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

学長裁量研究採択により、研究がしやすい環境が整ったことで今後も発展可能な研究データが取れた。学会発表を行うまでで留まったが、データを蓄積し論文執筆をすすめたい。教育活動では、実習を運営していくことが困難なときもあり、日頃より体調管理に気を付け、コミュニケーションをとることを心がける。

VII 次年度の目標

担当補助科目については、担当教員とコミュニケーションをとり、体調管理に努める。研究は、引き続きデータを蓄積、論文執筆等に移行できるよう時間を有効的に活用する。

助教 峰村 貴央 博士（食品栄養学）

対象期間：2023年4月1日～2024年3月31日まで

I 年度当初の目標

教育・研究・社会貢献の業務バランスを意識し、計画的に取り組んでいく。特に研究活動では、前年度から継続している研究を発展させるとともに、これまでの研究成果の公表に取り組んでいきたい。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
 - ・調理科学実験.
 - ・食事設計と調理実習.
 - ・食品化学実験.
 - ・食品学実験.
 - ・調理実習.
 - ・専門職間の連携活動論.
- 2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名、大学名）
 - ・栄養学、千葉市立青葉看護専門学校.
 - ・食品利用安全学研究室、東京農業大学特別研究員.

III 研究記録

3 発表（発表者：発表タイトル、主催学会（学会名称）、開催日、場所等、本人下線）

- ・峰村貴央、花城勲、阿久澤さゆり：北海道産ゆり根（鱗茎）から分離した澱粉の理化学的性質と糊液の粘弾性特性、日本食品科学工学会 第70回記念大会、2023年8月26日、京都女子大学.
- ・新井啓太、峰村貴央、花城 勲、横井琢也、阿久澤さゆり：和菓子の原料豆から調製した生餡の性状解析、日本食品科学工学会 第70回記念大会、2023年8月26日、京都女子大学.

4 学術集会での招待講演（教育講演や基調講演）やシンポジウム等（学術集会名、テーマ、開催日、場所等）

- ・千葉伝統郷土料理研究会 第28回 食文化フォーラム、古代の食を再現する（教育講演）、2023年10月7日、千葉市文化センター.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名、研究テーマ、研究代表者／研究分担者）

- ・科学研究費補助金基盤研究(A)、東ユーラシア東辺における古代食の多角的視点による解明とその栄養価からみた疾病、研究分担者.
- ・(一財) 医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団、微生物試験に用いる培地の管理に使用する pH 電極に関する研究、研究分担者.

IV 社会貢献・国際交流記録

4 職能団体委員等（職能団体名称、委員名称、活動期間）

- ・公益社団法人 千葉県栄養士会、研究教育事業部役員、2022年5月～現在に至る.

- ・公益社団法人 千葉県栄養士会. 生涯教育委員. 2022年5月～現在に至る.
- ・公益社団法人 千葉県栄養士会. 栄養指導研究所運営委員. 2022年5月～現在に至る.
- ・公益社団法人 千葉県栄養士会. 千栄公式 SNS サイト運営委員. 2023年9月～現在に至る.

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本食品科学工学会. 日本調理科学会. 日本応用糖質科学会. 日本栄養改善学会. 日本健康医学会. 千葉県学校保健学会. 千葉県栄養士会.

2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名. 役職. 活動期間)

- ・公益社団法人 千葉県栄養士会. 学術部理事. 2022年5月～現在に至る.

6 講演会 (公開講座を含む) / 研修会の講師・研究指導等 (会名称. 主催 団体名称. 講演テーマ等. 対象. 開催日時. 場所)

- ・2023年度 千葉県栄養士会 研究教育事業部研修会, 公益社団法人 千葉県栄養士会, 栄養士, 管理栄養士の教育, 大学教員, 2023年12月9日, Web 開催.

V 管理・運営記録

2 学科/専攻内委員会 (委員会名/活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・2年生副担任.

VI 評価 (成果および改善すべき事項)

教育においては, 学生の良い点・改善が必要な点を見極めて, 個人に合った指導をすることができた. 研究は思うように進められなかったため, 来年度はできることから継続的に進めていきたい.

VII 次年度の目標

今年度の反省点を踏まえ, 精進していきたい.

助教 田中 佑季 博士（食品栄養学）

対象期間：2023年4月1日～2024年3月31日まで

I 年度当初の目標

令和5年度は、新しいことに取り組むことを目標とした。特に前年は社会貢献にかかわる項目は主担当として行った業務がなかったが、今年度はほい大プログラムと成田市生涯大学院を引き受けている。いずれも地域の高齢者が主なターゲットとなるため、対象に合わせた資料作りを心掛け、地域の健康に貢献したい。学科内の担当としては学科運営委員を担当するため、会議後の早期の議事録の作成を目指す。学校説明会も前年は担当できなかったが今年度は2件担当予定である。前年同様授業や副担任業務をこなしつつ、ここまで挙げていた新しい事柄に取り組み、自分のできる業務を増やしたい。

次に、前年同様学内共同研究費に応募している。今年は野菜の抗酸化能の検討のために、千葉県内の農場と直接取引をして試料を得ている。前年度に得られた結果をブラッシュアップできるように引き続き検討を進め、さらに前年度の研究内容について学内共同研究発表会を含め、発表・投稿を目指したい。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
 - ・生化学実験.
 - ・生理学実験.
 - ・基礎栄養学実習.
 - ・解剖学実験.
 - ・食品衛生学実験.
 - ・体験ゼミナール.

III 研究記録

3 発表（発表者：発表タイトル、主催学会（学会名称）、開催日、場所等、本人下線）

- ・田中佑季：千葉県産の小カブの抗酸化能、第14回共同研究発表会、9/11～9/15、Web開催

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名、研究テーマ、研究代表者／研究分担者）

- ・学内共同研究費 研究テーマ：千葉県産野菜の抗酸化能 研究代表者：田中佑季／佐塚正樹

IV 社会貢献・国際交流記録

2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等、活動期間、場所等）

- ・UR 団地ほい大健康プログラム 第2回（講師 11/11 さつきが丘団地第一集会所）
- ・成田市生涯大学院（講師 1/31, 2/2 成田市生涯大学校）

5 学会、学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
 - ・日本家政学会.
- 2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）
 - ・日本家政学会（査読）.

V 管理・運営記録

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・栄養学科（学科運営委員）.

VI 評価（成果および改善すべき事項）

まず、教育について前年度から担当した科目が多数を占めていることから多くの科目で前年よりスムーズに業務をこなせたと感じている。一方で、不足している部分がはっきりしたため、次年度のためのメモを充実させて次年度に備えている。前年度からの大きな改善点として、現在使用している機器・機材に気を払えるようになり、メンテナンスや破損が起きた場合のフォローができるようになった。次に研究について、前年に引き続き、野菜の抗酸化能について研究を進めている。前年の研究内容から学内共同研究の発表会にて発表を行った。一方で外部の学術誌などに論文を載せられなかったことが大きな改善点である。また、今年度副担任として担当した3年生のトラブルに対し、主に記録の作成・報告などで貢献した。社会貢献として行ったほい大健康プログラム及び生涯大学院はどちらも入念に準備をして臨んだため、どちらも問題なくこなせている。学科運営委員業務は、目標としていた議事録の早期作成をはじめとしたすべての業務を全うした。最後に、A棟1階の試薬の整理を行った。古い試薬の廃棄を行い、実験実習室の環境整備に貢献したと考える。

VII 次年度の目標

教育について、次年度は栄養学の非常勤講師として青葉看護専門学校で教育業務を行う。本学での教育補助業務と他学での主担当での教育業務を両立させることを目指す。研究について、学会発表および学術誌に論文を掲載させることを目指す。今年度同様の野菜の抗酸化能の研究に加え、加瀬政彦教授が研究代表者を務める「大学における研究・教育・事務業務での生成AI利用法に関する調査研究」に参加する。社会貢献について、今年度に引き受けた成田市の生涯大学院より次年度の講師依頼が来ているため引き続き引き受ける。今年度A棟1階の試薬整理を行ったが、引き続きリスト化や補充、安全データシートの取得などが必要な状況であるため、これらの完遂を目指す。

齒科衛生學科

教授（兼）学科長 酒巻 裕之 博士（歯学）

対象期間：2023年4月1日～2024年3月31日まで

I 年度当初の目標

令和5年度は、学生の様子から解説の工夫をして講義を進める。各授業では継続して、Formsを活用し、振り返り課題に解答するよう進める。また個人担当科目ではポートフォリオ作成を行う。臨床実習では、可及的に実習施設における実習ができるように配慮した実習とし、医療や介護を必要とする対象者とした口腔健康管理に関するシミュレーション教育を継続する。

大学の管理・運営について、広報委員会委員長として委員会の運営を行い、本学のオープンキャンパスの実施や高校説明会、大学案内や広報誌の発行を行う。高校説明会に参加について、検討する。教務委員会、人事委員会、将来構想検討委員会、自己点検・評価委員会の委員として委員会所掌を遂行する。学科長として学科の運営に、歯科診療室長として歯科診療室の運営に携わる。

研究面では、学長裁量研究において、社会貢献に係る歯科衛生士の人材育成として、第5回千葉県立保健医療大学歯科衛生士研修会を開催する。テーマは口腔機能評価に係る検査法について学ぶ研修会を計画する。

社会貢献について、歯科診療室において、日本口腔外科学会、日本口腔科学会等において認定された資格を活用した歯科診療や千葉市口腔がん検診（個別検診）の充実を図り、地域住民に貢献する。特に医療安全について、引き続き感染症対策に留意して歯科診療を行う。大学の方針に則り、ほい大健康プログラムなどの社会貢献に参加する。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・口腔病理学.
- ・歯科医療安全論.
- ・顎口腔外科学.
- ・顎口腔機能論.
- ・歯科衛生基礎演習.
- ・発達歯科衛生学Ⅰ.
- ・発達歯科衛生学Ⅱ.
- ・顎口腔機能リハビリテーション演習.
- ・発達歯科衛生実習Ⅱ.
- ・歯科診療室基礎実習.
- ・継続・個別支援実習.
- ・歯科診療室総合実習Ⅰ（3年次）.
- ・歯科診療室総合実習Ⅱ（4年次）.
- ・病院実習.
- ・卒業研究.

2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名、大学名）

- ・口腔・顎顔面領域の疾患-②、口腔外科学（診療の基本-②）、日本大学松戸歯学部 兼任講師.
- ・顎口腔外科学、北原学院千葉歯科衛生専門学校 非常勤講師.

Ⅲ 研究記録

1 著書（著者本人下線：著書，発行年，発行所，発行場所。）

- ・山口秀紀，酒巻裕之，山口朱見，桜井節子，村井靖子，西村三美，中村郁子，根本智里，白石 愛，武井まゆみ：歯科衛生士パスポート Web 全身管理・感染対策・訪問診療，2023，メディア株式会社，東京。
- ・権沢勇司，澁井武夫，高田 訓，原田浩之，津島文彦，宮坂孝弘，鎌谷宇明，柳本惣市，藤澤健司，戸谷収二，志茂 剛，吉岡 泉，野間 昇，野村武史，白鳥たかみ，江口貴子，前田 茂，松浦信幸，樋口 仁，山口秀紀，野村明美，讃岐拓郎，酒巻裕之，菅谷亜紀，大屋朋子，池上由美子：歯科衛生学シリーズ 口腔外科学・歯科麻酔学第2版，2024，医歯薬出版株式会社，東京。

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・石川裕子，鈴鹿祐子，麻賀多美代，麻生智子，大川由一，酒巻裕之：某大学歯科衛生学科卒業生の歯科衛生士としての現状とリカレント教育に関する要望，日本歯科衛生教育学会雑誌，14，2，95-102，2023。

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・酒巻裕之：歯科衛生学教育における口腔粘膜の観察法に関する指導の取組みについて，第43回日本歯科薬物療法学会，第36回日本口腔診断学会，第33回日本口腔内科学会，第32回日本口腔感染症学会，4学会合同学術大会，令和5年9月24日，宇都宮。
- ・酒巻裕之，鈴鹿祐子，山中紗都，栗原涼子，石川裕子：口腔粘膜病変に関わる歯科衛生士研修会の実施報告，第14回日本歯科衛生教育学会総会・学術大会，令和5年12月3日，東京。

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・令和5年度学長裁量研究費，口腔機能低下症に関する歯科衛生士リカレント教育の実施，研究代表者

Ⅳ 社会貢献・国際交流記録

2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等，活動期間，場所等）

- ・歯科診療 2009年4月～現在に至る，千葉県立保健医療大学歯科診療室。
- ・日本口腔外科学会専門医（第770号） 1996年10月1日～現在に至る。
- ・日本口腔外科学会指導医（第664号） 2001年10月1日～現在に至る。
- ・日本糖尿病協会歯科医師登録医 2013年9月1日～現在に至る。
- ・がん患者歯科医療連携登録医 2013年10月3日～現在に至る 2015年2月16日全国に名簿が公表される。
- ・日本口腔内科学会専門医（第65号） 2019年10月1日～現在に至る。
- ・日本口腔内科学会指導医（第44号） 2019年10月1日～現在に至る。
- ・ICD協議会インфекションコントロールドクター（ICD）（第MC 0202号） 2020年1月1日～現在に至る。
- ・千葉市口腔がん検診 検診医 2022年7月1日～2023年1月15日 検診数72件 千葉県立保健医療大学歯科診療室。
- ・千葉県歯科医師会認定口腔がん検診医（第2018-262号） 2018年3月18日～現在に至る。
- ・総合病院国保旭中央病院 手術指導，2011年4月1日～2024年3月31日。
- ・日本口腔科学会認定指導医（第1-16088号） 2023年6月1日～現在に至る。

5 学会，学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・International Association of Oral and Maxillofacial Surgeons. Asian Association of Oral and Maxillofacial Surgeons. 日本口腔外科学会. 日本口腔科学会. 日本口腔内科学会. 日本歯科医学教育学会. 日本歯科衛生学会. 日本歯科衛生教育学会. 日本口腔診断学会. 日本臨床口腔病理学会. 日本臨床細胞診学会. 日本有病者歯科医学会. 日本老年歯科医学会. 日本小児歯科学会. 日本大学口腔科学会. 日本看護技術学会. 日本医療安全学会. 日本口腔ケア学会. 日本公衆衛生学会. 日本顎顔面インプラント学会. 日本医学教育学会。

2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・日本大学口腔科学会, 評議員, 2007年4月1日～現在に至る.
- ・日本口腔科学会, 評議員, 2009年4月1日～現在に至る.
- ・日本口腔内科学会, 評議員, 2009年6月1日～現在に至る.
- ・日本医療安全学会, 代議員, 2014年4月1日～現在に至る. 理事, 2018年3月21日～現在に至る.
- ・日本医療安全学会, 医療安全教育・研修検討部会部会員, 多職種連携部会委員部会員, 2021年4月1日～2023年3月31日
- ・日本医療安全学会, 財務会員, 2023年4月1日～現在に至る.
- ・日本歯科衛生学会雑誌, 外部査読員, 2013年4月1日～現在に至る.
- ・日本歯科医学教育学会, 評議員, 2019年4月1日～現在に至る.
- ・全国大学歯科衛生士教育協議会, 監事, 2023年4月1日～現在に至る.

7 その他

- ・ほいだい健康プログラム 講師 いすみ市 2023年10月28日 いすみ市, UR さつきが丘団地 2023年11月11日 千葉市.
- ・研修会講師 (第5回千葉県立保健医療大学歯科衛生士研修会, 歯科衛生学科, 口腔機能低下症について, 千葉県内に就業している歯科衛生士, 歯科衛生学科卒業生. 令和6年3月10日, 千葉市)

V 管理・運営記録

1 全学委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・教授会, 大学運営委員会誌, 将来構想検討委員会, 認証評価委員会, 人事委員会, 教務委員会, 広報委員会 (委員長).

2 学科/専攻内委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・学科長, 歯科衛生学科会議, 歯科診療室会議, 教務委員会, 広報委員会.

VI 評価 (成果および改善すべき事項)

令和5年度は, 学生の様子から解説の工夫をして講義を進めた. 各授業では継続して, Forms を活用し, 振返り Forms に解答するよう進めた. また個人担当科目ではポートフォリオ作成を行い, 評価した. 臨床実習では, 可及的に実習施設における実習ができるように配慮した実習とし, 医療や介護を必要とする対象者とした口腔健康管理に関するシミュレーション教育を継続した.

大学の管理・運営について, 広報委員会委員長として委員会の運営を行い, 本学のオープンキャンパスの実施や高校説明会, 大学案内や広報誌の発行を行った. 高校説明会の参加について, 検討した. 教務委員会, 人事委員会, 将来構想検討委員会, 自己点検・評価委員会の委員として委員会所掌を遂行した. 学科長として学科の運営に, 歯科診療室長として歯科診療室の運営に携わった.

研究面では, 学長裁量研究において, 社会貢献に係る歯科衛生士の人材育成として, 第5回千葉県立保健医療大学歯科衛生士研修会を開催した. テーマは口腔機能低下症について学ぶ研修会を計画する.

社会貢献について, 歯科診療室において, 日本口腔外科学会, 日本口腔科学会等において認定された資格を活用した歯科診療や千葉市口腔がん検診 (個別検診) の充実を図り, 地域住民に貢献する. 特に医療安全について, 引き続き感染症対策に留意して歯科診療を行う. 大学の方針に則り, ほい大健康プログラムなどの社会貢献に参加する.

VII 次年度の目標

令和6年度は, 学生の様子から解説の工夫をして講義を進める. 各授業では継続して, Forms を活用し, 自己省察できる振返り課題に解答するよう進める. また個人担当科目ではポートフォリオ作成を行い, 評価する. 臨床実習では, 可及的に実習施設における実習ができるように配慮した実習とし, 医療や介護を必要とする対象者とした口腔健康管理に関するシミュレーション教育を継続する.

大学の管理・運営について、広報委員会委員長として委員会の運営を行い、本学のオープンキャンパスの実施や高校説明会、大学案内や広報誌の発行を行い、高校説明会の参加について、検討する。教務委員会、人事委員会、将来構想検討委員会、自己点検・評価委員会の委員として委員会所掌を遂行する。学科長として学科の運営に、歯科診療室長として歯科診療室の運営に携わる。

研究面では、社会貢献に係る歯科衛生士の人材育成として、第6回千葉県立保健医療大学歯科衛生士研修会を開催する。

社会貢献について、歯科診療室において、日本口腔外科学会、日本口腔科学会等において認定された資格を活用した歯科診療や千葉市口腔がん検診（個別検診）の充実を図り、地域住民に貢献する。特に医療安全について、引き続き感染症対策に留意して歯科診療を行う。大学の方針に則り、ほい大健康プログラムなどの社会貢献に参加する。

教授（兼）副学長 大川 由一 歯学博士

対象期間：2023年4月1日～2024年3月31日まで

I 年度当初の目標

教育活動では Teams の活用を図りながら対面授業を実施し、学生の自己主導型学習を支援する。研究活動では学内外の研究者と共同研究に取組み、その成果を発表する。社会貢献では歯科診療とほい大健康プログラムに積極的に取り組む。学内の管理運営では、大学認証評価受審評価結果に対応した学内の諸課題に適切に対応する。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
 - ・口腔衛生学.
 - ・地域歯科衛生学.
 - ・衛生行政.
 - ・地域歯科衛生演習.
 - ・歯科衛生統計演習.
 - ・歯科診療室基礎実習.
 - ・歯科診療所実習.
 - ・発達歯科衛生実習Ⅰ（小児）.
 - ・地域歯科衛生実習.
 - ・歯科診療室総合実習Ⅰ.
 - ・歯科診療室総合実習Ⅱ.
 - ・卒業研究.
- 2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名、大学名）
 - ・歯科医療管理学. 東京歯科大学.

III 研究記録

1 著書（著者本人下線：著書，発行年，発行所，発行場所．）

- ・由田克士，櫻井勝，諏訪園靖 編著，渡邊智之，熊谷優子，中村好一，辻美智子，古畑公，青地克頼，中田由夫，根岸裕子，大川由一，武山英麿，佐々木溪円，西信雄，森河裕子 共著：公衆衛生学 第3版，2024年，光生館，東京.

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・大澤航介，平田創一郎，大川由一，石井大貴：日本の障害者歯科医療提供体制の二次医療圏単位での検討，社会歯科学会雑誌，16，2-14，2023.
- ・石川裕子，鈴鹿祐子，麻賀多美代，麻生智子，山中紗都，大川由一，酒巻裕之：某大学歯科衛生学科卒業生の歯科衛生士としての現状とリカレント教育に関する要望，日本歯科衛生教育学会雑誌，14，95-102，2023.
- ・鈴鹿祐子，大川由一，諏訪間加奈，黒川孝一，葭原明弘：歯科衛生士養成校学生の臨床実習におけるストレス反応の実態と関連要因，日本歯科衛生教育学会雑誌，18，26-37，2023.

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・石井大貴，平田創一郎，大澤航介，大川由一：GISによる歯科訪問診療高齢者人口カバー率－関東信越厚生局管轄

地域の都県別調査一，第8回社会歯科学会学術大会，2023年6月25日，彩の国すこやかプラザ（さいたま市）。

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等（活動名称，活動期間，場所等）

1) 千葉県内

- ・ほい大健康プログラム（歯科診療室プログラム），2024年1月27日，保健医療大学。

2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等，活動期間，場所等）

- ・歯科診療，2009年4月～現在に至る，千葉県立保健医療大学歯科診療室。

4 職能団体委員等（職能団体名称，委員名称，活動期間）

- ・（一社）全国歯科衛生士教育協議会，理事，2014年4月1日～現在に至る。
- ・（一社）全国歯科衛生士教育協議会，教育委員会理事，2014年4月1日～現在に至る。
- ・（一社）全国歯科衛生士教育協議会，教育問題検討委員会委員，2014年4月1日～現在に至る。
- ・（一社）全国歯科衛生士教育協議会，認定委員会委員，2014年4月1日～現在に至る。

5 学会，学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本口腔衛生学会，日本公衆衛生学会，日本老年歯科医学会，日本歯科医療管理学会，日本歯科医学教育学会，社会歯科学会，日本歯科衛生学会，日本歯科衛生教育学会，日本障害者歯科学会，東京歯科大学学会。

2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）

- ・日本歯科衛生教育学会，監事，2022年4月1日～現在に至る。
- ・日本歯科衛生教育学会，評議員，2022年4月1日～現在に至る。
- ・日本歯科衛生教育学会，編集委員会査読委員，2013年4月1日～現在に至る。
- ・日本口腔衛生学会，歯科衛生士委員会委員，2017年5月31日～現在に至る。
- ・日本歯科衛生学会，倫理審査委員会委員，2021年6月13日～現在に至る。

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称，主催 団体名称，講演テーマ等，対象，開催日時，場所）

- ・2023年度東京歯科大学大学院講義，臨床・基礎研究に必要な統計解析の基本について，東京歯科大学大学院生，2024年1月25-26日，東京歯科大学。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・大学運営会議，教授会，将来構想検討委員会，総務・企画委員会，広報委員会，危機管理委員会，キャンパス・ハラスメント防止対策委員会，教員資格審査委員会（理学・助教）2023.4.25～，教員資格審査委員会（歯科・准教授）2023.6.2～，教員資格審査委員会（理学・共通教育・教授）2023.9.26～。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・歯科衛生学科 第4学年担任。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動では Teams の活用を図りながら対面授業で学生の自己主導型学習を支援し，担当責任者としての科目で高い授業評価が得られた。研究活動では学内外の研究者と共同研究に取り組み，その成果を論文として公表した。社会貢

献では歯科診療とほい大健康プログラム（歯科診療室プログラム）の講師として尽力した。学内の管理運営では大学認証評価受審評価結果に対応すべく管理運営部門群を中心とした各委員会委員長と連携しながら対応した。

VII 次年度の目標

教育活動では演習および実習科目を中心に学生の自己主導型学習を支援する。研究活動では引き続き学内外の研究者と共同研究に取り組み、その成果を公表する。社会貢献では地域住民を対象とした歯科診療とほい大健康プログラム等の社会活動に取り組む。学内の管理運営では、学長、学部長、学科専攻長、学内委員長、事務局と連携しながら学内の諸課題に適切に対応する。

教授 島田 美恵子 博士 (体育学)

対象期間：2023年4月1日～2024年3月31日まで

I 年度当初の目標

- ①科学研究費「疾患活動性が低いリウマチ患者への機器を活用した自己管理における意思決定支援の手法の開発」について、論文を発表する。
- ②学内共同研究課題として採択されてきた、千葉県のフィールド調査をまとめ、論文にする。
- ③特色科目委員長として、特色科目の過去の状況および現状の問題点をまとめ、今後の指針を得る。
- ④過去に取得したデータをまとめ、論文として発表する。長期縦断的に協力いただいているフィールドを、できれば後進に譲り、継承していただけるようにしたい。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・体験ゼミナール。
- ・千葉県の健康づくり。
- ・前・後期 健康スポーツ科学。
- ・前・後期 生涯身体運動科学。
- ・運動生理学総論。
- ・健康と運動。
- ・生理学実験。
- ・卒業研究。
- ・歯科衛生体験演習。

2) 他大学、大学院等の非常勤講師 (科目名、大学名)

※ 国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所 (国立健康・栄養研究所 身体活動研究部 客員研究員)

III 研究記録

3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- ・Mieko Shimada, Michiyo Asai, Taro Okamura, Yuya Narita, Masahiro Edo, Nobuko Hongu. Changes in grip strength and health status after one year of patients with rheumatoid arthritis. American College of Sports Medicine Annual Meeting, May 2023.
- ・Yasuo Kimura, Mamoru Hisatomi 1, Toshinobu Ikegami, Kazuko Ohki, Mieko Shimada, Nobuko Hongu: Relationship between walking frequency and physical, motor, cognitive functions in older Japanese women. American College of Sports Medicine Annual Meeting, May 2023.
- ・吉武裕, 山本直史, 木村靖夫, 東恩納玲代, 島田美恵子. 高齢者における開眼片脚立ちと総死亡との関連：コホート研究. 第73回日本体育・健康スポーツ学会. 2023. 8, 同志社大学, 京都.
- ・成田悠哉, 西山貴裕, 江戸優裕, 島田美恵子, 岡村太郎. 目的別の外出頻度と要支援要介護リスクとの関連, 第57回日本作業療法学会, 2023. 11, 沖縄.
- ・江戸優裕, 成田悠哉, 島田美恵子, 岡村太郎. 骨格筋の質と身体活動強度および要介護リスクとの関係. 第29回千葉県理学療法学会, 2024. 3, 国際医療大学, 千葉.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・学内共同研究 身長を活用した慢性疾患を有する地域在住高齢者に対する健康支援 研究代表者
- ・科研費 超高齢期における口腔機能低下を栄養摂取と身体的フレイルから考える 研究分担者

6 受賞・特許

- ・第29回千葉県理学療法学会大会，最優秀一般演題賞

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等（活動名称，活動期間，場所等）

- 1) 千葉県内
 - ・松戸市東部地区社会福祉協議会ふれあい広場 11月26日 松戸第5中学校
- 2) 千葉県外
 - ・横須賀市浦上台北町内会 清掃活動

2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等，活動期間，場所等）

- ・流山市南部地域包括支援センター 健康体操教室指導，2023年4月～2024年3月（計12回）流山ケアセンター，
- ・幕張ファミリーハイツ体操教室 2023年4月～2024年3月第2・第4月曜日午後（計21回），ファミリーハイツ集会所

5 学会，学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
 - ・日本体力医学会，日本体育・健康スポーツ学会，日本測定評価学会，日本バイオメカニクス学会，日本栄養改善学会，日本栄養・食糧学会，日本口腔衛生学会，日本公衆衛生学会，大学体育連合，日本疫学会，American College of Sports Medicine.
- 2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）
 - ・査読 Sensors 1編 Healthcare 2編

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称，主催 団体名称，講演テーマ等，対象，開催日時，場所）

- ・柏シルバー大学院生涯課程D組 「運動支援と後期高齢者の関節炎とのかかわり」 2024年2月19日 東葛テクノプラザ

7 その他

- ・学校説明会 専修松戸高等学校 7月11日
- ・バスケットサークル OB/OG会支援 2月17日

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・特色科目運営会（委員長），共通教育運営会議，研究倫理審査委員会，動物部会，図書委員会。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・1年生 チューター。

3 対外広報活動＜新聞・ホームページでの活動・TV出演，ラジオ出演等＞

- ・ACSM blog The Journey to Denver: An ACSM Annual Meeting Story <https://www.acsm.org/blog-detail/acsm->

VI 評価（成果および改善すべき事項）

科研費採択課題について、論文を投稿したものの2023年度中の採択とはならなかった。引き続き論文投稿に励む。特色科目について、科目間の関係や新科目「社会実習」の開講について検討した。

VII 次年度の目標

次年度で定年を迎える。学内共同研究費をいただいて開拓した研究フィールドを、共同研究者が継続してくださるのであれば、スムーズに引き継ぎできるように努める。

教授 石川 裕子 博士（歯学）

対象期間：2023年4月1日～2024年3月31日まで

I 年度当初の目標

授業および実習については、新しい教員を含めた教員間で相談しながら内容改善を行う。研究については、昨年度、学会発表を行った内容を論文投稿を行う。また新たな教育をテーマとする研究を計画する。さらに、卒業生に対する各種相談などシステムづくりを少しずつでも計画し、実行を目指す。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・ 歯科衛生体験演習Ⅰ.
- ・ 歯科衛生体験演習Ⅱ.
- ・ 歯科衛生学概論.
- ・ 歯科衛生アセスメント論.
- ・ 歯科保健指導・健康教育論.
- ・ 歯科保健指導演習Ⅰ.
- ・ 歯科保健指導演習Ⅱ.
- ・ 歯科診療室基礎実習.
- ・ 継続個別支援実習Ⅰ.
- ・ 継続個別支援実習Ⅱ.
- ・ 発達歯科衛生実習Ⅰ（小児）.
- ・ 歯科診療室総合実習Ⅰ.
- ・ 歯科診療室総合実習Ⅱ.
- ・ 病院実習.
- ・ 卒業研究.

III 研究記録

1 著書（著者本人下線：著書，発行年，発行所，発行場所）

- ・ 一般社団法人全国歯科衛生士教育協議会 監修，寺尾豊，前田健康，佐藤聡，遠藤圭子，石川裕子 編集，寺尾豊，吉田明弘，川端重忠，今井健一，土門久哲 執筆：歯科衛生学シリーズ 第2版 疾病の成り立ち及び回復過程の促進 2 微生物学，2024年，医歯薬出版，東京.

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・ 石川裕子，鈴鹿祐子，麻賀多美代，麻生智子，山中紗都，大川由一，酒巻裕之：某大学歯科衛生学科卒業生の歯科衛生士としての現状とリカレント教育に関する要望，日本歯科衛生教育学会雑誌 14(2)：95-102，2023.

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・ 木下睦実，鈴鹿祐子，大川由一，石川裕子：歯科衛生学科におけるお薬手帳の認識と活用に関する調査，歯科衛生学会第18回学術大会，静岡，2023. 9.16-9.18.
- ・ 酒巻裕之，鈴鹿祐子，山中紗都，栗原涼子，石川裕子：口腔粘膜病変に関わる歯科衛生士研修会の実施報告，第14回日本歯科衛生教育学会学術大会，東京，2023. 12.2-12.3.

4 学術集会での招待講演（教育講演や基調講演）やシンポジウム等（学術集会名，テーマ，開催日，場所等）

- ・第33回近畿北陸地区歯科衛生士教育協議会：これからの歯科衛生士教育に求められること（特別講演），2023. 7. 28，ピアザ淡海 滋賀県立県民交流センター。
- ・関東甲信越歯科医療管理学会第29回学術大会：これから求められる歯科衛生士とその教育 ―卒後研修，リカレント教育の必要性―（教育講演），2023. 11. 12，神奈川歯科大学横浜クリニック7階会議室。

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・学長裁量研究，口腔機能低下症に関する歯科衛生士リカレント教育の実施，研究分担者。

IV 社会貢献・国際交流記録

2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等，活動期間，場所等）

- ・継続個別支援・歯科診療補助の実施，2018年9月～現在に至る，千葉県立保健医療大学歯科診療室。

4 職能団体委員等（職能団体名称，委員名称，活動期間）

- ・（一社）全国歯科衛生士教育協議会，理事，2021年6月～現在に至る。
- ・（一社）全国歯科衛生士教育協議会，認定委員会委員長，2021年6月～現在に至る。
- ・（一社）全国歯科衛生士教育協議会，教育委員会委員，2021年6月～現在に至る。
- ・（一社）全国歯科衛生士教育協議会，モデル・コア・カリキュラム検討会 4 大部会委員，2024年1月～現在に至る。

5 学会，学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本歯科衛生学会，日本歯科衛生教育学会，日本歯科基礎医学会，日本歯科医学教育学会。

2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）

- ・日本歯科衛生教育学会，理事長，2022年～現在に至る。
- ・日本歯科衛生教育学会，常任理事・理事，2016年～現在に至る。
- ・日本歯科衛生教育学会，評議員，2013年～現在に至る。

7 その他

- ・医歯薬出版株式会社，「歯科衛生学シリーズ 生化学・口腔生化学」編集委員，2023年5月～2024年6月
- ・医歯薬出版株式会社，「歯科衛生学シリーズ 栄養学」編集委員，2023年7月～2024年6月

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・教授会，総務・企画委員会，入試実施委員会，入試改革検討委員会，研究倫理審査委員会，再任審査委員会，認証評価部会，教員資格審査委員会。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・歯科衛生学科会議，歯科診療室会議。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

学科教員欠員が2名あり，私自身も療養休暇を8月に取得させていただいたが，学科内の教員と協力し予定していた授業・実習等を全て行うことができた。また，一昨年から行っていた学科卒業生に対する調査研究が論文受理され

たことは研究成果といえる。改善すべき事項としては、地域におけるボランティア活動等を行うことができなかった点である。

VII 次年度の目標

授業および実習については、今後作成される歯科衛生学教育・コアカリキュラムの内容や新々カリキュラム内容を勘案しながら内容改善を行う。昨年度できなかった歯科衛生学教育をテーマとする研究を計画・実施する。

教授 鈴鹿 祐子 博士（口腔保健福祉学）

対象期間：2023年4月1日～2024年3月31日まで

I 年度当初の目標

教育については、担当科目が増えるが一つ一つ丁寧に準備し、学生に理解しやすい授業をするよう工夫を心掛ける。研究については、教育、臨床の業務とのバランスを調整し、新しい課題についてスムーズに遂行できるように努力したい。

社会貢献についても積極的に行い、特に地域に貢献するよう努力する。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・チーム歯科医療論.
- ・歯科医療安全論.
- ・発達歯科衛生学Ⅰ（小児）.
- ・リスクマネジメント論.
- ・歯科診療補助演習.
- ・歯科予防処置演習.
- ・歯科衛生体験演習Ⅱ.
- ・歯科診療室基礎実習.
- ・歯科診療室総合実習Ⅰ・Ⅱ.
- ・継続・個別支援実習Ⅰ・Ⅱ.
- ・歯科診療所実習.
- ・発達歯科衛生実習Ⅰ（小児）.
- ・卒業研究.

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年. 本人下線）

- ・石川裕子，鈴鹿祐子，麻賀多美代，麻生智子，山中紗都，大川由一，酒巻裕之：某大学歯科衛生学科卒業生の歯科衛生士としての現状とリカレント教育に関する要望，日本歯科衛生教育学会雑誌，14（2）：95-102，2023.
- ・鈴鹿祐子，大川由一，諏訪間加奈，黒川孝一，葭原明弘：歯科衛生士養成校学生の臨床実習におけるストレス反応の実態と関連要因，日本歯科衛生学会雑誌，18（2）：26-37，2024.

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等. 本人下線）

- ・鈴鹿祐子，成田悠哉，渡辺陵介，松尾真輔，西村克枝，麻賀多美代，大川由一，岡村太郎：「歯磨き行為による認知評価」の試み，第18回日本歯科衛生学会学術大会，2023年9月16日～9月18日，静岡.
- ・木下睦実，鈴鹿祐子，大川由一，石川裕子：歯科衛生学科学生におけるお薬手帳の認識と活用に関する調査，第18回日本歯科衛生学会学術大会，2023年9月16日～9月18日，静岡.
- ・酒巻裕之，鈴鹿祐子，山中紗都，栗原涼子，石川裕子：口腔粘膜病変に関わる歯科衛生士研修会の実施報告，第14回日本歯科衛生教育学会学術大会，2023年12月2日～12月3日，東京.

- 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）
- ・学長裁量研究，高齢者の口腔機能低下症に関わる歯科衛生士研修会の効果に関する検討（共同研究者）

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等（活動名称，活動期間，場所等）

1) 千葉県内

- ・第1回いすみ市新・ほい大健康プログラム，2023年10月28日，岬ふれあい会館。
- ・第2回UR新・ほい大健康プログラム，2023年11月11日，URさつきが丘団地。
- ・第1回健康教室，2023年1月27日，千葉県立保健医療大学。
- ・第30回歯みがき&でんたるカップミニサッカー大会（千葉市歯科医師会主催），2023年11月19日，千葉ポートアリーナ

2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等，活動期間，場所等）

- ・継続個別支援・歯科診療補助の実施，2023年4月～2024年3月，千葉県立保健医療大学歯科診療室。

3 審議会，委員会，国家試験委員等の実績（活動団体名称，委員名称，活動期間）

- ・千葉県歯科衛生士育成協議会，運営委員，2019年4月1日～現在に至る。
- ・全国大学歯科衛生士教育協議会，理事，2023年4月1日～現在に至る。

5 学会，学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本障害者歯科学会，ヘルスカウンセリング学会，日本歯周病学会，日本歯科衛生学会，日本咀嚼学会，日本歯科医学教育学会，日本歯科衛生教育学会，日本口腔ケア学会。

2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）

- ・日本歯科衛生教育学会，評議員，2021年4月～現在に至る。
- ・日本歯科衛生教育学会，理事，2022年4月～現在に至る。
- ・日本歯科衛生教育学会，編集委員会委員，2022年4月～現在に至る。
- ・日本歯科衛生教育学会，規程検討委員会副委員長，2022年4月～現在に至る。

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称，主催，団体名称，講演テーマ等，対象，開催日時，場所）

- ・令和5年度 日歯認定歯科助手講習会，千葉県歯科医師会，高齢者への対応，2023年9月24日，千葉県立保健医療大学。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・学生委員会，教務委員会，社会貢献委員会，第三次カリキュラム評価検討部会，相談員。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・歯科衛生学科会議，歯科診療室会議。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育については，教材を見直し，アップデートして学生が理解しやすい授業をできるようにした。演習・実習については安全対策を講じながらも効率的な実習を実施し，学生へは慎重に丁寧な指導と対応を心がけた。安全に学内外

ともに学生の協力もあり無事に終了した。研究については原著論文の掲載，学会発表ができ，また，次年度に向けて研究にも着手でき充実した。社会貢献については新・ほい大プログラム等にも積極的に参加した。

VII 次年度の目標

教育については，新たに担当する科目を中心に準備を十分行い学生が理解しやすい授業をするよう工夫を心掛ける。研究については，昨年に学会発表したものを論文投稿し，さらにブラッシュアップした研究に着手する。また，積極的に職能団体などとの連携・交流を行い，地域社会に貢献していく。

准教授 荒川 真 博士（歯学）

対象期間：2023年4月1日～2024年3月31日まで

I 年度当初の目標

令和5年度は、教育、研究および診療の三面において前年度以上の成果を出していきたい。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・歯周治療学.
- ・歯科保存学.
- ・国際歯科衛生学.
- ・歯科診療室基礎実習.
- ・歯科診療室総合実習（科目責任者）.
- ・卒業研究.
- ・継続個別支援実習.
- ・発達歯科衛生実習 I（小児）.
- ・専門職間の連携活動論.
- ・千葉県健康づくり（作業部会長）.

2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名、大学名）

- ・口腔診断学、北原学院千葉歯科衛生専門学校.

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名、雑誌名、巻、号、ページ、発行年、本人下線）

- ・Arakawa M, Kaneko J, Sonoda H, Yamanaka S, Shimada Y. 6-n-propylthiouracil (PROP) as a Screening Tool for Dental Caries in Japanese. Journal of Medical and Dental Sciences. Vol.70, 33-36, 2023

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名、研究テーマ、研究代表者／研究分担者）

- ・科学研究費補助金基盤研究（C）、味覚の感受性を利用した新たなカリエスリスク判定法の可能性、研究代表者.
- ・科学研究費補助金基盤研究（C）、大気圧低温プラズマを応用した歯科漂白治療の検討、研究分担者.
- ・千葉県立保健医療大学 学内共同研究費（一般）、身長を活用した慢性疾患を有する地域在住高齢者に対する健康支援、研究分担者.

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等（活動名称、活動期間、場所等）

1) 千葉県内

- ・高校説明会、2024年3月19日、四街道地区合同（四街道、四街道北、千葉敬愛、千城台、若松高校）

2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等、活動期間、場所等）

- ・歯科診療、2016年4月～現在に至る、千葉県立保健医療大学歯科診療室.

- ・流山市南部地域包括支援センター 講話：定期的な歯科受診で得られるメリット。2024年2月8日。流山ケアセンター。
- ・幕張ファミリーハイツ体操教室 講話：定期的な歯科受診で得られるメリット。2023年11月13日。幕張ファミリーハイツ集会所。

4 職能団体委員等（職能団体名称、委員名称、活動期間）

- ・全国大学歯科衛生士教育協議会。教育・研究委員。2023年4月～

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本歯科保存学会。日本歯周病学会。日本歯科色彩学会。日本歯科衛生教育学会。日本歯科医学教育学会。

2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・日本歯科衛生教育学会 研究倫理審査委員 2019年4月～現在に至る。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・衛生委員会（衛生管理者）
- ・教育研究年報作成部会
- ・千葉県の健康づくり作業部会（部会長）
- ・紀要編集部会（部会長）
- ・学部長候補者予備選挙管理委員会（委員長）
- ・共通教育運営会議

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・歯科衛生学科会議。歯科診療室会議。歯科衛生学科1年生チューター。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

《歯科診療室》

本学歯科診療室にて、夏休み期間中や学生実習が無い期間も週4日9:30から16:00の間診療を継続してきた。

《衛生委員会》

学内の定期的巡視を行った。

VII 次年度の目標

引き続き各種業務を着実に継続、発展させたい。

准教授 佐々木 みづほ 博士 (歯学)

対象期間：2023年4月1日～2024年3月31日まで

I 年度当初の目標

高齢社会で活躍できる歯科衛生士を育てること念頭に、教育に一番比重を置きつつ、教育の土台となる大学運営に積極的に参加できるよう努める。研究面では大学のプロジェクトのみではなく、歯科衛生分野に役立てるような独自の題材で活動できるよう努力したい。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・ 歯科診断学.
- ・ 歯科補綴学.
- ・ チーム歯科医療論.
- ・ 発達歯科衛生学Ⅱ.
- ・ 歯科衛生基礎演習.
- ・ 歯科診療補助演習.
- ・ 歯科診療室補助実習.
- ・ 歯科診療室基礎実習.
- ・ 歯科診療室総合実習.
- ・ 病院実習.
- ・ 卒業研究.
- ・ 専門職間の連携活動論.

III 研究記録

2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年. 本人下線)

- ・ 川西克弥, 越野 寿, 菅 悠希, 松原国男, 木村 聡, 村田幸枝, 佐々木みづほ, 豊下祥史, 會田英紀, 川上智史, 古市保志, 長澤敏行: 災害時における歯科関連支援物資の需要と供給—北海道胆振東部地震での歯科医療支援活動を通しての解析, 北海道医療大学歯学雑誌, 42巻, 2号, 19-30, 2023年.
- ・ 佐伯恭子, 河野 舞, 工藤美奈子, 佐々木みづほ, 成田悠哉, 室井大佑: 新型コロナウイルス感染症が高齢者施設の職員に与えた影響, 千葉県立保健医療大学紀要, 15巻, 1号, 23-31, 2024年.
- ・ 河野 舞, 工藤美奈子, 佐伯恭子, 佐々木みづほ, 成田悠哉, 室井大佑: 新型コロナウイルス感染症による行動制限が施設高齢者の生活に与えた影響, 千葉県立保健医療大学紀要, 15巻, 1号, 33-40, 2024年.

3 発表 (発表者: 発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- ・ 工藤美奈子, 佐々木みづほ, 佐伯恭子, 河野 舞, 室井大佑, 成田悠哉, 龍野一郎: 新型コロナウイルス感染症による行動制限が施設高齢者の生活に与えた影響, 千葉県立保健医療大学第14回共同研究発表会, 2023年9月12-16日, オンライン.
- ・ 佐々木みづほ, 河野 舞, 工藤美奈子, 室井大佑, 金子 潤: COVID-19流行下における行動制限が施設高齢者の栄養状態に与えた影響, 日本咀嚼学会, 2023年10月28-29日, 千里ライフサイエンスセンター, 大阪.
- ・ 河野 舞, 佐々木みづほ, 工藤美奈子, 室井大佑, 金子 潤: COVID-19流行下における行動制限が施設高齢者の咀嚼・嚥下能力に与えた影響, 日本咀嚼学会, 2023年10月28-29日, 千里ライフサイエンスセンター, 大阪.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・学内共同研究費，健康寿命の延伸に寄与する歯科衛生教育のための基礎的研究，研究代表者
- ・学内共同研究費，身長を活用した慢性疾患を有する地域在住高齢者に対する健康支援，研究分担者
- ・学長裁量研究費，新型コロナウイルス感染症による行動制限が施設高齢者の生活に与えた影響，研究分担者

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等（活動名称，活動期間，場所等）

- 1) 千葉県内
 - ・高校説明会，2023年5月18日，県立船橋芝山高等学校。
 - ・高校生対象大学見学会，2023年10月24日，千葉県立保健医療大学。
 - ・ほい大健康プログラム，2024年2月17日，千葉県立保健医療大学。

2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等，活動期間，場所等）

- ・歯科診療，2023年4月～現在に至る，千葉県立保健医療大学歯科診療室。
- ・千葉市口腔ケア事業口腔機能評価，2023年4月～現在に至る，千葉県立保健医療大学歯科診療室。

5 学会，学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
 - ・日本老年歯科医学会，日本咀嚼学会，日本補綴歯科学会，日本総合歯科学会。
- 2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）
 - ・全国大学歯科衛生士教育協議会雑誌編集委員会 査読委員 2023年4月～現在に至る。

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称，主催 団体名称，講演テーマ等，対象，開催日時，場所）

- ・公開講座，健康寿命の延伸はお口の健康から一口腔機能の衰えを予防しましょうー，一般市民，2023年10月22日，千葉県立保健医療大学。

7 その他

- ・新型コロナと認知症プロジェクト（学内発足）における研究活動，2023年4月～現在に至る。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・学術推進委員会，学内共同研究審査部会，進路支援委員会，広報委員会，専門職間の連携活動論作業部会。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・歯科衛生学科会議，歯科診療室会議，歯科衛生学科2年生副チューター，国家試験対策委員。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育面では，大学運営では，正直本大学の流れについていくのに必死でクリエイティブな活動は出来なかったため，次年度は出来るよう努めたい。研究ではコロナと認知症プロジェクトに参加し，他学科教員と協力し着実に有意義な結果を出せる方向へ進めていると思う。社会貢献では休診日の木曜日以外に歯科診療室における歯科診療に携わることで地域住民の口腔健康の向上に貢献できたと思う。

VII 次年度の目標

- ・高齢社会で継続的に活躍する衛生士を育てるための教育を実施する。
- ・県民への最大奉仕となる優れた医療人の輩出を継続するため、大学運営に直結する委員会において積極的に活動する。
- ・歯科衛生教育分野の発展に寄与できるような研究を実施する。

講師 佐久間 貴士 修士（工学）

対象期間：2023年4月1日～2024年3月31日まで

I 年度当初の目標

次年度は、着任四年目だが、まだまだ慣れない本学の環境への順応と理解に務めることを目標とし、次期情報システムワーキンググループ会議を中心に学内の環境整備と運営に尽力する。また、携わる委員会の運営等にも尽力し、大学運営に貢献できるよう努力する。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
 - ・情報リテラシーI.
 - ・体験ゼミナール.
 - ・情報リテラシーII.
 - ・情報倫理.
 - ・卒業研究.
 - ・統計学.

- 2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名・大学名）
 - ・微分積分学演習C（立正大学）.
 - ・線形代数学演習C（立正大学）.
 - ・コンピュータ・リテラシー（日本大学）.

III 研究記録

1 著書（著者本人下線：著書，発行年，発行所，発行場所）

- ・菅原良（監修），佐久間貴士（翻訳），神崎秀嗣（翻訳），勝又あずさ（翻訳），坂本洋子 デイヴィス恵美（翻訳）：
クリティカル・シンキングを身につける習慣 あなたの心を変え，思考を研ぎ澄ます強力なルーティン，2023年（青山ライフ出版）

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・佐久間貴士，菅原良，奥原俊，神崎秀嗣：教育現場におけるハラスメントに対する制度的対応に関する学術的整理～学校教育現場における，教室授業，オンライン授業，医療教育に着目して～，国際ICT利用研究会研究会論文誌 第6巻 第1号，pp.3-9，2024年

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・菅原良，若林里枝子，佐久間貴士，奥原俊：オンラインミーティングツールを活用した遠隔間同期型学習環境におけるグループワークの実践と評価，第2回合意と共創（Consensus）研究会，2023年6月19日，三重大学。
- ・佐久間貴士，河内亮周，奥原俊：避難支援を実現するためのマルチエージェントシステムの構築について，第2回合意と共創（Consensus）研究会，2023年6月19日，三重大学。
- ・佐久間貴士，菅原良，奥原俊，神崎秀嗣：教育現場におけるハラスメントに対する制度的対応と受験生の認識，コンピュータ利用研究会（2023PCカンファレンス），2023年8月18日，つくば国際会議場。
- ・Takashi Sakuma，Ryo Sugawara，Shun Okuhara：Institutional response to harassment in educational settings

and recognition of students, The 1st International Conference on ICT Application Research (IAR 2023), September 11th, 2023, Fukui, Japan (Hybrid)

- ・Takashi Sakuma, Ryo Sugawara, Shun Okuhara: Moral and Legal Responsibilities in School, The 18th International Conference on Knowledge, Information and Creativity Support Systems, September 20-22, 2023, Kitakyushu International Conference Center, Kitakyushu, Japan

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・国際 ICT 利用研究学会. 情報文化学会. 教育システム情報学会. コンピュータ利用教育学会. 情報システム学会. 日本環境教育学会.

2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名. 役職. 活動期間）

- ・国際 ICT 利用研究学会. 理事. 2016 年 4 月～現在に至る.

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・広報委員会. 危機管理委員会. 共通教育運営委員会. 社会貢献委員会. IR 部会. 体験ゼミナール作業部会. 相談員.

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・歯科衛生学科会議.

VI 評価（成果および改善すべき事項）

前年度の経験や学内 FD 活動，あるいは文科省関連の研修などに積極的に参加したおかげで，ある一定数を大学に還元できたと評価している。あわせて，作成したマニュアルに関しても，他学科から一定の評価を受けることができた。引き続き，学外から多くのことを吸収し，可能な限り学内への還元を実施したいと考えている。

VII 次年度の目標

次年度は着任 5 年目となるが，毎年ではあるがなかなか難しい本学の独特な環境への順応と理解に務めることを目標とする。また，昨年から立ち上がっている次期情報システムワーキンググループ会議が準備委員へと形態を変化させ，それが情報システム委員会となり正式に立ち上がった。このような委員会活動を通して，本学の環境整備と運営に引き続き，尽力し貢献できるよう努力する。

講師 山中 紗都 修士（障害科学）

対象期間：2023年4月1日～2024年3月31日まで

I 年度当初の目標

令和5年度は、育児休業取得のため教員としての活動自体はないが、復職後にスムーズに業務に従事できるよう準備に努める。

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・Makoto Arakawa, Jun Kaneko, Hidekazu Sonoda, Sato Yamanaka and Yasushi Shimada: 6-n-propylthiouracil (PROP) as a Screening Tool for Dental Caries in Japanese people, J Med Dent Sci, 70, 33-36, 2023.
- ・石川裕子，鈴鹿祐子，麻賀多美代，麻生智子，山中紗都，大川由一，酒巻裕之：某大学歯科衛生学科卒業生の歯科衛生士としての現状とリカレント教育に関する要望，日本歯科衛生教育学科雑誌 14 (2) : 95-102, 2023.

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・酒巻裕之，鈴鹿祐子，山中紗都，栗原涼子，石川裕子：口腔粘膜病変に関わる歯科衛生士研修会の実施報告，日本歯科衛生教育学会第14回学術大会，2023年12月，東京。

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会，学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本歯科衛生学会，日本歯科衛生教育学会，日本歯周病学会，日本有病者歯科医療学会，日本歯科審美学会，日本口腔ケア学会。

2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）

- ・日本歯科衛生学会，総務委員，2021年6月～現在
- ・日本歯科衛生教育学会，評議委員，編集委員，利益相反委員，2022年～現在

VI 評価（成果および改善すべき事項）

育児休業中であったため，教育研究活動を積極的に行うことができなかったが，これまで進めてきた研究の分析を進めたりとできる範囲での活動を行った。

VII 次年度の目標

育児休業からの復帰となるため，基本となる教育活動に専念する。研究活動についてはこれまでの研究をまとめるとともに，今後の研究活動の計画を立てていきたいと考える。ワークライフバランスを考え，無理のない活動を続けていきたい。

講師 松木 千紗 博士（歯学）

対象期間：2023年4月1日～2024年3月31日まで

I 年度当初の目標

令和4年度は着任初年度のため、本学及び学科の考えを理解し、教育活動・研究活動・大学の管理運営・社会貢献の中で、自らの役割を意識して取り組み、常に学生が学業に集中できる環境を考え、サポートを行うことを目標とする。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・歯科衛生概論.
- ・歯科診療補助演習.
- ・歯科予防処置演習.
- ・顎口腔機能リハビリテーション演習.
- ・歯科衛生アセスメント論.
- ・歯科保健指導演習 I.
- ・歯科保健指導演習 II.
- ・歯科診療室基礎実習.
- ・継続・個別支援実習 I.
- ・継続・個別支援実習 II.
- ・発達歯科衛生実習 I（小児）.
- ・歯科診療室総合実習 I.
- ・歯科診療室総合実習 II.
- ・病院実習.
- ・卒業研究.
- ・専門職間の連携活動論.

III 研究記録

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等．本人下線）

- ・武村幸彦，渡邊真由美，辻上博美，花岡孝治，松木千紗，森本佳成，讃岐拓郎，石井信之，井野智，向井義晴：歯科治療のストレス評価-歯科衛生士の臨床経験年数による比較と患者認識との相違-，第58回神奈川歯科大学学術大会，2023.11.25，神奈川歯科大学

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等（活動名称．活動期間．場所等）

1) 千葉県内

- ・高校説明会．2023年12月19日．四街道地区合同（四街道，四街道北，千葉敬愛，愛国学園大学附属四街道，千城台，若松）

2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等、活動期間、場所等）

- ・継続個別支援・歯科診療補助の実施。2023年4月～現在に至る。千葉県立保健医療大学歯科診療室。

4 職能団体委員等（職能団体名称、委員名称、活動期間）

- ・全国大学歯科衛生士教育協議会。教育・研究委員会委員。2023年4月～現在に至る

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本歯科衛生学会。日本歯科衛生教育学会。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・入試実施委員会。学生委員会。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・歯科衛生学科会議。歯科診療室会議。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

令和4年度は着任初年度のため、教育活動に重きを置き、大学の考えを理解し、教職員や学生の信頼を得ることを心がけた。講義や実習においては、学生が意欲をもち取り組める資料作成や内容とした。特に国家試験対策においては、学生の学力到達度をデータ管理することで、一人一人にあったアドバイスが確実に出来るよう対応した。

大学の管理運営では、一年の流れを理解し、教職員と協働することができた。

また、社会貢献においては、歯科診療室において地域住民に貢献することができた。

VII 次年度の目標

次年度は新たに担当する科目もあり、今年度の学びをブラッシュアップし、引き続き学習効果の向上を目指し責任をもって対応していきたい。

研究活動については、自身および共同研究における研究課題について計画的に推進し、成果を着実に示す。

大学の管理運営では、引き続き各種委員会において役割を全うするとともに、4年生チューターとしての役割を理解し、就職・卒業・国家試験合格に向けて支援する。

社会貢献においては、引き続き千葉県内の保健医療に貢献できるよう積極的に参加していきたい。

助教 栗原 涼子 博士（理工学）

対象期間：2023年4月1日～2024年3月31日まで

I 年度当初の目標

令和5年度は、歯科治療の提供に貢献をし、教育・研究・管理運営・社会貢献のバランスを考えて研究活動を進め、結果の公表（学会発表等）を行う。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
 - ・ 歯科診療室基礎実習.
 - ・ 歯科診療室総合実習 I.
 - ・ 歯科診療室総合実習 II.
 - ・ 発達歯科衛生実習 I（小児）.
 - ・ 歯科診療補助演習.
 - ・ 歯科衛生体験演習 II.
 - ・ 体験ゼミナール.
 - ・ 専門職間の連携活動論.

III 研究記録

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・ 栗原涼子，白水雅子，片野勝司，中島一憲，武田友孝：日本スポーツ歯科医学会認定スポーツデンタルハイジニスト(SDH) 活動状況調査報告(第1報)，第34回日本スポーツ歯科医学会学術大会，2023年11月，福岡
- ・ 栗原涼子，白水雅子，片野勝司，中島一憲，武田友孝：日本スポーツ歯科医学会認定スポーツデンタルハイジニスト(SDH) 活動状況調査報告(第2報)，第34回日本スポーツ歯科医学会学術大会，2023年11月，福岡

IV 社会貢献・国際交流記録

2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等，活動期間，場所等）

- ・ 歯科診療補助の実施，2023年4月～2024年3月，千葉県立保健医療大学歯科診療室.

5 学会，学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
 - ・ 日本歯科衛生学会，日本歯科衛生教育学会，日本スポーツ歯科医学会，日本口腔ケア学会，東京歯科大学学会，日本摂食嚥下リハビリテーション学会.

V 管理・運営記録

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・ 歯科衛生学科会議，歯科診療室会議，図書委員会，自己点検・評価実施推進部会，紀要編集部会.

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育において、新型コロナの感染症法上の分類が5類に変更後も引き続き新型コロナウイルス感染症予防策を講じての実習指導等を行うことができた。社会貢献では、新型コロナの感染症法上の分類が5類に変更後も教育活動と同様に引き続き歯科診療室において新型コロナウイルス感染症に対しての感染予防策を講じることにより、地域住民の方々に対して歯科治療の提供を行った。大学運営に関わる業務について、図書委員会・自己点検評価実施推進部会・紀要編集部会の業務を滞りなく遂行した、図書館だよりNo.86「ぼーればーれ」において、『リレーエッセイ』の執筆を担当した。

研究については、「日本スポーツ歯科医学会認定スポーツデンタルハイジニスト（SDH）活動状況調査」（本学倫理審査承認：2022-20）に関して、第34回日本スポーツ歯科医学会学術大会において口頭発表、ポスター発表を行った。

VII 次年度の目標

教育・研究・管理運営・社会貢献の各業務を着実に進め、新たな研究についても各業務のバランスを考えて進めていく。

リハビリテーション学科
理学療法学専攻

教授（兼）専攻長 堀本 佳誉 博士（理学療法学）

対象期間：2023年4月1日～2024年3月31日まで

I 年度当初の目標

教育活動において、専攻長および教務委員長として新々カリのカリキュラムポリシーおよびカリキュラムマップ、カリキュラム評価を行い、カリキュラム改正の検討を行う。また、理学療法専門科目において、「ほい大健康プログラム」と教育内容の連動性を高めるために専門科目の部分にどのような内容を組み入れるべきかの調査を行い、今年度より実施できる体制を作る。主要な担当科目について、理学療法士に必要な知識と技術を理解しやすいよう伝達し、満足度を60%以上とする。

研究活動においては、「県の健康づくり政策のシンクタンク機能」の推進に向かって、学内の多職種連携及び地方自治体との共同研究を推進のために理学療法学専攻としての役割を明確化し、研究を立案する。また多職種連携チーム医療「ほい大健康プログラム」の理学療法学専攻担当部分を見直し、標準化を行い、千葉市UR、並びにいすみ市における展開を確実に進め、プログラムを作成し、研究を立案する。また、2022年度学内共同研究をまとめ、学会発表を行う。

管理運営に関しては、機関別認証評価の結果、本大学では主要科目の教授または准教授の担当の割合が低く、大学認証評価結果で教育の質保証の観点から改善を求められている。本専攻は教授現状2名の状態であり、医系教授1名、准教授1名が欠員となっている。早急に准教授1名の補充を行う。理学療法士の専任教員の教授または准教授の専任教員は3名であり、明らかに少ない。学科・専攻内で教員の役職の配置の検討し、大学に提案する。また、助教1名の欠員を補充する。仁戸名キャンパスの諸課題を集約し、県庁との意見交換の材料を作成する。理学療法学専攻の問題点を把握し、改善を推進する。専攻会議を、週1回、学科会議を2カ月に1回開催し、円滑な学科・専攻運営を行う。社会貢献に関しては、「ほい大健康プログラム」の理学療法学専攻担当部分を見直し、標準化を行い、県民の健康づくりに寄与する。市民公開講座について、理学療法学専攻としてできる内容を再検討する。また千葉県理学療法士会への貢献を通じ、県民の健康づくりに寄与する。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・理学療法概論.
- ・運動療法学.
- ・理学療法評価学Ⅰ.
- ・理学療法評価学演習.
- ・理学療法評価学Ⅱ.
- ・理学療法評価学Ⅲ.
- ・理学療法研究方法論.
- ・発達障害理学療法学.
- ・発達障害理学療法学演習.
- ・発達障害理学療法学特論.
- ・地域理学療法学.
- ・地域理学療法学演習.
- ・理学療法技術論.
- ・生体機能計測学.
- ・理学療法応用評価学.
- ・発展領域論.

- ・臨床体験実習.
- ・評価実習.
- ・総合実習Ⅰ.
- ・総合実習Ⅱ.
- ・地域理学療法実習.
- ・卒業研究.

Ⅲ 研究記録

1 著書（著者本人下線：著書，発行年，発行所，発行場所）

- ・新田収，堀本佳蒼，他：最新理学療法学会講座—小児理学療法学会—，2023年，医歯薬出版，東京.

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・大谷拓哉，三和真人，堀本佳蒼：3次元動作解析システムを用いたベッドからの起き上がり動作中における関節運動の分析，千葉県立保健医療大学紀要，15(1)，52，2024.

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・堀本佳蒼，杉本路斗，他：本邦における脳性麻痺児に対するリハビリテーションの介入に関するアンケート調査，第10回日本小児理学療法学会学術大会，2023年10月21日～22日，小樽.
- ・杉本路斗，堀本佳蒼，他：本邦における脳性麻痺児に対するリハビリテーションの目標指向型介入の認知度に関するアンケート調査，第10回日本小児理学療法学会学術大会，2023年10月21日～22日，小樽.
- ・大須田祐亮，堀本佳蒼，他：本邦における脳性麻痺児に対するリハビリテーションの目標設定に関するアンケート調査，第10回日本小児理学療法学会学術大会，2023年10月21日～22日，小樽.

Ⅳ 社会貢献・国際交流記録

2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等，活動期間，場所等）

- ・ちばプラン市民健康づくり大会，2023年10月14日，きぼーる.
- ・いすみ市ほい健康大プログラム，2023年11月25日，いすみ市役所.
- ・さつきが丘団地ほい健康大プログラム，2023年12月2日，さつきが丘団地.

4 職能団体委員等（職能団体名称，委員名称，活動期間）

- ・千葉県理学療法士会，障がい児・者支援部部員，2019年10月～現在に至る.
- ・千葉県理学療法士会，倫理審査委員，2019年4月～2023年5月.

5 学会，学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本理学療法士協会，日本小児理学療法学会，日本神経理学療法学会，日本理学療法教育学会，日本基礎理学療法学会，日本重症心身障害学会，重症心身障害療育学会，日本リハビリテーション臨床教育研究会.

2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）

- ・第12回日本理学療法教育学会学術大会，抄録査読（1件）.
- ・第21回日本神経理学療法学会学術大会，座長（一般演題 口演 23 神経難病・発達障害），2023年9月9日～10日.

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称，主催 団体名称，講演テーマ等，対象，開催日時，場所）

- ・臨床実習指導者講習会，千葉県立保健医療大学，臨床実習制度の理念と概要，理学療法士，2024年2月3日，Web.
- ・臨床実習指導者講習会，千葉県立保健医療大学，教育原論・人間関係論，理学療法士，2024年2月3日，Web.

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

・大学運営会議. 教授会. 共通教育運営会議. 特色科目運営会. 社会実習作業部会. 教務委員会. FD・SD委員会. 自己点検・評価委員会. 将来構想検討委員会. 総務・企画委員会. 人事委員会. 教員再任審査委員会.

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

・リハビリテーション学科会議. 理学療法学専攻会議.

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動において、専攻長および教務委員長として新々カリのカリキュラムポリシーおよびカリキュラムマップ、カリキュラム評価を行い、カリキュラム改正の検討を行うことが出来た。また、理学療法専門科目において、「ほい大健康プログラム」と教育内容の連動性を高めるために専門科目の部分にどのような内容を組み入れるべきかに関しては検討中である。主要な担当科目について、理学療法士に必要な知識と技術を理解しやすいよう伝達し、満足度が60%以上であった。

研究活動において、学内の多職種連携及び地方自治体との共同研究を推進のために理学療法学専攻としての役割を明確化し、研究を立案ことはできなかった。「ほい大健康プログラム」の理学療法学専攻担当部分を見直し、標準化の検討中である。また、2022年度学内共同研究をまとめ、3演題の学会発表を行うことが出来た。

管理運営に関して、理学療法士の准教授1名の補充を行い、空席となった助教の枠を准教授の枠に変更することが出来た。2024年度医系教授1名、理学療法士の准教授が着任予定となった。仁戸名キャンパスの諸課題を集約し、事務局との情報交換ができた。理学療法学専攻の問題点を把握し、改善を推進中である。専攻会議を、週1回、学科会議を2カ月に1回開催し、円滑な学科・専攻運営を行うことが出来た。社会貢献に関しては、「ほい大健康プログラム」の理学療法学専攻担当部分を見直し、標準化の検討中である。市民公開講座について、理学療法学専攻としてできる内容を再検討し、新たな内容で実施することが出来た。また千葉県理学療法士会への貢献を通じ、県民の健康づくりに寄与した。

VII 次年度の目標

教育活動において、専攻長および教務委員長として新カリキュラムの作成およびアセスメントポリシーの作成を行う。また、新カリキュラム作成時に理学療法専門科目において、「ほい大健康プログラム」と教育内容の連動性を高めるために専門科目の部分にどのような内容を組み入れるべきかに関しては検討を実施する。主要な担当科目について、理学療法士に必要な知識と技術を理解しやすいよう伝達し、満足度を60%以上となるように工夫する。

研究活動において、学内共同研究費および学長裁量研究費を受けた2つの研究を実施し結果を出す。「ほい大健康プログラム」の理学療法学専攻担当部分を見直し、標準化の検討する。

管理運営に関して、理学療法士の講師1名を補充する。また、助教1名の欠員を補充する。理学療法学専攻の問題点を把握し、改善を推進する。専攻会議を、週1回、学科会議を2カ月に1回開催し、円滑な学科・専攻運営を行う。

社会貢献に関しては、「ほい大健康プログラム」の理学療法学専攻担当部分を見直し、標準化を行う。また千葉県理学療法士会への貢献を通じ、県民の健康づくりに寄与する。

教授 大谷 拓哉 博士（保健学）

対象期間：2023年4月1日～2024年3月31日まで

I 年度当初の目標

専攻教員の退職、入職にともない変更となった担当講義について適切に準備をすすめ、良質な教育の実践に努める。所属委員会ならびに専攻が目標達成に向けて円滑に業務が遂行できるよう、関係各所と調整を行い、管理・運営に取り組む。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・運動学Ⅰ.
- ・運動学Ⅱ.
- ・臨床運動学.
- ・運動学実習.
- ・物理療法学.
- ・日常生活活動学.
- ・日常生活活動学演習.
- ・理学療法評価学Ⅲ.
- ・理学療法応用評価学.
- ・老年期障害理学療法学.
- ・生体機能計測学.
- ・理学療法技術論.
- ・臨床体験実習.
- ・評価実習.
- ・総合実習Ⅰ.
- ・総合実習Ⅱ.
- ・地域理学療法学実習.
- ・卒業研究.

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・大谷拓哉，三和真人，堀本佳誉：3次元動作解析システムを用いたベッドからの起き上がり動作中における関節運動の分析，千葉県立保健医療大学紀要，15(1)，52，2024.

IV 社会貢献・国際交流記録

2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等，活動期間，場所等）

- ・2023年度臨床実習指導者講習会世話人，2024年2月3日～4日，千葉県立保健医療大学.

4 職能団体委員等（職能団体名称，委員名称，活動期間）

- ・千葉県理学療法士会，学術誌編集委員会副委員長，2023年4月1日～2024年3月31日.

- ・千葉県理学療法士会. 研究倫理委員会委員. 2023年7月1日～2024年3月31日.

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本理学療法学会連合. 日本基礎理学療法学会. 理学療法科学学会. 日本ヘルスプロモーション理学療法学会. バイオメカニズム学会.

2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名. 役職. 活動期間)

- ・第42回関東甲信越ブロック理学療法士学会. 演題査読者 (4題). 2023年6月20日～21日.
- ・第28回日本基礎理学療法学会学術大会. 演題査読者 (3題). 2023年8月19日.
- ・第29回千葉県理学療法学会学術大会. 演題査読者 (2題). 2023年11月13日～2023年11月23日.

V 管理・運営記録

1 全学委員会 (委員会名/活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・国際交流委員会. 学術推進企画委員会. 認証評価部会. 入試実施委員会. 学内共同研究審査部会. キャンパスハラメント相談員. 教員資格審査委員会.

2 学科/専攻内委員会 (委員会名/活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・臨床実習調整担当. 大学説明会 (市立銚子高校, 千葉西高校, 大多喜高校). オープンキャンパス業務 (模擬授業, 個別相談). 専攻14期生担任. ほい大健康プログラム講師 (さつきが丘団地, 2023年12月2日).

VI 評価 (成果および改善すべき事項)

専攻教員の退職, 入職にともない新たに担当することになった講義について大きな問題なく実践することができた. 所属委員会ならびに専攻が目標達成に向けて円滑に業務が遂行できるよう, 関係各所と調整を行い, 管理・運営に取り組んだ.

VII 次年度の目標

担任を担っている専攻14期生が円滑に臨床実習に臨めるように, 専攻内ならびに関係各所と調整を行い, 遺漏なく必要な情報を学生に伝えるべく適切なオリエンテーションを実施する.

准教授 室井 大佑 博士（健康科学）

対象期間：2023年4月1日～2024年3月31日まで

I 年度当初の目標

講義に関して、新たに神経系理学療法を担当するため、実技を多く交えて学生に理解しやすいように工夫しながら講義を進めていく。学術面において、2022年度と同様、筆頭著者で国際誌2本のアクセプトを目指す。また、2023年度から新たに科研費を獲得したため、その研究の基盤づくりをしていく。学会や社会貢献として、千葉県理学療法士会では体制変更を予定しているため、現在の社会ニーズに合わせて対応をしていく。日本神経理学療法学会では2023年9月開催の学術大会の準備委員となっているため、その準備を行っていく。大学内の委員会では、新たに教務委員会に参加することとなったため、教務関連の法規などを確認し、カリキュラム評価等も実施していく。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・千葉県の健康づくり.
- ・理学療法評価学Ⅱ.
- ・理学療法評価学Ⅲ.
- ・日常生活活動学演習.
- ・生体機能計測学.
- ・理学療法評価学Ⅳ（画像評価）.
- ・理学療法応用評価学.
- ・神経系障害理学療法学.
- ・神経系障害理学療法学演習.
- ・理学療法学特論Ⅰ.
- ・理学療法学特論Ⅱ.
- ・理学療法管理学.
- ・発展領域論.
- ・理学療法技術論.
- ・臨床体験実習.
- ・評価実習.
- ・総合実習Ⅰ.
- ・総合実習Ⅱ.
- ・地域理学療法実習.
- ・卒業研究.

2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名、大学名）

- ・リハビリテーション論（淑徳大学）.
- ・疾患別理学療法実習（中核）（東京メディカルスポーツ専門学校）.

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名、雑誌名、巻、号、ページ、発行年、本人下線）

- ・Yasuda K, Takazawa S, Muroi D, Fujimoto Y, Hirano M, Koshino A, Iwata H: Unilateral spatial neglect

affected by right-sided stimuli in a three-dimensional virtual environment: A preliminary proof-of-concept study, Annual International Conference of the IEEE Engineering in Medicine and Biology Society, IEEE Engineering in Medicine and Biology Society, Annual International Conference, 1-4, 2023.

- Muroi D, Kodama K, Tomono T, Saito Y, Koyake A, Higuchi T: Approaching Process in Walking through an Aperture for Individuals with Stroke, Journal of Motor Behavior, 56(2), 139-149, 2024.
- 河野舞, 工藤美奈子, 佐伯恭子, 佐々木みづほ, 成田悠哉, 室井大佑: 新型コロナウイルス感染症による行動制限が施設高齢者の生活に与えた影響, 千葉県立保健医療大学紀要, 15(1), 33-40, 2024.
- 佐伯恭子, 河野舞, 工藤美奈子, 佐々木みづほ, 成田悠哉, 室井大佑: 新型コロナウイルス感染症が高齢者施設の職員に与えた影響, 千葉県立保健医療大学紀要, 15(1), 23-31, 2024.
- 室井大佑, 樋口貴広: 脳卒中者における知覚・認知と運動制御, 理学療法, 41, 256-266, 2024.

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等．本人下線）

- Daisuke Muroi, Kentaro Kodama, Takayuki Tomono, Yutaro Saito, Aki Koyake, Takahiro Higuchi: Increased head rotation in individuals with moderate paralysis due to stroke while passing a narrow aperture, International Society for Posture and Gait Research 2023, 2023年7月, Brisbane Convention Centre.
- Kentaro Kodama, Daisuke Muroi, Takayuki Tomono, Yutaro Saito, Aki Koyake, Takahiro Higuchi: Changes in behavioral complexity and walking velocity while passing a narrow aperture for individuals with stroke, International Society for Posture and Gait Research 2023, 2023年7月, Brisbane Convention Centre.

4 学術集会での招待講演（教育講演や基調講演）やシンポジウム等（学術集会名，テーマ，開催日，場所等）

- 日本神経学療法学会サテライトカンファレンス，脳卒中片麻痺者の適応的な歩行の障害，2023年7月，宮城県仙台市。
- 日本神経学療法学会学術大会，教育講演Ⅱ 歩行障害の臨床症状とメカニズム 認知制御編，2023年9月，神奈川県横浜市。

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- 日本学術振興会 科学研究費助成事業 若手研究，脳卒中片麻痺者における障害物回避時の視覚と注意の影響，研究代表者。
- 日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C)，脳卒中患者の退院後の転倒における歩行の適応的運動学習能力の関与，研究分担者。
- 千葉県立保健医療大学学内共同研究（一般），パーキンソン病における歩行中のすくみ足に繋がりうる視線行動の探索的検討，研究代表者。
- 千葉県立保健医療大学学長裁量研究，新型コロナウイルス感染症流行前後における健康診査結果からみた健康状態の変化研究分担者。

IV 社会貢献・国際交流記録

2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等．活動期間．場所等）

- 日本 ACLS 協会主催／BLS インストラクター．2023年6月1日，10月23日．亀田総合病院。

4 職能団体委員等（職能団体名称．委員名称．活動期間）

- 千葉県理学療法士協会．生涯学習局企画研修部部長．2021年度～現在に至る。

5 学会，学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- 日本理学療法士協会．千葉県理学療法士協会．日本神経学療法学会．日本ロボットリハビリテーション・ケア研究会．International Society of Posture and Gait Research．日本老年療法学会．日本咀嚼学会。

- 2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)
- ・日本ロボットリハビリテーション・ケア研究会, 世話人, 2020年8月～現在に至る。

6 講演会 (公開講座を含む) / 研修会の講師・研究指導等 (会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日時, 場所)

- ・君津市小櫃地区講演「測ってみよう! 歩行の元気度チェック」, 2024年2月16日, 小櫃公民館。
- ・亀田リハビリテーション病院理学療法士 研究指導, 2022年4月～現在に至る。

7 その他

- ・医歯薬出版, 理学療法士・作業療法士国家試験模擬試験作問委員, 2017年度～現在に至る。

V 管理・運営記録

1 全学委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・教務委員会, 社会貢献委員会, 危機管理委員会, 進路支援委員会, 学内共同研究審査部会, IR部会, 第3次カリキュラム評価検討部会, 千葉県健康づくり作業部会, 次期情報システムワーキンググループ, 情報システム委員会準備会。

2 学科/専攻内委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・リハビリテーション学科会議, 理学療法学専攻会議, 臨床実習担当。

VI 評価 (成果および改善すべき事項)

今年度から神経系障害の理学療法に関する講義を通年で担当した。本学で課題となっている実践力不足を補うために、脳卒中当事者をお呼びして、治療のデモンストレーションなどを加えた講義を展開した。委員会においては、新たに教務委員会を担当し、カリキュラムの評価部会では現状の問題を明確化した。研究に関しては、国際誌2本、国内誌3本発表した。また科研費(若手)にて視線計測機器を購入し、さらに学内共同研究費も獲得したため、脳卒中者やパーキンソン病者の視線行動研究を中心に現在も進めている。学会・地域貢献として、神経系理学療法学会での教育講演と学会準備委員を担当し、千葉県理学療法士会では企画研修部の部長として、登録理学療法士や専門・認定理学療法士の更新研修会を実施した。また、君津市小櫃地区での講演やURやいすみ市でのほい大プログラム、いすみ市との健康診断データの解析に関する会議等を実施した。年度当初に立てた目標はほぼ達成することができた。

VII 次年度の目標

講義に関して、新たに義肢装具学・義肢装具学演習を担当するため、非常勤講師と相談しながら実技を多く交えて学生に理解しやすいように工夫しながら講義を進めていく。学術面において、現在進めている視覚行動研究を中心に、筆頭著者で国際誌1本、共著を含めて合計3本のアクセプトを目指す。また、いすみ市の健康診断データ研究を引き続き実施する。学会や社会貢献として、新たに日本理学療法士協会の代議員となったため、その会議に出席する。千葉県理学療法士会では引き続き更新研修会の実施、日本支援工学学会では2024年12月開催の学術大会の準備委員となっているため、その準備を行っていく。大学内の委員会では、教務委員会としてカリキュラムの改定やカリキュラムポリシーの作成部会に参加するため、教務関連の法規などを確認し、カリキュラム改訂・カリキュラムポリシーの作成を行っていく。

講師 江戸 優裕 博士（保健医療学）

対象期間：2023年4月1日～2024年3月31日まで

I 年度当初の目標

令和5年度にはアフターコロナを迎えることが見込まれているが、コロナ前に戻すのではなくコロナ禍でのノウハウも生かした工夫により、特に教育をはじめとした各業務の質の向上に努める。また、入学以来コロナ禍に振り回されてきた4年生の担任として学生生活のサポートを行う。さらに、大学や職能団体から任せられた役割を果たすとともに、自身の研究にも注力する。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
 - ・体験ゼミナール.
 - ・人体の構造実習.
 - ・機能解剖学.
 - ・日常生活活動学演習.
 - ・物理療法学.
 - ・物理療法学演習.
 - ・運動学実習.
 - ・理学療法応用評価学.
 - ・理学療法評価学IV（画像評価）.
 - ・理学療法応用評価学.
 - ・運動器障害理学療法学.
 - ・運動器障害理学療法学演習.
 - ・理学療法学特論I（運動器・老年期）.
 - ・理学療法技術論.
 - ・生体機能計測学.
 - ・臨床体験実習.
 - ・評価実習.
 - ・総合実習I.
 - ・総合実習II.
 - ・地域理学療法学実習.
 - ・卒業研究.
- 2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名・大学名）
 - ・理学療法学（国立障害者リハビリテーションセンター学院）.

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・ Masahiro Edo, Gaku Nishizawa, Yuto Matsumura, Nobuhiro Nemoto, Naoki Yotsumoto, Shin Kojima: The Relationship Between the Effects of Lateral Wedge Insoles and Kinematic Chain Dynamics Between the Hindfoot and Lower Leg in Patients With Osteoarthritis of the Knee, Cureus, 15(4), e37624, 2023.

- ・江戸優裕:運動連鎖からみた膝関節障害の理学療法(特集 運動連鎖からみた関節障害の理学療法),理学療法,40(5),427-435,2023.
- ・江戸優裕,島田美恵子,成田悠哉,岡村太郎:地域在住高齢者における骨格筋の質と身体活動強度および要介護リスクとの関係,千葉県立保健医療大学紀要,15(1),64,2024.
- ・成田悠哉,江戸優裕,島田美恵子,岡村太郎:集合住宅に在住する高齢者の目的別の外出頻度と要支援要介護リスクの関連,千葉県立保健医療大学紀要,15(1),58,2024.

3 発表(発表者:発表タイトル,主催学会(学会名称),開催日,場所等.本人下線)

- ・Shimada Mieko, Asai Michiyo, Okamura Taro, Narita Yuya, Edo Masahiro, Hongu Nobuko: Changes in grip strength and health status after one year of patients with rheumatoid arthritis, American College of Health Medicine 2023 Annual Meeting, 2023年5月30日~6月3日, Boston Marriott Copley Place.
- ・江戸優裕:健常者の歩行における膝関節運動に関与する足部運動の分析—足部と下腿の運動連鎖を踏まえて—,第11回日本運動器理学療法学会学術大会,2023年10月13日~15日,福岡国際会議場.
- ・成田悠哉,吉次真菜,江戸優裕,島田美恵子,岡村太郎:目的別の外出頻度と要支援要介護リスクの関連,第57回日本作業療法士学会,2023年11月10日~12日,沖縄コンベンションセンター.
- ・江戸優裕:理学療法学生における観察による歩行分析の着眼点の検討—異常歩行の原因分析に着目して—,第12回日本理学療法教育学会学術大会,2023年12月9日~10日,大宮ソニックシティ.
- ・江戸優裕,島田美恵子,成田悠哉,岡村太郎:地域在住高齢者における骨格筋の質と身体活動強度および要介護リスクとの関係,第29回千葉県理学療法学術大会,2024年3月3日,国際医療福祉大学成田キャンパス.
- ・布施健太郎,江戸優裕,原田悠亮:投球動作におけるステップ脚の運動制御と球速の関係—“膝の縦割れ”に着目して—,第29回千葉県理学療法学術大会,2024年3月3日,国際医療福祉大学成田キャンパス.
- ・菊池咲葵,江戸優裕:下肢における関節弛緩性および筋タイトネスとスポーツ傷害の関係,第29回千葉県理学療法学術大会,2024年3月3日,国際医療福祉大学成田キャンパス.

5 研究資金獲得状況(外部資金・学内共同・学長裁量)(資金名,研究テーマ,研究代表者/研究分担者)

- ・日本学術振興会科学研究費(若手研究),前足部および後足部の回内外による運動連鎖を用いた歩行コントロール法,研究代表者.
- ・千葉県立保健医療大学学内共同研究費(一般),若年成人における身体柔軟性および筋質とスポーツ傷害との関係,研究代表者.

6 受賞・特許

- ・第29回千葉県理学療法学術大会 最優秀一般演題賞 受賞.

IV 社会貢献・国際交流記録

2 地域への保健医療活動(診療・技術指導等.活動期間.場所等)

- ・千葉県いすみ市共催「ほい大健康プログラム」.2023年11月25日.いすみ市役所.

4 職能団体委員等(職能団体名称.委員名称.活動期間)

- ・千葉県理学療法士会.代議員.2019年度~現在に至る.
- ・千葉県理学療法士会.学術企画研修部員.2019年11月~現在に至る.
- ・千葉県理学療法士会.千葉ブロック介護予防推進リーダーWGメンバー.2021年6月~現在に至る.
- ・千葉県理学療法士会.臨床実習指導者講習会(東都大学)世話人.2023年8月5日~6日.
- ・千葉県理学療法士会.千葉ブロック副ブロック長.2023年2月~現在に至る.
- ・日本理学療法士協会.イオン株式会社との就労支援事業運営スタッフ(イオン稲毛店).2023年5月22日.

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本基礎理学療法学会、日本運動器理学療法学会、臨床歩行分析研究会、バイオメカニクス学会、理学療法科学学会、日本臨床バイオメカニクス学会、International Society of Posture and Gait Research、International Society of Biomechanics.

2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・第12回日本理学療法教育学会、準備委員、2022年3月～2023年12月。
- ・第11回日本運動器理学療法学会学術大会、一般演題セッション座長、2023年10月14日。
- ・第6回日本産業理学療法学会学術大会、一般演題セッション座長、2023年10月29日。
- ・第28回日本基礎理学療法学会学術大会、一般演題セッション座長、2023年12月2日。
- ・第29回千葉県理学療法士学会、一般演題セッション座長、2024年3月3日。
- ・第42回関東甲信越ブロック理学療法士学会、演題査読、2023年度。
- ・第11回日本運動器理学療法学会学術大会、演題査読、2023年度。
- ・第28回日本基礎理学療法学会学術大会、演題査読、2023年度。
- ・第10回日本地域理学療法学会学術大会、演題査読、2023年度。
- ・第11回日本筋骨格系徒手理学療法研究会学術大会、演題査読、2023年度。
- ・日本物理療法合同学術大会2024、演題査読、2023年度。
- ・第29回千葉県理学療法学会学術大会、演題査読、2023年度。
- ・千葉県理学療法士会学術誌「理学療法の科学と研究」、論文査読、2023年度。

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日時、場所）

- ・千葉県理学療法士会主催更新研修会Ⅲ、千葉県理学療法士会、生涯学習制度を踏まえたスタッフ教育—養成校の立場から—、理学療法士、2023年8月28日、オンライン。
- ・千葉県理学療法士会千葉ブロック管理者の集い、千葉県理学療法士会千葉ブロック、スタッフ教育どうしてる？（ファシリテーター）、理学療法士、2023年9月8日、オンライン。

7 その他

- ・理学療法士・作業療法士国家試験模擬試験作問委員、医歯薬出版、2017年度～現在に至る。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・体験ゼミナール作業部会、学術推進企画委員会、自己点検・評価実施推進部会、紀要編集部会、教育研究年報作成部会、相談員。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・リハビリテーション学科会議、理学療法学専攻会議。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

対面にオンライン技術を併用した授業は好評であり、アフターコロナにおける教育の質を担保できたと考える。担任学年である4年生は国試合格率と就職内定率いずれも100%で無事卒業できた。一方で、自身の研究遂行は不十分であった。

VII 次年度の目標

専門である運動器障害系の担当コマ数が増加するため、理学療法学教育モデル・コア・カリキュラムの該当分野を踏まえつつ教育内容を再編し、引き続き教育の質の向上を図る。また、他の教員・事務局と連携して専攻や大学の各種業務の効率性・円滑性の向上に努める。さらに、職能団体から任せられた役割を果たすとともに、自身の研究にも注力する。

講師 稲垣 武 博士 (医学)

対象期間：2023年4月1日～2024年3月31日まで

I 年度当初の目標

令和5年度は、着任して初年度になるため、まず自身の講義に必要な備品や消耗品の把握と充足、学生が理解しやすい授業資料の作成を目指す。また、1年生の担任として、積極的にコミュニケーションを取りつつ、まだ学校生活に慣れていない学生に対する情報提供や相談等のサポートを行う。その他、専任教員の資格取得、学術活動（論文作成や講演）や地域貢献（肺年齢測定）、大学の運営に関わる業務にも尽力する。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・人体の機能実習.
- ・機能解剖学.
- ・運動療法学.
- ・理学療法評価学Ⅰ.
- ・評価学演習.
- ・理学療法評価学Ⅳ.
- ・物理療法学.
- ・物理療法学演習.
- ・理学療法学特論Ⅱ.
- ・内部障害理学療法学.
- ・内部障害理学療法学演習.
- ・地域理学療法学演習.
- ・理学療法技術論.
- ・生体機能計測学.
- ・理学療法応用評価学.
- ・発展領域論.
- ・臨床体験実習.
- ・評価実習.
- ・臨床実習Ⅰ.
- ・臨床実習Ⅱ.
- ・地域理学療法学実習.
- ・卒業研究.

2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名、大学名）

- ・運動療法Ⅴ（呼吸器疾患）（藤リハビリテーション学院）.

III 研究記録

1 著書（著者本人下線：著書、発行年、発行所、発行場所）

- ・稲垣武、田邊信宏：MEDICAL REHABILITATION（分担執筆：慢性血栓塞栓性肺高血圧症（CTEPH）患者の在宅呼吸リハビリテーション）、2023年、全日本病院出版会、東京.

- ・稲垣武：みんなの呼吸器 Respica（低酸素血症を予防するもっとレベルアップ呼吸リハビリテーション Planner），メディカ出版，大阪。
- ・稲垣武：Pulmonary Hypertension Update（分担執筆：医療スタッフのためのPH治療支援の実際），2023年，メディカルレビュー社，大阪。

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・奈良猛，稲垣武，小野亮平，村田淳：長期人工呼吸器患者に対する気管切開下吸気筋トレーニングと積極的歩行運動の経験，呼吸理学療法学，2(1)，39-46，2023。
- ・柳田頼英，川越厚良，稲垣武，守川恵助，白石匡，杉谷竜司：オンラインを通じた Under 40 全国呼吸器疾患関連症例検討会の取り組み，呼吸理学療法学，2(1)，47-53，2023。
- ・Imamura S，Inagaki T，Abe M，Terada J，Kawasaki T，Nagashima K，Tatsumi K，Suzuki T：Impaired dynamic response of oxygen saturation during the 6-min walk test is associated with mortality in chronic fibrosing interstitial pneumonia，Respir Care，68(3)，356-365，2023。
- ・Kuroiwa R，Tateishi Y，Oshima T，Shibuya K，Inagaki T，Murata A，Kuwabara S：Cardiovascular autonomic dysfunction induced by mechanical insufflation-exsufflation in Guillan-Barre syndrome，Respirol Case Rep，11(5)，e01135，2023。

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・稲垣武，伊狩潤，鈴木拓児：若年発症の最重症 COPD 症例に対する在宅ハイフローセラピーを用いた運動療法指導の経験，第 33 回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会，2023 年 12 月 1 日，宮城県。

4 学術集会での招待講演（教育講演や基調講演）やシンポジウム等（学術集会名，テーマ，開催日，場所等）

- ・第 8 回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会関東支部学術集会，教育セミナーI 間質性肺疾患に対する呼吸リハビリテーション～理学療法士の立場から～，2023 年 5 月 27 日，東京都。

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・日本学術振興会科学研究費 若手研究，肺高血圧症に対する呼吸リハビリテーションの確立：運動時肺高血圧に着目して，研究代表者。

IV 社会貢献・国際交流記録

2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等，活動期間，場所等）

- ・千葉県立保健医療大学公開講座，2023 年 10 月 22 日，オンライン。
- ・千葉県いすみ市ほい大プログラム，2023 年 11 月 25 日，いすみ市役所。

4 職能団体委員等（職能団体名称，委員名称，活動期間）

- ・千葉県理学療法士会，代議員，2016 年～現在に至る。
- ・千葉県理学療法士会，研究支援委員会 副委員長，2019 年～現在に至る。

5 学会，学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本呼吸器学会，日本呼吸ケア・リハビリテーション学会，日本肺高血圧・肺循環学会，日本呼吸理学療法学会，日本臨床生理学会。

2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）

- ・日本呼吸理学療法学会，評議員，2021 年～現在に至る。
- ・日本呼吸理学療法学会，国際委員会委員，2022 年～現在に至る。

- ・日本呼吸ケア・リハビリテーション学会. 代議員. 2016年～現在に至る.
- ・呼吸理学療法学. 論文査読.
- ・日本呼吸ケア・リハビリテーション学会雑誌. 論文査読.
- ・理学療法の科学と研究. 論文査読.

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称. 主催 団体名称. 講演テーマ等. 対象. 開催日時. 場所）

- ・第8回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会関東支部学術集会 実技講習会. フィジカルアセスメント. 2023年5月27日, 東京都.
- ・COPD Multi-Professional Conference. 動きたくなる！呼吸リハビリテーション～自宅のできる運動療法～. 2023年8月. オンライン.
- ・理学療法士講習会（応用編）. 非COPD患者に対する呼吸リハビリテーション. 2023年9月. オンライン.
- ・愛知県理学療法士会主催若手理学療法士による疾患別呼吸理学療法オンラインセミナー. 間質性肺疾患患者に対する呼吸リハビリテーション. 2023年11月. オンライン.
- ・第3回人工呼吸セミナー. 集中治療領域における早期呼吸リハビリテーション. 2024年3月. オンライン.
- ・第4回千葉呼吸ケアネットワーク勉強会. 間質性肺炎患者に対する呼吸リハビリテーション. 2024年2月. 千葉県.
- ・千葉茨城呼吸リハビリテーション講演会. 間質性肺疾患における運動時低酸素評価と呼吸リハビリテーション. 2024年2月. オンライン.
- ・神奈川呼吸器フェローシップセミナー. チームで取り組む肺移植のリハビリテーション. 2024年2月. オンライン.

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・学生委員会. 広報委員会. 入試実施委員会. 図書委員会. 専門職の連携活動論作業部会. 紀要編集部会.

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・リハビリテーション学科会議. 理学療法学専攻会議.

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教員1年目を終え、自身が担当する科目に必要な物品の把握や補充、講義資料の作成を行い、今後の授業展開の土台を作ることができた。一方で、学生が理解を深めるための工夫を行う余地は十分にあり、次年度の課題である。また、専任教員を取得するための講習会への参加、担任業務、委員会への参加等から現職の役割や仕事内容について学ぶことができた。その他、学術活動として学会発表や講演、共著論文の掲載や総説の執筆、地域貢献として肺年齢測定と市民公開講座も実施できた。特に肺年齢測定については、研究も視野に入れて継続していきたい。

VII 次年度の目標

令和6年度は入職2年目になるため、学生がより理解しやすいように講義資料や実技等の内容のブラッシュアップを行う。また、新たに日常生活活動学を担当することになるため、必要な知識・技術が習得できるよう内容を検討する。加えて、共同研究費を取得したため、肺年齢測定を通じた県民への貢献と、そこから得られたデータをもとに研究活動も進める。その他、引き続き2年生の担任業務や大学運営に関わる委員会業務にも注力する。

助教 坂崎 純太郎 修士（健康科学）

対象期間：2023年10月1日～2024年3月31日まで

I 年度当初の目標

令和5年10月より着任し、1年目であるため、本学の環境へ順応し、各学年の年間スケジュールの理解に努める。また、次年度に向けた助教教務及び学内業務の効率化を提案・改善を進めていく。教育面に関しては、臨床現場での経験的知識を学生に還元できるような実践的な授業の構築を目指す。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・運動学実習.
- ・専門職間の連携活動論.
- ・物理療法学.
- ・物理療法学演習.
- ・機能解剖学.
- ・物理療法学演習.
- ・理学療法応用評価学.
- ・理学療法評価学Ⅲ.
- ・理学療法学特論Ⅱ.
- ・臨床体験実習.
- ・評価実習.
- ・総合実習Ⅰ.
- ・総合実習Ⅱ.
- ・地域理学療法学実習.
- ・卒業研究.

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・Suda Y, Kodama K, Nakamura T, Sakazaki J, Higuchi T: Motor flexibility to stabilize the toe position during obstacle crossing in older adults: an investigation using an uncontrolled manifold analysis, *Frontiers in Sports and Active Living*, 6, 1382194, 2024.

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・坂崎純太郎，奥山航平，道願正歩，鈴木満里乃，井上靖悟，山田健，川上途行，水野勝広：脳血管疾患により生じた眼球運動障害に対する評価と介入の実践～複視改善と歩行自立への提案～，日本転倒予防学会第10回学術集会，2023年10月8日。
- ・奥山航平，鈴木満里乃，坂崎純太郎，道願正歩，井上靖悟，川上途行：恐怖心により予測的姿勢制御の障害をきたした大腿骨転子部骨折患者の一例～表面筋電図を用いた原因分析～，日本転倒予防学会第10回学術集会，2023年10月8日。
- ・鈴木満里乃，奥山航平，坂崎純太郎，道願正歩，井上靖悟，川上途行：歩行時に頻発する膝折れにより歩行自立が困難であった大腿骨転子部骨折患者～心理面を考慮したリハビリテーションの試み～，日本転倒予防学会第10回

学術集会，2023年10月8日。

- ・須田祐貴，児玉謙太郎，中村高仁，坂崎純太郎，樋口貴広：高齢者における保守的な障害物回避：その功罪，第10回日本予防理学療法学会学術大会，2023年10月8日。
- ・山本真生，坂崎純太郎，奥山航平，立本将士，井上靖悟，山田健：回復期脳卒中患者に対するFastFESと装具療法の併用効果，回復期リハビリテーション病棟協会第43回研究大会，2024年3月8日，熊本。

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等（活動名称，活動期間，場所等）

2) 千葉県外

- ・「大学・高専連携事業基金」事業（共同研究） 視覚・動作誘導による自動車の乗降支援の研究，2023年～現在に至る。東京都立大学。
- ・高大連携活動 東京都立南多摩中等教育学校学生への研究指導，2023年7月～12月，東京都立大学。

4 職能団体委員等（職能団体名称，委員名称，活動期間）

- ・日本神経理学療法学会千葉地方会，事務局，2023年12月～現在に至る。

5 学会，学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本理学療法士協会，千葉県理学療法士協会，日本地域理学療法学会，日本神経理学療法学会千葉地方会。

V 管理・運営記録

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・リハビリテーション学科会議，理学療法学専攻会議，臨床指導者講習会議，新型コロナと認知症プロジェクトチーム。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育に関しては，臨床経験に基づいたリハビリテーション機器の使用手法や評価方法を中心に講義を行うことができたと考える。また，学外の高校生・高等専門学校の学生への研究活動を通じた支援を行う事で，医療関係の枠を超えた学術的支援を行うことができた。研究活動に関しては，国際誌共著並び学会発表を複数行うことができ，現在は各報告を論文化に向けた取り組みを行っている。学内での研究活動としては，新型コロナと認知症プロジェクトチームの一員として，データ解析を進めている。その他，助教業務の効率化を専攻内外へ働きかけ執り行っている。

VII 次年度の目標

次年度の目標としては，教育面に関しては，本年度の講義内容をブラッシュアップし，社会と学生の両方のニーズに沿った講義を計画する。また，研究に関しては，研究費獲得及び学内での研究環境構築を進めていきたいと考える。

リハビリテーション学科
作業療法学専攻

教授（兼）学科長（兼）専攻長 岡村 太郎 博士（医学）

対象期間：2023年4月1日～2024年3月31日まで

I 年度当初の目標

令和5年度は、臨床実習などにおいて感染対策に配慮し、学生の教育や指導を行い、対面授業を中心に卒業研究など指導を行う。対面授業においては学生のコミュニケーションや対人関係の力の向上を目指し、課題活動である学会・講習会、ボランティア活動の参加を、可能な限り実施を目標としたい。さらに学生同士のコミュニケーションが促進されるよう授業を通して準備し、国家資格の全員取得をめざしたい。研究活動は、他学科と協同による活性化を試みたい。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・作業療法概論.
- ・作業療法管理学.
- ・作業療法基礎理論. 分担
- ・作業療法研究法.
- ・基礎作業学実習. 分担
- ・作業療法ゼミナールA①. A②.
- ・精神作業療法評価学.
- ・精神作業療法評価学実習.
- ・精神作業療法学. 分担
- ・精神作業療法学演習. 分担
- ・地域社会参加支援学. 分担
- ・作業療法総合演習. 分担
- ・臨床体験実習. 分担
- ・評価実習Ⅰ・Ⅱ. 分担
- ・総合実習Ⅰ・Ⅱ. 分担
- ・地域作業療法学実習. 分担
- ・卒業研究.

2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名、大学名）

- ・認知納涼障害モデルについて. 東京福祉専門学校. 2024. 1. 9

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名、雑誌名、巻、号、ページ、発行年、本人下線）

- ・成田 悠哉, 江戸 優裕, 島田 美恵子, 岡村 太郎: 集合住宅に在住する高齢者の目的別の外出頻度と要支援要介護リスクの関連: 千葉県立保健医療大学紀要, 15 巻 1 号 p. 58. 2024 年.
- ・大川 由一, 岡村 太郎, その他: 介護予防のための生活習慣継続をめざした多職種連携プログラム (新・ほい大健康プログラム) の評価, 千葉県立保健医療大学紀要, 15 巻 1 号 p. 58, 2024 年.
- ・江戸 優裕, 成田 悠哉, 島田 美恵子, 岡村 太郎: 地域在住高齢者における骨格筋の質と身体活動強度および要介護リスクとの関係, 千葉県立保健医療大学紀要, 15 巻 1 号 p. 64, 2024 年.
- ・河部 房子, 大川 由一, 平岡 真実, 室井 大佑, 酒巻 裕之, 有川 真弓, 岡村 太郎, 佐藤 紀子, 龍野 一郎: 令和5年

度保健医療大学取組報告会, 雑誌名, 15 巻 1 号 p. 67, 2024 年.

- ・成田 悠哉, 西山 貴裕, 江戸 優裕, 島田 美恵子, 岡村 太郎: 目的別の外出頻度と要支援・要介護リスクの関連, 日本作業療法学会抄録集(1880-6635)57 回 Page PN-9-1, 2023 年.
- ・鈴鹿 祐子, 成田 悠哉, 渡辺 陵介, 松尾 真輔, 西村 克枝, 麻賀 多美代, 大川 由一, 岡村 太郎: 「歯磨き行為による認知評価」の試み, 日本歯科衛生学会雑誌(1884-5193)18 巻 1 号 Page140, 2023 年.

4 学術集会での招待講演(教育講演や基調講演)やシンポジウム等(学術集会名, テーマ, 開催日, 場所等)

- ・一般社団法人奈良県作業療法士会学術集会, 「AI1en 認知能力障害モデルの基礎知識」, 2023 年 6 月 10 日, Zoom

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等(活動名称, 活動期間, 場所等)

1) 千葉県内

- ・認知症の人と家族の会千葉県支部主催のアルツハイマー啓発活動. 2023 年 9 月 21 日, 千葉駅前

2 地域への保健医療活動(診療・技術指導等, 活動期間, 場所等)

- ・認幕張ファミリーハイツ地域活動(作業療法) 2023 年 10 月 23 日 2024 年 1 月 22 日
- ・認流山市南部地域包括支援センター(作業療法) 2023 年 9 月 14 日

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本作業療法士協会, 千葉県作業療法士会, 日本公衆衛生学会.

2) 学会, 学術団体への貢献(学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・一般社団法人作業療法士会, 学術部査読委員, 2023 年
- ・一般社団法人作業療法士会, 会委員会, 演題査読委員, 2023 年
- ・第 25 回 千葉県作業療法士学会 OT カフェ, 2023 年 3 月 3 日

6 講演会(公開講座を含む)／研修会の講師・研究指導等(会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日時, 場所)

- ・アレン認知能力評価法セミナー／岡村太郎, 渡辺俊介(一般社団法人日本アレン認知能力障害モデル研究会, ACLS-5 入門セミナー, 作業療法士, 言語療法士, 2024 年 1 月 21 日大阪梅田.)

V 管理・運営記録

1 全学委員会(委員会名／活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・大学運営会議, 共通教育運営会議, 教務委員会, 自己点検・評価委員会, 人事委員会, 教員資格審査委員会, 教員再任資格審査委員会, 教授会, 将来構想検討委員会, 学内共同研究審査部会, FD・SD 委員会(委員長).

2 学科／専攻内委員会(委員会名／活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・リハビリテーション学科会議(学科長), 作業療法学専攻会議(作業療法学専攻長), オープンキャンパス時, 高校生保護者に模擬講義を実施(2023 年 7 月 13, 14 日).

VI 評価(成果および改善すべき事項)

本年度卒業学生に関して, 国家試験に関して 1 名不合格となった. 4 年生は作業療法総合演習として, 年間を通じて国家試験対策を実施でき, 卒業論文と共に千葉県の作業療法学会の運営に参加できた. 臨床実習に関して, 今年度より問題なく実施が可能となった. 今後, 対面授業やグループ学習を通して, 臨床・演習・実習を通じた臨床力, 特に対人・コミュニケ

ーションの臨床での活用状況と点検等課題である。歯科衛生学科と地域活動あるいは認知の評価方法など共同研究の取り組みを始めることができた。

VII 次年度の目標

教育活動の一環として、作業療法の学生の対人・コミュニケーションを含む「作業療法士としてのアンプロ行動について」を課題とし、まずは全体の専門教育の教育課題の検討進め論文として発表したい。研究活動としては歯科衛生学科と地域活動あるいは認知の評価方法など共同研究を進めたい。社会活動の一環として、卒後教育について検討実施したい。

教授 山本 達也 博士 (医学)

対象期間：2023年4月1日～2024年3月31日まで

I 年度当初の目標

令和5年度は、円滑な大学の管理運営、医学系科目の教育の充実、研究活動（基礎研究・臨床研究）のさらなる充実を目的とした。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・人体の構造 I.
- ・人体の構造 II.
- ・人体の構造実習.
- ・内科学総論.
- ・内科学各論.
- ・神経内科学総論.
- ・神経内科学各論.
- ・老年科学.
- ・臨床医学概論.
- ・臨床薬理学.
- ・画像診断学.
- ・リスクマネジメント論.
- ・病態学 III.

2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名、大学名）

- ・脳神経内科学・自律神経学（千葉大学大学院）.
- ・脳神経内科学（福島県立医科大学）.

III 研究記録

1 著書（著者本人下線：著書，発行年，発行所，発行場所。）

- ・山本達也（分担執筆）：神経因性膀胱ベッドサイドマニュアル改訂第2版（第2章 A. 脳疾患 1, 2, 第2章 B. 脊髄疾患 3, 9 担当），2023年9月，中外医学社

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・Yamamoto T, Sakakibara R, Uchiyama T, Kuwabara S. Decreased bladder contraction interval induced by periaqueductal grey stimulation is reversed by subthalamic stimulation in a Parkinson's disease model rat. *IBRO Neurosci Rep.* 2023 Oct 17;15:293-303. doi: 10.1016/j.ibneur.2023.10.004. PMID: 37885830; PMCID: PMC10598527.
- ・Wang J, Sugiyama A, Yokota H, Hirano S, Yamamoto T, Yamanaka Y, Araki N, Ito S, Paul F, Kuwabara S. Differentiation between Parkinson's Disease and the Parkinsonian Subtype of Multiple System Atrophy Using the Magnetic Resonance T1w/T2w Ratio in the Middle Cerebellar Peduncle. *Diagnostics (Basel)*. 2024 Jan 17;14(2):201. doi: 10.3390/diagnostics14020201. PMID: 38248077; PMCID: PMC10814850.

- ・山本達也 【自律神経のサイエンス】パーキンソン病における自律神経機能障害 パーキンソン病に伴う自律神経障害 排尿・排便障害(解説) 医学のあゆみ(0039-2359)285 巻6号 Page598-602(2023.05)
- ・山本達也 【過活動膀胱 up to date 2023】OABの病態生理 up to date OABとは一体何なのか? 難治化の機序も含めて Brain OAB(解説) 泌尿器外科(0914-6180)36 巻6号 Page457-463(2023.06)
- ・山本達也 パーキンソン病に伴う自律神経障害 排尿排便障害と QOL 自律神経(0288-9250)60 巻3号 Page103-105(2023.09)
- ・山本達也 【Neuro-Urology】隠れたコモン Neuro-Urology disease を見逃すな! 過活動膀胱とパーキンソン病/レビー 小体型認知症 排尿障害プラクティス(0919-5750)31 巻2号 Page108-115(2023.12)

3 発表(発表者:発表タイトル, 主催学会(学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- ・Yamamoto T, Sakakibara R, Uchiyama T, Kuwabara S: The changes in alpha synuclein level and oscillatory activity of substantia nigra by nigral electrical stimulation. 第64回日本神経学会総会, 2023年5月31日~6月3日, 幕張, 千葉
- ・Yamamoto T, Sakakibara R, Uchiyama T, Kuwabara S: The changes in alpha synuclein level and oscillatory activity of substantia nigra by nigral electrical stimulation. International Congress of Parkinson's Disease and Movement Disorders, August 27-31, 2023, Copenhagen, Denmark
- ・Yamamoto T, Yamanaka Y, Hirano S, Araki N, Sugiyama A, Kuwabara S: Association between lower urinary tract symptoms and motor, cognitive, and health related quality of life in an advanced stage of Parkinson's disease. International continence society, September 27-29, 2023, Toronto, Canada
- ・山本達也, 山中義崇, 平野成樹, 荒木信之, 杉山淳比古, 桑原聡: パーキンソン病の進行期における下部尿路症状と, 運動・認知機能, および健康関連の生活の質との関連 第17回日本パーキンソン病・運動障害疾患学会, 2023年7月20日~22日, 大阪

4 学術集会での招待講演(教育講演や基調講演)やシンポジウム等(学術集会名, テーマ, 開催日, 場所等)

- ・山本達也 第64回日本神経学会学術大会教育コース 神経疾患で多くみられる自律神経障害の診方と治療 下部尿路機能障害の診方と治療 第64回日本神経学会総会, 2023年5月31日~6月3日, 幕張, 千葉
- ・山本達也 他科の医師・他の職種からみた【ウロの医者】 脳神経内科医からみた泌尿器科医 第30回日本排尿機能学会, 2023年9月7日~9月9日, 千葉
- ・山本達也 Neurourologist になろうシンポ1 それ本当に特発性OAB/UABですか? OABとUABに隠れた神経疾患を見逃すな 脳疾患 第30回日本排尿機能学会, 2023年9月7日~9月9日, 千葉
- ・山本達也 教育講演2 パーキンソン病 第30回日本排尿機能学会, 2023年9月7日~9月9日, 千葉
- ・山本達也 基礎と臨床の対話10 排便機能の正常と異常 第76回日本自律神経学会総会 2023年10月28日~29日, さいたま

5 研究資金獲得状況(外部資金・学内共同・学長裁量)(資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・学内共同研究費 パーキンソン病モデル動物における電気生理学的・神経化学的パラメーターの経時的変化 研究代表者
- ・科学技術研究費 基盤研究(C) 経頭蓋電気刺激による脳神経疾患での姿勢制御異常に対する新規治療開発 研究分担者

IV 社会貢献・国際交流記録

3 審議会, 委員会, 国家試験委員等の実績(活動団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・第49回日本神経学会神経内科専門医試験 試験問題作成

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本内科学会, 日本神経学会, 日本自律神経学会, 日本排尿機能学会, 日本パーキンソン病・運動障害疾患学会, Movement Disorder Society, International Continence Society.

2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・日本神経学会 代議員 2019年4月1日～現在に至る
- ・日本排尿機能学会 代議員 2018年5月1日～現在に至る
- ・日本自律神経学会 評議員 2017年4月1日～現在に至る

V 管理・運営記録

1 全学委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・大学運営会議, 共通教育運営会議(議長), 学術推進委員会, 自己点検・評価委員会, 将来構想検討, 国際交流委員会, 総務・企画委員会, 衛生委員会, 人事委員会, キャンパスハラスメント防止対策委員会(委員長), 学内共同研究審査部会長, 情報システム委員会(仮称) 準備会 委員長.

2 学科/専攻内委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・作業療法学専攻会議 (毎週火曜日).

VI 評価 (成果および改善すべき事項)

- ・目標としていた本学における医学系科目の教育, 大学の管理運営を円滑に行うことについては概ね達成されたと考えられる.
- ・研究活動についても論文発表・学会発表, 国際誌の査読など概ね達成されたと考えられる.
- ・全学の多くの委員会や部会に参加し, 共通教育運営会議では議長, キャンパスハラスメント防止対策委員会では委員長を務めた. キャンパスハラスメントに関しては調査委員長も務め, 聞き取り調査を行うなどしてハラスメントの実態解明に努めた.

VII 次年度の目標

- ・医師教員として, 他学科の医師教員と協力し全学の医系科目の教育に寄与するとともに, 共通教育運営会議長, キャンパスハラスメント防止対策委員会委員長として大学の管理運営に貢献する.
- ・千葉大学大学院医学研究院脳神経内科学講座の協力のもとで研究を進める.

教授 藤田 佳男 博士（リハビリテーション科学）

対象期間：2023年4月1日～2024年3月31日まで

I 年度当初の目標

教育活動に関しては、主に教員全体が取り組む実習に関する教育内容の見直しや周辺業務の効率化を目指して整備を行う。担当科目については適切な教材備品を導入し、より教育効果が高まる内容への変換を図る。研究活動については、新たなテーマの推進と並行して、共同研究や講演等を通して研究成果の社会への還元を行う。管理・運営面については担当する委員会業務のうち特に入試や広報等の学生募集に係る分野に注力し、大学全体への貢献となるよう意識して行動する。社会貢献活動については、引き続き高齢者・障害者の運転や地域移動について講演や様々な機関に協力することで啓発を行う。また、専門職および関連職種に対して教育・啓発活動を行う。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・社会実習.
- ・人体の機能実習.
- ・作業運動学Ⅰ.
- ・作業運動学実習.
- ・高次神経機能作業療法学.
- ・日常生活活動学.
- ・日常生活活動学演習.
- ・福祉機器論.
- ・臨床体験実習.
- ・体験ゼミナール.
- ・評価実習Ⅰ・Ⅱ.
- ・総合実習Ⅰ・Ⅱ.
- ・作業療法ゼミナール①②.
- ・地域作業療法学実習.
- ・作業療法特論B.
- ・作業療法総合演習.
- ・卒業研究.

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・藤田佳男：第9章自動車運転再開へ向けたリハビリテーション，高齢者の自動車運転に関する提言の報告書，pp148-160，日本老年学会，2023.
- ・藤田佳男：運転と地域移動に関する作業療法士の役割，京都リハビリテーション医学会雑誌，印刷中，2023.

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・藤田佳男：都市部および近郊在住高齢者における移動手段と認知機能—自家用車と自転車に注目して—，日本交通心理学会第88回大会，2023年8月5-6日，名古屋大学
- ・小菅律，藤田佳男，岡村和子，中野友香子，金内さよ，藤田悟郎：高齢運転者夫妻の運転に関する自己評価と配偶者評価

の特徴. 日本交通心理学会第88回大会, 2023年8月5-6日, 名古屋大学

- ・山本保天, 藤田佳男, 高階勇人他: 高齢運転者の過去の物損事故が将来の人身事故を予測する, 日本老年精神医学会秋季大会, 2023年10月13, 14日, 日本教育会館
- ・岩谷圭祐, 藤田佳男, 尾北智志他: 当院の自動車運転再開後の追跡調査, 第76回済生会学会, 2024年1月27, 28日, 熊本城ホール.

4 学術集会での招待講演(教育講演や基調講演)やシンポジウム等(学術集会名, テーマ, 開催日, 場所等)

- ・第42回日本認知症学会学術集会, シンポジウム「高齢者の自動車運転への医学的対応と多職種生活支援」, 2023年11月26日, 奈良県コンベンションセンター.
- ・第57回関東臨床神経心理研究会, 「頭部外傷患者の大型二種乗務への復職支援」, 2023年12月24日, 東京.

5 研究資金獲得状況(外部資金・学内共同・学長裁量)(資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・文部科学省科学研究費助成事業(基盤研究C), 高齢自転車利用者が自身の利用適性を適切に把握するための介入プログラムの開発, 研究代表者.
- ・文部科学省科学研究費助成事業(基盤研究C), ランダム化比較試験による運転中断高齢者への予防的作業療法の効果, 研究分担者.

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等(活動名称, 活動期間, 場所等)

1) 千葉県内

- ・千葉市健康づくり大会, 千葉県作業療法士会中央ブロックブース出展, 2023/10/14, 千葉市きぼーる

2) 千葉県外

- ・尾張西ブロックセミナー, JAF愛知支部との出展, 愛知県シルバー人材センター連合会, 2023年9月26日, 津島市生涯学習センター

3 審議会, 委員会, 国家試験委員等の実績(活動団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・全日本指定自動車教習所協会連合会, 「高齢運転者支援士」試験作問委員, 2022年4月～

4 職能団体委員等(職能団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・(一社)日本作業療法士協会「運転と地域移動推進委員会」, 委員長, 2018年度～
- ・(一社)全日本指定自動車教習所協会連合会, 理事, 2021年度～
- ・(公社)東京都医師会, 高齢社会における運転技能および運転環境検討委員会委員, 2023年9月～

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本作業療法士協会. 日本老年医学会. 日本老年精神医学会. 認知神経科学会. 日本高次脳機能学会. 自動車技術会. 日本リハビリテーション工学協会. 運転と作業療法研究会. 日本安全運転医療学会. 日本交通心理学会. 日本遠隔医療学会.

2) 学会, 学術団体への貢献(学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・日本作業療法士協会地域社会振興部「運転と地域移動推進班」, 班長, 2023年度～
- ・日本高次脳機能学会 代議員 2021年度～
- ・日本安全運転医療学会 理事 2021年度～
- ・運転と作業療法研究会 代表 2014年～2023年
- ・日本作業療法士協会 学会演題査読委員 2014年～

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日時、場所）

- ・長崎県作業療法士会地域生活推進局研修会、長崎県作業療法士会、運転再開支援や移動支援におけるOTとして関わるための基礎知識や役割について、会員、2023年12月2日、Web開催。
- ・イムスグループ勉強会、イムスグループ、運転と地域移動支援総論、地域移動関連情報、事例、職員、2023年4月16日、Web開催。
- ・障害者教習指導員研修、全日本指定教習所協会連合会、高次脳機能障害者の特性と指導法、教習指導員、2023年10月27日、アルカディア市ヶ谷。
- ・高齢運転者支援士研修、全日本指定教習所協会連合会、高次脳機能障害者の特性と指導法、教習指導員、2023年11月1日、アルカディア市ヶ谷。
- ・埼玉県警察令和5年度更新時講習指導員現任教養、加齢や病気による機能低下と運転への影響について、埼玉県警察職員および安全協会職員200名、埼玉県運転免許センター、2023年11月25日。
- ・安全運転相談専科教養研修、警察庁運転免許課、高次脳機能障害と運転-作業療法士の立場から-都道府県警警察官、2023年12月13日、関東管区警察学校。
- ・令和5年度第2回高次脳機能障害支援コーディネーター全国会議、国立障害者リハビリテーションセンター、「地域における多様な移動の手段と移動の支援」講演およびシンポジスト、支援コーディネーター、市町村職員等、2024年2月16日、国立障害者リハビリテーションセンターおよびウェブ開催

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・特色科目運営会、入試改革検討委員会、広報委員会、社会実習運営会。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・リハビリテーション学科会議、作業療法学専攻会議、実習ワーキンググループ。

3 対外広報活動＜新聞・ホームページでの活動・TV出演、ラジオ出演等＞

- ・日本自動車連盟ホームページ「エイジドドライバーズ総合応援サイト」での作業療法のプロによる高齢運転者へのワンポイントアドバイス、<https://jaf.or.jp/common/safety-drive/online-training/senior>

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育関連では、数年間の懸案であった演習や実技指導に用いる入浴訓練用浴槽を配備し、担当科目である「福祉機器論」「日常生活活動学演習」で効果的な教育ができるようになった。実習全般についてはコロナの5類化による対応を適切に行い、円滑な実施ができるよう心掛けた。また、担当の地域作業療法学実習については制度改定による、訪問・通所リハへの実習を確保しつつ、本来の実習目的である作業療法士の配置が必須とされていない施設での作業療法の臨床体験ができるよう、多くの労力を費やした。社会貢献活動については、千葉市健康づくり大会に、千葉県作業療法士会からブースを出展し、作業療法の啓発と高齢運転者への安全運転の啓発に努めた。研究については教育関連業務にほとんどの時間を費やした結果、論文執筆は十分にできなかったものの、科研費による新たなテーマで1件、科学警察研究所と共同発表で1件の学会発表を行うことが出来た。次年度は、専攻内実習関連業務の効率化、データを基にした適切な新入生獲得のための方策などの検討、着手したテーマでの学術論文投稿、社会実装を目指した活動のため、業務の効率化を一層図り、研究に時間を費やせるようにすることが課題である。

VII 次年度の目標

教育活動に関しては、担当科目について見直しを行い教員間でのローテーションや科目変更にも備える。また適切な教材備品を導入し、より教育効果が高まる内容への変換を図る。研究活動については、科研費によるテーマの推進と並行して、共同研究や、研究成果の社会実装のための活動等を通して研究成果の還元を行う。社会貢献活動については、引き続き高齢者・

障害者の運転や地域移動について講演や様々な機関に協力することで啓発を行う。また、専門職および関連職種に対して教育・啓発活動を行う。

准教授 有川 真弓 博士 (保健科学)

対象期間：2023年4月1日～2024年3月31日まで

I 年度当初の目標

2023年度は、研究の結果を全国学会や学術雑誌で発表したい。また、引き続き社会貢献活動にも力を注いでいきたい。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・作業分析学.
- ・人間発達学.
- ・作業療法基礎理論.
- ・基礎作業学・演習.
- ・基礎作業学実習.
- ・作業療法ゼミナール.
- ・作業療法評価学総論.
- ・発達期作業療法学.
- ・発達期作業療法学演習.
- ・日常生活活動学演習.
- ・地域社会参加支援学演習.
- ・作業療法総合演習.
- ・作業療法学特論.
- ・臨床体験実習.
- ・評価実習 I.
- ・評価実習 II.
- ・総合実習 I.
- ・総合実習 II.
- ・地域作業療法学実習.
- ・卒業研究.

III 研究記録

3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- ・松尾真輔, 有川真弓：地域支援を行う作業療法士の地域資源評価の視点, 第57回日本作業療法学会, 2023年11月10-12日, 沖縄コンベンションセンター

4 学術集会での招待講演 (教育講演や基調講演) やシンポジウム等 (学術集会名, テーマ, 開催日, 場所等)

- ・日本特殊教育学会第61回大会, シンポジウム 特別支援教育における作業療法士の多様な連携, 2023年8月25-27日, 横浜国立大学

IV 社会貢献・国際交流記録

2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等、活動期間、場所等）

- ・大田区小学校 特別支援学級医療専門相談、2023年12月1日～2024年3月31日。
- ・足立区発達障害児支援事業 専門研修等講師、2023年6月1日～2024年3月31日。
- ・練馬区障害児保育巡回指導、2023年4月1日～2024年3月31日。

3 審議会、委員会、国家試験委員等の実績（活動団体名称、委員名称、活動期間）

- ・市川市障害支援区分認定審査会審査委員、2023年4月1日～2024年3月31日。
- ・一般社団法人リハビリテーション教育評価機構評価員、2023年4月1日～2024年3月31日。

4 職能団体委員等（職能団体名称、委員名称、活動期間）

- ・日本作業療法士協会、制度対策部保健福祉課委員、2023年7月1日～2024年3月31日。
- ・日本作業療法士協会、障害福祉サービス等報酬改定対策委員会委員、2023年7月1日～2024年3月31日。
- ・日本作業療法士協会、学会演題査読委員、2023年4月1日～2024年3月31日。
- ・日本作業療法士協会、代議員、2023年4月1日～2024年3月31日。
- ・千葉県作業療法士会、事務局長、2023年4月1日～2024年3月31日。
- ・千葉県作業療法士会、代議員、2023年4月1日～2024年3月31日。
- ・千葉県作業療法士会、理事、2023年4月1日～2024年3月31日。
- ・千葉県作業療法士会、渉外部部員、2023年4月1日～2024年3月31日。
- ・千葉県作業療法士会、学術部発達障害委員会委員、2023年4月1日～2024年3月31日。
- ・千葉県作業療法士会、学術部査読委員、2023年4月1日～2024年3月31日。
- ・千葉県作業療法士会、地域連携部こども連携委員会委員、2023年4月1日～2024年3月31日。
- ・千葉県作業療法士会、臨床実習指導者講習会委員会委員、2023年4月1日～2024年3月31日。

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本作業療法士協会、千葉県作業療法士会、日本感覚統合学会、日本作業行動学会、日本LD学会、日本発達系作業療法学会、日本リハビリテーション連携科学学会、日本発達障害学会、日本特殊教育学会、日本司法作業療法学会。

2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・日本感覚統合学会、効果研究委員、2023年4月1日～2024年3月31日。
- ・日本発達系作業療法学会、理事、2023年4月1日～2024年3月31日。
- ・日本発達系作業療法学会、査読委員、2023年4月1日～2024年3月31日。
- ・JDD ネットワーク多職種連携委員会、副委員長、2023年4月1日～2024年3月31日。

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日時、場所）

- ・臨床実習指導者講習会（運営スタッフ）、千葉県作業療法士会、作業療法士、2024年2月3日～4日、WEB開催。
- ・「JDDnet 発達障害を理解し合理的配慮を学ぶVR体験型プログラム」体験会（講師）、JDDnet、台東区教員、2023年9月22日、台東区役所。
- ・「JDDnet 発達障害を理解し合理的配慮を学ぶVR体験型プログラム」体験会（講師）、JDDnet、中学2年生および教員、2023年9月29日、台東区立桜橋中学校。
- ・JDDnet 発達障害支援人材育成研修会2023 オンラインセミナー（ファシリテーター）、JDDnet、多職種・当事者等、2023年8月17日、オンライン開催。

7 その他

- ・埼玉県立小児医療センター保健発達部門作業療法科職員研究指導、2023年4月1日～2024年3月31日。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

・教務委員会、研究等倫理委員会、キャンパス・ハラスメント防止対策委員会相談員、社会貢献委員会、自己点検・評価委員会認証評価部会、学術推進企画委員会、紀要編集部会、教員再任審査専門部会、第3次カリキュラム評価部会。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

・リハビリテーション学科会議、作業療法学専攻会議、臨床実習ワーキンググループ、高校説明会、評価実習前OSCE、総合実習前OSCE、臨床実習指導者会議。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

管理運営業務に力を注いだ。社会貢献活動にも積極的に取り組むことができた。

VII 次年度の目標

2024年度も、管理運営業務や社会貢献活動に力を注いでいきたい。

准教授 佐藤 大介 博士 (医学)

対象期間：2023年4月1日～2023年4月30日まで

I 年度当初の目標

担当科目の到達目標の達成状況を随時把握し、基本的臨床能力の習得に向けて授業内容の工夫を図る。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・精神作業療法評価学.
- ・精神作業療法評価学実習.
- ・精神作業療法学演習.
- ・臨床体験実習.
- ・総合実習II.

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本作業療法士協会. 千葉県作業療法士会.

V 管理・運営記録

1 全学委員会 (委員会名/活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・学術推進企画委員会. 研究倫理審査委員会.

2 学科/専攻内委員会 (委員会名/活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・リハビリテーション学科会議. 作業療法学専攻会議.

VI 評価 (成果および改善すべき事項)

精神障害分野の科目の到達目標の達成状況を各回確認し、各学生の理解度に応じた指導を行った。

VII 次年度の目標

基本的臨床能力の習得に向けて授業内容の工夫を図る。

講師 松尾 真輔 修士 (学術)

対象期間：2023年4月1日～2024年3月31日まで

I 年度当初の目標

次年度は最終学年の担任となることから、臨床実習の運営と国家試験対策について中心的に従事し、専攻内での役割を調整しながら、円滑な大学業務が担えるように取り組んでいきたい。また学生への効果的な学習効果に繋がるよう、必要に応じて個別指導を行っていきたいと考えている。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
 - ・体験ゼミナール.
 - ・千葉県健康づくり.
 - ・専門職間の連携活動論.
 - ・基礎作業学実習.
 - ・人体の機能実習.
 - ・作業運動学演習
 - ・作業運動学実習.
 - ・作業療法基礎理論.
 - ・作業療法評価学総論.
 - ・身体作業療法評価学.
 - ・身体作業療法評価学実習.
 - ・身体作業療法学演習.
 - ・身体作業療法学Ⅰ・Ⅱ.
 - ・義肢装具学.
 - ・老年期作業療法学.
 - ・老年期作業療法学演習.
 - ・地域作業療法学.
 - ・作業療法特論.
 - ・臨床体験実習.
 - ・評価実習Ⅰ・Ⅱ.
 - ・総合実習Ⅰ・Ⅱ.
 - ・地域作業療法学実習.
 - ・作業療法総合演習.
 - ・卒業研究.
- 2) 他大学、大学院等の非常勤講師 (科目名、大学名)
 - ・作業療法管理学. 八千代リハビリテーション学院.

III 研究記録

2 学術論文・その他 (著者：題名、雑誌名、巻、号、ページ、発行年、本人下線)

- ・鈴鹿 祐子, 成田 悠哉, 渡辺 陵介, 松尾 真輔, 西村 克枝, 麻賀 多美代, 大川 由一, 岡村 太郎: 「歯磨き行為による

3 発表(発表者:発表タイトル, 主催学会(学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- ・松尾真輔, 有川真弓:地域支援を行う作業療法士の地域資源評価の視点, 第57回日本作業療法学会, 2023年11月10-12日, 沖縄コンベンションセンター.

5 研究資金獲得状況(外部資金・学内共同・学長裁量)(資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・千葉県立保健医療大学学内共同研究費(一般), 若年成人における身体柔軟性および筋質とスポーツ傷害との関係, 研究分担者.

IV 社会貢献・国際交流記録

2 地域への保健医療活動(診療・技術指導等. 活動期間. 場所等)

- ・市原青年矯正センター 評価指導. 2023年12月17日~2024年3月31日.

4 職能団体委員等(職能団体名称. 委員名称. 活動期間)

- ・千葉県作業療法士会. 千葉中央ブロック代議員. 2014年4月~現在に至る
- ・千葉県作業療法士会. 千葉県生活行為向上マネジメント委員会. 委員. 2013年8月~現在に至る
- ・千葉県作業療法士会. 千葉県作業療法誌. 査読者. 2014年4月~現在に至る
- ・千葉県作業療法士会. 災害対策委員会. 委員. 2015年4月~現在に至る
- ・千葉県作業療法士会. ブロック部. 部長. 2018年6月~現在に至る
- ・千葉県作業療法士会. 地域連携システム委員会. 委員長. 2022年6月~現在に至る
- ・千葉県POS連盟. 千葉POS災害対策委員会. 委員. 2016年1月~現在に至る
- ・千葉県作業療法士会. 副会長. 2018年6月~現在に至る
- ・千葉県作業療法士会. 運転特設委員会・担当理事. 2018年6月~現在に至る
- ・千葉県POS連盟. 理事. 2018年6月~現在に至る
- ・日本作業療法士協会. 代議員. 2020年6月~現在に至る
- ・千葉市リハビリテーション連絡協議会. 委員. 2020年2月~現在に至る
- ・千葉県作業療法士会. 司法作業療法. 会議等取りまとめ. 2023年4月~現在に至る
- ・全国リハビリテーション学校協会. 学術誌査読者. 2023年10月~現在に至る
- ・千葉県脳損傷者運転支援連携会議. 外部委員. 2023年12月~現在に至る

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本作業療法士協会. 千葉県作業療法士会. 千葉POS連盟. 日本司法作業療法学会.

2) 学会, 学術団体への貢献(学会・学術団体名. 役職. 活動期間)

- ・千葉県POS連盟. 理事会. (年4回)
- ・千葉県作業療法士会. 理事会. (年12回)
- ・千葉県作業療法士会. 三役会. (年3回)
- ・千葉県作業療法士会. 定時・予算総会. 2023年6月, 2024年3月
- ・第25回千葉県作業療法士学会 運営スタッフ. 2024年3月3日

6 講演会(公開講座を含む)/研修会の講師・研究指導等(会名称. 主催 団体名称. 講演テーマ等. 対象. 開催日時. 場所)

- ・千葉県作業療法士会. 第1回臨床実習指導者講習会. 2023年6月8日~9日
- ・千葉県作業療法士会. 生活行為向上マネジメント基礎研修会. 2023年7月22日
- ・千葉県作業療法士会. 第2回臨床実習指導者講習会. 2023年9月7日~8日

- ・千葉県作業療法士会. 第3回臨床実習指導者講習会. 2024年2月3日～4日

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・キャンパス・ハラスメント防止委員会. 紀要編集部会員. 社会貢献委員会. 総務企画委員会. 危機管理委員会. IR 部会. 自己点検・評価委員会報告書作成等部会. 教育研究年報編集部会部会長. 体験ゼミナール部会員.

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・リハビリテーション学科会議. 作業療法学専攻会議. 臨床実習指導者会議. 実習 WG. 学内実習 WG. 評価・総合実習前 OSCE. 高校説明会.

VI 評価（成果および改善すべき事項）

臨床実習と国家試験対策については、滞りなく努められた。学内での教育も講義の工夫も含めて順調に携わることが出来た。

VII 次年度の目標

次年度は円滑な臨床実習の運営が出来るよう、専攻内での業務の在り方を調整していきたい。また積極的な学外活動を実施し研究に繋げ、学会発表や論文作成ができるようにしたい。

講師 須藤 崇行 修士（リハビリテーション医療学）

対象期間：2023年4月1日～2024年3月31日まで

I 年度当初の目標

令和5年度は着任2年目のため、本学への環境への順応や理解を更に務めていく。また3年生の担任として学生が学業に集中できる環境を整え、学生生活のサポートを行って行く。特に9月には学外での評価実習が開始されるため、事前準備を含め学生の支援を行っていく。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・体表解剖学.
- ・作業運動学 II.
- ・作業運動学演習.
- ・作業運動学実習.
- ・作業療法評価学総論.
- ・身体作業療法評価学.
- ・身体作業療法評価学実習.
- ・身体作業療法学 I.
- ・身体作業療法学演習.
- ・老年期作業療法学演習.
- ・作業療法学特論.
- ・地域社会参加支援学演習.
- ・作業療法総合演習.
- ・臨床体験実習.
- ・作業療法ゼミナール.
- ・評価実習 I.
- ・評価実習 II.
- ・総合実習 I.
- ・総合実習 II.
- ・地域作業療法学実習.
- ・卒業研究
- ・体験ゼミナール.
- ・千葉県の健康作り.
- ・専門職間の連携活動論.

III 研究記録

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・鈴木優喜子，須藤崇行：要介護高齢者の自覚的な機能障害と認知症罹患に対する不安との関係，第57回日本作業療法学会学術集会，2023.

IV 社会貢献・国際交流記録

4 職能団体委員等（職能団体名称、委員名称、活動期間）

- ・千葉県作業療法士会、千葉県生活行為向上マネジメント委員会、委員、2013年8月～現在に至る
- ・千葉県作業療法士会、学会委員会、委員長、2017年4月～現在に至る
- ・千葉県作業療法士会、代議員、2018年4月～現在に至る
- ・千葉県作業療法士会、理事、2018年4月～現在に至る
- ・千葉県作業療法士会、副会長、2020年6月～現在に至る
- ・千葉県作業療法士会、臨床実習指導者講習会委員会、2023年4月～現在に至る
- ・千葉県作業療法士会、学術誌編集委員会、2023年4月～現在に至る
- ・千葉県 POS 連盟、理事、2022年12月～現在に至る

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本作業療法士協会、千葉県作業療法士会、千葉 POS 連盟、

2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・千葉県 POS 連盟、理事会出席、（年3回）
- ・千葉県作業療法士会、理事会出席（毎月第1水曜日）
- ・千葉県作業療法士会、定時総会出席、2023年6月

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日時、場所）

- ・千葉県作業療法士会、生活行為向上マネジメント基礎研修会、2023年7月22日
- ・千葉県作業療法士会、第1回臨床実習指導者講習会、2023年6月8日～9日
- ・千葉県作業療法士会、第2回臨床実習指導者講習会、2023年9月7日～8日
- ・UR 団地、ほい大健康プログラム講師、2023年10月14日

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・教務委員会、図書委員会、入試実施委員会、キャンパス・ハラスメント相談委員会、千葉県の健康作り部会員、

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・リハビリテーション学科会議、作業療法学専攻会議、臨床実習指導者会議、実習 WG、学内実習 WG、教務 WG、

VI 評価（成果および改善すべき事項）

着任2年目のため、昨年の経験をもとに担任業務や総合実習の科目責任者としての業務見直しを行った。概ね計画通り進めることが出来たが、タイムスケジュールの管理に関しては更なる改善が必要であるため来年度の課題としたい。また今年度から教務委員会、入試実施委員会などを担当することとなり、これまで以上に他学科・専攻との情報共有が重要となった。当初の予定通り他学科・専攻との情報共有が行え、無事に業務を終えることが出来たため今後も継続して取り組んでいきたい。担当授業については、臨床場面を意識した構成で行い、昨年度の経験を活かし内容を修正しながら行った。来年度も適宜見直しを行い、より良い内容で授業を行えるように取り組んでいきたい。社会貢献については、今年度も千葉県作業療法士会を中心に活動に携わり、研修会や学会の運営、講習会の講師などを担った。来年度も引き続き、千葉県作業療法士会を中心に活動を行っていきたい。

VII 次年度の目標

次年度は着任3年目となるため、担当授業や担任意務、総合実習の科目責任者などの内容を見直し、教育効果の高い内容になるよう改善していく。特に次年度は4年生の担任となるため、総合実習や卒業研究、国家試験等に向けて取り組んでいく予定である。また各委員会など学内業務だけでなく、社会貢献として引き続き、千葉県作業療法士会の活動に積極的に携わっていきたい。

助教 成田 悠哉 修士（リハビリテーション）

対象期間：2023年4月1日～2024年3月31日まで

I 年度当初の目標

教育活動では、臨床体験実習を主担当として円滑に運営を進める。研究活動では、県内の自治体との連携や他大学との共同研究に携わり、成果を報告する。大学管理運営では、入試実施委員会や専門職間の連携活動論作業部会における業務を円滑に進める。社会貢献では、職能団体や福祉団体における活動を継続して参画する。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・体験ゼミナール.
- ・専門職間の連携活動論.
- ・基礎作業学実習.
- ・人体の機能実習.
- ・身体作業療法評価学実習.
- ・地域社会参加支援学.
- ・作業療法ゼミナール.
- ・作業療法学特論.
- ・臨床体験実習.
- ・評価実習Ⅰ・Ⅱ.
- ・総合実習Ⅰ・Ⅱ.
- ・地域作業療法学実習.
- ・卒業研究.

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・Shin Kitamura, Yohei Otaka, Yudai Murayama, Kazuki Ushizawa, Yuya Narita, Naho Nakatsukasa, Kunitsugu Kondo, Sachiko Sakata: Differences in the difficulty of subtasks comprising the toileting task among patients with subacute stroke: A cohort study. J Stroke Cerebrovasc Dis, 2023 32(4):107030.
- ・吉野智佳子, 成田悠哉: セラプラストを対象とした硬さや付着性の物性に関する予備的研究, 千葉作業療法, 13, 1, 11-16, 2023.
- ・佐伯恭子, 河野舞, 工藤美奈子, 佐々木みづほ, 成田悠哉, 室井大佑: 新型コロナウイルス感染症が高齢者施設の職員に与えた影響. 千葉県立保健医療大学紀要, 15, 2023.
- ・河野舞, 工藤美奈子, 佐伯恭子, 佐々木みづほ, 成田悠哉, 室井大佑: 新型コロナウイルス感染症による行動制限が施設高齢者の生活に与えた影響 —施設の代表者の視点から—. 千葉県立保健医療大学紀要, 15, 2023.

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・成田悠哉, 江戸優裕, 島田美恵子, 岡村太郎: 集合住宅に在住する高齢者の目的別の外出頻度と要支援要介護リスクの関連, 第14回千葉県立保健医療大学 学内共同研究発表会, 2023年9月, 千葉県立保健医療大学.
- ・工藤美奈子, 佐々木みづほ, 河野舞, 佐伯恭子, 室井大佑, 成田悠哉, 龍野一郎: 「新型コロナウイルス感染症による行動制限が施設高齢者の生活に与えた影響」—アンケート調査 単純集計の結果より—. 第14回千葉県立保健医療大学学内共同研究発表会, 2023年9月, 千葉県立保健医療大学.

- ・成田悠哉, 吉次真菜, 江戸優裕, 島田美恵子, 岡村太郎: 目的別の外出頻度と要支援要介護リスクとの関連, 第57回日本作業療法士学会, 2023年11月. 沖縄コンベンションセンター.
- ・江戸優裕, 成田悠哉, 島田美恵子, 岡村太郎他: 域在住高齢者における骨格筋の質と身体活動強度および要介護リスクとの関係, 第29回千葉県理学療法学会, 2024年3月. 国際医療福祉大学成田キャンパス.

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・令和5年度共同研究 (学長裁量) 研究: 「新型コロナウイルス感染症流行 前後における健康診査結果からみた健康状態の変化」, 研究代表者: 成田悠哉.
- ・令和5年度共同研究 (学長裁量) 研究: 「新型コロナウイルス感染症による行動制限が施設高齢者の生活に与えた影響」, 研究分担者: 成田悠哉.
- ・令和5年度学内共同研究: 「身長を活用した慢性疾患を有する地域在住高齢者に対する健康支援」調査協力, 研究代表者: 島田美恵子, 研究分担者: 成田悠哉・他.

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等 (活動名称, 活動期間, 場所等)

1) 千葉県内

- ・全国脊髄損傷連合会千葉県支部「車イスで遊ぼう」の補助. 2023年4月. 千葉ポートタワー前広場
- ・全国脊髄損傷連合会千葉県支部「ピアサポートイベント」の補助. 2023年10月23日. 千葉ポートタワー前広場

4 職能団体委員等 (職能団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・千葉県作業療法士会. 災害対策委員会. 委員. 2015年4月～現在
- ・千葉県作業療法士会. 教育部. 委員. 2021年4月～現在
- ・千葉県作業療法士会. 事務局Web研修班. 班員. 2020年7月～現在

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本作業療法士協会. 千葉県作業療法士会.

2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・千葉県作業療法士会. 学術誌編集委員会. 委員. 2020年4月～現在

6 講演会 (公開講座を含む) / 研修会の講師・研究指導等 (会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日時, 場所)

- ・地域高齢者を対象とした介護予防教室 講師 2023年11月. 千葉県立保健医療大学, ファミールハイツ幕張.
- ・千葉県作業療法士会 教育部 現職共通研修会 選択研修 講師 2023年10月, Zoom開催.
- ・千葉大学共同研究 令和5年度 さいたま市健康とくらしの調査 (JAGES2022) 研修 ファシリテーター, 2023年12月. Zoom開催.

V 管理・運営記録

1 全学委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・紀要編集部会員. 入試実施委員会. 自己点検・評価実施推進部会. 専門職間の連携活動論部会員.

2 学科/専攻内委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・リハビリテーション学科会議. 作業療法学専攻会議. 臨床実習ワーキンググループ. 臨床実習指導者会議. 新型コロナと認知症プロジェクトチーム

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動では、専門職間の連携活動論や臨床実習の運営に携わり、一連の進行の補助を行った。また、身体作業療法学実習では、実技指導や臨床推論指導に関わり、学生教育に努めた。研究活動では、新型コロナプロジェクトチームにおける活動に関する論文を報告した。委員会業務として、入試実施委員会における専攻の入試運営に携わった。社会貢献では、千葉県の職能団体の委員として県内作業療法士の基礎研修の運営協力や災害対策委員会での会員向けの安否確認訓練などを実施した。

VII 次年度の目標

教育活動では、臨床体験実習を主担当として円滑に運営を進める。研究活動では、千葉大学との共同研究や本学の新型コロナプロジェクトチームにおける活動の成果を報告する。大学管理運営では、入試実施委員会の運営を円滑に行う。社会貢献では、千葉県内における介護予防教室や職能団体における活動を継続する。

資料 1 履修規程別表

別表（看護学科 2021年度以降 入学生用）

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
特色科目	体験ゼミナール	特色1	1前	1					○	必修3単位
	千葉県の健康づくり	特色2	2後	1				○		
	専門職間の連携活動論	特色3	4後	1				○		
	社会実習（ボランティア活動）	特色4	2・3・4			1			○	
一般教養科目	人間理解群	心理学	一般1	1・2・3・4前		2		○		選択 4単位 (※1)
		哲学	一般2	1・2・3・4前		2		○		
		文学	一般3	1・2・3・4前		2		○		
		歴史と文化	一般4	1・2・3・4前		2		○		
		生命倫理	一般5	1・2・3・4後		2		○		
		宗教学	一般6	1・2・3・4後		2		○		
		教育学	一般7	1・2・3・4後		2		○		
		人間関係論	一般8	1・2・3・4前		2		○		
		コミュニケーション理論と実際	一般9	1・2・3・4前		2		○		
		健康スポーツ科学	一般10	1・2・3・4前後		1			○	
		生涯身体運動科学	一般11	1・2・3・4前後		1			○	
	生活と環境群	生活とデザイン	一般12	1・2・3・4後		2		○		選択 6単位 (※2)
		法学（日本国憲法）	一般13	1・2・3・4前		2		○		
		社会学	一般14	1・2・3・4後		2		○		
		文化人類学	一般15	1・2・3・4前		2		○		
		経済学	一般16	1・2・3・4前		2		○		
		国際関係論	一般17	1・2・3・4後		2		○		
		社会福祉学	一般18	1・2・3・4前		1		○		
		国際的な健康課題	一般19	1・2・3・4後		1		○		
		人権・ジェンダー	一般20	1・2・3・4後		2		○		
		科学論	一般21	1・2・3・4前		2		○		
		環境変化と生態	一般22	1・2・3・4後		2		○		
		観察生物学入門	一般23	1・2・3・4前後		2		○		
		生物学	一般24	1・2・3・4前後		2		○		
		物理学	一般25	1・2・3・4前		2		○		
		化学	一般26	1・2・3・4前		2		○		
	情報理解群	統計学	一般27	1後	1				○	必修 2単位
		情報リテラシーⅠ	一般28	1前	1				○	
		情報リテラシーⅡ	一般29	1・2・3・4後		1			○	
		情報倫理	一般30	1・2・3・4後		1		○		
		実践統計学	一般31	2・3・4前		1		○		
	外国語群	英語Ⅰ（講読）	一般32	1・2・3・4前		1			○	必修 2単位 + 選択 2単位
		英語Ⅱ（英会話）	一般33	1・2・3・4前		1			○	
		英語Ⅲ（講読・記述）	一般34	1・2・3・4後		1			○	
		英語Ⅳ（英語コミュニケーション）	一般35	1・2・3・4後		1			○	
		英語Ⅴ（保健医療英語）	一般36	2後		2		○		
		英語Ⅵ（応用英語）	一般37	1・2・3・4後		1			○	
		英語Ⅶ（上級英語）A	一般38	2・3・4後		1		○		
	英語Ⅶ（上級英語）B	一般39	2・3・4後		1		○			

【一般教養科目】選択科目から選択8単位

※1 人間理解群における選択科目の履修方法について

「人間関係論」又は「コミュニケーション理論と実際」を含み4単位を選択して履修する。

※2 生活と環境群における選択科目の履修方法について

「文化人類学」「国際関係論」「国際的な健康課題」から1科目及び生物の科目（「観察生物学入門」又は「生物学」）、「物理学」、「化学」のうち2科目を含む6単位以上を選択して履修する。

別表（看護学科 2021年度以降 入学生用）

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習		
保健医療基礎科目	人間の心と身体	運動生理学総論	保健1	2前		1		○			必修16単位 + 選択3単位
		生化学総論	保健2	2前	1			○			
		栄養学Ⅰ（基礎）	保健3	1後	1			○			
		栄養学Ⅱ（応用）	保健4	1後		1		○			
		心の健康	保健5	1・2・3・4後			1	○			
		薬理学Ⅰ（総論）	保健6	1後	1			○			
		薬理学Ⅱ（各論）	保健7	1後	1			○			
		病理学Ⅰ（総論）	保健8	1前	1			○			
		病理学Ⅱ（各論）	保健9	1前	1			○			
		微生物学Ⅰ（総論）	保健10	1前	1			○			
		微生物学Ⅱ（各論）	保健11	1前	1			○			
		発達心理学	保健12	2前		1		○			
		臨床心理学	保健13	1後		1			○		
	健康と保健医療システム	健康論	保健14	1前		1		○			
		公衆衛生学Ⅰ（基礎）	保健15	1前	1			○			
		公衆衛生学Ⅱ（応用）	保健16	2後	1			○			
		疫学・保健統計Ⅰ（基礎）	保健17	3前	1			○			
		疫学・保健統計Ⅱ（応用）	保健18	3前	1			○			
		リハビリテーション概論	保健19	2後		1		○			
		救命・救急の理論と実際	保健20	2前	1			○			
		画像診断学	保健21	2後		1		○			
		保健医療福祉論Ⅰ（基礎）	保健22	2後	1			○			
		保健医療福祉論Ⅱ（応用）	保健23	2後	1			○			
		食育論Ⅰ（基礎）	保健24	3前		1		○			
		食育論Ⅱ（応用）	保健25	3前		1		○			
		健康と運動	保健26	1後		1		○			
		家族社会学	保健27	1前		1		○			
		医療経営管理論	保健28	3前		1		○			
		リスクマネジメント論	保健29	2後		1		○			
専門科目	専門基礎科目	人体の構造と機能Ⅰ（総論、外皮・免疫系、消化器系、呼吸器系）	看1	1前	1			○		【専門科目】 必修77単位 + 選択3単位	
		人体の構造と機能Ⅱ（循環器系、腎・泌尿器系、内分泌系、生殖器系）	看2	1前	1			○			
		人体の構造と機能Ⅲ（造血器系、骨・筋肉系、神経系、感覚器系）	看3	1後	1			○			
		病態学Ⅰ（内科系疾病論）	看4	2前	2			○			
		病態学Ⅱ（外科系疾病論）	看5	2前	2			○			
		病態学Ⅲ（高齢者・精神疾病論）	看6	2前	1			○			
		臨床検査論	看7	2前	1			○			
	基礎看護科目	看護学入門	看8	1前	1			○			
		看護学原論	看9	1前	1				○		
		看護倫理	看10	2後	1			○			
		看護技術論Ⅰ（生活援助技術）	看11	1後	2				○		
		看護技術論Ⅱ（フィジカルアセスメント技術）	看12	1後	1				○		

別表（看護学科 2021年度以降 入学生用）

専門科目	基礎看護科目	看護技術論Ⅲ（検査治療技術）	看13	2前	2			○		【専門科目】 (再掲) 必修77単位 + 選択3単位	
		看護技術論Ⅳ（看護過程展開技術）	看14	2後	1			○			
		看護技術論Ⅴ（統合技術演習）	看15	2後	1			○			
		日常生活調整方法論	看16	2前		1		○			
		看護学入門実習	看17	1前	2				○		
		基礎看護学実習	看18	2前	2				○		
	実践看護科目	医療生活支援	臨床看護学概論	看19	2後	1			○		
			臨床看護学方法論Ⅰ（急性期・がん）	看20	3前	2			○		
			臨床看護学方法論Ⅱ（慢性期・終末期）	看21	3前	2			○		
			臨床看護学方法論Ⅲ（臨床看護技術演習）	看22	3後・4前	1			○		
			ターミナルケア論	看23	3前		1		○		
			急性期看護学実習	看24	3後・4前	2					○
		慢性期看護学実習	看25	3後・4前	3				○		
		療養生活支援	精神看護学概論	看26	1後	1			○		
			高齢者・在宅看護学概論	看27	1後	1			○		
			高齢者・在宅看護学方法論Ⅰ	看28	2後	1			○		
			高齢者看護学方法論Ⅱ	看29	3前	1			○		
			在宅看護学方法論Ⅱ	看30	3前	1			○		
	精神看護学方法論Ⅰ		看31	2後	1			○			
	精神看護学方法論Ⅱ		看32	3前	1			○			
退院支援論	看33		3前		1		○				
高齢者看護学実習	看34		3後・4前	3				○			
在宅看護学実習	看35		3後・4前	1				○			
精神看護学実習	看36	3後・4前	2				○				
健康生活支援	地域看護学概論	看37	2前	2			○				
	地域看護学方法論Ⅰ	看38	2後	1			○				
	地域看護学方法論Ⅱ	看39	3前	2			○				
	地域看護学方法論Ⅲ	看40	3前	1			○				
	地域看護学実習	看41	3後・4前	3				○			
	看護政策論	看42	4前	1			○				
育成支援	育成期看護概論	看43	2前	1			○				
	小児看護学方法論Ⅰ	看44	2後	1			○				
	小児看護学方法論Ⅱ	看45	3前	1			○				
	小児地域ケア論	看46	3前		1		○				
	母性看護学方法論Ⅰ	看47	2後	1			○				
	母性看護学方法論Ⅱ	看48	3前	1			○				
	母性看護学実習	看49	3後・4前	2				○			
	小児看護学実習	看50	3後・4前	2				○			
	助産学概論	看51	3前		1		○				
	助産診断・技術学Ⅰ	看52	3前		1		○				
	助産診断・技術学Ⅱ	看53	4前		2		○				
	助産診断・技術学Ⅲ	看54	4通		3		○				

別表（看護学科 2021年度以降 入学生用）

専門科目	実践看護科目	育成支援	助産診断・技術学Ⅳ	看55	4後		2			○		【専門科目】 (再掲) 必修77単位 + 選択3単位
			助産学実習Ⅰ（産婦ケア体験）	看56	3後		1				○	
			助産学実習Ⅱ（継続支援）	看57	4通		2				○	
			助産学実習Ⅲ（産婦ケア）	看58	4通		3				○	
	発展看護科目	看護管理論	看59	4前	1				○			
		災害看護学	看60	3前	1				○			
		看護キャリア発達論	看61	2後	1				○			
		看護管理実習	看62	4前	1						○	
		総合実習	看63	4通	3						○	
		看護研究	看64	4通	2					○		
		看護学統合	看65	4後	1					○		
		リーダーシップ論	看66	2前	1					○		
		国際看護論	看67	2前		1				○		
		家族看護論	看68	2後		1				○		

先修条件

【特色科目】

- 1 「千葉県健康づくり」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。
- 2 「社会実習（ボランティア活動）」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。

【一般教養科目】

- 1 「実践統計学」を履修するには「統計学」の単位を修得済みであること。
- 2 「英語Ⅶ(上級英語)A」「英語Ⅷ(上級英語)B」を履修するには「英語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、またはⅥ」の選択2単位を修得済みであること。

別表（看護学科 2021 年度以降 入学生用）

先修条件

【専門科目】

1 下記の実習科目および「看護学統合」を履修するには、表に示す所定の科目の単位を既に修得していること、又は同じ学期に単位の修得が見込まれていること。

配当年次	授業科目の名称	履修に先立って修得しておかなければならない 授業科目の名称																																		
		講義科目							演習科目							実習科目																				
		看護学入門	精神看護学概論	臨床看護学概論	育成期看護学概論	地域看護学概論	地域看護学方法論Ⅰ・Ⅱ	高齢者・在宅看護概論	臨床看護学方法論Ⅰ	臨床看護学方法論Ⅱ	看護管理論	看護学原論	看護技術論Ⅰ・Ⅲ	看護技術論Ⅳ・Ⅴ	地域看護学方法論Ⅲ	精神看護学方法論Ⅰ・Ⅱ	高齢者・在宅看護学方法論Ⅰ	高齢者看護学方法論Ⅱ	在宅看護学方法論Ⅱ	母性看護学方法論Ⅰ・Ⅱ	小児看護学方法論Ⅰ・Ⅱ	臨床看護学方法論Ⅲ	助産診断・技術学Ⅱ	看護学入門実習	基礎看護学実習	急性期看護学実習	慢性期看護学実習	精神看護学実習	在宅看護学実習	地域看護学実習	高齢者看護学実習	母性看護学実習	小児看護学実習Ⅰ	助産学実習Ⅰ	総合実習	
1前	看護学入門実習	○																																		
2前	基礎看護学実習	○	○							○	○												○													
3後 ～ 4前	急性期看護学実習			○					○	○												○	○	○												
	慢性期看護学実習			○					○	○													○	○												
	地域看護学実習					○	○							○	○								○	○												
	精神看護学実習		○											○	○									○	○											
	在宅看護学実習							○								○		○						○	○											
	高齢者看護学実習							○								○	○							○	○											
	母性看護学実習																							○	○											
小児看護学実習																							○	○												
4前	看護管理実習								○																○	○										
4通	助産学実習Ⅱ																						○													○
	助産学実習Ⅲ																						○													○
4後	総合実習																																			
	看護学統合																																			○

○：単位を既に修得していること、又は同じ学期に単位の修得が見込まれていること。

別表（看護学科 2021 年度以降 入学生用）

進級要件

以下の要件を満たした者でなければ、3年次に進級できない。

- 1 1・2年次に配当された特色科目および保健医療基礎科目の必修科目の単位を修得済みの者。
- 2 1・2年次に配当された専門科目のうち、専門基礎科目、基礎看護科目の必修科目の単位を修得済みの者。

卒業要件

科目区分	必修科目	選択科目	合計
特色科目	3単位	0単位	3単位
一般教養科目	4単位	20単位	24単位
保健医療基礎科目	16単位	3単位	19単位
専門科目	77単位	3単位	80単位
合計	100単位	26単位	126単位

○ 助産課程に関する特記事項

助産課程選択の場合は、「助産学概論」及び「助産診断・技術学Ⅰ」の計2単位を選択必修とするほか、別途、「助産診断・技術学Ⅱ」、「助産診断・技術学Ⅲ」、「助産診断・技術学Ⅳ」及び、「助産学実習Ⅰ（産婦ケア体験）」、「助産学実習Ⅱ（継続支援）」、「助産学実習Ⅲ（産婦ケア）」の計13単位が必要である。

○ 養護教諭二種に関する特記事項

「保健師」の免許を基礎資格として「養護教諭二種免許状」を取得する場合、「法学（日本国憲法）」、「健康スポーツ科学」、「生涯身体運動科学」、「英語Ⅴ（保健医療英語）」、「情報リテラシーⅠ」及び「情報リテラシーⅡ」の計8単位が必要である。

○ 総合実習と看護学統合に関する特記事項

「総合実習」と「看護学統合」の履修は、卒業に必要な単位の修得が見込まれている必要がある。

別表（看護学科 2019・2020年度 入学生用）

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
特色科目	体験ゼミナール	特色1	1前	1					○	必修3単位
	千葉県の健康づくり	特色2	2後	1				○		
	専門職間の連携活動論	特色3	4後	1				○		
	社会実習（ボランティア活動）	特色4	2・3・4			1			○	
一般教養科目	人間理解群	心理学	一般1	1・2・3・4前		2		○		選択 4単位 (※1)
		哲学	一般2	1・2・3・4前		2		○		
		文学	一般3	1・2・3・4前		2		○		
		歴史と文化	一般4	1・2・3・4前		2		○		
		生命倫理	一般5	1・2・3・4後		2		○		
		宗教学	一般6	1・2・3・4後		2		○		
		教育学	一般7	1・2・3・4後		2		○		
		人間関係論	一般8	1・2・3・4前		2		○		
		コミュニケーション理論と実際	一般9	1・2・3・4前		2		○		
		健康スポーツ科学	一般10	1・2・3・4前後		1			○	
		生涯身体運動科学	一般11	1・2・3・4前後		1			○	
	生活と環境群	生活とデザイン	一般12	1・2・3・4後		2		○		選択 6単位 (※2)
		法学(日本国憲法)	一般13	1・2・3・4前		2		○		
		社会学	一般14	1・2・3・4後		2		○		
		文化人類学	一般15	1・2・3・4前		2		○		
		経済学	一般16	1・2・3・4前		2		○		
		国際関係論	一般17	1・2・3・4後		2		○		
		社会福祉学	一般18	1・2・3・4前		1		○		
		国際的な健康課題	一般19	1・2・3・4後		1		○		
		人権・ジェンダー	一般20	1・2・3・4後		2		○		
		科学論	一般21	1・2・3・4前		2		○		
		環境変化と生態	一般22	1・2・3・4後		2		○		
		観察生物学入門	一般23	1・2・3・4前後		2		○		
		生物学	一般24	1・2・3・4前後		2		○		
		物理学	一般25	1・2・3・4前		2		○		
		化学	一般26	1・2・3・4前		2		○		
	情報理解群	統計学	一般27	1後	1				○	必修 2単位
		情報リテラシーⅠ	一般28	1前	1				○	
		情報リテラシーⅡ	一般29	1・2・3・4後		1			○	
		情報倫理	一般30	1・2・3・4後		1		○		
		実践統計学	一般31	2・3・4前		1		○		
	外国語群	英語Ⅰ（講読）	一般32	1・2・3・4前		1			○	必修 2単位 + 選択 2単位
		英語Ⅱ（英会話）	一般33	1・2・3・4前		1			○	
		英語Ⅲ（講読・記述）	一般34	1・2・3・4後		1			○	
		英語Ⅳ（英語コミュニケーション）	一般35	1・2・3・4後		1			○	
		英語Ⅴ（保健医療英語）	一般36	2後	2			○		
		英語Ⅵ（応用英語）	一般37	1・2・3・4後		1			○	
		英語Ⅶ（上級英語）A	一般38	2・3・4後		1		○		
		英語Ⅶ（上級英語）B	一般39	2・3・4後		1		○		

【一般教養科目】選択科目から選択8単位

※1 人間理解群における選択科目の履修方法について

「人間関係論」又は「コミュニケーション理論と実際」を含み4単位を選択して履修する。

※2 生活と環境群における選択科目の履修方法について

「文化人類学」「国際関係論」「国際的な健康課題」から1科目及び生物の科目（「観察生物学入門」又は「生物学」）、「物理学」、「化学」のうち2科目を含む6単位以上を選択して履修する。

別表（看護学科 2019・2020年度 入学生用）

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習		
保健医療基礎科目	人間のこころと身体	運動生理学総論	保健1	2前		1		○			必修16単位 ＋ 選択4単位
		生化学総論	保健2	2前	1			○			
		栄養学Ⅰ（基礎）	保健3	1後	1			○			
		栄養学Ⅱ（応用）	保健4	1後		1		○			
		心の健康	保健5	1・2・3・4後			1	○			
		薬理学Ⅰ（総論）	保健6	1後	1			○			
		薬理学Ⅱ（各論）	保健7	1後	1			○			
		病理学Ⅰ（総論）	保健8	1前	1			○			
		病理学Ⅱ（各論）	保健9	1前	1			○			
		微生物学Ⅰ（総論）	保健10	1前	1			○			
		微生物学Ⅱ（各論）	保健11	1前	1			○			
		発達心理学	保健12	2前		1		○			
		臨床心理学	保健13	1後		1			○		
	健康と保健医療システム	健康論	保健14	1前		1		○			
		公衆衛生学Ⅰ（基礎）	保健15	1前	1			○			
		公衆衛生学Ⅱ（応用）	保健16	2後	1			○			
		疫学・保健統計Ⅰ（基礎）	保健17	3前	1			○			
		疫学・保健統計Ⅱ（応用）	保健18	3前	1			○			
		リハビリテーション概論	保健19	2後		1		○			
		救命・救急の理論と実際	保健20	2前	1			○			
		画像診断学	保健21	2後		1		○			
		保健医療福祉論Ⅰ（基礎）	保健22	2後	1			○			
		保健医療福祉論Ⅱ（応用）	保健23	2後	1			○			
		食育論Ⅰ（基礎）	保健24	3前		1		○			
		食育論Ⅱ（応用）	保健25	3前		1		○			
		健康と運動	保健26	1後		1		○			
		家族社会学	保健27	1前		1		○			
		医療経営管理論	保健28	3前		1		○			
		リスクマネジメント論	保健29	2後		1		○			
専門科目	専門基礎科目	人体の構造と機能Ⅰ（総論、外皮・免疫系、消化器系、呼吸器系）	看1	1前	1			○		【専門科目】 必修76単位 ＋ 選択3単位	
		人体の構造と機能Ⅱ（循環器系、腎・泌尿器系、内分泌系、生殖器系）	看2	1前	1			○			
		人体の構造と機能Ⅲ（造血器系、骨・筋肉系、神経系、感覚器系）	看3	1後	1			○			
		病態学Ⅰ（内科系疾病論）	看4	2前	2			○			
		病態学Ⅱ（外科系疾病論）	看5	2前	2			○			
		病態学Ⅲ（高齢者・精神疾病論）	看6	2前	1			○			
		臨床検査論	看7	2前	1			○			
	基礎看護科目	看護学入門	看8	1前	1			○			
		看護学原論	看9	1前	1				○		
		看護倫理	看10	2後	1			○			
		看護技術論Ⅰ（生活援助技術）	看11	1後	2				○		
		看護技術論Ⅱ（フィジカルアセスメント技術）	看12	1後	1				○		

別表（看護学科 2019・2020年度 入学生用）

専門科目	基礎看護科目	看護技術論Ⅲ（検査治療技術）	看13	2前	2			○	
		看護技術論Ⅳ（看護過程展開技術）	看14	2後	1			○	
		看護技術論Ⅴ（統合技術演習）	看15	2後	1			○	
		日常生活調整方法論	看16	2前		1		○	
		看護学入門実習	看17	1前	2				○
		基礎看護学実習	看18	2前	2				○
	医療生活支援	臨床看護学概論	看19	2後	1			○	
		臨床看護学方法論Ⅰ（急性期・がん）	看20	3前	2			○	
		臨床看護学方法論Ⅱ（慢性期・終末期）	看21	3前	2			○	
		臨床看護学方法論Ⅲ（臨床看護技術演習）	看22	3後・4前	1			○	
		ターミナルケア論	看23	3前		1		○	
		急性期看護学実習	看25	3後・4前	2				○
		慢性期看護学実習	看27	3後・4前	3				○
	療養生活支援	精神看護学概論	看28	1後	1			○	
		高齢者・在宅看護学概論	看29	1後	1			○	
		高齢者・在宅看護学方法論Ⅰ	看30	2後	1			○	
		高齢者看護学方法論Ⅱ	看31	3前	1			○	
		在宅看護学方法論Ⅱ	看32	3前	1			○	
		精神看護学方法論Ⅰ	看33	2後	1			○	
		精神看護学方法論Ⅱ	看34	3前	1			○	
		退院支援論	看35	3前		1		○	
		高齢者看護学実習	看36	3後・4前	3				○
		在宅看護学実習	看37	3後・4前	1				○
	精神看護学実習	看38	3後・4前	2				○	
	健康生活支援	地域看護学概論	看39	2前	2			○	
		地域看護学方法論Ⅰ	看40	2後	1			○	
		地域看護学方法論Ⅱ	看41	3前	2			○	
		地域看護学方法論Ⅲ	看42	3前	1			○	
		地域看護学実習	看43	3後・4前	3				○
		看護政策論	看62	4後		1		○	
	育成支援	育成期看護概論	看44	2前	1			○	
		小児看護学方法論Ⅰ	看45	2後	1			○	
		小児看護学方法論Ⅱ	看46	3前	1			○	
		小児地域ケア論	看47	3前		1		○	
		母性看護学方法論Ⅰ	看48	2後	1			○	
		母性看護学方法論Ⅱ	看49	3前	1			○	
		母性看護学実習	看50	3後・4前	2				○
		小児看護学実習	看51	3後・4前	2				○
		助産学概論	看52	3前		1		○	
		助産診断・技術学Ⅰ	看53	3前		1		○	
		助産診断・技術学Ⅱ	—	4前		2		○	
		助産診断・技術学Ⅲ	—	4通		2		○	
助産診断・技術学Ⅳ		—	4後		2		○		
助産学実習Ⅰ（産婦ケア体験）		看57	3後		1			○	
助産学実習Ⅱ（継続支援）		看58	4通		2			○	
助産学実習Ⅲ（産婦ケア）	—	4通		3			○		

【専門科目】
（再掲）
必修76単位
＋
選択3単位

別表（看護学科 2019・2020年度 入学生用）

発展看護科目	看護管理論	—	4前	1		○		
	災害看護学	看63	3前	1		○		
	看護キャリア発達論	看64	2後	1		○		
	看護管理実習	—	4前	1				
	総合実習	—	4通	3				○
	看護研究	看67	4通	2			○	
	看護学統合	看68	4後	1			○	
	リーダーシップ論	看69	2前	1			○	
	国際看護論	看72	2前		1		○	
	家族看護論	看73	2後		1		○	

先修条件

【特色科目】

- 1 「千葉県健康づくり」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。
- 2 「社会実習（ボランティア活動）」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。

【一般教養科目】

- 1 「実践統計学」を履修するには「統計学」の単位を修得済みであること。
- 2 「英語Ⅶ(上級英語)A」「英語Ⅶ(上級英語)B」を履修するには「英語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、またはⅥ」の選択2単位を修得済みであること。

別表（看護学科 2019・2020年度 入学生用）

進級要件

以下の要件を満たした者でなければ、3年次に進級できない。

- 1 1・2年次に配当された特色科目および保健医療基礎科目の必修科目の単位を修得済みの者。
- 2 1・2年次に配当された専門科目のうち、専門基礎科目、基礎看護科目の必修科目の単位を修得済みの者。

卒業要件

科目区分	必修科目	選択科目	合計
特色科目	3単位	0単位	3単位
一般教養科目	4単位	20単位	24単位
保健医療基礎科目	16単位	4単位	20単位
専門科目	76単位	3単位	79単位
合計	99単位	27単位	126単位

○ 助産課程に関する特記事項

助産課程選択の場合は、「助産学概論」及び「助産診断・技術学Ⅰ」の計2単位を選択必修とするほか、別途、「助産診断・技術学Ⅱ」、「助産診断・技術学Ⅲ」、「助産診断・技術学Ⅳ」及び、「助産学実習Ⅰ（産婦ケア体験）」、「助産学実習Ⅱ（継続支援）」、「助産学実習Ⅲ（産婦ケア）」の計12単位が必要である。

○ 養護教諭二種に関する特記事項

「保健師」の免許を基礎資格として「養護教諭二種免許状」を取得する場合、「法学（日本国憲法）」、「健康スポーツ科学」、「生涯身体運動科学」、「英語Ⅴ（保健医療英語）」、「情報リテラシーⅠ」及び「情報リテラシーⅡ」の計8単位が必要である。

○ 総合実習と看護学統合に関する特記事項

「総合実習」と「看護学統合」の履修は、卒業に必要な単位の修得が見込まれている必要がある。

(看護学科 2018年度以前入学者用)

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
特色科目	体験ゼミナール	特色1	1前	1					○	必修3単位
	千葉県健康づくり	特色2	2後	1				○		
	専門職間の連携活動論	特色3	4後	1				○		
一般教養科目	人間理解群	心理学	一般1	1・2・3・4前		2		○		選択 4単位 (※1)
		哲学	一般2	1・2・3・4前		2		○		
		文学	一般3	1・2・3・4前		2		○		
		歴史と文化	一般4	1・2・3・4前		2		○		
		生命倫理	一般5	1・2・3・4後		2		○		
		宗教学	一般6	1・2・3・4後		2		○		
		教育学	一般7	1・2・3・4後		2		○		
		人間関係論	一般8	1・2・3・4前		2		○		
		コミュニケーション理論と実際	一般9	1・2・3・4前		2		○		
		健康スポーツ科学	一般10	1・2・3・4前後		1			○	
		生涯身体運動科学	一般11	1・2・3・4前後		1			○	
	生活と環境群	生活とデザイン	一般12	1・2・3・4後		2		○		選択 6単位 (※2)
		法学(日本国憲法)	一般13	1・2・3・4前		2		○		
		社会学	一般14	1・2・3・4後		2		○		
		文化人類学	一般15	1・2・3・4前		2		○		
		経済学	一般16	1・2・3・4前		2		○		
		国際関係論	一般17	1・2・3・4後		2		○		
		社会福祉学	一般18	1・2・3・4前		1		○		
		国際的な健康課題	一般19	1・2・3・4後		1		○		
		人権・ジェンダー	一般20	1・2・3・4後		2		○		
		科学論	一般21	1・2・3・4前		2		○		
		環境変化と生態	一般22	1・2・3・4後		2		○		
		観察生物学入門	一般23	1・2・3・4前後		2		○		
		生物学	一般24	1・2・3・4前後		2		○		
		物理学	一般25	1・2・3・4前		2		○		
		化学	一般26	1・2・3・4前		2		○		
	情報理解群	統計学	一般27	2後	1				○	必修 2単位
		情報リテラシーⅠ	一般28	1前	1				○	
		情報リテラシーⅡ	一般29	1・2・3・4後		1			○	
		情報倫理	一般30	1・2・3・4後		1		○		
	外国語群	英語Ⅰ(基礎講読)	—	1・2・3・4前		1			○	必修 2単位 + 選択 2単位
		英語Ⅱ(基礎英会話)	—	1・2・3・4前		1			○	
		英語Ⅲ(講読・記述)	一般34	1・2・3・4後		1			○	
		英語Ⅳ(英会話)	—	1・2・3・4後		1			○	
		英語Ⅴ(保健医療英語)	一般36	2後		2		○		
		英語Ⅵ(応用英語)	一般37	1・2・3・4後		1			○	

【一般教養科目】選択科目から選択8単位

※1 人間理解群における選択科目の履修方法について

「人間関係論」又は「コミュニケーション理論と実際」を含み4単位を選択して履修する。

※2 生活と環境群における選択科目の履修方法について

「文化人類学」「国際関係論」「国際的な健康課題」から1科目及び生物の科目(「観察生物学入門」又は「生物学」)、「物理学」、「化学」のうち2科目を含む6単位以上を選択して履修する。

(看護学科 2018年度以前入学者用)

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
保健医療基礎科目	人間のこころと身体	運動生理学総論	保健1	2前		1		○		必修16単位 + 選択4単位
		生化学総論	保健2	2前	1			○		
		栄養学Ⅰ(基礎)	保健3	1後	1			○		
		栄養学Ⅱ(応用)	保健4	1後	1	1		○		
		心の健康	保健5	1・2・3・4前			1	○		
		薬理学Ⅰ(総論)	保健6	1後	1			○		
		薬理学Ⅱ(各論)	保健7	1後	1			○		
		病理学Ⅰ(総論)	保健8	1前	1			○		
		病理学Ⅱ(各論)	保健9	1前	1			○		
		微生物学Ⅰ(総論)	保健10	1前	1			○		
		微生物学Ⅱ(各論)	保健11	1前	1			○		
		発達心理学	保健12	2前		1		○		
		臨床心理学	保健13	1後		1			○	
	健康と保健医療システム	健康論	保健14	1前		1		○		
		公衆衛生学Ⅰ(基礎)	保健15	1前	1			○		
		公衆衛生学Ⅱ(応用)	保健16	2後	1			○		
		疫学・保健統計Ⅰ(基礎)	保健17	3前	1			○		
		疫学・保健統計Ⅱ(応用)	保健18	3前	1			○		
		リハビリテーション概論	保健19	2後		1		○		
		救命・救急の理論と実際	保健20	2前	1			○		
		保健医療福祉論Ⅰ(基礎)	保健22	2後	1			○		
		保健医療福祉論Ⅱ(応用)	保健23	2後	1			○		
		食育論Ⅰ(基礎)	保健24	3前		1		○		
		食育論Ⅱ(応用)	保健25	3前		1		○		
		健康と運動	保健26	1後		1		○		
		家族社会学	保健27	1前		1		○		
		医療経営管理論	保健28	4後		1		○		
		リスクマネジメント論	保健29	2後	1			○		
		専門科目	専門基礎科目	人体の構造と機能Ⅰ(骨・筋・神経系)	—	1前	1			
人体の構造と機能Ⅱ(呼吸器・循環器・消化器系)	—			1前	1			○		
人体の構造と機能Ⅲ(泌尿器・生殖器・感覚器系)	—			1後	1			○		
病態学Ⅰ(内科系疾病論)	看4			2前	2			○		
病態学Ⅱ(外科系疾病論)	看5			2前	2			○		
病態学Ⅲ(高齢者・精神疾病論)	看6			2前	1			○		
臨床検査実習	—			2前	1				○	
基礎看護科目	看護学入門		看8	1前	1				○	
	看護倫理		看10	2後	1				○	
	看護技術論Ⅰ(生活援助技術)		看11	1後	2				○	
	看護技術論Ⅱ(看護共通技術)		—	1後	1				○	

(看護学科 2018年度以前入学者用)

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
専門科目	基礎看護科目	看護技術論Ⅲ (フィジカルアセスメント技術)	—	2 前	2				○	【専門科目】 (再掲) 必修 7.5 単位 + 選択 4 単位
		看護技術論Ⅳ (検査治療技術)	—	2 後	2				○	
		看護技術論Ⅴ (看護過程展開技術)	—	2 後	1				○	
		看護ふれあい体験学習	—	1 前	2				○	
		基礎看護学実習	看 18	2 前	2				○	
	医療生活支援	成人看護学概論	—	2 後	1			○		
		成人看護学方法論Ⅰ	—	3 前	2			○		
		成人看護学方法論Ⅱ	—	3 前	2			○		
		がん看護学	—	2 後	1			○		
		ターミナルケア論	看 23	3 前		1		○		
		成人看護学実習 (急性期)	—	3 後・4 前	3				○	
		成人看護学実習 (慢性期)	—	3 後・4 前	3				○	
	療養生活支援	こころの健康と看護	—	1 後	1			○		
		療養支援看護概論	—	2 前	1			○		
		高齢者・在宅看護学方法論Ⅰ	看 28	2 後	1				○	
		高齢者・在宅看護学方法論Ⅱ	—	3 前	2				○	
		精神看護学方法論	—	3 前	2				○	
		高齢者看護学実習	看 34	3 後・4 前	3				○	
		在宅看護学実習	看 35	3 後・4 前	1				○	
	健康生活支援	精神看護学実習	看 36	3 後・4 前	2				○	
		地域看護学概論	看 37	2 前	2			○		
		地域看護学方法論Ⅰ	看 38	2 後	1			○		
		地域看護学方法論Ⅱ	看 39	3 前	2			○		
		地域看護学方法論Ⅲ	看 40	3 前	2			○		
	育成支援	地域看護学実習	看 41	3 後・4 前	3				○	
		育成支援看護概論	—	2 前	1			○		
		小児看護学方法論Ⅰ	看 44	2 後	1				○	
		小児看護学方法論Ⅱ	看 45	3 前	1				○	
		母性看護学方法論Ⅰ	看 47	2 後	1				○	
		母性看護学方法論Ⅱ	看 48	3 前	1				○	
		母性看護学実習	看 49	3 後・4 前	2				○	
		小児看護学実習	看 50	3 後・4 前	2				○	
		助産学概論	看 51	3 前		1		○		
		助産診断・技術学Ⅰ (実践基礎)	—	3 前		1		○		
		助産診断・技術学Ⅱ (ライフサイクル各期)	—	4 前		2			○	
		助産診断・技術学Ⅲ (分娩期)	—	4 通		2			○	
		助産診断・技術学Ⅳ (ハリスク分娩)	—	4 後		2			○	
		助産学実習Ⅰ (産婦ケア体験)	看 56	3 後		1			○	
		助産学実習Ⅱ (継続支援)	看 57	4 通		3			○	
	助産学実習Ⅲ (分娩期ケア)	—	4 通		3			○		

(看護学科 2018 年度以前入学者用)

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
専門科目	発展看護科目	看護管理学	—	4 前	1			○		【専門科目】 (再掲) 必修 7.5 単位 + 選択 4 単位
		感染看護学	—	2 後		1		○		
		看護政策論	看 42	4 前		1		○		
		災害看護学	看 60	3 前	1			○		
		看護キャリア発達論	看 61	2 前		1		○		
		看護管理学実習	—	4 前	1				○	
		総合実習	看 63	4 通	2				○	
		看護研究	看 64	4 通	2				○	
		看護学統合	看 65	4 後	1				○	
		リーダーシップ論	看 66	4 後		1		○		
		継続看護方法論	看 69	4 後		1		○		
		国際看護論	看 67	2 前		1		○		
		家族看護学概論	—	2 後		1		○		
		家族看護学方法論	—	3 前		1		○		

先修条件

【特色科目（平成28年度入学生より適用する）】

- 1 「千葉県の健康づくり」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。
- 2 「専門職間の連携活動論」を履修するには「体験ゼミナール」、「千葉県の健康づくり」の単位を修得済みであること。

【専門科目】

1. 下記の実習科目および「看護学統合」を履修するには、表に示す所定の科目の単位を既に修得していること、又は同じ学期に単位の修得見込みであること。

配当年次	授業科目の名称	履修に先立って修得しておかなければならない授業科目の名称																									
		講義科目						演習科目						実習科目													
		看護学入門	こころの健康と看護	成人看護学概論	育成支援看護概論	地域看護学概論	療養支援看護概論	看護管理学	看護技術論Ⅰ～Ⅲ	看護技術論Ⅳ～Ⅴ	成人看護学方法論Ⅰ～Ⅱ	地域看護学方法論Ⅰ～Ⅲ	精神看護学方法論	高齢者・在宅看護学方法論Ⅰ～Ⅱ	母性看護学方法論Ⅰ～Ⅱ	小児看護学方法論Ⅰ～Ⅱ	看護ふれあい体験学習	基礎看護学実習	成人看護学実習(急性期)	成人看護学実習(慢性期)	精神看護学実習	在宅看護学実習	地域看護学実習	高齢者看護学実習	母性看護学実習	小児看護学実習	総合実習
1前	看護ふれあい体験学習	○																									
2前	基礎看護学実習	○	○					○								○											
3後～4前	成人看護学実習(急性期)			○					○	○						○	○										
	成人看護学実習(慢性期)			○					○	○						○	○										
	地域看護学実習					○			○		○					○	○										
	精神看護学実習								○			○				○	○										
	在宅看護学実習								○				○			○	○										
	高齢者看護学実習								○				○			○	○										
	母性看護学実習								○					○		○	○										
小児看護学実習								○						○	○	○											
4前	看護管理学実習																	○	○								
4後	総合実習																										
	看護学統合																		○	○	○	○	○	○	○	○	○

○：単位を既に修得していること、又は同じ学期に単位の修得見込みであること。

(看護学科 2018年度以前入学者用)

卒業要件

科目区分	必修科目	選択科目	合計
特色科目	3単位	0単位	3単位
一般教養科目	4単位	20単位	24単位
保健医療基礎科目	16単位	4単位	20単位
専門科目	75単位	4単位	79単位
合計	98単位	28単位	126単位

○ 助産課程に関する特記事項

助産課程選択の場合は、「助産学概論」及び「助産診断・技術学Ⅰ（実践基礎）」の計2単位を選択必修とするほか、別途、「助産診断・技術学Ⅱ（ライフサイクル各期）」、「助産診断・技術学Ⅲ（分娩期）」、「助産診断・技術学Ⅳ（ハイリスク分娩）」及び、「助産学実習Ⅰ（産婦ケア体験）」、「助産学実習Ⅱ（継続支援）」、「助産学実習Ⅲ（分娩期ケア）」の計13単位が必要である。

○ 養護教諭二種に関する特記事項

「保健師」の免許を基礎資格として「養護教諭二種免許状」を取得する場合、「法学（日本国憲法）」、「健康スポーツ科学」、「生涯身体運動科学」、「英語Ⅴ（保健医療英語）」、「情報リテラシーⅠ」及び「情報リテラシーⅡ」の計8単位が必要である。

○ 総合実習と看護学統合に関する特記事項

「総合実習」と「看護学統合」の履修は、卒業に必要な単位の修得が見込まれている必要がある。

別表（看護学科 2021・2022年度 編入学生用）

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
特色科目	体験ゼミナール	特色1	3前	1					○	必修3単位
	千葉県の健康づくり	特色2	3後	1				○		
	専門職間の連携活動論	特色3	4後	1				○		
	社会実習（ボランティア活動）	特色4	4			1			○	
一般教養科目	人間理解群	心理学	一般1	3・4前		2		○		選択 4単位 (※1)
		哲学	一般2	3・4前		2		○		
		文学	一般3	3・4前		2		○		
		歴史と文化	一般4	3・4前		2		○		
		生命倫理	一般5	3・4後		2		○		
		宗教学	一般6	3・4後		2		○		
		教育学	一般7	3・4後		2		○		
		人間関係論	一般8	3・4前		2		○		
		コミュニケーション理論と実際	一般9	3・4前		2		○		
		健康スポーツ科学	一般10	3・4後		1			○	
		生涯身体運動科学	一般11	3・4前後		1			○	
	生活と環境群	生活とデザイン	一般12	3・4後		2		○		選択 6単位 (※2)
		法学(日本国憲法)	一般13	3・4前		2		○		
		社会学	一般14	3・4後		2		○		
		文化人類学	一般15	3・4前		2		○		
		経済学	一般16	3・4前		2		○		
		国際関係論	一般17	3・4後		2		○		
		社会福祉学	一般18	3・4前		1		○		
		国際的な健康課題	一般19	3・4後		1		○		
		人権・ジェンダー	一般20	3・4後		2		○		
		科学論	一般21	3・4前		2		○		
		環境変化と生態	一般22	3・4後		2		○		
		観察生物学入門	一般23	3・4前後		2		○		
		生物学	一般24	3・4前後		2		○		
		物理学	一般25	3・4前		2		○		
		化学	一般26	3・4前		2		○		
	情報理解群	統計学	一般27	3・4後	1				○	必修 2単位
		情報リテラシーⅠ	一般28	3前	1				○	
		情報リテラシーⅡ	一般29	3・4後		1			○	
		情報倫理	一般30	3・4後		1		○		
		実践統計学	一般31	4前		1		○		
	外国語群	英語Ⅰ（講読）	一般32	3・4前		1			○	必修 2単位 + 選択 2単位
		英語Ⅱ（英会話）	一般33	3・4前		1			○	
		英語Ⅲ（講読・記述）	一般34	3・4後		1			○	
		英語Ⅳ（英語コミュニケーション）	一般35	3・4後		1			○	
		英語Ⅴ（保健医療英語）	一般36	3後	2			○		
		英語Ⅵ（応用英語）	一般37	3・4後		1			○	
		英語Ⅶ（上級英語）A	一般38	4後		1		○		
		英語Ⅶ（上級英語）B	一般39	4後		1		○		

【一般教養科目】選択科目から選択8単位

※1 人間理解群における選択科目の履修方法について

「人間関係論」又は「コミュニケーション理論と実際」を含み4単位を選択して履修する。

※2 生活と環境群における選択科目の履修方法について

「文化人類学」「国際関係論」「国際的な健康課題」から1科目及び生物の科目（「観察生物学入門」又は「生物学」）、「物理学」、
「化学」のうち2科目を含む6単位以上を選択して履修する。

別表（看護学科 2021・2022年度 編入学生用）

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習		
保健医療基礎科目	人間のこころと身体	運動生理学総論	保健1	3前		1		○			必修16単位 + 選択4単位
		生化学総論	—	—	1			○			
		栄養学Ⅰ（基礎）	—	—	1			○			
		栄養学Ⅱ（応用）	—	3後		1		○			
		薬理学Ⅰ（総論）	—	—	1			○			
		薬理学Ⅱ（各論）	—	—	1			○			
		病理学Ⅰ（総論）	—	—	1			○			
		病理学Ⅱ（各論）	—	—	1			○			
		微生物学Ⅰ（総論）	—	—	1			○			
		微生物学Ⅱ（各論）	—	—	1			○			
		発達心理学	保健12	4前		1		○			
		臨床心理学	保健13	3後		1			○		
	健康と保健医療システム	健康論	保健14	3前		1		○			
		公衆衛生学Ⅰ（基礎）	—	—	1			○			
		公衆衛生学Ⅱ（応用）	—	—	1			○			
		疫学・保健統計Ⅰ（基礎）	保健17	3前	1			○			
		疫学・保健統計Ⅱ（応用）	保健18	3前	1			○			
		リハビリテーション概論	保健19	3後		1		○			
		救命・救急の理論と実際	保健20	3前	1			○			
		画像診断学	保健21	3後		1		○			
		保健医療福祉論Ⅰ（基礎）	保健22	3後	1			○			
		保健医療福祉論Ⅱ（応用）	保健23	3後	1			○			
		食育論Ⅰ（基礎）	保健24	3前		1		○			
		食育論Ⅱ（応用）	保健25	3前		1		○			
		健康と運動	保健26	3後		1		○			
		家族社会学	保健27	3前		1		○			
		医療経営管理論	保健28	3前		1		○			
		リスクマネジメント論	保健29	3後		1		○			
		専門科目	専門基礎科目	人体の構造と機能Ⅰ（総論、外皮・免疫系、消化器系、呼吸器系）	—	—	1			○	
人体の構造と機能Ⅱ（循環器系、腎・泌尿器系、内分泌系、生殖器系）	—			—	1			○			
人体の構造と機能Ⅲ（造血器系、骨・筋肉系、神経系、感覚器系）	—			—	1			○			
病態学Ⅰ（内科系疾病論）	—			—	2			○			
病態学Ⅱ（外科系疾病論）	—			—	2			○			
病態学Ⅲ（高齢者・精神疾病論）	—			—	1			○			
臨床検査論	—			—	1			○			
基礎看護科目	看護学入門		—	—	1			○			
	看護学原論		—	—	1				○		
	看護倫理		看10	3後	1			○			
	看護技術論Ⅰ（生活援助技術）		—	—	2				○		
	看護技術論Ⅱ（フィジカルアセスメント技術）		—	—	1				○		
			—	—	1					○	

別表（看護学科 2021・2022年度 編入学生用）

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等			
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習				
専門科目	基礎看護科目	看護技術論Ⅲ（検査治療技術）	—	—	2			○		【専門科目】 （再掲） 必修76単位 + 選択3単位			
		看護技術論Ⅳ（看護過程展開技術）	—	—	1			○					
		看護技術論Ⅴ（統合技術演習）	—	—	1			○					
		日常生活調整方法論	看16	3・4前		1		○					
		看護学入門実習	—	—	2				○				
		基礎看護学実習	—	—	2				○				
	医療生活支援	臨床看護学概論	看19	3後	1			○			【専門科目】 （再掲） 必修76単位 + 選択3単位		
		臨床看護学方法論Ⅰ（急性期・がん）	—	—	2			○					
		臨床看護学方法論Ⅱ（慢性期・終末期）	—	—	2			○					
		臨床看護学方法論Ⅲ（臨床看護技術演習）	—	—	1			○					
		ターミナルケア論	看23	3・4前		1		○					
		急性期看護学実習	—	—	2				○				
		慢性期看護学実習	—	—	3				○				
		療養生活支援	精神看護学概論	看28	3後	1			○				【専門科目】 （再掲） 必修76単位 + 選択3単位
			高齢者・在宅看護学概論	看29	3後	1			○				
			高齢者・在宅看護学方法論Ⅰ	—	—	1			○				
			高齢者看護学方法論Ⅱ	—	—	1			○				
			在宅看護学方法論Ⅱ	—	—	1			○				
	精神看護学方法論Ⅰ		—	—	1			○					
	精神看護学方法論Ⅱ		—	—	1			○					
	退院支援論		看35	3・4前		1		○					
	高齢者看護学実習		—	—	3				○				
	在宅看護学実習		—	—	1				○				
	健康生活支援	地域看護学概論	看39	3前	2			○			【専門科目】 （再掲） 必修76単位 + 選択3単位		
		地域看護学方法論Ⅰ	看40	3後	1			○					
		地域看護学方法論Ⅱ	看41	3前	2			○					
		地域看護学方法論Ⅲ	看42	3前	1			○					
		地域看護学実習	看43	3後	3				○				
		看護政策論	看62	3・4後		1		○					
	育成支援	育成期看護概論	看44	3前	1			○			【専門科目】 （再掲） 必修76単位 + 選択3単位		
小児看護学方法論Ⅰ		—	—	1			○						
小児看護学方法論Ⅱ		—	—	1			○						
小児地域ケア論		看47	3・4前		1		○						
母性看護学方法論Ⅰ		—	—	1			○						
母性看護学方法論Ⅱ		—	—	1			○						
母性看護学実習		—	—	2				○					
小児看護学実習		—	—	2				○					
助産学概論		看52	3前		1		○						
助産診断・技術学Ⅰ		看53	3前		1		○						

別表（看護学科 2021・2022年度 編入学生用）

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
専門科目	発展看護科目	看護管理論	—	4前	1			○		【専門科目】 (再掲) 必修76単位 + 選択3単位
		災害看護学	看63	3前	1			○		
		看護キャリア発達論	看64	3後	1			○		
		看護管理実習	—	4前	1				○	
		総合実習	—	4通	3				○	
		看護研究	看67	4通	2				○	
		看護学統合	看68	4後	1				○	
		リーダーシップ論	看69	3・4前	1				○	
		国際看護論	看72	3前			1		○	
		家族看護論	看73	3後			1		○	

(看護学科 2023年度以降 編入学生用)

【特色科目】

- 1 「千葉県健康づくり」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。
- 2 「専門職間の関係活動論」を履修するには「体験ゼミナール」、「千葉県健康づくり」の単位を修得済みであること。
- 3 「社会実習（ボランティア活動）」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。

【一般教養科目】

- 1 「実践統計学」を履修するには「統計学」の単位を修得済みであること。
- 2 「英語Ⅶ(上級英語)A」「英語Ⅶ(上級英語)B」を履修するには「英語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、またはⅥ」の選択2単位を修得済みであること。

先修条件

【専門科目】

1 下記の実習科目および「看護学統合」を履修するには、表に示す所定の科目の単位を既に修得していること、又は同じ学期に単位の修得が見込まれていること。

配当 年次	授業科目の名称	履修に先立って修得しておかなければならない 授業科目の名称																																		
		講義科目							演習科目							実習科目																				
		看護学入門	精神看護学概論	臨床看護学概論	育成期看護学概論	地域看護学概論	地域看護学方法論Ⅰ・Ⅱ	高齢者・在宅看護概論	臨床看護学方法論Ⅰ	臨床看護学方法論Ⅱ	看護管理論	看護学原論	看護技術論Ⅰ・Ⅲ	看護技術論Ⅳ・Ⅴ	地域看護学方法論Ⅲ	精神看護学方法論Ⅰ・Ⅱ	高齢者・在宅看護学方法論Ⅰ	高齢者看護学方法論Ⅱ	在宅看護学方法論Ⅱ	母性看護学方法論Ⅰ・Ⅱ	小児看護学方法論Ⅰ・Ⅱ	臨床看護学方法論Ⅲ	助産診断・技術学Ⅱ	看護学入門実習	基礎看護学実習	急性期看護学実習	慢性期看護学実習	精神看護学実習	在宅看護学実習	地域看護学実習	高齢者看護学実習	母性看護学実習	小児看護学実習	助産学実習Ⅰ	総合実習	
1前	看護学入門実習	○																																		
2前	基礎看護学実習	○	○								○	○												○												
3後 ～ 4前	急性期看護学実習			○				○	○			○									○		○	○												
	慢性期看護学実習			○					○			○											○	○												
	地域看護学実習					○	○					○	○										○	○												
	精神看護学実習		○									○		○										○	○											
	在宅看護学実習							○								○		○						○	○											
	高齢者看護学実習							○								○		○						○	○											
	母性看護学実習																			○				○	○											
小児看護学実習																				○				○	○											
4前	看護管理実習									○																○	○									
4通	助産学実習Ⅱ																						○													○
	助産学実習Ⅲ																						○													○
4後	総合実習																																			
	看護学統合																																			○

○：単位を既に修得していること、又は同じ学期に単位の修得が見込まれていること。

別表（看護学科 2021・2022年度 編入学生用）

卒業要件

科目区分	必修科目	選択科目	合計
特色科目	3単位	0単位	3単位
一般教養科目	4単位	20単位	24単位
保健医療基礎科目	16単位	4単位	20単位
専門科目	76単位	3単位	79単位
合計	99単位	27単位	126単位

○ 養護教諭二種に関する特記事項

「保健師」の免許を基礎資格として「養護教諭二種免許状」を取得する場合、「法学（日本国憲法）」、「健康スポーツ科学」、「生涯身体運動科学」、「英語Ⅴ（保健医療英語）」、「情報リテラシーⅠ」及び「情報リテラシーⅡ」の計8単位が必要である。

(看護学科 2020年度以前編入学生用)

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
特色科目	体験ゼミナール	特色1	3前	1					○	必修3単位
	千葉県の健康づくり	特色2	3後	1				○		
	専門職間の連携活動論	特色3	4後	1				○		
一般教養科目	人間理解群	心理学	一般1	3・4前		2		○		選択 4単位 (※1)
		哲学	一般2	3・4前		2		○		
		文学	一般3	3・4前		2		○		
		歴史と文化	一般4	3・4前		2		○		
		生命倫理	一般5	3・4後		2		○		
		宗教学	一般6	3・4後		2		○		
		教育学	一般7	3・4後		2		○		
		人間関係論	一般8	3・4前		2		○		
		コミュニケーション理論と実際	一般9	3・4前		2		○		
		健康スポーツ科学	一般10	3・4後		1			○	
		生涯身体運動科学	一般11	3・4前後		1			○	
	生活と環境群	生活とデザイン	一般12	3・4後		2		○		選択 6単位 (※2)
		法学(日本国憲法)	一般13	3・4前		2		○		
		社会学	一般14	3・4後		2		○		
		文化人類学	一般15	3・4前		2		○		
		経済学	一般16	3・4前		2		○		
		国際関係論	一般17	3・4後		2		○		
		社会福祉学	一般18	3・4前		1		○		
		国際的な健康課題	一般19	3・4後		1		○		
		人権・ジェンダー	一般20	3・4後		2		○		
		科学論	一般21	3・4前		2		○		
		環境変化と生態	一般22	3・4後		2		○		
		観察生物学入門	一般23	3・4前後		2		○		
		生物学	一般24	3・4前後		2		○		
		物理学	一般25	3・4前		2		○		
		化学	一般26	3・4前		2		○		
	情報理解群	統計学	一般27	3後	1				○	必修 2単位
		情報リテラシー I	一般28	3前	1				○	
		情報リテラシー II	一般29	3・4後		1			○	
		情報倫理	一般30	3・4後		1			○	
外国語群	英語 I (基礎講読)	—	3・4前		1			○	必修 2単位 + 選択 2単位	
	英語 II (基礎英会話)	—	3・4前		1			○		
	英語 III (講読・記述)	一般34	3・4後		1			○		
	英語 IV (英会話)	—	3・4後		1			○		
	英語 V (保健医療英語)	一般36	3後	2				○		
	英語 VI (応用英語)	一般37	3・4後		1			○		

【一般教養科目】選択科目から選択8単位

※1 人間理解群における選択科目の履修方法について

「人間関係論」又は「コミュニケーション理論と実際」を含み4単位を選択して履修する。

※2 生活と環境群における選択科目の履修方法について

「文化人類学」「国際関係論」「国際的な健康課題」から1科目及び生物の科目（「観察生物学入門」又は「生物学」）、「物理学」、「化学」のうち2科目を含む6単位以上を選択して履修する。

(看護学科 2020年度以前編入学生用)

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
保健医療基礎科目	人間のこころと身体	運動生理学総論	保健 1	3 前		1		○		必修 16 単位 + 選択 4 単位
		生化学総論	—	—	1			○		
		栄養学 I (基礎)	—	—	1			○		
		栄養学 II (応用)	保健 4	3 後		1		○		
		薬理学 I (総論)	—	—	1			○		
		薬理学 II (各論)	—	—	1			○		
		病理学 I (総論)	—	—	1			○		
		病理学 II (各論)	—	—	1			○		
		微生物学 I (総論)	—	—	1			○		
		微生物学 II (各論)	—	—	1			○		
		発達心理学	保健 12	4 前		1		○		
	臨床心理学	保健 13	3 後		1			○		
	健康と保健医療システム	健康論	保健 14	3 前		1		○		
		公衆衛生学 I (基礎)	—	—	1			○		
		公衆衛生学 II (応用)	—	—	1			○		
		疫学・保健統計 I (基礎)	保健 17	3 前	1			○		
		疫学・保健統計 II (応用)	保健 18	3 前	1			○		
		リハビリテーション概論	保健 19	3 後		1		○		
		救命・救急の理論と実際	保健 20	3 前	1			○		
		保健医療福祉論 I (基礎)	保健 22	3 後	1			○		
		保健医療福祉論 II (応用)	保健 23	3 後	1			○		
		食育論 I (基礎)	保健 24	3 前		1		○		
		食育論 II (応用)	保健 25	3 前		1		○		
		健康と運動	保健 26	3 後		1		○		
		家族社会学	保健 27	3 前		1		○		
		医療経営管理論	保健 28	4 後		1		○		
		リスクマネジメント論	保健 29	3・4 後		1		○		
専門科目		専門基礎科目	人体の構造と機能 I (骨・筋・神経系)	—	—	1			○	
	人体の構造と機能 II (呼吸器・循環器・消化器系)		—	—	1			○		
	人体の構造と機能 III (泌尿器・生殖器・感覚器系)		—	—	1			○		
	病態学 I (内科系疾病論)		—	—	2			○		
	病態学 II (外科系疾病論)		—	—	2			○		
	病態学 III (高齢者・精神疾病論)		—	—	1			○		
	臨床検査実習		—	—	1				○	
	基礎看護科目	看護学入門	—	—	1				○	
		看護倫理	看 10	3 後	1				○	
		看護技術論 I (生活援助技術)	—	—	2				○	
		看護技術論 II (看護共通技術)	—	—	1				○	

(看護学科 2020年度以前編入学生用)

		看護技術論Ⅲ (フィジカルアセスメント技術)	—	—	2				○		
		看護技術論Ⅳ (検査治療技術)	—	—	2				○		
		看護技術論Ⅴ (看護過程展開技術)	—	—	1				○		
		看護ふれあい体験学習	—	—	2					○	
		基礎看護学実習	—	—	2					○	
専門科目	実践看護科目	医療・生活支援	成人看護学概論	—	3後	1			○		
			成人看護学方法論Ⅰ	—	—	2			○		
			成人看護学方法論Ⅱ	—	—	2			○		
			がん看護学	—	3後	1			○		
			ターミナルケア論	看 23	3・4前		1		○		
			成人看護学実習 (急性期)	—	—	3					○
			成人看護学実習 (慢性期)	—	—	3					○
		療養支援	こころの健康と看護	—	3後	1			○		
			療養支援看護概論	—	3後	1			○		
			高齢者・在宅看護学方法論Ⅰ	—	—	1				○	
			高齢者・在宅看護学方法論Ⅱ	—	—	2				○	
			精神看護学方法論	—	—	2				○	
			高齢者看護学実習	—	—	3					○
			在宅看護学実習	—	—	1					○
	健康支援	地域看護学概論	看 39	3前	2			○			
		地域看護学方法論Ⅰ	看 40	3後	1			○			
		地域看護学方法論Ⅱ	看 41	3前	2			○			
		地域看護学方法論Ⅲ	看 42	3前	2			○			
		地域看護学実習	看 43	3後	3					○	
	育成支援	育成支援看護概論	—	3・4前	1			○			
		小児看護学方法論Ⅰ	—	—	1				○		
		小児看護学方法論Ⅱ	—	—	1				○		
		母性看護学方法論Ⅰ	—	—	1				○		
		母性看護学方法論Ⅱ	—	—	1				○		
		母性看護学実習	—	—	2					○	
		小児看護学実習	—	—	2					○	
		助産学概論	看 52	3前		1		○			
助産診断・技術学Ⅰ (実践基礎)	看 53	3前		1		○					

【専門科目】
(再掲)
必修7.6単位
+
選択3単位

(看護学科 2020 年度以前編入学生用)

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
専門科目	発展看護科目	看護管理学	看 60	4 前	1			○		【専門科目】 (再掲) 必修 7 6 単位 + 選択 3 単位
		感染看護学	—	4 後		1		○		
		看護政策論	看 62	4 後		1		○		
		災害看護学	看 63	3 前	1			○		
		看護キャリア発達論	看 64	3 後	1			○		
		看護管理学実習	看 65	4 前	1				○	
		総合実習	看 66	4 通	2				○	
		看護研究	看 67	4 通	2				○	
		看護学統合	看 68	4 後	1				○	
		リーダーシップ論	看 70	4 後		1		○		
		継続看護方法論	看 71	4 後		1		○		
		国際看護論	看 72	3 前		1		○		
		家族看護学概論	—	3 後		1		○		
		家族看護学方法論	—	4 前		1		○		

先修条件

【特色科目】

1. 「千葉県の健康づくり」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。
2. 「専門職間の連携活動論」を履修するには「体験ゼミナール」、「千葉県の健康づくり」の単位を修得済みであること。

【専門科目】

1. 下記の実習科目および「看護学統合」を履修するには、表に示す所定の科目の単位を既に修得していること、又は同じ学期に単位の修得見込みであること。

配当年次	授業科目の名称	履修に先立って修得しておかなければならない授業科目の名称																											
		講義科目						演習科目						実習科目															
		看護学入門	こころの健康と看護	成人看護学概論	育成支援看護概論	地域看護学概論	療養支援看護概論	看護管理学	看護技術論ⅠⅡⅢ	看護技術論ⅣⅤ	成人看護学方法論Ⅰ	成人看護学方法論Ⅱ	地域看護学方法論ⅠⅡⅢ	精神看護学方法論	高齢者・在宅看護学方法論ⅠⅡ	母性看護学方法論ⅠⅡ	小児看護学方法論ⅠⅡ	看護ふれあい体験学習	基礎看護学実習	成人看護学実習(急性期)	成人看護学実習(慢性期)	精神看護学実習	在宅看護学実習	地域看護学実習	高齢者看護学実習	母性看護学実習	小児看護学実習	総合実習	
1前	看護ふれあい体験学習	○																											
2前	基礎看護学実習	○	○					○										○											
3後 ～ 4前	成人看護学実習(急性期)			○					○	○	○							○	○										
	成人看護学実習(慢性期)			○					○	○	○							○	○										
	地域看護学実習					○			○		○							○	○										
	精神看護学実習						○		○			○						○	○										
	在宅看護学実習						○		○					○				○	○										
	高齢者看護学実習						○		○					○				○	○										
	母性看護学実習				○				○						○			○	○										
小児看護学実習				○				○								○	○	○											
4前	看護管理学実習					○												○	○										
4後	総合実習																												
	看護学統合																		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

○：単位を既に修得していること、又は同じ学期に単位の修得見込みであること。

(看護学科 2020年度以前編入学生用)

卒業要件

科目区分	必修科目	選択科目	合計
特色科目	3単位	0単位	3単位
一般教養科目	4単位	20単位	24単位
保健医療基礎科目	16単位	4単位	20単位
専門科目	76単位	3単位	79単位
合計	99単位	27単位	126単位

○ 養護教諭二種に関する特記事項

「保健師」の免許を基礎資格として「養護教諭二種免許状」を取得する場合、「法学（日本国憲法）」、「健康スポーツ科学」、「生涯身体運動科学」、「英語Ⅴ（保健医療英語）」、「情報リテラシーⅠ」及び「情報リテラシーⅡ」の計8単位が必要である。

○ 総合実習と看護学統合に関する特記事項

「総合実習」と「看護学統合」の履修は、卒業に必要な単位の修得が見込まれている必要がある。

別表 (栄養学科 2019年度以降入学生用)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習			
特色科目	体験ゼミナール	1前	1					○	45	必修3単位	
	千葉県の健康づくり	2後	1					○	30		
	専門職間の連携活動論	4後	1					○	30		
	社会実習 (ボランティア活動)	2・3・4			1			○	45		
一般教養科目	人間理解群	心理学	1・2・3・4前		2			○		30	必修2単位 + 選択4単位 このうち bから1科目以上選択
		哲学	1・2・3・4前		2			○		30	
		文学	1・2・3・4前		2			○		30	
		歴史と文化	1・2・3・4前		2			○		30	
		生命倫理	1・2・3・4後	2				○		30	
		宗教学	1・2・3・4後		2			○		30	
		教育学	1・2・3・4前		2			○		30	
		人間関係論 b	1・2・3・4前		2			○		30	
		コミュニケーション理論と実際 b	1・2・3・4前		2			○		30	
		健康スポーツ科学	1・2・3・4前後		1				○	30	
	生涯身体運動科学	1・2・3・4前後		1				○	30		
	生活と環境群	生活とデザイン	1・2・3・4後		2			○		30	選択6単位 このうち ※から1科目以上選択 #から1科目以上選択
		法学 (日本国憲法)	1・2・3・4前		2			○		30	
		社会学※	1・2・3・4後		2			○		30	
		文化人類学	1・2・3・4前		2			○		30	
		経済学	1・2・3・4前		2			○		30	
		国際関係論※	1・2・3・4後		2			○		30	
		社会福祉学※	1・2・3・4前		1			○		15	
		国際的な健康課題※	1・2・3・4後		1			○		15	
		人権・ジェンダー	1・2・3・4後		2			○		30	
		科学論	1・2・3・4前		2			○		30	
		環境変化と生態	1・2・3・4後		2			○		30	
		観察生物学入門	1・2・3・4前後		2			○		30	
		生物学#	1・2・3・4前後		2			○		30	
	物理学#	1・2・3・4前		2			○		30		
	化学#	1・2・3・4前		2			○		30		
	情報理解群	統計学	1・2・3・4後	1					○	30	必修2単位
		情報リテラシー I	1・2・3・4前	1					○	30	
		情報リテラシー II	1・2・3・4後		1				○	30	
		情報倫理	1・2・3・4後		1			○		15	
		実践統計学	2・3・4前		1			○		15	
	外国語群	英語 I (講読)	1・2・3・4前		1				○	30	必修2単位 + 選択2単位
		英語 II (英会話)	1・2・3・4前		1				○	30	
		英語 III (講読・記述)	1・2・3・4後		1				○	30	
		英語 IV (英語コミュニケーション)	1・2・3・4後		1				○	30	
		英語 V (保健医療英語)	2前	2				○		30	
英語 VI (応用英語)		1・2・3・4後		1				○	30		
英語 VII (上級英語) A		2・3・4後		1			○		15		
英語 VII (上級英語) B		2・3・4後		1			○		15		

別表（栄養学科 2019年度以降入学生用）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習			
保健医療基礎科目	人間のこころと身体	運動生理学総論	2・4前		1		○			15	必修10単位 + 選択4単位
		生化学総論	1前			1	○			15	
		栄養学Ⅰ（基礎）	2後			1	○			15	
		栄養学Ⅱ（応用）	2後			1	○			15	
		心の健康	2・4後		1		○			15	
		薬理学Ⅰ（総論）	1後	1			○			15	
		薬理学Ⅱ（各論）	1後	1			○			15	
		病理学Ⅰ（総論）	1前	1			○			15	
		病理学Ⅱ（各論）	1前	1			○			15	
		微生物学Ⅰ（総論）	1・4前		1		○			15	
		微生物学Ⅱ（各論）	1・4前		1		○			15	
		発達心理学	1・4前		1		○			15	
		臨床心理学	1・2・4後		1			○		30	
	健康と保健医療システム	健康論	1・2・4前		1		○			15	
		公衆衛生学Ⅰ（基礎）	2前	1			○			15	
		公衆衛生学Ⅱ（応用）	2後	1			○			15	
		疫学・保健統計Ⅰ（基礎）	3前	1			○			15	
		疫学・保健統計Ⅱ（応用）	3前	1			○			15	
		リハビリテーション概論	2・3後		1		○			15	
		救命・救急の理論と実際	2・4前		1		○			15	
		画像診断学	2・3・4後		1		○			15	
		保健医療福祉論Ⅰ（基礎）	2後	1			○			15	
		保健医療福祉論Ⅱ（応用）	2後	1			○			15	
		食育論Ⅰ（基礎）	3前		1		○			15	
		食育論Ⅱ（応用）	3前		1		○			15	
		健康と運動	1・2・4後		1		○			15	
家族社会学	1・4前		1		○			15			
医療経営管理論	4前		1		○			15			
リスクマネジメント論	2・4後		1		○			15			
専門科目	専門基礎科目	管理栄養士導入教育	1前	1			○			15	【専門科目】 必修78単位 + 選択7単位
		解剖生理学Ⅰ	1前	2			○			30	
		解剖学実験	1後	1					○	45	
		解剖生理学Ⅱ	1後	2			○			30	
		生理学実験	2前	1					○	45	
		生化学	1前	2			○			30	
		栄養生化学	1後	2			○			30	
		生化学実験	2前	1					○	45	
		疾病論	2前	2			○			30	
		高齢者医療論	3・4後		1		○			15	
		食品学各論	1前	2			○			30	
		食品学実験	1後	1					○	45	
		食品学総論	1前	2			○			30	
		食品化学実験	1後	1					○	45	
		理化学概論	1前		1				○	15	

別表（栄養学科 2019年度以降入学生用）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習			
専門科目	専門基礎科目	食品衛生学	1 後	2			○			30	【専門科目】 (再掲) 必修78単位 + 選択7単位
		食品衛生学実験	2 後	1				○		45	
		食品加工学	2 前	1			○			15	
		食品加工学実習	2 後	1					○	45	
		食品微生物学	3・4 後		1		○			15	
		食事設計と調理	1 前	2			○			30	
		食事設計と調理実習	2 前	1					○	45	
		調理実習	1 後	1					○	45	
		調理科学実験	1 前	1					○	45	
	学 栄養 基礎	基礎栄養学	1 後	2			○			30	
		基礎栄養学実習	2 前	1					○	45	
	応用栄養学	応用栄養学Ⅰ	2 前	2			○			30	
		応用栄養学Ⅱ	2 後	2			○			30	
		応用栄養学Ⅲ	3 前	2			○			30	
		応用栄養学実習	3 前	1					○	45	
		スポーツ栄養学	3・4 後		1		○			15	
	栄養教育論	栄養教育論Ⅰ	2 後	2			○			30	
		栄養教育論Ⅱ	3 前	2			○			30	
		栄養教育論実習	3 前	1					○	45	
		栄養教育手法論	3 前	2			○			30	
	臨床栄養学	臨床栄養学Ⅰ	2 前	2			○			30	
		臨床栄養学Ⅱ	2 後	2			○			30	
		臨床栄養学実習	2 後	1					○	45	
		栄養ケアマネジメント論	3 前	2			○			30	
		栄養ケアマネジメント論実習	3 前	1					○	45	
		臨床検査学	2 前	2			○			30	
		在宅栄養支援論	3・4 後		1		○			15	
		障害者栄養支援論	3・4 後		1		○			15	
	公衆栄養学	公衆栄養学Ⅰ	2 後	2			○			30	
		公衆栄養学Ⅱ	3 前	2			○			30	
公衆栄養学実習		3 前	1					○	45		
国際栄養学		3・4 後		1		○			15		
管 給食経営 理 論	給食経営管理論Ⅰ	2 前	2			○			30		
	給食経営管理論Ⅱ	2 後	2			○			30		
	給食経営管理実習	3 前	2					○	90		
	フードマネジメント論	3・4 後		1		○			15		
演習 総合	総合演習	4 前	1				○		30		
	栄養統計学	3 後	1			○			15		
	管理栄養士特別演習	4 通		2			○		60		
研究	卒業研究	4 通	2				○		60		
臨地実習	臨床栄養臨地実習	3 通	2					○	90		
	給食経営管理臨地実習	3 通	2					○	90		
	公衆栄養臨地実習	3 通		1				○	45		

別表（栄養学科 2019年度以降入学生用）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習		
専門科目	臨地実習	栄養管理臨地実習	4通		1				○	45	【専門科目】 （再掲） 必修7.8単位 ＋ 選択7単位
		事前指導	3通	1				○	30		
		事後指導	3通	1				○	30		

別表（栄養学科 2019年度以降入学生用）

先修条件

【特色科目】

- 1 「千葉県の健康づくり」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。
- 2 「社会実習（ボランティア活動）」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。

【一般教養科目】

- 1 「実践統計学」を履修するには「統計学」の単位を修得済みであること。
- 2 「英語Ⅶ(上級英語)A」、「英語Ⅶ(上級英語) B」を履修するには「英語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、またはⅥ」の選択2単位を修得済みであること。

【専門科目】

- 1 「臨床栄養学実習」を履修するには、「臨床栄養学Ⅰ」の単位を修得済みであり、「臨床栄養学Ⅱ」の単位は修得見込みであること。
- 2 「公衆栄養学実習」を履修するには、「公衆栄養学Ⅱ」の単位を修得見込みであること。
- 3 「臨床栄養臨地実習」、「給食経営管理臨地実習」、「公衆栄養臨地実習」、「事前指導」及び「事後指導」を履修するには、3年前期に担当された必修の専門科目の単位を修得見込みであること。
- 4 「栄養教諭教育実習」及び「栄養教諭教育実習：事前・事後指導」を履修するには、管理栄養士課程の「臨床栄養臨地実習」及び「給食経営管理臨地実習」を単位修得済みであり、3年次終了までに担当された教職課程の全科目を単位修得済みであること。

進級要件

以下の要件を満たした者でなければ、3年次に進級できない。

- 1 1・2年次に担当された特色科目および保健医療基礎科目の必修科目の単位を修得済みの者。
- 2 1・2年次に担当された専門科目の必修科目の単位を修得済みの者。

卒業要件

科目区分	必修科目	選択科目	合計
特色科目	3単位	0単位	3単位
一般教養科目	6単位	18単位	24単位
保健医療基礎科目	10単位	4単位	14単位
専門科目	78単位	7単位	85単位
合計	97単位	29単位	126単位

別表（栄養学科 2019年度以降入学生用）

教職（栄養教諭一種）課程選択

栄養教諭一種免許取得希望者は、下表に指定する一般教養科目を含む卒業要件の126単位のほか、栄養教諭に関する科目を履修し、その単位を取得しなければならない。卒業時の取得単位数は149単位とする。

栄養教諭一種免許取得希望者の履修内容は次のとおりである。

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数	時間数	履修方法等	
一般教養科目	理解人間	健康スポーツ科学 (再掲)	1・2・3 前後	1	30	
		生涯身体運動科学 (再掲)	1・2・3 前後	1	30	
	環境生活と	法学（日本国憲法） (再掲)	1・2・3 前	2	30	
		情報理解	情報リテラシーⅠ (再掲)	1・2・3 前	1	
	情報リテラシーⅡ (再掲)		1・2・3 後	1	30	
	外国語群	英語Ⅱ（英会話） (再掲)	1・2・3 前	1	30	
		英語Ⅳ（英語コミュニケーション） (再掲)	1・2・3 後	1	30	
英語Ⅵ（応用英語） (再掲)		1・2・3 後	1	30		
栄養教諭に関する科目	栄養に係る教育に関する科目	食生活教育論	3 前	2	30	
		学校栄養教育論	3 後	2	30	
	教育の基礎的理解に関する科目	教職論	1 後	2	30	
		教育学概論	2 後	1	15	
		教育心理	2 前	2	30	
		教育制度論	2 後	1	15	
		カリキュラム論	2 前	1	15	
		特別支援教育論	3 前	1	15	
	道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目	教育の方法と技術	3 前	2	30	
		道徳・総合的な学習・特別活動論	2 前	1	15	
		生徒指導論	3 前	1	15	
		教育相談	3 後	2	30	
	教育実践に関する科目	教職実践演習（栄養教諭）	4 後	2	30	
		栄養教諭教育実習：事前・事後指導	4 通	1	45	
		栄養教諭教育実習	4 通	2	90	

別表（栄養学科 2019年度以降入学生用）

食品衛生監視員及び食品衛生管理者

2019年度入学生から、栄養学科の課程を修了することで食品衛生監視員及び食品衛生管理者の任用資格を取得することができる。

なお、法令に定める科目に対応する、本学の授業科目は下表のとおり。

食品衛生法施行規則別表第14及び第15に定める学科、科目名

区分	規定科目	規定科目に対応する 本学授業科目名	配当 年次	選択別		単位数
				必修	選択	
A群 化学関係	有機化学 無機化学	化学	1・2・3・4 前		2	2
	分析化学	食品化学実験	1後	1		1
		理化学概論	1前		1	1
	小計			1	3	4
B群 生物化学関係	生物化学	生化学	1前	2		2
		栄養生化学	1後	2		2
		生化学実験	2前	1		1
	食品化学	食品学総論	1前	2		2
		食品学各論	1前	2		2
		食品学実験	1後	1		1
生理学	解剖生理学Ⅱ	1後	2		2	
	生理学実験	2前	1		1	
	小計			13	0	13
C群 微生物学関係	食品微生物学	食品微生物学	3・4後		1	1
	食品保存学	食品加工学	2前	1		1
	食品製造学	食品加工学実習	2後	1		1
	小計			2	1	3
D群 公衆衛生学関係	公衆衛生学	公衆衛生学Ⅰ（基礎）	2前	1		1
		公衆衛生学Ⅱ（応用）	2後	1		1
	食品衛生学	食品衛生学	1後	2		2
		食品衛生学実験	2後	1		1
	疫学	疫学・保健統計Ⅰ（基礎）	3前	1		1
疫学・保健統計Ⅱ（応用）		3前	1		1	
	小計			7	0	7
A群からD群の合計で22単位以上を履修		合計（A+B+C+D）		23	4	27

別表（栄養学科 2019年度以降入学生用）

E群その他の関連科目	病理学	病理学Ⅰ（総論）	1前	1		1	
		病理学Ⅱ（各論）	1前	1		1	
	医学概論	疾病論	2前	2		2	
	解剖学	解剖生理学Ⅰ	1前	2		2	
		解剖学実験	1後	1		1	
	栄養化学	基礎栄養学	1後	2		2	
		基礎栄養学実習	2前	1		1	
	栄養学	応用栄養学Ⅰ	2前	2		2	
		応用栄養学Ⅱ	2後	2		2	
		応用栄養学Ⅲ	3前	2		2	
	その他これらに類する食品衛生に関する科目	食事設計と調理	食事設計と調理	1前	2		2
			食事設計と調理実習	2前	1		1
			調理実習	1後	1		1
			調理科学実験	1前	1		1
小計				21	0	21	
A群からE群を含め40単位以上を履修		総計（A+B+C+D+E）		44	4	48	

（注）

○ 上表のうち、必修科目のみで法定の必要単位数を上回るため、栄養学科の課程を修了した全ての者は、当該資格を取得することができる。（2019年度以降の入学者に限る。）

○ 「任用資格」とは、特定の職務に従事するために必要な資格である。申請により免許を取得する栄養士及び管理栄養士と異なり、養成施設の課程を修了し、当該職務に任用されることで効力が発生する。

○ 食品衛生監視員及び食品衛生管理者養成施設である他大学から本学栄養学科に転入学した者は、転入元と本学での修得単位を合算し、必要な単位を修得することで資格を取得することができる。

なお、未登録施設から転入学した場合は、食品衛生法及び同法施行規則の規定により、既修得単位を認定することはできないので、上表の資格取得に必要な授業科目は、本学で履修する必要がある。

別表

栄養士課程指定規則との比較表						
教育内容	単位数		授業科目の名称	配当年次	単位数（授業形態別）	
	講義又は演習	実験又は実習			講義・演習	実験・実習
社会生活と健康	4		公衆衛生学Ⅰ（基礎）	2	1	
			公衆衛生学Ⅱ（応用）	2	1	
			保健医療福祉論Ⅰ（基礎）	2	1	
			疫学・保健統計Ⅰ（基礎）	3	1	
人体の構造と機能	8	4	解剖生理学Ⅰ	1	2	
			解剖生理学Ⅱ	1	2	
			生化学	1	2	
			生化学実験	2		1
			疾病論	2	2	
			解剖学実験	1		1
			生理学実験	2		1
食品と衛生	6		食品学各論	1	2	
			食品学実験	1		1
			食品学総論	1	2	
			食品化学実験	1		1
			食品衛生学	1	2	
			食品加工学	2	1	
栄養と健康	8		基礎栄養学	1	2	
			基礎栄養学実習	2		1
			応用栄養学Ⅰ	2	2	
			応用栄養学Ⅱ	2	2	
			応用栄養学実習	3		1
			臨床栄養学Ⅰ	2	2	
栄養の指導	6	10	臨床栄養学実習	2		1
			栄養教育論Ⅰ	2	2	
			栄養教育論実習	3		1
			栄養教育手法論	3	2	
			公衆栄養学Ⅰ	2	2	
給食の運営	4		公衆栄養学実習	3		1
			食事設計と調理	1	2	
			調理実習	1		1
			給食経営管理論Ⅰ	2	2	
			給食経営管理実習	3		2
			給食経営管理臨地実習	3		2
小計	36	14			37	15
合計	50				52	

管理栄養士に係る必修科目						
管理栄養士学校指定規則（以下この表で「指定規則」という。）による教育内容	指定規則による単位数		授業科目の名称	開設科目の単位数		
	講義 又は 演習	実験 又は 実習		講義 又は 演習	実験 又は 実習	
専門基礎分野	社会・環境と健康	6	10	公衆衛生学Ⅰ（基礎） 公衆衛生学Ⅱ（応用） 保健医療福祉論Ⅰ（基礎） 保健医療福祉論Ⅱ（応用） 疫学・保健統計Ⅰ（基礎） 疫学・保健統計Ⅱ（応用）	1 1 1 1 1 1	
	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	14	10	解剖生理学Ⅰ 解剖生理学Ⅱ 生化学 栄養生化学 生化学実験 疾病論 解剖学実験 生理学実験 薬理学Ⅰ（総論） 薬理学Ⅱ（各論） 病理学Ⅰ（総論） 病理学Ⅱ（各論）	2 2 2 2 2 2 1 1 1 1	1 1 1
	食べ物と健康	8	10	食品学各論 食品学実験 食品学総論 食品化学実験 食品衛生学 食品衛生学実験 食品加工学 食品加工学実習 食事設計と調理 食事設計と調理実習 調理実習 調理科学実験	2 2 2 2 2 1 2 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1
計		28	10	計	29	10
専門分野	基礎栄養学	2	8	基礎栄養学 基礎栄養学実習	2 1	1
	応用栄養学	6	8	応用栄養学Ⅰ 応用栄養学Ⅱ 応用栄養学Ⅲ 応用栄養学実習	2 2 2 1	
	栄養教育論	6	8	栄養教育論Ⅰ 栄養教育論Ⅱ 栄養教育論実習 栄養教育手法論	2 2 2 2	1
	臨床栄養学	8	8	臨床栄養学Ⅰ 臨床栄養学Ⅱ 臨床栄養学実習 栄養ケアマネジメント論 栄養ケアマネジメント論実習 臨床検査学	2 2 2 2 2 2	1 1
	公衆栄養学	4	8	公衆栄養学Ⅰ 公衆栄養学Ⅱ 公衆栄養学実習	2 2 1	1
	給食経営管理論	4	8	給食経営管理論Ⅰ 給食経営管理論Ⅱ 給食経営管理実習	2 2 2	2
	総合演習	2	8	事後指導 総合演習	1 1	
	臨地実習		4	臨床栄養臨地実習 給食経営管理臨地実習		2 2
計		32	12	計	32	12
合計		60	22	合計	61	22

別表（歯科衛生学科 2019年度以降入学生用）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習					
特色科目	体験ゼミナール	1 前	1					○	45	必修3単位			
	千葉県健康づくり	2 後	1					○	30				
	専門職間の連携活動論	4 後	1					○	30				
	社会実習（ボランティア活動）	2・3・4			1			○	45				
一般教養科目	人間理解群	心理学	1・2・3・4 前		2			○		30	必修9単位 【一般教養科目】 選択科目から選択11単位		
		哲学	1・2・3・4 前		2			○		30			
		文学	1・2・3・4 前		2			○		30			
		歴史と文化	1・2・3・4 前		2			○		30			
		生命倫理	1・2・3・4 後	2				○		30			
		宗教学	1・2・3・4 後		2			○		30			
		教育学	1・2・3・4 前		2			○		30			
		人間関係論	1・2・3・4 前		2			○		30			
		コミュニケーション理論と実際	1・2・3・4 前		2			○		30			
		健康スポーツ科学	1・2・3・4 前後	1					○	30			
	生涯身体運動科学	1・2・3・4 前後		1				○	30				
	生活と環境群	生活とデザイン	1・2・3・4 後		2				○			30	
		法学（日本国憲法）	1・2・3・4 前	2					○			30	
		社会学	1・2・3・4 後		2				○			30	
		文化人類学	1・2・3・4 前		2				○			30	
		経済学	1・2・3・4 前		2				○			30	
		国際関係論	1・2・3・4 後		2				○			30	
		社会福祉学	1・2・3・4 前		1				○			15	
		国際的な健康課題	1・2・3・4 後		1				○			15	
		人権・ジェンダー	1・2・3・4 後		2				○			30	
		科学論	1・2・3・4 前		2				○			30	
		環境変化と生態	1・2・3・4 後		2				○			30	
		観察生物学入門	1・2・3・4 前後		2				○			30	
		生物学	1・2・3・4 前後	2					○			30	
		物理学	1・2・3・4 前		2				○			30	
	化学	1・2・3・4 前		2				○		30			
	情報理解群	統計学	1・2・3・4 後	1					○			30	
		情報リテラシーⅠ	1・2・3・4 前	1					○			30	
		情報リテラシーⅡ	1・2・3・4 後		1				○			30	
		情報倫理	1・2・3・4 後		1				○			15	
		実践統計学	2・3・4 前		1				○			15	
	外国語群	英語Ⅰ（講読）	1・2・3・4 前		1				○			30	必修2単位 + 選択2単位
		英語Ⅱ（英会話）	1・2・3・4 前		1				○			30	
		英語Ⅲ（講読・記述）	1・2・3・4 後		1				○			30	
		英語Ⅳ（英語コミュニケーション）	1・2・3・4 後		1				○			30	
		英語Ⅴ（保健医療英語）	2 前	2					○			30	
英語Ⅵ（応用英語）		1・2・3・4 後		1				○		30			
英語Ⅶ（上級英語）A		2・3・4 後		1				○		15			
英語Ⅶ（上級英語）B		2・3・4 後		1				○		15			

別表（歯科衛生学科 2019 年度以降入学生用）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習			
保健医療基礎科目	人間のこころと身体	運動生理学総論	2 前		1		○			15	必修 1 3 単位 + 選択 3 単位
		生化学総論	1 前		1		○			15	
		栄養学Ⅰ（基礎）	1 後	1			○			15	
		栄養学Ⅱ（応用）	1 後	1			○			15	
		心の健康	1 後		1		○			15	
		薬理学Ⅰ（総論）	1 後	1			○			15	
		薬理学Ⅱ（各論）	1 後	1			○			15	
		病理学Ⅰ（総論）	1 前	1			○			15	
		病理学Ⅱ（各論）	1 前	1			○			15	
		微生物学Ⅰ（総論）	1 前	1			○			15	
		微生物学Ⅱ（各論）	1 前	1			○			15	
		発達心理学	1 前		1		○			15	
		臨床心理学	1 後		1			○		30	
	健康と保健医療システム	健康論	1 前		1		○			15	
		公衆衛生学Ⅰ（基礎）	2 前	1			○			15	
		公衆衛生学Ⅱ（応用）	2 後		1		○			15	
		疫学・保健統計Ⅰ（基礎）	3 前		1		○			15	
		疫学・保健統計Ⅱ（応用）	3 前		1		○			15	
		リハビリテーション概論	2 後	1			○			15	
		救命・救急の理論と実際	2 前	1			○			15	
		画像診断学	2・3・4 後		1		○			15	
		保健医療福祉論Ⅰ（基礎）	2 後	1			○			15	
		保健医療福祉論Ⅱ（応用）	2 後	1			○			15	
		食育論Ⅰ（基礎）	3 前		1		○			15	
		食育論Ⅱ（応用）	3 前		1		○			15	
		健康と運動	1 後		1		○			15	
家族社会学	1 前		1		○			15			
医療経営管理論	4 後		1		○			15			
リスクマネジメント論	2 後		1		○			15			
専門科目	歯科衛生基礎	解剖学	1 前	2			○			30	必修 2 7 単位
		生理学	1 後	2			○			30	
		内科学概論	1 後	1			○			15	
		高齢者医療論	2 後	1			○			15	
		口腔解剖学	1 前	2			○			30	
		口腔生理学	2 前	1			○			15	
		口腔病理学	1 後	1			○			15	
		口腔微生物学	1 後	1			○			15	
		歯科薬理学	2 前	1			○			15	
		歯科生化学・臨床検査法	1 後	1			○			15	
		口腔衛生学	1 後	2			○			30	
		歯科診断学	2 後	1			○			15	
		歯科矯正学	3 前	1			○			15	
		歯科材料学	2 前	1			○			15	
		歯科保存学	2 前	2			○			15	

別表（歯科衛生学科 2019 年度以降入学生用）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習		
専門科目	歯科衛生基礎	歯周治療学	2 前	1			○		15	生涯歯科衛生及び歯科衛生健康推進から選択 2 単位
		歯科補綴学	2 前	2			○		30	
		顎口腔外科学	2 前	2			○		30	
		顎口腔機能論	2 前	1			○		15	
		歯科衛生基礎演習	2 前	1				○	30	
	生涯歯科衛生	歯科衛生学概論	1 前	2			○		30	
		歯科医療安全管理論	2 前	1			○		15	
		チーム歯科医療論	2 後	1			○		15	
		歯科疾患予防学	2 前	1			○		15	
		発達歯科衛生学Ⅰ(小児)	2 後	2			○		30	
		発達歯科衛生学Ⅱ(成人・高齢者)	2 後	3			○		45	
		歯科衛生体験演習Ⅰ	1 後	1				○	30	
		歯科衛生体験演習Ⅱ	2 後	1				○	30	
		歯科診療補助演習	3 前	2				○	60	
		歯科予防処置演習	3 前	2				○	60	
		顎口腔機能リハビリテーション論	2 後	1			○		15	
		顎口腔機能リハビリテーション演習	3 前	1				○	30	
		在宅歯科衛生管理論Ⅰ	3 前	1			○		15	
	在宅歯科衛生管理論Ⅱ	4 前		1		○		15		
	歯科衛生健康推進	歯科衛生アセスメント論	3 前	1			○		15	
		保健行動科学論	1 後	1			○		15	
		歯科保健指導・健康教育論	2 前	1			○		15	
		歯科保健指導演習Ⅰ	2 後	2				○	60	
		歯科保健指導演習Ⅱ	3 前	1				○	30	
		歯科衛生統計演習	3 前	1				○	30	
		地域歯科衛生学	2 前	1			○		15	
		地域歯科衛生演習	3 前	1				○	30	
		衛生行政	2 後	1			○		15	
		国際歯科衛生学	3 前		1		○		15	
	歯科医療管理論	4 前		1		○		15		
	社会保障・社会保険論	3 前	1			○		15		
	臨床・臨地実習	歯科診療室基礎実習	3 前	2				○	90	
		歯科診療所実習	3 後	4				○	180	
病院実習		4 後	3				○	135		
継続・個別支援実習Ⅰ		3 後	2				○	90		
継続・個別支援実習Ⅱ		4 前	2				○	90		
発達歯科衛生実習Ⅰ(小児)		4 前	2				○	90		
発達歯科衛生実習Ⅱ(成人・高齢者)		4 前	2				○	90		
地域歯科衛生実習		4 前	1				○	45		
歯科診療室総合実習Ⅰ		3 後	2				○	90		
歯科診療室総合実習Ⅱ		4 前	2				○	90		
研究	卒業研究	3 後～4 通	2				○	60	必修 2 単位	

別表（歯科衛生学科 2019 年度以降入学生用）

先修条件

【特色科目】

- 1 「千葉県の健康づくり」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。
- 2 「社会実習（ボランティア活動）」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。

【一般教養科目】

- 1 「実践統計学」を履修するには「統計学」の単位を修得済みであること。
- 2 「英語Ⅶ（上級英語）A」、「英語Ⅶ（上級英語）B」を履修するには「英語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、またはⅥ」の選択2科目の単位（2単位）を修得済みであること。

【専門科目】

- 1 歯科衛生基礎演習を履修するには、口腔微生物学、口腔衛生学の単位を修得済みであること。
- 2 歯科保健指導演習Ⅰを履修するには、保健行動科学論、歯科保健指導・健康教育論の単位を修得済みであること。
- 3 歯科保健指導演習Ⅱを履修するには、歯科衛生アセスメント論の単位を修得済みであること。
- 4 歯科診療室基礎実習を履修するには、歯科診療補助演習の単位を修得済みであること。
- 5 歯科診療室基礎実習及び病院実習を除く臨床・臨地実習を履修するには、保健医療基礎科目及び専門科目のうち、3年次前期までに配当されているすべての必修科目の単位を修得済みであること。
- 6 病院実習を履修するには、3年次後期までに配当されているすべての必修科目の単位を修得済みで、4年次前期に配当されているすべての必修科目の単位を修得済みであること。
- 7 卒業研究を履修するには、原則として3年次前期までに配当されているすべての必修科目の単位を修得済みであること。

進級要件

以下の要件を満たした者でなければ、3年次に進級できない。

- 1 1・2年次に配当された特色科目および保健医療基礎科目の必修科目の単位を修得済みの者。
- 2 1・2年次に配当された専門科目のうち、専門基礎科目、歯科衛生基礎科目の単位を修得済みの者。

卒業要件

科目区分	必修科目	選択科目	合計
特色科目	3単位	0単位	3単位
一般教養科目	11単位	13単位	24単位
保健医療基礎科目	13単位	3単位	16単位
専門科目	81単位	2単位	83単位
合計	108単位	18単位	126単位

(歯科衛生学科 2018年度以前入学者用)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習			
特色科目	千葉県の健康づくり	2後	1				○		30	必修3単位	
	体験ゼミナール	1前	1					○	45		
	専門職間の連携活動論	4後	1				○		30		
一般教養科目	人間理解群	心理学	1・2・3・4前		2		○			30	必修9単位 【一般教養科目】 選択科目から選択13単位
		哲学	1・2・3・4前		2		○			30	
		文学	1・2・3・4前		2		○			30	
		歴史と文化	1・2・3・4前		2		○			30	
		生命倫理	1・2・3・4後	2			○			30	
		宗教学	1・2・3・4後		2		○			30	
		教育学	1・2・3・4前		2		○			30	
		人間関係論	1・2・3・4前		2		○			30	
		コミュニケーション理論と実際	1・2・3・4前		2		○			30	
	生活と環境群	健康スポーツ科学	1・2・3・4前後	1				○		30	
		生涯身体運動科学	1・2・3・4前後		1			○		30	
		生活とデザイン	1・2・3・4後		2		○			30	
		法学（日本国憲法）	1・2・3・4前	2			○			30	
		社会学	1・2・3・4後		2		○			30	
		文化人類学	1・2・3・4前		2		○			30	
		経済学	1・2・3・4前		2		○			30	
		国際関係論	1・2・3・4後		2		○			30	
		社会福祉学	1・2・3・4前		1		○			15	
		国際的な健康課題	1・2・3・4後		1		○			15	
		人権・ジェンダー	1・2・3・4後		2		○			30	
		科学論	1・2・3・4前		2		○			30	
		環境変化と生態	1・2・3・4後		2		○			30	
		観察生物学入門	1・2・3・4前後		2		○			30	
	情報理解群	生物学	1・2・3・4前後	2			○			30	
		物理学	1・2・3・4前		2		○			30	
		化学	1・2・3・4前		2		○			30	
		統計学	1・2・3・4後	1				○		30	
		情報リテラシー I	1・2・3・4前	1				○		30	
	外国語群	情報リテラシー II	1・2・3・4後		1			○		30	
		情報倫理	1・2・3・4後		1		○			15	
		英語 I (基礎講読)	1・2・3・4前		1			○		30	
		英語 II (基礎英会話)	1・2・3・4前		1			○		30	
		英語 III (講読・記述)	1・2・3・4後		1			○		30	
英語 IV (英会話)		1・2・3・4後		1			○		30		
英語 V (保健医療英語)	2前	2			○			30			
英語 VI (応用英語)	1・2・3・4後		1			○		30			

(歯科衛生学科 2018 年度以前入学者用)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習			
保健医療基礎科目	人間のこころと身体	運動生理学総論	2 前		1		○			15	必修 16 単位 + 選択 3 単位
		生化学総論	1 前		1		○			15	
		栄養学 I (基礎)	1 後	1			○			15	
		栄養学 II (応用)	1 後	1			○			15	
		心の健康	1 後	1			○			15	
		薬理学 I (総論)	1 後	1			○			15	
		薬理学 II (各論)	1 後	1			○			15	
		病理学 I (総論)	1 前	1			○			15	
		病理学 II (各論)	1 前	1			○			15	
		微生物学 I (総論)	1 前	1			○			15	
		微生物学 II (各論)	1 前	1			○			15	
		発達心理学	1 前		1		○			15	
		臨床心理学	1 後		1			○		30	
	健康と保健医療システム	健康論	1 前		1		○			15	
		公衆衛生学 I (基礎)	2 前	1			○			15	
		公衆衛生学 II (応用)	2 後	1			○			15	
		疫学・保健統計 I (基礎)	3 前		1		○			15	
		疫学・保健統計 II (応用)	3 前		1		○			15	
		リハビリテーション概論	2 後	1			○			15	
		救命・救急の理論と実際	2 前	1			○			15	
保健医療福祉論 I (基礎)		2 後	1			○			15		
保健医療福祉論 II (応用)		2 後	1			○			15		
食育論 I (基礎)		3 前	1			○			15		
食育論 II (応用)		3 前		1		○			15		
健康と運動		1 後		1		○			15		
家族社会学		1 前		1		○			15		
医療経営管理論	4 後		1		○			15			
リスクマネジメント論	2 後		1		○			15			
専門科目	歯科衛生基礎	解剖学総論	1 前	2			○			30	必修 28 単位
		生理学総論	1 後	2			○			30	
		内科学概論	1 後	1			○			15	
		高齢者医療論	2 後	1			○			15	
		口腔解剖学	1 前	2			○			30	
		口腔生理学	2 前	1			○			15	
		口腔病理学	1 後	1			○			15	
		口腔微生物学	1 後	1			○			15	
		歯科薬理学	2 前	1			○			15	
		歯科生化学・臨床検査法	1 後	1			○			15	
		口腔衛生学	1 後	2			○			30	
		歯科感染予防学	2 後	1			○			15	
		歯科診断学	2 後	1			○			15	
		歯科矯正学	3 前	1			○			15	
		歯科材料学	2 前	1			○			15	
		歯科治療学 I (保存修復・歯内療法学)	2 前	2			○			30	

(歯科衛生学科 2018 年度以前入学者用)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習		
専門科目	歯科衛生基礎	歯科治療学Ⅱ (歯周治療学)	2 前	1			○		15	生涯歯科衛生及び歯科衛生健康推進から選択3単位
		歯科治療学Ⅲ (歯科補綴学)	2 前	2			○		30	
		顎口腔外科学	2 前	2			○		30	
		顎口腔機能論	2 前	1			○		15	
		歯科衛生基礎演習	2 前	1				○	30	
	生涯歯科衛生	歯科衛生学概論	1 前	2			○		30	
		チーム歯科医療論	2 前	1			○		15	
		歯科疾患予防学	2 前	1			○		15	
		発達歯科衛生学Ⅰ(小児)	2 後	2			○		45	
		発達歯科衛生学Ⅱ(成人・高齢者)	2 後	3			○		45	
		演習Ⅰ (歯科材料・歯科診療補助)	3 前	2				○	60	
		演習Ⅱ (歯科予防処置)	3 前	2				○	60	
		顎口腔機能リハビリテーション論	2 後	1			○		15	
		演習Ⅲ (口腔機能リハビリテーション)	3 前	1				○	30	
		在宅歯科衛生管理論Ⅰ	3 前	1			○		15	
	在宅歯科衛生管理論Ⅱ	4 前		1		○		15		
	歯科衛生健康推進	歯科衛生アセスメント論	3 前	1			○		15	
		保健行動科学論	2 前	1			○		15	
		歯科保健指導・健康教育論	2 前	1			○		15	
		演習Ⅳ (歯科保健指導・カウンセリング)	2 後～3 前	3				○	90	
		歯科衛生統計学	3 前	1			○		15	
		地域歯科衛生学	2 後	1			○		15	
		演習Ⅴ (地域歯科衛生)	3 前	1				○	30	
		国際歯科衛生学	3 前		1		○		15	
		歯科医療管理論	4 前		1		○		15	
		社会保障・社会保険論	3 前	1			○		15	
	総合演習	3 後	1				○	30		
	臨床・臨床実習	歯科診療室基礎実習	3 前	2				○	90	
		歯科診療所実習	3 後	4				○	180	
		病院実習	4 後	3				○	135	
		継続・個別支援実習	3 後～4 前	4				○	180	
		発達歯科衛生実習Ⅰ (小児)	4 前	2				○	90	
		発達歯科衛生実習Ⅱ (成人・高齢者)	4 前	2				○	90	
地域歯科衛生実習		4 前	1				○	45		
歯科診療室総合実習	3 後～4 前	4				○	180			
研究	卒業研究	3 後～4 通		3			○	90		

先修条件

【特色科目（平成28年度入学生より適用する）】

- 1 「千葉県の健康づくり」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。
- 2 「専門職間の連携活動論」を履修するには「体験ゼミナール」、「千葉県の健康づくり」の単位を修得済みであること。

【専門科目】

- 1 歯科衛生基礎演習を履修するには、口腔微生物学、口腔衛生学の単位を修得済み、又は単位修得見込みであること。
- 2 演習Ⅰ（歯科材料・歯科診療補助）を履修するには、歯科材料学、チーム歯科医療論の単位を修得済みであること。
- 3 演習Ⅱ(歯科予防処置)を履修するには、歯科疾患予防学の単位を修得済みであること。
- 4 演習Ⅲ(口腔機能リハビリテーション)を履修するには、顎口腔機能論、顎口腔機能リハビリテーションの単位を修得済み、又は単位修得見込みであること。
- 5 演習Ⅳ(歯科保健指導・カウンセリング)を履修するには、歯科衛生アセスメント論、保健行動科学論、歯科保健指導・健康教育論の単位を修得済み、又は単位修得見込みであること。
- 6 演習Ⅴ(地域歯科衛生)を履修するには、地域歯科衛生学の単位を修得済みであること。
- 7 総合演習を履修するには、演習Ⅰ、演習Ⅱ、演習Ⅲ、演習Ⅳ、演習Ⅴすべての単位を修得済みであること。
- 8 歯科診療室基礎実習を履修するには、以下のア、イの条件を満たさなければならない。
ア 保健医療基礎科目及び専門科目のうち、2年次後期までに配当されているすべての必修科目の単位を修得済みであること。
イ 演習Ⅰ(歯科材料・歯科診療補助)の単位を修得済み、又は単位修得見込みであること。
- 9 歯科診療室基礎実習を除く臨床・臨地実習を履修するには、保健医療基礎科目及び専門科目のうち、3年次前期までに配当されているすべての必修科目の単位を修得済みであること。
- 10 卒業研究を履修するには、原則として4年次前期までに配当されているすべての必修科目の単位を修得済み、又は単位修得見込みであること。

卒業要件

科目区分	必修科目	選択科目	合計
特色科目	3単位	0単位	3単位
一般教養科目	11単位	13単位	24単位
保健医療基礎科目	16単位	3単位	19単位
専門科目	77単位	3単位	80単位
合計	107単位	19単位	126単位

別表（リハビリテーション学科理学療法学専攻 2019年度以降入学生用）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習			
特色科目	体験ゼミナール	1 前	1					○	45	必修3単位	
	千葉県の健康づくり	2 後	1					○	30		
	専門職間の連携活動論	4 後	1					○	30		
	社会実習（ボランティア活動）	2・3・4			1			○	45		
人間理解群	心理学	1・2・3・4 前		2			○		30	必修4単位	
	哲学	1・2・3・4 前		2			○		30		
	文学	1・2・3・4 前		2			○		30		
	歴史と文化	1・2・3・4 前		2			○		30		
	生命倫理	1・2・3・4 後		2			○		30		
	宗教学	1・2・3・4 後		2			○		30		
	教育学	1・2・3・4 前		2			○		30		
	人間関係論	1・2・3・4 前	2				○		30		
	コミュニケーション理論と実際	1・2・3・4 前	2				○		30		
	健康スポーツ科学	1・2・3・4 前後		1				○	30		
	生涯身体運動科学	1・2・3・4 前後		1				○	30		
	一般教養科目	生活と環境群	生活とデザイン	1・2・3・4 後		2			○		
法学（日本国憲法）			1・2・3・4 前		2			○		30	
社会学			1・2・3・4 後		2			○		30	
文化人類学			1・2・3・4 前		2			○		30	
経済学			1・2・3・4 前		2			○		30	
国際関係論			1・2・3・4 後		2			○		30	
社会福祉学			1・2・3・4 前		1			○		15	
国際的な健康課題			1・2・3・4 後		1			○		15	
人権・ジェンダー			1・2・3・4 後		2			○		30	
科学論			1・2・3・4 前		2			○		30	
環境変化と生態			1・2・3・4 後		2			○		30	
観察生物学入門			1・2・3・4 前後		2			○		30	
生物学			1・2・3・4 前後		2			○		30	
物理学			1・2・3・4 前	2				○		30	
化学	1・2・3・4 前		2			○		30			
情報理解群	統計学	1・2・3・4 後		1				○	30	必修2単位	
	情報リテラシーⅠ	1・2・3・4 前	1					○	30		
	情報リテラシーⅡ	1・2・3・4 後		1				○	30		
	情報倫理	1・2・3・4 後	1					○	15		
	実践統計学	1・2・3・4 後		1				○	15		
外国語群	英語Ⅰ（講読）	1・2・3・4 前		1				○	30	必修2単位 + 選択2単位	
	英語Ⅱ（英会話）	1・2・3・4 前		1				○	30		
	英語Ⅲ（講読・記述）	1・2・3・4 後		1				○	30		
	英語Ⅳ（英語コミュニケーション）	1・2・3・4 後		1				○	30		
	英語Ⅴ（保健医療英語）	1・2・3・4 前	2				○		30		
	英語Ⅵ（応用英語）	1・2・3・4 後		1				○	30		
	英語Ⅶ（上級英語）A	2・3・4 後		1				○	15		
英語Ⅶ（上級英語）B	2・3・4 後		1				○	15			

別表（リハビリテーション学科理学療法学専攻 2019年度以降入学生用）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習			
保健医療基礎科目	人間のこころと身体	運動生理学総論	2前		1		○			15	必修10単位 + 選択2単位
		生化学総論	1前		1		○			15	
		栄養学Ⅰ（基礎）	1後	1			○			15	
		栄養学Ⅱ（応用）	1後		1		○			15	
		心の健康	1後		1		○			15	
		薬理学Ⅰ（総論）	1後		1		○			15	
		薬理学Ⅱ（各論）	1後		1		○			15	
		病理学Ⅰ（総論）	1前	1			○			15	
		病理学Ⅱ（各論）	1前		1		○			15	
		微生物学Ⅰ（総論）	1前	1			○			15	
		微生物学Ⅱ（各論）	1前		1		○			15	
		発達心理学	1前		1		○			15	
		臨床心理学	1後	1				○		30	
	健康と保健医療システム	健康論	1前		1		○			15	
		公衆衛生学Ⅰ（基礎）	2前	1			○			15	
		公衆衛生学Ⅱ（応用）	2後		1		○			15	
		疫学・保健統計Ⅰ（基礎）	3前		1		○			15	
		疫学・保健統計Ⅱ（応用）	3前		1		○			15	
		リハビリテーション概論	1後	1			○			15	
		救命・救急の理論と実際	2前	1			○			15	
		画像診断学	2後	1			○			15	
		保健医療福祉論Ⅰ（基礎）	2後	1			○			15	
		保健医療福祉論Ⅱ（応用）	2後		1		○			15	
		食育論Ⅰ（基礎）	3前		1		○			15	
		食育論Ⅱ（応用）	3前		1		○			15	
		健康と運動	1後		1		○			15	
		家族社会学	1前		1		○			15	
医療経営管理論	4後		1		○			15			
リスクマネジメント論	2後	1			○			15			
専門科目	リハビリテーション専門基礎科目	人体の構造Ⅰ（筋・骨・神経系の構造）	1前	1			○			30	必修25単位 + 選択1単位
		人体の構造Ⅱ（脈管・内臓・感覚器の構造）	1後	1			○			30	
		人体の構造実習	1後	1				○		45	
		人体の機能Ⅰ（動物性功能）	1前	1			○			30	
		人体の機能Ⅱ（植物性功能）	1後	1			○			30	
		人体の機能実習	2前	1				○		45	
		運動学Ⅰ（運動の基礎科学）	1後	1			○			30	
		運動学Ⅱ（応用的運動科学）	2前	1			○			30	
		運動学実習	2後	1				○		45	
		臨床運動学	2後	1			○			30	
		機能解剖学	1後	1			○			30	
		人間工学	2後		1		○			30	
		人間発達学	2前	1			○			30	
		医学総論	1後	1			○			15	
		内科学総論	2前	1			○			30	
		内科学各論	2後	1			○			30	
		神経内科学総論	2前	1			○			30	
		神経内科学各論	2後	1			○			30	

別表（リハビリテーション学科理学療法学専攻 2019年度以降入学生用）

		整形外科学総論	2 前	1			○		30		
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習			
	整形外科学各論	2 後	1				○		30		
	精神神経科学総論	2 前	1				○		30		
	精神神経科学各論	2 後		1			○		30		
	臨床薬理学	2 後	1			○			15		
	老年科学	3 前	1				○		30		
	小児科学	3 前	1				○		30		
	臨床医学概論	3 前	1				○		30		
	リハビリテーション医学	3 前	1				○		30		
専攻科目	理学療法専門基礎科目	理学療法概論	1 前	1				○		30	必修 20 単位
		理学療法管理学	4 後	2			○			30	
		運動療法学	2 前	2			○			30	
		理学療法評価学 I	2 前	2			○			30	
		理学療法評価学演習	2 前	1				○		30	
		理学療法評価学 II (神経系)	2 後	1			○			15	
		理学療法評価学 III (統合・解釈)	2 後	1				○		30	
		理学療法評価学 IV (画像評価)	3 後	1			○			15	
		日常生活活動学	2 前	2			○			30	
		日常生活活動学演習	2 後	1				○		30	
	物理療法学	2 後	1			○			15		
	物理療法学演習	2 後	1				○		30		
	義肢装具学	3 前	2			○			30		
	義肢装具学演習	3 前	1				○		30		
	理学療法研究方法論	3 前	1				○		30		
	理学療法専門科目	運動器障害理学療法学	3 前	2			○			30	必修 22 単位 + 選択 1 単位
		運動器障害理学療法学演習	3 後	1				○		30	
		神経系障害理学療法学	3 前	2			○			30	
		神経系障害理学療法学演習	3 後	1				○		30	
		内部障害理学療法学	3 前	2			○			30	
内部障害理学療法学演習		3 後	1				○		30		
老年期障害理学療法学		3 前	2			○			30		
老年期障害理学療法学演習		3 後	1				○		30		
発達障害理学療法学		3 前	2			○			30		
発達障害理学療法学演習		3 後	1				○		30		
発達障害理学療法学特論	3 後		1		○			15			
地域理学療法学	3 前	2			○			30			
地域理学療法学演習	3 後	1				○		30			
理学療法技術論	4 後	1				○		30			
生体機能計測学	3 前		1			○		30			
理学療法応用評価学	3 後	1				○		30			
理学療法学特論 I (運動器・老年期)	3 後		1			○		30			
理学療法学特論 II (神経系・内部・地域)	3 後		1			○		30			

別表（リハビリテーション学科理学療法学専攻 2019年度以降入学生用）

	発展領域論(がん・予防・臨床研究解析法)	4 後	2			○		30	
臨床実習	臨床体験実習	1 後	1				○	45	必修20単位
	評価実習	3 後	4				○	180	
	総合実習Ⅰ	4 前	7				○	315	
	総合実習Ⅱ	4 前	7				○	315	
	地域理学療法学実習	4 後	1				○	45	
研究	卒業研究	4 通	2			○	60	必修2単位	

先修条件

【特色科目】

- 1 「千葉県健康づくり」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。
- 2 「社会実習(ボランティア活動)」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。

【一般教養科目】

- 1 「実践統計学」を履修するには「統計学」の単位を修得済みであること。
- 2 「英語Ⅶ(上級英語)A」「英語Ⅶ(上級英語)B」を履修するには「英語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、またはⅥ」の選択2単位を修得済みであること。

【専門科目】

- 1 2年次配当の「リハビリテーション専門基礎科目」「理学療法専門基礎科目」を履修するには、1年次配当の「リハビリテーション専門基礎科目」および「理学療法概論」の単位を修得済みであること。
- 2 「評価実習」を履修するには、3学年前期までに開講するすべての必修科目の単位を修得済みであること。
- 3 「総合実習Ⅰ」、「総合実習Ⅱ」、「地域理学療法学実習」および「卒業研究」を履修するには、3学年後期までに開講するすべての必修科目の単位を修得済みであること。

進級要件

以下の要件を満たした者でなければ、3年次に進級できない。

- 1 1・2年次に配当された特色科目および保健医療基礎科目の必修科目の単位を修得済みの者。
- 2 1・2年次に配当された専門科目の必修科目の単位を修得済みの者。

卒業要件

科目区分	必修科目	選択科目	合計
特色科目	3単位	0単位	3単位
一般教養科目	10単位	14単位	24単位
保健医療基礎科目	10単位	2単位	12単位
専門科目	89単位	2単位	91単位
合計	112単位	18単位	130単位

別表（リハビリテーション学科作業療法学専攻 2019年度以降入学生用）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習		
特色科目	体験ゼミナール	1 前	1					○	45	必修3単位
	千葉県の健康づくり	2 後	1					○	30	
	専門職間の連携活動論	4 後	1					○	30	
	社会実習（ボランティア活動）	2・3・4			1			○	45	
人間理解群	心理学	1・2・3・4 前	2					○	30	必修 2単位 + 選択 2単位 (※4)
	哲学	1・2・3・4 前		2				○	30	
	文学	1・2・3・4 前		2				○	30	
	歴史と文化	1・2・3・4 前		2				○	30	
	生命倫理	1・2・3・4 後		2				○	30	
	宗教学	1・2・3・4 後		2				○	30	
	教育学	1・2・3・4 前		2				○	30	
	人間関係論	1・2・3・4 前		2				○	30	
	コミュニケーション理論と実際	1・2・3・4 前		2				○	30	
	健康スポーツ科学	1・2・3・4 前後		1				○	30	
生涯身体運動科学	1・2・3・4 前後		1				○	30		
生活と環境群	生活とデザイン	1・2・3・4 後		2				○	30	必修 2単位
	法学（日本国憲法）	1・2・3・4 前		2				○	30	
	社会学	1・2・3・4 後		2				○	30	
	文化人類学	1・2・3・4 前		2				○	30	
	経済学	1・2・3・4 前		2				○	30	
	国際関係論	1・2・3・4 後		2				○	30	
	社会福祉学	1・2・3・4 前		1				○	15	
	国際的な健康課題	1・2・3・4 後		1				○	15	
	人権・ジェンダー	1・2・3・4 後		2				○	30	
	科学論	1・2・3・4 前		2				○	30	
	環境変化と生態	1・2・3・4 後		2				○	30	
	観察生物学入門	1・2・3・4 前後		2				○	30	
	生物学	1・2・3・4 前後		2				○	30	
物理学	1・2・3・4 前	2					○	30		
化学	1・2・3・4 前		2				○	30		
情報理解群	統計学	1 後	1					○	30	必修 2単位
	情報リテラシーⅠ	1 前	1					○	30	
	情報リテラシーⅡ	1・2・3・4 後		1				○	30	
	情報倫理	1・2・3・4 後		1				○	15	
	実践統計学	2・3・4 後		1				○	15	
外国語群	英語Ⅰ(講読)	1・2・3・4 前		1				○	30	必修 2単位 + 選択 2単位
	英語Ⅱ(英会話)	1・2・3・4 前		1				○	30	
	英語Ⅲ(講読・記述)	1・2・3・4 後		1				○	30	
	英語Ⅳ(英語コミュニケーション)	1・2・3・4 後		1				○	30	
	英語Ⅴ(保健医療英語)	2 前	2					○	30	
	英語Ⅵ(応用英語)	1・2・3・4 後		1				○	30	
	英語Ⅶ(上級英語)A	2・3・4 後		1				○	15	
	英語Ⅶ(上級英語)B	2・3・4 後		1				○	15	

【一般教養科目】選択科目から選択12単位

別表（リハビリテーション学科作業療法学専攻 2019年度以降入学生用）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習		
保健医療基礎科目	人間のこころと身体	運動生理学総論	2前	1			○		15	必修9単位 + 選択1単位
		生化学総論	1前	1			○		15	
		栄養学Ⅰ（基礎）	1後	1			○		15	
		栄養学Ⅱ（応用）	1後	1			○		15	
		心の健康	1後	1			○		15	
		薬理学Ⅰ（総論）	1後	1			○		15	
		薬理学Ⅱ（各論）	1後	1			○		15	
		病理学Ⅰ（総論）	1前	1			○		15	
		病理学Ⅱ（各論）	1前	1			○		15	
		微生物学Ⅰ（総論）	1前	1			○		15	
		微生物学Ⅱ（各論）	1前	1			○		15	
		発達心理学	1前	1			○		15	
		臨床心理学	1後	1				○	30	
	健康と保健医療システム	健康論	1前	1			○		15	
		公衆衛生学Ⅰ（基礎）	2前		1		○		15	
		公衆衛生学Ⅱ（応用）	2後		1		○		15	
		疫学・保健統計Ⅰ（基礎）	3前		1		○		15	
		疫学・保健統計Ⅱ（応用）	3前		1		○		15	
		リハビリテーション概論	1後	1			○		15	
		救命・救急の理論と実際	2前	1			○		15	
		画像診断学	2後	1			○		15	
		保健医療福祉論Ⅰ（基礎）	2後	1			○		15	
		保健医療福祉論Ⅱ（応用）	2後	1			○		15	
リハビリテーション専門基礎科目	食育論Ⅰ（基礎）	3前		1		○		15		
	食育論Ⅱ（応用）	3前		1		○		15		
	健康と運動	1後		1		○		15		
	家族社会学	1前		1		○		15		
	医療経営管理論	4後		1		○		15		
	リスクマネジメント論	2後		1		○		15		
	人体の構造Ⅰ（筋・骨・神経系の構造）	1前	1				○	30		
	人体の構造Ⅱ（脈管・内臓・感覚器の構造）	1後	1				○	30		
	人体の構造実習	1後	1				○	45		
	人体の機能Ⅰ（動物性機能）	1前	1				○	30		
	人体の機能Ⅱ（植物性機能）	1後	1				○	30		
	人体の機能実習	2前	1				○	45		
	体表解剖学	1後	1			○		15		
	作業運動学Ⅰ（作業運動の基礎）	1後	1				○	30		
	作業運動学Ⅱ（作業運動の応用）	2前	1				○	30		
	作業運動学演習	2前	1				○	30		
作業運動学実習	2後	1				○	45			
作業分析学	2前		1		○		15			
人間工学	2後		1			○	30			
人間発達学	2前	1				○	30			
医学総論	1後	1			○		15			
内科学総論	2前	1				○	30			
内科学各論	2後	1				○	30			
神経内科学総論	2前	1				○	30			
神経内科学各論	2後	1				○	30			

別表（リハビリテーション学科作業療法学専攻 2019年度以降入学生用）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習		
	整形外科学総論	2前	1				○		30	
	整形外科学各論	2後	1				○		30	
	精神神経科学総論	2前	1				○		30	
	精神神経科学各論	2後	1				○		30	
	臨床薬理学	2後	1			○			15	
	老年科学	3前	1				○		30	
	小児科学	3前	1				○		30	
	臨床医学概論	3前	1				○		30	
	リハビリテーション医学	3前	1				○		30	
基礎作業療法学	作業療法概論	1前	1				○		30	必修6単位 + 選択2単位
	作業療法管理学	3後	2				○		30	
	作業療法基礎理論	2前		1			○		30	
	作業療法研究法	3前	1			○			15	
	基礎作業学・演習	1前	1				○		30	
	基礎作業学実習	1後	1					○	45	
	作業療法ゼミナールA	2後		1		○			15	
	作業療法ゼミナールB	2後		1		○			15	
	作業療法ゼミナールC	2後		1		○			15	
	作業療法ゼミナールD	2後		1		○			15	
	作業療法ゼミナールE	2後		1		○			15	
	作業療法ゼミナールF	2後		1		○			15	
専門科目	実践作業療法学	作業療法評価学総論	1後	1			○		15	必修29単位
		身体作業療法評価学	2前	1			○		15	
		身体作業療法評価学実習	2通	1				○	45	
		身体作業療法学Ⅰ	2後	2			○		30	
		身体作業療法学Ⅱ	2後	2			○		30	
		身体作業療法学演習	3前	1				○	30	
		精神作業療法評価学	2前	1			○		15	
		精神作業療法評価学実習	2通	1				○	45	
		精神作業療法学	2後	2			○		30	
		精神作業療法学演習	3前	1				○	30	
		発達期作業療法学	2後	1			○		15	
	発達期作業療法学演習	3前	1				○	30		
	老年期作業療法学	2後	1			○		15		
	老年期作業療法学演習	3前	1				○	30		
	高次神経機能作業療法学	2後	2			○		30		
	日常生活活動学	2後	1			○		15		
	日常生活活動学演習	3前	1				○	30		
	義肢装具学	3前	2			○		30		
	福祉機器論	3後	2			○		30		
	地域社会参加支援学	3前	1			○		15		
	地域社会参加支援学演習	3後	1				○	30		
	地域作業療法学	3前	2			○		30		
	作業療法総合演習	4通		1			○	30		
作業療法学特論A	4通		1		○		15			

別表（リハビリテーション学科作業療法学専攻 2019年度以降入学生用）

	作業療法学特論 B	4 通		1		○		15	
	作業療法学特論 C	4 通		1		○		15	
	作業療法学特論 D	4 通		1		○		15	
	作業療法学特論 E	4 通		1		○		15	
	作業療法学特論 F	4 通		1		○		15	
臨床 実習	臨床体験実習	1 通	1				○	45	必修 28 単位
	評価実習 I	3 通	4				○	180	
	評価実習 II	3 通	4				○	180	
	総合実習 I	3 後	8				○	360	
	総合実習 II	4 前	8				○	360	
	地域作業療法学実習	4 後	3				○	135	
研究	卒業研究	4 通	1			○		30	必修 1 単位

※4 人間理解群における選択科目の履修方法について

「人間関係論」又は「コミュニケーション理論と実際」のどちらか1つは必ず選択して履修する。

別表（リハビリテーション学科作業療法学専攻 2019年度以降入学生用）

先修条件

【特色科目】

- 1 「千葉県の健康づくり」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。
- 2 「社会実習（ボランティア活動）」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。

【一般教養科目】

- 1 「実践統計学」を履修するには「統計学」の単位を修得済みであること。
- 2 「英語Ⅶ(上級英語)A」「英語Ⅶ(上級英語)B」を履修するには「英語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、またはⅥ」の選択2単位を修得済みであること。

【専門科目】

- 1 「総合実習Ⅰ」および「総合実習Ⅱ」を履修するには、「評価実習Ⅰ」および「評価実習Ⅱ」の両科目の単位を修得済みであること。

進級要件

以下の要件を満たさなければ、3年次に進級できない。

- 1 1・2年次に担当された特色科目および保健医療基礎科目の必修科目のすべての単位を修得済みであること。
- 2 1・2年次に担当された専門科目の必修科目のすべての単位を修得済みであること。

卒業要件

科目区分	必修科目	選択科目	合計
特色科目	3単位	0単位	3単位
一般教養科目	8単位	16単位	24単位
保健医療基礎科目	9単位	1単位	10単位
専門科目	90単位	3単位	93単位
合計	110単位	20単位	130単位

(リハビリテーション学科作業療法学専攻 2018年度以前入学者用)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習		
特色科目	千葉県の健康づくり	2 後	1				○		30	必修3単位
	体験ゼミナール	1 前	1					○	45	
	専門職間の連携活動論	4 後	1				○		30	
一般教養科目	人間理解群	心理学	1・2・3・4 前	2			○		30	必修 2単位 + 選択 2単位 (※4)
		哲学	1・2・3・4 前		2		○		30	
		文学	1・2・3・4 前		2		○		30	
		歴史と文化	1・2・3・4 前		2		○		30	
		生命倫理	1・2・3・4 後		2		○		30	
		宗教学	1・2・3・4 後		2		○		30	
		教育学	1・2・3・4 前		2		○		30	
		人間関係論	1・2・3・4 前		2		○		30	
		コミュニケーション理論と実際	1・2・3・4 前		2		○		30	
		健康スポーツ科学	1・2・3・4 前後		1			○	30	
	生涯身体運動科学	1・2・3・4 前後		1			○	30		
	生活と環境群	生活とデザイン	1・2・3・4 後		2		○		30	必修 2単位
		法学(日本国憲法)	1・2・3・4 前		2		○		30	
		社会学	1・2・3・4 後		2		○		30	
		文化人類学	1・2・3・4 前		2		○		30	
		経済学	1・2・3・4 前		2		○		30	
		国際関係論	1・2・3・4 後		2		○		30	
		社会福祉学	1・2・3・4 前		1		○		15	
		国際的な健康課題	1・2・3・4 後		1		○		15	
		人権・ジェンダー	1・2・3・4 後		2		○		30	
		科学論	1・2・3・4 前		2		○		30	
		環境変化と生態	1・2・3・4 後		2		○		30	
		観察生物学入門	1・2・3・4 前後		2		○		30	
		生物学	1・2・3・4 前後		2		○		30	
		物理学	1・2・3・4 前		2		○		30	
	化学	1・2・3・4 前		2		○		30		
	情報理解群	統計学	1・2・3・4 後	1				○	30	必修 2単位
情報リテラシー I		1 前	1				○	30		
情報リテラシー II		1・2・3・4 後		1			○	30		
情報倫理		1・2・3・4 後		1		○		15		
外国語群	英語 I (基礎講読)	1・2・3・4 前		1			○	30	必修 2単位 + 選択 2単位	
	英語 II (基礎英会話)	1・2・3・4 前		1			○	30		
	英語 III (講読・記述)	1・2・3・4 後		1			○	30		
	英語 IV (英会話)	1・2・3・4 後		1			○	30		
	英語 V (保健医療英語)	2 前	2			○		30		
	英語 VI (応用英語)	1・2・3・4 後		1			○	30		

【一般教養科目】選択科目から選択 12 単位

※4 人間理解群における選択科目の履修方法について

「人間関係論」又は「コミュニケーション理論と実際」のどちらかを選択して履修する。

(リハビリテーション学科作業療法学専攻 2018年度以前入学者用)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習		
保健医療基礎科目	人間のこころと身体	運動生理学総論	2前	1			○		15	必修6単位 + 選択1単位
		生化学総論	1前	1			○		15	
		栄養学Ⅰ(基礎)	1後	1			○		15	
		栄養学Ⅱ(応用)	1後	1			○		15	
		心の健康	1後	1			○		15	
		薬理学Ⅰ(総論)	1後	1			○		15	
		薬理学Ⅱ(各論)	1後	1			○		15	
		病理学Ⅰ(総論)	1前	1			○		15	
		病理学Ⅱ(各論)	1前	1			○		15	
		微生物学Ⅰ(総論)	1前	1			○		15	
		微生物学Ⅱ(各論)	1前	1			○		15	
	発達心理学	1前	1			○		15		
	臨床心理学	1後	1				○	30		
	健康と保健医療システム	健康論	1前	1			○		15	
		公衆衛生学Ⅰ(基礎)	2前		1		○		15	
		公衆衛生学Ⅱ(応用)	2後		1		○		15	
		疫学・保健統計Ⅰ(基礎)	3前		1		○		15	
		疫学・保健統計Ⅱ(応用)	3前		1		○		15	
		リハビリテーション概論	1後	1			○		15	
救命・救急の理論と実際		2前		1		○		15		
保健医療福祉論Ⅰ(基礎)		2後	1			○		15		
保健医療福祉論Ⅱ(応用)		2後	1			○		15		
食育論Ⅰ(基礎)		3前		1		○		15		
食育論Ⅱ(応用)		3前		1		○		15		
健康と運動		1後		1		○		15		
家族社会学	1前		1		○		15			
医療経営管理論	4後		1		○		15			
リスクマネジメント論	2後		1		○		15			
専門科目	リハビリテーション専門基礎科目	人体の構造Ⅰ(筋・骨・神経系の構造)	1前	1			○		30	必修24単位 + 選択1単位
		人体の構造Ⅱ(脈管・内臓・感覚器の構造)	1後	1			○		30	
		人体の構造実習	1後	1				○	45	
		機能解剖学	1後		1		○		30	
		人体の機能Ⅰ(動物性功能)	1前	1			○		30	
		人体の機能Ⅱ(植物性功能)	1後	1			○		30	
		人体の機能実習	2前	1				○	45	
		作業運動学Ⅰ(作業運動の基礎)	1後	1			○		30	
		作業運動学Ⅱ(作業運動の応用)	2前	1			○		30	
		作業運動学実習	2後	1				○	45	
		作業運動分析学	2前	1			○		15	
		臨床運動学	2前		1		○		30	
		人間工学	2後		1		○		30	
		人間発達学	2前	1			○		30	
		医学総論	1後	1			○		15	
		内科学総論	2前	1			○		30	
		内科学各論	2後	1			○		30	
神経内科学総論	2前	1			○		30			
神経内科学各論	2後	1			○		30			

(リハビリテーション学科作業療法学専攻 2018年度以前入学者用)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習				
専門基礎科目	整形外科学総論	2前	1				○		30	必修7単位 + 選択1単位		
	整形外科学各論	2後	1				○		30			
	精神神経科学総論	2前	1				○		30			
	精神神経科学各論	2後	1				○		30			
	老年科学	3前	1				○		30			
	小児科学	3前	1				○		30			
	臨床医学概論	3前	1				○		30			
	リハビリテーション医学	3前	1				○		30			
	基礎作業療法学	作業療法概論	1前	2			○				30	
		作業療法管理学	3後		1		○				15	
		作業療法基礎理論	2前		1			○			30	
		作業療法研究法	3後	1			○				15	
		基礎作業学・演習	1前	1				○			30	
		基礎作業学実習	1後	1					○		45	
		作業療法評価学概論	1後	1			○				15	
		地域作業療法学概論	3前	1			○				15	
	専門科目 実践作業療法学	作業療法評価学Ⅰ(神経・心肺機能系)	2前	2			○				30	必修32単位
		作業療法治療学Ⅰ(神経・心肺機能系)	2後	2			○				30	
		作業療法学Ⅰ演習(神経・心肺機能系)	3前	1				○			30	
		作業療法評価学Ⅱ(廃用・運動機能系)	2前	2			○				30	
		作業療法治療学Ⅱ(廃用・運動機能系)	2後	2			○				30	
		作業療法学Ⅱ演習(廃用・運動機能系)	3前	1				○			30	
		作業療法評価学Ⅲ(精神・心理機能系)	2前	2			○				30	
		作業療法治療学Ⅲ(精神・心理機能系)	2後	2			○				30	
		作業療法学Ⅲ演習(精神・心理機能系)	3前	1				○			30	
		作業療法評価学Ⅳ(認知・知能機能系)	2前	2			○				30	
		作業療法治療学Ⅳ(認知・知能機能系)	2後	2			○				30	
		作業療法学Ⅳ演習(認知・知能機能系)	3前	1				○			30	
日常生活活動技術学		3前	2			○			30			
日常生活活動技術学演習		3後	1				○		30			
日常生活活動援助学		3前	2			○			30			
日常生活活動援助学演習		3後	1				○		30			
社会的適応支援評価学		2後	2			○			30			
社会的適応支援学		3前	2			○			30			
社会的適応支援学演習	3後	1				○		30				
作業療法セミナー	3前~4前	1				○		30				
臨床実習	臨床体験実習	1通	1					○	45	必修27単位		
	評価実習Ⅰ	3通	3					○	135			
	評価実習Ⅱ	3通	3					○	135			
	総合実習Ⅰ	4通	8					○	360			
	総合実習Ⅱ	4通	8					○	360			
	地域作業療法学実習	4通	3					○	135			
研究	卒業研究	4通	1				○	30				

卒業要件

科目区分	必修科目	選択科目	合計
特色科目	3単位	0単位	3単位
一般教養科目	8単位	16単位	24単位
保健医療基礎科目	6単位	1単位	7単位
専門科目	90単位	2単位	92単位
合計	107単位	19単位	126単位

先修条件

【特色科目（平成28年度入学生より適用する）】

- 1) 「千葉県健康づくり」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。
- 2) 「専門職間の連携活動論」を履修するには「体験ゼミナール」、「千葉県健康づくり」の両単位を修得済みであること。

【専門科目】

- 1) 「総合実習Ⅰ」および「総合実習Ⅱ」を履修するには、すでに「評価実習Ⅰ」および「評価実習Ⅱ」の両科目の単位を修得していること。

資料 2 非常勤講師一覽

令和5年度非常勤講師一覧

氏名	科目
高橋 良博	心理学
長野 邦彦	哲学
柴 佳世乃	文学
黒崎 輝人	歴史と文化
小館 貴幸	生命倫理①
小館 貴幸	生命倫理②
藤井 修平	宗教学
常山 吾朗	人間関係論
常山 吾朗	コミュニケーション理論と実際①
常山 吾朗	コミュニケーション理論と実際②
上野 義雪	生活とデザイン
古屋 等	法学(日本国憲法)
島村 賢一	社会学
島村 賢一	人権・ジェンダー
中畑 充弘	文化人類学
安孫子 誠男	経済学
水口 章	国際関係論
佐藤 真生子	社会福祉学
佐藤 真生子	保健医療福祉論Ⅰ(基礎)
牧 純	国際的な健康課題
大西 仁	科学論
大嵐 竜午	物理学①
大嵐 竜午	物理学②
満田 深雪	化学
レーン ブレンディン ジョン	英語Ⅱ(基礎英会話)①
レーン ブレンディン ジョン	英語Ⅱ(基礎英会話)②
レーン ブレンディン ジョン	英語Ⅱ(基礎英会話)③
レーン ブレンディン ジョン	英語Ⅱ(基礎英会話)④
レーン ブレンディン ジョン	英語Ⅳ(英語コミュニケーション)③
レーン ブレンディン ジョン	英語Ⅳ(英語コミュニケーション)④
レーン ブレンディン ジョン	英語Ⅳ(英語コミュニケーション)⑤
稲垣 三恵子	英語Ⅰ(講読)
稲垣 三恵子	英語Ⅲ(講読・記述)①
稲垣 三恵子	英語Ⅲ(講読・記述)②
稲垣 三恵子	英語Ⅲ(講読・記述)③
稲垣 三恵子	英語Ⅳ(英語コミュニケーション)①
稲垣 三恵子	英語Ⅳ(英語コミュニケーション)②
稲垣 三恵子	英語Ⅴ(保健医療英語)
橋本 弘史	薬理学Ⅰ(総論)
橋本 弘史	薬理学Ⅱ(各論)
橋本 弘史	歯科薬理学
安西 尚彦	薬理学Ⅰ(総論)
安西 尚彦	薬理学Ⅱ(各論)
安西 尚彦	歯科薬理学
平山 友里	薬理学Ⅰ(総論)
平山 友里	薬理学Ⅱ(各論)
平山 友里	歯科薬理学
入鹿山 容子	薬理学Ⅰ(総論)
並木 香奈	薬理学Ⅰ(総論)
佐藤 洋美	薬理学Ⅰ(総論)
並木 香奈	薬理学Ⅱ(各論)
北村 里衣	薬理学Ⅱ(各論)
高屋 明子	薬理学Ⅱ(各論)
福井 謙二	病理学Ⅰ(総論)
福井 謙二	病理学Ⅱ(各論)
清水 健	微生物学Ⅰ(総論)
清水 健	微生物学Ⅱ(各論)
高梨 一彦	発達心理学
谷口 清	臨床心理学
渡辺 満利子	健康論
中込 敦士	公衆衛生学Ⅰ(基礎)
田村 元樹	公衆衛生学Ⅰ(基礎)
田村 元樹	公衆衛生学Ⅱ(応用)
塩谷 竜之介	公衆衛生学Ⅰ(基礎)
塩谷 竜之介	公衆衛生学Ⅱ(応用)

令和5年度非常勤講師一覧

氏名	科目
阿部 紀之	公衆衛生学Ⅰ(基礎)
阿部 紀之	公衆衛生学Ⅱ(応用)
近藤 克則	公衆衛生学Ⅰ(基礎)
近藤 克則	公衆衛生学Ⅱ(応用)
井手 一茂	公衆衛生学Ⅰ(基礎)
井手 一茂	公衆衛生学Ⅱ(応用)
中込 灯	公衆衛生学Ⅰ(基礎)
河口 謙二郎	公衆衛生学Ⅱ(応用)
武藤 剛	公衆衛生学Ⅱ(応用)
山村 重雄	疫学・保健統計Ⅰ(基礎)
山村 重雄	疫学・保健統計Ⅱ(応用)
雄賀多 聡	リハビリテーション概論
雄賀多 聡	画像診断学
雄賀多 聡	医学総論
雄賀多 聡	整形外科学総論
雄賀多 聡	整形外科学各論
田口 円裕	保健医療福祉論Ⅱ(応用)
高尾 公矢	家族社会学
佐藤 貴一郎	医療経営管理論
佐藤 貴一郎	医療経営管理論
住谷 剛博	医療経営管理論
住谷 剛博	医療経営管理論
高橋 静子	リスクマネジメント論
三島 敬	病態学Ⅱ(外科系疾病論)
成田 都	病態学Ⅱ(外科系疾病論)
成田 都	人体の構造Ⅰ(筋・骨・神経系の構造)
渡邊 倫子	病態学Ⅱ(外科系疾病論)
鈴木 秀海	病態学Ⅱ(外科系疾病論)
小林 正芳	病態学Ⅱ(外科系疾病論)
佐塚 智和	病態学Ⅱ(外科系疾病論)
石川 博士	病態学Ⅱ(外科系疾病論)
高橋 由美子	病態学Ⅲ(高齢者・精神疾患論)
小黒 道子	国際看護論
遠藤 亜貴子	国際看護論
五十嵐 ゆかり	国際看護論
畠山 とも子	家族看護論
西野 郁子	小児看護学方法論Ⅱ
藤谷 朝実	障害者栄養支援論
藤谷 朝実	国際栄養学
佐久間 祐子	教育心理
佐久間 祐子	教育相談
斎藤 遼太郎	特別支援教育論
高田 麻美	道徳・総合的な学習・特別活動論
田崎 雅和	生理学
田崎 雅和	口腔生理学
阿部 伸一	口腔解剖学
高木 貴博	口腔解剖学
石原 和幸	口腔微生物学
石原 和幸	歯科衛生基礎演習
国分 栄仁	口腔微生物学
菊池 有一郎	口腔微生物学
奥田 克爾	口腔微生物学
米澤 英雄	口腔微生物学
三枝 禎	歯科薬理学
平塚 浩一	歯科生化学・臨床検査法
根岸 慎一	歯科矯正学
塚田 美智子	歯科矯正学
河野 舞	歯科材料学
河野 舞	歯科補綴学
河野 舞	歯科衛生基礎演習
山口 秀紀	顎口腔外科学
野本 たかと	顎口腔機能リハビリテーション論
野本 たかと	顎口腔機能リハビリテーション演習
地主 知世	顎口腔機能リハビリテーション論

令和5年度非常勤講師一覧

氏名	科目
麻賀 多美代	顎口腔機能リハビリテーション演習
麻賀 多美代	発達歯科衛生実習Ⅱ(成人・高齢者)
山口 朱見	在宅歯科衛生管理論Ⅰ
望月 由加里	在宅歯科衛生管理論Ⅱ
星野 伸明	保健行動科学論
相川 敬子	歯科医療管理論
木暮 麻優	歯科医療管理論
上條 英之	社会保障・社会保険論
麻生 智子	継続・個別支援実習Ⅱ
麻生 智子	地域歯科衛生実習
笠置 泰史	人体の機能Ⅰ(動物性機能)
笠置 泰史	人体の機能Ⅱ(植物性機能)
遠藤 隆志	人体の機能実習
下村 義弘	人間工学
高原 良	人間工学
竹内 弥彦	人間工学
三浦 伸義	精神神経科学総論
杉澤 淳子	精神神経科学各論
鐘井 有希	精神神経科学各論
高柳 正樹	小児科学
菊地 尚久	リハビリテーション医学
浅野 由美	リハビリテーション医学
中山 一	リハビリテーション医学
村永 信吾	理学療法管理学
松田 徹	理学療法管理学
前田 雄	義肢装具学
前田 雄	義肢装具学演習
須田 裕紀	義肢装具学
須田 裕紀	義肢装具学演習
田口 直枝	義肢装具学
田口 直枝	義肢装具学演習
鈴木 啓太	義肢装具学
鈴木 啓太	義肢装具学演習
石川 修平	運動器障害理学療法学演習
石川 修平	神経系障害理学療法学
山内 弘喜	運動器障害理学療法学演習
山本 喜美夫	運動器障害理学療法学演習
酒井 克也	理学療法学特論Ⅱ
酒井 克也	地域理学療法学
酒井 克也	地域理学療法学演習
松田 智行	老年期障害理学療法学演習
田舎中 真由美	発達障害理学療法学特論
加藤 太郎	地域理学療法学
細井 雄一郎	地域理学療法学演習
竹内 弥彦	作業運動学演習
宮本 礼子	作業療法基礎理論
高浜 功丞	身体作業療法学Ⅱ
保田 由美子	身体作業療法学Ⅱ
保田 由美子	身体作業療法学演習
大瀬 律子	身体作業療法学Ⅱ
奥山 絵美	身体作業療法学Ⅱ
植田 修二郎	身体作業療法学演習
佐々木 竜司	身体作業療法学演習
米持 喬	発達期作業療法学演習
坂田 祥子	日常生活活動学演習
吉野 智佳子	義肢装具学
吉野 智佳子	人体の機能実習
吉野 智佳子	人間工学
酒井 ひとみ	地域社会参加支援学
関 美行	地域社会参加支援学
松本 直之	地域社会参加支援学
斎藤 梨菜	地域社会参加支援学演習
大熊 明	地域作業療法学

自己点検・評価委員会 教育研究年報作成部会
部会長 金澤 匠 (栄養学科)
部会員 成 玉恵 (看護学科)
中山 静和 (看護学科)
荒川 真 (歯科衛生学科)
江戸 優裕 (リハビリテーション学科・理学療法学専攻)
松尾 真輔 (リハビリテーション学科・作業療法学専攻)

事務局 土屋 智和



Annual Report of Education and Research
Chiba Prefectural University of Health Sciences

10-1, Wakaba 2-chome, Mihama-ku, Chiba 261-0014, Japan

Tel: 043-296-2000 / Fax: 043-272-1716